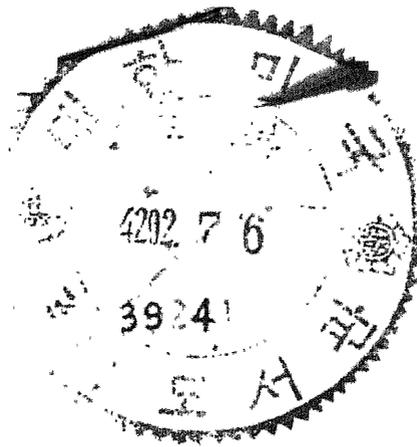


朝鮮圖書解題



朝鮮圖書解題

經部

易類

○周易諺解 九卷五冊 宣祖命撰 印本

圖書番號 七一、七三、七五、七六、七七、九二、一二七、

一二八、一三〇、一三一、三〇〇、三〇一、自三二一至三四四、

四六〇、四六一、四六二、五六九、八二四、八八九、九六〇、

一〇〇九、一〇二九、一〇四六、一〇五一、一〇五六、一二六一、

一六二七、一六四六、三二八六、三五二六、三九二〇、一一〇七

九、一一九六四

經書の口訣釋義は新羅の時薛聰方言を以て九經を解したるを嚆矢とす高麗の末鄭夢周權近又各吐釋あり朝鮮世宗訓民正音を定むるや局を設け儒臣に命し諺文を以て經書音解を撰せしめ世祖の時又口訣を定む成宗に至り柳崇祖命を承けて七書諺解口讀を纂輯し爾後學者各著作あり李滉に至り釋義を合成せしも猶ほ未だ完備せず宣祖九年丙子李珥に命して四書及五經の諺解を詳定せしめたるも李珥の撰は四書に止まり五經に及

經部

はさりしを以て上進せず十八年乙酉更に局を設

け官に命し諸説を探り參互取捨し以て諺解を著

定せり現に世に行はるる七書諺解是なり

本書は即ち七書諺解の一にして素と程傳に據り

て之を解し乙酉本亦之に従ひしか宣祖三十四年

辛丑に至り更に校正廳を設け之を釐正し別に本

義に據りたる口訣及訓讀を附加し世に行ふこと

とせり

○周易本義口訣附説

二卷二冊 崔崑著 印本

圖書番號 四二九六、四五八二、五二三四

周易の口訣は初め程傳を主とせしも宣祖辛丑校正の時より始めて本義を取り異りたる句讀を存することとせり著者亦此の役に參し傍ら本義口訣の撰定に従ひしか貧窮にして藁を易ふること能はず校正の役了りて後上疏して杆城郡守に任せられ専ら本書の著作に任し三年を経て書成り遂に疏を以て上進す即ち上下經に口訣を附したるものにして各節の下に自己の意見を註記せり

卷首に凡例及上疏を冠す

崔豈字は立之、簡易堂と號す、通川の人にして進士、自陽の子なり、中宗己亥に生れ、明宗辛酉文科に魁たり、官叅判に止まる、早歲栗谷李珥の門に遊ひて、刻苦勉勵し、文章を以て名を成す、後、明に使用して、兪州王世貞と交り、其の文を學ぶ、或は過深過奇の病ありと雖、大家と稱す、へきなり、唯門地寒微にして、官途顯れず、宣祖壬辰承文院提調を拜し、交鄰の文字、其の手より出てたるもの多し、仁祖九年一代の詞臣等相議して、遺集を刊行す

○ 易學傳義考

五冊

寫本

圖書番號 四六六九

易に於て程子は義理を發揮し、朱子は象數を推衍す、故に程傳と本義とは宜しく并行す、へく偏廢すへからざるものなり、然るに學者口訣を以て經を解し、國家亦功令を以て士を取るに程傳を以て主とし、本義は殆ど廢するに至れり、著者之を憂ひ、程朱の旨趣に異同あるを辨疏し、且諸說の中本義を發明するに足るものは之を取り、以て本書を成せ

り、卷首に附するに時位、應德、比卦主及成卦主七義の論を以てす

○ 易學啓蒙要解

四卷二冊

世祖撰 印本

圖書番號

五五三、六五一、六八四、八六四、九四七、九四八、九四九、九五〇、九五二、九八四、九八五、九八六、一〇

一七、一五四三、一六五二、二九三二

易を學ぶ者、文義を專とすれば、支離散漫となり、又象數のみに涉れば、牽強附會に陥り、易し朱子竊に之を病み、易學啓蒙四篇を著し、以て初學に示せり、世祖潛邸の時、啓蒙の一書は易學の指南なるも、語義精深にして、初學の理會すること能はざるを慮り、仍て本書を撰し、更に諸儒に命し、若干の補解を添附せしめ、十一年丙戌之を刊布せり

○ 啓蒙傳疑

一冊

李滉著 印本

圖書番號 一〇九三

諸儒の易學啓蒙を辨釋したるもの皆精密なりと雖、理數の學は素より廣博微妙なるを以て、愈疑難に疑難を加へ、益註解に註解を要せり、仍て著者其の得たる所を、隨手簡記し、間間自己の按説を附し

更に明の韓邦奇の啓蒙意見中要義若干を採擇し之を編入せり書の成りしは明宗丁巳の歳なり李滉字は景浩、退溪又陶叟と號す眞寶の人にして進士埴の子溫溪溼の弟なり燕山君辛酉に生れ中宗戊子進士に中り甲午文科に登り選はれて湖堂に入り文衡を典り官賛成に至り宣祖庚午に歿す特に上相を贈られ諡して文純と云ふ宣祖廟庭に配食し文廟に従享す道學純正にして一世の師表たり今に至り東方の儒宗と稱せらる

○ 易學啓蒙段釋

四卷四冊

寫本

圖書番號

五五二、五五六

朱子の易學啓蒙を逐段解釋せしものにして或は問答を設け或は註説を附し以て深奥なる義理の曲折を辨明し河圖十六節、洛書十節及河洛會通六節を作りて各段と爲し其の下に朱子の圖説を繋く而して啓蒙に載せざる朱子の易説は小註と爲し其の間に挿入せり

○ 啓蒙圖説

六卷三冊

徐命膺著

寫本

經部

圖書番號 一二八、四六三九

正祖儲位に在りし時著者賓客を以て易學啓蒙を進講するに當り屢次諮問を蒙りたるを以て公退の餘暇啓蒙を敷演して九十七圖を作り之に解説を附し以て儲宮の潛究に供せり時に英祖四十八年なり

徐命膺字は君受、保晚齋と號す大丘の人にして判書宗玉の子なり肅宗丙申に生れ英祖乙卯生員に中り甲戌文科に登りて文衡を典り官判中樞府事に至り正祖丁未に歿す諡して文靖と云ふ博識強記にして著述多し

○ 易學啓蒙集箋

四卷二冊 徐命膺編 印本

圖書番號

五五七、九五九、一三三三、一四六七、五四三〇

正祖儲位に在りし時明の永樂年間編せし所の易學啓蒙附註を講するに當り世祖の要解と李滉の傳疑とは各編を異にし省閱に不便なるを以て編者に命し之を合萃せしめ且附註は文義を專にし意象を畧せしを以て更に意象を發揮すへき先儒の説を採り以て増註と爲し其の下に考異を附し

参考とせり英祖四十八年芸閣新活字を以て印行す

○ 易圖

一冊 柳贊著 印本

圖書番號 九八八四

易の理象は圖に非されは表はし難し故に易の圖あるや久し著者潛心玩究して得る所あり伏羲、文王、周公、孔子四聖の舊と邵、朱二家の説に根據し以て五十二圖を作る即ち宣祖丙子の年なり後李時發慶尙監司たりし時之を上梓す

柳贊字は美叔號して孤山倦翁と云ふ豊山の人なり明宗の時に生れ隱居して仕へず宣祖の時に歿す幼より穎悟にして經學に勤め最も易義に深し

○ 易象説

三卷二冊 曹好益著 印本

圖書番號 五三二五

易經の章句を抄節して程傳及本義又は諸家の説を摺撫し簡明に註釋を施し且自家の私見を割録し卷首に易象と範數との二圖を作り以て冠せり正祖己亥著者六世の孫德臣之を校正して刊行す曹好益字は士友、芝山と號す昌寧の人なり仁宗乙

巳に生れ宣祖丙子慶尙都事崔滉の誣奏に囚りて江東に謫せられ壬辰の歲特に赦されて義禁府都事を拜し召募官を命せられ功を以て資を加へ官牧使に至る光海君己酉に歿し吏曹叅判を贈らる少時其の舅校理周博に學ひ長して退溪の門に遊ひ學を好み誠と道とを樂しむ最も易に深く百家の説に精通せざるなし

○ 周易質疑

一冊 李德弘著 寫本

圖書番號 五二五六

著者周易中疑義の存する所を其の師李滉に質し解答三十餘條を得て之を蒐録し外曾孫金萬然其の草本に依り本書を編成す附するに範數の横圖方圖、皇極實數圖及夫婦有別圖を以てし李滉の易義進啓及著者の易交問對の一篇を併載せり

李德弘字は宏仲、良齋と號す永川の人なり中宗辛丑に生れ總角の時より退溪の門に遊ひ宣祖戊寅名儒を薦むる時寒岡鄭述と同しく薦められ官縣監に至り壬辰徒步して義州に扈從し丙申に歿す勞を以て吏曹叅判を贈らる學識博洽にして論語

中庸、心經、古文前後集、家禮等の書を註釋す又四書
質疑あり

○ 太極問辨 二卷一冊 鄭述編 印本

圖書番號 一六一、九六七、三二六二、三八八三

易の理象を演ずるに太極を以てせしは孔子より
始まり太極の原理を推すに無極を以てせしは周
濂溪より生まれり濂溪圖説を著し而して朱子之
を解す陸九韶、陸九淵兄弟無極の説を排斥し書を
朱子に與ふ朱子之に答へ辨明すること四度に及
ふ宣祖の時孫叔暉、曹漢輔兩人寂滅を以て無極を
論し書を李彥迪に與へ又無極太極説を著せり李
彥迪之を辨疏して答書すること又四度而して更
に孫曹著説の後、に書するの一篇を著せり

本書は太極圖説を卷首に載せ朱子四度の答書及
陸氏の二書を附して上卷とし李彥迪の書後一篇
と四度の答書を下卷とせり仁祖元年花山今の安
東に於て初刊し其の後、玉山書院に於て再刊し又
檜淵書院に於て重刊す

鄭述字は道可、寒岡と號す清州の人にして復齋摠

六世の孫なり中宗癸卯に生れ宣祖癸酉學行を以
て薦められ叅奉に除す官大司憲に至り光海君庚
申に歿す諡を文穆と云ふ早歲德溪吳健に従遊し
て業を受け後退溪李滉の門に遊ひ心經を講し遂
に舉業を廢して經學を專治す栗谷李珥及東岡金
宇頤と俱に遺逸を以て薦められ典禮の釐革に參
し治績著聞す光海君の時永昌大君の獄起るや上
疏して全恩の事を請ふ言辭切直義理正大にして
皆學問上より出つと稱せらる

○ 易學圖說 九卷九冊 張顯光著 印本

圖書番號 九九六、一二五九、一二六〇、三二七五

易は伏羲の卦を畫したる後文王卦辭を立て周公
爻辭を設け孔子十傳を著し以て易の教を完成す
而して程子に傳あり朱子に本義と啓蒙あり以て
其の羽翼を成せり其の前後の諸儒又詞を費して
説を爲し墨を剩して圖を爲す者多く愈繁にして
益雜となり遂に經旨を瀆亂するの弊に陥れり著
者之を慨し本書を編撰し圖及説は皆已成の書に
據れるも間問自己の意見を以て増補せり仁祖二

十三年林潭慶尙監司たりし時之を刊行す

張顯光字は德晦、旅軒と號す仁同の人なり明宗甲寅に生れ宣祖の時才學を以て薦められ叅奉に除す大司憲を歴て官叅贊に至り仁祖丁丑に歿す領議政を贈られ諡を文康と云ふ嘗て寒岡鄭述に従遊し學問日に就り遂に名儒となる退溪の歿後嶺南に於て寒岡と並稱せらる

○ 易義窺斑

一冊 李玄錫著 寫本

圖書番號 四五三

易の三百八十四爻は遇ふ所に隨ひ各用あり殊に各卦の第五爻は君位にして人君の鑑戒に切要なるを以て第五爻のみを推衍して本書を撰次す故に六十四卦には遍及せず但れ應宿の數のみを擧げたるは豹斑管窺に似たるを以て窺斑と名け以て肅宗に進む卷尾に懼幾感說一篇を附し易道の一斑を論せり

李玄錫字は夏瑞、游齋と號す全州の人にして分沙聖求の孫なり仁祖丁亥に生れ肅宗乙卯に登科し翰林を歴て官叅贊に至り癸未に歿す諡を文肅と

云ふ其の曾祖は芝峰、辟光なり家世世赫奕し又文學を傳受し著述多し

○ 易經疾書

六卷二冊 李瀼著 寫本

圖書番號 四九〇八

易經の文は上下鈎連し彼此互足するもの多きを以て著者之か研究を盡し上下經上下傳及說卦序卦雜卦に至るまで専ら文辭の意を取り別に一家の説を陳へたり書の成りしは英祖丁卯の歲なり李瀼字は子新、星湖と號す肅宗の時の人なり官監役に止まる又星湖文集の著あり英祖の時に歿す

○ 易學緒言

一三卷四冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 五五九二

易學を治むる者見解各異なるを以て傳會穿鑿の患なきに非ず著者諸家の説に就き議すへきものを採取して一一賛駁を加へ又自家の意見を記述して以て本書を成せり其の採取せし篇目は李鼎祚集解論鄭康成易注論班固藝文志論漢魏遺義論王輔嗣易注論韓康伯玄談考孔疏百一評唐書卦氣論、朱子本義發微邵子先天論沙隨古占駁吳草廬纂

言論來氏易注駁李氏折中鈔陸德明釋文鈔郭氏舉
正駁王蔡胡李評卜筮通義周易答客難茲山易東茶
山問答等なり

丁若鏞字は美庸茶山又俟菴と號す羅州の人にし
て承旨時潤五世の孫なり英祖壬午に生れ正祖の
初生員に中り己酉文科に登り官承旨に止まり憲
宗丙申に歿す諡して文度と云ふ純祖の時邪獄に
横罹して康津に流配せられ十九年の後生還す識
は古今に博く志は民國に存し平生著書數百卷經
世濟民に關し至言要道たらざるものなし又名物
度數百家技藝に精通し文章經學絶世の偉才にし
て古來罕なる碩儒と稱せらる

○ 大易理象

二卷二冊

印本

圖書番號

一四六四、一五〇四

易の理と象とを簡明に發揮したるものにして先
つ无形の本體より象を立て卦爻となるを示し次
に六十四卦卦象の辭を掲げ先儒の説を採り以て
之を解し且四聖三賢の易に關する功效を論せり

○ 周易講義條問

一冊

正祖撰

寫本

經部

圖書番號 四五三二

正祖四年堂下文臣中其の年齢を限り廣く其の選
擇を行ひ之を抄啓文臣と稱し月に經史を課し旬
に詩文を試み勤慢を較し賞罰を行ひ以て文風を
振興せり本書は七年癸卯抄啓文臣に課するため
易義の題問百七十條を選ひ之を編せしものなり

○ 演易治平要覽

二卷一冊

朴興林撰

寫本

圖書番號

六七五

君徳を規勉せしむるため易理を敷衍し三十二節
六十五目に分ち象を掲げ以て自家の議論を詳述
し毎目の末に時君の體行すべき要諦を附言し乙
覽に供せしものなり

朴興林字は起之順天の人にして文翼の子なり顯
宗癸卯に生れ肅宗乙酉生員に中る

書類

○ 書傳彥解

五卷五冊

宣祖命撰

印本

圖書番號

五四、七四

一二五、一二六、一二九、一四〇

自三〇二至三二〇 四四〇、四四一、四四二、五二八 六四五

七

六九四、六九五、七五六、八〇五、八一六、九九四、一〇〇八、
二三三、二五七九、二五八〇、四八四五、一二二一六

書經に諺文を以て音義及句讀を附したるものにして即ち七書諺解中の一なり諺解に付ては周易諺解の下に記せり

○ 書傳正音

四卷二冊

印本

圖書番號

一六四五、三六九八、三九〇六

書經正文各字の下に諺文を以て支那音を附したるものなり而して其の左に在るを正音とし右に在るを俗音とす

○ 書經淺說

三卷

趙翼著

寫本

圖書番號

四五二二

書經の各篇章句の下に著者の意見を以て辨析論難したるものなり仁祖十六年戊寅書成り孝宗六年乙未經筵に上進す

趙翼字は飛卿、浦渚と號す豐壤の人僉正瑩中の子なり宣祖己卯に生れ癸卯登科し選はれて湖堂に入り官左議政に至り孝宗甲午に歿す諡を文孝と云ふ少時月汀尹根壽に學ひ禮學に長し經濟に深

く親に事ふるに孝を極め國のために誠を盡す今に至りても儒相と稱せらる

○ 尙書講義條問

一冊

正祖撰

寫本

圖書番號

七八七二

正祖五年辛丑に簡選したる抄啓文臣洪履健等に課するため書經中疑義の存する箇所百八十八條を選ひたるものにして欄頭に條對を分擔せる抄啓文臣の姓名を掲ぐ抄啓文臣講義に付ては周易講義條問の下に記せり

○ 尙書講義條問

一冊

正祖撰

寫本

圖書番號

六九二七

正祖七年癸卯書經中の講義すへき問題百五十條を選ひ抄啓文臣に課試せしものなり抄啓文臣に付ては周易講義條問の下に記せり

○ 尙書古訓

六卷二冊

丁若鏞編

寫本

圖書番號

七〇一六

古文今文の尙書は總て三本あり文帝の時伏勝の傳へたる今文尙書、漢武帝の時孔安國の獻したる

古文尙書及東晋の時梅賾の進めたる孔安國の古文尙書是なり伏生本には歐陽生、夏侯勝、夏侯建三家の説あり晋代に亡ひ孔氏本には馬融、鄭玄二家の註あり唐代に亡ふ今行はるる孔安國の本舊は梅賾の贗書なり仍て編者は門人李靖をして孔穎達の正義及他經註疏に於て引用せる歐陽、夏侯、馬鄭の説及史記、說文、左傳、國語、禮記、論語、孟子等に載せたる尙書の文を搜剔輯録して異同を參考し、問自己の意見を附して取捨の意を示し、考訂引證及案說等の目を掲げ、一見瞭然たらしめたり、而して本書は與猶堂集第二十五卷乃至三十卷に收め、又俟菴經集と稱す

○尙書知遠錄 七卷三冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 四九二

諸經中尙書は最古の書にして奇字險句甚れ多く、詰訓を明にせされは解し難し、漢の名儒疏釋に盡力せしも多聞闕疑は正に此の經に在り、然るに梅賾、蔡沉以來古註の善者は掠襲し、其の他は自己の意見を孤存せり、著者之を歎し、梅蔡の説に就き古

經部

訓と同じからざるものを反覆詳覈し、或は古を是とし、而して今を非とし、或は故を捨て、而して新を取り、其の或は古今皆疎なるものには時に自己の意見を附せり、而して本書は與猶堂集三十一卷乃至三十七卷に收め、又俟菴經集と稱す

○梅氏尙書平 九卷三冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 四九二

尙書は初め伏生の今文本あり、尋て孔安國壁中の古文本を獻せしも、未だ學官に列せられず、其の後杜林漆書本を得て、孔壁本と稱す、後東晋の時梅賾又一本を上進して、孔安國の古文尙書と稱し、大に世に行はる、宋に至り朱熹始めて贗本なるを疑ひ、清初に至り毛奇齡朱子の言を排斥し、古文尙書宛詞八卷を著せり、是に於て著者は廣く漢以下の諸家の説を援引し、以て朱子の疑を起したる所以と、毛氏の説の確實ならざる理由とを平心訂議せり、本書は與猶堂集十六卷乃至二十四卷に收む、又俟菴經集と稱す

○範學全編 六卷四冊 朴世采著 印本

九

圖書番號 七三、七三三、二九六八、三八〇六

書經の一篇たる洪範九疇は大禹之を始めて發し箕子推衍增益せしものにして固より天下を治むるの大法なり其の本源は洛書の理より出て支流は皇極の數に叅す仍て著者は編を洛書、洪範及皇極に分ち經傳及先儒の説を集め更に自家の意見を加へ以て本書を著せり又洪範を作りたる箕子の議論事實及贊述等を経、史、子、集より採輯し之を卷終に編せり

朴世采字は和叔、南溪又玄石と號す潘南の人にして中峰漪の子なり仁祖辛未に生れ戊子進士に中り遺逸を以て薦められ肅宗甲戌相を拜し官左議政に至り乙亥に歿す諡して文純と云ふ肅宗廟庭に配食し文廟に従享す少時清陰金尙憲に就學し學問高明純粹當世儒宗と稱せらる性情溫雅、言論和平嘗て尤菴宋時烈、明齋尹拯と相好し後明齋、尤菴互に相反目するに及び兩者の間を調停せり

○ 箕範衍義 一〇卷四冊 李源坤著 印本

圖書番號 五三〇四

箕子は朝鮮の國祖と稱し其の仁賢の化今に至りて歌詠せらるるも文獻傳はるなく其の遺存せしものは書經中に編したる洪範一篇のみなり此れ即ち萬世王者の大經なるも其の義簡奥にして窺測し難きを以て此の衍義を作り九疇を十卷に分ち經、傳、子、史中より切要なるものを採り又私案を加へて撰述し李珥の箕子實記、李廷龜の箕子廟碑銘、河圖洛書、洪範本數諸圖及本經大文を輯録して首卷と爲す哲宗庚戌著者の從侄昌述之を刊行す李源坤字は黃中、靜虛窩と號す

○ 皇極衍義 一冊 李敏坤著 寫本

圖書番號 一四七八

洪範一篇は天下を治むるの大經大法なるも就中五皇極一章は君位に當り其の要義は直の一字に出でたることを發明し仍りて先づ本章の正文を擧げ次に蔡氏本傳を録し傍ら其の文義を發揮すへき諸説を圈下に記註し毎に臣按の二字を表示して自己の意見を附し英祖に上進して君徳を規勉せしめたるものなり

李敏坤字は厚而、林隱と號す全州の人、佐郎萬材の孫、永膺太君琰八世の孫なり、肅宗乙亥に生れ、英祖庚申登科し、官司諫に至り、丙子に歿す。

○ 書傳人物類聚 一冊 純祖命編 印本

圖書番號 四五四〇、四五四一、四五四二、七七八四

書傳に出てたる人物八十八名の略傳を類聚したるものにして、純祖卽位の年、朴準源、金祖淳等に命し、校訂改版せしめたり。

朴準源字は平叔、錦石と號す、潘南の人、治川紹の後なり、英祖己未に生れ、正祖の時進士に中り、蔭途を以て輔國階に陞り、官三營大將を経て、判敦寧府事に至り、純祖丁卯に歿す、後領相を贈られ、諡を忠獻と云ふ、其の女選はれて、正祖に侍し、冊して、綏嬪と爲す、卽ち純祖の生母なり。

金祖淳字は士源、楓臯と號す、安東の人、濟謙の曾孫なり、英祖乙酉に生る、初め名を洛淳と云ふ、正祖乙巳登科し、官大提學、領敦寧に至る、純祖の舅なるを以て、永安府院君に封せられ、辛卯に歿す、諡して忠文と云ふ。

經部

詩類

○ 詩經諺解 二〇卷七冊 宣祖命撰 印本

圖書番號 三四五、三四六、自三四七至三六三、三六四、三六五、三六六、三六七、五二五、五三〇、五五四、五六三、五六四、九六八、一〇五二、一五七六、二二三四、二四二五、二七九三、三〇三二、三四六〇、三五八一、一一五一、一一一五

詩經の本文に諺字を以て音義及句讀を附したるものにして、卽ち七書諺解中の一なり、諺解に付ては周易諺解の下に記せり。

○ 詩傳正音 七卷三冊 印本

圖書番號 二八六〇、二八六一、三九〇八

詩經正文各字の下に諺文を以て支那音を附したるものにして、右を正とし、左を俗とす。

○ 詩經講義 四卷四冊 寫本

圖書番號 一五五七

詩三百篇中一句或は二三句を標掲し、其の下に自己の心得したる所を講述せしものにして、要義を簡明に解説す、此の書著者明かならざるも、繕寫粧潢の跡より、攷ふるに、恐らく正祖東宮に在りし時

の講本なるへし

○ 詩經講義 一五卷五冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 七〇九三

正祖十五年辛亥の秋射を内苑に試む著者侍從臣として參射しの中せさりしを以て北營に罰直せしめ且詩經條問八百餘章を課し四十日を限りて條對せしむ著者更に二十日を展して業を卒れり其の書各條の間に就き臣對として自家の意見を講述し正祖甚た獎褒隆重す純祖八年戊辰之を自編し又補遺を作り原篇十二卷補遺三卷を以て一部と爲す而して本書は與猶堂集一卷乃至十五卷に收む

○ 詩經講義續集

一一卷六冊 尹廷琦編 寫本

圖書番號 五五九五

編者は丁若鏞の外孫にして孩提より其の膝下に周旋し親しく誘掖訓導を受く若鏞曾て詩經講義十二編補遺三編を撰述したるも唯正祖の條間に仰對せるに止まり又前書は若鏞三十歳の時講義

に係り晚年悔ゆるものありしも追改する能はず仍て編者其の遺意を紹述して本書を成す李太王五年戊辰なり

尹廷琦字は奇玉舫山と號す海南の人孤山善道の後孫にして丁若鏞の外孫なり薰炙は多く其の外祖より受く

○ 詩名多識 四卷二冊 丁學祥著 寫本

圖書番號 五五九一

著者詩を讀む時詩は多く草木、鳥獸の名を識ると云へる孔子の訓誡に意を注ぎ草、穀、木、菜、鳥、獸、虫、魚の八門に分ち禽經、菜譜、爾雅、本草等の書を取り之を參互し之を較檢し以て詳密に記述せしものなり

丁學祥初名は學淵、字は稚修、西山と號す、丁鏞の子なり、正祖丁未に生れ、哲宗壬子仕に入り、己未に歿す、官直長に止まる

禮類

○ 禮記大文諺讀 六卷六冊 世宗命撰 印本

圖書番號 八五二、一六二、二三九、三五六九

禮記の本文に句讀を附したるものにして宣祖命撰の七書諺解に似たるも諺解には音讀句讀の外文義の灑解あり本書は唯句讀あるのみ世宗の時學士成三問、申叔舟に命し編成せしめ後丁亥校書館に命し刊行せしむと云ふも未だ詳ならず

成三問字は謹甫、梅竹軒と號す昌寧の人なり太宗戊戌に生れ世宗戊午文科に登第し嘗て集賢殿に入直せし時世宗より元孫端宗の事を託せられ朴彭年、申叔舟と共に輔導の任に當りしか後端宗遜位の時朴彭年等六臣と共に端宗の復位を謀り事覺はれて誅せらる肅宗に至り之を昭雪し吏曹判書を贈られ忠文と諡せらる

申叔舟字は泛翁、保閒齋又希賢堂と號す高靈の人なり太宗丁酉に生れ世宗戊午進士狀元に中り己未に登科し内經幄に侍し外四方に使し才文武を兼ね勳名を一時に擅にす世祖受禪の時協贊の功を以て大提學を拜し領議政に至る又女眞を征して大捷し高靈府院君に封せられ文忠と諡し成宗

經部

廟庭に配享す凡そ元勳に策せられたること二回首相たりしこと三回なり然れども世宗の晩年に至り成三問、朴彭年等と同じく經幄に在り獨り世祖受禪の密謀に參せしを以て讒者之を鄙む別に海東諸國記正韻通考の著あり

○禮記淺見錄 二六卷一一冊 權近著 印本

圖書番號 五二八

禮記の經傳中文義の疑ふべきものに對し自家の見解に據り之を論したるものにして著者の師牧隱亦此の書に志ありしも未だ果さざりしものなり太宗覽て加獎し其の五年校書館に命し印出せしむ然れども刊本多からず其の十八年著者の子蹈濟州安撫使李暎に托し刊板して廣布せしむ後三百年板燬け書亦亡ふ仍て肅宗三十一年濟州牧使宋廷奎更に重刊して之を廣布す

權近字は可遠、陽村と號す安東の人なり高麗恭愍王壬辰に生れ己酉に登科し朝鮮に仕へ太祖の時大提學を拜し吉昌君に封せられ太宗己丑に歿す諡を文忠と云ふ高麗に在りて己に文章の名あり

朝鮮國初の制作其の手に成れるもの多く當時詩文の第一鉅匠なり

○ 禮記補註 三〇卷五冊 金在魯著 印本

圖書番號 一三九八、二八六八

元の陳澧著す所の禮記集説の遺漏を補ひ誤謬を證せるものなり書成るや英祖親しく閲覽して大に賞獎を加へたりと云ふ刊行は英祖三十四年戊寅に在り

金在魯字は仲禮、晴沙又虛舟子と號す清風の人に於て觀復齋構の子なり肅宗壬戌に生れ壬午進士に中り庚寅文科に登り英祖の時官領議政に至り戊寅に歿す忠靖と諡し英祖廟庭に配享す

○ 讀禮隨抄 四卷四冊 金尙憲編 印本

圖書番號 四二六五

金尙憲喪に居り禮に關する諸書を讀み特に禮記に就き朝鮮の禮俗に資益する所あるものを抄録し之を編輯せしものなり

金尙憲字は叔度、清陰又石室と號す安東の人仙源尙容の弟四味堂克孝の子なり出てて縣監大孝の

後を繼ぐ宣祖庚午に生れ庚寅進士に中り丙申文科に登り戊申重試に擧り選ばれて湖堂に入り文衡を興り官左議政に至り孝宗壬辰に歿す清白吏に選せられ文正と諡し孝宗廟庭に配食す幼時兄弟俱に外祖林塘鄭惟吉に學ひ長して月汀尹根壽に從ひ學問文章日に進み仁祖丙子南漢に扈從して和議を定むる時國書を裂きて痛哭し和議に反對せり相國崔鳴吉義士なりとし扶け去らしめ太白山に入る後清人に執はれ瀋陽に拘囚せらるること三年直節天下に聞ゆ

○ 國朝五禮儀 八卷八冊 成宗命編 印本

圖書番號 一七四、一七五、五六五、一〇三、一一三六、

一八七七、一八八〇、三二七五

世宗は太祖太宗の開國草創の後を繼ぎ制禮作樂に志あり因て許稠等に命し廣く古今の禮書、洪武禮制等を參酌し杜氏通典に倣ひ五禮の編纂に著手せしめ世祖更に五禮即ち吉、凶、嘉、賓、軍の中に就き其の實行すべきものを摘採し且圖式を附し姜希孟等をして編纂せしめたるも脱稿に至らず成

宗五年申叔舟、鄭陟等之を完成せり

鄭陟字は明之、整菴と號す、晋州の人なり、太宗甲午文科に登り、官修文殿大提學に至り、六代に歷仕す、八十六歳にして歿し、恭戴と諡す

○ 國朝五禮序例 五卷二冊 成宗命編 印本

圖書番號 一八四、一八五、一八六、一八七、一九七〇

世祖の時、朝臣に命じて世宗定むる所の諸祀序例及五禮儀に依り、五禮序例を撰定せしめたるも未だ稿を脱せずして、世祖の喪に遭ひ、睿宗、成宗其の遺志を繼ぎ、申叔舟、姜希孟、鄭陟等に命じて撰定せしめ、五年甲午の夏之を印刊せり、吉、嘉賓、軍、凶の五禮の序例を定め、各圖説を加ふ

姜希孟字は景醇、私淑齋と號す、玩易齋碩徳の子にして、仁齋希顔の弟なり、世祖の時に魁科し、重試、英試に捷ち選れて、湖堂に入り、官賛成に至る、諡を文良と云ふ

○ 國朝續五禮儀 五卷四冊 英祖命編 印本

圖書番號 一四七九、一五〇〇、一八八一、二八〇五、三

五五五、三六八七、三七九八、七八七五

經部

曩に國朝五禮儀の編あり、然れども時勢の推移に因り、改廢すべきもの多し、故に英祖甲子禮曹に命じて本書を編せしむ、第一卷に序例、考異、以下吉、凶、嘉賓、軍の五禮儀を分叙し、卷中處處圖説を加へ、以て参照に便せり

○ 國朝續五禮儀補

二卷一冊 英祖命編 印本

圖書番號 二七〇、二九四八、三一八一、三五〇三

英祖二十年甲子禮曹に命じて五禮儀續編を纂輯せしめしか、後二十七年辛未世孫章服の制定に資するため、更に申晚等に命じて本書を編せしむ、載する所、吉禮、嘉禮兩編に過ぎず

申晚字は汝成、平山の人なり、英祖丁未進士及文科に中り、官領議政に至り、孝正と諡す

○ 國朝喪禮補編 七卷六冊 英祖命編 印本

圖書番號 一六五、一〇一〇、一一五三、一三三九、一三四一、

三四七四、三五九六、三九四〇、七九二二

喪禮に關する儀節は國朝五禮儀に詳載せるも、其

一五

の後數代を経て釐改せしもの多きを以て英祖二十八年壬申重臣、宰臣等に命し國朝喪禮補編五卷を編撰せしめたり然るに其の後又釐正したるを以て三十三年丁丑廳を設け洪啓禧等に命して増刪せしむ原編六卷各事目に分載せる圖説は之を集めて一卷とし明年戊寅完成す

洪啓禧字は純甫、淡窩と號す南陽の人、叅判禹傳の子なり肅宗癸未に生れ英祖乙巳進士に中り丁巳文科に魁たり吏書判書兩館提學を歴て官判中樞府事に至り辛卯に歿す諡を文簡と云ふ英祖壬午啓禧、金尙魯等莊獻世子を讒間して竟に冤死せしむ啓禧の弟啓能は遺逸を以て進善に至り子趾海、景海、述海、續海、孫相簡俱に文科に登りて要職に據る正祖即位の初め啓禧の官爵を追奪して逆律を加へ啓能、趾海、四兄弟及相簡皆誅に伏す啓禧は陶菴李緯の門人なり

○ 國朝五禮通編

二〇卷一六冊 李祉永著 寫本

圖書番號 四七七三

朝鮮に於て慣行せる青、嘉、賓、軍、凶五禮を通説せるものなり
李祉永字は幼祚、延安の人、叅判萬恢の子なり英祖庚戌に生れ乙未文科に登り官叅判に至り正祖の時歿す

○ 家禮諺解 五卷五冊 申澁著 印本

圖書番號 一五〇六

諺文を以て朱熹の家禮を解釋せるものなり仁祖十年原城にて開刊す
申澁字は仲泚、用拙齋と號す高靈の人なり明宗辛亥に生れ宣祖丙子文科に及第し官大司憲に至り

仁祖癸亥に歿す光海君廢母の時庭請に參せず尢直の名を得たり平生最も力を禮樂の書に用ひ造詣深からす

○ 家禮考證 七卷三冊 曹好益著 印本

圖書番號 七二七、一一五四、一五七五、五三一七、

七六九三

著者朱熹家禮の士人軌範とせらるるに拘らず微辭奧義一般に解し難き所あるを患ひ攷證を爲し

學ふに易からしめんと欲し稿を積み未だ編次するに及はずして歿せり後、門人潜谷、金堦等同志と謀り遺草を整理編次し名けて家禮考證と云ふ仁祖二十四年丙戌監司閔應協に囑して印刊せしむ

○家禮輯覽 一一卷六冊 金長生編 印本

圖書番號 六九一三

朱熹の家禮に關する諸家の説を編輯したるものにして内一卷に圖説を掲げ閱覽に便せり孝宗己亥に編成したるものなるも其の胤慎獨齋金集更に之を校讐し肅宗乙丑に刊行す

金長生字は希元沙溪と號す光山の人黃岡繼輝の子なり明宗戊申に生れ宣祖戊寅遺逸を以て薦められ參奉を拜し屢郡縣に令たり仁祖即位の初掌令を拜し官刑曹參判に至り辛未に歿す諡を文元と云ふ文廟に従享す幼より性行純篤にして業を龜峰宋翼弼に受け栗谷に師事し意を擧業に絶ち學問に勤勉し最も禮學に博通し公私の變禮ある時は人皆就いて之を問ふ丁卯胡亂に兩湖號召使を以て義を擧ぐ

經部

○家禮附贅 八卷四冊 安珣編 寫本

圖書番號 五五六九

朱熹の家禮に就き先儒の註解を畧蒐し時王之制と俗行の禮とを添加せしものにして書の成りしは仁祖戊辰の歲なり

安珣字は待之、五休子と號す廣州の人餘慶の子なり嶺南に居り禮學を尙ひ官副正に至り仁祖の時

○家禮源流 一四卷八冊 俞棨編 印本

圖書番號 一六三三

朱熹家禮の本文を綱と爲し博く儀禮、周禮、戴禮等の諸經を採りて註を加へ之を源と名け別に後世諸儒の禮説を撫めて之を流と名け以て古來禮説の本源と分流とを知らしめたるものなり肅宗三十七年編者の孫相基龍潭縣令たりし時左相李頤命肅宗に稟し道臣に命して捐財せしめ相基をして刊行せしむ

俞棨字は神仲、市南と號す杞溪の人參奉養曾の子なり宣祖丁未に生れ仁祖庚午進士に中り癸酉文

一七

科に登り弘文提學を歴て官叅判に止り顯宗甲辰に歿す諡を文忠と云ふ幼より警敏にして業を沙溪金長生に受け後同春宋浚吉尤菴宋時烈魯西尹宣舉等と往來交遊して學識相上下し仁祖丁丑和議に反對して林川に流配せられ仁祖昇遐の時禮を論して時議に忤ひしたゆ穩城に遠竄せらる直節清名を以て一時に聞えたり

○家禮源流續錄

二卷一冊 俞棨編 印本

圖書番號 一六三四

家禮源流の補遺にして王家の禮に關する部分を別録と爲し續行したるものなり

○家禮增解

一〇卷一〇冊 李宜朝編 印本

圖書番號 二五五、一六三五

編者の父曾て朱熹の家禮を本とし古今の禮説を蒐輯す宜朝更に精校し正祖十六年始めて刊行す家禮增解と云ふは蓋し家禮に増すに變禮を以てし古禮を引いて之を解せるの意なり

李宜朝は陶庵李緯の門人なり科擧を廢して力學

し正祖の時叅奉に除せられたるも就かずして終る

○家禮集考

八卷八冊 金鍾厚編 印本

圖書番號 四二七

家禮の本文を寫し古今經傳、子、史、稗林、小説中より諸說諸例を採りて逐段挿録せるものなり純祖元年編者の門人任煢等之を刊行す

金鍾厚字は伯高本菴と號す清風の人觀復齋構の曾孫なり英祖の時に生れ學行を以て薦められ官諍議に止まる嘗て蟾村閔遇洙に業を受け學行並ひ篤しと稱せらる

○家禮便覽

二卷一冊 寫本

圖書番號 三七四五

朱熹の家禮を抄録し朝鮮の儒家か辨疑したる意見を添録し以て考覽に便にしたるものなり

○五先生禮説分類

二〇卷七冊 鄭述編 印本

圖書番號 九六九、九七〇、一四八三、一八二八、二〇二

四、三三六、三三七

程明道程伊川司馬竦水張橫渠朱晦庵五碩儒の禮説を分類して輯録せるものなり蓋し朝鮮儒者禮論の本つく所を知るに便なり光海君三年辛亥に成り仁祖七年に至り編者の門人李潤雨潭陽府使たる時刊行す

○ 退溪喪祭禮答問

一卷一冊 李滉著 印本

圖書番號 四三二八、四五五七

著者か平日門人等と喪祭の禮に關し問答せし所を哀録せるものなり

○ 南溪禮説

二〇卷一〇冊 朴世采著 印本

圖書番號 五七二七、六七七一、七一四三、七一四四

著者か平日知友との間に往復したる禮に關する問答を其の門人金餘か手記中より抄録したるものなり著者當時禮に通曉せるを以て名あり南溪は著者の號なり著す所別に六禮疑輯三禮儀家禮要解等あり

○ 明齋疑禮問答 八卷四冊 尹拯著 印本

經部

圖書番號 四七一八、四九三三

著者か平生禮に關して往復問答せし所を門人等哀聚編刊したるものなり

尹拯字は子仁明齋と號す坡平の人魯西宣舉の子入松焯の孫なり仁祖己巳に生れ孝宗戊戌學行を以て薦められ顯宗甲辰教官に任せらる進善祭酒贊成を命せられ右議政に叙せられたるも皆辭して仕へず肅宗甲午に歿す諡を文成と云ふ

○ 疑禮問解 四卷四冊 金長生編 印本

圖書番號 四二一七、四二一八、七二二四、七六六五、七

六六六

編者か平日門人朋友と禮に關し往復問答せし際博く前代の禮書を參攷し旁ら諸家の講説を採收分類せしものにして朝鮮の禮論を知るに缺くへからざる好書と謂ふへし別に續篇あり著者の子集の編する所に係る

○ 疑禮問解續 一冊 金集編 印本

圖書番號 五七三一

編者か其の父長生編する所の疑禮問解を補遺し

一九

其の續篇とし更に古今喪禮異同議一篇を附して
印刊したるものなり疑禮問解と共に朝鮮に於け
る禮學の好資料たり

金集字は士剛、慎獨齋と號す沙溪長生の子なり宣
祖甲戌に生れ辛卯進士に中り光海君庚戌參奉を
授けられたるも政の亂るるを見て仕へず孝宗の
時官吏曹判書判中樞府事に至り丙申に歿す諡を
文敬と云ふ孝宗廟庭に配享し文廟に従享す天資
英粹家庭の學を承け又泉谷宋象賢、龜峯宋翼弼に
就いて性理の書を專究し退溪、栗谷の後世人金氏
父子を目して儒宗と稱す同春宋浚吉、尤菴宋時烈
魯西尹宣舉、草廬李惟泰諸人皆其の門に出つ

○六禮疑輯

三三卷一四冊 朴世采著 印本

圖書番號 二二六二

冠、婚、喪、祭及鄉禮、相見禮の六禮に關し古經の載す
る所及朝鮮近俗の行ふ所に疑義あるものを辨定
せるものなり前後二十七卷別集六卷あり別集は
専ら禮に關する朝鮮儒者の問答を載す

○禮疑類輯

二八卷一五冊 朴聖源編 印本

圖書番號 二八三四、四〇七七、五五五五、五八五三、五

八八八、一一九一〇

潛溪李惟哲古來の禮論を編して四禮集説を作ら
んとし未だ業を了へずして歿し其の子希正父の
遺命に依り之か完成を朴聖源に囑す聖源乃ち其
の師陶庵李緯に謀り遍く古今の禮書を涉獵し要
を采りて此の書を編せり正祖七年癸卯校書館に
命し刊行せしむ正祖の序文を弁す

朴聖源字は士修、廣巖又謙齋と號す密陽の人駱村
忠元の後なり肅宗丁丑に生れ景宗辛丑進士に中
り英祖戊申文科に登り諭善を歴て官參議に至り
英祖丁亥に歿す正祖東宮に在る時諭善を以て輔
導したる功多く故を以て吏曹判書を特贈し諡を
文獻と云ふ嘗て陶庵李緯の門に學ひて學行甚た
高く著述亦富み敦孝錄、愚齋集等あり

○禮疑類輯續編 四卷四冊 吳載能編 印本

圖書番號 六二〇九

朴聖源嘗て禮疑類輯を編成し編者其の役に與る後、闕遺あるを恨み此の續編を作る一、二、三卷は冠婚、喪、祭四禮の常變に關し彙分類附織悉遺すなし又附録一卷は其の目錄なり純祖壬申弟載光統制使たりし時之を刊行す

吳載能は友松と號す海州の人兵使定邦の後なり業を貞庵閔遇洙の門に受け正祖の時薦を以て恭奉を授けらる至性篤孝を以て旌門の褒典を受く

○常變通攷

三〇卷一六冊 柳長源編 印本

圖書番號 四二九〇

朱熹の家禮に準し章を分ち目を立て常變禮儀に關する諸説を彙集したるものにして更に語を添附せり總て三十篇通禮四冠禮一、昏禮一、喪禮十六、祭禮三、鄉禮一、學校一、國恤禮一、家禮考疑二あり初卷には總目凡例あり引用書目の多きこと二百三十餘種先儒の姓氏百有餘を擧ぐ正祖癸卯の年刊行す

柳長源字は叔遠、東巖と號す全州の人叅議觀鉉の

經部

子なり正祖の時の人にして兄蘆涯道源と禮學を世守し友愛篤く大山李象靖に従學す禮説を以て往復したるもの多し

○疑禮類説

一一卷五冊 申道著 印本

圖書番號 四二六

著者平生禮法の古今宜を異にし議論愈繁くして後學の準據する所なきを憾み困りて本書を著し禮の疑はしきを擧げて之を説明したるものなり正祖十六年壬子其の子達淵之を刊行す

申道字は而遠、退修齋と號す高靈の人正字漢の孫なり肅宗甲戌に生れ丁酉に登科し官承旨に至り英祖甲申に歿す頗る學識あり尤も禮説に嫻へり

○一二禮演輯

四卷四冊 禹德麟著 寫本

圖書番號 二四二二

喪禮祭禮は慎終追遠の大節なり著者常禮變禮の儀例に付先儒の諸説を參互して實用に適當せしむるため本書を成せり卷尾に冠婚禮の大畧を附し卷首に重菴金平點の序を冠す

禹德麟字は明叟、楓溪と號す貫は丹陽にして養活

堂玄寶の後孫なり正祖己未に生れ李太王乙亥學
行を以て司憲府監察を追贈せらる

○三禮儀 三卷一冊 朴世采著 印本

圖書番號 六九九一

冠婚祭の三禮に付き古今の諸書を参考し時俗の
制に合せしめたるものなり肅宗辛卯門人李世瑔
義興縣監李成坤に托して刊行す卷尾に改葬儀を
附せり

○三禮錄 一卷一冊 趙時範 姜義臣等編 印本

圖書番號 八五、九三

李太王の時威鏡道の人趙時範、泰奉姜義臣等相俱
に郷飲、郷射、郷約の三禮を講明し圖を挿みて之を
編輯したるものなり蓋し慶興と德源、永興、咸興と
は太祖及其の父祖誕生の地なるを以て歴世此の
地方の人を眷顧すること厚し此の地方の儒林亦
之に因りて感奮興起し儒業を修め郷約を行ふ本
書も亦此に起因せるを知るへし光武七年李容翊
財を捐して刊を助く

姜義臣字は和允、文溪と號す憲宗壬寅に生れ李太

王戊子司馬に中り乙未智陵參奉に入仕し内部視
察官に止まり甲辰に歿す

○三禮分彙 一卷一冊 寫本

圖書番號 七二九八

周禮儀禮禮記の三禮中切要なる文句を摘取し之
を分類編次したるものにして其の要部は天道部
を始め地理、人倫、君道、治化、儒道、臣道、民業、人事、居處、
百用、燕樂、財貨、生死、祭祀、技藝、服飾、生物及軍旅部等
なり

○四禮訓蒙 一卷一冊 李恒福編 印本

圖書番號 三六〇九、三九八一

世人多くは冠婚喪祭の義理に通せず徒に其の形
式に就いて是非辯論するを慨歎し因て禮記中の
四禮に關する要語を撫采して之を編纂せるもの
なり光海君十四年壬戌門人金正男全羅監司たり
し時之を刊行す其の後顯宗十五年甲寅重刊し李
時顯跋を書せり

李恒福字は子常、白沙又弼雲と號す慶州の人參贊
夢亮の子なり明宗丙辰に生れ宣祖庚辰に登科し

壬辰都承旨を以て義州に扈從し扈聖平難二勳を策して蒼城府院君に封せられ大提學となり都體察使を拜し官領議政に至り光海君戊午廢母の時忠諫を進めて北青に竄せられ仍て歿す諡を文忠と云ひ清白吏に選せらる

○ 四禮便覽 八卷四冊 李緯編 印本

圖書番號 一七五五、三九七六

冠婚喪祭の四禮に關する古經及先儒の説に就き其の繁簡を參酌し異同を改正したるものにして朝鮮人は一般に此の書に従ひ禮を行へり憲宗十年編者の曾孫光正水原留守たりし時始めて上梓し光武四年庚子更に増補四禮便覽と題し重刊せり

李緯字は熙卿、陶菴と號す牛峯の人逸休堂翽の孫なり肅宗庚申に生れ壬午登科し丁亥重試に中り選はれて湖堂に入り文衡を興り官吏曹判書に至り英祖丙寅に歿す諡を文正と云ふ少より業を叔父歸樂堂晩成に受け詩名あり晩に性理の學に沈潜して意を仕官に絶ち屢官に除せられたるも皆

就かす

○ 四禮纂說 八卷四冊 李懋編 印本

圖書番號 四四一八、四四三〇

冠婚喪祭の四禮に付き朱子の家禮を本とし更に李珥及金長生の説を加へて編纂したるものなり李太王四年丁卯興宣大院君之を刊行す大院君の序説及趙斗淳、金炳學等の跋あり李懋は仁祖の曾孫にして麟坪大君李潛の孫なり義原君に封せられ文貞と諡し後領議政を贈らる興宣大院君は實に其の後孫なり義原君王室の冑を以て心を學に專にし最も禮に深し

○ 四禮正變 一四卷七冊 金景游著 印本

圖書番號 六六四六

先儒の禮論を引據し通禮及冠婚喪祭の四禮に付き正禮、變禮を區別したるものなり憲宗の丙申其の孫衡魯之を刊行せしも回祿の災に罹りて久しく世に顯はれず郷の章甫大に惜み金盈洙之を校讐し七冊と爲し李太王丁酉後孫孫台鉉之を刊行す金景游は光山の人にして領相國光の後なり

○ 四禮節略

一卷一冊

寫本

圖書番號 二四二二

冠婚喪祭の四禮に改葬禮を附し其の當に行ふべきものを節畧し朝鮮先儒の見解を附せり今編者を詳にせざるも李緯の四禮便覽中より摭拾したるものの如し

○ 式禮會統

二卷二冊

洪養默編

寫本

圖書番號 五三三八

支那朝鮮先儒の禮説を參酌折衷し自家祭儀の次第を明にしたるものなり編成は英祖十七年なり
洪養默は唐城の人にして學士翼漢の祀孫なり蔭仕を以て屢州牧を典し官都正に至る

○ 吉禮要覽

二卷二冊

李昰應編

寫本

圖書番號 四一三五

李太王七年興宣大院君李昰應か歷世の慣例を參照して大君王子王孫公主翁主郡主縣主等の冠婚及出嫁の儀節に関する事項を編輯し文献の闕漏を補足したるものなり

李昰應字は時伯石坡と號す莊獻世子の曾孫南延

君忠正公球の子なり純祖庚辰に生れ興宣君に封

せらる李太王は其の第二子にして入りて大統を

承けたる爲興宣大院君の號を加へ太王幼冲の故

を以て政を攝すること十年太王親政以後門を閉

ちて間を養ふ壬午の歲難起り輿情大院君に歸向

せし爲更に起ちて事を視る偶々清人に執へられ

清國保定府に居ること四年後歸國し十年の間外

に出づることなし甲午政界の變あり子載冕孫垓

鎔を率以復た起ちて國事を叅決し丙申太王露使

の館に潛遷したる後私第に退去し戊戌に歿す隆

熙三年大院王に追封せらる畫蘭と隸書とを善く

し又別に綱目輯要教學條例銀臺條例の著あり

○ 喪禮備要

一冊

申義慶著

印本

圖書番號 二二五八、二二五〇、二二六七九

朱熹家禮の本文を主とし古今諸家の説を參考し初喪より葬祭に至る一切の儀式を記述し又祠堂神主衣衾衰經及五服喪具發引成墳立碑受吊陳饌等の圖説を卷首に載せり沙溪金長生之を刪潤し仁祖二十六年沙溪の子慎獨齋金樂更に校正刊行

す時俗の喪禮は多く之に準す
申義慶は其の傳を佚す書堂の教師にして嘗て金
沙溪の師たりしことあり

○ 喪禮備要補

十二卷八冊 朴建中編 寫本

圖書番號 二四三九

沙溪金長生の編成せし喪禮備要に經傳の註疏及
諸家の禮説を増補せしものにして本文の小註に
は本字を書し補入したるものには補字を書して
標別せり純祖六年丙寅に成る
朴建中字は士標、仙谷と號す尙州の人にして樸老
堂而煥五世の孫なり心齋宋煥箕、過齋金正默等の
門に遊ひ踐履篤行にして條解禮説甚た多し持平
を贈らる

○ 奉先雜儀

二卷一冊 李彥迪著 印本

圖書番號 三〇七三、五〇四八

祖先の祭式に關する儀例を記したるものにして
家禮及司馬光、程頤等の祭禮書に就き取捨損益し
て一家の禮法を作成し又禮經及先賢の報本追遠

經部

の義を明にせし遺意を取り以て別に一卷と爲し
下編として後に附せり書の成りしは明宗五年庚
戌なり

李彥迪初名は迪字は復古、晦齋又紫溪翁と號す驪
州の人生員蕃の子なり成宗辛亥に生れ中宗癸酉
生員に中り甲戌文科に登り官贊成に至る嘗て學
を力め經に明にして師授なしと雖學問自ら純篤
なり乙巳士禍起るに及ひ僞勳に叅し後直言を以
て當局に忤ひ勳を奪ひ繼いて江界に竄せられ仍
て歿す後文元と諡し明宗廟庭に配食し文廟に従
享す

○ 廣禮覽

二卷二冊 寫本

圖書番號 三七四三

喪祭禮中時俗の循行すべきものを抄録し卷末に
冠婚禮を附せり編者の自序に癸巳仲冬下澣綏山
とあるも其の姓名明ならず

○ 鄉禮合編

三卷二冊 正祖命編 印本

圖書番號 五八、五九、六〇、六一、六二、六三、二二七、

二二八、二二九、二三〇、四九五、九一三、九一四、九一五、

二五

經部

一〇一四、一〇二五、一〇二五、一〇六七、一〇六八、一〇
六九、一〇七〇、一〇七一、一二一八、一二一九、一二三〇、
一二三〇、一二三一、一二四〇、一二四一、一二四二、一七
九三、二九五九、三三五三、三五〇八、三六五二

正祖二十一年慈官週甲の賀筵を奉壽堂に擧ぐるに際り還曆以上の文武官僚を洛南軒に招宴し大に虞庠養老の古義を明にし奎章閣直提學李秉堉同提學尹著東以下七人の儒臣に命して此の書を編せしめ全國に頒ち以て古禮の復興を期せり卷首に綸音を冠し總叙に周制郷飲酒禮の起因并に前代倣行の事蹟を記し次に郷飲酒禮、郷射禮及郷約を載せ士冠禮、士婚禮を附録とせり
李秉模字は彝則、靜修と號す德水の人なり長齋端夏の玄孫にして英祖癸巳進士、及文科に中り官副提學兵曹判書を経て正祖の時領議政に至る戊申に歿し文肅と諡す
尹著東字は伯常方閑と號す判書世紀の曾孫にして英祖己酉に生れ英祖甲戌文科に登り正祖丁巳に歿す官右相に至り諡を文翼と云ふ

○郷禮三選

三卷一冊 閔泳徽編 印本

圖書番號

四五五五、四五五六、四七六二

編者か平安道觀察使たりし時道内の士林に示せるものにして郷飲酒禮儀節、同笏記、郷射禮儀節、同笏記及栗谷李珥の海州郷約等の諸式を講定合篇せり李太王二十五年書成り箕營に於て印刊し列郡に布行す

○士儀

二五卷一〇冊 許傳著 印本

圖書番號

四八三七

凡て士禮に關係する文字にして儀禮、家禮を本と爲し經、傳、子、史、古今諸家の要語を取り儀禮、家禮二書の不備なる所を補ひ變、疑に付ては旁引廣證し附するに自己の意見を以てせり親親成人、正始、易成、如在及方喪の諸篇を合せ二十一卷とし法服、論禮の二篇を合せ別集四卷とせり引用書類の多きこと數百部に及ぶ
許傳字は伊老、性齋と號す陽川の人正言珩の子なり正祖丁巳に生れ純祖戊子司馬に中り次て憲宗乙未文科に登る文任を歴て官兼吏曹判書に至り

李太王丙戌の年に歿す諡を文憲と云ふ學問篤實にして著述甚れ富む

○五服沿革圖

一冊 鄭述著 印本

圖書番號 一一六三四

本圖は三十五種にして天子、諸侯、正統、旁期の服圖、君爲臣服圖、臣爲君服圖、臣從君服圖、公子服之圖、郡縣吏爲守令服圖、大夫降服或不降圖、己爲本宗服圖、妻爲夫黨服圖、妻爲夫外黨服圖、己爲妻黨服圖、妻黨爲己服圖、妾服圖、爲妾服圖、妾子服圖、庶子爲人後者爲其私親服圖、繼父服圖、爲人後者爲其本宗服圖、本宗爲爲人後者服圖、爲人後者之妻爲夫本宗服圖、女子子適人者爲其本宗服圖、己爲姑姊妹女子子女孫適人者服圖、姑姊妹女子子及内外兄弟相報服圖、丈夫婦人爲大宗服圖、己爲母黨服圖、母黨爲己服圖、十母服圖、殤服圖、童子服之圖、師友服圖、稅服圖、無服爲位圖、吊服圖、服術圖、及改葬服圖等なり仁祖己巳其の門人李潤雨の潭陽郡守たりし時刊行せしものなり

○五服名義

三卷三冊 俞彥鑠編 印本

圖書番號 八二三

正祖の時俞彥鑠か古今の禮制を參酌引據し三卷に分ち編述したるものにして第一卷は本宗服、三殤服、外黨服、妻黨服、繼母服、君母服、出母服、嫁母服、慈母養母庶母乳母服、繼父服、爲孽屬服、第二卷は妻爲夫黨服、爲人後者爲本宗服、女適人者爲本宗服、妾子爲君母生母慈母父他妻及妻服、妾爲君黨、及其私親服、兼親服、同養服、師友服、改葬服、臣爲君服、臣從君服、天子諸侯正統旁期服、大夫之妻爲大夫親服、大夫之子爲旁親服、大夫之庶子爲母妻適昆弟服、第三卷は通論行服諸節、通論立服義例、通論喪服制度等なり李太王十三年丙子其の玄孫致友之を刊行し族會孫初煥跋文を作れり俞彥鑠字は士精、大齋と號す杞溪の人にして右尹直基の子なり肅宗甲午に生れ英祖丙戌遺逸を以て擧げられ諮議より進善に歷任し正祖癸卯に歿す官吏曹參議に至る

春秋類

○春秋集傳大全

五五卷五五冊 成宗命編 印本

圖書番號 四四六、七八三、一〇七六、二三五二、二八五

八、七五三五、七五三六、一一〇一三

春秋に左丘明傳、公羊高傳、穀梁淑傳、胡安國傳あり
成宗十一年庚子弘文館諸儒臣に命し四氏の傳を
採り春秋經文の下に年代を叙次し之を編して春
秋集傳大全と名け印出廣布せり首卷に杜預、何休
范甯の三傳序及胡氏傳の序あり次に春秋諸國興
廢説を載し晋山君姜希孟卷末に跋す又之を春秋
四傳とも稱す

○春秋正音

四卷二冊 印本

圖書番號 一六四二、一六四三、一六四四

春秋の本文各字の下に諺文を以て支那音を附し
たるものにして右を正とし左を俗とす

○春秋補編

三卷二冊 朴世采編 印本

圖書番號 一六二、一六三、一六四、八二〇、九七六、一
〇四七、一〇四八、一二六八、一二六九、一三八一、二三〇二
詩書易禮の四經は皆朱熹の定本ありと雖獨り春
秋一經を缺くを以て編者二程全書及朱子全書に
就き春秋に關する諸解説を采摭して整釐せし
のなり書の成りしは肅宗戊午の年に在るも刊行
年時詳ならず初名は春秋節傳なりしを後、今の名
に改む

○春秋公穀合選

二卷一冊 洪仁謨編 印本

圖書番號 一五四〇

春秋三傳の中左氏の傳獨り廣く行はれ公羊、穀梁
二氏の傳は多く願る者なきを以て本書を編し公
穀二傳中より緊要なる文を選集せしものなり開
刊は正祖二十二年に在り

洪仁謨字は而壽、足睡堂と號す豐山の人孝安公樂
性の子なり英祖乙亥に生れ正祖癸卯進士に中り
蔭仕を以て官承旨に至り純祖壬申に歿す妻徐氏
亦文名あり喪周吉周顯周三子あり喪周は近世の
文章大家と推され吉周亦文を善くし顯周は正祖

の駙馬にして詩に名あり

○春秋人物

一冊

寫本

圖書番號 五〇三一

春秋に載する當時の列國魯、晉、楚、秦、鄭、衛、宋、陳、蔡、曹、吳以下の小國に至るまで著名の人物は悉く其名を列載し其の下に帝王及年次を記註したるものにして春秋を閱讀するに當り人物を搜出するに頗る簡便なり

○左氏輯選

八卷四冊

崔錫鼎編

印本

圖書番號 七〇二九、七三三三、七三三七

左傳は其の篇帙浩穰なるのみならず國名人名夥多にして讀者の容易に要領を得難きを思ひ本書を作れるものにして左傳中より緊要なる文を抄輯し又名號、異稱、便覽を載せ其の國名を記し其の下に人物の名を挙げ父子の關係等を畧記し覽考に便せり肅宗三十四年校書館の活字を以て刊行す

崔錫鼎初の名は錫萬字は汝和、明谷と號す全州の人、暹川、鳴吉の孫なり、仁祖丙戌に生れ、顯宗丙午進

經部

士に魁たり、辛亥文科に登り、大提學となり、官領議政に至り、肅宗乙未に歿す、肅宗廟庭に配食し、諡を文貞と云ふ、少時業を藥泉南九萬の門に受け、清徳峻望一時の標準たり、凡そ十回臺閣に登り、八回元輔を拜す

○左氏輯選補遺

一冊

寫本

圖書番號 六六四九

左氏輯選の補遺にして學者の隨意抄録し備考に供したるものなるへし、東國文献備考に左氏集選續一卷、金在魯編と記せり、或は本書と同一なるものか、參考として之を附記す

○左傳彙類

八卷四冊

寫本

圖書番號 三六五五

左傳中の文句を採り、天道、地理、人事、居處、禮樂、技藝、服食、器用、草木、蟲魚、及文字等の十一類に大別し、更に其の下に小部門を置き、各要語を節取輯録し、以て學者に便にせり

○左傳文字抄

一冊

寫本

圖書番號 一一五五九

二九

春秋左傳中至要の文句を摘取し以て參考としたるものなり

大學類

○ 大學諺解

一冊 宣祖命撰 印本

圖書番號 七八、七二八、七二九、七三〇、七三五、七四

二、七四五、自八六七至八八〇、一〇五三、一〇七四、一〇

八七、一〇九〇、一〇九一、一〇九二、一〇九四、一〇九五、

一〇九六、一〇九七、一〇九八、一二七九、一二八〇、一二八

一、一四〇五、一四一〇、一四一一、一四一二、一四一五、一

四一六、一四三五、一四四五、一四四九、一四五〇、一四五二、

一四五三、一四五八、一四五九、一四六〇、一四六一、一四六

二、一四六三、一四八〇、一四八一、一四八二、一五五八、一

八八八、一九四六、二〇一五、二〇三六、三〇六〇、三四二二、

三五三二、三六八六、三九九六、三九九七、四〇〇四、四〇二

七、七六八七

諺文を以て大學に解釋を附したるものにして七書諺解中の一なり諺解に付ては周易諺解の下に記せり

○ 大學栗谷諺解

一冊 李珥著 印本

圖書番號 一四四八

宣祖經書諺解の多門なるを軫念し其の九年丙子著者に命し四書五經の諺解を詳定せしむ著者乃ち四書の吐釋を編せしも未だ五經に及ばざりしを以て上進するに至らず本書は即ち其の一なり英祖二十五年己巳始めて洪啓禧芸閣活字を以て之を印行し篇尾に其の顛末を述へて跋とせり李珥は叔獻栗谷又石潭と號す德水の人監察元秀の子なり中宗丙申に生れ明宗甲子生員及文科に魁たり選はれて湖堂に入り吏曹兵曹判書を歴て文衡を興り官贊成に至り宣祖甲申に歿す文成と諡し文廟に従享せらる三歳より文字を知り十歳古文を作り十九歳金剛山に入りて佛戒を受けたるも一朝棄てて心を儒學に專にし牛溪成渾に従遊し其の退溪李滉を見る退溪甚だ之を推重し牛溪道義の交を定む嘗て室を海州石潭に築き學徒に就ふ

○ 大學正音

一冊

印本

圖書番號 一七六四、三八九一

大學の本文に諺文を以て支那音を附したるものにして其の左に在るを正音とし右に在るを俗音とす

○ 大學衍義輯略

二一卷七冊 李石亨撰 印本

圖書番號 五〇、一七〇七、四二二五

大體を宋の眞徳秀の大學衍義に取り唯其の浩穰なるものを約し且高麗史中の鑑戒となるべきものを添へたり

李石亨字は伯玉、樗軒と號す延安の人世宗及世祖に仕へて官領相に至る世祖受禪の時幸に死を免る儉素清貧一代の師範たり成宗丁酉に歿す著す所別に歴代兵要十三卷あり

○ 大學章子問答 一冊 曹好益著 印本

圖書番號 三二二〇、五七一六、七八四七

大學章句又は諸家の註疏中初學者の曉り難きものを抄録して解釋せしものなり

○ 大學類義

經部

二一卷一〇冊 正祖編 印本

圖書番號 二九一、一五九二、一九七〇、二八〇六、二八〇七、二八一三、二八一四、二八一五、二八一六、二八一七、二八八七、二九二七、二九二八、三四五九、三五二七、五三六七

正祖か宋の眞徳秀撰大學衍義及明の丘濬撰大學衍義補の兩書中切要にして最も鑑戒となるべきものに就き朱批を加へ又大學に關しては朱子以後宋に於て十六家明に於て三十二家の著書を參照し載籍に在りては典謨より傍ら百家に及ひ歷代に在りては軒義より宋、明に至る要用のものは總て採取し三十餘年一日の如く功を積み以て漸く成れり實に辛丑より丁未に及へり因て更に儒生文臣の校閲を経て之を完成す後己未の年重校し純祖五年乙丑に刊行す卷首に正祖の序あり

○ 大學講義 一冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 二八九四

正祖十三年著者甲科に第し内閣抄啓に選はる是年正祖熙政堂に臨し抄啓諸臣を召し大學を講せしむ著者抄啓諸臣の問に對し答ふる所あり歸り

て之を手録す本書即ち是なり課講畢り正祖特に
試官と講員とに命し合同會坐し總て一篇の旨を
抽き更に問難すること私堂講學の儀の如し其の
問對は記して卷末に附せり而して本書は與猶堂
集七十八卷に收む

○大學公議 三卷一冊 丁若鏞述 寫本

圖書番號 二二八九四

卷首に大學の作者に付ての諸説及大學か世に行
はれ又四書に入れる次第等を述へ大學の正文各
節を標掲し其の下に自家の意見を記し之を議と
稱し又案説引證考訂記事及答難等を附し正文中
の要語に付ては圖を作りて之を説明せり本書は
與猶堂集第七十四冊に收む

○大學綱目箴 二卷一冊 柳崇祖著 印本

圖書番號 二二五、二二六、二二七

本書は中宗六年著者の成均館大司成たりし時纂
進せしものにして三綱領及八條目の箴言を解説
せり而して三綱は一般解釋の例に依り明德新民
至善に分てるも八目に至りては使無誣格物致知

謹獨正心修身齊家治國絜矩等に分てり卷首に上
箴を載し卷尾に著者の撰に係る性理淵源撮要一
篇を附せり

柳崇祖字は宗孝眞一齋又石軒と號す全州の人に
して署令之盛の子なり文宗壬申に生れ成宗壬辰
進士に中り己酉文科に登りて官同知成均館事に
至り中宗癸酉に歿す諡を文康と云ふ崇祖經學に
精通し人を誨ふるに甚た勤む燕山君の時抗疏し
て原州に流され中宗丙寅靖國の後召還せらる

○大學序文分節 一冊 寫本

圖書番號 一四六五、三四八九、三四九〇

朱子の撰したる大學序文一篇は篇首十五字の總
論を除き其の以下は之を六節に分つことを得へ
し而して其の語意第一第四兩節は相對待し第二
第五及第三第六各互に對待す仍て之を圖解して
卷首に掲げ次に全文を分節し各節の下に説明を
附せり若者詳ならざるも圖説に臣謹按とあるを
以て撰進の書なることを知る

○大學章圖 一冊 寫本

圖書番號 一四〇九

大學の章句を逐ひ其の要義を分解し圖式を作り其の奥旨を詳にしたるものなり

中庸類

○ 中庸諺解 一卷一冊 宣祖命撰 印本

圖書番號

八〇、二〇四、三六八、三六九、三七〇、三七五、三八〇、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九一、三九二、自四三二至四二九、四三四、四三五、自四四八至四五六、四八〇、四九二、四九三、四九四、六七七、六七八、七四四、八一四、八一五、九〇〇、九六一、九九五、一〇一一、一〇六二、一一〇四、一一〇五、一一〇六、一一〇七、一二九〇、一二九一、一二九二、一二九三、一四一七、一四三〇、一四三四、一四三六、一四三七、一五六〇、一五六一、五六二、一七四〇、一七四九、一八七四、一八八七、二〇三七、二八七六、三〇三三、三〇三六、三五八九、三五九〇、三六三六、三六八五、三七六三、四〇二二、五四五一、七八七七、一一九六五、一一九六六、一一九六七、一一九六八

諺文を以て中庸に解釋を附したるものにして七書諺解中の一なり諺解に付ては周易諺解の下に記せり

○ 中庸栗谷諺解 一冊 李珥著 印本

圖書番號 一六一三、一六一四

經部

宣祖局を設け官に命して現行の七書諺解を著定

する前著者をして此の諺解を詳定せしむ其の既に成りしは四書のみにして本書は即ち其の一なり顛末は大學栗谷諺解の下に記せり

○ 中庸正音 一冊 印本

圖書番號 一七六五、三四〇二

中庸の正文各字の下に諺文を以て支那音を附したるものなり而して其の左に在るを正音とし右に在るを俗音とす

○ 中庸九經衍義

二九卷九冊 李彥迪著 印本

圖書番號 一七七一、二九五八、三〇三四、三〇三五、四三八八、四四六八、四八三三、一一〇一九

著者か眞徳秀の大學衍義、丘濬の衍義補の例に倣ひ中庸九經を敷衍し治道を論したるものなり原集十七卷別集十二卷より成り原集の大目は修身尊賢、親親、敬大臣、體群臣、子庶民、來百工、柔遠人、懷諸侯等にして敬大臣以下は未だ論著に及はず別集の大目は體天道、畏天命、戒滿盈等なり

三三

○ 中庸講義

一冊

寫本

圖書番號 三〇七一

中庸の序文及本文三十三章中要用と認むる語句を採り其の下に講解を施したるものなり

○ 中庸筭記

二卷二冊

寫本

圖書番號 七〇五六

中庸の章句及或問中より講義すべき節を表出し其の下に自己の按説を附して旨義を敷衍し又宋儒諸家の説を援引して要義を示せり按字の上必ず臣と稱せるを以て撰進の書なるへし

○ 中庸自箴

三卷一冊

丁若鏞著 寫本

圖書番號 一一八九四

中庸正文の各節に就き自家の釋義を述へて箴とし天下國家可均の節以上は各節全文を掲げ子路問強節以下は章節浩瀚なるを以て之を省き各節の首句のみを擧げたり本書は與猶堂集第七十四冊に收む

○ 中庸長公問政篇

一冊

寫本

圖書番號 三二七四

中庸全篇中第二十章のみを抄録して句讀に懸吐し閱覽に便ならしめたるものなり

論語類

○ 論語諺解

四卷四冊

宣祖命撰 印本

圖書番號

九六、九七、九八、二九〇、三七一、自三九四

至四〇六、四一〇、四二一、四三七、四三八、四三九、四六七、四六八、四六九、自五一〇至五二八、五二六、五二七、

五五九、五六〇、五六一、五六二、五八三、五八四、六七九、八九九、一〇〇五、一二九五、一九一九、二〇三八、二八六

三、二八八二、三〇五八、三〇六一、三〇六二、三〇六三、三〇六四、三四五七、三四六三、三四六九、三五一〇、三六八

九、三七七九、三九三四

論語に諺文を以て解釋を附したるものにして七書諺解中の一なり諺解に付ては周易諺解の下に記せり

○ 論語正音

四卷二冊

印本

圖書番號 一六〇六、三六四九

論語正文各字の下に諺文を以て支那音を附したるものなり而して其の左に在るを正音とし右に在るを俗音とせり

○ 論語古今註

四〇卷一三冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 二二八九四

卷首に原義總括として百七十五條の目を列し各篇中に於て辨せんとする要旨を示し仍て各章の全文を舉げ其の下に古今諸家の註を集め或は補ひ或は駁し問間按説を加へたり引證の目あり質疑の目あり考異の目あり反覆講究せり卷末に附するに論語對策文十節及春秋聖言蒐一篇を以てす本書は與猶堂集五十八卷より七十八卷に收む

○ 論語手筈

三卷一冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 五五九四

論語の正文各節中疑義あるものを掲げ自己の心得したる所を簡録し又諸家の説を叙列し其の下に案説と駁論とを加へ引證を示し考異を擧げて其の旨義を明確にせり

○ 論語補逸

五卷五冊

寫本

圖書番號 七三二六

孔子の言行は主として論語に載せり然れども論

經部

語以外の群經に散出せるもの亦尠からず仍て大人誠實矯氣及正家等の篇名を設け群經中より彙分抄録し名けて論語補逸と云ふ尙ほ初稿に屬し共に五冊あるも大人誠實矯氣三篇は各一冊を以て終り正家篇一冊は僅に一枚七則のみを抄録し其の以下及第五冊は皆空白なり正祖當時の抄輯ならんか

孟子類

○ 孟子諺解

一四卷八冊 宣祖命撰 印本

圖書番號

一七三、四〇八、四〇九、四一一、四一二、四一三、四一九、四二〇、四三〇、四三一、四三二、四三六、四七〇、四九五、四九六、四九九、五〇〇、五〇三、五〇四、五一九、五二〇、五二一、五二二、五二三、五二四、五二九、五三三、六七六、九六三、八〇二、八〇三、八〇六、八八一、八九五、九三九、九六一、一六六六、一七八〇、一八八六、一九二〇、二一〇一、二八六四、二八八〇、三〇五七、三四五四、三四六四、三四六五、三四六六、三五二三、五四四七、一二二一七

孟子に諺文を以て解釋を附したるものにして七書諺解中の一なり諺解に付ては周易諺解の下に記せり

○ 孟子粟谷諺解 七卷七冊 李珥著 印本

圖書番號 四一七

著者曾て宣祖の命を受け經書諺解の著に着手し四書諺解のみ成れり本書は即ち其の一なり頭末は大學栗谷諺解の下に記せり

○ 孟子正音 六卷三冊 印本

圖書番號 六六八、一六六五、三九〇七、三九二二

孟子の正文各字の下に諺文を以て支那音を附したるものなり而して其の左に在るを正音とし右に在るを俗音とす

○ 孟子淺説 一四卷二冊 趙翼著 寫本

圖書番號 四六三三

趙翼初め自家の見地に據りて孟子を分類し之に私見を加へて淺説と名く然るに其の書を覽る者孟子集註と篇章の順序を異にし不便を感ずるより二十年の後更に本書を著し分類を撤して集註の順序に従ひ只自説のみを各章下に録せり而して卷末に分類目錄を附す

○ 孟子要義 九卷三冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 二八九四

卷初に序説五節あり一には業を子思に受くることを證し二には孟子の字に就て辨し三には孟子の書は自作なりとし四には外書四篇に就いて述へ五には趙註鄭註に就いて論し而して各節の終に著者の案説を以て斷せり次に七篇の題號を擧げ各章に於ては首句一二を書し次に諸家の説を叙列し間問編者の案説を以て斷し或は引證を示し又は考異を擧げて其の説を確實明瞭ならしめたり與猶堂集中に收むるものの一なり

○ 孟子條問 一冊 正祖撰 寫本

圖書番號 一〇二六

正祖か文臣を試藝し兼ねて講官と研鑽するため孟子中の語句を摭取して問辭を設けたるものなり

別經類

○ 孝經諺解 一冊 印本

圖書番號 白一四三至一五九、一二七九、二一八〇、一一

八一、一七七八、一七七九、一八八九、三六六一、三六六二、
三六六三、三六六四、三六六五

諺文を以て孝經を解釋したるものなり

○ 周公書 一〇卷四冊 正祖編 寫本

圖書番號 一三〇一

禹湯文武の功徳は載せて典謨に在り孔子の言行は雜りて論語家語に出つ獨り周公は攝位行道せしを以て一の全書なし正祖之を慨し周公の著作に係る易の爻辭書の大誥洛誥多士無逸君奭多方立政詩の七月鴟鴞東山棠棣文王大明厥及周禮六官を蒐輯編次して本書を成せり時に二十四年庚申なり

○ 樂學軌範 九卷三冊 成宗命編 印本

圖書番號 九〇、九一、一八〇七、一八二二、一八一七、

一八一八、一八五四、一六六七

朝鮮開國の初め世宗大に禮樂を制作し禮書としては世宗世祖兩代に亘り國朝五禮儀を撰定頒布せしも樂書は未だ完書を成すに至らず成宗六年癸丑に至り始めて成侃等に命し樂院に藏めたる

經部

儀軌及樂譜を以て本書を編纂せり先づ樂律を作

るの原則を論し次に樂律を用ふるの方法を示し因て樂器儀物の制度及舞蹈歌曲の節調を記し祭祀朝會宴饗等に用ひたる雅樂俗樂唐樂鄉樂等を區分し圖を以て解釋せり後光海君二年庚戌樂書廳を設け重校印出す

○ 樂通 一冊 正祖命編 寫本

圖書番號 一四六八、一五〇五

正祖朝鮮の音樂を古樂に復さんと欲し律呂正義新法律數を以て本と爲し古今を參互し聲器を稽攷し以て本書を編す凡そ六篇にして一、樂律二、樂調三、樂器四、樂譜五、樂懸六、樂舞是なり書の成りしは正祖辛亥の年なり

○ 詩樂和聲 一〇卷三冊 正祖命編 寫本

圖書番號 四一六

正祖四年庚子奎章閣に命し詩樂の書を編成せしむ時に鐘磬琴瑟を賜ひ樂學を修正せしめたる後此の書始めて成る第一卷は樂製源流第二卷は樂律本元第三卷は樂懸法象第四卷は樂器度數第五

三七

卷は樂經合旋第六卷は樂經均調第七卷は樂歌擬譜第八卷は樂奏擬譜第九卷は樂舞擬譜第十卷は度量衡譜なり

○樂書孤存 一二卷四冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 五五九三

聲律の製作、異同沿革、誤謬等に就き古書を引据し且鐘磬、塤鼓、琴瑟、笙笛等の樂器に至るまで辯訂攷査絲毫を遺さず與猶堂集百六卷乃至百十七卷中に收む

總經類

○經書正音

三〇卷一六冊

印本

圖書番號 一六七四、三四〇三、四三九二

周易書傳、詩傳、春秋四經と大學、中庸、論語及孟子四書等の正文に就き字を逐ひて支那音の正俗二音を諺文にて懸録したるものにして左を正音として右を俗音とせり而して周易は三卷書傳は二卷詩傳は三卷春秋は二卷大學、中庸は合せて一卷論

語は二卷孟子は三卷にして總卷數三十卷十六冊とす

○三經四書釋義 八卷二冊 李滉著 印本

圖書番號 一〇三三、一一八二、一一八三

著者か諸家の詩書、易、大學、中庸、論語、孟子の訓釋を哀聚し又嘗て門人の問辨せる所を采録せるものにして光海君元年門人琴應燠之を讐校印出す而して著者の手録せしものは壬辰の兵燹に亡失せしを以て士友間に傳寫せるものを求索せりと云ふ

○四書質疑

一冊 李德弘著 寫本

圖書番號 一三八七

論語、孟子、中庸、大學中疑義の在る所は句節を表出し其の下に註解或は諺釋を加へ簡潔明晰に記述せり著者の嘗て其の師退溪李滉に質したる草稿に據り外曾孫金萬然か顯宗七年丙午編纂したるものなり

○經書辨疑

七卷三冊 金長生著 印本

圖書番號 五九一三、七一四二

金長生嘗て師門に在りて經義を聽き又遍く名儒に交りて講究し疑あれば輒ち手つから筋録せしものにして小學四子より五經に亘りて論せり長生の自序竝に門人張維宋時烈兩人の跋あり顯宗七年の刊行に係る

○ 論語問義通攷

一四卷一〇冊 宋時烈編 印本

圖書番號 一〇二二 一七七四

本書は宋時烈が濟州島に謫居せし時朱熹著す所の論語或問及論語精義に就きて緊要なる語を采録せしものなり其の後未だ繕寫に及はずして死を賜ふ仍て書を門人權尙夏に致し託するに此の書刊行の事を以て尙夏師命を守り讐校し時烈の外孫權以鎮の安東府使たる時相謀りて剗削に付するに至りしと云ふ時烈卷首に序して朱熹の或問精義に就き述ふる所あり蓋し此の書は時烈の手に成りしと雖其の分目編次の如きは皆尙夏の意に出てしものなり

宋時烈字は英甫尤菴と號す恩津の人睡翁甲祚の

經部

子なり宣祖丁未に生れ仁祖癸酉生員に魁たり丙子の難に南漢に扈從し和議成る時痛哭して郷里に歸り持平に再除せられたるも起たず孝宗即位し掌令を以て召されて贊善祭酒を拜し官左議政に至り肅宗己巳に己亥議禮に因り遠竄せられ死を賜はりしも直に仲寃せり諡を文正と云ふ孝宗廟庭に配食し文廟に従享す

○ 十二經問

六冊 正祖撰 寫本

圖書番號 一四四六

正祖經義を以て士を試取せんと欲し乃ち十三經中疑義ある所を摘出し以て問題とせり易問十條書問二十條詩問十條春秋問十條論語問十條及孝經爾雅問各五條を存す

○ 六經常覽

七卷七冊 寫本

圖書番號 一〇五七

書經詩經周易禮記論語孟子を以て六經と爲し各書より若干の篇を選抜し諸家の解釋を附したるものなり

○ 五經百篇

五卷五冊 正祖編 印本

三九

經部

四〇

圖書番號 二九、三〇、三一、三二、五二、五五、七八四、

一一四、一八〇五、一九三〇、二四二三、二四一六、三七四〇、三七六〇

周易書經、詩經、春秋、禮記の正文中百篇を選抜して寸大の文字に刻し、素讀用に供へしものなり

〇 一一經英華 四卷四冊 寫本

圖書番號 一二九六

書經、詩經中より得意の篇を抜萃し註解の必要なるものは粹を擇ひ之を摘録せり

〇 論孟人物類聚 一冊 純祖編 寫本

圖書番號 一四〇七、二八九六、二八九七、二八九八、二

八九九、二九〇一、自二九〇二至二九一三、五三三三、五三

三四、五三三五、五三三六、五三三七、五三三八、七七九三

純祖の時論語、孟子二書所載の人物を抄出し其の事績を畧叙し李晩秀等に命じて校正せしめしものなり

〇 孝經小學抄解 一冊 寫本

圖書番號 七九、九四二、九四三、一〇八九、一四九一、

一四九二、一四九三

孝經小學二書中より童蒙の學ひ易き語句を抄出し諺文を以て解釋を施せるものなり

字書類

〇 四聲通解 二卷二冊 崔世珍編 印本

圖書番號 一五九三、三五五二、三八八五、三八八七、三

九五二

世宗の時申叔舟に命し洪武正韻中の文字を類粹し諺文を以て譯し四聲を以て序し清濁を以て諧し字母を以て系し四聲通致を標す爾來其の訛を傳へ音ありて釋なく又は一字にして重出せるものあり故に編者之を釐正して上下二卷を作り四聲通解と名け中宗丁丑に刊行す卷末に四聲通致凡例、詳譯凡例及動靜字音等を載す崔世珍字は公瑞、成宗の時に生れ燕山君癸亥に登科し官同知中樞事に至る中宗の時に歿す

〇 三韻聲彙 三卷三冊 洪啓禧著 印本

圖書番號 三五七六、三六四〇、四二五一、四八九三、五

五二四

著者嘗て支那傳來の三韻通攷を讀みて其の體に倣ひ韻を逐ふて平、上、去、入の四聲を彙集したるものなり入聲は附録として卷尾に附す典籍鄭忠彥韻學に通曉し著者の事業を助く英祖の時經筵に於て一儒臣此の書の世に益あるを論し仍て其の二十七年辛未秘閣に命して刊行せしむ

○正音通釋

二卷一冊 朴性源著 印本

圖書番號

七三四二、自七三六七至七四六八、自七五八三

至七五九九

著者廣く各種の字書より字を集め四聲通解の字音に依りて支那音を字下に示したるものにして漢語譯人李彥容亦刺助する所多し初め書名を華東正音通釋韻考といへり正祖十一年秘閣に命して印行せしむるに際し正祖卷首に正音通釋序を弁す仍て遂に正音通釋を名とす

朴性源字は士濬、圃菴と號す密陽の人なり肅宗丁丑に生れ英祖丁亥に歿す一進士に過ぎずと雖音韻の學を以て當時に名あり兼て禮學に通ず別に華東正音祭禮抄等の著あり

經部

○華東叶音通釋

一冊 朴性源著 寫本

圖書番號 五一九六

著者嚮に正音通釋を著し次て此の叶音通釋を作る未だ世に公にするに及はずして歿し其の子致永啓寫して之を傳ふ安祐の跋文あり

○韻會玉篇

二卷一冊 崔世珍著 印本

圖書番號 九八三、一〇二三

宋の黃公紹の作れる韻會の集字は精詳なるも其の解釋繁雜に流るるを以て只韻會の集字のみを襲取して解釋を新にせるものなり書成るや中宗大に之を賞獎し其の三十一年官刊せしむ

○全韻玉篇

二卷二冊 印本

圖書番號

二五六、二五七、二五八、二五九、二六〇、二

六一、自五三四至五五〇、自五八六至六四三、六九六、六九七、自七八五至七九四、一一二、一一三三、一二五三、一二五四、自三三一一至三三四九、三六五六、三九〇四、四三九九、四五九三、四五九四、四五九五、四五九六、五二九九、一一六〇六、自一一七三一至一一八九一

康熙字典の體式に依りて作りたるものなるも主として日用の文字のみを揀收せしを以て康熙字典

四一

典に比し字數約五分の一に過ぎず註釋亦極めて省略せり唯諺文を以て音を施し且詩作者のたみに四聲の韻字を附したるは朝鮮字典として最も簡便なるものとす正祖の時始めて官刊せしものなり

○奎章全韻 二卷一冊 正祖命編 印本

圖書番號 一三九七、一三九九、二四四七、三〇〇七、三

五四四、三五四五、四〇二八、四〇二九、四七四六、七三三

二、七三四六、七四九四、七四九五、七五六一、七五八二、

七六一、七六九八、七六九九、七七〇〇、一六一七八

正祖の時奎章閣諸臣に命し編次せしめたるものにして平、上、去、入の四聲を以て比類諧音し諸韻にして互見するもの及字同くして音義の異なるものを逐字標別せり朝鮮韻書中最も精確なりとし廣く世に行はる正祖庚申刊行す

○說文解字翼徵

一四卷六冊 朴瑄壽著 印本

圖書番號 九一三五

漢の許慎か著したる說文解字は漢字に於ける字

書の開祖なり然るに其の解説中闕失無きこと能はざるを以て著者は古代鍾鼎の遺文を研究して文字の原理本義を考證し以て本書を著せり原稿は全部著者の自筆にして翠堂金晩植之を校閲し雲養金允植之に頭評を加へたり明治四十五年壬子朝鮮總督寺内正毅稟俸を捐し石版を以て印行す

朴瑄壽字は溫卿、溫齋と號す貫は潘南にして燕巖趾源の孫なり純祖辛巳に生れ憲宗己酉進士に中り李太王甲子文科に登り官工曹判書に至る光武三年己亥に歿せり

○訓蒙字會 三卷一冊 崔世珍著 印本

圖書番號 二六、二七、三七五四、一三〇七八、一二〇七

九、一二〇八〇

童稚初學のために類を以て字を聚め四言の韻文と爲し諺文を以て字音及字義を附したるものにして卷首に諺字の用法を説明し又平、上、去、入、定位の圖を掲ぐ而して其の目上卷は天文、地理、花品、草卉、樹木、菓實、禾穀、蔬菜、鳥禽、獸畜、鱗介、昆虫、身體、天倫

儒學及書式中卷は人類、官宅、官衙器皿、食饌、服飾、舟船、車輿、鞍具、軍裝、彩色、布帛、金寶、音樂、疾病及喪葬等
下卷は雜語なり

○初學字訓增輯 三卷一冊 李植著 印本

圖書番號 一三九三

著者經書を講するに當り毎に字義の難解なるため文義を失することあるを憂ひ宋の程正思の字訓を増補したるものなり顯宗五年藏六堂趙龜錫全羅觀察使たりし時尤庵宋時烈の囑を受け開刊す

李植字は汝固、澤堂と號す容齋李荇の玄孫なり宣祖甲申に生れ光海君の時に登科し選ばれて湖堂に入り官吏曹判書に至る文章に名あり嘗て黨論を爲さず又澤風堂を作る蓋し獨立不懼の義に取るなり因て以て號と爲す仁祖丁亥に歿す

史部

史部

正史類

○三國史記

五〇卷一〇冊 高麗仁宗命撰 印本

圖書番號 三一九六、三六一四、四二四五、四三五四、七

五五五

三國鼎立の際各國史を置き時事を記せしも屢兵火に罹り典籍の存するもの極めて少し適ま古記文書の存するあるも蕪拙荒怪にして多くは信するに足らず故に高麗仁宗の時金富軾等に命し三國史記を撰せしむ富軾等古記遺籍或は支那の諸史を探り司馬遷の史記に倣ひ之を編纂し名けて三國史記と云ふ高麗の時の印本は既に泯ひ朝鮮太祖の癸酉、甲戌年間陳義貴、金居斗相繼いて慶州府使となりし時改刊し中宗壬申李繼福又改刊せり其の後或は木板或は活字にて印行せしこと數回あり編次は本紀、年表、志類及列傳とし第一卷より第十二卷までは新羅本記第十三卷より第二十

二卷までは高麗本記第二十三卷より第二十八卷までは百濟本記とし而して年表は第二十九卷より第三十一卷に至り志類は第三十二卷に始まり第四十二卷に終り第四十一卷より第五十卷を列傳とせり

高麗仁宗諱は構、宋高宗の諱を避け構と改む睿宗の子太祖六世の孫にして睿宗六年己丑に生る十七年壬寅即位二十四年丙寅位を太子(毅宗)に禪り同年薨す壽三十八、恭孝と諡し長陵に葬る

金富愾は雷川と號し慶州の人なり高麗文宗乙卯に生れ文章を以て世に名あり所宗の時文科に登り宮翰林學士戸部尙書を經て平章事に至り又西都の亂に元帥となりて功あり毅宗辛未に歿す諡して文烈と云ふ才文武を兼ね位將相を極めたり

○高麗史

一三九卷一〇〇冊 世宗命撰 印本

圖書番號 三二六九、三四六七、三五三九、三五六六、三

五七九、四七二〇、五五五三、五五五四、五八七四、五八七八、五九〇八、七二五七、七八一〇、一一六〇一

太祖既に高麗に代り朝鮮を有し因りて鄭道傳鄭

摠等太祖の命を承け高麗歷代實錄、閱漬の綱目、李齊賢の史略及李穡の公鏡錄等の書を取り編年體に依り高麗史三十七卷を撰進す太宗更に儒臣に命し讐校せしめたるも世に傳はらず世宗の時鄭麟趾等命を承け前書を改撰し文宗元年辛未上進し端宗二年始めて刊行す註疏は司馬遷の史記に倣ひ世家、志、表、列傳の四目と爲し世家四十六卷志三十九卷、表二卷、列傳五十卷及目錄三卷共に一百三十九卷なり

鄭麟趾字は伯暉、學易齋と號す河東の人なり太宗甲午齡十九にして文科に壯元となり文を以て世に顯る世宗乙丑命を承け治平要覽、歷代兵要を撰し猶ほ成三問、申叔舟、崔恒等と御製訓民正音を撰定し又高麗史を撰進す功は窮難、佐翼、翊戴に録し官は大提學、領議政に至り河東府院君に封し睿宗戊子に歿す文成と諡す

編年類

○東國通鑑 五六卷二八冊 成宗命撰 印本

圖書番號 七二四、一二三九、一二四五、一二七八、一三

一七、二八五五、三四五二、四二二三、五七九三

世祖の時儒臣に命じて編纂せしめしも完成に至らず成宗其の遺緒を承け徐居正、鄭孝恒等をして之を續成せしむ本書是なり其の書載する所新羅の始祖赫居世より高句麗、百濟、高麗、恭讓王の時に至るまで上下千四百年間國土の離合、盛衰、名教、節義、亂賊、奸諛等の事蹟を以て通鑑綱目の筆法に則り編次し頗る編史の體を備へたり古三鮮及四郡二府三韓は外紀として別に卷首に載せり徐居正字は剛中、四佳と號す世宗庚子に生れ甲子文科に及第し官大提學右贊成に至り達城君に封せらる楊村權近の外孫にして一代の鉅匠たり當時楊村は其の文才を子又は孫に傳へずして外孫に傳へたりと稱せらる著す所極めて多く三國史節要、東國通鑑、東文選及輿地勝覽等の編纂は皆其の宰する所に係る別に東人詩話あり世に行はる成宗の時に歿す年六十九諡して文忠と云ふ鄭孝恒は慶州の人太宗朝官判書に至る

史部

○東國通鑑提綱

一三卷七冊 洪汝河著 印本

圖書番號 三二一八、三二三七、三七一三、三七一四、三

七九五、四三五六、四三五七、四三八七、五三三〇、五六八五、

六八三五

家塾用として作述したるものにして道の全體は經に在るも其の大用は史に存するものと爲し東國通鑑に就き取捨折衷を加へ編年體に依りて編述し以て褒貶勸懲の意を寓せり而して此の書箕子以降三國の史實に止めしは其の著彙纂麗史の既に成りたるを以て之を略したるものなり序文には十四卷とあり序を一卷と見做せしものなるへし

洪汝河字は伯源、本齋と號す岳溪の人にして鎬の子なり光海君庚申に生れ孝宗甲午に文科に登り官司諫に至り顯宗甲寅に歿す近嶽書院に追配せらる

○東史會綱

二七卷九冊 林象德著 印本

圖書番號 四一九一、四三三八、四七七五、五三三八、五

四五

新羅、高句麗、百濟より高麗、恭愍王に至るまで一千四百九十餘年間に於ける主要の史實を編年體を以て記載せしものなり。綱を立て目を附するは朱子の綱目に京、三國史記、高麗史、麗史提綱、東史纂要其の他漢、唐、宋、明の諸史より大明一統志に至るまで採取参考し以て之を編纂せり。殊に意を用ひたるは序例、凡例、凡例後語數十條及附論七條にして著者苦心の跡を見るべし。

社象徳字は潤甫又荻好、老村と號す羅州の人にして清聖廟の曾孫なり。肅宗癸亥に生れ己卯進士に中り乙酉文科に魁たり。官吏曹正郎に止まり己亥に歿す。少より俊才あり、文名甚た重く、最も四六文に工なり。

○ 東史綱目 二〇卷二〇冊 安鼎福著 寫本

圖書番號 五九一六

本書は朝鮮史中浩瀚なるものの一にして箕子の時より筆を起し高麗末に至るまでの事蹟を朱子通鑑綱目に法り東史及支那史を參考し家塾子弟

の教科用として著したるものなり。而して首卷に序目錄、凡例、傳授圖、地圖、官職圖を載せ、附録に考異、怪說、雜說、地理、疆域、改正及分野等を收む。

安鼎福字は百順、順菴又椽軒と號す廣州の人。廣漢君極の子なり。肅宗壬辰に生れ、英祖壬辰遺逸を以て薦められ、監役を授けらる。衛率を歴て官縣監に止まり、正祖丙午に歿す。特に叅贊を贈り、文肅と諡し、廣成君に追封せらる。學を星湖、李瀾に受け、著す所下學指南、讀史詳節、家禮註解、家禮翼箋、天學考、冠婚酌宜等の書あり。

○ 東國歷代史略 六卷三冊 印本

圖書番號 二八六七、二八七〇、六二二八、六八六四、七一七四

本書は學部編輯局の所編に係るものにして、植箕以下より高麗の末に至るまで編年體を以て編成し、多くは三國史及高麗史の中より節略せしものなり。李太王己亥學部に於て刊行す。

○ 三國史節要

四卷七冊 成宗命編 印本

編年體を以て三國史の要を得たるものを編纂せんと欲し世祖局を開きて長編體を以て編纂に著手したるも未だ成らず成宗先志を繼ぎ盧思愼、徐居正、李坡、金季昌、崔淑精等に命じて之を大成せり其の紀事は立國の前後に従ひ新羅の赫居世元年に始まり高句麗、百濟の事歴を錯綜し新羅の敬順王九年に至るまで凡そ九百九十二年間の通史なり紀年は新羅の初期十九年間と其の統一以後は専ら新羅を主とし其の下に支那の年紀を分註し三國鼎峙の時代は勢均しく力敵するに因り註を以て列書し支那の年紀を加へて之を表示す紀事は一代に止まるを以て書名を通鑑と云はすして節要と稱せり箋序には十五卷を編纂すとあるも目錄と現本は十四卷にして終れり

盧思愼字は子胖、葆真齋と號す交河の人なり世宗辛未生員となり端宗癸酉文科に登第し世祖丙戌拔英試俊科に中り翊戴佐理功臣に錄せられ宣城府院君に封せらる官は左贊成を経て成宗丁未右

議政となり燕山君の初領議政と爲り耆社に入り致仕を請ふも允されず几杖を賜ひ歿す文匡と諡す

李坡字は平仲、蘇隱と號す韓山の人なり文宗辛未十八歳にして生員文科に中り世祖丙戌拔英科に登り官左贊成階崇政に超加す明憲と諡す

金季昌字は世蕃、昌原の人なり世祖壬午文科に登り睿宗の時官副提學、吏曹參判に至る文學を以て世に顯る

崔淑精字は國華、私淑齋と號す陽川の人なり世祖壬午進士文科に登り丙戌重試及拔英科に中り官副提學、參判に至る詩文を善くす

○ 高麗史節要 三五卷二五冊 印本

圖書番號 三五五六

高麗一代の全史は鄭麟趾の撰進せし高麗史あるも卷帙浩瀚にして領略するに難し長編綱目體は僅に東國通鑑あるに止まるを以て更に三國史節要の體に依り別に本書を編纂せり三十四代四百七十五年間の事實を長編に叙述し其の紀年の下

には必ず支那紀年を分註して時代を表示せり此の書各代結尾の論贊には必ず史臣曰くと記せるを見れば命撰たること明なるも首卷に箋序なきを以て時代と史臣を詳にせず

○麗史提綱

二三卷二三冊 俞樾著 印本

圖書番號 一一八七、一一九〇、一七七二、二九三一、三

二七四

著者高麗史の浩瀚にして要領を得るに難きを思ひ通鑑綱目の例に依り提要を大書して分注を加へ以て事實の明瞭を期したるものなり卷首に宋時烈の序文あり

○大東紀年

五卷五冊

印本

圖書番號 七七一六

李太王乙巳の年英人^{ヘムスト}紇法か朝鮮人に囑し太祖壬申より李太王乙未に至る史實の要概を收撮し編年體を以て纂輯せしめ上海に於て活印したるものなり

○太祖實錄

一五卷一五冊 春秋館編 寫本

圖書番號 二七一九、二七六〇

太祖在位七年間に於ける政令其の他の事實を記録せるものにして太宗十三年癸巳三月河崙等之を撰進し世宗三十年戊辰六月鄭麟趾等之を増修せしものなり題して太祖康獻大王實錄と云ふ實錄は高麗顯宗の時修國史黃周亮高麗太祖實錄を撰したるを嚆矢とす而して高麗歷代の實錄は初め陝川海印寺に藏し後善州(今の善山)得益寺に移し更に忠州開天寺、竹川今の竹山、七長寺に移せしも後亡失す朝鮮に至り太祖以來易代の後實錄を撰し明宗以前は四部を印刷して春秋館及星州、全州、忠州の三史庫に分藏せしも春秋館及星州、全州史庫の藏本は宣祖二十五年壬辰兵燹に罹り唯全州史庫の舊本は海州及寧邊妙香山に移藏せしため殘存し後又之を江華に運ひ三十九年丙午に至り四部を重刊し安東太白山、江陵五臺山、寧邊妙香山の各史庫及春秋館に分藏し舊本は江華摩尼山史庫に藏む其の後妙香山史庫を廢して茂朱赤裳山に新建し江華摩尼山史庫を鼎足山に移建す

今存するは唯史庫の四本のみなり

太祖は朝鮮初代の王にして世系は全州李氏より出つ諱は且字は君晋初諱は成桂初字は仲潔松軒と號す高麗忠肅王乙亥に誕生し高麗恭讓王壬申國を建つ戊寅位を定宗に禪り太宗戊子に昇遐す春秋七十四健元陵に葬る李太王己亥太祖高皇帝と追尊す

○定宗實錄

六卷四冊 春秋館編 寫本

圖書番號 二七二〇、二七六一

定宗在位二年間の實錄にして世宗八年丙午八月尹淮等之を撰修す

定宗は朝鮮第二代の王にして諱は曠字は光遠初諱は芳果太祖の第二子なり高麗恭愍王丁酉に誕生し戊寅即位し庚辰位を太宗に禪り世宗己亥に昇遐す春秋六十三厚陵に葬る

○太宗實錄

三六卷三五冊 春秋館編 寫本

圖書番號 二七二二、二七六二

太宗在位十八年間の實錄にして世宗十三年辛亥三月孟思誠等之を撰修す題して太宗恭定大王實

史部

錄と云ふ

太宗は朝鮮第三代の王にして諱は芳遠字は遺德太祖の第五子なり高麗恭愍王丁未に誕生し定宗庚辰即位し戊戌世宗に禪り世宗壬寅昇遐す春秋五十六獻陵に葬る

○世宗實錄

一六三卷一五四冊 春秋館編 印本

圖書番號 二七三三、二七六三

世宗在位三十二年間の實錄にして端宗二年甲戌三月鄭麟趾等之を撰修す總て百六十三卷内百二十七卷は實錄にして其の他は世宗の命撰に係る諸書を合輯す即ち五禮儀八卷樂譜十二卷地理志八卷及七政算八卷わり題して世宗莊憲大王實錄と云ふ

世宗は朝鮮第四代の王にして諱は禔字は元正太宗の第三子なり太祖丁丑に誕生し戊戌即位し庚午昇遐す春秋五十四英陵に葬る

○文宗實錄

一三卷一二冊 春秋館編 印本

四九

圖書番號 二七三、二七六四

文宗在位二年間の實錄にして世祖元年乙亥十一月鄭麟趾等之を撰進す題して文宗恭順大王實錄と云ふ

文宗は朝鮮第五代の王にして諱は珣字は輝之、世宗の長子なり太宗甲午誕生し庚午即位し壬申昇遐す春秋三十九顯陵に葬る

○ 端宗實錄

一四卷一五冊 春秋館編 印本

圖書番號 二七二四、二七六五

端宗在位三年間の實錄なり端宗位を世祖に禪り上王となるや成三問等其の復位を謀り事成らす因て魯山君に封せらる故に初め魯山君日記と稱す後肅宗二十四年戊寅位を復して端宗と號し三十年甲申史官の言に従ひ端宗大王實錄と改む
端宗は朝鮮第六代の王にして諱は弘暉、文宗の嗣子なり世宗辛酉に誕生し壬申即位し乙亥位を世祖に禪り世祖丁丑昇遐す春秋十七莊陵に葬る

○ 端宗實錄附錄

一冊 實錄廳編 印本

圖書番號 二七二四、二七六五

肅宗三十年甲申實錄廳を設け端宗追復の顛末を記錄せるものなり題して端宗大王實錄附錄と云ふ宋相琦の編纂事例を附す

○ 世祖實錄

四九卷四二冊 春秋館編 印本

圖書番號 二七二五、二七六六

世祖在位十三年間の實錄にして成宗二年辛卯十二月申叔舟等之を撰修す總て四十九卷内第四十八卷及第四十九卷に樂譜を收む題して世祖惠莊大王實錄と云ふ

世祖は朝鮮第七代の王にして諱は瑑字は粹之、世宗の第二子なり太宗丁酉に誕生し端宗乙亥受禪し戊子睿宗に傳位し其の年昇遐す春秋五十二光陵に葬る

○ 睿宗實錄

八卷五冊 春秋館編 印本

圖書番號 二七二六、二七六七

睿宗の在位十三朔間の實錄にして成宗三年壬辰五月申叔舟等之を撰修す題して睿宗襄悼大王實

録と云ふ

睿宗は朝鮮第八代の王にして諱は暎字は明照世祖の次子なり世宗庚子に誕生し戊子即位し己丑昇遐す春秋二十昌陵に葬る

○成宗實錄

二九七卷一五〇冊 春秋館編 印本

圖書番號 二七二七、二七六八

成宗在位二十五年間の實錄にして燕山君五年己未愼承善等之を撰修す題して成宗康靖大王實錄と云ふ

成宗は朝鮮第九代の王にして諱は璽德宗の第二子にして世祖丁丑に誕生す己丑即位し甲寅昇遐す春秋三十八宣陵に葬る

○燕山君日記

六三卷四六冊 修正廳編 印本

圖書番號 二七二八、二七六九

燕山君在位十二年間の實錄なり後廢して君に封す仍て日記と名く中宗の時修正廳を設けて撰輯す

燕山君愼は朝鮮第十代の王にして成宗の長子なり甲寅即位し丙寅廢して燕山君に封し同年卒す

○中宗實錄

一〇五卷一〇二冊 春秋館編 印本

圖書番號 二七二九、二七七〇

中宗在位三十九年間の實錄にして明宗五年庚戌九月李芑等之を撰修す題して中宗恭僖徽文昭武欽仁誠孝大王實錄と云ふ

中宗は朝鮮第十一代の王にして諱は懌字を樂天と稱す成宗の次子なり成宗戊申に誕生し燕山君十二年丙寅反正即位し甲寅昇遐す春秋五十七靖陵に葬る

○仁宗實錄

二卷二冊 春秋館編 印本

圖書番號 二七三〇、二七七一

本書は仁宗在位八月間の實錄にして明宗五年庚戌九月沈連源等之を撰修す題して仁宗榮靖獻文懿武章肅欽孝大王實錄と云ふ

仁宗は朝鮮第十二代の王にして諱は皞中宗の長子なり中宗乙亥に誕生し甲辰即位し乙巳昇遐す

春秋三十一孝陵に葬る

○明宗實錄

三四卷三四冊 春秋館編 印本

圖書番號 一二七三三、一二七七二

明宗在位二十二年間の實錄にして宣祖四年辛未四月洪暹等之を撰修す題して明宗大王實錄と云ふ

明宗は朝鮮第十三代の王にして諱は頤、字は對陽中宗の第二子なり中宗甲午に誕生し乙巳即位し戊申昇遐す春秋三十四康陵に葬る

○宣祖實錄

二二一卷一二五冊 春秋館編 印本

圖書番號 一二七三三、一二七七三

宣祖在位四十一年間の實錄にして光海君八年丙辰十一月奇自獻等之を撰修す題して宣宗昭敬大王實錄と云ふ祖號追尊前に編したるを以てなり宣祖は朝鮮第十四代の王にして諱は陰、明宗の嗣子なり明宗壬子に誕生し丁卯即位し戊申昇遐す春秋五十七穆陵に葬る

○宣祖修正實錄

四二卷八冊 春秋館編 印本

圖書番號 一二七三三、一二七七四

宣祖實錄中顛倒したる事實を改正するため特に編修したるものにして仁祖二十二年癸未李植修正に當り孝宗八年丁酉金瑨之を踵成せるものなり題して宣祖大王修正實錄と云ふ

○光海君日記

一八七卷四〇冊 春秋館編 印本

圖書番號 一二七三四、一二七七五

光海君在位十四年間の實錄にして仁祖二年甲子燕山君の例に倣ひ之を撰修したるものなり光海君諱は朝鮮第十五代の王にして宣祖の次男なり宣祖乙亥に誕生し戊申即位し癸亥仁祖反正の時廢して光海君を封し江華喬桐濟州等に遷せり仁祖十九年辛巳に卒す

○仁祖實錄

五〇卷五〇冊 春秋館編 印本

圖書番號 一二七三五、一二七七六

仁祖在位二十七年間の實錄にして孝宗四年癸巳六月李敬輿等之を撰修す題して仁祖大王實錄と云ふ

仁祖は朝鮮第十六代の王にして諱は倅、字は和伯松窓と號す元宗の長子にして宣祖乙未誕生し初め綾陽君に封せられ光海癸亥仁穆大妃の命を奉して卽位し己丑昇遐す春秋五十五長陵に葬る

○ 孝宗實錄

二一卷二二冊 實錄廳編 印本

圖書番號 一二七三六、一二七七七

孝宗在位十年間の實錄にして顯宗二年辛丑李景奭等之を撰修す題して孝宗大王實錄と云ふ附錄一冊あり行狀誌文、諡冊、哀冊を載す

孝宗は朝鮮第十七代の王にして諱は溟、字は靜淵、竹梧と號す仁祖の次男にして光海君己未に誕生し己丑卽位し己亥昇遐す春秋四十一寧陵に葬る

○ 顯宗實錄

二二卷二三冊 實錄廳編 印本

圖書番號 一二七三七、一二七八八

史部

顯宗在位十五年間の實錄にして肅宗三年丁巳權大運等之を撰修す題して顯宗純文肅武敬仁彰孝大王實錄と云ふ内附錄一冊には行狀、哀冊、諡冊及誌文等を收む

顯宗は朝鮮第十八代の王にして諱は欄、字は景直孝宗の元子なり仁祖辛巳に誕生し己亥卽位し甲寅昇遐す春秋三十四崇陵に葬る

○ 顯宗改修實錄

二八卷二九冊 實錄廳編 印本

圖書番號 一二七三八、一二七七九

顯宗實錄を改修せしものにして肅宗九年癸亥金壽恒等之を撰修す題して顯宗純文肅武敬仁彰孝大王改修實錄と云ふ内一冊は附錄なり

○ 肅宗實錄

六五卷七三冊 實錄廳編 印本

圖書番號 一二七三九、一二七八〇

肅宗在位四十六年間の實錄にして英祖四年戊申之を撰修す題して肅宗顯義光倫睿聖英烈章文憲武敬明元孝大王實錄と云ふ卷末に補闕正誤を附

五三

せり

肅宗は朝鮮第十九代の王にして諱は煬字は明普
顯宗の長男にして顯宗辛丑に誕生し甲寅即位し
庚子昇遐す春秋六十明陵に葬る

○ 景宗實錄

一五卷七冊 實錄應編 印本

圖書番號

一二七四〇、一二七八一

景宗在位四年間の實錄にして英祖八年壬子之を
撰修す題して景宗懿文翼武純仁宣孝大王實錄と
云ふ

景宗は朝鮮第二十代の王にして諱は昀字は輝瑞
肅宗の嗣子なり肅宗戊辰に誕生し庚子即位し甲
辰昇遐す春秋三十七懿陵に葬る

○ 景宗修正實錄

五卷三冊

印本

圖書番號

一二七四一、一二七八二

景宗實錄中の事實に就き訂正を要するものを修
正編纂したるものにして正祖五年辛丑鄭存謙等
之を修正す題して景宗懿文翼武純仁宣孝大王修
正實錄と云ふ

○ 英祖實錄

一二七卷八三冊 實錄應編 印本

圖書番號

一二七四二、一二七八三

英祖在位五十二年間の實錄にして正祖五年辛丑
七月李徽之等之を撰修す題して英宗至行純德英
謨毅烈章義弘倫光仁敦禧體天建極聖功神化大成
廣運開泰基永堯命舜哲乾健坤寧翼文宣武熙敬顯
孝大王實錄と云ふ祖號追尊前に編したるを以て
なり

英祖は朝鮮第二十一代の王にして諱は昫字は光
叔養性軒と號す肅宗の第二子なり肅宗甲戌誕生
し甲辰即位し丙申昇遐す春秋八十三元陵に葬る

○ 正祖實錄

五四卷五六冊 實錄應編 印本

圖書番號

一二七四三、一二七八四

正祖在位二十四年間の實錄にして純祖五年乙丑
七月李宗模等之を撰修す題して正宗文成武烈聖
仁莊孝大王實錄と云ふ祖號追尊前に編したるを
以てなり内二冊は附錄及附錄續編なり

正祖は朝鮮第二十二代の王にして諱は祿字は亨

運、弘齋と號す莊祖の第二子なり英祖壬申誕生し丙申即位し庚申昇遐す春秋四十九健陵に葬る

○純祖實錄

三四卷三六冊 實錄廳編 印本

圖書番號 二二七四四、二二七八五

純祖在位三十四年間の實錄にして憲宗四年戊戌閏四月李相瓚等之を撰修す題して純祖淵德顯道景仁純禧文安武靖憲敬成孝大王實錄と云ふ内二冊は附録及附録續編なり

純祖は朝鮮第二十三代の王にして諱は珪字は公寶、純齋と號す正祖の第二子なり正祖庚戌誕生し庚申即位し甲午昇遐す春秋四十五仁陵に葬る李太王戊戌追尊し肅皇帝と稱す

○憲宗實錄

一六卷九冊 實錄廳編 印本

圖書番號 二二七四五、二二七八六

憲宗在位十五年間の實錄にして哲宗二年辛亥十月趙寅永等之を撰修す題して憲宗經文緯武明仁哲孝大王實錄と云ふ内一冊は附録なり

憲宗は朝鮮第二十四代の王にして諱は奭字は文

應、元軒と號す文祖の長男にして丁亥に誕生し甲午即位し己酉昇遐す春秋二十三景陵に葬る

○哲宗實錄

一五卷九冊 實錄廳編 印本

圖書番號 二二七四六、二二七八七

哲宗在位十四年間の實錄にして李太王二年乙丑閏五月鄭元容等之を撰修す題して哲宗熙倫正極粹德純聖文顯武成獻仁英孝大王實錄と云ふ内一冊は附録なり

哲宗は朝鮮第二十五代の王にして諱は昇字は道升、大勇齋と號す莊祖の曾孫恩彥君禎の孫にして全大院君瓚の第三子なり純祖辛卯に誕生し憲宗己酉即位し癸亥昇遐す春秋三十三睿陵に葬る

○國朝寶鑑

七卷三冊 世祖命編 印本

圖書番號 一一三七、一一三三、一一三四、一五九六、一

七二七、一七二八、一七二九、二〇九二、二八一、四六四二

國朝寶鑑は朝鮮各代の事蹟中治法政謨たるべきものを輯録し後の龜鑑と爲したるものなり本書は太祖、太宗、世宗、文宗四代間の寶鑑にして世祖二年修撰應を設け申叔舟、權學等に命して撰修せし

むに四朝寶鑑と稱す

權壁字は正卿、所閑堂と號す、安東の人なり、文宗庚午文科に登り、世祖の時官領議政に至る、靖難、佐翼一等勳に録し、吉昌府院君に封せらる、太宗丙申に生れ、世祖乙酉に歿す、翼平と諡す

○國朝寶鑑

六八卷一九冊 正祖命編 印本

圖書番號 八二五、八八六、八九八、三四四七

國朝寶鑑、宣廟寶鑑、肅廟寶鑑は既に成るも未だ定宗、端宗、世祖、睿宗、成宗、中宗、仁宗、明宗、仁祖、孝宗、顯宗、景宗の寶鑑を缺く故に英祖の時之を續撰せんとせしも果さず、正祖の時に至り趙璣等に命し、英祖寶鑑と共に之を撰修せしめ、既成の三寶鑑と合し其の六年に完成す

趙璣字は景瑞、荷棲と號す、豐壤の人なり、英祖丁未に生れ、正祖の時相臣たり、純祖壬戌に歿す、諡を忠定と云ふ、平日孝を以て聞え、閭に旌せらる

○國朝寶鑑

八二卷二四冊 憲宗命編 印本

圖書番號 七〇、八九七、九四六、一六一二、一八五三、

二九五三、三四四二、三四六一、三五八八

正祖歴代の寶鑑を命編したる後、正祖、純祖、二代及文祖聽政の時の寶鑑は未だ續修せざるを以て、憲宗十三年丁未纂輯廳を設け、趙寅永を總裁とし、鄭元容を校正とし、之を撰修せしめ、翌年九月完成す、趙寅永字は義卿、雲石と號す、豐壤の人、柯汀、鎮寬の子にして、永湖、暉の孫なり、正祖壬寅に生れ、純祖己卯侍直を以て、式科壯元に中り、官大提學、領議政に至りて致仕し、哲宗庚戌に歿す、諡して文忠と云ふ、鄭元容字は善之、經山と號す、東萊の人、啓淳の孫にして、太和六世の孫なり、正祖癸卯に生れ、純祖壬戌文科に登り、檢閱直閣を経て、憲宗辛丑右相を拜し、尋て領議政に至り、李太王癸酉九十一歳を以て歿す、諡して文忠と云ふ、官に在る七十有餘年、齒爵の尊き福祿の厚き李氏歴代中の人、瑞と稱せらる

○國朝寶鑑

九〇卷二八冊 李王命編 印本

圖書番號 二二、四六三、四六四、四六五、四六六、五六

六、五六七、五六八、六四四、六五三、六五五、六五六、六
五七、六五八、六五九、七四〇、七四一、七五〇、七五一、
七五二、一五九〇、一五九一

李王隆熙二年九月奎章閣をして憲宗、哲宗二代の
寶鑑を纂修せしめ既成の寶鑑と合編したるもの
にして李容元纂輯官たり李完用校正たり王の序
文を附す

○ 國朝寶鑑別編

一〇卷三冊 憲宗命編 印本

圖書番號 一三三八、一三三二、一三八九、三五二四、一

一九〇二

朝鮮は由來明に對し尊攘の義を守りしを以て英
祖六年肅廟寶鑑を編せし時仁祖以後尊攘に關す
る事實を録して別編一冊と爲し又正祖の時金致
仁等に命し國朝寶鑑を纂輯するに際し仁祖以後
英祖までの尊攘事實を輯め肅廟寶鑑別編と合せ
て七卷を成せり其の後憲宗の時に至り趙寅永等
に命して正祖、純祖、文祖三朝の寶鑑を編せしめた
る際又此の三代の明に關する事實を記載して別

史部

編三卷を續成し前七卷と合し十卷と爲したるも
の即ち本書なり

○ 宣廟寶鑑

一〇卷五冊 肅宗命編 印本

圖書番號 一一〇八、一三八八、三〇二〇、三九三八

宣祖一代の寶鑑にして肅宗の時李端夏等に命し
て之を編成せしめ十年に至り完成す

李端夏字は季周、畏齋と號す德水の人にして澤堂
植の子なり仁祖乙丑に生れ顯宗壬寅進士となり
尋て登科し肅宗の初年大提學を拜し其の十二年
左議政に陞り己巳に歿す論して文忠と云ふ

○ 肅廟寶鑑

一五卷八冊 英祖命編 印本

圖書番號 一〇七二、一一六五、一九二五、四二二九、五

三九一、五三九二

肅宗一代の寶鑑にして英祖の時纂輯應を設け李
德壽等をして輯録せしめ六年に至り完成す内別
編一冊あり

李德壽字は仁老、西堂と號す全義の人なり肅宗の
時文科に登り文衡を典り官參判に至る文集あり
世に行はる

五七

○三朝寶鑑 四卷四冊 憲宗命編 印本

圖書番號 一三九〇

正祖純祖文祖三代の治世に於ける政令施措を彙纂成書せしものにして正祖は丙申より庚申に至り純祖は庚申より甲午に至り文祖は丁亥の聽政より庚寅に至る憲宗十四年戊申趙寅永等之を編纂す

○英祖紀事 九卷九冊 寫本

圖書番號 二八五六

英祖の即位初年甲辰より筆を起し在位五十二年間の學業德行及治績の梗概を總括して編年體に之を記述し附するに當時名臣の章疏講說等の國政に關する事實を摘載せり

○正祖紀事 三七卷一六冊 寫本

圖書番號 六六六九

正祖即位初年丙申三月より庚申六月昇遐の日に至る凡そ二十五年間の紀事にして當時の大小政事を編年的に記述せり

○爛抄 二四卷一二冊 尹致義編 寫本

圖書番號 七四七四

純祖庚申即位の初より甲午昇遐の日に至る三十五年間の朝報を謄録したるものなり

尹致義字は成汝錦帆と號す海平の人にして參判命烈の子なり正宗丁巳に生れ純祖丁亥文科に登り副提學を歴て李太王丙寅に歿す官吏曹判書に至る論して文獻と云ふ

○爛選 六卷六冊 尹定善編 寫本

圖書番號 五九九八

憲宗即位初年甲午より末年己酉に至る十六年間の朝報を抄録し羣臣の章疏を採録し紀年例に倣ひ爛抄に續けしものなり

尹定善字は景安吏曹判書致義の子なり純祖丙戌に生れ憲宗戊申文科に登り翰林を歴て李太王乙丑に歿す官吏曹參判に至れり

○憲宗朝紀事 六卷六冊 寫本

圖書番號 六三四一

憲宗即位の甲午より末年己酉に至る十六年間の事實を記したるものなり

○承政院日記

三〇四七冊 承政院編 寫本
圖書番號 二二七八

承政院は王命を掌る所にして承旨六人あり吏、戶、禮、兵、刑、工六房に分ち上下の政令事爲皆本院に依る本書は其の日記にして朝鮮開國の初より完備せしも宣祖壬辰兵燹に罹り其の前半を焼失し今存するは仁祖元年癸亥三月十二日より李太王三十二年甲午六月二十九日に至るまでの日記なり其の焼失せし部分は更に廳を設け補修して改修日記と稱す

○承宣院日記

四冊 承宣院編 寫本
圖書番號 二二七八九

李太王三十一年承政院を改めて承宣院と爲し都承宣、左右承宣等の諸官を置く本書は其の日記にして甲午七月初一日より同十月二十九日に至る即ち承政院日記に繼續すべきものなり

○宮内府日記

五冊 宮内府編 寫本
圖書番號 二二七九〇

史部

李太王三十一年承宣院を廢し其の事務を宮内府に移す本書は其の後の日記にして甲午十一月初一日より乙未三月三十日に至る即ち承宣院日記に繼續すべきものなり

○秘書監日記

八冊 秘書監編 寫本
圖書番號 二二七九一

李太王三十一年承宣院を廢し其の事務を宮内府に移し承政院より承宣院に至るまで續修したる日記を編成せしか三十二年に至り其の事務を分ちて更に秘書監を設け中丞一員左右丞各一員を置く本書は其の日記にして乙未四月初一日より同十月二十九日に至れり此の日記は承政院、承宣院及宮内府三所の日記を繼續したるものとす

○秘書院日記

一一五冊 秘書院編 寫本
圖書番號 二二七九二

李太王三十二年秘書監を秘書院と改め卿丞、郎等の官を置く本書は秘書院の日記にして乙未十一月初一日より光武九年乙巳二月三十日即ち陽曆四月四日に及へり秘書監日記に繼續すべきもの

五九

なり

○秘書監日記 三三冊 秘書監編 寫本

圖書番號 一二七九三

李太王光武九年秘書院を改めて又秘書監と稱す
本書は秘書監の日記にして光武九年乙巳三月初
一日即ち陽曆四月五日より李王隆熙元年丁未十
月二十五日即ち陽曆十一月三十日に及へり秘書
院日記に繼續すべきものなり

○奎章閣日記 三三冊 奎章閣編 寫本

圖書番號 一二七九四

李王隆熙元年秘書監を廢し其の事務を奎章閣に
移す本書は其の後の日記にして隆熙元年十二月
一日陰曆丁未十月二十一日より隆熙四年八月二
十九日陰曆庚戌七月二十五日に及へり秘書監日
記に繼續すべきものなり

○日省錄凡例 一冊 柳本藝著 寫本

圖書番號 六三三一

正祖即位の初日記を撰し之を日省錄と名く己亥
奎章閣を設け閣臣に命じて代撰せしめ檢書官毎

日草を出す純祖丁亥檢書官柳本藝日省錄に關す
る凡例を作り後人をして模襲し易からしめたる
もの即ち是なり

柳本藝號は樹園文化の人にして冷齋得恭の子な
り純祖朝仕に入り官縣監に止まる

○日省錄 二三二九冊 奎章閣編 寫本

圖書番號 自二八一一至二二八一七

英祖三十六年庚辰正祖世孫たりし時親ら言動學
問を日記し嗣位の後奎章閣を設け閣臣を以て之
を代編せしめ親ら筆削を爲し施政行事と共に記
録せしか後代之を繼續し李王隆熙四年に至る一
百五十年間に亘れり

紀事類

○世宗事實 一冊 寫本

圖書番號 九七六六

世宗の時に於ける重要な事實を摘録したるもの
にして就中世宗の儉德慈善に富み文武を督勵し
風教と國防とに注意したる事歴に關し進言及之

に對する教書等を併録す謹天災、省御膳、恤民隱、賑飢民、恤刑獄、御經筵、教導儲貳、興學校、勸宗學、崇儉德、却賀瑞、勤政事、謹終始、敦友愛、納諫諍、慎用人、警守令、勸農桑、戒飲酒、養耆老、救疾疫、重人命、禁柴場、賜喪需、罷營繕、戒私藏、謁聖廟、設科第、辨賢邪、決獄訟、褒節義、法祖宗、修軍政、嚴武備、恤軍卒、點軍器、築城堡、却進膳、教諭書等の目あり

○成宗事實

一冊

寫本

圖書番號

九七六七

成宗の時に於ける重要なる治績を摘録し其の盛徳を頌揚したるものにして勤聖學、監古事、謹終始、納諫諍、賞規諫、廣言路、謹天災、崇儉德、戒玩物、求賢才、辨賢邪、設科第、正風俗、立綱常、興學校、勸農桑、勤紡績、減御膳、恤民隱、決獄訟、戒濫刑、飭守令、禁橫斂、抑偏私、用武臣、擇將帥、勉儒將、恤軍卒、掩棄齒、慰將士、點軍器、捕盜賊、慰使臣、賀雨澤、宴宰臣、敬大臣、養耆老、念戍卒、勉館儒等の目あり

○莊陵誌

四卷二冊

權和編
朴慶餘編

印本

圖書番號

三六五三、三六八三

史部

本書は初め魯陵誌と稱し尹舜舉の編纂したるもの二卷あり之を舊誌と爲す朴彭年九代の孫朴慶餘安東の權和と共に續誌二卷を増補し莊陵誌と改題す舊誌は世宗辛酉より起り孝宗癸巳に終り續誌は顯宗壬寅より起り英祖十六年甲申に至る而して舊誌に載する所は事實墳墓、祠廟、祭祀、題記、附録等にして續誌には復位、封陵、題記、六臣復官、建祠祭文等を載す莊陵は端宗の陵にして江原道寧越に在り

○莊陵史補

九卷三冊

正祖命編

印本

圖書番號

三六八四

正祖二十年丙辰李書九等に命して編纂せしめたるものなり尹舜舉の魯陵志、權和の莊陵誌は皆其の私撰に係り不備を免れざるを以て本書は實錄を主とし博く諸書を參照し務めて謹嚴を加へ凡例の如きは悉く審裁を仰きたるものなり李書九字は洛瑞蓋山と號す別に席帽山人と稱す全州の人正言遠の子なり英祖甲戌に生れ甲午文科に登り官右議政に至り純祖乙酉に歿す諡を文

簡と云ふ弱冠より詩を以て名あり清人皆之を獎評す

○ 莊陵配食錄 二卷一冊 正祖命編 寫本

圖書番號 五四八九

世祖受禪の際端宗に忠節を盡したる諸臣に對し正祖辛亥の年に至り追念の感を起し端宗莊陵の傍に壇を設け正壇には三十二人別壇には二百三十六人を追祭し以て配食せしむ此の書は即ち其の人名録なり

○ 溫陵志 一冊 金光泰編 寫本

圖書番號 三三七

英祖十五年己未中宗の廢妃愼氏を復位し端敬と諡し墓を溫陵と稱す同二十年甲子參奉金光泰其の廢位及復位に關する前後の事實と陵を設始したる節次及儀文を哀集し之を編成せり

○ 西征錄 一冊 李純之編 印本

圖書番號 四三七一

世宗の時西北境婆猪人鴨綠江を越えて邊境を犯し廷議黃喜等をして急を明國に告げ之を討平す

本書は其の事實を記したるものにして中宗十一年咸鏡道觀察使尹金孫之を世に公にす

李純之は世宗の時の人なり官判中樞院事に至る

○ 再造藩邦志 四卷四冊 申晁撰 印本

圖書番號 四四九四

宣祖十年丁丑より丁未に至るの間朝鮮か明の救援を受けたる事實を哀輯したるものにして海東逋民と自稱する申晁の撰する所なり仁祖二十七年己丑に成り肅宗十九年癸酉其の子以華榮川郡に於て刊行す

申晁字は用晦華隱と號す平山の人東陽尉翊聖の子にして宣祖の外孫なり華赫の地に處り雋爽の才を抱き仁祖丙子後科擧を廢し進士を以て終る

○ 懲毖錄 一六卷七冊 柳成龍著 印本

圖書番號 三二七七、三六一三、三九〇二、四七八四、四

八八四、一一七二六

宣祖壬辰の役に際し柳成龍相位に居り國家の重任を負ふて親しく戰苦を嘗め役後閑居して其の實歷を手記したるもの即ち此の書なり懲毖とは

詩經の懲りて後患を恐しむの語に取りたるものにして壬辰より戊戌に至る約七年間の記事なり即ち第一二卷には戦役の起因及戦況を叙し第三卷以下第七卷に至るを芹曝集とし第八卷より第十四卷までを辰巳録とし第十五卷は軍門謄録と爲し狀啓疏、簡文移等を載せ最後の一卷には當時の事實を附記せり

柳成龍字は而見、西涯と號す豊山の人立巖仲郢の子なり中宗壬寅に生れ明宗甲子生員進士に中り丙寅文科に登りて史局に入り選れて湖堂に入り文衡を典り光國扈聖の兩勳を録し豊原府院君に封せられ官領議政に至り廉謹吏に選せられ宣祖丁未に歿す諡を文忠と云ふ

○抗義新編

四卷二冊 安邦俊編 印本

圖書番號 一五三六

重峯趙憲の封事にして請絶倭使封事、請斬倭使封事等の諸文を載せ卷首に躬耕養親圖以下八圖を掲げて其の意のある所を明にせり安邦俊追慕の餘序跋を附して之を世に公にしたるものなり

安邦俊字は士彦、牛山、隱峰、氷壺の號あり竹山の人宣祖癸酉に生れ少時竹川朴光前、蘭溪朴宗挺に學ひ十五歳の時李大源傳を著す戊子郷舉に赴き紛擾喧聒の狀を見るや心甚た之を恥ち遂に意を科舉に絶つ是より専ら心を性理の學に潜め辛卯坡山に往き牛溪成渾に贄禮し身を講學に委ね孝宗甲子に歿す諡して文康と云ふ

○奮忠紓難錄

二卷二冊 釋南鵬編 印本

圖書番號 三四二〇

宣祖二十五年壬辰に於ける松雲大師釋惟政の日記を蒐集し其の下に芝峰類說、於于野談等の書を參互引用し諸名士の挽詩贊詞を附録とせり法孫南鵬之を編し申維翰之を増刪し英祖十五年己未密陽表忠祠に於て開刊す

釋惟政字は離幻、四溟堂又松雲と稱す俗姓は任氏豊川の人樂正孝昆の曾孫なり中宗甲辰に生れ十三歳の時黃嶽山に投して剃髮し明宗辛酉十八歳にして禪科に中り嘗て朴思菴、李鵝溪、高霽峯、崔嘉運、許美淑、林子順、李益之等と酬唱往來し詩名漸く

詞林に傳はりしか翻然悟る所あり宣祖乙亥妙香山に入り清虛大師に従ひ益禪を窮め遂に妙諦を得たり壬辰の役起るや師清虛の旨を承けて大衆を統へ各地に轉戰して功あり尋て丁酉國使を奉して日本に渡り使命を全うして還る是に於て功を論し官知中樞府事を授けられ且禪號四溟大師を賜ふ光海君庚戌に寂す私諡して慈適弘濟尊者と云ふ

○壬辰筆錄

一冊

寫本

圖書番號 一〇三九

宣祖二十五年明の兵部右侍郎右僉都御史宋應昌以下二十七人及提督李如松以下四十餘人の畫策防禦に關する事蹟を各人に就き記述したるものなり

○日本往還日記

一冊 黃慎著 寫本

圖書番號 七〇一九

宣祖二十九年丙申著者通信使を以て日本に赴きし際其の往來行宿の日記と使事交接の狀況及山川風俗の聞見とを記録したるものなり

黃慎字は思叔秋浦は其の號なり昌原の人莊武公衡の曾孫にして牛溪成渾の門人なり明宗壬戌に生れ宣祖戊子文科に登り光海君丁巳に歿す官戸曹判書に至る諡して文敏とす

○海行錄

二冊

寫本

圖書番號 九八八八

宣祖三十八年乙巳より丁未に互りて日本と講和の時對馬平義智と往復の書狀及使臣の往來並に宮廷會議の次第等を編録したるものなり

○龍灣聞見錄

一冊 鄭琢著 寫本

圖書番號 四一七一、四八八一

宣祖二十五年壬辰著者か宣祖の義州遷移に扈從せし當時の見聞記にして明將の來往を迎送したる事畧と交換したる文書言辭其の他明に關する事項等を具載し宣祖の覽に供したるものなり
鄭琢字は子精藥圃と號す清州の人縣監元老の曾孫なり中宗丙戌に生れ明宗壬子生員に中り戊午文科に登り宣祖壬辰義州に扈從せるを以て扈聖勳に策し西原府院君に封せられ官左議政に至り

乙巳に歿す論して貞簡と云ふ嘗て退溪李滉の門に遊ぶ東臯李浚慶一見して深く之を器とす壬辰の際郭再祐李舜臣、金徳齡等を薦む

○ 倡義錄

二卷一冊

印本

圖書番號 一七一五、三九八二

宣祖二十五年壬辰の時に於ける南原の人青溪梁大樸倡義の事蹟を録したるものにして上篇は其の事蹟を録し下篇は狀傳等を録し卷尾に諸人の書札を附す

○ 唐山義烈錄

一冊 李萬秋編 印本

圖書番號 七七七六

宣祖二十五年壬辰の役中和一名唐山人尹鵬萬戶車般軫般輅兄弟士人金進壽等の戰に赴きたる事實及道伯の狀啓、禮曹の回啓、義烈碑文等を編したるものなり

○ 西征錄

一冊 金起宗編 印本

圖書番號 三四九二

仁祖十四年甲子平安兵使李适兵を擧げて叛し都元帥張晩等之を討平したる事實を編輯したるも

のなり

金起宗字は仲胤、聽荷と號す江陵の人判書順命の從子なり宣祖乙酉に生れ光海君戊午文魁に登り振武功臣に策し瀛海君に封せられ仁祖乙亥に歿す官戸曹判書に至る

○ 陽九記事

四卷四冊

寫本

圖書番號 二五〇九

仁祖十四年丙子清と講和したる顛末を録したるものにして丙子以前清人來往して豊を造りたるに發端し明の滅ふるに至るまでを記せり

○ 丁卯兩湖舉義錄

二卷一冊 印本

圖書番號 四八一七、四八二八、五六〇四

仁祖五年清軍入寇し王江都に播遷せし時沙溪金長生號召使として檄を各郡に傳へ義軍を募集し奮戰苦闘したる事實を叙したるものなり清軍入寇記事、教文、狀啓、檄文、差帖、報狀、關文、號召使以下二十餘名の義士畧傳等あり七代の孫金憲の序跋を附す

○ 丙子湖南倡義錄

五卷二冊 湖南儒林編 印本

圖書番號 四一〇二、四一九二

仁祖十四年丙子清軍京城を侵し王南漢に避るる時縣監李興持等五人勤王の志を立て湖南の曹守誠等と礪山に會し大司諫鄭弘溟を大將に推して清州に至りしも仁祖の出城を聞き痛哭して歸れり此の書は即ち湖南諸儒相謀りて諸士の事歴を列記したるものにして舊本は英祖四十六年庚寅金元行の序を載せ本書は哲宗九年戊午補修重刊したるものに係る第一卷には倡義事蹟、教文、通文、列邑報牒、召募使事實、五賢事實第二卷には從事事實、第三卷には列邑都有司諸公事實、第四卷には列邑赴義諸公事實、和順舉義通文及諸公事實、第五卷には羅州舉義通文及舉義諸公事實、和順舉義時日記等を記載す

○ 少爲浦倡義錄

二冊 金良器等編 寫本

圖書番號 六五九六

參議金佑か宣祖壬辰義を倡へ仁祖丁卯復義を倡へ子得汗等四人と與に兵を募り龍川少爲浦に於

て勳を樹てたる事蹟を英祖己卯其の五代の孫重器之を録し六代の孫履兢等又之を綴録したるものなり

○ 南漢日記

四卷四冊 石之珩著 寫本

圖書番號 九九八、四三五一

仁祖十四年丙子清軍南漢を侵せし當時の日記にして久しく世に顯はれさりしか英祖二十九年留守李箕鎮一本を得て其の事實の誤なきを認め照寫して世に傳へたるもの即ち是なり卷末扈從錄に領議政金瑬以下數百名の姓名を附記せり石之珩字は叔珍、壽峴と號す花園の人にして部將擊廈の子なり光海君庚戌に生れ仁祖癸酉生員に中り甲戌文科に登り官工曹佐郎に至る詩名あり

○ 江都日記

一冊 魚漢明著 寫本

圖書番號 二四〇〇

仁祖丙子の亂清兵京城に遁るや鳳林大君孝宗及麟坪大君亂を江華に避け甲申津に至る著者は京畿左道水運判官を以て其の地に在り力を盡して保護渡涉せしむ本書は即ち其の日記にして書末

に農巖金昌協、遂庵權尙夏の跋文を附す

魚漢明字は汝亮、咸從の人にして、教官魚夢麟の子なり。宣祖壬辰に生れ、光海君戊午生員に中り、仕を以て官判官に止り、仁祖戊子に歿す。孝宗即位の後、江都護涉の忠を思ひ、屢其の姓名を問ふも對ふる者なし。純祖の時、其の忠を表して、忠景と諡せり。

○辛巳西行事件

一冊

寫本

圖書番號

九八九一

仁祖十五年、清と和を講し、昭顯世子、嬪宮、鳳林大君（孝宗）及夫人を瀋陽に質とす。八月、康熙帝に從ひ、瀋陽を發して、松山に抵る。往復十餘日、留宿二十二日間の日記にして、當時の情況、歴々見るへし。

○南征日録

四卷二冊

印本

圖書番號

四八〇七

英祖四年、李麟佐、鄭希亮、南泰微、朴弼夢等内外相應し、亂を作す。時に崔奎瑞變を宮廷に告げ、吳命恒を以て都元帥に、朴文秀、趙顯命等を從事官と爲し、京兵を率ひて南下し、賊を安城、竹山等に破り、餘黨悉く誅に伏す。鎮定の後、命恒を奮武功臣一等に録せ

史部

り。本書は乃ち政院日記、勘亂錄、趙豐原日録、軍官申雲燾、權喜學の記事、其の他の諸錄を参照して、當時の事實を編纂したるものなり。

○戊申倡義事實

一冊

寫本

圖書番號

九七三九

英祖六年、慶尙道の亂賊故監司李雲微の孫麟佐自ら大元帥と稱し、左尹申慶齊の孫天永を兵使と爲し、權在鳳を營將と爲し、大衆を擁して、清州に入り、兵使李鳳祥、營將南延年等を殺害し、竹山、安城を畧取し、鄭希亮、安陰より兵を起し、相應せり。當時大司成朴師洙を安撫使兼安東鎮節制使に、應教趙德鄰を號召使兼安撫使に拜し、共に嶺南七十州の義兵を募集して、之を剿討せり。本書は其の檄文及義軍の規約、兵器糧食等に關する緊要の事項を輯録したるものなり。

○永陽四難倡義錄

一冊

印本

圖書番號

五六六一、五六六六

宣祖壬辰、鄭世雅義を倡へ、仁祖丁卯の胡亂には孫溘衆を率ひ、義を倡へ、丙子南漢被圍の難には鄭世

六七

雅の孫鄭好仁衆を帥ひ義を挙げ英祖戊申の難には鄭好仁の曾孫鄭葵陽衆と誓ひて義を倡ふ以上四次の義舉に付其の偉蹟を追懷し永川の儒林に於て之を編録し純祖二十二年壬午刊行せり

○ 混定編録

一八卷一〇冊 安邦俊撰 寫本

圖書番號 一一四七〇

宣祖の八年乙亥より孝宗の元年庚寅に至るまで東西分黨の是非概要に付き兩邊の文字を掇拾して編録したるものなり前集八卷後集四卷別集二卷續集四卷とす

○ 癸未摺紳風雨錄

二卷二冊 寫本

圖書番號 九八七〇

宣祖二十六年癸未東西黨の角起したる際栗谷李珣か彈劾に遭ひたる始終を録したるものなり

○ 甲乙錄

五卷五冊 寫本

圖書番號 六八九三、七六八六

肅宗十年甲子及十一年乙丑兩年に渉る黨争の學問上に波及し殊に甚しきは師友の間と雖尙軋轢

し互に讒誣排斥するに至れる事蹟を記載したるものにして宋時烈と尹宣舉の事尹鏞の事禍銘の事李惟泰の事等より甲乙公私の案に至るまで諸家の往復文書及壬寅以後の記事を録せり當時黨争の状を知るに足る

○ 俟百錄

三冊 閔鎮綱編 寫本

圖書番號 六七七九

本書は宋時烈尹拯の是非に對して關係せし文字を編輯したるものにして尹鏞の事を始め前後争辨せし往復書推上せし疏章等一切を謄草記載せしものにして百世の公議を俟つ意を以て書名と作す

閔鎮綱は驪州の人立岩齊仁六世の孫なり愛日堂と號す英祖の時蔭仕を以て府使に至る

○ 魯懷錄

六卷二冊 李廷傑編 寫本

圖書番號 五四四五

尤菴宋時烈と明齋尹拯とは素と師弟の誼あるも後に仇隙を成せり今其の縁起曲折を明にするため兩家の往復書札他人の分解文字門人の扶抑疏

札等を次第し詳録したるものなり篇を分ちて六と爲す曰く江都篇曰く驪尹篇曰く交際篇曰く禍文篇曰く擬書篇曰く師弟篇是なり肅宗十六年庚午の後明齊の門人李廷傑之を編撰す明齊は魯城に居り尤菴は懷徳に居りしを以て魯懷録と云ふ李廷傑字は秀甫號は柏坡全州の人忠憲公齋杜の孫なり顯宗丙午に生れ肅宗壬辰文科に登り官參判に至り英祖の時歿す

○懷尼本末

一冊

寫本

圖書番號

七四七

本書は宋時烈と尹拯か老少分黨に關する事由を互に相辨論したる文字と宋尹兩門門徒の書牘院儒の通文並に奏御疏章とを蒐録し首尾を詳悉したるものなり時烈の住地は懷徳郡に在り拯の住地は尼城郡に在り故に懷尼本末と題せしなり

○辛壬紀年提要

一五卷七冊

具駿遠編

寫本

圖書番號

三四二

本書は景宗元年辛丑二年壬寅の際老少論黨派の

史部

爭端に關する文字及事實を記載したるものにして金在魯の爛餘李緯の初從説を折衷し且群書を旁搜し闕遺を補へり原編九卷續編四卷補編二卷なり

具駿遠字は維文綾城の人贊成思孟七世の孫なり英祖乙亥に生れ正祖丙午進士に中り蔭仕を以て官主簿に至り純祖甲戌に歿す

○隨事備錄

一〇冊

寫本

圖書番號

一三九四

承政院日記中より肅宗四十六年庚子六月以降景宗二年壬寅六月に至る三年間に互る黨論の事蹟を抄録し其の他公私の文字日記等を合編せり

○先庚後甲錄

一一卷一一冊

寫本

圖書番號

五七四

景宗の即位庚子より英祖の十四年戊午に至る老少論の相互攻撃せし概要と疏章並に諸家に抄藏せし書籍等を引拾して編録したるものなり

○隨聞錄

三卷三冊

李聞政著

寫本

圖書番號

三六四五、四二六四、四三七八

六九

景宗元年辛丑英祖封冊の事に關し老少論の黨争起りし事實を隨録したるものにして農叟隨聞錄とも稱す農叟は著者の號なり其の遺稿を卷尾に附す

李聞政字は君弼農叟と號す全州の人監察九成の子なり官副護軍に至り諡を貞簡と云ふ

○ 我我錄

四卷四冊 南紀濟著 寫本

圖書番號 七七七

一に龍門問答と云ふ宣祖二十二年己丑より景宗元年辛丑に互り東西老少四色の黨禍に關する顛末を問答體を以て叙述し且壬辰事略丙子事略等を併記せり我我錄とは知我者其惟春秋乎罪我者其惟春秋乎の語を採り龍門問答とは楊平郡龍門山雪菴僧舍に於ての問答なるを以てなり

南紀濟字は仁叟雪下居士と號す宜寧の人玄谷老星五世の孫なり英祖の時司馬に中る

○ 桐巢漫錄

二卷二冊 南夏正著 寫本

圖書番號 四五五

歷代の逸事を隨聞隨録せしものにして其の黨論

等に至りては自己の意見を以て批評せり朴思正之を改削成編す
南夏正字は時伯桐巢と號す宜寧の人なり肅宗戊午に生れ甲午進士に登る

○ 闡義昭鑑

四卷三冊 英祖命編 印本

圖書番號 二七七、一五四五、一八六三、三二四、三

七八九

英祖三十一年和臣金在魯等に命し景宗辛丑以後戊申庚戌戊辰等の禍亂と乙亥獄事に至るまでの事實を編纂し建儲の義を闡明し後世に昭示したるものなり

○ 闡義昭鑑諺解

四卷四冊 英祖命撰 印本

圖書番號 一〇八〇、二二八、二二九、三三三、五

四三七

闡義昭鑑に諺文を以て解釋を附し一般に之を知悉せしむるの意に出でたるものなり

○ 勘亂錄

六卷四冊 英祖命編 印本

圖書番號 一七八五、一七八六、四七二八、五一五〇、五

五〇三

英祖か宋寅明、朴師洙等に命し撰せしめたるものにして朋黨相争に因り睦虎龍兄弟及金一鏡等陰に相結黨したるに偶黨中誅に遭ふ者あり遂に憤起して變亂を起すに至れる顛末を詳記し以て朋黨援引の弊毒を戒飭したるものなり

宋寅明字は聖賓、藏密軒と號す礪山の人なり肅宗己亥文科に登り檢閲を経て英祖己未右相に拜し左議政に至り忠憲と諡す

朴師洙字は景魯、耐軒と號す潘南の人、大司憲、朴明の子なり、景宗癸卯文科に登り官提學を歴て吏曹判書に至る

○ 奉教嚴辨錄

一冊 英祖命編 印本

圖書番號 一〇七八、三九一九、三九九五、四三九九

英祖三十八年壬午相臣趙載浩等流言して禍を醸せしより之を極律に處したる後相臣申晩等に命して其の事實を編纂せしめ名けて奉教嚴辨錄と稱し十斷の義を示し後を警めたり

○ 御製表義錄

一冊 英祖撰 印本

圖書番號 二四三一、三四七〇

史部

英祖四十年甲申莊祖の生母暎嬪李氏の没後宗國のために大義を守りたることを追念し之を表示するため親ら撰したるものなり

○ 明義錄

三卷二冊 正祖命編 印本

圖書番號 一三三八、一八七三、二八八一、三二七六、三

三〇五、七九一三

正祖丙申洪麟漢、鄭厚謙等か世孫代理を沮戯せしを以て廷臣之を誅討したる事を録したるものなり、繪音俱に載せ丁酉の春相臣金致仁等奉教纂輯す

金致仁字は公恕、古亭と號す清風の人なり在魯の子にして丁卯生員となり戊辰文科に壯元たり副提學となり乙酉右相を拜し領議政に至る致仕して耆社に入り庚戌に歿す憲肅と諡す

○ 續明義錄

一卷一冊 正祖命編 印本

圖書番號 一三二七、一八六二、三五〇四、三九三六

明義錄の續編なり正祖丁酉七月辛卯より戊戌二月壬子に至る紀事にして金致仁等命を受け編成す別に諺文の譯書あり

○ 續明義錄諺解

一冊 正祖命編 印本

圖書番號 一三二六、一九二七

正祖二年戊戌金致仁等に命し編纂せしめたる續明義錄を諺文を以て譯し以て刊行したるものなり

○ 玄臯記

四卷二冊 朴宗謙編 寫本

圖書番號 七八〇一

原編及續編に分ち原編は朴宗謙の編せしものなるも續編の編者は詳ならず而して原編は英祖三十八年壬午に於ける莊祖の禍事を記したる玄駒記事にして續編には正祖の丙申以後莊祖に關したる事實哲宗乙卯の儒疏及李太王の己亥追崇の事實等を録し又時派辟派の黨争本末等を附せり朴宗謙字は君實初名は相温潘南の人にして持平師順の孫なり英祖甲子に生れ正祖乙巳文科に登り官正言に止まり己未に歿す

○ 玄駒記事

一冊 朴宗謙編 寫本

圖書番號 一六六九

英祖三十八年壬午莊祖東宮に在りて薨逝せられ

たる事實の諸書に見はれたるを蒐集せしものにして卷末には其の時の注書李光鉉の小記を附せり

○ 泣血錄

一冊 惠慶宮撰 寫本

圖書番號 二六六八

莊祖の後洪氏惠慶宮に在りし時王家の不詳と私家の禍患とに就き身親ら遭罹の極りなき事を諺文にて歴述し之を漢文に翻譯せしものなり

○ 追感皇恩編

二卷二冊 英祖編 印本

圖書番號 九九二〇、九九二一、九九二二

太祖開國壬申より起り仁祖十一年癸酉に至る間明より贈りたる祭文、誥、勅等を聚輯編次し誌狀及禮部の咨文を附し芸閣活字を以て印出したるものにして編成は英祖四十五年己丑に在り

○ 尊周彙編

二〇卷七冊 正祖命編 寫本

圖書番號 三二五八、三二五九、四三六一、四六九七、五

一五一、五五二、五七七六

正祖二十四年庚申の春明末毅宗の靈を祭り歴代志士、丙子諸臣、斥和殉節者等の精忠大節を追念し

兵曹參議李義駿等に命して本書を編次せしめ前
參判李書九等更に潤飾を加ふ其の載する所皇朝
記年、本國記年、皇壇志、皇壇年表及諸臣事實等なり
李義駿字は仲命全州の人なり英祖戊午に生れ文
章贍博にして三十六歲癸巳文科に登り玉署銀臺
を経て正祖の時黃海監司に除せられ歿す

○ 白沙北遷日録

一冊 鄭忠信著 印本

圖書番號 四五六七

光海君十年戊午母后仁穆大妃を廢せんとして庭
議を徵したる際白沙李恒福元老大臣を以て忠言
を陳し倫紀を扶けんとし旨に忤ひ北青に竄せら
る時に錦南君鄭忠信恒福に隨行し終始の事實を
日記し恒福の曾孫養窩世龜校正を加へ北青府使
鄭來祥威鏡監司李秀彥等力を協せて開刊す卷尾
に恒福か廢母諫諍の獻議手草を板刻と爲し附載
せり

鄭忠信字は可行、晚雲は其の號にして羅州の人縣
令荐の曾孫なり宣祖乙亥に生れ壬辰義州に於て
武科に登り官副元帥に至り振武功臣に策し錦南

史部

君に封せられ仁祖丙子に歿す諡を忠武と云ふ

○ 辛卯重光錄

一冊 英祖命編 印本

圖書番號 三一九六、三五二九

清人朱璣の撰する所の明紀輯略中朝鮮太祖の宗
系と仁祖の事を誣載せしを以て英祖四十七年辛
卯金尙喆等を遣し誣を弔して正さんことを請ひ
準許を得たる顛末を録せり初め宣祖の時辨誣の
顛末を記したる光國志慶錄あり故に之を重光錄
と名く芸閣に命して活字印行せしむ

○ 丁未傳信錄

一冊 寫本

圖書番號 四三三九

顯宗八年支那福建泉州の人林寅觀、陳得、曾勝、鄭禧
以下總數九十五名通商のため日本に航行中風浪
に遇ひ濟州に漂著せしを以て支那禮部に通報し
たる後都總府の經歷李相助、譯官李承謙をして護
送して國境を出てしめたる事實を記し附するに
二十餘年前孝宗に伴ひ來りし漢人黃功等との問
答書及當時名家の關係書札を以てし備に其の情
況を記述せり其の成りしは英祖五十一年乙未な

七三

○辛巳辨誣始末

一冊

寫本

圖書番號 五九三三

純祖二十一年辛巳尹命烈が清國増修の文獻通考中に於て景宗英祖の王位授受の當時金昌集李頤命李健命趙泰采の四臣反逆を謀り事覺はれ誅に伏したる記事あるを見て上疏し遂に廟議に問ひ清國に對し辨誣し記事の削除を請ふことに決し進賀謝恩兼陳奏正使李好敏等を遣して目的を達したる始末を詳記したるものなり

○東廟迎接錄

一冊

金昌熙編

寫本

圖書番號 一三〇五四

李太王十九年壬午清國提督吳長慶辦理軍務袁世凱の駐紮せし時金昌熙を迎接官と定めて交渉す壬午七月二十三日より八月二十九日に至る互相の筆談日記なり

金昌熙字は壽敬石菱と號す慶州の人石世鼎集の子なり憲宗甲辰に生れ哲宗辛酉に蔭仕を以て明陵參奉を授けられ李太王甲子文科に登り典翰を

歷て官工曹判書に至り庚寅歿す諡を文憲と云ふ昌熙専ら古文辭を修め又吏治に嫻ふと云ふ

○眉巖日記抄錄

四卷四冊

柳希春著 寫本

圖書番號 四四五四

宣祖丁卯より丁丑に至る十一年の間に於ける公私の事實を略記したるものにして參考の資となるべきもの多し

柳希春字は仁仲眉巖と號す善山の人懶齋成春の弟なり中宗癸酉に生れ戊戌生員に中り文科に登り選れて湖堂に入り官副提學に止り宣祖丁丑に歿す特に贊成を贈り諡を文節と云ふ

○睡翁日記

二卷二冊

宋甲祚著 印本

圖書番號 五一四一、五一四二

仁祖二年より六年に至る間の日記にして附するに詩文行狀墓誌等を以てす五代の孫宋龜相の編次に係り金鍾秀宋煥箕等之を校正し宋煥學資を投して上木せり

宋甲祚字は元裕睡翁と號す恩津の人にして尤菴時烈の父なり宣祖甲戌に生れ光海君丁巳進士に

中り官奉事に止り仁祖戊辰に歿す子時烈の貴き
に迫ひ領議政を贈られ諡を景獻と云ふ

○ 默齋記聞錄 四卷四冊 申命圭著 寫本

圖書番號 四七二四

仁祖十四年丙子より肅宗十九年癸酉に至る兵亂
政爭等を輯録せるものなり

申命圭字は元瑞默齋と號す平山の人恩休窩均の
子なり光海君戊午に生れ顯宗壬寅咸興判官を以
て文科に登り官司諫に止り肅宗戊辰に歿す嘗て
直諫を以て名あり尤菴宋時烈を救はんとして竄
せられ終に振はず

○ 閑居漫錄 二卷二冊 鄭載崙著 寫本

圖書番號 四〇三四

孝宗顯宗兩代に亘る諸種の事項を摘記したる隨
筆にして族弟鄭行源之を編次す

鄭載崙字は秀遠竹軒と號す東萊の人陽坡太和の
子にして出てて仲父基洲致和の後を繼ぐ仁祖戊
子に生れ孝宗戊戌孝宗の女淑靜公主に尙して東
平尉に封せられ景宗癸卯に歿す諡を翼孝と云ふ

陽坡基洲兄弟は仁祖、孝宗、顯宗三代に歷仕し専ら
相府に居れり載崙は孝宗の愛婿にして禁衛の寵
あるも毫も父兄の勢を藉ることなく平生謹慎身
を持し世皆賢駙馬と稱す

○ 藥坡漫錄

九四卷六〇冊 李希齡著 寫本

圖書番號 二〇四

國史野乘より歴代の事實を隨録せしものにして
著者の孫漢宗之を編輯す第一卷は羅麗より始ま
り山川の來派歴代の疆域を論述し第二卷は高麗
統合の事實を略記し海東名臣の小傳を附し第三
卷は李氏朝鮮の疆域を論述し曙源世譜を附し第三
四卷以下は太祖より英祖に至る歴代の政談及名
臣の小傳を采輯せり而して景宗及英祖の兩代は
漢宗之を續輯し英祖甲申編成を終れり
李希齡字は壽而號は藥坡全州の人寧大君浦の孫
なり肅宗丁丑に生れ英祖の時文科に魁選せしを
以て特に命して試券に拔去せられたるも遂に科
宦を辭し専ら著述に力め丙申に歿す學識膽富な

るも八十尙は布衣を以て終る一世の人之を惜む

○ 楓巖輯話 七卷七冊 柳光翼編 寫本

圖書番號 二九六七

諸書に雜出したる海東事蹟を蒐輯し世次を以て編したるものなり地方國都の紀畧檀箕以降高麗に至る諸論辨及太祖より肅宗に至る重大事實並に記聞等を分目編次せり

柳光翼楓岩と號す全州の人恐窩灣の從孫なり英祖の時蔭仕を以て官翊衛に至る

○ 修書雜誌 七卷七冊 李宜哲編 寫本

圖書番號 五〇一〇

英祖二十六年庚午より正祖二年戊戌に至る傳旨及疏箭の中參考に資すべきものを寫録したるものなり

李宜哲字は原明、文菴と號す龍仁の人雙谷士慶の玄孫なり肅宗癸未に生れ英祖戊辰文科に登り翰林提學を歴て正祖戊戌に歿す官吏曹參判に至る

○ 通塞撮要 四卷二冊 寫本

圖書番號 六七八六

太宗十三年庶孽子孫は顯職に叙すること勿れとの敎命を發し庶孽は仕路を梗塞せられ試に赴き擧に應ずることを得ず本書録する所は門地を開き仕路を通ずる傳教、疏箭、收議、問答等を撮録したるものなり

○ 葵史 二卷二冊 印本

圖書番號 四六四一、二〇八七

朝鮮の國制庶子に清宜を許さす仍て宣祖の批、葵輩向日不擇旁技、人臣願忠豈必正嫡云云に基き題名を擇ひ歷代庶孽の事實及章奏等を採輯して一書と爲し考覽に便にす卷末に葵史賢人録と題し高麗の鄭文培より李德懋等六十餘名の略傳を附記せり哲宗九年大邱諸儒の協力設立せし達西精舍に於て編成せしものなり

別史類

○ 東國史略 六卷二冊 太宗命撰 印本

圖書番號 二八七五、三四四六、三六三二、七八三三

本書は太宗の時權近、李詹、河崙等命旨を承け撰輯したるものなり。第一卷は檀君、箕子、衛滿の朝鮮、四郡、三府、三韓、新羅、高句麗、百濟記。第二卷は新羅記。第三、四、五、六卷は高麗記とせり。

李詹字は少叔、雙梅堂と號す。洪州新平の人なり。高麗恭愍王の時、親試文科に擢てられ、獻納となり。恭讓王の時、右代言を経て知申事に除せられたるも之を謝し、朝鮮に仕へて知議政府事となる。文安と諡す。

河崙字は大臨、洗亭と號す。晋州の人なり。高麗の時、文科に及第し、朝鮮に仕へ、定社、佐命功臣。晋山府院君となり。官左議政に至る。丙申、北關に使して歿す。文忠と諡す。

○海東釋史

七一卷二六冊 韓致齋著 寫本

圖書番號 七九三一

支那及日本の史乘中より朝鮮に關する記事を採取し、門を分ちて編成したるものにして、檀君より高麗までを世紀と爲し、諸小國は之に附せり。星曆

史部

禮樂、兵刑、食貨、物産、風俗、宮室、官氏、釋、交聘、藝文並に志、人物考、日本考及肅愼氏考等にして、往往著者の姪、鎮書の附記あり。引用書の多きこと五百五十部に及へり。

韓致齋字は大淵、清州の人。獻納、德良の孫なり。英祖乙酉に生れ、正祖の己酉進士に中る。

○東史補遺 四卷二冊 趙挺著 印本

圖書番號 一七三三、一七三四、四一三一

吉州の牧使趙有道の父趙挺常に東史の不備を憂ひ、消閑の一助として、上古檀君以降、歷代の事實を抄録し、其の闕漏を補ひ、東史補遺と名け之を篋笥に藏すること多年。仁祖二十四年丙戌の冬、有道之を刊行して世に公にせしものなり。

趙挺字は汝豪、漢叟と號す。楊州の人なり。宣祖壬午進士となり。癸未文科に登り、史局に入り。丙戌重試に中る。光海君己未右議政に拜せられ、癸亥靖社の際、官職を剝奪して、竄せられ、尙は屢逆臣の事に坐し、遠地に配せられ、後復官して、耆社に入る。子有道字は則見、宣祖乙酉に生れ、光海君庚戌生員を以て

七七

文科に中り官承旨に至る孝宗己亥に歿す光海君の時其の名官となりしを以て仁祖戊辰に宣せられ後復叙用せらる

○ 東史纂要 八卷八冊 吳澐編 印本

圖書番號 一五七八

新羅始祖甲子より高麗恭讓壬申に至る一千四百四十九年間の事蹟を東國通鑑、三國史記、高麗史等に據り節約以て纂成したるものなり
吳澐字は大源、竹窟と號す高敞の人退溪李滉の門人なり中宗庚子に生れ明宗丙寅文科に登り光海君丁巳に歿す官府尹に至る

○ 彙纂麗史

四八卷二二冊 洪汝河著 印本

圖書番號 自三二〇八至三二一七、三三七六

朝鮮の人士好んで支那の國史を説くも自國の史に至りては却て之を知らざる者多きを憂ひ舊史に就き其の闕を補ひたるものにして歿後凡そ一百年の後嶺南の人士相謀り之を刊行す

○ 興王肇乘 四卷二冊 洪良浩編 寫本

圖書番號 一六六三

朝鮮開國の起因を詳にするため高麗廢王禍以降の梗概を記述し就中咸鏡道は王蹟顯著の地なりとし之を博採詳討し歷代の贊記並に諸臣の叙述歌頌等を網羅したる外稗史野乘の信を置くに足るものは小註と爲して之を附記せり

洪良浩初の名は良漢字は漢師、耳溪と號す豊山人芸窩重聖の孫なり景宗甲辰に生れ英祖壬申生員及文科に中り史局に入り俊試に登り文衡を典り官判義禁府事に至り純祖壬戌に歿し文獻と諡す少時其の内舅樗村沈鎔に業を受け文名一世に振ふ正祖の時使命を以て清に往く時に禮部尙書曉嵐紀旬は一代の文柄を執りたる者なり耳溪の詩文を見て序二篇を撰し推許すること甚た至れり是より文名四方に傳播す

○ 龍興聖蹟

一冊 寫本

圖書番號 一七九〇

朝鮮太祖龍興の所由を明晰にするため祖先を穆祖大王と尊稱し以下亦之に倣ひて翼祖、度祖、桓祖

と爲し各其の性格、事業、生死、陵廟の所在等を略記し附するに配偶の事略を以てせり殊に太祖の事蹟に至りては大業の創始者として無上の敬語を用ひて之を叙述し延いて定宗、太宗の三代に逮へり卷尾に太祖の影殿竝に舊戸籍保存の緣由を附記して事實を證明す

○ 列朝通紀

二八卷一六冊 安鼎福編 寫本

圖書番號 七四七五

太祖元年壬申より英祖四十一年乙酉に至る史實の各書に散見したるものを蒐集したるものなり
正祖三十四年庚申書成る

○ 昭代紀年 二七卷二七冊

寫本

圖書番號 五五四六

朝鮮太祖より肅宗に至る史實を編年叙記し卷首に高麗の末政と朝鮮開國の原因及太祖の高曾祖考四代の略歴を記載せり

○ 朝野會通 二八卷一六冊

寫本

圖書番號 四二二八、五二二七

史部

太祖誕生の時より英祖元年乙巳の歲に至る歴代の政綱事歴を編年體に記述したるものなり

○ 朝野輯要 二八卷二一冊

寫本

圖書番號 七四七二

本書は著者未だ詳ならざるも甲辰暮春七十一歳翁書于耕漁齋と記し卷末に明義録を引用せるを以て之を見れば正祖八年甲辰頃に成りしものなり引用書は龍飛御天歌、國朝寶鑑等八十餘部の多きに達し第一編は東國沿革總叙、四祖肇基王跡及聖祖龍潛膺運等の紀事にして第二編以下は太祖より英祖に至る史實に止め丙丁の逆獄を附録す而して歴代の本末を詳にするため干支を以て之に冠し文武勳臣、配享諸臣等は各代の末に附記せり

○ 燃藜室記述

二九卷二九冊 李肯翊著 寫本

圖書番號 五七七八、五八八六、七一七七、七三二八、一

二二九三

著者朝鮮野史類の善本なきを慨し廣く國史野乘

七九

を摺摭し朝鮮太祖より顯宗に至る歴代の事實を紀事本末體に倣ひ各代毎に要目を列して拔萃編次し之れを原集二十卷とし續集八卷は肅宗一代中に於ける記事を收め別集十九卷には國朝、祀典、事大、官職、政教、文藝、天文、地理、邊圉及歴代等を編し擅に一言一句を加ふることなし朝鮮は東西南北四色の分黨ありしより以後諸家の記述概ね偏黨に傾き公正の筆甚た罕なるも本書は撰を異にせり

李肯翊字は長卿、燃藜室と號す全州の人、圓嶠匡師の子なり、英祖丙辰に生れ、純祖丙寅に歿す、其の文章と筆名は一世に冠たり、子肯翊亦穎悟人に絶し、家庭の學を受け、著述甚た富む、少論の論議を最も強硬に主張し、老論局に當るに及び全家酷禍を被り、緣坐して仕官を得ず、竄謫頻數なりしを以て文獻遺失したるもの多く、惟燃藜室記述の一部のみ今に至りて傳へらる

○ 國朝記略

五冊

寫本

圖書番號

九六五

朝鮮歴代の世系を卷首に書し次に事件を撮録し配享の功臣、相臣、文衡、儒宗、名臣、湖堂及戎垣等を卷尾に附載せり年代は太祖より光海君に及へり

○ 春坡堂日月錄

一二卷一五冊 李星齡編 寫本

圖書番號 六六三九

朝鮮太祖以下仁祖に至る列代の事實を編年體に依り編成せしものなり

李星齡字は文翁、春坡と號す韓山の人、吏判基祚の子なり、仁祖壬申に生れ、孝宗壬辰進士に中り、蔭仕を以て官庶尹に至る

○ 見睫錄

六卷六冊

寫本

圖書番號 一一六一三

朝鮮の史乘を録せしものにして一卷は稟毓、符瑞、山川、都邑、陵廟、制作、仁德、聖學、風俗、軍兵、田賦とし二卷は災祥、兵革、事變、士禍、朋黨、邦禮とし三卷は儒林、孝行、忠節、貞烈、師弟とし第四卷は家法、婚姻、寤達、壽夭、科擧、用人、官職、宰相、諫臣、牧守、將帥、功勳とし五卷は文章、詩律、聰敏、獎詡、鑑識、正直、德量、恬雅、氣義、誠實

廉儉、貧侈、魯莽とし六卷は諧戯、報應、刑獄、冤杜、讖驗、技藝器用、酒食、夢寐、死亡、塚墓、靈異、仙道、僧佛、娼妓、鬼神、禽獸、草木、外國等六十六類に分てり

○ 震史記略

一冊

寫本

圖書番號 一七九一

仁祖十四年丙子より肅宗十四年戊辰に至る五十二年間の時事を略録したるものなり

○ 小華外史

一二卷六冊

吳慶元著

印本

圖書番號

五〇二六、七〇二一、七〇二二、七〇二三

吳慶元の纂述したるものにして高麗及朝鮮に互り明との交渉事實を記せり純祖三十年に上木し李太王五年再版に付す

吳慶元字は善餘、首陽逸民と稱す海州の人時谷彦儒の孫にして仁祖丙子清に對し斥和の論を唱へたる學士達濟の後孫なり英祖甲申に生れ正祖癸卯進士に中り官府使に止まる

○ 宋元華東史合編綱目

三三卷三三冊

李恒老編

印本

圖書番號

四五九一

史部

宋元史に高麗史を合附し朱子通鑑綱目の例に倣ひて編せり編者の門人柳重教、金平默、兩人之を商訂し原編二十九卷附録四卷あり李太王十年丙午海州の吳鳳泳、宣川の朴瑜采等出資刊行す

李恒老字は而述、華西と號す碧珍の人なり正祖壬子に生れ純祖庚子學行薦を以て參本を授く官工曹參判に至り李太王戊辰に歿す諡を文敬と云ふ

○ 周書國編

一〇卷三冊

朴泰輔編

印本

圖書番號

六三二五

春秋か魯の隱公より溯りて武王元年に至る四百年又魯の哀公より以降周の威烈王二十二年に至る六十四年前後合せて四百六十四年間の事蹟を闕くを以て之を完備するため諸史を參照し以て此の書を編次し周初より魯、齊、晉、鄭、衛、宋、秦、楚、吳に至るまで國別に其の事實を記載せり

朴泰輔字は士元、定齋と號す潘南の人西溪世堂の子なり孝宗甲午に生れ肅宗乙卯生員に中り丁巳文科に魁たり選はれて湖堂に入り官應教に止り己巳謫せられて途中に歿す特に吏曹判書を贈り

論を文烈と云ふ

○魯史零言

三〇卷一五冊 李恒福編 印本

圖書番號 一一九四、一一九五、三六〇四

編者春秋左氏傳に沈潜せしを以て其の傳文に就き事類を分抄し以て一家の體を成せり一朝兵火に罹り散逸せしも顯宗の時孫時顯其の子世龜に命して之を輯刊せるものなり零言と題せしは魯史零瑣の言を集めたるの意なり

○史記英選

八卷四冊 正祖編 印本

圖書番號 九五、自九九至一〇五、自一一五至一二四、

一四一、一四二、四一四、四一八、五〇六、五〇七、五〇八、六四八、六四九、六五〇、六五四、八六一、八六六、九八八、一一九一、一一九二、一一九三、一九二二、二四一五、四八八三

正祖十九年司馬遷の史記より英を抜き粹を集め後學の規範に資したるものにして其の目次は第一項羽本紀、蕭相國、留侯等の世家第二伯夷、管仲、晏嬰、伍子胥、蘇秦、孟嘗君、平原君等の傳第三信陵君、范雎、樂毅、屈原、張耳、陳餘等の傳第四淮陰侯、酈生、陸賈

袁盎、吳王濞等の傳第五魏其侯、武安侯、灌夫、汲黯、李將軍及刺客、游俠等の傳第六滑稽、貨殖傳及太史公自序第七蘇武、李陵、匈奴、霍光、夏侯勝等の傳第八は魏相、丙吉、蕭望之、趙充國、梅福等の傳なり

○史纂

一二卷 印本

圖書番號 一七三八、三三七九

司馬遷の史記より本記一篇、世家四篇、列傳四十五篇、書三篇を選抜編纂せしものにして其の句節に疑難あるものは小註を加へて解釋せり

○史漢一統

一六卷一六冊 印本

圖書番號 四三八二、四五二八

史記及漢書中より傳記を鈔録し之に畧註を加へたるものなり

○漢史列傳抄

四卷四冊 崔壘編 印本

圖書番號 九五五、二四四三、三七六一、四三六三

史記及漢書の列傳中より初學に便なるものを選び甲乙丙の三部に分ち編成したるものなり甲集は項籍以下八名乙集は韓王信以下二十餘名丙集は吳王濞以下十餘名の傳を収録し諺文を以て口

訣を附す

○ 韓書傳抄 二卷二冊 安瑋編 印本

圖書番號 四二四

漢書列傳中より陳勝項籍以下鼂錯嚴助等十五人の傳を抄録し明宗二十一年丙寅清涼書院學生の用本として出版したるものなり

安瑋字は伯珍順興の人文成公安裕の後なり成宗辛亥に生れ中宗辛巳文科に登り官兵曹判書に至り明宗癸亥に歿す諡を文簡と云ふ武畧多く久しく兵を典り鎮を設け邊を禦き功あり

○ 漢書略選 一冊 印本

圖書番號 三二七

漢書の列傳を抄出したるものにして卷尾に正祖丁酉年の鑄造に係る活字を以て試印したることを附言せり

○ 宋史筌

一四八卷六一冊 正祖編 寫本

圖書番號 一八〇〇

元の脱脱の撰したる宋史四百九十六卷は二十一

史部

史中最も氾雜鹵莽と稱せらる明太祖宋濂に命し改修せしめんとして果さず正祖春宮の時反覆釋尋し手つから筆削を加へ登極以來尙ほ親ら輯次し稿を易ふること前後十回定めて一百四十八巻と爲す即ち本書なり

○ 皇明通記輯要

二四卷四冊 英祖命編 印本

圖書番號 自二九二至二九九、五〇九、六五二、七二七、

七三二、七三三、七三六、七三七、七三八、七三九、一〇三

六、一〇三七、一〇三八、一一六八、一二六九、一二七〇、

一二七一、一二七四、一一九八、三五九二、四八四六

英祖四十七年辛卯に編纂したる明の史紀にして太祖の洪武より以下憲宗の天啓まで二十四巻に分ちて編輯し卷首に英祖の小識を載録せり

○ 皇明紀略 六卷三冊 印本

圖書番號 二八七三、五二六七

明史の大畧を纂輯したるものにして太祖より章宗に及へり

○ 綱目輯要 七卷三冊 李昰應編 印本

八三

圖書番號 一五四一、一六九六

通鑑綱目及續綱目中の概要を鈔節纂集し每章肯綮の語を書頭に大書し考覽に便したるものなり

○ 綱目抄

八冊

寫本

圖書番號 五四九四

朱子の綱目中より緊要なる語段を選抄して燕閒の暇便宜省覽に供したるものなり

○ 續綱目疑補記見

二卷二冊

寫本

圖書番號 五七六〇

續資治通鑑綱目中疑義ある個處を修補したるものなり卷首に弘齋及震章の印記あり正祖の世孫たりし時書筵に於て述べたる意見を寫録せしものなるへし

○ 通鑑増刪

一五卷五冊

寫本

圖書番號 一一三三

宋江資の通鑑節要に就き之を増刪せしものにして周の威烈王二十三年戊寅より後周の世宗顯徳六年己未に至る一千三百六十二年間に於ける事實を簡明に記載せり

○ 續史略翼箋

二一巻六冊 洪爽周著 印本

圖書番號 二〇一八

洪仁諤元の曾先之の史略の體裁に依り明二百九十年間の史實を記述して一卷と爲し續史畧と名く其の子爽周其の書に就いて更に註釋及補遺を加ふ即ち本書なり純祖二十一年辛巳成り哲宗八年丁巳刊行す

洪爽周字は成伯淵泉と號す豊山の人足睡堂仁諤の子なり英祖甲午に生れ正祖乙卯文科に登り大提學となり官左議政に至り憲宗壬寅に歿す諡を文簡と云ふ此の書の外經學には讀易雜記一卷、春秋備考、尙書補傳六卷、戴記志疑四卷あり史傳には東史世家四卷、三漢名臣錄三十二卷、元史畧、明史論並續二卷あり叢書には擬古詩集一卷、鶴岡散筆四卷、洪氏家言二卷、讀書錄四卷、大東文雋、聚藝齋粹四卷、訂老二卷、諸子精言七卷、明文選二十卷の著書あり

○ 史補略

九卷三冊 李時善編 印本

圖書番號 二二二

曾先之の史畧に倣ひ編成せしものにして原本は唐代に及ひしも周の威烈王以前九卷までを刊板せり哲宗の癸亥莘溪李敦宇慶尙道觀察使たりし時之を刊行す

李時善字は子修、松月齋と號す李氏宗室の系に出つ仁祖乙丑に生れ幼より學を嗜み學識淹博にして著述に富む性豪放山水を愛し半島の江山勝地遍歴せざるなし老後安東の春陽に隱居し塵外に超然たること十數年肅宗乙未に歿す

○正史彙鑑

八卷四冊 洪鳳漢編 寫本

圖書番號 一一四〇、四八六〇

唐虞より明に至る歷代諸史中より箴戒となるべき事蹟を採りて分類條録し世子講學の便に資したるものにして英祖四十五年己丑編進せり其の要目は篤聖孝、法祖宗、敬事天、謹祀典、典聖學、崇儒學、尙儉約、祛偏私、戒聰察、信辭教、正宮闈、馭近習、睦宗親、待戚畹、任賢能、辨奸邪、重銓選、嚴科試、開言路、養士氣、獎名節、勵廉耻、愛民生、勤政事、節財用、簡行幸、守法制

史部

立紀綱、明賞罰、恤刑獄、禮臣僚、卞朋黨、飭武備、裕後昆等なり

洪鳳漢字は翼汝、翼々齋と號す豐山の人守齋鉉輔の子なり英祖癸巳に生れ乙卯生員に中り蔭仕を以て洗馬を拜し甲子文科に登り五營の將任を總へ六曹の長官を歷て官領議政に至り正祖戊戌に歿す諡を翼靖と云ふ莊獻世子妃の父にして即ち正祖の外祖なり弟麟漢と與に數十年間權を專にし正祖の初麟漢は罪に死したるも鳳漢は外祖のため免るを得たり

○歷代史論

四一卷一〇冊 宋徵殷編 印本

圖書番號 四二一六、二五六六

編者嘗て其の師朴世采と史を論し大に一致する所あり因て互に協力して遂に一書を編し大成に至らずして歿す英祖十二年其の子成明咸興の營中に在りて其の來由を書し之を劄牘に付せり内容は唐虞より以下唐、宋、歷朝の帝王諸臣に付き先儒の論評を取捨して各名の下に繋げ群書を繙閱

八五

せずして其の臧否得失の跡を知るに便したるものなり

宋徽殷字は質夫、約軒と號す礪山の人、雪村時誥の孫なり。孝宗壬辰に生れ、肅宗乙卯生員及進士に中り。己巳別檢を以て文科に登り、官戸曹參判に至り。庚子に歿す。嘗て南溪朴世采の門に遊ひ、文學博雅なり。子正明、成明、眞明俱に文科を以て進み、名卿たり。

○史要聚選

九卷五冊 權以生編 印本

圖書番號 四一七三、四二八三、四二八四、四二八五、

六七五、六八九

支那太古より明の永明王に至る歷世史乘の要項を聚録したるものなり。仁宗の時に成る第一卷には帝王上、第二卷には帝王下、公族、附吳越第三卷には后妃、妖姬、妓妾、烈女、相國、第四卷には將帥、直臣、節義、第五卷には聖賢、第六卷には異端、文章、隱逸、第七卷には休退、僭偽、暴逆、奸凶、嬖倖、閹官、賢官、外戚、良吏、酷吏、辨士、節俠、名筆、富客、第八卷には列傳上、第九卷には列傳下を載せり。一名増補歷代會靈と稱す。

○池氏鴻史

一七卷一七冊 池光翰著 印本

圖書番號 一二五六、一五六五、一八〇一、一八〇二、

三二七八、四〇六一

記傳を左丘明に法り、大義名分を明にし、姓譜は凌迪知に倣ひ、韻字を以て考索に便し、上は盤古に起り、下は明代に至る歷代法制の沿革、政令の得失、災異、照應の微に至るまで、後人の鑑戒となるべきものは、細大遺さず、輯録詳説せり。英祖二十六年庚午刊行す。

野乘類

○櫟翁稗說

一冊 李齊賢著 寫本

圖書番號 四五七八、六九六五

著者の隨筆にして、史乘に逸したる異聞、奇事、及人物評、經論、詩文、書畫、品評等を隨録せり。高麗の事物を知る好資料なり。拾遺として、其の詩文若干を載す。卷尾に牧隱の撰したる墓誌銘を附せり。李齊賢字は仲思、益齋と號す。高麗の名臣なり。少く

して文名あり久しく忠宣王に従ひて支那に在り彼の地の學者文士と詩文を應酬し造詣益深し晩年相國となりて國事の重に任し朝野頼りて以て安す著す所別に益齋集あり

○三國遺事 五卷三冊 釋一然著 寫本

圖書番號 二一九七六

新羅、高句麗、百濟三國の遺事を探り首に三國の年表を載せ紀異、興法、義解、神呪、感通、避隱、孝善等の目を設け神異靈妙なる事蹟を蒐録せしものにして佛教に關する事最も多し書中脱簡の處往往之あり編中の文字も亦闕失の處あり此の書三國の事蹟を主とせるも亦檀箕、衛滿の朝鮮、三韓、四郡、樂浪、帶方、靺鞨、渤海、兩扶餘、後百濟及瀛洛等の事をも録せり而して卷中新羅語を以て記したる郷歌あり原板は今傳らず朝鮮中宗壬申再刊せしも其の書亦甚た稀なり

釋一然俗姓は金氏名は見明字は晦然慶州章山郡の人なり高麗熙宗二年丙寅に生れ九歲出家し忠烈王七年辛巳圓經冲照國尊に冊せられ十五年己

丑義興麟角寺に於て寂す諡を普覺と云ひ塔を靜照と稱す

○慵齋叢話 三卷三冊 成俔著 寫本

圖書番號 六九〇五、六九〇六、六九〇七、七三三二

著者の隨筆にして文話あり詩話あり書話あり畫話あり人物評あり史話あり實歷譚あり文章穩雅讀みて飽く事を知らず朝鮮に於ける隨筆中の優品なり

成俔字は磬叔、慵齋と號す成任及成侃の弟なり世祖の時に及第し官禮曹判書に至る二兄と共に文名一時に高く文壇の領袖たり後燕山君の時士禍に罹りて歿す

○筆苑雜記 二卷二冊 徐居正著 寫本

圖書番號 六九八五

朝鮮古來の逸事閑話の後世に傳ふるに足るものを編集せしものなり其の事實は或は一一正確ならざるものなきに非すと雖參考に資すべきもの亦極めて多し

○溪西野談 六卷六冊 李義準著 寫本

圖書番號 一三二一

朝鮮古今の奇事、異聞、雜說、諧談等を聞見し隨ひに記録したるものなり

李義準字は平汝、溪西と號す、韓山の人、槎川秉淵の曾孫なり、英祖乙未に生れ、純祖乙丑文科に登りて、官禮曹判書に至る

○海東雜錄

一四卷七冊 權鼈編 寫本

圖書番號 五六六三

朝鮮檀箕以來の歴代の事歴を諸書中より採録し、其の列傳は姓を分ちて畧叙せり而して王室は高麗に止め、列傳は朝鮮國初に及へり

○獨坐聞見日記

一冊 安其浩編 寫本

圖書番號 五八六七

世祖以後仁祖以前に於ける朝野の雜事、異談を聞見し隨ひて記録したるものなり

○潛谷筆譚

一卷一冊 金堉著 寫本

圖書番號 六六八五

著者の隨録にして概ね當時の奇事、異聞を載す一部は小説の如く一部は逸史の如し、當時の事情を

知るに便なり

○昭代粹言

一二冊 鄭道應編 寫本

圖書番號 二二四四四

諸家の著作を粹集したるものにして第一編より第四編は許紆の編纂に係る、海東野言、同別集抄等に載する太祖紀より明宗紀第五、六編は禹性傳著す所の癸未記事、癸甲日録、時政録上下己丑録第七、八編は李廷馨著東閣雜記上下第九、十編は南磔著丙子録上下、亂離日記、江都録第十一、十二編は金時讓著涪溪記聞、紫海筆談、荷潭破寂録等なり、鄭道應は愚伏、經世の孫なり、孝宗己丑學行を以て薦められ、諡議に拜せらる

○溪陰漫筆

三卷三冊 尹昕編 寫本

圖書番號 七四七〇

公私の事變、士禍の原因、名臣宰輔の出處、進退、俚語、奇談等の隨録にして一に陶齋隨筆と稱す

尹昕字は時晦、溪陰と號し又陶齋と號す、梧陰斗壽の子にして明宗甲子に生れ、宣祖乙未文科に登り、仁祖戊子に歿す、官判書に至れり

○ 大東野乘 七二卷七二冊

寫本

圖書番號 三六五四

本書は仁祖以前凡そ二百五十年間に亘る諸家の著述中五十七種を採輯したるものにして大抵未刊行のものに係り参考となるもの多し其の内容書目は左の如し

慵齋叢話成侃筆苑雜記徐居正秋江冷話師友名行錄南孝溫設聞瑣錄曹伸丙辰丁巳錄任輔民稗官雜記魚叔權己卯錄補遺未詳五山說林草藁車天駱海東樂府沈光世青坡劇談李隣陰崖日記李紱海東野言許箕己卯錄補遺安璣己卯錄續集未詳乙巳傳聞錄李其龍泉談寂記金安考聽天遺閑錄沈守慶石潭日記李珉己丑錄黃赫己丑錄續未詳海東雜錄權鬻癸甲日錄禹性傳癸未記事未詳時政非鄭澈象村雜錄申欽亂中雜錄趙慶男歷代要見未詳再造藩邦誌申吳光海朝日記未詳凝川日記未詳光海初喪錄未詳長貧胡撰尹耆獻寄齋雜記寄齋史草朴東亮瞻源實錄未詳東閣雜記李廷鑾畸貧漫筆鄭弘漢雲巖雜錄柳成龍聞韶漫錄

史部

○ 公私見聞錄

四冊 鄭載崙著 寫本

圖書番號 四七一、一五七三

著者早年にして儀賓の選を被り禁中に出入し四朝に歷事し公私に付き見聞する所多し仍て嘉言善行の以て法と爲すべきものと乖事悖舉の以て警戒と爲すべきものとを採り隨聞隨書したるものにして閒居漫錄と因繼錄とを添附せり

○ 聞見筭記

一〇冊 寫本

圖書番號 五六二九

編者か筆に隨ひ雜記したるものにして七冊は朝鮮太祖以後憲宗の時に至る典故を録し三冊は支那歷代の事蹟を録せり

八九

政法類

○ 東國文獻備考

一〇〇卷四〇冊 英祖命編 印本

圖書番號 四一〇四、四二二五、四一四六、五三二六、六

一九七、六一九九、一二一五〇

本書は英祖四十六年庚寅洪鳳漢等に命し博く公私の記實に就き馬氏の文獻通考に倣ひ編纂せしめたるものにして象緯、輿地、禮樂、兵、刑、田賦、財用、戶口、市糴、選舉、學校、職官等に分目し朝鮮古今の文物制度一切を網羅せり朝鮮に於ける事物の研究には最も參考となるものなり

○ 增補文獻備考

二五〇卷五〇冊 李太王命編 印本

圖書番號 自六九四七至六九六四、一一六五二、一一六五

三、一二二五、一二三二二、一二三二九、一二三三〇

東國文獻備考は英祖の時に成り其の目を十三考に分ちしか正祖の時李萬運に命し更に七考を増し二十考と爲したるも刊行するに至らず李太王

に至り朴容大等に命し之を取捨して象緯、輿地、帝系、禮、樂、兵、刑、田賦、財用、戶口、市糴、交聘、選舉、學校、職官、藝文の十六考に改め隆熙二年再版に付したるもの即ち本書なり

○ 東國文獻節要

四卷四冊

寫本

圖書番號 四一五

東國文獻の要概を記したるものにして第一卷には分野、歷代紀年、八道郡縣沿革、道路、附水路、田制、經界、墾量、田諸、田堤、堰、第二卷には租稅、貢制、田賦、大同第三卷には耀糴、戶口、財用、良役、附均役、魚鹽、第四卷には錢貨、綿布、兵考、軍門、戰船、水車等に關する事項を收録せり

○ 文獻隨錄

一冊

寫本

圖書番號 五三二

賦稅、量田、井田、耀糴、賑法、軍制、官鹽、關防、水利、戰漕船、輪船、財用、錢幣等に關し古來の制度を引證して其の要項を載録せるものなり

○ 兩銓便攷

二卷二冊 李太王命編 印本

圖書番號 四〇四六、四〇四七、五〇九八

文武兩官銓考の法を記したるものなり從來兩銓注擬の法は條目繁雜にして考據し難きものあり此の書は吏、兵兩曹の掌故に稽へ取捨編成したるものにして吏銓、兵銓各三十餘目を載せたり李太王二年刊行し七年補刊せり

○百憲總要

二冊

寫本

圖書番號 七三四八

吏、戶、禮、兵、刑、工の六曹に屬する法例を録したるものにして全部百七十一目に分てり即ち吏九目、戶十八目、禮五十六目、兵十六目、刑六十八目、工四目あり

○磻溪隨錄

二六卷一四冊 柳馨遠著 印本

圖書番號 一二三〇、三五八二、三五九七、三六二六、三

九七五、五三八四

制度に關する考證を録したるものにして田制、田制後錄、田制攷說、田制後錄攷說、教選、教選攷說、任官、任官攷說、職官、職官攷說、祿制、祿制攷說、兵制、兵制後錄、兵制後錄攷說、續篇等の目あり又補遺には郡縣

史部

制等を録す英祖四十六年庚寅慶尙監司李瀾に命して之を刊行し後趙時俊慶尙監司たりし時財を捐して續刊す

柳馨遠字は徳夫、磻溪と號す文化の人龍門懿の子なり光海君壬戌に生れ孝宗甲午進士に中り顯宗癸丑に歿す執義を特贈せらる

○經世遺表

三二卷一六冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 七〇九〇

周禮六官の制に法り屬僚三百六十を縮少して百二十に減し吏、戶、禮、兵、刑、工の六官を六曹と名け議政府を其の上位に置き屬僚各二十の官は小事のみを專掌し大事は判曹の自裁に歸する組織と爲し之に附隨する古今の實例並に自己の私見を詳註して國計民生の基礎を畫策したる書なり一に邦禮草本と稱す

○牧民心書

四八卷一六冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 四〇六五、七五五七

九一

純祖の時著者康津に謫居し十八年の間に於て四書五經を攷究する旁ら二十三史及朝鮮の諸史、子集等に就き古來司牧の遺跡を採輯し吏胥の通弊を除去するに努めたるものにして通篇を赴任、律己、奉公、愛民、吏典、戶典、禮典、兵典、刑典、工典、賑荒、解官の十二目に分ち各六條を附して七十二と爲し又之を四十八卷に分ち以て一部と爲せり

○ 萬機要覽

一一冊 李萬運編 寫本

圖書番號 一一五二、二四四一、六九三九

本書は純祖の時に編進したるものにして宮中の式例より百般の政務に互り條規恒例を蒐録し之を財用及軍政の二篇に分ち更に財用編を各貢、田結、各稅、錢貨、市廛、堤堰、荒政、還摠等に軍政編を各營、烽燧、驛遞、鎮堡、關防、舟師及西北邊界事實等に分目せり

李萬運字は仲心、咸平の人にして官都正に止まる

○ 經國大典

六卷四冊

印本

圖書番號

一八八、一八九、二二九七、二二九八、一五一

五、一五一六、一八六四、二〇三四、二〇九六、三七一六、

三九〇三、七九〇四

朝鮮國初より元續六典、膳錄等の法典あり又種種の教令ありと雖前後牴牾の虞ありしを以て世祖之を損益して萬世の法と爲さんと欲し寧城府院君崔恒等に命し之か編纂に從はしむ六年戶典成り七年刑典成り其の他の四典は未だ校正に及ばずして昇遐し睿宗元年に至り之を完成して上進す成宗元年庚寅に至り始めて吏典、兵典の官制を用ひしも尙ほ校正する所あり二年辛卯に至り未頒の部分を行せしか五年甲午更に改訂を加へ十六年乙巳又校正す

崔恒字は貞父、太虛亭と號す朔寧の人なり太宗己丑に生れ世宗甲寅文科狀元になり文名大に揚る當時高麗史を撰し又訓民正音を製するに際し皆與からざるなし世祖受禪の時協贊の功に因り驟陞せられて領議政となり文柄を兼掌し成宗甲午に歿す文靖と諡し寧城府院君に封せらる

○ 大典續錄

六卷一冊

印本

圖書番號

九七九、九八〇、九八一、一〇四四、一〇四五、

一一四四、一二五一、一五二七、一九四〇、四〇〇二、四六

二九

經國大典以後の新科別條勘からす又時政の推移に因り或は大典と牴牾する所あり其の適用に困難なるを以て成宗二十三年壬子廣川君李克增等に命し大典以後の教令にして恒法と爲すへきものを取り以て本書を輯成せしむ後大典後續録の出るや本書を前續録とも云ふ

李克增字は景擣、廣州の人なり右相仁孫の子にして世祖丙子文科に登り官禮曹判書に至る翊戴、佐理功臣として廣川君に封せられ恭良と諡す

○大典後續録 六卷一冊

印本

圖書番號 九七七、九七八、九八二、一一四三、一四八六、

一九三九、二〇〇九、二三四三、二五四四、三九五五、四〇

〇三

中宗三十八年癸卯庶政愈繁にして教令亦隨て多きを加へ却て治績の擧らざるを慮り領議政尹殷輔等に命し大典續録以後五十二年間の受教科條を裒集し一に大典の本意に依りて存削し又六曹

史部

の制令條節を搜聚し之を參酌して編纂せしめたるものなり

尹殷輔字は商卿、海平の人なり僉正尹萱の子にして成宗甲寅文科に登り中宗乙未右相に拜し領議政に至る耆社に入り靖成と諡す

○受教輯録 六卷二冊

印本

圖書番號 一一五九、一二六〇、三二四七、三一五三、五

四三五、五四三六

中宗三十八年癸卯大典後續録成りしより肅宗二十四年戊寅に至る一百五十五年間の教令は皆て收録せず散逸せるもの多きを以て肅宗更に吏曹判書李翊等に命し京兆諸司及各道に現存せるものを輯録せしむ即ち本書なり内容は前後續録の例に倣ひ類を分ちて記入し必要の事項は別に題目を設けて之を分録せり

李翊字は季羽、農齋と號す牛峰の人なり孝宗丁酉文科に登り官吏曹判書に至る肅宗己巳仁顯王后遜位の時諫諍の爲に竄せられ後叙還せられ文貞と諡す

九三

○新補受教輯録 二卷一冊

寫本

圖書番號 一一五八

英祖十九年癸亥弘文、藝文兩館提學に命じて新に受教輯録以後の教令を編せしめ又其の以前の教令にして前輯録に漏れたるものを補收せしめたるものなり

○續大典

六卷五冊

印本

圖書番號

一一五〇、一五四六、一五四七、一九二六、二

三四四、三二四九、三九二七

英祖二十年甲子領議政金在魯等に命じ大典續録大典後續録受教輯録典錄通考等に據り經國大典以後の教令を編次せしめたるものにして一に大典の例に倣ひ六典及各項に分目せり本書の外尙ほ續大典補あり英祖の時に編せしものなるも單に吏典補一枚續兵典補一枚にして卷數枚數は皆續大典の順次に依れるを以て續大典補として特立すべきものに非ず寧ろ續大典に同編すべきものなり又別に刑典補一枚あるも續大典中に合綴せり

○大典通編 六卷五冊

印本

圖書番號

二〇一、二〇二、二〇三、八八七、八八八、一

八八二、一九四七、二一〇七、二二〇八、二二二〇、二二三〇

五、二九九〇、三七三九、二二二四九

正祖八年甲戌奉朝賀金致仁等に命じ經國大典及續大典を合部し續大典以後の受教及現行の法令を増補通編せしめたるものにして其の編次は大典の例に従ひ大典の本文は原字、續大典の本文は續字、新增の分は増字の陰刻を以て標榜し識別に便せり

○大典會通

六卷五冊

印本

圖書番號

一三〇二、一五五一、二九八八、三二六七、

三四二五、四五〇一、一九七二、二二二四六

李太王二年乙丑領議政趙斗淳等に命じ編次せしめ頒布したるものにして大典通編を本とし通編以後九十年間の受教及定式を補録して一書に會通し原續増三典の本文は原續増の字を陰刻標掲し新補の簡條亦補字の陰刻を以て標示す朝鮮五百年に亘る各般の法令は載せて此の一書に在り

趙斗淳字は元七、心菴と號す楊州の人二愛堂泰采五世の孫なり正祖丙辰に生れ純祖丙戌進士を以て文科に登り文衡を典り官領議政に至り李太王庚午に歿す諡を文獻と云ふ

○大明律直解

三〇卷四冊 高士璣等著 印本

圖書番號 一七〇九、五九三八

太祖開國の初明律を用ひしか其の文字の艱險にして曉解し易からざるより高士璣金祇等政丞趙浚の意を承け吏讀を以て字句を直解せしめ鄭道傳、唐誠等之を潤色し四年乙亥書籍院に付し活字を以て百餘本を印出せり後世宗丙寅平安監營に於て重刊す

高士璣は開城の人版圖判書瑛の子なり初め高麗に仕へ朝鮮に及びて官寶文閣直提學に至る

○經國大典註解

一冊

印本

圖書番號 二二七一

明宗五年庚戌特に命して局を設け通禮院左通禮安璋奉常寺正閔荃等をして經國大典中難解の箇

史部

條若干を抄出し其の下に解釋を註せしめたるものなり十年乙卯完成し卷首に鄭士龍の序を弁す

○典錄通考

一二卷五冊

印本

圖書番號 一一四一、一一六四、五四五〇

肅宗二十七年領議政崔錫鼎に命し經國大典、大典前後續錄及受教緝錄等の諸書を哀輯して彙分類合せしめたるものにして三十二年に至り完成す其の體裁は經國大典を主として前後續錄及受教輯錄を大典本條の下に分隸して考閱に便せり

○典律通補

六卷五冊 具允明編 寫本

圖書番號 一三七七、四三〇六、四四五六、四七七四

初め綾恩君具允明か自家考閱の便に供するため編成したるものなるも正祖九年乙巳大典通編成りし後王命に依り更に修正を加へ十一年丁未世に公にしたるものなり其の内容は經國大典、續大典、大典通編及明律を以て根據と爲し大典は専ら現行事項を取り其の本源に溯り法意を知るに便なるものを記註し續典は現行事項の外時勢に必要なきもの及語意の重複するもの若干條を削り

九五

又通編の増補條文は其の一部を削り明律は其の法例の兩典中に當律なきものを備載し典と律とを合成會通せしむるに努めたり又典律以外考證に資すべき材料は類別に従ひ之を附記し名物、度數等にして六典の參考となるべきものは輯めて別編と爲せり

具允明字は士貞、兼山と號す綾城の人存齋宅奎の子にして伯父夢奎の後を繼く肅宗辛卯に生れ英祖壬子生員に中り癸亥文科に登り史局に入り嘉善に陞り綾川府院君仁屋の祀孫を以て承襲して綾恩君に封せられ官禮曹判書に至り正祖丁巳に歿す

○ 増修無寃錄

二卷一冊 具宅奎增修 具允明重訂 印本

圖書番號 二二二六、二八六五、二九七〇、三二〇八、三

六二一、自四九六二至四九七五、五三六四、自六一六二至六

一六七、六二〇一、六九九八、七七九六、一一〇一四、一一

〇一五、一一〇一六

無寃錄は明英宗正統三年東甌王與の洗寃錄、平寃

錄、結案程式等の書を參考増損して編輯せるものなり世宗崔致雲に命し之に註を加へしめ後英祖二十年甲子續大典を纂修する時特に具宅奎に命し更に増刪訓釋を加へしむ其の後具宅奎の子允明律學教授金就夏と共に重訂を加へて私篋に藏めたるもの即ち本書なり正祖二十年丙辰印行す

具宅奎初の名は命奎字は性五、存齋と號す綾城の人草塘成の後なり肅宗癸酉に生れ甲午文科に登り官漢城判尹に至り英祖甲戌に歿す霞谷鄭齊斗の門に従遊して時望あり英祖登極の後辛壬黨派として官途振はず州郡に守れること十餘所吏績優異を以て聞を遂に卿列に到る子兼山允明、晚悔允鉦俱に名卿たり

○ 増修無寃錄彥解

三卷二冊 正祖命撰 印本

圖書番號 二九六九、三六二〇、四三一九、四三二九、四

三三五、四三三六、四三三七、四九五九、四九六〇、四九六

一、五一七八、五三六五、五三六六、自五七七九至五七八八、

自五八一一至五八一五、六一六一、六二七九、六九九七、

正祖十四年庚戌前刑曹判書徐有隣に命し諺文を以て増修無冤錄に句讀を附せしめたるものなり十六年壬子の印行に係る

徐有隣字は元徳、大丘の人、校理孝修の子なり、英祖戊午に生れ丙戌生員を以て文科に魁たり、文任を経て官吏曹判書に至り、純祖の初に歿す諡を文獻と云ふ

○ 審理錄

三二卷六冊 洪仁浩編 寫本 洪義浩修

圖書番號 一七七〇、五七九二

正祖在位二十五年間に於ける刑獄の決案を編輯したるものにして一千一百餘件を収録せり、正祖八年洪仁浩に命して丙申以後の審理事例を編修せしめ己未に至り仁浩の弟義浩更に命を受けて之を續修し純祖初年に完成せり、編輯の例は必ず先づ獄情の源委を悉し特に掲ぐるに判辭を以てす當時の判決例としては完備せるものなり

洪義浩字は養仲、澹寧と號す、豊山の人、貞翼公秀輔の子なり、英祖戊寅に生れ正祖甲辰進士を以て文

科に登り官禮曹判書に至り純祖丙戌に歿す諡を正憲と云ふ

洪仁浩字は元瑞、奉賀秀輔の子なり、英祖癸酉に生れ甲午司馬に中り、正祖丁酉文科に登り、東伯を歴て己未に歿す、官工曹參判に至る

○ 詞訟類聚

一冊 金伯幹編 印本

圖書番號 四七四、一〇五五、一一四九〇、一一四九一

金伯幹か明律經國大典、大典註解、大典續錄、大典後續錄、各年受教等の中より詞訟に關する規定を類聚し、斷訟の用に供したるものにして、相避斷訟、聽訟、親着決訟、日限、禁制、偽造、贖身、陳告、停訟、屬公賣買、買賣日限、徵債、立後、奉祀、鄉役、免役、功臣、惠恤、婚嫁、驛路、公賤、私賤、使孫圖、新舊大典、前後續錄、始用日、功臣勳號、大明年紀、本朝年紀、聽訟式、銅錢楮貨、米布比准、錄等三十一目に分てり、宣祖十八年乙酉編者の子、泰廷、全羅道觀察使たりし時、全州に於て雕板す、光州牧使丁煥及泰廷の跋あり、金伯幹は光州の人、郡守、金文瑞の子なり、明宗の時、蔭仕して郡守となる

○ 決訟類聚補

一冊

寫本

圖書番號 七四九七

決訟類聚の缺漏を添補するため決訟事項の参考となるべきもの二十餘條を追録して考據とせしものにして相避、鬪毆、辜限殺傷、檢驗、落胎、盜賊推斷、擅殺、濫刑捕亡、嫁娶、犯姦、詐僞、告訴、罵詈、雜犯、勿許聽理、聽理、雜着、立後、奉祀、私賤、公賤、陳告、贖身、屬公、惠恤、驛路、功臣賜牌、文記、賣買、賣買日限、徵債、戶籍、田結、停訟、決訟日限、作紙、雜令、受贖、山訟等に分目し附するに守令下直時承政院別論、田算法、飢民賑濟法、銀錢和賣法、費馬給費法、軍兵放料法、田稅加升法、還上分給法、還上除托法等の目あり肅宗末年の受教をも收録せるを以て其の編輯は景宗より英祖初年までの間に在るへし

○ 御定欽恤典則

冊

印本

圖書番號 九七三、二四三六、三三二五、三四七二、三八

九二

正祖元年地方司獄の私情を挟み刑具を輕重し罪人を虐待するを憫み欽恤の政を施し刑具を釐正

し繪音を頒布し二年戊戌之を刊行す

○ 欽欽新書

三〇卷一〇冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 七七七三

茶山下、若鏞既に牧民心書を著し而して折獄の事に至り人命の大權に繋るを見て曰く是れ宜しく専門の治あるへしと仍て別に本書を纂述せり凡て三十卷分ちて經史要義三卷、批評雋抄五卷、擬律差例四卷、祥刑追議十五卷、剪跋蕪詞三卷と爲せり每卷例を挙げ案を立て昭晰にして詳備す純祖壬午に編成したるものなるも未だ剗闕に付するに至らず近年に至り始めて印刷す

○ 欽欽私案

五冊

寫本

圖書番號 二四三八

各道に於ける殺獄に關し裁決せる文牒を首從の別、僥倖の狀、自他の分、故誤の弊、病打の辨、圖賴の獄、推諉の辨、癡狂の刺、義氣の釋、稀異の案及公私の判等十一目に分ち臚出したるものなり

○ 戊申獄案抄

一卷一冊

寫本

圖書番號 一七六〇

英祖四年戊申に於ける李麟佐の獄案三十一年乙亥に於ける李夏微の獄案等を抄出し又辛壬に至り餘黨を處分したる獄案を録せり

○ 檢案

七冊

寫本

圖書番號 四二六八

純祖庚午及辛未中に於ける黃海道内各郡の殺獄事件に關する檢屍及題判を録したるものなり

○ 檢題

一冊

寫本

圖書番號 四四九一

李太王十年癸酉の歲に於ける忠清道内の殺獄檢屍事件に對する該道觀察使の題判を謄録したるものなり

○ 檢題

二冊

寫本

圖書番號 七二八六

殺獄檢辭を録したるものにして自縊、被打、被踢、服瀉、因病、自刎、胎傷、被刺、氣塞、驚牛及枷傷の十一目に分てり黃海道内に於ける事件最も多し共に二十九案あり

史部

○ 田制詳定所遵守條畫 一冊

印本

圖書番號 九九一五、九九一六

孝宗四年田制詳定所を置きたる際制定したる田土の品等及丈量、算法、尺式等に付き詳説したるものにして當時に於ける田制の一斑を視るに足るものなり

○ 度支田賦考 六冊

六冊

寫本

圖書番號 二九三九、二九四〇、五一七三、五七四〇

正祖二十年丙辰八道四都の田摠賦摠を修正し量田、年分、收稅、漕運、雜貢稅、元帳付、流來、陳雜頃、免稅、給災、出稅實結各様外減、實上納加入、用下、上納道表、免稅道表等十六目に分ち其の増減變易を總録したるものなり

○ 箕田攷 一冊

一冊

李家煥編 印本

圖書番號 四一五九、四七三五、四八二〇、六五三五

韓百謙の箕田圖說、柳根許箴李瀧等の補說、徐命膺の箕氏外記、井田圖、洛書爲井田淵原圖、八陣爲井田對位圖等を輯録したるものなり
李家煥字は廷藻、錦帶と號す驪州の人なり英祖壬

九九

戌に生れ正祖丁酉文科に登り官刑曹判書に至る文章淹博と稱す

○賦役實總

一一冊

寫本

圖書番號 二五二

八道各郡の京納、營納、邑納、正供、雜稅の名目及實數を記載したるものなり

○均役事實

一冊

洪啓禧編

寫本

圖書番號 一六八三

英祖二十七年均役を始む時に莊祖春宮に在りて諸政を代理す仍て提調洪啓禧均役に關する體例を編録し覽に供せしものなり

○國穀總錄

一〇卷一〇冊

寫本

圖書番號 四三五一

毎年八道各地より上納する米穀にして宜惠、常賑、總戎、糧餉、御衛、均役の各廳及賑恤、濟民、修城、保恤の各倉に分配すへき數量等を詳定摠録したるものなり

○穀總便攷

四卷四冊

寫本

圖書番號 一〇二七

京畿開城、江華、廣州、忠清、慶尙、全羅、黃海、江原、咸鏡、平安等の稅穀の石數總目にして正祖の時に編したるものなり

○京畿丁未還穀總數

一冊

寫本

圖書番號 二五二九

正祖十一年丁未年に於ける京畿各郡の元還穀數を記録したるものなり

○貢物定案

一〇冊

寫本

圖書番號 二八九三

英祖、正祖、純祖在位の間に於ける各道の貢物と其の改定を記録したるものなり

○惠政要覽

三卷一冊

寫本

圖書番號 四七二三

正祖初年丙申より二十年丙辰に至る米穀、漁鹽等の滯稅免除又は諸貢物の停免及軍役奴婢の代納米布の寛減等總て貧民賑恤に屬する事項を各道年代別に掲載し各道部落の貧富程度を尤甚、其次、稍實の三段に區別し各人家に付ても同様の名目を附して賑恤の標準を示せり

○ 戸口總數 九卷九冊

寫本

圖書番號 一六〇二

正祖十三年に編次したるものにして卷首に太祖四年より六年に至る戸數を録し以下正祖の時に至る歴代の戸數を掲げ次第を逐ひて八道各式年の戸數及各面男女別の人口を記載せり

○ 江界府還接新入民戸實數成冊 一冊 寫本

圖書番號 九九〇七

平安道江界府還接新入戸數の成冊にして正祖十七年行觀察使兼都巡察使管餉使の調成したるものなり江界は朝鮮支那の國境に屬し人民の移轉出入頗る頻繁を極む當時の調査に據れば各坊の内新入戸數九百十二に達し又己酉と己卯との戸數を比較すれば其の差八千餘戸に及へり以て其の變動の甚しきを推知すへし

○ 金鑛略記 一冊

寫本

圖書番號 七三六二

朝鮮露西亞兩國の金鑛利益及鑛務に關することゝを畧記したるものなり

史部

○ 同文彙考

一二九卷六〇冊 正祖命編 印本

圖書番號 六六〇、一一一五、一一九六、二〇八、一三

三八、一七三二、一七二五

正祖八年鄭昌順等に命じて譯官玄啓植等を董率し承文院に於て外國に關する各年の詔、咨、表、奏、並に使臣別單、譯官手本等より材料を採集し四年を経て完成したるものなり編を別ちて原編、別編、補編、附編の四と爲し原編には封典、哀禮、進賀、陳慰、問使、節使、陳奏、表箋、請求、錫賚、蠲弊、飾諭、曆書、日月食、交易、疆界、犯越、犯禁、刷還、漂民、推徵、軍務、賻恤、倭情、雜令と爲し仁祖二十一年甲申以降の事實を記載し別編には其の以前に係る殘缺の諸文を輯録せり鄭昌順字は祈天、四於と號す北窓礪の後孫なり英祖丁未に生れ丁丑文科に登り提學兩銓を歴て正祖の時に歿す官判中樞に至る

○ 增正交隣志 六卷二冊 金健瑞編 印本

圖書番號 九四、五二七三

編者の曾祖父金慶門嘗て通文館志を編次せるも

専ら明清に對する事項を詳記し日本琉球に關しては簡畧に失したるを以て編者諸種の材料に稽へ此の書を編成し李宗模増正交隣志と題せり其の内容は日本に對する事項を主とし第一卷に接待日本人舊定事例外七條第二卷に差倭第三卷に館中以下十六條第四卷に約條外九條第五卷に通信使行外二十三條第六卷に問慰行外八條世宗二十五年より正祖二十年に至る約三百五十年の諸約條を備載せり純祖三十二年壬戌刊行す

○ 儀禮總覽

六卷三冊 純祖命編 印本

圖書番號 一三四四、五四三四

清便接待の儀式を録したるものにして純祖の初め譯官邊鎬に命じて編せしめ活字を以て印行す

○ 各國約章合編

一冊 印本

圖書番號 六五八九

李太王十三年丙子に於ける各國との通商條約を合編したるものにして丁亥年交渉衙門に於て之を編次し庚寅年更に増補を加へたり

○ 日本聞見事件

五冊 趙準永等編 寫本

圖書番號 一三二一

李太王十八年辛巳正月叅判趙準永朴定陽承旨嚴世永姜文馨趙秉稷閔種默李鏐永沈相學洪英植校理魚允中等東萊暗行御史の職を帶ひ日本遊覽朝士と稱し日本に派遣し國勢一斑を視察せしむ同年閏七月歸還し各其の聞見したる事件を記述して乙覽に供す即ち本書にして趙準永朴定陽嚴世永閔種默李鏐永五人の記録のみ存す

趙準永字は景翠松欄と號す豐壤の人友香雲徹の子なり純祖癸巳に生れ李太王甲子文科に登り知申松留を歷任し官吏叅に至り丙戌に歿す

○ 日本視察書啓

一冊 嚴世永編 寫本

圖書番號 七六八九

李太王十八年辛巳嚴世永命を承けて日本に渡り事情を視察して歸り其の國勢一斑を記述して書啓したる草稿なり

嚴世永字は允翼號は凡齋寧越の人にして稼隱慶遐の後なり純祖辛卯に生れ李太王甲子文科に登り後農商工部大臣に任せられ己亥に歿す

○ 日本内務省及農商務省視察書啓

一冊 朴定陽編 寫本

圖書番號 二五七七

李太王十八年辛巳編者遊覽朝士として日本に至り内務省及農商務省を視察し其の職掌事務を記述して書啓せしものなり

朴定陽字は穉中、潘南の人、近齋胤源の玄孫なり、憲宗辛丑に生れ李太王甲子進士に中り丙寅文科に登り翰林直提學を歴任し官總理大臣に至り甲辰に歿す諡して文翼と云ふ

○ 日本文部省視察記 一冊

趙準永編 寫本

圖書番號 二八七一、七七六五

李太王十八年辛巳編者か遊覽朝士として日本に渡り文部省の制度を視察し其の沿革、職制規則等を漢文に譯し復命したるものにして大學各部、師範學校、幼稚園、外國語學校、體操傳習所、圖書館、教育博物館、學士會院等の一斑を記載せり

○ 日本内務省視察記 三冊

朴定陽編 寫本

圖書番號 二四四九、二五七六

史部

李太王十八年辛巳編者か日本遊覽朝士を以て内務省を視察し其の職制及事務章程を譯述編次し以て復命したるものなり

○ 日本農商務省視察記

二冊 朴定陽編 寫本

圖書番號 二四五〇、二五〇〇

李太王十八年辛巳編者か遊覽朝士として日本に渡り内務省の視察を終り更に農商務省を視察し其の職制及事務章程を譯述編次し以て復命したるものなり

○ 日本司法省視察記 七冊

嚴世永編 寫本

圖書番號 三七〇三

李太王十八年辛巳編者か遊覽朝士として日本に至り司法省を視察し本書を編次して復命したるものなり第一冊は司法省職制及事務章程に警視廳、府縣官、元老院等を附し第二冊は刑法第三冊は治罪法第四冊は訴訟法第五冊は監獄則第六冊は新律綱領及改定律例撮要第七冊は改定律例に付て記せり

○ 日本工務省視察記 一冊 姜文馨編 寫本

圖書番號 一八三四

李太王十八年辛巳編者か遊覽朝士として日本に渡り工務省を視察し其の職制及所管各事項を論述し以て復命したるものなり

姜文馨字は德甫、蘭圃と號す晋州の人大諫、浚欽の孫なり純祖辛卯に生れ李太王戊辰文科に登り官吏曹參判に至れり

○ 日本外務省視察記

八卷四冊 閱種默編 寫本

圖書番號 三〇一五、三七二、三七二

李太王十八年辛巳編者か遊覽朝士として日本に至り外務省を視察し其の見聞を漢文に譯述し以て復命したるものなり卷一は沿革及事務章程卷二は各規則及公文書式卷三以下は各國條約等を收む

閱種默字は玄卿、翰山と號す驪興の人賛成馨男の後孫なり憲宗乙未に生れ李太王甲戌文科に登り弘文提學兵曹判書を歴て外部大臣に任せられ明

治四十三年男爵を授けられ大正五年歿す

○ 日本各國條約 七冊 閱種默編 寫本

圖書番號 一八三五

李太王十八年辛巳編者遊覽朝士として日本に渡り外務省を視察し八卷四冊の視察記を編せし際日本と各國との間に締結したる條約等を收め本書を成せり首卷は商稅論例と表題し統論及總目を示し第一卷は各國條約第二卷は各國居留條例第三卷は各國貿易則類第四卷は六港開場第五卷は稅關規例第六卷は各國稅則等にして乙覽に供したるものなり

○ 日本稅關視察記 三冊 李鑣永編 寫本

圖書番號 二四五、六八八、六八九

李太王十八年辛巳編者遊覽朝士として日本に渡り各稅關を視察して其の制度を譯述し以て復命したるものなり第一冊は職制、慣行、方法及上屋規則等を載せ第二冊は稅關事務にして關稅局及各港制度を收め第三冊には各國貿易章程を譯載せり

李鑑永字は景度、號は東蓮にして全州の人寧城君孝景公瑋七世の孫なり憲宗の丁酉に生れ李太王丁卯進士に中り庚午文科に登り御史觀察使を経て内部大臣に任せられ丁未に歿す諡を文貞と云ふ

○長崎税關規式抄

一冊 李鑑永編 寫本

圖書番號 七六七九

李太王十八年辛巳編者か日本遊覽朝士を以て税關事務を視察し三冊の視察記を編し當時長崎税關の各課事務に關する規式を抄録して別冊としたりるものなり

○釜元輸出入表

一冊 李鑑永編 寫本

圖書番號 三二八二

李太王十八年辛巳編者遊覽朝士として日本に渡りし際税關表中より釜山及元山兩港に於ける半年の輸出入表を抄録し歸還の後乙覽に供せしものなり

○日本陸軍總制

四卷二冊 洪英植編 寫本

圖書番號 三二七一

史部

李太王十八年辛巳編者か遊覽朝士として日本に渡り陸軍省參謀本部監軍本部及其の所屬官署の制度を視察し見聞せしものを漢文に譯述し以て復命したるものなり第一卷には沿革總覽及職制第二卷には諸般の條規及儀式第三卷には兵隊編制第四卷には會計經理等を記せり
洪英植字は仲育、琴石と號す祁堂淳穆の子なり哲宗乙卯に生れ李太王壬申文科に登り直閣を歴て官參判に至る甲申に歿す

○日本陸軍操典

六卷四冊 洪英植編 寫本

圖書番號 三七〇二、三七一〇

李太王十八年辛巳編者日本遊覽朝士として陸軍の制度を視察せし際日本陸軍操典を漢文に譯し以て乙覽に供したるものなり

○日本大藏省視察記

一冊 魚允中編 寫本

圖書番號 六二六六

李太王十八年辛巳編者遊覽朝士として日本に渡り大藏省を視察し其の職制及事務章程を簡約に譯述し又財政見聞として歳入、歳出、紙幣、國債、銀行

租税、政府財産、邦内實蹟等七條を叙述し以て復命したるものなり

魚允中字は聖執、一齋と號す、柘園有鳳の六世の孫なり、憲宗戊申に生れ、李太王戊辰文科に登り、直閣及惠堂を歴て、度支大臣に任せられ、丙申に歿す、忠肅と諡す

○度支志

二〇卷一〇冊

寫本

圖書番號 八一

正祖十一年、戶曹の舊事例を輯めて、内外二篇に編せるものなり、内篇は一曹の官制、職掌、廩祿、館舍、雜儀、古蹟を總録して、綱領と爲し、外篇は曹内版籍、會計、經費三司の文簿にして、後考に備ふべきものを類輯して、條目と爲せり、内篇内に官制部を立て、細目を分ち、卷首に銜舍、全圖と度支志總要を并し、外篇内の版籍司は、版圖、田制、漕轉、財用、貢獻五部を立て、會計司は、倉庫、解由二部を立て、經費司は、五禮、經用、料祿、荒政四部を立て、各其の細目を分つ

○春官志

三卷三冊

寫本

圖書番號 九六三

禮曹に關する各項事例を、謄載編録したるものなり、而して第一卷は、社稷宗廟、永寧殿、太廟配享、眞殿、追崇、追崇還廢、復位、私親廟、歷代諸君廟、陵寢附錄、黃池、尋陵事跡、山陵變故、附故宗係、享祀總載、附大儺、祭禮總論、冠禮、婚禮、離異、學校、幸學、州郡學、啓聖廟、書院、科擧、大射禮、第二卷は、親耕、諡號、廟號、臣諡、諡號彙類、朝賀、付朝儀、仗儀、耆老、所耆老、宴、宴享、冕服、冠服、樂、宣露布、獻、誠、救日食、繼後、起復、朝京舊例、通信使、通信一行先、後節目、通信講定別單、通信一行員役、通信應行節目、信使盤纏、贈禮單物目、船上雜物、從事費去、一行禁日、斷節目、日、期、推擇、第三卷は、問慰行、接慰官、年例、送使、倭館、書契、日本年號、開市、求請、立約、往征、入寇、荒唐船、野人、接待、事例、征討、琉球來聘、通信、國書及倭答書等にして、三十餘種の引用書目を附せり

○秋官志

一〇卷一〇冊

朴一源編 寫本

圖書番號 一〇二二

正祖五年辛丑、大司寇金魯鎮が所管事務の統紀なきを憂ひ、朴一源に囑して編成せしめたるものなり、原編は、歷世の典章教令及名臣可否の事蹟を採

り律令禁條の沿革に就き分類増補して五編と爲し王命に依り再ひ詳覆考律の兩部を追捕して七編と爲し鼈頭に加補の二字を記せり辛丑に成り壬寅更に之を補ふ其の辛丑以前に係り原編に漏れたるものも亦補闕して十卷と爲し壬寅補入の條は補字を又重補の分は重補の二字を記して之を區別す其の分編綱領は原編の例に従ひ各編の小目は淆雜を避くるため彙分類別して官制、詳覆部、考律部、掌禁部、掌隸部の五目と爲し以て考閱に便せり

金魯鎮字は聖贍、江陵の人、損谷尙星の子なり、英祖乙卯に生れ、丁丑文科に登り、官吏曹判書に至り、正祖戊申に歿す

○ 耆社志 一九卷八冊 洪敬謨編 寫本

圖書番號 七二六

太祖春秋六十に躋りたるを以て耆社に入り、朝臣文官資憲正二品以上の年七十に滿ちたる者を許入し之を名けて耆老所と云ふ、憲宗十五年己酉判書洪敬謨亦社に入る社の掌攷を徵すへき文獻な

史部

きを慨し設社より己酉に至る四百五十餘年の由來及諸般の事蹟と條例とを詳録し之を十二編十九卷に纂成したるものなり

洪敬謨字は敬修、冠巖と號す、豊山の人、耳溪、良浩の孫なり、英祖乙未に生れ、純祖己巳進士を以て文科に登り、史局に入り、官吏曹判書に至り、哲宗辛亥に歿す、論を文貞と云ふ

○ 侍講院志 六卷六冊 正祖命編 寫本

圖書番號 九〇七、九一一、九二二

侍講院の職制規程を記せるものにして、院制、官職、講規、師傅、賓客相見、藏書、睿學、講義、親臨聽講、聖諭、御製、睿章、睿疏、宮僚製進、冊封、入學、冠禮、嘉禮、聽政、起居、陳賀、齋戒、靈待、賓僚、賜賚、問終、諸式、補遺、講書院、講學、廳及輔養廳に分目せり、侍講院は昌慶宮の銅龍門、內重熙堂の南に在りて、東宮講筵の所たりしなり、太祖の時世子官、侍講、賓客、輔德、彌善、文學、司經、正字、侍直等の各員を置きたる例に倣ひ世祖の時僚屬を設けて定例と爲し七年之を重修せり

○ 弘文館志 一冊 正祖命編 印本

一〇七

圖書番號 六六二、六六三、六六四、六六五、自七六一

至七八二、自八二七至八四六、九四一、一〇三三、一〇三

四、一〇三五、一八一六、一八九九、自一九〇〇至一九〇八、

一九三六、三二二七、三二四六、四七四七、六一八一

正祖八年應教李魯春等に命して弘文館の行事を
編纂せしむ乃ち建置、職官、進講、館規、書籍及事實の
六門に分ち芸閣に於て印刊す本書是なり

李魯春字は君正、德水の人同敦龍模の子なり英祖
壬申に生れ正祖庚子文科に登り舍檢を歴て官工
判に至り純祖の時に歿す

○奎章閣志 二卷一冊 正祖命編 印本

圖書番號 八二、七三四、一四〇〇、一九六六、三七七一、

一一二五二

正祖即位丙申奎章閣を設け提學以下の官を置き
閣臣に命して本閣の制度儀式を編纂せしむ即ち
本書にして建置、職官、奉安、編次、書籍、散習、院規及事
實等の門目に分てり八年甲辰書成り刊行す

○太常誌 八卷二冊 英祖命編 寫本

圖書番號 八六五

太常は奉常寺の別稱なり郊廟百神の祀典を掌る
所にして申維翰の撰したる舊志三冊朴道郁の編
したる典例一冊あり其の後沿革甚た多くして攷
据に足らざるを以て英祖三十九年癸未祭典を釐
正したる後郎官に命して本書を編成せしむ建置
官職、名官、祀典、籍田、貢物、饌品、祭器、薦新、國恤、各祭、諸
臺、藏氷、封山、柴場、節惠、考課、典隸、公用の目に分つ

○通文館志 一二卷六冊 金慶門編 印本

圖書番號 一〇八、五五一、七三一、七九五、七九六、七

九七、八〇四、八二二、八二三、八一七、八一八、八一九、

八八二、八八四、一〇〇六、一〇〇七、一〇七三、二三八三

高麗忠烈王の時李堪始めて通文館を置き漢語を
學はしむ朝鮮に至り司譯院を置き諸方言を譯せ
しめ更に日本、蒙古、女眞を加へ四學とし四隣外交
の器を養成したるも漸次事大主義に偏せり本書
は即ち古來の朝聘應對の事蹟を記したるものに
して正祖の時之を官刊し李太王十八年更に重刊
す其の目次は第一沿革第二勸賞第三第四事大第
五第六交隣第七人物第八故事第九紀年第十第十

一第十二は紀年續編なり

金慶門字は守謙、蘇岩と號す、牛峰の人、肅宗の時官知中樞に至る、清人穆克登と白頭山定界の時善譯を以て稱せらる

○書雲觀志 四卷二冊 成周憲編 印本

圖書番號 五六、五七

朝鮮の初高麗の制に法り書雲觀を置き天文、地理、曆數、占筮、測候、刻漏等の事を掌らしめしか、以來四百餘年文獻の徵するに足るものなく、推歩の緣起、制度の沿革等を知るに由なし、成周憲之を憂ひて遂に此の書を著すに至れり、第一卷には官職、薦舉、科式、取材、勸課、褒貶、坐衛、番規、第二卷には治曆、測曆、交食、堪輿、選擇、屬官、吏隸、進獻、頒賜、式例、貢物、第三卷には故事、第四卷には書器等の方法、規例を備載せり

○惠局志 一冊 姜渭聘著 寫本

圖書番號 七三六一

朝鮮の初惠民署を置き醫藥を掌り、民庶の疾病を救ふ、蓋し周代の遺制に倣へるなり、而して數次の

史部

難を経て文獻の徵すべきものなし、肅宗己亥提舉

趙泰耆、郎官姜渭聘に勸めて此の志を作らしむ、正祖戊戌、久任卞泰恒之を増損し、李太王甲戌、渭聘六代の孫海秀之を謄寫す

姜渭聘は晋州の人にして都事、應生の子なり、顯宗己亥に生れ、官翊賛に止まる、仁祖丁丑に殉し、忠烈と諡す

○度支定例 一二冊 印本

圖書番號 一、二、七一、一七二、一八三、一九八、一八

五六、二〇二、二二六、二二六八、三五二、四二〇、六

七八七、九九一七、一一四三六、一二四八五、一一九五七

英祖二十五年、世風の華奢に流れ、財政の萎微するを慨し、各殿宮廟社府院寺監等に於ける大小の用度を極端に節減するため、戶曹判書朴文秀等に命じて本書を作成せしむ

朴文秀字は成甫、蒼隱と號す、高靈の人にして、久堂長遠の曾孫なり、肅宗辛未に生れ、景宗癸卯文科に登り、翰苑を歴、英祖戊申、李麟佐の難、奮武勳に策せられ、雪城君に封せらる、官判敦寧に至り、丙子に歿

一〇九

し忠憲と諡す知識該博才局凡に超へ英祖毎に當時一人として許したりといふ

○宣惠廳定例 一七卷七冊

寫本

圖書番號 三

英祖の時度支定例編成の後更に經費を節減するため宣惠廳に命して作成せしめたるものにして其の進獻物種中慈宮に對する外不必要に屬するものは全減し過多なるものは節略し即ち大殿仁壽宮、慈殿、中宮殿、世子宮、世孫宮、賢嬪宮、大君王子房の八段に分ち日常及佳節等の進供物種の數量より薪炭の徴に至るまで逐一之を明記して贅費を戒めたり

○尙方定例 三卷三冊

三卷三冊

印本

圖書番號 一一、一九〇、一八三、一八五五

尙方院は王室各殿宮の衣櫛を供奉する所にして、誕生日、節日、年例進上の外無時別入の事多し英祖其の取用無節を患ひ院に命し此の定例を編せしむ恒例一卷別例二卷あり後來の嗣王をして遵行せしめたるものなり

○貢膳定例 一冊

一冊

印本

圖書番號

六四七、一八五〇、一九三

議政府及六曹其の他外方各官より年中節日、朔日、月令、誕日に土産物膳を王室各殿宮に進上するは古例なり而して正祖登極の初、古今の物産相異り名品の緊漫相混せるを以て禮曹、戶曹に命し京外貢獻の物資を釐正し命して活印に付し各道に頒布して遵行せしめたり

○供上定例 一冊

一冊

寫本

圖書番號

三九八〇

司藥寺司宰監、濟用監、義盈庫等より米魚古木の類を毎日世子宮に供上し之を宮に屬する内官等に支給する定例を録したるものなり

○教學定例 一冊

一冊

印本

圖書番號

五二四〇、五二四一、七八二四、一一五八九

興宣大院君李昰應か師弟の禮法に關し英祖丁丑の王孫敎傳相見日記及五禮儀、文獻備考等を參證して編輯したるものなり宗親の入學及師弟の禮法を定む

○ 國婚定例

七卷二冊

印本

圖書番號 四、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、九九三一

英祖二十五年大小婚儀の漸く浮華に流れ禮物器用の糜費多端なるを憂ひ民費を節減する主旨を以て靈城君朴文秀等に命し度支定例に繼いて作成せしめたるものなり

○ 喪祭燭定例

一冊

印本

圖書番號 七二、二〇六三

國葬初終の時殯殿、魂殿、山陵及殯宮、魂宮、墓所又節日、朔望等の祭典に用ふる蠟燭の大小數量等を一定したる記録にして附するに蓼苦各樣條例を以てす蓋し蓼苦とは山蓼及苦蕒にして初終の時歡粥哭泣するため元氣の衰弱を補ふ藥料なり英祖二十八年壬申刊行す

○ 六典條例 一〇卷一〇冊

印本

圖書番號 四〇四一、五二八九、五二九〇、六九四四、一

二二四七

李太王二年乙丑大典會通を編成し典章法度等全く具備したるも典文簡嚴を主とし各衙門の大小

事例は多く遺漏あるを免れず仍て命して本書を

纂輯せしむ其の内容は吏、戶、禮、兵、刑、工の六典を綱とし諸多の衙門を分隸し其の所掌の事目及施行の規例を收録せり

○ 銀臺條例

一冊

印本

圖書番號 五〇四六、六一四〇

銀臺は即ち承政院にして王命の出納を掌り承旨六人あり吏、戶、禮、兵、刑、工の六房に分ちて政務を擔任す本書は其の執行の事例を彙編し以て事務處理の叅攷に供したるものにして李太王の命定なり

○ 萬院條例

一冊

印本

圖書番號 四一三六、四九二、五〇一、自五六五三至五

六八〇、自五九六〇至六一三三、自六二四八至六二六四、一一四

一九、一一四二〇、一一四四五、一一四六三

春坊掌故の闕漏多くして其の儀節の如き散して寶鑑等に載せたるも隨時閱覽に便ならざるを以て李太王二十五年王世子建儲の當時此の書を編纂す故事、傳教、冊禮、入學、冠禮、嘉禮、書筵、會講、相見禮、

座堂受賀酌獻禮等の四十有八條あり

○宗親府條例 一冊 印本

圖書番號 五〇四三、五一〇四、七〇一八

李太王七年興宣大院君李昞應か宗親府の規模を擴張し之を有司の上位に置き大小宗族に關する一切の秩序儀例を酌定し以て後世子孫をして遵守する所を知らしめたるものなり

○公使領事費用條例 二冊 寫本

圖書番號 一六八二、一七二二、七三四七、七六九七

在外公使領事の費用を條定せしものなり即ち俸給及旅費と其の他許多費用の定款を立て篇末に其の豫算表を膳載して攷覽に便ならしめたり

○光廟訓辭 一冊 印本

圖書番號 一一五六八

世祖三年戊寅世子(睿宗)を訓諭するため特に本書を撰す恒德敬神、納諫、杜讒、用人、勿侈、使宦、慎刑、文武、善述の十目を設け簡明に叙述せり卷首に親序あり卷尾に崔恒の後序李克堪の後跋あり中宗の跋文は後序の前に編し中宗元年丙寅芸閣に命して

刊行す

○御製大訓 一冊 印本

圖書番號 二四〇七、三四七三、三七六五、三九二九

景宗元年辛丑王弟(英祖)を世弟に冊封せし時金一鏡、睦虎龍等奪儲を謀る英祖即位し其の罪を討して之を告布し更に此の訓諭を發して一般に示す附するに頒教文及綸音を以てし芸閣に命して刊行す

○御製添刊大訓 一冊 印本

圖書番號 一八七五、三二八二

英祖既に金一鏡、睦虎龍の罪案を追正し大訓を製し三十年乙亥趙泰者等に追律を施し又綸音を發して中外に頒布す其の告廟文と頒教文とを辛酉大訓の下に添附し刊行す

○訓諭 一冊 搦本

圖書番號 九八一八、九九八二、一〇二二八

英祖二十年甲子世子の冠禮を行ひたる際勉戒の訓辭を作り之を親書して板刻せしめたるもの搦本なり而して三件を粧續し一件は世子に與へ

一件を政府に一件を史局に存す

○ 御製常訓

一冊

印本

圖書番號 二四三〇、三五三五

英祖二十一年乙丑世子に垂示したる訓言にして
創業守成の要、愛民崇儒の道等に付懇切に論說せ
り敬天、法祖、惇親、愛民、祛黨、附賢、使能、辨逸、崇儉、附
容、直納、諫、勵精、附敬、大臣、體群、臣、勸學、附崇、儒、重道に
分目す芸閣に命し刊行せしむ

○ 御製常訓諺解

一冊

印本

圖書番號 三五三四、三九二八、五四六八

英祖二十一年乙丑常訓を製述し敬天、法祖、惇親、愛
民、祛黨、崇儉、勵精、及勤學の八目を舉げ以て世子に
垂訓せしか更に諺文を以て翻譯し曉り易からし
む芸閣活字の印出に係る

○ 御製續常訓

一冊

印本

圖書番號 二四二二、三九九九

英祖乙丑の後嗣王を戒むるため敬天、法祖、惇親、愛
民、祛黨、崇儉、勵精、勤學等八目の訓辭を作り戊寅又
敬天、愛民の二目を増附し仍て續常訓と稱す

○ 御製政訓

一冊

印本

圖書番號 五二四二

英祖卽位二十五年己巳莊獻世子をして攝政せし
むる際其の日常規範と爲すべき條目即ち修身、尊
賢、親親、敬大臣、體群、臣、子庶民、來百工、柔遠人、嚴近習、
戒紛華等を舉げ之に意見を補注して懇切訓戒し
たるものなり

○ 御製訓書

一冊

印本

圖書番號 二四二七、三五二八

英祖三十二年丙子の撰に係る訓書にして敬天、愛
民、禮臣の三篇あり卷首に性道教の三字を大書し
外十六字の題辭二様あり其の語は多く大學、中庸
其の他の經書に取りしものなり

○ 御製訓書諺解

一冊

印本

圖書番號 三七四九

英祖三十二年丙子性道教圖、性道教銘、及性道教圖
説を製し又敬天、愛民、禮臣に關する訓書を製して
勸勉の意を演述し諺文を以て音義を譯解し以て
刊布したるものなり卷尾に稼穡篇を附す

○ 御製回甲書示元良 一冊

寫本

圖書番號 九九四二

英祖三十年甲戌回甲に膺り儉徳を崇ふの意を以て訓辭を製し世子に示したるものにして李詰輔之を書す

○ 御製八旬書示後昆錄 一冊

印本

圖書番號 五四六六、五六九七

英祖四十九年癸巳齡八十に滿ちたるより古今の歴史を援据し盛衰興亡の因由を畧述し以て後昆に示し勉戒と爲したるものなり相臣洪鳳漢等校正活印す

○ 御製遵昔年定銅闈冠禮文

一冊

印本

圖書番號 五三三〇

英祖四十九年癸巳景宗か九歳にして冠禮を行ひし例を引き今後世子世孫の冠禮は必ず十歳を以て行ふこととし又八歳以下と雖例を按して行ふことを定めたるものなり芸閣に於て刊行す銅闈は東宮の謂なり

○ 御製誦夙夜箴勗冲子 一冊

一冊

印本

圖書番號 六六一五

英祖か夙夜兢々の義を敷演し宗社の興替を世孫(正祖)に付托し兼ねて黨論を蕩平し小民を懷保する意を示したるものなり洪鳳漢校正刊行す

○ 御製祖孫同講大學文 一冊

一冊

印本

圖書番號 三二〇〇、五二四三

英祖か其の末年世孫(正祖)と俱に大學を講し更に其の義を演述し以て勉戒の辭を作り金陽澤等之を校正し乙未季冬芸閣活字を以て印出したるものなり

○ 御製古今年代龜鑑 一冊

一冊

印本

圖書番號 一七三〇、三四九五

英祖三十三年丁丑歴代帝王にして仁聖なれば歴年靈長となり暴亂なれば享國の永久ならざる實證を歴述して後王に垂誡したるものなり

○御製警世問答 一冊 印本

圖書番號 三八九四

英祖復政の後即ち三十七年辛巳の年益聖學を勉め庸學及其の他諸經史を講明するに問答を以てし萬機の暇あるに及び特に警世の論を述べたるものなり

○御製警世問答續錄 一冊 印本

圖書番號 一六五七

英祖辛巳に撰したる御製中警世問答の續錄なり

○御製警世編 一冊 印本

圖書番號 三一九二

英祖四十年甲申慾奢惰の三者を論し以て世人を警しめ亦自ら戒しめたるものなり中に黨私の弊害をも論し卷首に四言八句を題す洪鳳漢等命を承けて編次し尹勉憲之を書し芸閣に於て上板す

○御製風泉錄 一冊 印本

圖書番號 一七四七、五六六五

英祖辛卯の歲皇明通紀を復修して皇明通鑑を纂輯し明太祖以下の朝鮮に對する功德を掲げ詩の

史部

匪風下泉の義を取り書名を附せり

○至德 二冊 寫本

圖書番號 四六一六、五二五七

太祖太宗世宗文宗世祖睿宗及成宗七代の謨訓となるべき事實を採り四十八目に分ち之を編次したるものなり

○祖鑑 二卷二冊 印本

圖書番號 四九一、四九七、四九八、五〇一、五〇二、七

○四、七二、七二三、一六五八、二七二八、二七二九、一一七三〇

英祖の時命に依り南學教授趙顯命等の編纂したるものにして重に祖宗の龍飛御天歌及列聖誌狀中の事項を採録し殊に祖宗平日の嘉言善行治法政教にして子孫萬世の龜鑑とすべきものを舉げ上下二卷二十項と爲し上卷には世經符瑞勅業制作中興資質學問德行好諫下卷には内治勤政用人愛民務農弭災節約敦化崇儒慎刑治兵等を載せ每篇末に小序を附したり

趙顯命字は稚晦歸鹿と號す豐壤の人なり孝行あり

一一五

り其の間に旌せらる肅宗癸巳進士となり己亥文科に登り檢閲となる英祖戊申吳命恒の從事官となりて李麟佐の亂を平け振武勳に策し豊原府院君に封せらる官領議政に至り忠孝と諡す

○ 羹墻錄

八卷四冊

印本

圖書番號

三七二、三七三、三七四、三七六、三七七、三七八、三七九、三八一、三八二、三八三、三八四、六四六、

六六九、六七〇、六七一、六七四、六八〇、六八一、六八二、

八八五、九〇六、九三一、九六四、三二四八、三四四一、四

八三六、七九二五

正祖卽位の九年内藏書庫を閲し故宰臣李世瑾作る所の聖朝羹墻錄を得更に閣臣李福源等をして本書を編纂せしめたり内容は歴代の盛徳大業を叙したるものにして由來列聖誌狀は務めて簡約を主とし國朝寶鑑は年次を以て記述したるも此の書は兩書の體に倣はず事類を分別して搜索に便せり卷首には創業の事蹟を書し中間には聖德嘉謨、禮樂、政刑、修齊、治平の沿革、制作、修述の本末を叙し卷尾に聖人功化の極致を述へ以て既往十九代の盛事を列記す羹墻とは先王を追慕するの意

にして帝堯殂落の後帝舜思念の情を述へ羹に見墻に見るの古事より取れり

李福源字は綏之、雙溪と號す延安の人、止菴詰輔の子なり、肅宗己亥に生れ英祖戊午進士に中り甲戌楊口縣監を以て文科に登り文衡を典り官左議政に至り正祖壬子に歿す諡して文靖と云ふ、正祖の初に奎章閣を創設し文學の士を選置せる時首として提學の任を膺け長子及健齋時秀父に繼きて名相となり次子履翁晚秀亦文名ありて文衡を典る

○ 謨訓輯要

六卷六冊

侍講院編

印本

圖書番號

六七二、六七三、六八三、自六八五至六九〇、

六九二、自七〇五至七一一、七一五、七二六、一〇五八、一

一〇九、一一一〇、二二七八、五〇五一

國朝寶鑑、列聖誌狀、羹墻錄等に就き抄輯したるものにして寶鑑は紀年體、羹墻錄は分類體に編纂し互に其の趣を異にするも各其の歴代二十三世に於ける事實に従ひ類を比して之を記せり其の内容は存心、修己、正家、經邦の大綱等にして専ら世子

の爲に編次したるものなり純祖十八年戊寅刊行す

○ 常訓輯編

一冊

寫本

圖書番號 二九六四

英祖二十五年乙丑世子に訓諭するため親ら常訓一書を著し時の詞臣之を敷演編成して乙覽に供せしものなり敬天、法祖等十七目に分てり

○ 諭濟州三邑父老人民等書

一冊

寫本

圖書番號 七八五九

肅宗二十五年乙卯濟州を賑恤するため御史李選を遣したる時の繪音肅宗四十二年丙申賑恤のため御史黃龜海を遣したる時の繪音英祖五年癸丑に於ける賑恤民瘼、戎政並に文武の才を搜訪するため御史沈聖希を遣したる時の繪音英祖の三十九年癸未島配人の負犯を處分したる後前啣章甫及軍民に曉諭するため御史李壽鳳を遣したる時の繪音等を編纂したるものなり

○ 守城繪音

一冊

印本

史部

圖書番號 六八、三七五六、九八四三

英祖二十七年辛未都城五部の各契をして訓練、禁衛、御營の三軍門に分屬せしめ都城の守護に努力せしめたる繪音なり而して都城三軍門分界圖、都城三軍門分界總錄及守城節目を附載す

○ 戒酒繪音

一冊

印本

圖書番號 三九七二、七八二二

英祖三十三年丁丑大臣卿宰以下百官に諭して酒を禁したる時下したる繪音なり更に諺文を以て音義を解譯し廣く一般人民に布す

○ 諭金吾秋曹兩司繪音

一冊

印本

圖書番號 一三八二

英祖三十五年乙卯慎刑の意を以て發したるものにして從來謬弊の結案にして正法を待たざるもの軍門、梟首、傳旨、正法を追施したる者は並せて之を除き又鞫問人を捕廳にて兼問するを禁し且囂派の人を奴婢に、定屬するを禁する繪音を下し義禁府刑曹に付して之を刊布す

○ 繪音

二冊

印本

一一七

圖書番號 四七七七

正祖の時に於ける綸音を彙録し憲宗癸卯活字を以て印行したるものなり總て二十三篇あり即ち

- 一、諭濟州民人二、諭京畿民人三、諭海西四、諭湖西民人五、諭宗親文武百官六、諭中外民庶七、崇儒重道八、諭京畿洪忠全羅慶尙原春咸鏡六道十一、諭京畿民人十二、諭湖南民人十三、諭慶尙都事十四、諭原春士民十五、諭咸興士民十六、諭大小臣僚十七、世子冊禮後各道身軍布半減十八、褒忠十九、全羅康津等邑民人慰諭蠲恤二十、諭華城城役董工諸臣二十一、諭嶺南士民二十二、諭湖西士夫民庶二十三、字恤典則等なり

○ 綸音

一冊 印本

圖書番號 二九七五

正祖の時頒下したる綸音を編輯せしものにして尊世室、諭濟州、畿甸、蠲恤、海西討逆、湖西蠲恤、討逆洞、諭、崇儒重道、畿湖賜帑錢、嶺南賜錢貂、六道施惠、畿甸、蠲恤、湖南蠲恤、諭嶺南御史關東賜銀貂、北關賜錢布

字恤典則、諭畿湖別賑資、貽燕施惠及褒忠等凡て十條なり辛丑の年より甲辰の年に至る

○ 綸音諺解

一冊 印本

圖書番號 二九七六、四三三二

正祖の綸音を諺文に翻譯し之を編輯せしものにして諭濟州大靜旌義、諭京畿民人、諭湖西民人、諭中外臣庶、諭京畿洪忠全羅慶尙原春咸鏡六道、諭京畿民人、諭湖南民人、諭原春士民、嶺東嶺西、諭咸鏡南北關士民、字恤典則、賜畿湖別賑資及王世子冊禮後各道身軍布折半、蕩減綸音等を合せて十四條なり

○ 御製綸音

一冊 印本

圖書番號 三一、三七三、四一八七

正祖の丙申洪麟漢等を聲討し邦刑を亟正し後中外に其の事實を洵知せしめんとし此の綸音を下し將來を警戒し芸閣に命して活印せしむ

○ 下京兆綸音

一帖 搨本

圖書番號 一〇一四〇

正祖五年辛丑漢城府に綸音を下し水旱盜賊凡そ

生民の疾苦に關するものは趁時報聞し宜に隨ひて處理すべきことを申飭したるものにして漢城判尹金耀命を承けて之を書し板刻したるものゝ場本なり

○ 諭耽羅民人書 一冊

印本

圖書番號 一一五二

正祖五年辛丑御史朴天衡を濟州大靜旌義の三郡に遣し科を設け貢を減し善を勸め弊を詢はしめたる際曉諭の文を製し鄭志儉に命して之を書せしめ刊印頒布したるものなり末に諺文の譯を附せり

○ 英祖定世室綸音 一冊

印本

圖書番號 二五二五、一一三五二、一一三五二

正祖壬寅年英祖の世室に入る事を定むるに付ての綸音にして英祖五十年間の治化を歴敘し其の功德を贊揚し入庭せし宗親文武百官に下諭したるものなり

○ 綸音 一冊

印本

圖書番號 一一四〇八

史部

正祖六年壬寅京畿忠清慶尙三道大に歉し公税を蠲除し翌年癸卯の春調賑を發行するに付人民に發布せし諭京畿大小民人等綸音及諭湖西大小民人等綸音並に地方官に頒下せし諭京畿洪忠道監司守令等綸音及諭慶尙道觀察使及賑邑守令綸音に諺譯文を附して合編したるものなり

○ 諭湖西民人綸音 一冊

印本

圖書番號 二五二七、二五一八、二五一九、二五二七、一〇九九、自一一三五八至一一三六三

正祖六年壬寅湖西歉蕘せしより此の綸音を下送し諺文を以て翻譯し惻恤の旨を廣知せしめ俵災開賑し以て窮民をして奠接せしめたるものなり

○ 諭中外大小臣庶綸音 一冊

印本

圖書番號 二〇七五、二〇八三、自一一一八五至一一二二〇、一一二二二、一一二二三

正祖壬寅宋德相の獄事の後其の根因の如何を明諭し仍りて其の獄に對し曠蕩の典を用ひ有罪者は懷恩改圖せしめ無罪者は釋疑安心せしむるの趣旨を述ふ諺文にて翻譯し卷末に崇儒重道の綸

音を附せり

○ 諭京畿民人綸音 一冊

印本

圖書番號 一一四一〇

正祖七年癸卯京畿の民人に對し抹弊の綸音を降し之を活印せしものなり

○ 諭京畿洪忠道監司守令綸音

一冊

印本

圖書番號 自一一七二至一一七六、一一三八三、一一三八四、一一三八五

正祖七年癸卯京畿洪忠兩道の方伯守令を訓飭せる綸音の單本なり諺文の譯を附す

○ 諭慶尙觀察使及賑邑守令綸音

一冊

印本

圖書番號 一一三七五、一一三七六、一一三七七、一一三七八、一一三七八、一一三八〇、一一三八一、一一三八二

正祖七年癸卯嶺南の地凶年に値ひ賑恤を施すに當り觀察使及守令に綸音を下し賑政に勉めしめたるものなり諺解を附し活字を以て印出願示す

○ 諭督軍御史金載人書 一冊

印本

圖書番號 二五二九

正祖八年癸卯江原道嶺東九郡凶年に値ひ人民餓死に至るもの多し仍て嶺南の粟を移し救活すへきを命し慶尙道の都事金載人を督運御史と爲し諭書を下し之に諺解を附して刊印願示せしものなり

○ 諭湖南民人等綸音 一冊

印本

圖書番號 二〇七九、二〇八〇、二〇八一、自二五〇六至二五一一三、自一一二七至一一三〇、一一九五三

正祖七年癸卯湖南全道歉荒せし際特に慰諭御史を派送し月膳方物と還餉貢布とを停退せしむ因て綸音を下し更に諺文にて翻譯し小阜に至るまで廣く恩恵を知らしめたり

○ 諭濟州綸音 一冊

印本

圖書番號 一一三六八、一一三六九、一一三七〇

正祖の時濟州の饑民を賑恤し尙新黃果祭享黒牛及方物朔膳を併せて停減する旨民人に下諭し之を諺文にて翻譯し以て廣示す

○ 御製諭原春道嶺東嶺西士民綸音

一冊 印本

圖書番號 二五六〇、二五六五、二五六六

正祖七年癸卯原春今の江原道内凶荒に値ひ民將に溝壑に填せんとするを聞き特に繪音を下し慰撫賑救するに際し諺解を附し活字を以て印出し廣く大小民人に頒示したるものなり

○御製諭咸鏡道士民繪音 一冊 印本

圖書番號 二五六七、二五六八、二五六九、二五七〇、二

五七一、一一一七〇、自一一三八六至一一四〇七

正祖七年癸卯咸鏡道南北關歉歳の時に於ける軫恤の繪音にして諺文を以て翻譯を附す

○御製諭大小臣僚繪音 一冊 印本

圖書番號 自二四五九至二四八三、自二四八七至二五〇三、

二五四六、二五四七、二五四八、二五四九、二五六一、二五

六一、二五六三、二五六四、一一一〇〇、一一一〇一、一一

一〇二、一一一〇三、一一一〇四、一一一〇六、一一一〇七、

一一一〇八、一一一〇九、一一一一〇、一一一一一、一一一

二六、一一一二七、自一一三三四至一一三四一、一一三三七

正祖八年甲辰文孝世子冊封の後大小臣僚に同寅協恭し元良を輔導することを諭したるものなり

史部

○御製王世子冊禮後繪音 一冊 印本

圖書番號 一一二一八、自一一三〇至一一三四四、自一

一一三九至一一二四四、一一三七四

正祖八年甲辰文孝世子冊封の時に各道身軍布舊還各貢遺在市民徭役泮人贖錢を折半蕩減し其の繪音と蕩減の數額とを録し活字を以て印出す

○賜畿湖別賑資繪音 一冊 印本

圖書番號 二五七二、二五七三、二五七四、一一三三三、

一一三五四、一一三五五、一一三五六、一一三五七

正祖甲辰京畿忠清兩道の饑饉特に甚し元賑恤以外更に内帑錢五千緡を下給す即ち京畿道には二千緡忠清道には三千緡を別賑せり終に諺文の譯を附す

○飭諭武臣繪音 一冊 印本

圖書番號 二四三八、二五三〇、二五三三、四〇〇一

正祖九年乙巳に下したる飭諭繪音なり由來宦寺の家國に禍せしこと甚た多く歴世常に之を痛めり而して武人は守門傳令の外亦之をして朝政に

一一一

恭せしめす先代英祖は最も宦寺を嚴にせり然るに往往内外相應し不逞の事を爲すものなきに非す故に此の繪音を下し兵曹摠府五營門及各所に掲げ印本と爲し以て頒布し若し違背するあらは逆律を以て論する旨を示せり

○御製表忠繪音

一冊

印本

圖書番號

一五四九、二〇八二、二〇八四、二五四五、三

七六七、一一一五四、自一一二四至一一三二六

正祖十二年戊申李麟佐の亂を平定せる年に逢ひ往事を追感し當年功臣の子孫を召見任用し功臣の祠版に致祭したる繪音及祭文等を録載せしものなり附するに諭北民繪音を以てす

○御製諭咸鏡南北關民人等繪音

一冊

印本

圖書番號

三二六八、一一一〇五、一一一〇八、一一一〇九、自一一一九至一一二二三、自一一三三四至一一三九九

九、自一一一九至一一二二三、自一一三三四至一一三九九

正祖十二年戊申咸鏡の南北關歉荒して百姓離散す仍て奎章閣直閣鄭大容を慰諭御史に命し流民を撫恤し賑政を專管せしめ此の繪音を發して大

小民人に洞諭す

○諭六道繪音

一冊

印本

圖書番號

二五三四、二五三五、二五三六

正祖十五年辛亥京畿洪忠全羅慶尙原春咸鏡六道の飢饉特に甚し適ま元子初度(第一回)の慶に値ひ廣慶の旨を以て六道に賑貸を行ひたる繪音にして卷末に諺文の譯を載せり

○諭楊州抱川繪音

一冊

印本

圖書番號

二五二八、二五三二

正祖十六年壬子光陵(世祖陵)に展拜し陵の附近楊州抱川兩邑に特に施惠し儒生は試製し第を賜はり武士は試射して賜第し朝官の年七十以上及士庶の年八十以上は各其の一資を加へ百歳以上は米肉を加賜し民庶は特に還耗を蠲したる繪音にして卷末に諺文の譯を載す

○諭濟州三邑繪音

一冊

印本

圖書番號

一一五一六

正祖十七年癸丑御史沈樂洙を濟州大靜旌義の三邑に遣し衆瘼を詢咨し苦疫を釐革し庶獄を申理

し人才を搜訪し高年を宴樂し善惡を彰擲し文武を試取し田政、浦政、戎政、馬政を飭勵し及邑守鎮師の臧否を黜陟する旨を一般人民に下諭せし給音にして諺文の譯を附せり

○諭諸道道臣給音 一冊

印本

圖書番號 二二二一、三二四八、三二四九、四一六八、一〇九五、一一〇九六、一一〇九七、一一二七一

正祖十八年甲寅誕彌の辰に當り生民懷保の心倦倦として愈切なり因て大に民力を休養し饑歲には賑恤を施すへきを覺り深く孟子王政の意を省み各道觀察使に諭すの給旨を下し生民をして意のある所を知悉せしめ上下共に大平を致さしめんことを期せり別に諺文に譯し後に附載せり

○正祖給音 一冊

印本

圖書番號 一一三四二

正祖の給音四種を編したるものにして諭諸道道臣給音の外下畿甸傳教並に蠲惠條件十五條諭華城、役董工諸臣給音、全羅道康津、海南、長興、靈巖、興陽、珍島等邑民人慰諭蠲恤給音、諭嶺南父老士民給

史部

音、附蠲恤條數條、諭湖西士夫民庶給音等あり蠲恤條項中には進獻停封、貢賦寬免條件又身米、布、錢、還餉、大同、結錢、漁鹽稅、內奴婢貢及口錢等の件あり

○諭華城城役董工諸臣給音 一冊

印本

圖書番號 二五三一

正祖十八年甲寅華城の城役を經始し工役方に張り竣功の未た及はざるに際し年款を告く因りて姑く停役すへき飭教を下し其の事由を董工諸臣に下諭したるものなり

○諭湖南六邑民人給音 一冊

印本

圖書番號 一一二八一、一一二八二、一一二八三、一一二八四、一一三六四、一一三六五、一一三六六、一一三六七

正祖十八年甲寅全羅道康津、海南、長興、興陽、靈巖、珍島等六邑の歉荒に因り檢校直閣徐榮輔を六邑慰諭使として差送し窮民を賑救し公納を蕩減せしむ仍て給音を諺文に翻謄して大小民人に知悉せしめたり又稅錢蠲減と方物停退の事實を區別して後に錄せり

一一三

○ 養老務農給繪音

一

印本

圖書番號 二五〇四、三三三七、自一〇〇一六至一〇〇七
三、一〇一六九、自一〇一九七至一〇二〇七

正祖二十一年丁巳慈宮週甲の慶に遇ひ養老宴を行ひ仍て務農の旨を主とし小學、五倫行實、鄉飲儀式、鄉約條例の諸書を頒行するに當り京外に下諭したる繪音にして諺文の譯を附し以て解し易からしめたり

○ 斥邪繪音

一冊

印本

圖書番號 一五五五、一九四一、一一五二八

憲宗五年西教の弊害を斥くるため廣く内外の人民に諭したる繪音にして太祖か開基の國是として彝倫を明にし道學を崇尊したる淵源より歴代の訓誨格言等を列記し以て斥邪歸正の要旨を懇諭せり特に卷中諺譯を附して俗解に便す

○ 斥邪繪音

一冊

印本

圖書番號 二四八四、二四八五、二四八六、二五〇五、二五二六、三四九九、自一〇八二至一〇九四、一一〇九八、一一二二八、一一二二九、自一一五五至一一六九、自一二四五至一二三三、自一一五四三至一一五四九

李太王十八年辛巳泰西耶蘇教の信徒中往往風俗を染汚する者あるを憂ひ歸正斥邪の要旨を以て繪音を發し大小臣僚並に一般人民に布諭す活字を以て印出し 末に諺文の譯解を附す

○ 諭八道四都耆老人民等給繪音

一冊

印本

圖書番號 二〇六一、三一六四

李太王十九年壬午軍擾を経過し清兵の駐紮後は王自ら罪辜を引き八道四都の耆老及人民等に對し敷心洞諭したる繪音にして之を真諺兩文に翻譯して頒布せり

○ 教書抄

一冊

寫本

圖書番號 五四二九

李太王五年戊辰以後十餘年間に互り八道監司、四都留守、統制使、摠戎使、京畿水使等に與へたる教諭を抄録したるものなり

○ 封世弟教命竹冊文

一冊

宋相琦等撰 寫本

圖書番號 九八一五

景宗二年壬寅王弟延祢君(即ち英祖)を王世弟に冊し並に王世弟の嬪を冊封したる教文の稿本にして宋相琦李宜顯李觀命洪啓迪等の撰進せしものなり。宋相琦字は玉汝玉吾齋と號す恩津の人霽月堂奎謙の子なり孝宗丁酉に生れ少時同春宋浚吉及尤菴宋時烈に就いて學ひ肅宗甲子登科し官大提學行吏判に至る景宗初年建儲の事に坐し翌壬寅康津に竄せられ其の地に歿す英祖初年乙巳伸復に遇ひ諡を文貞と賜ふ。

李宜顯字は德哉陶谷と號す龍仁の人雫沙世白の子なり顯宗己酉に生れ肅宗甲戌別試に登科し官副提學となり文衡を典る適ま景宗元年建儲の事に因り竄謫せられ英祖初年釋放に遇ひ右相を拜し尋て領議政に至り致仕して其の乙丑に歿す諡して文簡といふ。

李觀命字は子賓屏山と號す全州の人西河敏叙の子なり顯宗辛丑に生れ肅宗丁卯進士に中り蔭縣監を以て己卯文科に登り文衡を典り官左議政に至り英祖癸丑に歿し文靖と諡す。

史部

洪啓迪字は惠伯守虛齋と號す南陽の人監司處厚の曾孫なり肅宗庚申に生れ戊子文科に登り翰林を歴て景宗壬寅に歿す官大憲に至り諡して忠簡と云ふ。

○ 前朝諸陵禁標受教 一冊

圖書番號 五六九九、六六二五、一一五九三

印本

英祖の時松都江都等の地域に於ける高麗太祖以下の諸陵保存方法に關する歷代の教書を輯録して之を校書館の活版に付し其の所在地方及史庫等に分置したるものなり。

○ 各司受教 一冊

圖書番號 七九〇一

寫本

明宗元年丙午より宣祖九年丙午に至る各司傳教の啓下文書を承政院に於て謄抄存案したるものなり。

○ 中朝人收用傳教 一冊

圖書番號 七八九九

寫本

明人の子孫を收用したる傳教を蒐載し李如松祠堂記致祭文等を附せり甲戌乙未兩次は英祖の下

教にして戊申以後は皆正祖の下教なり

○ 綸緯

三〇冊

寫本

圖書番號 二二八五九

憲宗の時に於ける傳教及上疏草記の批答等を檢書官に命じて抄出し年月日の順序を以て編次せしめたるものなり憲宗即位初年甲午より己酉に及へり

○ 大報壇事筵説

一冊

寫本

圖書番號 三三三二

肅宗三十年甲申大臣以下を熙政堂に引見し明神宗の壬辰に東援せし恩を感愴し昌德宮後苑に大報壇を設置する時其の設備の位置と一般の儀式をを論定せし顛末を記載せしものなり

○ 傳教秩

一冊

寫本

圖書番號 一五五四

正祖五年三月十日より翌年四月二日に至る冊寶金銀玉印、御製御筆、譜略、誌狀、玉冊、教命、典章、文字、文簿、書籍の保存曝曬、移送等に關する傳教を輯録したるものなり

○ 具純處分傳教

一帖

搨本

圖書番號 一〇一七八

正祖十一年丁未宣傳官具純其の同僚李潤彬と傾軋の餘遂に潤彬を構陷し嚴杖遠配に處せらる而して行首宣傳官曹學臣は頭目に在り具純の愆愆を被り應憲を捨却せる罪に因り杖配し以て來後を懲戒するため傳教を下し兵曹判書金履素に命じて之を書せしめ其の廳に刻掲したるもの搨本なり

○ 御評兩漢詞命 九卷二冊

印本

圖書番號 五七三、一一五七六

英祖晩齡に及び徐命膺に命じて兩漢九帝の詔制文字を編輯せしめたるものにして毎編英祖の評語を載せ卷末に後録として宋、元、明名臣の贊辭を載す辛巳の刊行に係れり

○ 西漢詔書抄

一冊

寫本

圖書番號 一四四一

漢高祖より成帝の時に至る歴代の詔書を抜抄したるものにして高祖の入關告諭、求賢詔等五章、文

帝の議賑貸詔以下十三章、景帝の立孝文廟樂舞詔以下七章、武帝の復高年子孫詔以下八章、昭帝の令民毋出田租等詔以下二章、宣帝の置廷平詔以下十
七章、元帝の議律令詔以下八章、成帝の報匡衡詔以下六章を載す

○公車類選

四卷四冊

寫本

圖書番號 六一五〇

本書は銓部類、文苑類、奎章類、玉署類、加資類に類別し、卿宰侍從の疏文類を列載したるものなり

○章疏彙攷

九卷九冊

寫本

圖書番號 一七五二

中宗より李太王に至るまでの大臣及下僚の上疏等を収録したるものなり

○疏章類鈔

六冊

寫本

圖書番號 七〇七一

仁祖以後に於ける疏章にして龜鑑又は典則と爲すべきものを抄録せり、分類三十八目中十九目は皆辭職の疏にして他の十七目は君德及時務に關する論議なり

史部

○公車文抄

一冊

寫

圖書番號 一七五四

英祖の時に於ける持平李錫杓等の上疏、諫奏、口供、傳諭等を摭括したるものにして、卷末に古人の疏章を膽抄したるものを附せり

○公車文彙

六三冊

寫本

圖書番號 二二八六三

正祖以後に於ける大小廷紳の疏章を彙録編次したるものなり、總て百十六冊、現本は六十三冊あり

○章疏類攷

八卷八冊

寫本

圖書番號 四七五七

純祖の時に於ける領相以下諸臣の章疏を収録したるものなり、編纂者詳ならず、全編を八卷と爲し、相府類、晋秩類、銓部類、文苑類、奎華類、師儒類、玉署類、藩留類、戶惠類、辭賞類、陳情類、陳勉類、乞骸類、乞養類、閔制類、彈劾類、獄情類、情勢類等に分ち、四百餘篇を載す

○公車文叢

三七冊

寫本

圖書番號 二二八六四

一二七

正祖朝以後に於ける大小縉紳の疏章を順次謄寫し以て後考と爲したるものなり

○ 東賢奏議 二四卷八冊 李喜朝編 印本

圖書番號 一六八一

古來文廟に從祀せられたる九賢の奏議中専ら君徳、治道に關するものを選び輯録したるものにして第一卷は文忠公鄭夢周第二卷は文敬公金宏弼第三卷は文獻公鄭汝昌第四卷は文正公趙光祖第五卷より第十卷は文元公李彥迪第十一、十二卷は文純公李滉第十三卷より第二十一卷は文成公李珣第二十二、二十三卷は文簡公成渾第二十四卷は文元公金長生の奏文なり

李喜朝字は同甫、芝村と號す延安の人、靜觀齋端相の子なり、孝宗乙未に生れ、肅宗の初め遺逸を以て進み官祭酒に止り、景宗甲辰に歿し諡を文簡と云ふ、月沙廷龜より世世文章學術を傳へ喜朝に至り尤菴宋時烈の門に從學し學行最も篤し

○ 退溪戊辰封事 一冊 李滉著 印本

圖書番號 五二四五

宣祖卽位の戊辰李滉が陳勉上疏したる封事にし、て重繼統、杜讒間、敦聖學、明道術、推腹心、誠修省等の目あり、黃海觀察使朴承任海州本を得て伊山書院に贈り壬申榮川郡守許忠吉之を廣布せんと欲し更に校訂して刊行せり

○ 晦菴退溪奏劄 一冊 寫本

圖書番號 一一五二八

宋の朱晦菴の甲寅行宮便殿奏劄と退溪李滉が聖學を敦ふせんとするの主意を以て上進したる戊辰封事とを謄寫したるものなり

○ 栗谷虹變陳戒疏 一冊 李珣著 寫本

圖書番號 一三三六

宣祖の時栗谷李珣が虹變を觀て陳言したる疏文にして七條に分ち第一上下無交孚之實第二無任事之實第三經筵無成就之實第四招賢無收用之實第五群策無救民之實第六遇災無應天之實第七人心無局善之實とし逐條實例を具申し以て警戒の意を表せり

○ 甲戌萬言封事 一冊 李珣著 寫本

圖書番號 一〇六三

宣祖七年栗谷李珥の上進したるものにして主として聖學の要を叙し更に修己安民之要祈天永命之術を述へ縷縷萬言を費せり

○重峯東還封事 一冊 趙憲著 印本

圖書番號 五〇三三

宣祖七年趙憲年三十質正官を以て明京に至り文物制度の盛を見歸京の後之を實地に施行せんと期し聖廟配享内外庶官貴賤衣冠食品宴飲士夫揖讓師生接禮鄉閭習俗軍師紀律の八條を上疏し屢請ふて用ひられす終に十六條の疏を作り未だ上進せずして退隱せり安邦俊之か混没を虞れ印刷に付したるもの即ち本書なり十六條の疏目は格天之誠追本之孝陵寢之制祭祀之禮經筵之規視祖之儀聽言之道取人の方飲食之節餼廩之稱生息之繁士卒之選操鍊之勤城臺之固黜陟之明命令之嚴是なり

趙憲字は汝式重峰と號す白川の人應社の子なり中宗甲辰に生れ明宗丁卯訓導を以て文科に登り

官奉常僉正に止り宣祖壬辰に戰歿し吏曹判書を特贈せられ諡を文烈と云ひ文廟に從享せらる

○伸寃牛溪栗谷疏 一冊 趙光珪等撰 印本

圖書番號 三〇七四、三〇七五、三三六一、三四一七、九

八九六

宣祖二十年丁亥東人西人の分黨方に盛なるや牛溪成渾栗谷李珥東人の攻撃を被り栗谷の門人趙光珪李貴等牛溪及栗谷の爲に寃を訟へんとするも疏終に入徹せず故に栗谷の姪景震更に疏を艸し趙光珪等の疏に附して入呈す

○李忠定章疏

三二卷一五冊 李貴著 印本

圖書番號 四七七七

本書は第一卷より第二十四卷まで伸救栗谷牛溪疏文以下諸疏書文二百餘を録し第二十五卷より第三十二卷には別集附録年譜日記等を載す

李貴字は玉汝默齋と號す延安の人承旨饒の孫なり明宗丁巳に生れ宣祖壬午生員に中り蔭仕を以て郡守を拜し癸卯文科に登り仁祖癸亥反正の事

を賛して靖社勳に策し延平府院君に封せられ官
賛成に至り癸酉に歿す諡を忠定と云ふ仁祖廟庭
に配食す

○翠軒疏筍 三卷三冊 兪伯曾著 印本

圖書番號 五五九六、七三二六

疏筍五十二篇を三卷に分ちて編次し附録に著者
の神道碑銘及諡狀を載す

兪伯曾字は子先、翠軒と號す杞溪の人松塘泓の孫
なり宣祖丁亥に生れ光海君壬子進士及文科に中
り仁祖癸亥靖社勳に錄して杞平君に封せられ官
吏曹參判に止り丙戌に歿す諡を忠景と云ふ

○時務萬言封事 一冊 朴世采著 寫本

書番號 七六五四

朴世采か成均館祭酒たりし時政見を述へたる封
事を輯録したるものにして奮大志勉聖學、正内治、
立規模、振紀綱、求賢才、開言路、制治法、述祖典、法先王、
修軍政、專守禦の十二條に分てり

○長湖封事 二冊 尹敬教著 印本

圖書番號 五〇六三

著者の疏筍、啓辭等を輯録して封事と名け上下兩
編に分ち第一冊とし雜著、世系、年譜、遺事、行狀等を
收集して附録とし上中下三編に分ち第二冊とす
純祖己丑李相瓚之を刊行す

尹敬教字は養一、長湖と號す坡平の人八松煌の孫
なり仁祖壬申に生れ孝宗丁酉進士に中り顯宗癸
卯文科に登り翰苑に入り官副提學に止り、肅宗辛
未に歿す學を從祖魯西尹宜舉に受け聲譽あり最
も疏章を善くす

○石谷封事 四冊 宋尙敏著 印本

圖書番號 一三〇七

肅宗五年己未著者の師尤庵宋時烈か禮訟を以て
許穆尹鑑に斥竄せられたるを憤慨し乃ち禮訟の
始末を論し一大長編を作り短疏に附して肅宗の
覽に備ふ肅宗以て凶書と爲し終に之を杖殺する
に至る尾に著者杖死事蹟及伸冤傳教を附せり
宋尙敏字は子慎、石谷と號す恩津の人尤庵時烈の
遠族にして其の門人なり仁祖丙寅に生れ顯宗庚
子生員に中り肅宗己未杖殺せらる後冤を伸へ工

曹佐郎を贈らる

○ 閔文忠公奏議

一〇卷五冊 閔鎮遠著 印本

圖書番號 四一八九、七〇九六

閔鎮遠の奏議集にして肅宗以後屢次上奏して時事を痛論したる疏、筭啓、議狀、箋等凡そ百數十編を載せり英祖三十二年丁丑に刊行す

閔鎮遠字は聖猷、丹巖と號す驪興の人肅宗の舅維重の子なり顯宗甲辰に生れ肅宗辛未文科に登り丁丑重試して官左議政に至り英祖丁未に歿す諡を文忠と云ひ英祖廟庭に配食す

○ 洪翼靖奏藁

三五卷一八冊 正祖命編 印本

圖書番號 一一四六、一二七三、一二七三、一六九七、一

八九五、一九二四、三九一五

正祖の時特に命して領議政洪鳳漢の筵對諸奏を哀輯せしむると共に其の著書中に就き尙書起居注、中外掌故文字等六類五十有九目を収集せしめたるものなり六類は典禮類、黜陟類、法紀類、財賦類

史部

軍旅類、營繕類にして五十九目は當時治世に關する大小事項を詳説したるものなり君臣際會の盛を窺知するに足るへし

○ 宋樸泉疏末條陳

一冊 宋明欽著 寫本

圖書番號 一一五九六

英祖三十九年經筵官宋明欽か王世子のために故事を進説したる疏文なり

宋明欽字は晦可、樸泉と號す恩津の人同春浚吉の孫なり肅宗乙酉に生る景宗辛丑の士禍に關して科擧の業を廢し默翁に隨ひ沃川塗谷に到り心を性理に潜めて成業す後遺逸を以て召され官贊善に止り英祖戊子に歿す

○ 趙司諫封事

四卷一冊 趙昌期著 印本

圖書番號 六二二三、六三二五、七〇〇六

著者の疏章五編を編輯し附録に其の兄と林泳及金錫胄の祭文を載す其の從子正禮奉化縣に在任の際刊行せり

趙昌期字は文卿、林川の人丹圃希進の孫なり仁祖庚辰に生れ顯宗庚子進士を以て文科に登り官司

諫に止り肅宗丙辰に歿す兄九峰遠期と與に一榜の科に擢てられ俱に名聲ありしか年四十に足らず官兩司に過ぎすして歿す

○ 宮僚疏

四冊

寫本

圖書番號 九九〇一

肅宗景宗英祖莊祖及正祖か世子を以て東宮に在りし時宮僚より呈したる上疏を侍講院に於て謄寫し存案したるものなり顯宗十一年庚戌に始まり英祖十二年丙戌に終る

○ 璣齋繡啓

二冊

朴珪壽著

寫本

圖書番號 四五四六

哲宗六年乙卯慶尙左道御史朴珪壽の書啓別單等を寫録したるものなり一冊は道内觀察使節度使守令等の治蹟の善惡を論し一冊は道内民瘼の掇ふへく善行の彰すへきを論せり

朴珪壽字は桓卿璣齋と號す潘南の人燕岩趾源の孫なり純祖丁卯に生れ憲宗戊申文科に登り文衡を典り官右議政に至り李太王の時に歿す諡を文翼と云ふ

○ 關西辛未狀啓

二冊

鄭晚錫編

寫本

圖書番號 一〇三〇

純祖十一年辛未平安道定州に於て洪景來等叛を謀り帥臣李堯憲等を遣し之を討平す仍て平安監司鄭晚錫反賊と關聯したる罪人を勘處し其の事實を編録して翌年壬申八月入啓したるものなり鄭晚錫字は汝成過齋と號す溫陽の人孝憲公基安の子なり英祖戊寅に生れ正祖癸卯文科に登り官右議政に至り純祖甲午に歿す諡を肅獻と云ふ

○ 朝鮮國辨誣奏文

四卷一冊

李廷龜撰

印本

圖書番號 六六八四

宣祖の時明に對し他意無きを開陳したる數次の辨誣疏にして禮曹判書李廷龜の撰に係り尙は卷末に同人の撰に係る經理楊先生碑文一編を載せり

李廷龜字は聖徵月沙と號す延安の人掌令渾の曾孫なり明宗甲子に生れ宣祖乙酉進士に中り庚寅文科に登りて史局に入り又選れて湖堂に入り文

衡を典り官左議政に至り仁祖乙亥に歿す諡を文忠と云ふ

○陸奏約選 二卷一冊 正祖命編 印本

圖書番號 一七六、自一九一至一九七、自二〇五至二二五、

一一〇、一一二、一一三、一二〇、一四八七、一五

三七、一八一四、一八六六、一九四九、三〇五四

正祖か唐の陸贄奏議中より拔萃せしめたるものにして上卷には二十狀下卷には九狀を載す甲寅に編し丁巳に刊行す陸贄字は敬輿、吳郡蘇州の人十八にして進士となり博學宏辭、德宗の太子たりし時科に應し翰林學士となれり朱泚の亂帝の蒙塵に従ひ當時の制誥、詔諭皆其の筆に成る讀む者感泣せざるなし亂後國政を總攬するに當り讒に遭ひて謫死す諡して宣公と云ふ

○朱文公行宮奏劄

一冊 洪啓禧編 寫本

圖書番號 四六四〇

英祖二十八年壬申洪啓禧か朱子行宮便殿第二奏劄を抄録し節段註釋し經傳を引證して發明し自

史部

己の意見を加へ英祖に進めたるものなり

○君範輯策 一冊 寫本

圖書番號 四八六

人君の典型を論述したるものにして凡て三十七題に分てり即ち存道心、養正氣、去私慾、進經學、選儒臣、導儲嗣、盡修省、戒奇權、立治本、勉躬率、恢公道、求知人、得將相、致隱逸、納諫諍、立紀綱、正風俗、崇節儉、軫民困、恤身役、揀守宰、立薦法、並縣邑、重方面、罷鎮堡、禁折受、改貢案、防進封、去冗官、汰吏胥、廢銅貨、簡詞訟、慎刑罰、備戰守、修關防、講守成、遠酒色等なり作者は南原の人にして英祖の時なりと云ふも其の名を詳にせず

○輔弼全書 一冊 寫本

圖書番號 五七九八

李太王十九年京城變亂以後の國政改革に關する意見書にして内政編、外政編、軍政編の三段に分ち各其の時弊を詳論し附するに自家の改善策を以てせり何人の獻議なるか詳ならず

○論思錄 二卷二冊 奇彥鼎編 印本

一三三

圖書番號 六二五、七七七

奇大升か筵席に於て登對し奏啓の語を編録刊行したるものなり後孫彦鼎正祖丁未に重刊せり奇彦鼎字は國鎮幸州の人副學大升の後孫なり肅宗丙午に生れ英祖癸未文科に登り官工判に至り耆社に入る正祖丁巳に歿す

○ 哲命篇

二卷二冊 許傳撰 寫本

圖書番號 七〇五四

李太王十五年戊寅東宮誕生して五歳を閲す經筵日講官許傳哲命宗堯二編を撰進し東宮を輔導すへき古今の嘉言を備述したるもの即ち是なり

○ 講官論

四卷一冊 崔漢綺著 印本

圖書番號 四八一四

帝王の聖徳を成就するは専ら講官輔導の責任に在りとし古講官の美談忠言を採録して自家の意見を加へたるものなり一卷は帝王學二卷には講官三卷は講義四卷は講規經筵儀及班次圖等なり憲宗丙申の著にして李太王丁丑に至り其の子柄大活字を以て印行す

崔漢綺字は芝老號は惠岡朔寧の人領議政恒の後なり純祖癸亥に生れ乙酉司馬に中り李太王壬申侍從臣の父にして年七十に達せしに因り通政に陞り僉知を拜し己卯に歿す學問淹博見識高明著述殆ど一千餘卷あり地球典要神氣通等の諸書は前人未發の旨を發す其の子柄大は文科に登り官兩司に至り亦能く家學を繼けり

○ 馨香錄

二卷二冊 尹泰駿編 寫本

圖書番號 五九一五

書名は善政を以て馨香に比し之を名けたるものなり上下二卷に分ち上篇には登極より大臣敦勉に至る三十四目を録し下篇には事君より以下匡救に至る三十五目を録す概ね古今施政の格言及朝鮮歷代の教文等を載せ卷末に疏文數章を録す尹泰駿字は稚命石汀と號す坡平の人判書教成の子なり憲宗己亥に生れ李太王癸酉進士に中り乙亥洗馬を拜し壬午文科に登り直閣を歴て官參判に至る甲申の政變に左營監督を以て害に遭以後領議政忠貞公を追贈せらる

○ 未然鏡 一四卷七冊 李啓濂撰 寫本

圖書番號 七二八一

支那上古より五季に至る聖訓の載謨、子史の註評にして苟も後王の鑑戒となるべきものは之を蒐集し其の間自己の意見を附し更に前人の討論を加へ以て李太王に上進したるものなり

李啓濂字は希文、全州の人、參贊聖圭の孫なり、正祖丙午に生れ、李太王乙丑進士に中る

○ 五位龜鑑 一冊 石之珩編 寫本

圖書番號 三二六〇

孝宗四年癸巳編者周易六十四卦中君道受用に最も切要なる文義を折衷撮要し之を五位龜鑑と命名し乙覽に供せしものなり

○ 青宮龜鑑 二卷二冊 李雲翼編 寫本

圖書番號 四七四五

李太王二十年癸未李雲翼か支那に於ける古今の事蹟に付諸書を引證して天理人道の由來する所を詳説し以て王世子の徳器涵養に資したるものなり、震夙建儲設庠、徳性輔養、嘉會賀箋、踐祚瞻系、官

史部

屬に分目す

李雲翼字は聖希、延安の人にして喬愚の子なり、憲宗戊申に生れ、李太王乙酉文科に登る

○ 諫言龜鑑 二卷二冊 寫本

圖書番號 一七五三

本書は上下二編に分ち、上編は虞舜以下新羅、高麗の内外君主の善く諫言を容れ國の改善を圖りたる事蹟に付之か詳解を加へ、下編は夏桀以下廢王禍に至る暴君暗主の善言を用ひずして國家を衰亡したる事歴を摘舉し以て後王の龜鑑を示したるものなり

○ 居官大要 一冊 寫本

圖書番號 七六五五

牧民の官に居る者の大要を論し、民訴、傳令、簿牒、農桑、戶籍、學校、田政、分糶、捧糶、軍器、雜條、賑政等の十三目に區別せり

○ 七事問答 一冊 寫本

圖書番號 七五六五

の中農桑の盛、戸口のの興、軍政の修、賦

役の均詞訟の簡奸猾の息等七事に付問答體を以て敷演せしものなり蓋し守令を任命したる後は承政院より七事の講を受くるを例規とせり次に梧星李元翼其の甥李德沂を戒飭したる四十一條の吏治に關する文字等を寫録せり

○吏事糟粕

一冊

寫本

圖書番號 七〇六九

著者北部都事、兎山縣監等の職に在りし時施行したる檢辭、題辭、報狀、移文、下帖、傳令及傍音等を抄録して一書を成したるものなり

○警民編

一冊

金正國編

印本

圖書番號

自一三四五至一三五八、二五四〇、二五四一、

自三〇二至三〇二九、五七〇二

金正國海西に按節たりし時編したるものにして蠢愚の民人倫の重きを知らず又法制の何たるを解せず爲に犯罪に至るもの多きを歎し父母、夫妻、兄弟、姊妹、族親、奴主、鄰里、鬪毆、勸業、儲積、詐僞、犯奸、盜賊、殺人等の十三目を舉げて警戒せり孝宗七年完南府院君李厚源此の書を諸路に廣布するの筈を

上り附録として各種勸善の書を加へ特に諺文を以て之を譯し一般に廣布せり

金正國字は國弼、思齋と號す義城の人慕齋安國の弟なり成宗乙巳に生れ中宗丁卯生員と進士とに中り己巳文科に魁たり選はれて湖堂に入り官禮曹叅判に止り辛丑に歿す賛成を特贈せられ諡を文穆と云ふ兄弟俱に學を寒暄堂金宏弼に受け學術文章の名を聯ね尤も政事に長し時望甚た重し

○保民格言

一冊

朴聖源編

寫本

圖書番號

一三五五、三二五四、三九五六

英祖三十六年庚辰諸臣に命して世孫のために稼穡の艱難、生民疾苦の狀を聞知せしむるの議あり朴聖源其の意を體し田功民隱に切なる格言を採集し特に保民の二字を冠して進獻したるものなり

○保民篇

一冊

寫本

圖書番號

九八八三

著者保民の本は専ら君徳に在りと爲し德器涵養の方法一項を舉げ次に人才教育方法八項又其の

次に保民方法十七項を列記して人主治民の本源を指示したるものなり

○ 謚法捻記

一冊 李選編 寫本

圖書番號 七二八〇

顯宗九年戊申李選か兵曹に鎮直して編録したるものなり謚法の初始及變遷を攷究し謚號の用字と定義とを備述し終に歷代の謚號に關する論議を略舉せり

李選字は擇之芝湖と號す全州の人にして完南厚源の子なり仁祖壬申に生れ孝宗丁酉進士に中り顯宗甲辰文科に登り翰苑を歴て吏曹叅判に至り肅宗癸酉に歿す嘗て尤菴宋時烈に師事し學行並ひ稱せらる

○ 地方制度

一冊

印本

圖書番號 二九三五、二九三六、一一〇八六

李太王丙申地方制度を改正し地方官制、府郡職員俸給、經費に關する件を勅令を以て頒布し開國五百四年乙未地方に關する勅令を廢止せし等の件に付き内部の存案として之を編刊したるものな

史部

り

○ 字恤典則

一冊

印本

圖書番號

九七三、一四二四、一四二五、一五八六、二〇

七八、二二二〇、二二二一、二二二二、二四一九、二四二〇、

二四二一、二五一四、二五二五、二五二〇、二五二一、二五

二二、二五二三、二五二四、三一六六、三一六七、三三四三、

三二五〇、自三三六二至三三七三、自三三八三至三三四〇、自

三四〇四至三四一〇、自三八三四至三八四七、自三九五八至

三九六五、七八一八、七八一九

正祖七年癸卯棄兒乞食等にして餓死する者多く特に繪音を下し事目を定め惠恤の道を啓けり而して其の事目中に施行の方法を規定し且廣く之を周知せしむるため特に諺文に譯出して都鄙に頒布したり

○ 北學議

二卷一冊

朴齊家著 寫本

圖書番號 一四〇一

正祖二年戊戌朴齊家か清國に游び風俗と制度とを周察し之を詳録したるものにして間間自己の意見を附し内外篇に分ち内篇には車船、城壁、宮室

一三七

道路、橋梁、畜牧、市買、金錢、材木、女服、場戲、語譯、塘報、弓矢、書畫等を三十九目に列し、外篇は農蠶科舉、財賦、官祿等を十七目に列し、篇中に擬疏を加へ、篇末に所懷を附せり

朴齊家字は在先、楚亭又葦杭道人と號す、密陽の人、承旨、珥の子なり、英祖庚午に生れ、正祖己亥奎章閣を新設し、文學の士を選ひて、檢書官を置く、時首として、其の任を膺け、官郡守を歴て、通政階に陞り、純祖の時に歿す、嘗て使价に隨ひて、清に往き、隨園袁枚と交り、詩名大に振ふ

○ 千一錄

一冊

寫本

圖書番號 一五六六

疏議を收録したるものにして、多くは古聖賢の治蹟を引證して、德器涵養の資と爲し、又時務を痛論して、弊政の改革を期したるを見る而して、通編の文字に依り、正祖の時の事實なることを推知し得へし

○ 透書

一〇卷九冊

寫本

圖書番號 五一四三

政令に關し、七十七種の事項を掲げ、其の沿革及利害便否を問答體に依りて記述し、所見を發表せしものなり

○ 左海經邦

二冊

寫本

圖書番號 五三六三

朝鮮時代の政法に關する事項を吏、戶、禮、兵、刑、工の六部に分ち録せしものなり、上篇十二條、下篇八條あり

○ 經濟野言

一冊

寫本

圖書番號 三二七七

禹禎圭の疏文稿にして、經世利財に關する四十五種の疏策議文を輯録せり
禹禎圭字は汝寶、丹陽の人、叙疇の子なり、肅宗戊戌に生れ、英祖丙戌生員を以て文科に登り、官漢城右尹に至り、正祖の時に歿す

○ 時務策

一冊

寫本

圖書番號 三二〇二

著者其の當時の政務に關し、務本、化俗、用人、軍制、關防、糶稅、華城、耽羅、禁盜、防奸、六鎮僧徒議、火砲藏藥議

及武科收箭議等凡て十三條目を講述し乙覽に供せしものなり

○救時急務

一冊 李聖時撰 寫本

圖書番號 二〇八五

肅宗元年乙卯珍山郡守李聖時か救時の策を撰進したるものなり尙書論孟大學中の句を引き宋儒の説を附し而して斷するに自己の意見を以てす凡て五條あり

李聖時字は汝中全州の人守道君德生の後なり光海君壬子に生れ仁祖丙戌文科に登り官郡守に止り肅宗庚申逆獄に拷死す

○舟橋指南

一冊 寫本

圖書番號 三二七二、五四八五、七三二五

露梁津、廣津の兩處に於て臨時架設すへき舟橋に關する事目にして正祖十四年庚戌の編成に係り舟橋指南、廟堂撰進舟橋節目論、辨舟橋司改定節目の三節に分ちて編次せり其の内容は水原に於ける陵園に春秋展謁の際該地渡船の混雜を避くるため牙山訓局及運鹽等の船隻を招集して之を聯

結し臨時渡渉の便に供するの便法を設けたるものなり

○郷憲

三卷二冊 李太王命編 印本

圖書番號 九〇九、九一〇

咸鏡道は即ち太祖發祥の地にして豐沛の故郷なりと稱し因て郷憲四十一條を製し孝寧大君李補繼いて憲目五十六條を述へ世宗十年留郷所磨鍊節目十二條を作り二十一年郷約繪音を頒下せり本書は即ち李太王壬寅其の郷憲に基き編成したるものにして第一卷には濬郷憲目序、太祖憲目、孝寧大君憲目、留郷所節目、正祖繪音豐沛郷座目第二卷には詔勅、掌禮院奉勅節目、内部奏本、奉勅完議節目、疏本記文、京約所座目、第三卷には序文、郷飲酒禮、郷射禮、郷約等を載す

○郷約條目

一冊 印本

圖書番號 四八二

英祖二十二年忠清道報恩郡守金弘得か郡内に施行したる郷約の條目を印刷に付し一般に遵守せしめたるものなり

○環報刪節 三卷三冊

寫本

圖書番號 四五五三

英祖三十六年編者か清京留寓中乾隆庚辰年度の奏議批准等に關する文例を摘録したるものにして其の内容は渾へて清の官府の大小事項に止り絶えて朝鮮に關聯したる事目を觀す

○壯勇營撮要

一冊 壯勇營編 寫本

圖書番號 九九三八

正祖の初年壯勇衛を置き後に營と稱す其の間に於ける官員の改遞及制度變更の概要を録し之を摺疊して小帖と爲したるものなり壬寅より丁巳に至る十六年間の事を略録す

○海西文牒錄

一冊 寫本

圖書番號 七六四一

憲宗十二年丙午黃海監司か道内の弊源を條列して釐正を乞ひし狀啓及天主教人金大建に關したる獄案を記載せり

記錄類

○經筵講義

一冊 金字顯編 寫本

圖書番號 一六八四

宣祖六年より十八年に亘り講官金字顯等か經筵に侍し講義したる筆記にして専ら王者の徳器を涵養するに必要の書を選へり附するに當時の政治を論議應答したるものを以てす

金字顯字は肅夫東岡と號す義城の人なり中宗庚子に生れ宣祖丁卯文科に登り官吏曹叅判に至り其の癸卯に歿す後特に吏曹判書を贈られ諡を文貞と云ふ少時西厓柳成龍之を見て曰く我輩の君に於ける正に壤蟲の黃鵠に於けるか如しと其の推重せられしを見るへし

○書筵講義

一冊 趙靖世編 寫本

圖書番號 一一三一、五七七五、六一三四

英祖の時編者莊獻世子の書筵に侍講すること前後五年其の間に於ける講書の事實を録し之を家に藏せしか不幸にして火災に罹り焼失す後篋底より其の一部を得て修寫し以て永傳を期せり本書即ち是なり正祖十三年の編成に係る

趙靖世は英祖丁巳に生れ純祖の時に歿す官衛率
司禦たり

○賢閣法語

一冊 正祖編 寫本

圖書番號 六八三六

正祖幼冲の時より講筵に於て賓僚の箴戒したる
言を録し英祖五十年に至り之を編成したるもの
なり尊賢閣に於て編したるより賢閣法語と題す

○摘文院講義

三卷二冊 正祖命編 印本

圖書番號 二二三〇、二五三九、三七六六、三八九五、三

八九六

正祖五年摘文院を都摠府に移し座を院中に設け
閣臣と共に近思録を講せし記録にして上下二卷
と爲し別に親臨弘文館講義一卷を附す金載瓚命
を承けて之を編纂す

金載瓚字は國寶、海石と號す延安の人なり英祖甲
午進士及文科に中り純祖の時領議政に登り文忠
と諡す

○講筵說話

二二冊

寫本

史部

圖書番號 四〇五七

純祖六年九月より二十年正月に至る講筵の筆記
にして講書の重なるものは貞觀政要、聖學輯要、孟
子、國朝寶鑑等にして侍講の諸臣は承旨、玉堂、閣臣
及史官等なり

○萬筵講說

二

寫本

圖書番號 一三九二

純祖二十五年より二十七年に亘り王世子(文祖)に
對し宮官李紀淵、李寅泰、洪敬謨、徐在輔、徐熹淳等か
交替進講したる筆記なり

○書筵文義

一〇冊

寫本

圖書番號 一六七六

李太王の二十一年より三十一年に至る十一年の
間書筵に於て宮官か王世子に文義を講進したる
筆記なり

○書筵備覽

一冊

寫本

圖書番號 四八三

書筵講官か經傳の要旨を蒐集し養德、天命、民心、天
時、人事、君德、君道、明良相遇、齊家修身、正誠、致格等の

一四一

目を立て覽に供したるものなり

○ 盧蘇齋侍講錄

一冊 盧守慎著 寫本

圖書番號 一七六七

明宗二年蘇齋盧守慎が珍島謫居中曾て書筵に於て仁宗に進講したる綱目、書傳、近思錄等の事目を追録したるものなり

盧守慎字は寡悔、蘇齋と號す光州の人、中宗乙亥に生れ癸卯甲科第一人たり李退溪と同しく選れて湖堂に入り尹任の士禍起るに迫ひ珍島に配せらるること十又九年其の間人心道心辨及夙興夜寐箴註を著す宣祖の時收叙せられ治本數千言を撰して上進す官大提學領議政に至り宣祖庚寅に歿す他に蘇齋集八冊あり

○ 春坊隨錄

一冊 寫本

圖書番號 七六五二

本書は英祖丁卯、戊辰及己巳年間春坊官員か王世子(英祖)に進講したる筆記を合録したるものなり卷首に召對時の説書文臣韓光會、侍直金教叅等の姓名見ゆ

○ 列聖朝繼講冊子次第

一冊 寫本

圖書番號 三三三六

孝宗以後歷代進講の次第を録したるものにして即ち孝宗、顯宗の東宮の時進講せし書名、肅宗、景宗、英祖の東宮の時及登極の後に進講せし書名、眞宗、莊祖の東宮の時に進講せし書名、正祖、純祖の東宮の時及登極の後に進講せし書名、文祖の東宮の時に進講せし書名、憲宗の東宮の時並に登極の後進講せし書名、哲宗の登極の後に進講せし書名、李太王の登極の後に進講せし書名等を順序に依り年月日に至るまで記載せり

○ 列朝進講冊錄

一冊 寫本

圖書番號 二一〇四

孝宗、顯宗、肅宗、景宗、英祖、莊祖、正祖等歷代の進講書名を載録せるものにして孝宗、東宮の時(乙酉)より正祖、東宮の時(乙丑)に及へり

○ 進講冊子次第

一冊 英祖命編 寫本

圖書番號 五七一七

孝宗以後經筵に於て進講したる書籍の次第を記

載したるものにして英祖五十一年乙未の編輯に係り正祖の世孫たりし時に進講せし冊子をも載録せり

○御射古風帖

一帖 尹行恁撰 搨本

圖書番號 九九九一

正祖十六年壬子親射の時別軍職永興府使朴基豊に古風賞賜の名稱を下賜するに當り永興府に送りし掲板の搨本にして尹行恁の撰文に係る
尹行恁字は聖甫、碩齋と號す南原の人にして林溪集の後なり英祖壬午に生れ正祖癸卯文科に登り文衡を典り官吏曹判書に至り純祖辛酉に死を賜ひしも甲午伸復し文獻と諡す

○感戴廳侍射帖

一冊 別軍職廳編 寫本

圖書番號 九七四三

正祖十六年壬子別軍職諸臣侍射の時親射の中數を記し之に贊辭を叙し軍職等の姓名を列書したるものなり

○御射古風帖

一冊 徐榮輔撰 搨本

圖書番號 一〇二五二

史部

本書は正祖十六年壬子及甲寅の年内苑に於て親射を行ひ奎章閣吏に古風を賜ふ閣吏感激し直閣徐榮輔に請ひ文を撰し且書し恩を紀し以て司戸軒に掲けたる刻板の搨本なり末に閣吏朴允默等別に感懷を識す所あり司戸軒は閣吏の宿直する所なり

徐榮輔字は景世、竹石と號す大邱の人なり大提學徐有臣の子にして正祖己酉文科に登り官大提學吏曹判書に至る諡して文憲と云ふ

○燕射錄

一冊 正祖命編 寫本

圖書番號 七七〇一

正祖の時燕射の儀を行ひし際笏記樂章侍射臣等の姓名、廣載詩及儀注等を録したるものなり

○春臺陪射帖

一帖 奎章閣撰 搨本
徐榮輔書

圖書番號 一一七二四、一二九二六、一二九二八

純祖七年丁卯春塘臺に於て親射の時奎章閣官員承旨、史官等の陪射したる事實及閣員の致謝箋文を成帖せしものなり

○筵說可觀

一冊 朴盛源編 寫本

一四三

圖書番號 七〇七〇

編者か英祖の時に於ける筵說中自己に關する部分を抄録したるものにして戊辰より戊子に至り卷尾に祭文一首、國輓二首あり

朴盛源字は公茂、潘南の人、承旨世城の玄孫にして農岩、金昌協の外孫なり、肅宗辛卯に生れ、英祖癸巳文科に登り、官大司諫に至り、正祖己亥に歿す

○ 孔聖誕辰筵話

一冊

印本

圖書番號 五九三二

正祖十六年八月二十七日孔子の誕辰に當り宴を諸臣に賜ひ孔子の後孫孔胤恒を招き下問す胤恒祖先以來の事蹟及東國在住の情況、其の他詩書等に付て答ふる所あり、本書は即ち其の記事にして又孔孫待遇に關する諸臣の奏對を輯録せり、東國關里志と共に孔蹟を知るに便なり

○ 辛丑引接說話

一冊

寫本

圖書番號 四六一七

景宗元年辛丑、官官文有道、朴尙儉及宮女石烈、必貞等王世弟(後英祖)を除かんとす、王世弟儲位を辭し

て其の毒手を避けんとし、十二月二十二日夜侍講院僚官金東弼等を引接して反覆說話せし事項を記したるものなり

○ 繼述受宴錄

一冊

英祖命編 印本

圖書番號 五四四六

英祖四十二年丙戌進宴を受くるに當り昔年肅宗丙戌の年に行ひし盛禮を追懷し之を繼述するの意を以て繼述受宴と稱し、因て卷首に親製小識を冠し、又親製の夢金尺詞内外宴先唱樂章を附し、且受宴時の傳教及侍宴諸臣の姓名を録し、芸閣に命し之を刊印し以て諸臣に頒てり、卷末に黃景源奉教の序あり

○ 景賢堂巨麻錄

一冊

英祖命編 印本

圖書番號 一五〇三、一五五〇、三一四五、四〇二一

英祖四十三年丁亥正月南有容、金尙翼、朴聖源等致仕の際、養老特遇の意を以て景賢堂に於て宣麻の禮を行ひ、功成名遂身退榮全なる四言二句を與へたる顛末を録したるものにして、卷尾に三臣致仕の教書、致仕人の謝箋及南有容の跋文を附す

○ 癸丑覃恩錄

一冊

印本

圖書番號 一三二四、三二七六

正祖十七年英祖誕生の甲戌より一百年に相當するを以て正月元旦眞殿に於て獻酌の禮を行ひ先代以來の文武功臣金華鎮等二十一人に對し晉秩の恩典を與へたる外庶民一百歳以上の者七十二人を優遇したる覃恩錄なり鄭昌順跋を書す

○ 續經筵故事

五卷二冊

李喜朝編

印本

圖書番號 一二六四、一七二〇、一七二一、二〇六二、九

八九二

朴世采編する所の程朱經筵故事の例に倣ひ朝鮮五賢臣の筵奏啓辭等を合録したるものにして各條下に就き編者の考案を記注し卷末に東賢奏議及續經筵故事を進むるの疏を載す五賢臣は靜庵趙光祖、退溪李滉、栗谷李珣、牛溪成渾及沙溪金長生にして中宗の十二年より仁祖の五年に亘れり

○ 經筵故事比例

一冊

寫本

圖書番號 七二八四

立志進學、克己納諫、事天子、民親賢、遠佞崇儉、持謙、恢

史部

公好生、濯陋、矜細、戒察、矯怠、懋實、慎終等に分條して古今の事例を引證し以て德器涵養の資と爲したるものにして正祖の時奎章閣員の撰したるものなり

○ 經筵故事書進錄

一冊

寫本

圖書番號 一七九二

李太王元年甲子十月より乙丑四月に至る弘文館講筵諸臣の國朝故事を書進したる記録にして國朝實鑑、弘齋全書、羹牆錄、謨訓輯要、祖鑑等の書より嘉言善謨を選取せるものなり

○ 政院故事

一冊

寫本

圖書番號 一〇一八

憲宗二年より哲宗十二年に至る二十五年間に於ける吏、戶、禮、兵、刑、工の六房に關する大小事項に付時時の便宜に應じて教旨を下し其の規例又は處理法等を變改したる政院の沿革記實なり

○ 春坊故事

二冊

寫本

圖書番號 二二六五、六五六六

侍講李址承、加正祖の青宮に在りし時進講したる

一四五

故事を記したるものにして大學、中庸、論語等の時勢に的切なる章句に付敷衍講述せり

李址承字は景祖、延安の人、參判萬恢の子なり、英祖丙辰に生れ、乙亥文科に登る

○ 樂院故事

一冊 李世弼編 寫本

圖書番號 一一五〇三

肅宗二十二年、掌樂院正李世弼、か太廟樂章の不備を論せんとし、疏案起草中病に罹り、上進に及ばざりしを以て、已むを得ず、廟樂の諸章に付其の典故を詳説し、次に樂章に關する諸臣の疏論、啓議等を收輯して、上下二篇と爲し、更に未進の疏を篇尾に附録して、後の考據と爲せり

李世弼字は君輔、龜川と號す、慶州の人、參判時術の子なり、仁祖壬午に生れ、肅宗庚申、經明行修を以て薦められ、參奉に叙し、南臺及書筵官を歴て、官刑曹參判に至り、戊戌に歿す、諡を文敬と云ふ、著す所小朱書論辨經說及答問疑禮等二十餘卷、王朝禮一冊あり

○ 感戴廳故事

二卷二冊

寫本

圖書番號 九七四四、九七九六

感戴廳の故事を録したるものにして、第一卷には孝宗七年丙申より純祖十一年辛未に至る百五十六年間に於ける廳内事項の沿革を列記し、第二卷には李太王十一年甲戌より十九年壬午に至る九年間の事を記載せり

○ 温幸故事

二冊

寫本

圖書番號 一七八、一八九六

英祖三十六年、藥房都提調李瑄の請に因り、王世子脚部の濕瘡治療のため、七月十八日の吉辰を卜し、崇禮門より出興し、西水庫、果川、沙斤山、振威等の地を経て、忠清道温陽離宮に抵り、滯浴十六日間にして、八月一日離宮を出興し、四日に還宮したる沿途護衛の情況、湯浴治效の診案又は土民安慰の事實等に至るまで、當該有司の報告を基礎とし、詳細に記録したるものなり

○ 忠清道大同事目

一冊

印本

圖書番號 一五九四

貢賦は太宗初めて之を定め、綿布、油、蜜、凡百應用の

物皆田結より徴す是れ即ち田貢なり宣祖の初栗谷李珥其の弊害を論し田貢は米を以て收むるの法を行はんことを請ひ光海君の初年領議政李元翼始めて大同法を京畿に試む大同とは田貢を米にて徴收するを云ふ仁祖二年江原道に行ひ孝宗三年右議政金瑨其の法を忠清道に行ふ京畿江原を合せて三道宣惠廳を設け命を承けて節目を定め五年上印して頒布したるもの即ち是なり

○ 全南道大同事目 一冊

圖書番號 一五五六

印本

田貢法は先づ畿甸關東及湖西に施行し湖南には未だ行はず顯宗四年始めて全羅全道に施行せんとし此の節目を撰定啓下し以て印刊頒布せり全南道は全羅南北兩道の地域にして即ち湖南地方なり

○ 璿源錄事目 一冊

圖書番號 九七六一

寫本

仁祖乙酉の歲式年の例に依り王室子孫錄を修補せし時應行したる事目を丙戌に至り錄成したる

史部

ものなり

○ 均役廳事目 一冊

圖書番號 一一二三、一一二四、一一二五、一一二六、一

八四九、七八八二

印本

英祖二十八年壬申特に軍民納布の半額を減免し漁鹽船稅隱結結錢等を以て其の減額數に充當する方法を執り狹めて均役廳を置き都提調の官を設けたり洪啓禧其の提調に任し新定舉行節目を各道各邑に知らしむるの必要を生し宣惠廳事目の例に依り印刷したるもの即ち是なり其の大意は第一、設廳第二、結果第三、餘結第四、海稅第五、軍官第六、移劃第七、減革第八、給代第九、需用第十、會錄等とす卷首に繪音を冠せり

○ 松禁事目 一冊

圖書番號 九五七

印本

正祖十二年に於ける各地の松林松田を監督する監官、山直等の培養保護に關する事目等を記したるものなり

○ 禁紋事目 一冊

印本

一四七

圖書番號 七四八、一五九五、一九六四、二四三七、三二

四五、四〇〇、七九一〇、一一五二二、一一五三二

英祖二十二年時俗の奢侈に流れ服用の制度錯亂せるを以て使節の袞輦輿の翟衣朝臣命婦の章服軍門旗幟の外は一切奇巧の紋服を禁止したるも漸次解怠の弊を生したるため正祖十一年嚴命を傳へて其の標本及罰則等を頒布すると同時に之を鮮清貿易の關門たる義州の府署及譯院等に掲示せり其の事目即ち是なり

○ 加髻申禁事目 一冊

寫本

圖書番號 一五一四、二一〇五、二二〇六、二二二八、二

二一九、二三三二、二三三三、二八四八、二八四九、二八五

〇、三一六一、三三二八、三三二九、三三三〇、三三三一、

三四九八、三八〇四、三九九八、四二七四、五〇五四、自一

一一一至一一一七、一一四〇九、一一五五〇、一一五五

婦女髻髻の流行は都鄙を問はず奢侈を競ひ結婚等の大禮に當りては一髻の價數十百金を下らす貧家の如きは公然婚儀を行ふ能はざるの弊あるを患ひ英祖の時一旦之を嚴禁したるも歲月の久

しき漸次舊習に復するの虞あるを歎し正祖十二年戊申更に諸臣の意見を徴して斷然申禁の方針を取り士大夫妻妾以下の結髮様式を制定すると共に之を一般に周知せしむるため特に諺文を以て譯を附したるものなり

○ 漕弊釐正事目 一冊

印本

圖書番號 一四九五、一一七〇八

官米運漕の弊害を除去する主旨を以て作成したるものなり其の内容は第一に運漕監督官の主管事務各官衙の納入簿冊整理容量器の齊一等を規定し次に稅船の發著經過沿岸に於ての取扱法船賃又は運送時期船師戰船の代用方法各地漕倉の納入石數米質の検査各官署手数料等の事目を詳細に分記せり

○ 八道御史賚去事目 一冊

印本

圖書番號 一一二七

京畿外八道に於ける大小事項に付暗行御史の采訪廉察すべき事項を記したるものなり田政、糶糴、倉庫、軍政、戎器、營將、軍丁、武備、關防、牧馬、道臣、御史、使

臣、均役、奴貢、戡盜、察訪、救恤、刑獄、置郵、船隻、文陰、奴婢、寺祠等に分目せり

○ 海西内奴事目

一冊

印本

圖書番號 三三四二

黃海全道に於ける内奴の復戸及貢布に關し弊害ありしを以て之を定復し減貢を上言し規則を定めて印刷したるものなり

○ 東萊接倭事目抄

一冊

寫本

圖書番

七六四

宣祖四十一年戊申より光海君、仁祖、孝宗、顯宗、肅宗に亘り東萊府に於て取扱ひたる日本使節、漂流人犯罪人及對馬島主との應答、釜山貿易等に關する事實を備録せるものなり

○ 遷園事實

二冊

正宗撰

寫本

圖書番號

三二九五

正祖十三年其の父莊獻世子の園を京畿道水原府花山に遷せし當時の事實を輯録したるものにして定園、裁穴、象設、諏曰、遷奉の五目と爲し又附録として營建、經界、補土、植木、道路、移邑等の細務を詳記

史部

せり

○ 楮竹田事實

一冊

寫本

圖書番號 三四一九

孝宗の時領議政金瑨及曾て全羅、忠清、慶尙各道を經たる監司等の獻議に據り各其の土産に係る楮竹、桑、漆に關する栽培方法竝に反別、産額等を調査記録したるものなり

○ 羅里舖事實

一冊

寫本

圖書番

五九

肅宗四十六年賑恤廳に於て公州羅里村に舖を設け別將を置き魚鹽を和賣せしか後臨陂に移して濟州を接濟し又其の倉庫を羅州濟民倉に移し更に正祖十八年康津に移したる事實を記せり

○ 乾止山禁養節目

一冊

寫本

圖書番號

九七七八

全羅北道全州郡に乾止山あり李王家遠祖世居の地なり國初より工城を築き守護を嚴にす正祖壬寅冒耕と犯罪の弊を發見せしを以て觀察使に飭し更に守護禁養を嚴にし節目を新定す

一四九

○ 肇慶壇守護節目 一冊 李載崐編 寫本

圖書番號 九七四〇、九七四一、九七四二

光武三年己亥編者に命し全羅北道全州に在る李氏始祖の墓地に壇壝を築き禮典を崇奉したる事實及正祖壬寅禁養節目竝に新に定めたる禁護節目等を收輯し又同地に關する記事を抜録せしめたるものなり

○ 三陟兩墓守護節目 二冊 寫本

圖書番號 九七六五、九八七四

光武三年己亥穆祖考妣兩墓所の所在なる三陟地方に掌禮卿李重夏を遣し奉審修築の後墓號を定め考を濬慶と云ひ妣を永慶と云ふ即ち其の守護節目を編成せしものなり

○ 北道陵殿位士節目 一冊 寫本

圖書番號 九八五一

李太王五年戊辰咸鏡道所在各陵殿の凋弊を救ふため道内に居住せる同族より義錢を募集し位士を購入し以て齋官の支供と僕隸の給料とを贍したる節目なり

○ 顯隆園守護軍節目 一冊 寫本

圖書番號 九七八八

正祖十六年壬子筵教に依り顯隆園守護軍の給代齋錢を扃設し園官及員役支供の節目を定めたるもの即ち是なり守護軍等收斂給代條、應役支供磨鍊條、傳授禮錢、齋錢定式條及復戶豫賣禁斷條等追後磨鍊したる者四則を附す

○ 華寧殿應行節目 一冊 寫本

圖書番號 三二四〇

正祖の時華寧殿を水原に建て莊祖の眞を陪安し大小奉審の節次、朔望焚香の儀式、修改、享祀、祭品鋪陳の儀仗、堂郎以下員役の排置等各項應行の節目を規定したるものなり

○ 宗親府節目 一冊 寫本

圖書番號 一五〇七

肅宗の時に於ける筵稟及英祖、正祖、兩代の教旨中宗親府に關するものを聯載せるものなり

○ 宗親府節目 一冊 寫本

圖書番號 九七八五

宗親府の經費に關する事項を記したるものにして年代詳ならず于支を按ずるに丁未より癸丑に至るは憲宗より哲宗に及ぶものならんか

○宗親府宗會節目 一冊 寫本

圖書番號 九七九〇

宗親府に於て毎年春季に執行すべき大宗會小宗會に關する儀禮の方式及職員の文案を列記せるものなり

○德應捧賞節目 一冊 寫本

圖書番號 二三六四

宗親府に於て德應を貸貸する規則なり德應は士大夫家婚禮の時新嫁女子の乗用する彩輦にして世宗の時其の貸貸を濬派の專業とする受教定式ありしか李太王己巳大院君之を改正して宗親府より貸貸し府費に補充することとせり

○宗府釐整節目 一冊 寫本

圖書番號 九七四九

宗親府に於て諸般事務の處理方法を定め其の節目を編成せしものにして憲宗十年甲辰の年に成

れり

○宗簿寺節目 三冊 寫本

圖書番號 九七五九

王室宗親の事を掌る宗簿寺の節目を輯めたるものにして第一冊は肅宗丙戌第二冊は英祖辛巳第三冊は哲宗己未の年に成れり

○宗簿寺己丑節目 一冊 寫本

圖書番號 九七六八

宗簿寺に於ける一年内各項の應用條件を定めたる節目にして純祖二十九年己丑の編成に係る

○宗簿寺辛巳節目 一冊 寫本

圖書番號 九七四八

此の書は宗簿寺一年の應用を釐正立規せし節目にして李太王十八年辛巳の編成に係る

○備邊司節目 一冊 寫本

圖書番號 九八八六

哲宗十一年庚申備邊司に於て宣傳官廳の凋弊を救ふため外邑に關飭し禮本を收捧したる際定めたる節目なり

○備邊司貢弊釐正節目 一冊

圖書番號 九八八二

寫本

貢市より禮曹に應供する諸般の舉行か愈久くして愈弊を生するより備邊司に於て之を釐正し禮曹に交付したるものなり

○内閣故事節目 一冊

圖書番號 五四六九、五五二五、五六六四、五六九〇、五
六九二、六五二一、七七九五

印本

正祖の時奎章閣を設け後閣臣の儀節禮式を講定類紀し節目を制定し正祖五年辛丑啓下して施行せしものなり

○弘文館各道行下禮本新定節目

一冊 印本

圖書番號 五六六九

李太王三十年癸巳弘文館所屬の各道諸官以下に支給すべき金品等の定額を新定し議政府の名目を以て發布したる節目なり

○宣傳官廳受教廳憲 一冊

圖書番號 九八五七

寫本

宣傳官廳に於て僚員に關する完議節目等を蒐録したるものにして純祖二十八年戊子李容純之を編す

李容純字は稚九全州の人判書重庚の玄孫なり純祖辛酉に生れ乙酉武科に登り丙戌宣傳官に入仕し哲宗の時に歿せり官忠清兵使に至る

○宣傳官廳久勤節目 一冊

圖書番號 九七八二

寫本

宣傳官久任者の遷叙に關する節目にして李太王三十一年甲午に新定したるものなり

○宣傳官廳釐正節目

一冊 搨本

圖書番號 一〇一九三

正祖七年癸卯宣傳官廳の例規を改正して廳壁に掲けたる板額を印出したるものなり訓練大將具善復之を書す

○宣薦部薦釐正節目 一冊

圖書番號 五二五一

寫本

武職中宣傳官又は部將の職を廳員の推薦に依り

叙授する際賄賂請託の弊あるより李太王乙丑薦規を釐正したるものなり

○ 宣傳官廳各道行下禮木節目

一冊

印本

圖書番號 三四八四

曾て宣傳官廳を経たる人出てて外任に就く時等級に應し錢若干を其の廳に納め以て公需を補ふ例あり之を禮木と稱し李太王癸巳議政府に於て之か節目を定む即ち是なり

○ 感戴廳憲

一冊

寫本

圖書番號 九七九七

憲宗十五年に定めたる別軍職廳の節目なり卷末に本廳賜物例授謄録を附す

○ 感戴廳憲

一冊

寫本

圖書番號 九七九一

憲宗十五年別軍職廳に於ける廳員新任の際費途制限なきを以て別軍職行首李景夏をして衆議に謀らしめ節約の方法を規定したるものにして其の廳に關する歴代の教文を併録し參照に資せり

卷末に李太王の下教を附載す

○ 感戴廳節目

一冊

寫本

圖書番號 九七四四

李太王乙丑感戴廳即ち別軍職廳に下教して八壯士子孫の外未だ宣傳官を経ざる者は行首別軍職を許さざる事竝に点心米、歲饌米を例に依りて書啓する事等を制定したるものなり八壯士は朴培元、趙壤、申晋翼、張愛聲、吳孝誠、金志雄、朴起星及張士敏にして往時孝宗鳳林大君の瀋陽に質たりし時隨從せる力士なり

○ 感戴廳救弊節目

一冊

寫本

圖書番號 九七八九

李太王二十八年別軍職廳の事弊を釐正するため制定したる節目なり

○ 左侍御廳節目

一冊

寫本

圖書番號 九七六二

李太王二十一年甲午宣傳官と別軍職とを罷め侍御を置き光武四年庚子に至り左侍御六人を更定して別軍職廳を左侍御廳と稱し六年壬寅其の節

目を定む

○ 右侍御廳節目

一冊

寫本

圖書番號

九八四六

李太王三十一年甲午以前武人の宣傳官は更張の實際官制を改正し侍御と爲し侍從院に屬せしも光武四年庚子新に侍御十二人を置き解事四員を擇ひ承傳の任に充て別に右侍御廳の號を立て應行節目を制定す

○ 雲觀節目

一冊

印本

圖書番號

二二二二

正祖辛亥の年觀象監か曆書を修正する際諸般應行の事務と規則を釐正したる節目を編成刊行したるものなり雲觀は觀象監の舊稱書雲觀の畧なり

○ 甲寅新定觀象監眞案節目

一冊

印本

圖書番號

二四三三

觀象監の節目にして正祖三十年甲寅の改定に係るものなり

○ 舟橋司節目

一冊

寫本

圖書番號

一一四三三

正祖の己酉舟橋司(舟橋は造舟爲梁の意)を擧設し幸行の時津路舟橋を掌らしむ其の節目にして凡て四十四目あり

○ 鑄字所應行節目

一冊

寫本

圖書番號

七九〇九

鑄字所に於ける節目にして純祖十四年甲戌の編成に係る

○ 文臣講製節目

一冊

印本

圖書番號

一一四三、一一四五、一一四六、一一四七、一一四八、一一四九、一一五〇、一一五二、一一五九、一九六

〇、一九六五、二四一一、二四三四、二四三五、三七六四

正祖か當時文風の振はざるを憂ひ堂下文臣中年少者を擇ひ毎月一回經史の講議を試験し又一旬一回論策の製述を考試したる節目なり五年辛丑の編成に係る

○ 御考恩賜節目

一冊

寫本

圖書番號

九八五二

成均館儒生の應製文字を親考し入格者に賞賜を施す節次を定めたるものにして正祖十八年甲寅奎章閣に命じて規定せしめたるものなり

○ 幸行時楊州牧結所節目 一冊 寫本

圖書番號 九七八一

楊州地方所在の陵園幸行の時各邑結所に於て諸般の事務を舉行するに當り誅求の弊甚しきを以て先づ楊州結所より其の弊を釐正したるものにして李太王三十一年甲午議政府之を定め宣傳官廳に下付せしものなり

○ 關西各鎮戶斂釐正節目

三冊 寫本

圖書番號 六九

正祖十七年癸丑關西各鎮の戶斂を蠲除して諸般公費を從長矯革し其の收支等の節次を觀察使李秉模か啓聞編成せしものなり

○ 統長窠設置節目 一冊 搨本

圖書番號 一〇四一、一〇二九二

正祖九年乙巳武藝廳に左右統長窠を設置し其の

史部

節目を板に刻して揭示す其の搨本にして奎章閣領籤張經世之を書す

○ 咸興大同庫棹弊節目

一冊 寫本

圖書番號 九八八五

咸鏡道咸興所在の大同庫は附近諸陵寢の支供をも支辨し用多くして弊生するより李太王十年癸酉之か棹正の條目を規定したるものなり

○ 參禮驛禮木新定節目 一冊 印本

圖書番號 三四九四

李太王二十九年癸巳議政府に於て京各司の行下禮木即ち各驛に下給すへき綿布を増減改定し節目を定め各郡各驛に頒給したる際全羅道參禮驛に給せしものなり

○ 沃溝巨沙里浦收稅節目

一冊 弘文館編 寫本

圖書番號 一一四八六

李太王十一年甲戌全羅道沃溝縣巨沙里浦所在の船主に對する收稅を規定したるものなり

一五五

○掖庭署各道帽次新定節目

一冊

印本

圖書番號 一二四七九

掖庭署に於て各道より帽次錢即ち帽子材料の代錢を納付せしめたる例あり李太王十九年壬午世子嘉禮後世子嬪宮司鑰を置き帽錢を排捧する節目を新定し活字を以て印刷したるものなり

○勸農節目

一冊

寫本

圖書番號 三三六一

舍音作人及監打官等の遵行すへき條規を定め以て失錯怠惰無からしめんとせしものにして李太王二十四年丁亥の作成に係るも何人の手に成りしか詳ならず

○經筵日錄

一冊

寫本

圖書番號 七八四八

英祖十九年より正祖五年に至る三十八年間に於ける經筵侍講官の進講を録したるものなり

○內閣日曆

一二四九冊

寫本

圖書番號 一三〇三〇

正祖三年己亥より李太王二十年癸未に至る百三十五年間に於ける奎章閣の日記にして内閣は奎章閣の別稱なり

○孝宗講學廳日記

四冊

寫本

圖書番號 二八二八

仁祖二十三年乙酉侍講院を撤置し世子の講筵を設く孝宗東宮に在りし時春坊桂坊の侍講官を召接して講筵書筵を開設したる事實等を逐日記載したるものにして乙酉より己丑に至る五年間に亘れり

○顯宗講書院日記

一冊

寫本

圖書番號 二八三〇

顯宗世孫たりし時の講書院の日記にして仁宗二十六年戊子九月より二十七年己丑五月に亘り風雨陰晴冊封行禮等の節次講書稟裁講書院衛從司官員の差除等を記載せり

○顯宗春坊日記

一〇冊

寫本

圖書番號 二八二九

顯宗東宮に在りし時の侍講院の日記にして孝宗

元年庚寅正月より十年己亥五月に亘り風雨陰晴、師傳相見禮、經筵書筵の官僚召接及春坊官の任免等を記載せり

○ 肅宗講學廳日記 一冊

圖書番號 一一八三二

寫本

憲宗六年乙巳肅宗東宮に在りし時講筵書筵を設け行したる事實及春坊桂坊の官員入對の事實等を逐日記載したるものなり

○ 景宗輔養廳日記 一冊

圖書番號 一一八三四

寫本

景宗元子たりし時の輔養廳の日記にして肅宗十五年己巳七月より十六年庚午五月に亘り風雨陰晴、輔養官相見禮の節次、員役の設置及誕日問安等を記載せり

○ 景宗春坊日記 一六冊

圖書番號 一一八三三

寫本

景宗東宮に在りし時の侍講院の日記にして肅宗十六年庚午五月より四十六年庚子六月に亘り風雨陰晴、冊禮、師傳相見禮、嘉禮、講筵書筵及春坊官の

任免等を記載せり

○ 英祖春坊日記 四冊

圖書番號 一一八三五

寫本

英祖東宮に在りし時の日記にして景宗元年辛丑八月より同四年甲辰八月に至るまでの事を記載せり、經筵に入侍せし諸臣の姓名席次敷陳せし文義及春桂兩坊官の任免等を備録す

○ 莊祖輔養廳日記 一冊

圖書番號 一一八三六

寫本

莊祖元子たりし時の輔養廳の日記にして肅宗元年乙卯七月より英祖十一年丙辰正月に亘り風雨陰晴、輔養官の相見禮、諭善及屬僚官の差定及孝經小學抄解等採納の事を記載せり

○ 莊祖春坊日記 三〇冊

圖書番號 一一八三七

寫本

莊祖東宮に在りし時の日記にして英祖戊午正月より壬午閏五月に亘り風雨陰晴、動駕時の隨駕、殿座時の侍座、講筵書筵の事實及春坊官の任免等を記載せり

○ 李王春坊日記

三冊

寫本

圖書番號 二二八四九

李王の東宮日記中壬寅丙午兩年分を抄録したるものなり即ち各殿問安景孝殿別茶禮進叅及動輿等の節を略抄せり

○ 李王桂坊日記

三冊

寫本

圖書番號 二二八五二

李王東宮に在りし時の桂坊の日記にして李太王十一年乙亥正月より光武十年丙午十二月に亘り風雨陰晴講筵の召對動駕時の隨駕殿座時の侍座及官僚の賜輿等を記載せり

○ 惠嬪宮日記

二冊

寫本

圖書番號 一三〇二九

獻敬皇后洪氏惠嬪たりし時各殿の問安に内官を遣したる事戚臣別問安の時に於ける賜輿及承言色か諺文の令節を舉行せし事等を記載せり英祖四十年甲申正月より四十一年乙酉十二月に至る

○ 兩朝冊封人學日記

一冊

印本

圖書番號 二〇二八、二四三二、三〇五九

仁祖二十三年乙酉孝宗を世子に冊封し同年入學したる日記と景宗辛丑英祖を世弟に冊封し翌年入學したる日記とを合録したるものなり英祖癸巳之を編録し跋文を製し李思觀等に命して校正せしめ芸閣に於て刊印す

○ 乙未廳政日記

一冊

寫本

圖書番號 一三〇二二

英祖五十一年乙未の冬正祖か世孫として聽政の時原任大臣集慶堂に入侍して上下醱酢せし筵話徐命善の上疏に因り洪麟漢を聲罪せしこと王世孫より四次上疏を爲し聽政を辭巽したること及聽政の後賀を受け廟に謁せしこと等を備録し其の他陪衛節次及聽政追節目を附せり

○ 召對夜對

一冊

寫本

圖書番號 一二四二四

純祖十三年癸酉より三十三年癸巳に至る二十一年間に於ける召對夜對の日子を録せしものなり

原講筵の外朝臣を召し文義を講論するを召對と稱し夜間に召對するを夜對と稱したり

○孝寧殿日記 一冊 寫本

圖書番號 一三〇四三

肅宗昇遐の後魂殿に於て舉行せし諸般の儀節及事實を記載したるものにして庚子六月より景宗二年壬寅九月太廟に附するまで三年間に於ける風雨陰晴、享祀の節次、享官の出入、享需の品目、器數、儀式等を載録せり光武八年甲辰改修す

○孝明殿日記 一冊 寫本

圖書番號 一三〇四二

英祖昇遐の後魂殿に於て舉行せし諸般の儀節及事實を記載したるものにして丙申三月より正祖二年戊戌五月太廟に附するまで三年間に於ける風雨陰晴、別茶禮、享官の出入、享需の多少、其の他の應行事項を載録せり光武八年甲辰に至り更に之を改修す

○孝安殿日記 一冊 寫本

圖書番號 一三〇四四

史部

純祖五年乙丑英祖妃貞純王后昇遐の後魂殿に於て舉行せし諸般の儀節及事實を記載したるものにして同七年丁卯四月太廟に附するまで三年間に於ける風雨陰晴、享祀の節次、享官の出入、享需の品目、器數、儀式等を載録せり光武八年甲辰に至り更に之を改修す

○孝元殿日記 一冊 寫本

圖書番號 一三〇四〇

正祖昇遐の後魂殿に於て舉行せし諸般の儀節及事實を記載したるものにして庚申六月より純祖二年壬戌八月太廟に附するまで三年間に於ける風雨陰晴、享祀の節次、享官の出入、享需の物品、器數、儀式等を載録せり光武八年甲辰に至り更に之を改修す

○孝成殿日記 一冊 寫本

圖書番號 一三〇四七

純祖昇遐の後魂殿に於て舉行せし諸般の儀節及事實を記載したるものにして甲午十一月より憲宗三年丁酉正月太廟に附するまで三年間に於ける

一五九

る風雨陰晴享祀の節次享官の出入享需の品目器
數儀式等を載録せり光武八年甲辰改修す

○ 孝正殿日記

一冊

寫本

圖書番號 一三〇四八

哲宗八年丁巳純祖妃純元王后昇遐の後魂殿に於
て舉行せし諸般の事實を記したるものにして同
十年己未十月太廟に祔するまで三年間に於ける
風雨陰晴享祀の順序享官の出入享需の品目器數
儀式等を載録せり光武八年甲辰に至り更に之を
改修す

○ 孝慕殿日記

一冊

寫本

圖書番號 一三〇四二

李太王二十七年庚寅文祖妃神貞翼皇后昇遐の後
魂殿に於て舉行したる諸般の儀節を記載したる
ものにして二十七年庚寅四月より二十九年壬辰
六月太廟に祔するまで三年間に於ける風雨陰晴
別茶禮享祀等の應行事項を載録せり

○ 孝惠殿日記

三冊

寫本

圖書番號 一三〇二四

光武七年癸卯憲宗妃明憲王后昇遐の後魂殿に於
て舉行したる諸般の事實を記したるものにして
光武十年丙午正月太廟に祔するまで三年間に互
り風雨陰晴享祀の節次享官の出入享需の品目器
數儀式等を載録せり

○ 孝徽殿日記

一冊

寫本

圖書番號 一三〇四九

李太王十五年戊寅哲宗妃哲仁王后昇遐の後魂殿
に於て舉行せし諸般の事實を記したるものにし
て同十六年庚辰七月太廟に祔するまで三年間に
於ける風雨陰晴享祀の順序享官の出入享需の品
目器數儀式等を載録せり

○ 景孝殿日記

一冊

寫本

圖書番號 一三〇四六

李太王妃明成皇后の魂殿日記にして國葬の儀式
享祀の節次都監の別單等を記載せり三十二年乙
未八月より光武二年戊戌八月に至る三週祭まで
の事實を編録す

○ 己亥耆社日記

一冊

寫本

圖書番號 五七九〇

肅宗四十六年春秋巳に六旬に達したるを以て太祖の故事に倣ひ四月十八日を卜し景賢堂に於て耆社の題名式を舉行するに當り朝官四品以上は年七十、五品以下は年八十を踰ねたる者に限り陪宴の恩榮を與へたり本書は即ち其の舉式前後に涉る傳諭上疏、進箋、筭子、設備、飲宴等に關する一切の書類を輯録したるものにして當時盛事の一斑を窺知するに足る

○ 宣廳日記 一〇六冊

圖書番號 一三〇三二

寫本

宣傳官廳の日記にして正祖十年丙午より二十四年庚申に至るもの十四冊、純祖二年壬戌より三年癸巳に至るもの二十八冊、憲宗初年甲午より十五年己酉に至るもの十六冊、哲宗元年庚戌より十四年癸亥に至るもの十三冊、李太王元年甲子より三十年癸巳に至るもの三十五冊なり

○ 感戴廳日記 六〇冊

圖書番號 一三〇三三

寫本

史部

別軍職廳の日記にして正祖十四年庚戌より二十二年戊午に至るもの七冊、純祖元年辛酉より三十一年辛卯に至るもの十四冊、憲宗元年乙未より三年丁酉に至るもの二冊、哲宗元年庚戌より十四年癸亥に至るもの九冊、李太王元年甲子より三十二年乙未に至るもの二十八冊なり

○ 左侍御廳日記 一〇冊

圖書番號 一三〇三四

寫本

左侍御廳の日記にして李太王光武元年丁酉より光武十一年丁未に至る十一年間に亙れり

○ 諫議謄錄 四九冊

圖書番號 九五二

寫本

肅宗以後司憲府、司諫院、兩司臺諫の啓辭を輯録したるものなり、或は災異に因り陳戒するあり、或は懲討の啓辭あり、其の年條は繼續せず

○ 諫議上疏謄錄 七冊

圖書番號 九五三

寫本

司憲府、司諫院、兩司臺諫の論事せし上疏を輯録したるものなり、其の年代は憲宗十四年戊申より李

太王十五年戊寅に至る

○ 諫議笏子膳錄

五冊

寫本

圖書番號 九五四

司憲府、司諫院兩司臺諫の論事せし笏子を膳錄したるものなり、憲宗十四年戊申より李太王七年庚午に至る

○ 會盟膳錄

一冊

寫本

圖書番號 一二八七二

仁祖戊辰の服武、寧社兩功臣、丙戌の寧國功臣、肅宗庚申の保社功臣、景宗壬寅の扶社功臣及英祖戊申の揚武功臣等の勳案に録名し勳券軸を頒給する時會盟祭を行ひたる節次を録したるものなり

○ 繼後膳錄

二〇冊

寫本

圖書番號 一二八六九

後無き者率養を爲さんと欲するときは上言又は禮曹に呈單して禮斜を受く本膳錄は光海君十年戊午より哲宗二年癸亥に至る禮斜の成給を載せり

○ 祈禳祭膳錄

一冊

寫本

圖書番號 一二八八七

地方祈禳祭、國祭及解恠祭の膳錄なり、癘疫あれば祈禳祭、蝗虫あれば漙祭、地震あれば解恠祭を設行するを例としたり、仁祖十六年戊寅より肅宗十九年癸酉に至る

○ 國朝陵寢膳錄

一冊

寫本

圖書番號 一二八九〇

仁祖六年庚辰に於ける三陟の穆祖考妣の墓を守護する定規と辛巳光陵封植の事、壬午祖墓の尋覓、咸興本宮祭祀の定規、黃池奉審本宮祭執事定規、癸未本宮獻官等の定規、黃池の偷葬尋覓、大院君房等の祭肉設定、孝宗癸巳本宮堤防の定規、丁酉穆清殿の修築、顯宗癸卯本宮堤防、己酉穆清殿の修舉、肅宗乙卯皇祖墓の修築、戊午本宮祭官參奉の差定及己未本宮祭官定式等を記載せり

○ 水原旨令膳錄

三冊

寫本

圖書番號 一二五二

正祖十三年己酉莊祖を顯隆園に移安し前後水原府及京畿監營に下したる有旨と傳令とを膳錄し

而して壯勇營の關文、狀啓及別單を附す己酉より辛亥に亙れり

○ 弘文館褒貶謄錄 一冊

寫本

圖書番號 七八二六、九八六八

正祖七年癸卯六月弘文館に於て褒貶座起したる座目を謄載したるものなり

○ 水部謄錄 一冊

寫本

圖書番號 五七二二

工曹に於ける諸般舉行の事を録したるものなり
李太王十五年戊寅より起り二十六年己丑に止る
水部は工曹の別稱なり

○ 學校謄錄 七冊

寫本

圖書番號 一一八七七

學校に關する一切の事項を記載したるものにして、
郷校の修改、移設、風雨に頽歴したる後の慰安祭、
位版の傷損或は偷失、諸賢の從祀、校案、帳簿、學吏の
料布設定に關する禮曹の入啓處理等を載す第一
冊は仁祖己巳に始り孝宗癸巳に至り第二冊は孝
宗甲午に始り顯宗壬寅に至り第三冊は顯宗癸卯

史部

に始り戊申に至り第四冊は顯宗己酉に始り肅宗

戊午に至り第五冊は肅宗庚申に始り壬戌に至り

第六冊は肅宗癸亥に始り己巳に至り第七冊は落

帙し第八冊は肅宗壬辰に始り景宗甲辰に至れり

○ 樂掌謄錄 一冊

寫本

圖書番號 一一八七九

樂院に於て一切の風樂に關する事項を録せしものなり即ち風物の散失、官妓の收拾、籥、篳篥、用竹物の上送に關する關飭、樂工、樂生等の付料、舞童の抄擇、工生の收布、樂生の被災、復戶變通、典樂の加資其他の事項を載せり仁祖十五年丁丑より肅宗十年癸酉に亙る

○ 軍門謄錄 一冊

寫本

圖書番號 一一四八三

宣祖二十八年乙未二十九年丙申兩年間に於ける軍務に關する公文を謄出したるものなり而して當時軍務は體察府の主管なりしを以て卷首に都體察使軍門謄錄と題せり

○ 宣傳官廳入啓謄錄 一冊

寫本

一六三

圖書番號 一八四五

英祖四十一年乙酉より純祖九年己巳に至る四十五年間に於ける宣傳官廳の奉命入啓の事項を録したるものなり

○ 歲船定奪謄錄

二冊

寫本

圖書番號 二二八八

宣祖二十五年壬辰の戰役局を結ひたる後釜山鎮に館を設けて交際を開始し米布及雜穀を歲定輸出する條約成立したるに付毎年對馬に送船輸出することとし之を歲船と稱したり即ち其の謄錄にして又仁祖丁丑より肅宗丁巳に至り歲船減額の事を以て前後交渉せし東萊府使及慶尙左水使の狀啓禮曹及備邊司の啓本、關文等を併載せり

○ 回謝差倭謄錄

一冊

寫本

圖書番號 二二八三

仁祖十五年丁丑より肅宗四年戊午に至る日本通信差官の應接節次を備録し又東萊府使の狀啓禮曹に於て稟定啓下したる義例及贈與物品の名目數交等を詳載せり

○ 訓諭都監謄錄

一冊

寫本

圖書番號 三九五四

英祖十九年癸亥世子(莊祖)の冠禮を行ふに際し訓諭を撰して世子に與へ弘文館に命して之を石刻印出せしむ即ち其の謄錄にして諸員稟定の筵說、物品供進の甘結、印出粧冊後の封進の儀式、監督諸員の官職、姓名及施賞の始末等を録せり

○ 萊府交隣謄錄

一冊

寫本

圖書番號 九九一〇

東萊府に於て日本と交通せし時の謄錄にして漂差、告還、回謝、出火、移館、致賀、告訃、遠式、歲船、鷹連、沙器、論賞、徵債、作掣等を分目列記せり

○ 向化人謄錄

一冊

寫本

圖書番號 九八八一

宣祖三十六年癸卯禮曹典客司に於て向化人に關する事實を謄錄したるものなり

○ 接待倭人事例

一冊

寫本

圖書番號 九七六三

仁祖十五年丁丑より孝宗、顯宗を経て肅宗十三年

丁卯に至る間に於ける日本との往來使節、漂流人、釜山貿易行過道路等の諸規定及慣例を列記せり

○東萊府事例

二冊

寫本

圖書番號 四二七二

李太王五年戊辰に於ける東萊府の行政守備、錢穀、戸數、面積、金穀收支等に關する事例にして、戶總、田賦、軍總、府司、吏房、戶房、兵房、禮房、工房、承發、軍器、山倉、守倉、大同、防役、朔膳、醫生、官廳、會計、貿易、書契、釜倉、日供、支持、接賓、雇馬、鄉廳、中營、軍官、教練、將官、別騎、親兵、作隊、守城、武士、都訓、紙倉、銀貨等に分目せり

○啓下咨文錄

二冊

寫本

圖書番號 七九〇二

李太王十八年辛巳及十九年壬午清國禮部に對し發したる咨文にして乙覽を経て啓下したるものなり辛巳の件は機務衙門に於て臆置し壬午の件は承文院に於て臆置せり

○宣傳官書啓草冊

一冊

寫本

圖書番號 七八七一

純祖及憲宗の時宣傳官命を承けて各所に摘奸し

史部

或は地方に派遣せられたる時其の地の情況を報告したる書啓の草本にして總て十二通あり

○別軍職書啓草冊

一冊

寫本

圖書番號 七八七一

李太王十年癸酉別軍職等命を承けて諸陵を審して報告したる書啓の草本なり

○黃海水營啓報錄

一冊 閱成鎬編

寫本

圖書番號 三八〇一

李太王十一年甲戌黃海水使閱成鎬の到任後三年間の狀啓と報狀とを録したるものなり

閱成鎬字は聖和、驪興の人副總官哲の孫なり純祖

辛巳に生れ武科に登り官黃海兵使に至れり

○瀋陽狀啓

一〇卷一〇冊

寫本

圖書番號 一八七八、九九一八

仁祖十五年丁丑清兵京城に侵迫し王南漢に播遷下城し鳳林大君(孝宗)を瀋陽に質たらしむ丁丑正月より癸未十二月に至る七年間の事狀を一一啓聞したるものなり

○侍從院奏本

四冊

寫本

一六五

圖書番號 九八二三、九九二七、九九二八

侍從院の職務に係る宮門の標信、儀仗の磨鍊等を奏下したる文書にして光武七年癸卯より光武十年丙午に至るまで原本の儘編綴したるものなり

○ 歴代帝王考

一冊

寫本

圖書番號 一七七

歴代帝王姓諱考、尊號考、年號考、附同號、陵號考、附同號の四大綱目に分ち姓諱考は支那五帝より明の永歴帝に至り尊號考は唐の中宗より清の世宗に至るまでを記し年號考は漢の武帝より清の嘉慶に至り其の下に新羅、渤海、秦封、高麗、安南及日本孝徳天皇大化より天明までを擧げ次に南朝を附記せり附同號には同年號、王陵考には漢以降明、清及高麗諸王の陵所を收め附同號には列代同名のものゝを擧ぐ

○ 宗廟列聖徽號

一冊

寫本

圖書番號 九八三四、九八三六

京城の宗廟十八室の廟號、尊號及諡號を位版の書例に依り列記せり而して太祖、莊祖、正祖、純祖及文

祖を皇帝に追尊したる後に記したるものなるを以て李太王光武三年以後の作成に係る

○ 永寧殿列聖徽號

一冊

寫本

圖書番號 九八三五、九八三七

京城宗廟内の永寧殿十四室の廟號、尊號及諡號を位版の書例に依り列記したるものなり而して眞宗を第十四室に配せり眞宗を永寧殿に遷したるは李太王光武三年莊祖を追崇したる後の事に屬するを以て作成は其の以後に在るへし

○ 大東掌攷

一三冊

洪敬謨編 寫本

圖書番號 九五六

檀君以降朝鮮純祖に至るまでの國名、姓氏、年代等を記載したるものにして本編及別編あり第一は歴代考第二は椒掖、宗英、國舅、儀賓、輔相及冢宰攷第三は司馬攷、文衡攷、附圈點錄第四は文任、湖堂、玉署、講官及國子攷第五は内翰攷第六は内翰薦圈錄及内閣攷第七は中書攷、銓郎攷第八は司助攷第九第十は方伯攷第十一は方伯攷、使星攷第十二は戎垣攷、耆社攷、休退攷等にして別編は儒林、清吏、儒賢門

人名將文苑、太廟從享、詩人筆苑、莊陵配食及書家攷等なり

○東國文獻 四卷四冊

印本

圖書番號 四二三八

儒生金性漑の校正に係り、井邑の忠烈祠に於て朝刊したるものにして、朝鮮太祖の初より純祖の時に至る諸名臣の畧傳を録せり、其の目次は第一卷相臣、文衡、湖堂、奎章、第二卷功臣、清白、耆老、南臺、品職、顯官、大官、筆苑、畫家、第三卷儒林、門生、名臣、第四卷文廟、太廟院宇等なり

○御定人瑞錄

四卷二冊

印本

圖書番號

二八三二、四一七四、四一七九、四一八〇、四一八一、四一八二、四一八三、四三三九、四三六〇、四四三

五、自四四三六至四四四七、五〇二二、五五〇五、五七六三、

五七六四、自六一八六至六一九六、自六九三一至六六三八、

六六九六、自六八六九至六八九〇、六九九四

正祖十九年乙卯英祖、金田壽五十一、莊獻世子嬪洪氏六十一に達し、且正祖の即位二十年に當りしを以て、諸廷臣の進言を納れ、祝賀の典を擧ぐると共に、朝官七十以上又は七十以上の僧老耆並に士

史部

庶人八十以上又は八十未滿の僧老耆及百歲以上の高齡者に對し、爵又は木綿等を頒ち、八道總計七萬五千一百人に達せり、本書は當時人瑞の盛を記したるものなり

○鹵簿式

寫本

圖書番號

九九五〇

鹵簿式は國初より之あり而して、本書は英祖三十八年壬午出駕の大小儀仗を列記し、鄭のものにして、第一に詔勅を迎へ、社稷を祭り、宗廟に享する時は大駕式を用ひ、文昭殿、先農、文宣王を祭り、射壇に行射し、又は射壇の閱射及武科殿試の時には法駕式に據り、拜陵又は門外の行幸は小駕式とし、傳香命使の儀仗を細仗と定め、其餘は總へて細仗の半數を用ゆ、次は祈雨祭、王嬪、王世子、世子嬪、王世孫等の儀仗式にして附するに、政殿朝賀、同上進宴、仁政門朝參、黃儀仗、影幘細儀仗、行用細儀仗並に樂部の定員等を以てせり

○王大妃勳駕儀節 一冊

寫本

圖書番號

九九五八

正祖の時王大妃動駕の時の儀註と節目とを預定し侍衛班次の圖を附したるものなり

○ 惠慶宮動駕儀節 一冊

寫本

圖書番號 九九六〇

正祖初年莊祖の妃洪氏を惠慶宮と稱し其の動駕の時の儀註、儀仗、鼓吹、輦輿、仗馬、侍衛、差備、班次等の節目圖式を政院に命し規定せしめたるものなり

○ 慶壽宮陪衛儀節 一冊

寫本

圖書番號 九九六一

正祖の初年和嬪尹氏を納れ慶壽宮と稱し其の陪衛の儀節を定めたるものにして即ち德應式陪衛各差備及班次圖式等なり

○ 元子宮陪駕儀節 一冊

寫本

圖書番號 九九五六

純祖九年己巳文祖誕生し越えて三年辛未元子宮陪衛の儀節を定めんとし都承旨洪義浩に命して撰次せしめたるものなり即ち儀註、儀仗、鼓吹、輦輿、内侍衛各差備、外侍衛班次節目及圖式等あり

○ 嘉順宮動駕儀節 冊

寫本

嘉順宮綏嬪朴氏(純祖の生母)動駕の時の式次、儀仗、鼓吹、輦輿、侍衛差備班次及節目圖式等を記したるものなり

○ 各殿宮動駕儀節 一冊

寫本

圖書番號 九九六二、九九七四

内殿、嬪宮、元子行啓の時に於ける儀註、儀仗、鼓吹、輦輿、内侍衛差備、外侍衛班次節目、門路、班次圖式等を記載したるものにして純祖の辛未承政院に命し編成し各史庫及政院禮曹兵曹に分藏したるものなり

○ 咸興本宮儀式 二卷一冊

印本

圖書番號 二〇四二、二三八六、二三八二、二五八一、二八二、三三五五、三八〇〇、二二四一

咸興本宮の儀式を記したるものなり咸興は太祖舊栖の地にして開國の後本宮を置き其の祖先の神位を安す又太祖の遺教に因り太祖及神懿王后の神位を安し肅宗丙子の年更に神德王后を追享せり此の書の内容は第一卷に建置、傳教、祝文、奏啓

第二卷に圖式、祭品、祭器、笏記、排設、修理、進供、官屬、節目等を載す。正祖乙卯序を製し、咸興監營に命じ刊行せしむ。

○ 永興本宮儀式 二卷一冊

印本

圖書番號 二〇四〇、二三八一、二九三三、二九三四、三

六四七、三六四八、三九九〇、一〇八〇

永興本宮の儀式を記したるものなり。永興本宮は元永興府東二里に在り太祖の父の舊邸にして太祖潛邸の當時祭星の處なり。宮制の成りし後太祖と神懿王后の位版とを奉安し、肅宗の時神德王后を追享し、正祖の時太祖の父桓祖大王、母懿惠王后を躋享せり。正祖乙卯咸鏡監營に命じて刊行せしむ。

○ 宮園式例

一冊 英祖命編 寫本

圖書番號 二〇六六、二〇六七

英祖二十九年癸酉毓祥宮と昭寧園に於け諸般の儀式、節例を定め具允明等に命じて編次せしめたるものなり。英祖の私親淑嬪崔氏の廟を毓祥宮と稱し、墓を昭寧園と云ふ。

史部

○ 宮園式例補編

一冊

寫本

圖書番號 二〇六八、二〇六九

英祖の二十九年癸酉、各宮、各園の儀註を釐正し、宮園式例補編と稱し、前式例冊と同しく、眞く卷首に英祖の序あり、禮曹判書洪鳳漢等奉命編輯せり。

○ 宮園儀

二冊

寫本

圖書番號 一八九一、一八九二、一八九三、一八九四、一

九三五、二〇三五、二〇三九、三七九〇、三七九一

正祖即位の初、父莊獻世子(後に追尊して)の廟を景慕宮と稱し、園を永祐園(後改めて顯隆園と爲す)と稱し、而して宮と園とに於ける諸般の儀式、節次を制定したるものにして、首に圖説を掲げ、次に儀註を録し、宮園に關する傳教文字を附録とし、金華鎮等之を編修し、九年乙巳活印す。

○ 宮園展省錄

一冊

寫本

圖書番號 三七五五、九九二二

正祖丙申八月即位の初より乙巳に至る十年間に、景慕宮と永祐園に展省したる月日を親記したるものなり。

一六九

○園幸排設定例

一冊

寫本

圖書番號 二〇二四、三二八七

莊祖を顯隆園に葬り正祖の園に行幸したる時行宮に排設する諸具數交を定めたるものなり

○皇壇儀

二卷二冊

寫本

圖書番號 三一九一

皇壇即ち大報壇に關する一般の儀註を條列したるものなり

○儀仗班次圖

一冊

寫本

圖書番號 九九四四

朝鮮國初より動駕の時に於ける儀仗の數交と從官の班次及位置とを標記したるものなり純祖の時に至り多少増補せり

○會講班次圖

一冊

畫本

圖書番號 一〇二九六

便殿會講の儀式を圖し之を帖と爲したるものなり

○世孫册封儀便覽

一冊 英祖命編 印本

圖書番號 一六六〇、二四二三、二九四三、三五四七、四

〇〇九

英祖二十八年經筵叅贊官金致仁、李益輔等に命し編成せしめたるものにして其の要は國初以來世孫の封典は世宗の時に於て舉行したる外禮曹と雖其の前例を知悉せず英祖二十七年王世孫を封する時朝臣等は其の爲す所を知らざるの失態ありしたため内閣日記に就き之に關する故事を摘録して一部と爲し之を世子册封の末に附したり其の後政院日記、講書院日記、禮曹儀註、諸教令等を參酌し以て永世の規範と爲したるものなり

○三班禮式

二卷一冊

印本

圖書番號 五二一七、五二一八、五二一九、五二二〇

李太王三年に定め五年再版に付したるものにして上卷には大官以下體禮、文蔭武官相見儀、座避儀、下馬儀、乘馬條例、停望式及銓罰下卷には外官體例及別星之行等を載す

○國朝榜目

一〇卷一〇冊

寫本

圖書番號 五二〇二

太祖元年壬申より李太王十四年丁丑に至る間の

文科及第者を載録したるものにして卷首には高麗光宗九年戊午翰林學士雙翼の議を用ひ詩賦、頌及時務策を以て進士を試取したること及高麗歷代の科舉登第の人名若干を蒐録せり

○ 國朝榜目

圖書番號 一一六五五

一二卷一二冊 寫本

太祖以降李太王三十一年に至る歷代の文科及第者を載録せるものなり

○ 國朝文科榜目

圖書番號 一〇六

一六卷八冊 寫本

太祖以後英祖に至る歷代の間文科に及第したる者の人名録にして各名下に就き系統、年齡、鄉貫を記註せり

○ 文科榜目

四卷四冊

寫本

圖書番號 三四、三五、三六、七四三

文科に及第したる者の人名録にして字、本、眞、年齡、終職、父名等を註明して後考に便せり第一卷は宣祖己亥に始り顯宗戊申に至り第二卷は英祖辛未に始り丙戌に至り第三卷は純祖辛酉に始り辛卯

史部

に至り第四卷は憲宗乙未に始り李太王乙酉に止れり

○ 增廣別試文科殿試榜

一冊 寫本

圖書番號 一三三〇

孝宗元年庚寅より英祖三十九年癸未に至る增廣別試及文武科殿試の榜目にして孝宗の時は壬辰、顯宗は庚子、壬寅の年に之を行ひ肅宗は乙卯、戊午、壬戌、癸亥、己巳、辛未、己卯、乙酉、庚寅、癸巳、甲午、己亥、景宗は辛丑、癸卯、英祖は乙巳、丁未、乙卯、庚申、甲戌、癸未の年に之を行へり

○ 文科榜目類錄

一冊 寫本

圖書番號 一三〇八

文科の謁聖、庭試、重試、道科に及第せし人名録にして姓名、年齡、父名、居住を詳録して後考に便ならしめたり仁祖己丑に始り英祖丁丑に至る

○ 國朝文科姓譜

三冊 寫本

圖書番號 八一〇、一五四八

太祖より正祖に至る各代に互り文科に登第したる者の姓名、本貫を類聚載録したるものにして父

一七一

祖以上登科の者あれば特に之を記せり

○ 國朝文科姓譜

二卷二冊

寫本

圖書番號 三二五四

朝鮮太祖より英祖に至る歴代の文科登第者の名字、官職、鄉貫等を年代並に姓を分ちて編録し考閱に便せるものなり而して玉堂は紅圈一、湖堂は紅圈二、文衡は紅圓點二、提學は紅圓點一を各名傍に附して之を區別せり

○ 國朝文科姓譜

二卷二冊

寫本

圖書番號 一三三五

太祖以來の文科及第者の姓譜にして其の名下に登科の甲子及父子の關係等を記注し尙ほ官職を併録せり

○ 中京科譜

二卷一冊 崔文鉉編寫本

圖書番號 一二四三二

文科及生員進士に及第したる開城人の八世譜にして成宗より李太王に至る四百餘年間八百三十人を列記せり

○ 顯宗壬寅增廣文武科榜目

一冊

印本

圖書番號 七〇五五

顯宗三年壬寅孝宗祔廟、大王大妃王大妃尊崇王妃冊禮、元子誕生の五慶を合し増廣別試を設けたる時の榜目なり職姓、名字、生年、本貫、居地、父職及父母の存歿、兄弟の有無等を載録す

○ 英祖乙酉式文武科榜目

一冊

印本

圖書番號 一三三三

英祖四十一年乙酉式年の文武科榜目にして卷首に英祖の序あり

○ 英祖甲午登俊試榜

一冊

印本

圖書番號 四八五、一四一八、三五三〇、三九二四

英祖五十年甲午景福宮に幸し文臣は従一品より下大夫に至り武臣は正二品より曾て節度使を経たる者に至るまで悉く試取し文より十五人武より十八人を選ひたる時の榜目にして卷首に三十四次の傳敎を載せ次に序文を書し尾に謝箋を附載せり

○ 正祖甲辰册封慶龍虎榜

一冊

印本

圖書番號 二二九五、二二九六

正祖八年甲辰文孝世子を册封し文武科を設け文より十八人武より二千六百九十二人を試取せし時の榜目にして卷首に正祖の序を載す

○ 正祖甲寅謁聖文武科榜目

一冊

印本

圖書番號 三三〇〇

正祖十八年甲寅文廟を展拜し舊例に循ひ文武を試取せし時の榜目なり

○ 正祖甲寅庭試文科榜目

一冊

印本

圖書番號 七四九

正祖十八年甲寅慈殿五旬慈宮六旬の二慶を合し庭試を設けたる時の文科榜目なり

○ 正祖庚戌増廣文武科榜目

一冊

印本

圖書番號 一〇六一、一五〇八

史部

正祖十四年庚戌元子誕生あり中外に德音を布き増廣別試を設けたる時の文武科榜目なり

○ 正祖乙卯式文武科榜目

一冊

印本

圖書番號 七四七

正祖十九年乙卯式の文武科榜目にして例に循ひ編刊せしものなり特に榜中人の父と祖曾前乙卯生員進士及文科に擢したる者を記せり

○ 純祖丁亥増廣文武科榜目

一冊

印本

圖書番號 一四五四

純祖二十七年丁亥元孫誕生す上尊號の慶と合し増廣別試を設けたる時の文武科榜目なり

○ 純祖己丑庭試文武科榜目

一冊

印本

圖書番號 一五二二、三三七三

純祖五年己丑壽數四旬と即位三十年とに因り庭試を設けたる時の文武科の榜目なり

○ 憲宗甲辰増廣文科榜目

一七三

一冊

印本

圖書番號 一〇八六

憲宗十年甲辰痘候平復の慶を以て増廣別試を設けたる時の文武科の榜目なり

○ 李太王壬午増廣文武科榜目

一冊

印本

圖書番號 一二八九

李太王十九年壬午東宮の入學冠禮嘉禮の三慶を合し増廣試を設けたる時の文武科の榜目なり

○ 英祖乙酉式司馬榜目

一冊

印本

圖書番號 八五〇

英祖四十一年乙酉式の榜目にして司馬榜目は生員進士の榜を云ふ

○ 英祖癸巳大増廣司馬榜目

一冊

印本

圖書番號 一四九八

英祖二十五年癸巳顯宗期聖后世室と上尊號の慶を合し大増廣別試を設けたる時の生員進士の榜

目なり

○ 英祖甲午増廣司馬榜目

一冊

印本

圖書番號 一〇八二、一一五三九

英祖五十年甲午壽齡九旬と即位五紀舟梁十六年上候平復との四慶を合し増廣試を設けたる時の生員進士の榜目なり

○ 正祖丁酉式司馬榜目

一冊

印本

圖書番號 一二八五

正祖元年丁酉式の生員進士の榜目にして純祖十一年辛未榜中の人金會淵慶尙觀察使たる時捐俸して追刊せり

○ 正祖己酉式司馬榜目

一冊

印本

圖書番號 一〇六四

正祖二十五年乙酉式に於ける生員進士の榜目なり

○ 正祖庚戌増廣司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 一〇六五、一〇六六

正祖十四年庚戌元子定號の慶を以て増廣試を設けたる時の生員、進士の榜目なり

○ 正祖壬子式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 一四二九

正祖十六年壬子式の生員、進士の榜目なり

○ 正祖乙卯式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號

三六一八、四三二〇、四三二一、四三二二、四三二三、四三二四、四三二五、五三四〇、五三四一、五三四二、五三四三、五三四四、五三四五、五三五〇、五三五一、五三五二、五三五三、五三五四、五三五五、六六二六

正祖十九年乙卯式の生員、進士の榜目にして領議政洪樂性か乙卯司馬回榜(生員、進士)に中りし時の還曆を云ふ人となりたるを以て壬子司馬回榜人綾恩君具允明か先進故事を行ひ正祖の志喜詩を卷首に載せ司馬及文武科回榜人と榜中乙卯榜人

の子孫を特掲し稀貴なる事を表せり

○ 純祖辛酉式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 一五二三、三二二一

純祖元年辛酉式の生員、進士の榜目なり

○ 純祖癸亥増廣司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 一三七〇

純祖三年癸亥大殿及中宮の疹候平復の二慶を合し増廣試を設けたる時の生員、進士の榜目なり

○ 純祖甲子式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 九二一、九三二

純祖四年甲子式の生員、進士の榜目なり

○ 純祖甲戌司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 一〇八三、一〇八五

純祖十三年癸酉の式科を十四年甲戌に退行したる時の生員、進士の榜目なり

○ 純祖丁亥増廣司馬榜目

圖書番號 一四二三、三三〇八

一冊 印本

純祖二十七年丁亥兩殿の上號、元孫誕生の三慶を合し増廣試を設けたる時の生員、進士の榜目なり

○ 純祖戊子式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 九一六、九二六

純祖二十八年戊子式の生員、進士の榜目なり

○ 純祖辛卯式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 九二五、九二九

純祖三十一年辛卯式の生員、進士の榜目なり

○ 純祖甲午式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 一〇八一

純祖三十四年甲午式の生員、進士の榜目なり

○ 憲宗乙未増廣司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 一五一八

憲宗元年乙未登極増廣試を設けたる時の生員、進士の榜目なり

○ 憲宗丁酉式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 三三二〇

憲宗三年丁酉式の生員、進士の榜目なり

○ 憲宗庚子式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 九四五

憲宗六年庚子式の生員、進士の榜目なり

○ 憲宗癸卯式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 九一七、九二八

憲宗九年癸卯式の生員、進士の榜目なり

○ 憲宗丙午式司馬榜目

一冊 印本

圖書番號 七四六

憲宗十二年丙午式の生員、進士の榜目なり

○ 憲宗戊申増廣司馬榜目

圖書番號 四八一、九二七 一冊 印本

憲宗十四年戊申大王大妃六旬と王大妃望五、純宗翼宗追上尊號大王大妃王大妃加上尊號との六慶を合し増廣試を設けたる時の生員進士の榜目なり

○ 憲宗己酉式司馬榜目

一冊 印本
圖書番號 一〇八四、一四二〇

憲宗十五年己酉式の生員進士の榜目なり

○ 哲宗庚戌増廣司馬榜目

一冊 印本
圖書番號 九二四

哲宗元年庚戌登極増廣試を設けたる時の生員進士の榜目なり同榜三人あり

○ 哲宗壬子式司馬榜目

一冊 印本
圖書番號 九一八

哲宗三年壬子式の生員進士の榜目なり

○ 哲宗乙卯式司馬榜目

史部

圖書番號 一四二一 一冊 印本

哲宗六年乙卯式の生員進士の榜目なり

○ 李太王庚午式司馬榜目

一冊 印本
圖書番號 九二三

李太王七年庚午式の生員進士の榜目なり

○ 李太王甲戌増廣司馬榜目

一冊 印本
圖書番號 一六六二

李太王十一年甲戌世子誕生の慶を以て増廣試を設けたる時の生員進士の榜目なり

○ 李太王庚辰増廣司馬榜目

一冊 印本
圖書番號 一六五四

李太王十七年庚辰世子痘候平復の慶を以て増廣試を設けたる時の生員進士の榜目なり

○ 李太王壬午増廣司馬榜目

一冊 印本
一七七

圖書番號 一七六一

李太王十九年壬午世子の入学冠禮、嘉禮三慶を合し増廣試を設けたる時の生員、進士の榜目なり

○ 李太王乙酉式司馬榜目

一冊

印本

圖書番號 二二八七、二二八八

李太王二十二年乙酉式の生員、進士の榜目なり

○ 李太王乙酉増廣司馬榜目

一冊

印本

圖書番號 二二八四、二二八六

李太王二十年乙酉東宮疹候平復の慶を以て増廣試を設けたる時の生員、進士の榜目なり

○ 李太王戊子式司馬榜目

一冊

印本

圖書番號 九一九、九二〇

李太王二十五年戊子式の生員、進士の榜目なり

○ 關西武士試取榜

一冊

洪良浩編 寫本

圖書番號 二〇六四

正祖十六年壬子平安道觀察使洪良浩か道内の武

士を試取し之を狀啓したる謄本にして試取の時の試官と入格せし者の姓名、弓箭、矢數及賞格の分給等を考査備録したるものなり

○ 咸鏡道功令生名錄

一冊

寫本

圖書番號 九七三六

正祖二十一年丁巳咸鏡道内の試取に中りし儒生の名簿にして功令は詩、賦、表、策、義、疑六種の科目を云ふ

○ 經義條對人姓名成冊

一冊

寫本

圖書番號 二二五九八

正祖二十二年戊午御定冊子の校準を各道儒生に命し經義を校準儒生中に問ふ其の能く條對せし者の姓名、年紀、本貫、居住及父名并に顯祖等を開録せしものにして湖南人二十四人の成冊なり

○ 純祖乙酉生進四祖錄

一冊

寫本

圖書番號 九八六七

純祖二十五年乙酉式の司馬試に中りたる生員進

士二百人並に其の四祖を録したるものなり

○政事册 一三二冊 寫本

圖書番號 一三三三

朝鮮代に於ける官職の差除は文官は吏曹、武官は兵曹より三望を備擬し、落點を受く而して特別には二望或は單望、長望あり又除授或は添書あり總へて二曹に下批す之を政事と稱す本書は英祖乙卯に始り李太王甲午に至る吏曹の政事を記録編集したるものなり

○翰林會圈錄 三冊 藝文館編 寫本

圖書番號 九七三四

正祖より李太王に至る歴代の翰林及會圈を経て文臣の叙任せられたる者を録したるものなり

○登瀛錄 四冊 弘文館編 寫本

圖書番號 九九七、一一四九六

朝鮮歴代の集賢殿、弘文館、校理、副校理、修撰、副修撰等を選定せし當時の弘文錄、都堂錄中に選ばれたる者の姓名等を列記したるものなり其の年間は國初より李太王の時に至る

史部

○湖堂文衡錄 一冊 寫本

圖書番號 九九二九

湖堂に入りたる者文衡となりたる者の人名錄なり世宗の時才行ある年少の文臣を選ひ書堂を設け暇を與へ讀書せしめ後日之を重用せしか世祖の時暫く之を廢し成宗の時之を復設し龍山の廢寺を修葺して讀書堂と名け又湖堂と稱したり後燕山君の時に至り之を革罷し中宗の時更に復設し東湖の勝地を擇ひ豆毛浦の北麓に移建し仁祖の時之を廢せり文衡は藝文、弘文兩館の大提學を謂ひ皆湖堂より進科せしを以て湖堂に選ばれたる者は最も人の羨む所なりしと云ふ

○文衡錄 一冊 寫本

圖書番號 五五九八

太宗より李太王の時に至る歴代の藝文館、集賢殿、弘文館、大提學の姓名及畧傳を録したるものなり

○文衡圈點錄 一冊 寫本

圖書番號 一三八五

仁祖六年戊辰より李太王十八年辛巳に至る大提

一七九

學の選定を録したるものなり

○ 銀臺先生案

五冊

寫本

圖書番號 九七二七、九七三一

承政院承旨の先生案にして銀臺は承政院の別稱なり承旨に都、左右、左副、右副、同副の別あり皆王命の出納を掌る本書は太祖開國の初より李太王三十二年甲午に至る其の間承旨に任せられたるものの姓名を録せり

○ 玉堂先生案

三冊

寫本

圖書番號 九七八〇

弘文館に於ける應教、校理、修撰等の官を玉堂と稱し其の姓名を録したるものにして太祖の初より李太王即位甲子に至る

○ 薦拜錄

二冊

寫本

圖書番號 七六七七

仁祖の初より英祖の時に至る東宮の贊善、進善、諮議、吏曹の判書、參判、參議、銓郎、兵曹判書、戶曹判書等に除せられたる者の姓名を録せり

○ 金甌錄

一冊

寫本

圖書番號 一一六四九

太祖の初より李太王の二十七年庚寅に至る相臣の姓名を記載せるものなり附録として文衡閣臣及將官の姓名を録す

○ 寧社原從功臣錄券

一冊

印本

圖書番號 一七三一

仁祖六年戊辰柳孝立等を誅し寧社功臣を録す本冊は其の原從功臣錄券なり

○ 二十功臣會盟錄

一冊

印本

圖書番號 一〇〇四、一〇八八

仁祖二十四年丙戌具仁、屋等沈器遠等の謀逆を告發し悉く逆黨を誅し其の有功者を寧國功臣に録する時の會盟文と會盟錄とを録載したるものなり

○ 寧國原從功臣錄券

一冊

印本

圖書番號 三二〇五

仁祖二十四年丙戌功臣を録勳したる際の際の原從錄券にして原從とは一二三等勳以下の功勞少なき者を云ふ

○ 保社原從功臣改修錄券

一冊

印本

圖書番號 五五六二

肅宗六年庚申南人許堅等の獄を治め七年辛酉勳を策し己巳之を削り甲戌之を復し原從に參したる功臣の錄券を改修刊本して頒賜したる時功臣李廷栗に賜與したるものなり

○ 奮武原從功臣錄券

一冊

印本

圖書番號 一七四五

英祖四年戊申李麟佐等叛を謀り海恩府院君吳命恒等に命して討平せしむ因て勳を策し命恒等を功臣に封し領議政李光佐等九千餘人を原從功臣に録し各錄券一冊を頒給せり進士趙載健亦原從に參す此の冊は即ち其の錄券を忠勳府に於て刊印したるものなり

○ 耆社錄

一冊

寫本

圖書番號 七三一一

乙巳癸酉丙子丁丑の被禍錄、湖堂錄、廟庭配享錄等

史部

を雜録したるものなり

○ 耆社慶會曆

八卷一冊 徐命膺編 印本

圖書番號 九七一、二三八五

正祖九年徐命膺耆社慶會の緣由及之に關する賀章祝詞等を輯録し熙朝の盛事を發揚したるものなり耆社の慶會は高麗より始り朝鮮太祖は即位三年に於て耆社に入り耆老の群臣を會して土田を賜ふ肅宗、英祖亦此の舉あり當時七十以上の群臣皆共に耆社に題名して宴を張り詩文を詠進せり靈壽玉牒、耆府文藻、群老題名、洛社故事、湛露恩禮、考訂雜述、優養彝典に分目す

○ 縉紳資歷

一冊

寫本

圖書番號 四五五二

正祖より憲宗の時に至る文科人名の畧歷にして純祖前後に互るもの多く姓氏別を以て順次に之を列記し姓名下に就き年、字、官歷等を記せり

○ 皇壇陪享諸臣目錄

一冊

寫本

圖書番號 一三三五

一八一

各祠に配享せられたる功臣の略傳を類別列叙したるものにして多くは明萬曆以後天啓崇禎の間即ち仁祖の時滿人入寇の際忠死したる功臣にして總へて一百四十一人の目録なり

○ 東國諡號

四冊

寫本

圖書番號 七〇四一

朝鮮歴代の文武諸臣に賜ひたる諡號を輯録したるものなり

○ 東國諡號考

二冊

寫本

圖書番號 五二〇九

仁祖以後純祖に至る名臣の諡號を列記し之に挿註を加へたるものなり

○ 正祖實錄廳題名記

一冊

印本

圖書番號 四七、一四四二、三五一四

純祖五年乙丑正祖實錄を編修し畢りたる時の總裁李秉模以下諸官員百四十二人の題名記にして活字を以て印出せしものなり

○ 純祖實錄廳題名記

憲宗三十二年乙未純祖實錄を纂修し戊戌役を畢れり仍て總裁李相璜以下百二十七人の姓名を録し活字を以て印出す

○ 憲宗實錄廳題名記

一冊

印本

圖書番號 一四四四、四〇〇五、四〇〇八

哲宗三年壬子憲宗實錄を編修し畢る其の時總裁以下諸官員凡百二人の姓名を録し實錄廳に於て活字を以て印出したるものなり

○ 翰苑題名錄

一冊

寫本

圖書番號 九七三五、九八一九

藝文館檢閱を経たる人の姓名を順次に録したるものにして太祖の時に於ける黃喜以下李太王の時の沈履澤に至る合せて四百六十三人あり翰苑は藝文館檢閱の直所の別稱なり

○ 講製文臣題名錄

一冊

寫本

圖書番號 九七二九

講讀及製述を爲したる文臣等の名簿なり蓋し朝鮮に於ては文を崇ひ卿列に至りたる文臣と雖經史の講讀及詩文の講製を隨時課督したるものなり

○抄啓文臣題名錄

一冊

寫本

圖書番號 九七二八

抄啓文臣の名簿にして正祖五年辛丑より憲宗十四年戊申に至る李時秀の序あり

○冊封嘉禮實錄抄

一冊

寫本

圖書番號 一三九六

太祖七年戊寅より世祖五年庚辰に至る實錄の中王世子、世子嬪の冊封及嘉禮と上王大妃に對する諸大儀禮に關する事實を抄出して後考に供したるものなり

○船政實錄考抄

一冊

寫本

圖書番號 一七、三〇五

朝鮮歴代の船政に關する事項を太祖の四年乙亥より光海君庚戌に至る實錄中より抄出し後考に資したるものなり

史部

○仁祖丙寅迎勅實錄抄

一冊

寫本

圖書番號 九八九四

仁祖四年丙寅明の熹宗の子誕生し姜日廣を以て詔使と爲し朝鮮に使す金鑪を遠接使と爲し李廷龜を館伴使と爲し迎送したる時の日記なり

○内閣恒式

一冊

寫本

圖書番號 九七四、九七五、一四一九

奎章閣に關する年中行事の恒例を制定したるものなり五節旬の外春秋の二季及月初又は行幸等の時奎章閣大官、小吏、役丁等に下賜する酒肉、藥品、柴炭、米石、布疋の數量より年中收支の米石、金錢の總額又は曆書の頒配定數並に書樓、監書廳、奎章閣の用紙、司饗院等に屬する器具の數に至るまで逐次に之を詳記し濫費を省減したるものなり

○宣傳官廳新薦案

一冊

寫本

圖書番號 一六五六

武官中の宣傳官は薦を受けて叙任するものにして庶派子孫を新薦と稱す李太王即位以後に於け

一八三

る新薦者の姓名を録し十八年辛巳に止む

○ 官傳官廳承傳受點案

二冊

寫本

圖書番號 九八八七

宣傳官として傳教を受け專任する者は特に落點す其の受點の順序を以て此の案を編録して後考と爲せり正祖の己巳より李王の丁未に至る

○ 左右侍御廳薦案

一冊

寫本

圖書番號 九七九二

侍御は武官の職にして宣傳官別軍職の例に依り將臣或は行首等之か推薦を爲す本冊は光武三年より隆熙元年までの薦案なり

○ 新訂廳風錄

一冊

李儒敬編 寫本

圖書番號 九七四七

宣傳官廳の事例にして編者逸文を哀襍して一冊と爲し後の參考としたるものなり

李儒敬字は士弘咸春君昌運の子なり英祖丁卯に生れ甲午武科に登り正祖丁酉宣傳官に入仕し承旨となり捕將を歴て純祖の時に歿せり官平安兵

使に至る

○ 官傳官廳完議

一冊

寫本

圖書番號 一二四三〇

正祖二十年丙辰宣傳官廳に於て排弊勘債の法を立てたる時の完議なり

○ 官傳官廳完議

一冊

寫本

圖書番號 九七八七

宣傳官廳に於て諸般の規模條例を備録留案し後の考査に供したるものなり

○ 金吾諛帖

一冊

蔡膺一等編 寫本

圖書番號 一〇二七三

英祖二十六年庚午義禁府都事蔡膺一等十人同僚の情誼を温むるため名字生年科榜籍貫を録し首に會坐の形止を圖掲したるものにして古人修禊の義を取り諛帖と名く金吾は義禁府の別名なり

○ 禁旅操鍊笈記

一冊

印本

圖書番號 一一六三七

侍衛軍隊の操鍊方式を記載せしものにして陣圖を附せり

○ 宣傳官廳各條笈記

三冊

寫本

圖書番號 二七七八

宣傳官廳に於ける各項舉行の事例を記載せしものなり標信、信箭方色、親臨歲首犒饋、瑞慈臺試射時、欄後別隊參現、親臨試射、入直軍親閱、幸行時晝停所、陵園所上下馬、懸落燈、行宮經宿時開閉門定更、齋室經宿時開閉門定更、幸行時隨駕軍親閱、六軍門招搖旗號令、武藝廳旗色、駕前駕後、欄後別隊旗色、渡涉號令、大閱、親臨犒饋、城操、夜操、龍虎營各陣號令、訓練都監各陣號令、禁御兩營各陣號令、一內禁軍春秋兩等別試射參現節次、舟橋渡涉號令、斥候、伏兵、華城城操、小開門、升壇、升旗、發伏路、閉城門、一面操、四面齊操、收伏路、下城、落旗、夜操、閉城門、演炬、懸燈、傳更、閉城門、收伏路、下城、挹清樓水操、發哨船、小開門、升壇、招官旗、聽發放、舵繚、旋隊長發放、官旗下地方、升旗起操、列船作戰、整綜回船、下方營、發樵汲、查功罪、收樵汲、收營、散操、落旗等六十五目に分つ

○ 宗親府新建役事下記

一冊

寫本

圖書番號 二九六〇

史部

李太王元年甲子宗親府を新建せし時の材具費用等を記録して存案とせしものなり

○ 宗親府朝房新建役事下記

一冊

寫本

圖書番號 二九六一

李太王元年甲子宗親府の朝房朝房は闕門外に各官司の附屬舎を寓くを云を新建し或は修理せし工事に付諸般の材具費用等を記録し存案とせしものなり

○ 宗正府傳掌記

一冊

寫本

圖書番號 九九一、九九七五

李太王の時宗正府に保管せし王室に關係ある冠、婚喪、祭其の他の禮典儀式に屬する書類、御製、系譜、諱號尊號竝に大小器物、税金等の引繼目錄なり

○ 進上及各處所奉總錄

一冊

寫本

圖書番號 九八六

濬源譜略、國朝御牒、八高祖圖、王妃世譜其の他諸譜等を進上し又は各所に安置したる記録なり

○ 璿派名錢錄

二冊

寫本

一八五

圖書番號 三二五〇

澹源譜を修繕する時各澹派人より名錢を宗親府に移送したる都録にして哲宗二年辛酉より李太王七年庚午に亘れり

○ 訓練都監重記

一冊 申正熙編 寫本

圖書番號 九七七五

李太王十八年辛巳申正熙か訓練大將たりし時營制の改正に因り壯禦大將に任し訓練都監を廢止したる時該都監に附屬せし錢穀以下各項の雜物に至るまで遺在の數爰を載録し考査に供したるものなり

申正熙字は元仲、香農は其の號平山の人にして參贊號は威堂、櫛の子なり、純祖癸巳に生れ、憲宗戊申内乘に任し、同年武科に登り、訓練正より承旨となり、諸營大將を歴て乙未に歿す、官刑判に至る文雅恬靜にして居官を善くし、儒將の稱を得たり

○ 江界府事例釐整記

一冊 寫本

圖書番號 五四五七

平安北道江界府の事例を釐整したものにして

原事例に就き増修せり

○ 晉州郷校儒錢用下并録冊

一冊 寫本

圖書番號 七三〇七

慶尙道晉州の郷校建營及重修等に就き、純祖十六年壬申、憲宗七年辛丑、哲宗元年庚戌に於ける儒生の出金及支辨等を録す

○ 勅使贈給録

八卷八冊 寫本

圖書番號 一三二二

仁祖二十一年以降、正祖十年に至る凡そ百四十年間に於て封冊、慶吊等の事故ある毎に、清使の來東に付、正副使、大小通官、各等頭目、家丁等に分贈したる紬布、獸皮、紙筆、刀劍、銀子、馬具、烟竹の微に至るまで逐次詳記したるものなり

○ 春秋封裏録

五冊 奎章閣編 寫本

圖書番號 一九六九、三五六八

咸興及永興の兩本宮に衣襪、幣帛、香燭祭品、祭器等の物を封進する一般の儀註を騰録せしものにして、正祖十八年甲寅の儀註改正に始り、李太王二十

七年庚寅まで九十七年間に亘れり

○海西摠釐

一冊

寫本

圖書番號 四〇

黃海道各郡に於ける弊害を釐正したる節目を抄輯す

○植木實總

一冊

寫本

圖書番號 九九五三

正祖六年に新設したる景慕宮の苑池造築と共に風致の美觀を添ふるため移植したる樹木の保存に關する規定書にして卷末に植木節目を記せり

○仁港稅總

一冊

寫本

圖書番號 二五七二

李太王二十四年丁亥十月より年末に至る仁川海關の輸出輸入稅の總數、海關經費の計算書を列録上聞せし原件にして末端に啓字を押せり

○江東頼末

一冊

寫本

圖書番號 七八〇五

徐萬修か江東縣監として在任の時結散錢還徴の事に付監司李肇源に狀罷せられ後疊隙を生し相

史部

互陳疏辨明したる事實を記載したるものにして李肇源に關係したる文字若干を掇拾入録す

○赤裳山城條陳成冊

一冊

寫本

圖書番號 九八四一

史庫の在りし全羅道茂朱縣赤裳山城の周圍を修築したる事實、城門の形勢、城外道里、城内寶鏡寺の形址、寺僧の舉行、史庫の形址、官吏の數、爰其の他供應節目、城内儲置の糧物、軍器等を録したるものなり。仁祖十年壬申縣監金壽昌の查録に係る。

金壽昌字は天休、晚休堂は其の號なり。仙源尙容の孫にして光海君の時に生る蔭仕し州郡を歴て顯宗の時に歿せり。官軍資正に至る。

○水原新邑營建公廨間方成冊

一冊

寫本

圖書番號 九九一九

正祖十五年辛亥水原邑城を營建せし時の記録にして所要材料の數、正廳、公廨、倉庫、門樓、郷校、聖殿等の間數を詳記したる成冊なり

一八七

○ 海南縣蠲貢成冊

一冊

寫本

圖書番號 二〇五九

正祖十八年甲寅海南縣の饑饉に因り貢膳を蠲減せしこと並に各項の稅納を蕩減し或は停退せし物名及錢布の數を載録せしものなり

○ 杆城流民還接他民移接成冊

一冊

寫本

圖書番號 三三五二

正祖二十一年丁巳徐有防江原道觀察使たる時管下杆城郡の流民の還接したる者と他郡民の郡内に新接したる者との家族を調査し成冊と爲し覽に供したるものなり

徐有防字は元禮、奉軒と號す達城の人、修撰、孝修の子なり、英祖辛丑に生れ、戊子進士に中り、蔭仕、教官を以て壬辰文科に登り、直提學を経て官判事に至り、正祖の時に歿す、諡孝簡を贈らる

○ 顯隆園逼近處買收田畝量案

一冊

寫本

圖書番號 九七七九

莊獻世子の顯隆園附近の文珠堂面、市峯面等の田地を買收したる時の帳簿にして、正祖の時壯勇營に保管せしものなり

○ 茂長所在奎章閣田畝改量案

一冊

寫本

圖書番號 九九三七

正祖十六年壬子全羅道茂長縣に在りし奎章閣田畝を縣監李學彬が改量し畝の字號結卜、作人の姓名等を成案正書して奎章閣に上送せし存案なり、李學彬は德水の人、領相澁の子にして官縣監に至れり

○ 文記冊

一冊

寫本

圖書番號 一七二五

慶尙道安東河回到居住する柳成龍の後孫柳氏か其の所有に係る各地田畝家宅及奴婢を記録したる帳簿にして、明宗丁卯の登科別給文記、宣祖甲午の同生和會文記、丙戌の貞敬夫人李氏同生和會文記、明宗丙寅の妻母登科別給文記、四寸大母別給斜出文記、五寸叔柳仲清許給文記、明宗乙丑に成れる

妻邊生員別給文記、庶母傳給文記、小家田番記及各親戚分衿記、其の他雜文記類等を収録して一冊とせり

○ 九包水蔘都錄

一冊

寫本

圖書番號 九八六三

人蔘は朝鮮の特産にして開城の栽培を以て最と爲す種養して五年乃至七年に至るを五根六根七根と云ひ之を採取し最も大なるものを蒸乾し支那に輸出す其の他は生乾し國內の藥料に供したり其の生蔘を水蔘、蒸乾を紅蔘、生乾を白蔘又は乾蔘と云ふ製造は官營にして製造所を包所と稱す又製造事務は從來八組に分ち組を包と云へり此は李太王戊子開城包所より其の附近に在る蔘圃の地名主人の姓名及根數、間數、片數、次數等を記録したる帳簿にして當時九組に増したるを以て九包と稱す

○ 九包乾蔘都錄

一冊

寫本

圖書番號 九八六二

李太王二十五年戊子開城蒸蔘包所に於て製造し

史部

たる白蔘の斤數を列記したる帳簿なり

○ 國私忌冊

一冊

寫本

圖書番號 九八九〇

哲宗の時に於ける國忌と私親の忌日等を載録したるものにして供上所に膳錄存在せしものなり國忌には素膳を以て供進し其の五代以上は正宮にのみ三時素膳を進供し五代以下は正宮私親共に六時素膳を進供するを例としたり

○ 山陰戶籍

寫本

慶尙道山陰縣今山清郡の戶籍大帳にして宣祖の時に作成したるものなり書式は面里、戶番、職、姓名、生年、本貫、父祖、會祖の職及名、外祖の職、姓名、本貫、妻の姓、生年、本貫、妻の父、祖、會祖の職及名、妻の外祖の職、姓名、本貫、子の職及名、生年、奴婢の名及生年を列記し毎丁に査印を押せり而して戶籍は三年に一回子午卯酉の年を以て改め編成するを定例としたり

宣祖三年庚午山陰帳籍 一冊

圖書番號 一四六四〇

一八九

宣祖三十九年丙午山陰帳籍 一冊

圖書番號 一四八二〇

○蔚山戶籍

寫本

慶尙道蔚山府の戶籍大帳なり其の書式は宣祖乙酉の分は山陰戶籍に同じ而して肅宗以後の分は五戸を以て編して一統と爲し毎統に統首を定め先つ面里を記し統首の姓名を掲げ次に第一戸より第五戸まで戸主の職姓名其の他を記すこと山陰帳籍と異ならず又某年戸口相準印と記せり

宣祖十八年乙酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九八六

肅宗十年甲子蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九九〇

肅宗三十四年戊子蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九八五

英祖五年己酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九八三

英祖十一年乙卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一五〇〇一

英祖二十九年癸酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九九二

英祖三十五年己卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九八七

英祖四十一年乙酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九九一

英祖四十一年乙酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九九七

英祖四十一年乙酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一五〇〇五

英祖四十一年乙酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九八二

英祖四十四年戊子蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一五〇〇三

英祖四十七年辛卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一五〇〇六

英祖四十七年辛卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九八一

英祖五十年甲午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九七八

英祖五十年甲午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一五〇〇七

正祖七年癸卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九八〇

正祖十年丙午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九八四

正祖十三年己酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九七六

正祖十六年壬子蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一五〇〇四

正祖十九年乙卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九七九

正祖十九年乙卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九九三

純祖元年辛酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九八八

純祖元年辛酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一五〇〇〇

史部

純祖四年甲子蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九七七

純祖十年庚午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九七五

純祖十年庚午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九九五

純祖十九年己卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九八九

純祖二十五年乙酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九六九

純祖二十五年乙酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九七四

純祖三十一年辛卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九七一

純祖三十四年甲午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九五八

純祖三十四年甲午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九六五

憲宗六年庚子蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九五七

憲宗九年癸卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九六二

憲宗十五年己酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九五九

憲宗十五年己酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九七二

哲宗九年戊午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九七三

李太王元年甲子蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九六三

李太王四年丁卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九六七

李太王七年庚午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九六六

李太王十三年丙子蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九七〇

李太王十六年己卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九六四

李太王十九年壬午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九六〇

李太王二十二年乙酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九六一

李太王二十八年辛卯蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九六八

世代未詳甲午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九九六

世代未詳乙酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九九八

世代未詳乙酉蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一四九九九

世代未詳丙午蔚山戶籍大帳 一冊

圖書番號 一五〇〇二

○大丘戶籍

寫本

慶尙道大邱府の戶籍大帳にして其の書式は蔚山

戶籍肅宗以後の分と同一なり

肅宗十六年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六〇六

肅宗四十六年庚子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四九九四

景宗三年癸卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六〇七

景宗三年癸卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六一五

英祖二年丙午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六二四

英祖二年丙午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六四七

英祖五年己酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六一七

英祖五年己酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六一八

英祖五年己酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六二〇

英祖八年壬子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六〇八

英祖八年壬子大丘帳籍 一冊

史部

圖書番號 一四六一九

英祖十一年乙卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六五二

英祖十四年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六一一

英祖十四年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六一六

英祖十四年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六五〇

英祖十四年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六四八

英祖十七年辛酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六五五

英祖二十年甲子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六〇四

英祖二十年甲子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六五四

英祖二十三年丁卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六一四

一九三

史部

英祖二十三年丁卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六五三

英祖二十九年癸酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六二二

英祖三十五年己卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六〇三

英祖四十一年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六五一

英祖五十年甲午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六〇〇

英祖五十年甲午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六〇一

英祖五十年甲午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六一〇

英祖五十年甲午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六二二

英祖五十年甲午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六四五

正祖元年丁酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六〇二

正祖元年丁酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七一九

正祖元年丁酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七二三

正祖元年丁酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七二五

正祖元年丁酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六四六

正祖元年丁酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六四九

正祖元年丁酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六五七

正祖元年丁酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六八八

正祖元年丁酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七五六

正祖四年庚子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六〇五

正祖四年庚子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六一二
 正祖七年癸卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六七四
 正祖十年丙午大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六五九
 正祖十三年己酉大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七〇〇
 正祖十三年己酉大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七〇五
 正祖十六年壬子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六九〇
 正祖十六年壬子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七三五
 正祖十六年壬子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七五四
 正祖十六年壬子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七八〇
 正祖十六年壬子大丘帳籍 一冊

史部

 圖書番號 一四八〇九
 正祖十九年乙卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六六七
 正祖十九年乙卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六二六
 正祖十九年乙卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六七三
 正祖十九年乙卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六九一
 正祖十九年乙卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七〇二
 正祖十九年乙卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六九七
 正祖十九年乙卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七〇六
 正祖十九年乙卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七六七
 正祖十九年乙卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七七八

一九五

正祖十九年乙卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七九二

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六七二

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六八四

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七二九

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七三七

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七四一

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七四四

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七五二

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七六五

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七六九

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七七三

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七八七

正祖二十二年戊午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七八九

純祖元年辛酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六五六

純祖元年辛酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六六五

純祖元年辛酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六七〇

純祖元年辛酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六七二

純祖元年辛酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六八一

純祖元年辛酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六九六

- 純祖元年辛酉大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七三二
- 純祖元年辛酉大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七三八
- 純祖元年辛酉大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七三九
- 純祖元年辛酉大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七四二
- 純祖元年辛酉大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七八五
- 純祖元年辛酉大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七八二
- 純祖元年辛酉大丘帳籍 一册
圖書番號 一四八〇三
- 純祖元年辛酉大丘帳籍 一册
圖書番號 一四八一〇
- 純祖四年甲子大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七〇八
- 純祖四年甲子大丘帳籍 一册

史部

- 純祖四年甲子大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七二七
- 純祖四年甲子大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七七六
- 純祖四年甲子大丘帳籍 一册
圖書番號 一四八〇六
- 純祖四年甲子大丘帳籍 一册
圖書番號 一四八〇八
- 純祖四年甲子大丘帳籍 一册
圖書番號 一四八一九
- 純祖七年丁卯大丘帳籍 一册
圖書番號 一四六六一
- 純祖七年丁卯大丘帳籍 一册
圖書番號 一四六六四
- 純祖七年丁卯大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七二二
- 純祖七年丁卯大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七三二
- 純祖七年丁卯大丘帳籍 一册
圖書番號 一四七四六

純祖七年丁卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七五五

純祖七年丁卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七六八

純祖七年丁卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七七一

純祖七年丁卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七八一

純祖七年丁卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七八三

純祖七年丁卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七八八

純祖七年丁卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四八一七

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六二五

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六六二

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六八〇

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七三三

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七二六

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七三〇

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七四八

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七六〇

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七六二

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七七〇

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七七五

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七九一

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四八一

純祖十年庚午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四八一六

純祖十三年癸酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六六九

純祖十三年癸酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四八一三

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六七五

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六七六

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六七九

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六九二

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六九四

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

史部

圖書番號 一四七二四

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七二八

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七四三

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七四五

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七六一

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七九〇

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七九八

純祖十六年丙子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四八〇五

純祖十九年己卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六六三

純祖十九年己卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六八三

一九九

純祖二十二年壬午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六八二

純祖二十二年壬午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六五八

純祖二十二年壬午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六九八

純祖二十二年壬午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四八〇七

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六六六

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六九五

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七〇七

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七三三

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七三六

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七四〇

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七四七

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七五三

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七五七

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七六三

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七七七

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七九三

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七九七

純祖二十五年乙酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四八〇〇

純祖二十八年戊子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六六八

- 純祖二十八年戊子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六七七
- 純祖二十八年戊子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六九九
- 純祖二十八年戊子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七〇四
- 純祖二十八年戊子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七二〇
- 純祖二十八年戊子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七八六
- 純祖二十八年戊子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七九九
- 純祖三十一年辛卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六六〇
- 純祖三十一年辛卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六八六
- 純祖三十一年辛卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六八七
- 純祖三十一年辛卯大丘帳籍 一冊

史部

- 圖書番號 一四七四九
- 純祖三十一年辛卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七五八
- 純祖三十一年辛卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七八四
- 純祖三十一年辛卯大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七九五
- 純祖三十四年甲午大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七〇一
- 純祖三十四年甲午大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七五九
- 純祖三十四年甲午大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七七四
- 憲宗三年丁酉大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七九四
- 憲宗三年丁酉大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四七九六
- 憲宗六年庚子大丘帳籍 一冊
 圖書番號 一四六七八

憲宗六年庚子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六八五

憲宗六年庚子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七〇三

憲宗六年庚子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七一八

憲宗六年庚子大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七七二

憲宗九年癸卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七五〇

憲宗九年癸卯大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四八〇二

憲宗十二年丙午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四六八九

憲宗十二年丙午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七三四

憲宗十二年丙午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七六四

憲宗十二年丙午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七六六

憲宗十二年丙午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七七九

憲宗十二年丙午大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四七五一

憲宗十五年己酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四八〇一

憲宗十五年己酉大丘帳籍 一冊

圖書番號 一四八二二

○ 尙州戶籍

寫本

慶尙道尙州牧の戶籍大帳にして其の書式は蔚山
戶籍肅宗以後の分と同一なり

英祖十四年戊午尙州帳籍 一冊

圖書番號 一四六〇九

英祖二十九年癸酉尙州帳籍 一冊

圖書番號 一四六二三

英祖四十一年乙酉尙州帳籍 一冊

圖書番號 一四六一三

純祖元年辛酉尙州帳籍 一冊

圖書番號 一四八一八

純祖十九年己卯尙州帳籍 一冊

圖書番號 一四八一四

純祖二十二年壬午尙州帳籍 一冊

圖書番號 一四八一五

○ 任實量案

寫本

全羅道任實縣の田番を改量せし時の量案にして
量田導行帳及陳田大帳あり而して田番には梁の
周興嗣の千字文を以て毎五結に一の字號を附し
田品を九等に分ち田形は直田、方田、圭田、勾田、梯田
等に區別し長廣、四標及結卜の數と起主の姓名、今
舊陳廢の所を明記し且東犯、西犯を記して測量の
方向を示し宮屯田、館位田、續田等の結數を卷末に
附し官印を押せり

肅宗八年戊戌任實量田導行帳 一〇冊

圖書番號 一五〇二六

英祖二十五年己巳任實陳田大帳 一冊

圖書番號 一五〇二七

○ 順天量案

寫本

肅宗己亥の年に作成したる全羅道順天府の量案

にして書式は任實量案と差異なし

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六二九

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六三〇

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六三一

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六三二

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六三三

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六三四

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六三五

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六三六

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六三七

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六三八

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六三九

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六四二

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六四三

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四六四四

肅宗九年己亥順天量案 一冊

圖書番號 一四七〇九

○海南量案

寫本

肅宗庚子の年に作成したる全羅道海南縣の量案にして書式は任實量案と差異なし

肅宗十年庚子海南量案 一冊

圖書番號 一四七一六

肅宗十年庚子海南量案 一冊

○南海量案

寫本

肅宗庚子の年に作成したる慶尙道南海縣の量案にして書式は任實量案と差異なし

肅宗十年庚子南海改量田案 一冊

圖書番號 一四七一

肅宗十年庚子南海改量田案 一冊

圖書番號 一四七二

肅宗十年庚子南海改量田案 一冊

圖書番號 一四七三

肅宗十年庚子南海改量田案 一冊

圖書番號 一四七四

肅宗十年庚子南海改量田案 一冊

圖書番號 一四七一五

○高山量案

寫本

全羅道高山縣の量案にして陳田改量案、降續降等陳田正案等あり書式は任實量案と差異なし

肅宗九年己亥高山量田導行帳 三冊

圖書番號 一五〇三三

肅宗九年己亥高山量田導行帳 八冊

圖書番號 一五〇三四

英祖二十四年戊辰高山陳田改量導行帳 五冊

圖書番號 一五〇三〇

英祖三十五年己卯高山降續降等陳田正案

二冊

圖書番號 一五〇三一

○全州量案

寫本

全羅道全州府の量案にして量田導行帳及陳田改量正案あり書式は任實量案と差異なし

肅宗九年己亥全州量田導行帳 二〇冊

圖書番號 一五〇三五

英祖二十三年丁卯全州陳田改量正案 八冊

圖書番號 一五〇三二

○南原導行帳

五冊

寫本

圖書番號 一五〇二八

肅宗九年己亥に作成したる全羅道南原府の量案にして書式は任實量案と差異なし

○一新量案

四冊

寫本

史部

圖書番號 一五〇二九

英祖二十三年丁卯に作成したる全羅道一新縣今の南原の陳田改量正案にして書式は任實量案と大差なし但起主の處に川反主許頃陳主降續陳起主仍續陳主覆沙起主等を明記す

○義城量案

二四冊

寫本

圖書番號 一四九五二

肅宗十年庚子に作成したる慶尙道義城縣の量案にして書式は任實量案と差異なし

○比安量案

五冊

寫本

圖書番號 一四九五二

肅宗十年庚子に作成したる慶尙道比安縣今の義城の量案にして書式は任實量案と差異なし

○嘉禮都監儀軌

寫本

國王及世子婚禮の時は嘉禮都監を置き一般の儀節を管理せしめ儀節を逐一記録して成書と爲し之を嘉禮儀軌と名く凡へて儀軌には月日を叙し事例を述へ憲章を備へ制作を明にし史體を具へ簿規を存す

仁祖莊烈后嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三〇六一

顯宗明聖后嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三〇七一、一三〇七二

肅宗仁敬后嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三〇七八至一三〇八一

肅宗仁顯后嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三〇八四、一三〇八五

肅宗仁元后嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三〇八九、一三〇九〇

景宗端懿后嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三〇九二、一三〇九三

景宗宣懿后嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三〇九四至一三〇九六

英祖貞純后嘉禮都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三一〇二至一三一〇四

真宗孝純后嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三一〇五至一三一〇七

莊祖獻敬后嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三一〇九至一三一一一

正祖孝懿后嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三一一四、一三一一五

純祖純元后嘉禮都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三一二一至一三一二四

文祖神貞后嘉禮都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三一二〇至一三一二三

憲宗孝顯后嘉禮都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三一二九至一三二四一

憲宗孝定后嘉禮都監儀軌 二冊

圖書番號 一三二四二、自一三二四四至一三二四六

哲宗哲仁后嘉禮都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三二四七至一三二五一

李太王明成后嘉禮都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三二五三至一三二五七

李王純明后嘉禮都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三二七三至一三二七八

李王李王妃嘉禮都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三二七九至一三二八六

昭顯世子嘉禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三一九七、一三一九八

○ 后妃册禮都監儀軌

寫本

后妃世子嬪、太子妃等の册封儀節を都監に於て記録したるものなり又大嬪及貴妃の册封儀軌あり

孝宗仁宣后册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三〇六四至一三〇六六、一四九〇七

顯宗明聖后册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三〇七三至一三〇七五

肅宗仁敬后册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三〇八二、一三〇八三、一四九〇八

肅宗仁顯后復位册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三〇八六至一三〇八八

景宗宣懿后復位册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三〇九七、一三〇九八、一四九〇五

英祖貞聖后復位册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三一一〇、一三一一一、一四九〇四

正祖孝懿后復位册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三一六至一三一八

史部

隆熙兩皇后復位册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三一八七至一三一九五

玉山大嬪陞后都監儀軌 一冊

圖書番號 一三二〇一、一三二〇二、一四九〇二

貴人進封淳妃儀軌 一冊

圖書番號 自一三二〇三至一三二〇六、一三二〇八、一三二〇九

二〇九

淳妃進封貴妃儀軌 一冊

圖書番號 自一三二一〇至一三二一六

○ 儲宮册禮都監儀軌

寫本

王世子、王世孫及王世弟の册封儀節を都監に於て記録したるものなり

孝宗世子受册册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三〇六一、一三〇六三

顯宗世孫受册册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三〇六七

顯宗世子受册册禮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三〇六八至一三〇七〇

肅宗世子受册册禮都監儀軌 一冊

二〇七

- 圖書番號 一三〇七六、一三〇七七
- 景宗世子受冊時冊禮都監儀軌 一冊
- 圖書番號 一三〇九一
- 英祖世弟受冊時冊禮都監儀軌 一冊
- 圖書番號 一三〇九九、一四九〇三
- 眞宗世子受冊時冊禮都監儀軌 一冊
- 圖書番號 一四九〇九
- 莊祖世子受冊時冊禮都監儀軌 一冊
- 圖書番號 一三一〇八
- 正祖世孫受冊時冊禮都監儀軌 一冊
- 圖書番號 一三一一一、一三一一三
- 純祖世子受冊時冊禮都監儀軌 一冊
- 圖書番號 自一三一一九至一三二二一
- 文祖世子受冊時冊禮都監儀軌 一冊
- 圖書番號 自一三二二五至一三二二九、一四九〇六
- 憲宗世孫受冊時冊禮都監儀軌 一冊
- 圖書番號 自一三三三四至一三三三八、一四九一〇
- 李王世子受冊時冊禮都監儀軌 一冊
- 圖書番號 自一三一六七至一三二七二

廢世子祔受冊時冊禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三一九六

懿昭世孫受冊時冊禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三一九九

文孝世子受冊時冊禮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三二〇〇

○ 尊號都監儀軌

寫本

王及后妃の大慶或は特に功德ありたる時は百官儀定して美號を上進す之を上尊號と稱し又升遐の後に在りても記念すへき事ある時は同しく尊號を追上するを例とす其の尊號を上つる時の一般儀節を記述したるものなり

宣祖再尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八九九

宣祖同懿仁后光海朝尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八九五

宣祖仁穆后三尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 一三二四五

仁祖追尊號孝宗追尊號都監儀軌 一冊

憲宗孝定后十二尊號
太王五尊號

- 圖書番號 自一三二四六至一三二五一
仁祖莊烈后三尊號孝宗明聖后尊崇都監儀軌 一冊
- 圖書番號 自一三二五八至一三二六〇
仁祖莊烈后四尊號都監儀軌 一冊
- 圖書番號 自一三二六一至一三二六三
顯宗追尊號英祖四尊號都監儀軌 一冊
- 圖書番號 一三二六五、一三二六六
肅宗初尊號都監儀軌 二冊
- 圖書番號 自一三二六七至一三二六九 一四九〇〇
肅宗再尊號都監儀軌 一冊
- 圖書番號 一三二七〇、一三二七一
肅宗四尊號都監儀軌 一冊
- 圖書番號 自一三二七二至一三二七六
肅宗仁元后四尊號都監儀軌 一冊
- 圖書番號 自一三二八三至一三二八五
肅宗仁元后五尊號都監儀軌 一冊
- 圖書番號 一三二八六、一三二八七
肅宗仁元后六尊號都監儀軌 一冊
- 圖書番號 一三二八八、一三二八九
肅宗仁元后七尊號都監儀軌 一冊

史部

- 圖書番號 一三二九〇、一三二九一
肅宗仁元后八尊號都監儀軌 二冊
- 圖書番號 一三二九二、一三二九三、一四九〇一
肅宗仁元后九尊號都監儀軌 二冊
- 圖書番號 一三二九四
肅宗仁元王后十尊號都監儀軌 二冊
- 圖書番號 一三二九五
英祖四尊號都監儀軌 二冊
- 圖書番號 一三二九六
英祖六尊號莊祖再尊號都監儀軌 二冊
- 圖書番號 自一三二九七至一三二九九
英祖貞純后四尊號莊祖獻敬后再尊號都監儀軌 一冊
- 圖書番號 自一三三〇〇至一三三三三
英祖貞純后六尊號都監儀軌 一冊
- 圖書番號 一三三三四、一三三三五
英祖貞純后七尊號莊祖獻敬后四尊號都監儀軌 二冊
- 圖書番號 自一三三三六至一三三三八
英祖貞純后八尊號都監儀軌 一冊

史部

圖書番號 一三三二一、一三三三三、一三三三四

英祖貞純后十尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 一三三二五、一三三二六

莊祖三尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 一三三三九、一三三四三

純祖初尊號都監儀軌 二冊

圖書番號 一三三四四、一三三四七

純祖再尊號文祖初尊號都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三三四八至一三三五一

純祖三尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三三五二至一三三五六

純祖四尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三三五七至一三三九九

純祖五尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 一三三六〇、一三三六一

純祖六尊號都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三三六二至一三三六五

純祖七尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三三六六至一三三七〇

純祖純元后三尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三三八一至一三三八四

純祖純元后五尊號 文祖神貞后三尊號
憲宗孝定后尊崇 都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三三八五至一三三八九

純祖純元后六尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三三九一至一三三九五

文祖初尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 一三四〇〇

文祖再尊號憲宗追尊號都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三四〇一至一三四〇六

文祖三尊號憲宗哲宗再尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四〇七至一三四〇九、一三四一〇、一三四一一

文祖六尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四一二至一三四一八

文祖十一尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 一三四一九、一三四二四

文祖十二尊號 憲宗孝定后十一尊號
太子四尊號 都監儀軌 一冊

圖書番號 一三四二五、一三四二九

文祖十三尊號 憲宗孝定后十三尊號
太子明成后五尊號 都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四三〇至一三四三六

文祖神貞后五尊號 憲宗孝定后三尊號 都監儀軌 一冊

圖書番號 一三四四二

文祖神貞后六尊號 憲宗孝定后四尊號 都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四四三至一三四四七

文祖神貞后七尊號 憲宗孝定后五尊號 哲宗哲仁后再尊號 都監儀軌 一冊

圖書番號 一三四四八

文祖神貞后八尊號 憲宗孝定后六尊號 哲宗哲仁后三尊號 都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四四九至一三四五三

文祖神貞后十二尊號 憲宗孝定后七尊號 哲宗哲仁后四尊號 太王初尊號 都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四五四至一三四五九

文祖神貞后二十尊號 都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四六〇至一三四六六

文祖神貞后二十一尊號 憲宗孝定后八尊號 太王再尊號 都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四六七至一三四七三

文祖神貞后二十二尊號 憲宗孝定后十尊號 太王三尊號 都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四七四至一三四七八

圖書番號 自一三四七四至一三四七八

圖書番號 自一三四七四至一三四七八

圖書番號 自一三四七四至一三四七八

史部

哲宗尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四七九至一三四八三

光海朝尊號都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八九一

○ 尊崇都監儀軌

寫本

前代の后妃を在世中に尊崇し太后若は大妃と稱する事に關し一般の儀節を記したるものなり

仁祖莊烈后尊崇都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三二五二至一三二五四、一四八八八、一四八八九

四八八九

仁祖莊烈后加崇 孝宗仁宣后尊崇 都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三二五五至一三二五七、一四八九三

顯宗明聖后尊崇都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八九六

肅宗仁元后尊崇都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三二七七至一三二七九、一四八九〇、一四八九七、一四八九八

肅宗仁元后加崇都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三二八〇至一三二八二

圖書番號 自一三二八〇至一三二八二

史部

英祖貞純后加崇 都監儀軌 一冊
莊祖獻敬后進號

圖書番號 自一三三〇六至一三三〇九

英祖貞純后加崇 都監儀軌 一冊
正祖孝懿后尊崇

圖書番號 自一三三一九至一三三二二

純祖純元后尊崇 都監儀軌 一冊
文祖神貞后尊崇

圖書番號 自一三三七六至一三三八〇

文祖神聖后加崇 都監儀軌 一冊
憲宗孝定后加崇

圖書番號 自一三四三七至一三四四一

尊崇都監儀軌合編 一冊

圖書番號 一三四九五

○ 追崇都監儀軌

寫本

王統を繼承するに際し昭穆の序に依り私親に王號を追上せし時の儀節を記せしものなり

真宗追崇都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三三二七至一三三二九

文祖追崇都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三三九六至一三三九九

○ 即皇位大禮都監儀軌 一冊

寫本

圖書番號 自一三四八四至一三四八九

李太王三十四年丁酉皇帝の位に即き國號を韓と改め光武の年號を建つ其の儀節を記したるものなり

○ 大皇帝尊奉皇太子冊禮都監儀軌

一冊

寫本

圖書番號 自一三一五八至一三一六六

李王隆熙元年帝位を受け李太王を大皇帝に尊稱し李王世子を皇太子に冊封せし當時の儀節を都監に於て記録したるものなり

○ 皇帝追尊都監儀軌

寫本

光武元年丁酉李太王國號を韓と改め皇帝と稱したる後三年己亥太祖及近四代を皇帝に追尊し隆熙二年戊申李王又真宗憲宗哲宗を皇帝に追尊したる儀節を記録せしものなり

太祖莊祖正祖純祖文祖皇帝追尊儀軌 一冊

圖書番號 自一三三六六至一三三四一

真宗憲宗哲宗皇帝追尊儀軌 一冊

圖書番號 一三三三〇、一三三三一、自一三三三三至一

○親王冊封儀軌

寫本

興宣大院君完和君義和君及李王世子及完興君を
王に封せし時の儀節を記録したるものなり

大院王完王義王冊封儀軌 一冊

圖書番號 自一三二七至一三三二五

義王英王冊封儀軌 一冊

圖書番號 自一三二六至一三三二一

興王冊封儀軌 一冊

圖書番號 自一三三三至一三三三五

○殯殿魂殿都監儀軌

寫本

王及后妃の喪に際し襲、歛、成服、成殯及魂殿排備等
の事務を掌るため殯殿都監を置き喪事一般の儀
式を記録したるものなり又儲宮及各殯宮の殯宮
魂宮都監儀軌あり

宣祖懿仁后殯殿魂殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八四五

仁祖殯殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八五五

孝宗殯殿都監儀軌 一冊

史部

圖書番號 一三五二八

孝宗仁宣后殯殿魂殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五三五

顯宗殯殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五四〇、一四八四二

顯宗明聖后殯殿魂殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五四四、一四八四一

肅宗殯殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五四九、一四八三九

肅宗魂殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五五〇、一四八五六

肅宗仁敬后殯殿魂殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五五四

肅宗仁顯后殯殿魂殿都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五五六

肅宗仁元后殯殿魂殿都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五五九

景宗殯殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五六七、一四八五四

一一三

景宗魂殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五六八、一四八四四

景宗端懿后殯宮都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八五二

景宗端懿后魂宮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五七四、一三五七五、一四八四九

景宗宣懿后殯宮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五七七、一四八五三

景宗宣懿后魂殿都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五七八

英祖殯殿魂殿都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五八四、一三五八三

英祖貞聖后殯殿魂殿都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五九〇

英祖貞純后殯殿魂殿都監儀軌 四冊

圖書番號 一三五九四、一三五九五

真宗殯宮都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八五七

真宗孝純后殯宮魂宮都監儀軌 一冊

圖書番號 一四五九九、一四八四八

莊祖殯宮魂宮都監儀軌 二冊

圖書番號 一三六〇六

莊祖獻敬后殯宮魂宮都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三六一二至一三六一五

正祖殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三六三七至一三六三九

正祖孝懿后殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三六五〇至一三六五三

純祖殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三六七二至一三六七六

純祖純元后殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三六八八至一三六九三、一四八五一

文祖殯宮魂宮都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三七一九至一三七二四

文祖神貞后殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三七四一至一三七四七、一四八四七

憲宗殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三七八八至一三七九〇、一三七九二、一

憲宗孝顯后殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三八〇五至一三八〇八

憲宗孝定后殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三八一九至一三八二八、一四八四三

哲宗殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三八四六至一三八四九、一四八五〇

哲宗哲仁后殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三八六四至一三八六九、一四八四六

明成皇后殯殿魂殿都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三八八五至一三八九〇、一四八五八

純明皇后殯殿魂殿都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三九〇六至一三九一一、一四八五九

昭顯世子殯宮都監儀軌 一冊

圖書番號 一三九一九

懿昭世孫殯宮魂宮都監儀軌 二冊

圖書番號 一四八三八

文孝世子殯宮魂宮都監儀軌 二冊

圖書番號 一三九二二、一三九二三

史部

顯穆綏殯殯宮魂宮都監儀軌 三冊

圖書番號 自一三九三一至一三九三四

○ 國葬都監儀軌

寫本

王又は后妃の葬に際し梓宮、車輿、冊寶、服玩、陵誌、明器、吉凶儀仗、喪帷、鋪筵、祭器、祭奠、返虞等の事を掌るため國葬都監を置き儀節を記述したるものなり
又儲宮及各殯宮の禮葬都監儀軌あり

宣祖國葬都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五一一、一四八六一

宣祖仁穆后國葬都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五一六

仁祖國葬都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五二一

仁祖莊烈后國葬都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八六七

孝宗國葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五二七、一四八六六

孝宗仁宣后國葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五三四、一四八六五

顯宗國葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五三九

顯宗明聖后國葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一四八六九

肅宗國葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五四八、一四八六二

肅宗仁敬后國葬都監儀軌二冊

圖書番號 一三五五三

肅宗仁顯后國葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五五五、一四八六四

肅宗仁元后國葬都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五五七、一三五五八

景宗國葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五六六、一四八七一

景宗端懿后禮葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五七二、一三五七三

景宗宣懿后國葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五七六、一四八六三

英祖國葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五八一、一三五八二

英祖貞聖后國葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五八九

英祖貞純后國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 一三五九二、一三五九三

真宗禮葬都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八七五

莊祖禮葬都監儀軌 一冊

圖書番號 一三六〇五

莊祖獻敬后襄禮都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三六〇八至一三六一一

正祖國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三六三四至一三六三六

正祖孝懿后國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三六四七至一三六四九

純祖國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三六六八至一三六七一

純祖純元后國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三六八三至一三六八七、一四八七二

文祖葬禮都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三七一五至一三七一八

文祖神貞后國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三七三五至一三七四〇

憲宗國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三七八四至一三七八七

憲宗孝顯后國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三八〇二至一三八〇四

憲宗孝定后國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三八一三至一三八一八、一四八六〇

哲宗國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三八四二至一三八四九、一四八七〇

哲宗哲仁后國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三八五九至一三八六三

明成皇后國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三八七九至一三八八四、一四八六八

純明皇后國葬都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三九〇〇至一三九〇五、一四八七三

昭顯世子禮葬都監儀軌 一冊

史部

圖書番號 一三九一八

文孝世子禮葬都監儀軌 二冊

圖書番號 一三九二一

顯穆綏嬪葬禮都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三九二七至一三九三〇

○ 山陵都監儀軌

寫本

王又は后妃の葬禮に關し山陵都監を置き因山に於ける玄宮、丁字閣及齋房等の營造事務を掌らしむ其の儀節を記録したるものにして又儲宮及各嬪宮の園所墓所都監儀軌あり

宣祖懿仁后穆陵山陵都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八二六

宣祖仁穆后穆陵山陵都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五一七、一四八二二

顯宗明聖后崇陵山陵都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八三二

肅宗仁顯后明陵山陵都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八二四

肅宗仁元后明陵山陵都監儀軌 二冊

一一七

圖書番號 一三五六〇

景宗宣懿后懿陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 一四八二三

英祖元陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五八六、一三五八五

英祖貞聖后弘陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五九一

英祖貞純后元陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五九六、一三五九七

真宗孝章墓所都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八三五

莊祖永佑園園所都監儀軌 二冊

圖書番號 一三六〇七

莊祖獻敬后顯隆園園所都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三六一六至一三六一九

正祖健陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 一三六四〇、一三六四一、一三六四二、一三六四三、一三六四四

純祖仁陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三六七七至一三六八〇

純祖純元后仁陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三六九四至一三六九八、一四八二五

文祖延慶墓所都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三七二五至一三七二八

文祖神貞后綏陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三七四八至一三七五三、一四八二九

憲宗景陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 一三七九一、自一三七九三至一三七九五

憲宗孝顯后景陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三八〇九至一三八二二

憲宗定孝定后景陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三八二九至一三八三四、一四八二八

哲宗睿陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三八五〇至一三八五三、二四八二七

哲宗哲仁后睿陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三八七〇至一三八七三

明成皇后洪陵山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三八九一至一三八九四

純明皇后裕康園園所都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三九一二至一三九一七、一四八三四

昭顯世子墓所都監儀軌 一冊

圖書番號 一三九二〇、一四八三三

文孝世子墓所都監儀軌 二冊

圖書番號 一三九二五、一三九二四

顯穆綏嬪徽慶園園所都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三九三五至一三九三八

○ 廟號諡號都監儀軌

寫本

歷代の王升遐の後廟號及諡號を議上するは重大なる典禮として國葬都監儀軌に記入するを例とす然るに元と宗を祖に改むること或は升遐の當時に在りて未だ追まわらざるを以て後に追上する時は別に都監を設け儀軌を記述せり又世子及私親上諡封園の儀軌を附す

太祖諡號都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九二七

定宗廟號諡號都監儀軌 一冊

圖書番號 一三三四三

宣祖廟號都監儀軌 一冊

史部

圖書番號 一三三四四

孝宗加上諡號都監儀軌 一冊

圖書番號 一三二六四

英祖廟號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三三〇〇至一三三〇五

莊祖上諡封園都監儀軌 一冊

圖書番號 一三三三七、一三三三八

純祖廟號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三三七一至一三三七五

順懷世子上諡封園都監儀軌 一冊

圖書番號 一三四九三

昭顯世子嬪復位宣諡都監儀軌 一冊

圖書番號 一三四九四

毓祥宮諡號都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四九〇至一三四九二

淑嬪上諡封園都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九二五

仁嬪上諡封園都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九二六

一一九

愍懷嬪復位宣諭都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九二八

○ 祔廟都監儀軌

寫本

王及后妃の喪に魂殿を置き三年の喪期を終了したる後神主を宗廟に祔する時の儀節を記録したるものなり后妃の喪王より先なる時は魂殿に於て祭祀し王の三年の喪を待ちて同く祔廟するを例とす又復位祔廟及儲宮嬪宮の入廟祔宮儀軌あり

太祖神德后祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三四九六至一三四九八

端宗同定順后復位祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三五〇二至一三五〇四

中宗端敬后復位祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三五〇六至一三五〇八、一四八八一

宣祖同懿仁后祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五一一、一三五一二、一四八七八

元宗同仁獻后祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五一九、一三五二〇

仁祖同仁烈后祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三五二二至一三五二四

仁祖莊烈后祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五二五、一三五二六、一四八八二

孝宗祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三五二九至一三五三一、一四八七六

孝宗仁宣后祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三五三六至一三五三八、一四八八四

顯宗祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三五四一至一三五四三、一四八八三

顯宗明聖后都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三五四五至一三五四七、一四八七九

肅宗祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五五一、一三五五二

肅宗仁元后祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五六一、一三五六一

景宗同端懿后祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三五六九至一三五七一

景宗宣懿后祔廟都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五七九、一三五八〇、一四八七七

英祖眞宗兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五八七、一三五八八

英祖貞純后兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三五九八至一三六〇〇

莊祖獻敬后兩宮都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三六二〇至一三六二二

正祖兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三六四三至一三六四六

正祖孝懿后兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三六五四至一三六五七

純祖文祖兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 一三六八一、一三六八二

純祖純元后兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三六九九至一三七〇四

文祖入廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三七二九至一三七三三

文祖神貞后兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三七五四至一三七五八

憲宗同孝顯后兩廟都監儀軌 二冊

史部

圖書番號 自一三七九六至一三八〇一

憲宗孝定后兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三八三五至一三八四一

哲宗兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三八五四至一三八五八

哲宗哲仁后兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三八七四至一三八七八

顯穆綏嬪入廟都監儀軌 一冊

圖書番號 一三九三九、自一三九四一至一三九四三

光海君私親兩廟都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八八〇

○ 陵園遷奉都監儀軌

寫本

地理の吉凶に因り各陵中移葬せしこと尠からず
其の遷葬に關する儀節の記録なり

宣祖穆陵遷葬都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五一五

元宗興慶園遷葬都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五一八

仁祖長陵遷奉都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八八六、一四八八七

二二二

孝宗寧陵遷奉都監儀軌 二冊

圖書番號 一三五三二、一三五三三、一四八八五

莊祖永佑園遷奉都監儀軌 七冊

圖書番號 自一三六二四至一三六二六

莊祖顯隆園園所都監儀軌 四冊

圖書番號 自一三六二七至一三六二九、一三六三〇

正祖健陵遷奉都監儀軌 七冊

圖書番號 自一三六五八至一三六六一、一四五九七

正祖健陵遷奉山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三六六二至一三六六五

純祖仁陵遷奉都監儀軌 七冊

圖書番號 一三七〇五

純祖仁陵遷奉山陵都監儀軌 七冊

圖書番號 自一三七〇六至一三七一四

文祖綏陵遷奉都監儀軌 七冊

圖書番號 自一三七五九至一三七六三

文祖綏陵遷奉山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 自一三七六四至一三七六八

文祖綏陵再遷奉都監儀軌 七冊

圖書番號 一三七六九、自一三七七一至一三七七四

文祖綏陵再遷奉山陵都監儀軌 二冊

圖書番號 一三七七〇、自一三七七五至一三七七八

顯穆綏嬪徽慶園遷奉都監儀軌 四冊

圖書番號 一三九四五、自一三九四八至一三九五〇、一三九五二、自一三九五六至一三九五八、一三九六〇、一三九六二

顯穆綏嬪徽慶園遷奉園所都監儀軌 四冊

圖書番號 一三九四六、一三九四七、一三九五一、一三九五三、一三九六三

顯穆綏嬪徽慶園再遷奉都監儀軌 四冊

圖書番號 一三九五三、一三九六三

各陵改修都監儀軌 寫本

陵寢の石儀、丁字閣、碑石、莎草等を改修したる儀節を記録せしものなり都監を或は廳とも稱す

太祖建元陵丁字閣重修儀軌 一冊

圖書番號 一三五〇〇

太祖神德后貞陵表石營建廳都監儀軌 一冊

圖書番號 一三四九九

太宗獻陵碑石重建廳儀軌 一冊

圖書番號 一三五〇一

圖書番號 一三五〇一

圖書番號 一三五〇一

圖書番號 一三五〇一

圖書番號 一三五〇一

端宗莊陵改修都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五〇五

明宗康陵改修都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五〇九、一三五二〇

宣祖穆陵改修都監儀軌 一冊

圖書番號 一三五一四

肅宗明陵改修都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三五六三至一三五六五

景宗端懿后惠陵石儀進排都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九四〇

英祖元陵改修都監儀軌 一冊

圖書番號 一三六〇一

英祖元陵再改修都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三六〇二至一三六〇四

正祖健陵改修都監儀軌 一冊

圖書番號 一三六六六、一三六六七

文祖綏陵莎草改修都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三七七九至一三七八二

文祖綏陵莎草再改修都監儀軌 一冊

史部

圖書番號 一三七八三

明成皇后洪陵石儀重修都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三八九五至一三八九九

光海君私親誌石改修都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八九四、一四九三九

○封陵都監儀軌

寫本

復位及追崇の時園墓を陵に追封したる儀節を記せり又嬪宮封墓儀軌あり

端宗莊陵封陵都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八三〇

端宗定順后思陵封陵都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八二二

中宗端敬后温陵封陵都監儀軌 一冊

圖書番號 一四八三一

昭顯世子愍懷嬪封墓都監儀軌 二冊

圖書番號 一四八三七

○宗廟儀軌

寫本

宗廟及永寧殿に關する儀節を記したるものにして廟制、創建、重建、位版題式、主制、上諡、廟號、位號、祔廟、

世室、祧遷、復位、追崇、追禰、追上尊號、加上尊諡、祭享、親祭、廟見、朔望俗節、樂章、移還安攝事儀、祈告、祝幣、犧牲、饌器、撤饌、薦新、奉審、修改、修補儀章、冊寶、變禮、盜變、七祀、配享、禁伐、故事、官員、守直、守僕、祭享進供各司物目等を載せ、宗廟永寧殿、設饌、登歌、軒歌、文舞、武舞、祭器、樂器、冕服、冠服等の圖及解説を冠せり

宗廟儀軌原編(穆祖ヨリ 肅宗ニ至ル) 四冊

圖書番號 一四二二〇

宗廟儀軌續錄(英祖ノ時) 二冊

圖書番號 一四二二一

宗廟儀軌續錄(純祖ノ時) 一冊

圖書番號 一四二二二

宗廟儀軌續錄(純祖庚辰ヨリ 憲宗壬寅ニ至ル) 二冊

圖書番號 一四二二三

○社稷署儀軌 六卷 三冊

圖書番號 一四二二九

寫本

社稷署に關する事實及祭禮を記したるものにして、卷首には全署及壇壝其の他饌實尊罍、祭器、樂器、舞器、祭服等の圖説を載せ、卷一は式例、卷二は儀節

卷三卷四卷五は故事を編せり

○景慕宮儀軌 四卷三冊

圖書番號 一三六三二

寫本

景慕宮に於て莊祖を祭る時の儀式を記したるものにして、第一卷は圖説、第二卷は祀典、第三卷は故實、第四卷は今制及附録なり

○位版造成都監儀軌 一冊

圖書番號 一四二五〇

寫本

朝鮮太祖の始祖新羅司空公の位版を造成したる時の儀節を記したるものなり

○寶印儀軌

寫本

各代の玉冊、金寶及御印を修理し若くは造成したる顛末を記せしものなり

太祖神懿后金寶改造都監儀軌 一冊

圖書番號 一四二〇九

仁祖莊烈后冊寶修改都監儀軌 一冊

圖書番號 一四二一〇、一四九二一

列聖朝金寶改造都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九四八

宗廟各室金寶改造都監儀軌 一冊

圖書番號 一四二二一、一四五九八

眞宗孝純后玉印造成都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九四七

李太王丙子寶印所儀軌 一冊

圖書番號 自一四二二二至一四二二九

○ 樂器造成廳儀軌

寫本

吉禮及祭禮に用ふる樂器を造成したる時其の顛末を記せしものなり

仁政殿樂器造成廳儀軌 一冊

圖書番號 一四二六四

景慕宮樂器造成廳儀軌 一冊

圖書番號 一四二六五

社稷樂器造成廳儀軌 一冊

圖書番號 一四二六六

○ 祭器都監儀軌

寫本

廟社及陵寢、文廟等の祭器を造成したる顛末を記せしものなり

社稷宗廟、文廟祭器都監儀軌 一冊

史部

圖書番號 一四九三〇

各陵祭器都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九三一

祭器樂器都監儀軌 一冊

圖書番號 一三七三四、一四九三二

○ 藏胎儀軌

寫本

王室に生産ある時は其の胎を磁缸若くは石缸に納めて名山に埋むるを例とす其の一般の儀節を記したるものなり又胎室加封及石物豎立等の儀軌あり

太祖胎室修補儀軌 一冊

圖書番號 一四九四二

成宗胎室碑石改豎儀軌 一冊

圖書番號 一三九六四

景宗胎室石物修改儀軌 一冊

圖書番號 一三九六五、一三九六六

正祖胎室加封儀軌 一冊

圖書番號 一三九六七

純祖胎室石欄干造排儀軌 一冊

二二五

史部

圖書番號 一三九六八

文祖藏胎儀軌 一冊

圖書番號 一三九六九

文祖胎室加封儀軌 一冊

圖書番號 一三九七〇

憲宗胎封儀軌 一冊

圖書番號 一三九七一、一三九七二

憲宗胎室加封儀軌 一冊

圖書番號 一三九七三

哲宗己未元子藏胎儀軌 一冊

圖書番號 一三九七四

李王藏胎儀軌 一冊

圖書番號 一三九七五、一三九七六

文孝世子藏胎儀軌 一冊

圖書番號 一三九七七

○影幀摹寫都監儀軌

寫本

歷代先王の眞像を畫きたる時の儀節を記せしものなり時王の眞像を畫きたることを併記す

太祖影幀初摹寫都監儀軌 一冊

圖書番號 一三九七八、一三九七九、一四九二二

太祖影幀再摹寫都監儀軌 一冊

圖書番號 一三九八〇、一三九八一

太祖影幀三摹寫都監儀軌 一冊

圖書番號 一三九八二、一三九八三

太祖影幀三摹寫補完都監儀軌 一冊

圖書番號 一三九八四、一三九八五

太祖影幀四摹寫都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三九八六至一三九八九

太祖肅宗英祖正祖
純祖文祖憲宗影幀摹寫都監儀軌 一冊

圖書番號 自一三九九〇至一三九九四

世祖影幀摹寫都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九三二

肅宗癸巳御容圖寫都監儀軌 一冊

圖書番號 一三九九六、一三九九五

肅宗影幀摹寫都監儀軌 一冊

圖書番號 一三九九七

李太王壬申御眞移摹都監儀軌 一冊

圖書番號 一三九九八、一三九九九

李太王壬寅御眞圖寫都監儀軌 一冊

圖書番號 一四〇〇〇、一四〇〇一

○ 睿源譜略修正儀軌

寫本

睿源系譜紀略を開刊したる時其の顛末を記したるものなり又國朝御牒儀軌あり

肅宗己未開刊儀軌 一冊

圖書番號 一三三九〇、自一四〇〇二至一四〇〇六、自

一四〇〇八至一四〇一一

肅宗庚申睿源錄校正廳儀軌 一冊

圖書番號 一四〇〇七

肅宗庚辰睿源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 一四〇二二、一四〇二三

肅宗己亥睿源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 一四〇二四、一四〇二五

景宗壬寅睿源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四〇二六

英祖乙巳睿源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇一七至一四〇一九

英祖丁未睿源譜略修正儀軌 一冊

史部

圖書番號 自一四〇二〇至一四〇二二

英祖乙卯睿源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇二三至一四〇二五

英祖丙辰睿源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇二六至一四〇二八

英祖己未睿源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 一四〇二九、一四〇三〇

英祖庚申睿源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四〇三一

英祖甲子睿源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇三二至一四〇三四

英祖丁卯睿源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 一四〇三五、一四〇三六

英祖戊辰睿源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 一四〇三七、一四〇三八

英祖辛未睿源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇三九至一四〇四二

英祖壬申睿源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇四三至一四〇四五

二二七

英祖癸酉塔源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇四六至一四〇四八

英祖甲戌塔源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇四九至一四〇五一

英祖乙亥塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇五三至一四〇五五

英祖丙子塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇五六至一四〇五八

英祖丁丑塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇五九至一四〇六一

英祖戊寅塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇六三至一四〇六六

英祖己卯塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四〇六七、一四〇六八

英祖庚辰塔源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 一四〇七〇、一四〇七一

英祖甲申塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇七二至一四〇七五

英祖辛卯塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇七六至一四〇七八

英祖壬辰塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四〇七九至一四〇八四

正祖丙申塔源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 一四〇八五

正祖己亥塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四〇八六

正祖癸卯塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四〇八七

正祖甲辰塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四〇八八、一四〇八九

正祖丙午塔源譜略改張儀軌 一冊

圖書番號 一四〇九〇

正祖丁未塔源譜略改張洗補儀軌 一冊

圖書番號 一四〇九一

正祖己酉塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四〇九二

正祖庚戌塔源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 一四〇九三

- 正祖甲寅瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四〇九四
- 純祖乙丑瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四〇九五
- 純祖己巳瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四〇九六
- 純祖壬申瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四〇九七
- 純祖丁丑瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四〇九八
- 純祖辛巳瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四〇九九
- 純祖癸未瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一〇〇
- 純祖丁亥瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一〇一
- 純祖庚寅瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一〇二、一四一〇三
- 憲宗乙未瑤源譜略修正儀軌 一冊

史部

- 圖書番號 一四一〇四
- 憲宗丁酉瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一〇五
- 憲宗癸卯瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一〇六
- 憲宗甲辰瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一〇七
- 憲宗丙午瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一〇八
- 憲宗戊寅瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一〇九
- 憲宗庚戌瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一一〇
- 哲宗壬子瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一一一
- 哲宗癸丑瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一一二、一四一一三
- 哲宗丙辰瑤源譜略修正儀軌 一冊
 圖書番號 一四一一四

史部

一三〇

哲宗戊午塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四一一五、一四九四五

哲宗己未塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四一一六、一四二一七

哲宗辛酉塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二一八

哲宗壬戌塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二一九

哲宗癸亥塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二二〇

李太王壬申塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二二一

李太王乙亥塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二二二、一四二二三

李太王丁丑塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二二四

李太王戊寅塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二二五、一四二二六

李太王己卯塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二二七

李太王壬午塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二二八

李太王癸未塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二二九

李太王戊子塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二三〇、一四三三一

李太王庚寅塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四一三二至一四一三四

李太王壬辰塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 一四一三五、一四一三六

光武己亥塔源譜略修正儀軌 二冊

圖書番號 一四一三七

光武庚子塔源譜略修正儀軌 一冊

圖書番號 自一四一三八至一四一四一

光武甲辰塔源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 自一四一四二至一四一四六

光武丙午塔源譜略校正廳儀軌 一冊

圖書番號 自一四一四七至一四一五一

國朝御牒落張修改儀軌 一冊

圖書番號 一四一五二、一四一五四

○誌狀修正儀軌

寫本

歷代陵誌行狀等を編次せし列聖誌狀に修正を加へ又は誌文を改修して合部したる時の顛末を記せしものなり

列聖誌狀修正儀軌 一冊

圖書番號 一四二〇〇

仁敬后明聖后改修誌文合部儀軌 一冊

圖書番號 一三二〇七

○御製刊行儀軌

寫本

歷代親製の詩文を刊行したる時其の顛末を記せしものなり

列聖御製更刊儀軌 一冊

圖書番號 一四二〇一

景宗御製添刊儀軌 一冊

圖書番號 一四二〇二、一四二〇三

○實錄廳儀軌

寫本

實錄を纂修し又は修正、刪節せし時の顛末を記し

たるものなり

端宗實錄附錄撰輯廳儀軌 一冊

圖書番號 一四一五三

宣祖實錄修正廳儀軌 一冊

圖書番號 一四一五五、一四一五六

光海君日記纂修廳儀軌 一冊

圖書番號 一四一五七

仁祖實錄廳儀軌 一冊

圖書番號 一四一五八、一四一五九

孝宗實錄纂修廳儀軌 一冊

圖書番號 一四一六〇

顯宗實錄纂修廳儀軌 一冊

圖書番號 自一四一六一至一四一六三

顯宗實錄改修廳儀軌 一冊

圖書番號 一四一六四

肅宗實錄纂修廳儀軌 二冊

圖書番號 自一四一六五至一四一六八

景宗修正實錄儀軌 一冊

圖書番號 一四一六九、一四一七〇

英祖實錄應儀軌 二冊

圖書番號 自一四一七一至一四一七三

正祖實錄刪節應儀軌 一冊

圖書番號 自一四一七四至一四一七六

純祖實錄刪節應儀軌 一冊

圖書番號 自一四一七七至一四一八〇

憲宗實錄應儀軌 一冊

圖書番號 自一四一八一至一四一八三

哲宗實錄應儀軌 一冊

圖書番號 自一四一八四至一四一八六

○ 國朝寶鑑監印廳儀軌

寫本

國朝寶鑑を纂修し之を印行する時監印廳に於て其の顛末を記したるものなり

正祖癸卯國朝寶鑑監印廳儀軌 一冊

圖書番號 自一四一八七至一四一九〇、一四九三八

憲宗戊申國朝寶鑑監印廳儀軌 一冊

圖書番號 自一四一九一至一四一九七

隆照己酉國朝寶鑑監印廳儀軌 一冊

圖書番號 一四一九八、一四一九九、一四九五〇

○ 承政院日記改修廳儀軌 一冊

寫本

圖書番號 一四二〇四、一四二〇五

李太王二十五年戊子承政院右史堂火災に罹り承政院日記の一部焼失し二十七年庚寅之を改修したる顛末を記せしものなり

○ 闡義昭鑑纂修廳儀軌 一冊

寫本

圖書番號 一四二〇六

英祖三十一年乙亥纂修廳を置き闡義昭鑑を編撰したる顛末を記せしものなり

○ 東國新續三綱行實撰集廳儀軌 一冊

寫本

圖書番號 一四二〇七、一四二〇八、一四九三六

光海君六年甲寅三綱行實を増續するため撰集廳を置き其の顛末を記したるものなり

○ 親耕親蠶儀軌

寫本

英祖の時に於ける親耕及親蠶の儀節を記したるものなり又受繭儀軌あり

英祖親耕儀軌 一冊

圖書番號 自一四五三七至一四五四二、一四九三七

英祖貞純后親蠶儀軌 一冊

圖書番號 一四五四三

英祖貞純后受繭儀軌 一冊

圖書番號 一四五四四

○ 大射禮儀軌 一冊

寫本

圖書番號 一四九四一

英祖十九年癸亥大射禮を舉行したる時の儀式を記したるものなり

○ 親臨政府時儀軌 一冊

寫本

圖書番號 一四九四四

李太王二年乙丑議政府に親臨せし時の儀節を記せしものなり

○ 營建都監儀軌

寫本

廟社殿宮其の他の營建又は重建、増建、改修、重修、増修等に關する顛末を記したるものなり

宗廟改修都監儀軌 二冊

圖書番號 一四二二五

永寧殿改修都監儀軌 一冊

圖書番號 一四二二四

史部

宗廟永寧殿増修都監儀軌 二冊

圖書番號 自一四二二六至一四二二八

塔源殿増建都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四二三〇至一四二三六、一四九一九

眞殿重修廳儀軌 一冊

圖書番號 一四二三七

眞殿重建都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四二三八至一四二四二、一四九一三、一四

九一七

永禧殿營建都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四二四三至一四二四九、一四九一六

垂恩廟營建廳儀軌 一冊

圖書番號 一三六三一

景慕宮改建都監儀軌 一冊

圖書番號 一三六三三

肇慶壇溶慶墓永慶墓營建廳儀軌 二冊

圖書番號 自一四二五一至一四二五八

懿昭世孫懿昭廟營建廳儀軌 一冊

圖書番號 一四二五九

一三三三

文孝世子文禧廟營建廳儀軌 一冊

圖書番號 一三九二六

顯思宮別廟營建都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四二六〇至一四二六一

昌德宮營建都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四三三八至一四三二一

昌慶宮營建都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四三三三至一四三二七

昌慶宮修理都監儀軌 一冊

圖書番號 一四三二二、一四九二五

昌德宮昌慶宮修理都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九二二

慶運宮重建都監儀軌 二冊

圖書番號 自一四三二八至一四三三三、一四九一八

仁政殿營建都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四三三四至一四三三七

仁政殿重修都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四三三八至一四三四三

中和殿營建都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四三四四至一四三四九、一四九一四

西闕營建都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四三五〇至一四三五二

南別殿重建廳儀軌 一冊

圖書番號 一四三三三

南殿增建都監儀軌 一冊

圖書番號 自一四三五四至一四三五六、一四九二〇

大報壇增修所儀軌 一冊

圖書番號 一四三一五

○ 豊壤竪立碑石儀軌 一冊

圖書番號 一四二六三

英祖三十一年乙亥楊州豊壤里太祖舊闕の遺址に碑石を立てし時の顛末を記したるものなり

寫本

○ 進宴儀軌

寫本
印本

宮中の讌禮に進豊、呈進宴、進饌、進爵の四種あり其等に關する一般の儀式を記せり

肅宗己亥進宴廳儀軌 二冊

圖書番號 一四三五七、一四三五八

英祖甲子進宴廳儀軌 二冊

圖書番號 一四三五九、一四三六〇

英祖乙酉受爵儀軌 二冊

圖書番號 一四三六一

純祖丁亥進爵儀軌 一冊

圖書番號 一四三六二

純祖戊子進爵儀軌 四冊

圖書番號 自一四三六三至一四三六六

純祖己丑進爵儀軌 四冊

圖書番號 自一四三六七至一四三七〇、一四五一七

憲宗戊申進爵儀軌 四冊

圖書番號 自一四三七一至一四三七三、一四五一六、一四

九四三

李太王戊辰進爵儀軌 三冊

圖書番號 一四三七四

李太王癸酉進爵儀軌 一冊

圖書番號 一四三七五

李太王丁丑進爵儀軌 四冊

圖書番號 自一四三七六至一四四〇二

李太王丁亥進爵儀軌 四冊

史部

圖書番號 自一四四〇三至一四四二七

李太王壬辰進爵儀軌 四冊

圖書番號 自一四四二八至一四四四四

李太王辛丑進爵儀軌 四冊

圖書番號 自一四四四五至一四四六一

李太王辛丑進爵儀軌 四冊

圖書番號 自一四四六三至一四四七八

李太王壬寅進爵儀軌 四冊

圖書番號 自一四四七九至一四五一五

○整理儀軌 二〇卷 八冊 印本

圖書番號 自一四五一八至一四五三六

正祖十九年乙卯水原顯隆園に行幸の後整理儀軌
廳を設け園幸の儀節を編印したるものにして本
文五卷には擇日座目圖説を載せたる首巻と誕辰
慶賀景慕宮展拜永興本宮躋享及温宮紀蹟を編次
せし附編四卷あり凡そ儀軌の印行は本書を以て
嚆矢とす慈慶殿進爵整禮儀軌二冊を附す

○華城城役儀軌 一〇卷 一〇冊 印本

圖書番號 自一四五八六至一四九九五、一四九二九

一三五

正祖八年甲寅水原に城き之を華城と名け二十年丙辰城役の顛末を記し之を印行す本文六卷及時日座目圖說等を載せたる首卷と城華籌畧を掲げたる附編三卷なり

○功臣都監儀軌

寫本

國家に勳功ある功臣に對し賞爵を世襲せしむる事に關し一般の儀節を記したるものなり

宣祖扈聖宣武功臣都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九二四

宣祖扈聖宣武原從功臣都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九二三

仁祖靖社振撫兩功臣都監儀軌 一冊

圖書番號 一四五八一、一四五八二

仁祖昭武寧社兩功臣都監儀軌 一冊

圖書番號 一四五八三

仁祖寧國功臣都監儀軌 一冊

圖書番號 一四五八四、一四九四六

英祖奮武功臣錄勳都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九三五

○使臣迎接都監儀軌

寫本

吉禮凶禮の時明及清より派遣したる使臣の迎接に關する顛末を記したるものなり

宣祖國恤時明使迎接都監都廳儀軌 一冊

圖書番號 一四五四五、一四五四六

宣祖國恤時明使迎接都監盤膳色儀軌 一冊

圖書番號 一四五四七、一四五四八

宣祖國恤時明使迎接都監宴享色儀軌 一冊

圖書番號 一四五四九、一四五五〇

宣祖國恤時明使迎接都監米麵色儀軌 一冊

圖書番號 一四五五一

宣祖國恤時明使迎接都監軍色儀軌 一冊

圖書番號 一四五五二、一四五五三

宣祖國恤時明使迎接都監雜物色儀軌 一冊

圖書番號 一四五五四、一四五五五

宣祖國恤時明帝賜祭廳儀軌 一冊

圖書番號 一四五五六、一四五五七、一四五八五

光海君庚戌明使迎接都監米麵色儀軌 一冊

圖書番號 一四五五八

仁祖甲戌明使迎接都監儀軌 一冊

圖書番號 一四五五九

仁祖甲戌明使迎接都監都廳儀軌 一冊

圖書番號 一四五六〇

仁祖甲戌明使迎接都監應辦色儀軌 一冊

圖書番號 一四五六一、一四五六二

仁祖甲戌明使迎接都監盤膳色儀軌 一冊

圖書番號 一四五六三、一四五六四

仁祖甲戌明使迎接都監軍色儀軌 一冊

圖書番號 一四五六五、一四五六六

仁祖甲戌明使迎接都監宴享色儀軌 一冊

圖書番號 一四五六七、一四五六八

仁祖甲戌明使迎接都監米麵色儀軌 一冊

圖書番號 一四五六九、一四五七〇

仁祖甲戌明使迎接都監雜物色儀軌 一冊

圖書番號 一四五七一、一四五七二

仁祖丙寅明使迎接都監盤膳色儀軌 一冊

圖書番號 自一四五七三至一四五七六

仁祖丁丑清使迎接都監軍色儀軌 一冊

史部

圖書番號 一四五七七

仁祖癸未清使迎接都監應辦色儀軌 一冊

圖書番號 一四五七八

仁祖癸未清使迎接都監宴享色儀軌 一冊

圖書番號 一四五七九

仁祖癸未清使迎接都監雜物色儀軌 一冊

圖書番號 一四五八〇

○ 皇壇從享儀軌 一冊 寫本

圖書番號 一四三二六、一四三二七

明太祖、神宗及毅宗を祀れる大報壇に三代の功臣徐達、李如松、范景文の三人を從享せし顛末を記したるものにして大報壇は一に皇壇と稱したり

○ 推刷都監儀軌 寫本

京各司の奴婢にして各地方に散在する者を調査したる顛末を記せしものなり

孝宗丁酉推刷都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九三三

孝宗乙未推刷都監儀軌 一冊

圖書番號 一四九三四

○ 火器都監儀軌 一冊

寫本

圖書番號 一四五九六

光海君七年乙卯銃砲を製造するため都監を設け其の顛末を記したるものなり

○ 全州史庫曝曬形止案

寫本

全羅北道全州の史庫實錄閣は朝鮮國初より存し歴代の實錄を藏置し三年毎に藝文館の官員を派して曝曬し其の書目及藏置の現狀を復命せしむるを例とし之を形止案と名けたり

宣祖二十一年戊子全州史庫曝曬形止案 一冊

圖書番號 一〇〇〇四

宣祖二十四年辛卯全州史庫曝曬形止案 一冊

圖書番號 一〇〇〇二

○ 海州史庫曝曬形止案

一冊

寫本

圖書番號 一〇〇〇六

宣祖二十七年甲午海州史庫の實錄を曝曬せし時の形止を録したるものなり

○ 香山史庫實錄曝曬形止案

寫本

平安北道寧邊郡妙香山史庫に藏したる實錄及他

の書籍を曝曬せし時の形止を録したるものにし

て初め宣祖二十五年壬辰全州の實錄を海州に移

藏し翌年甲午の後更に成川を経て妙香山に移し

三十四年辛丑の後更に京畿道江華に移し之を重

刊し三十九年丙午江華摩尼山、寧邊妙香山及慶尙

北道奉化、太白山、江原道江陵、五臺山の四個所に史

庫を新設し全州舊本は摩尼山に重刊正本は妙香

山及太白山に重刊草本は五臺山に分藏す後妙香

山史庫は茂朱赤裳山城に移せり

宣祖三十二年己亥香山史庫實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 一〇〇〇三

宣祖三十四年辛丑香山史庫實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 一〇〇〇五

○ 江華史庫實錄曝曬形止案

一冊

寫本

圖書番號 九四八五

宣祖二十五年壬辰兵燹の後實錄の重刊を圖り三十四年辛丑の後寧邊妙香山に移藏せし實錄を江

華の史庫に移藏し三十六年癸卯例に依り藝文館
官員を遣し實錄及他の書籍を曝曬せしめたる時
の形止を録せしものなり

○ 摩尼山實錄奉安形止案

寫本

宣祖三十九年丙午初めて摩尼山史庫に歷代實錄
及他の書籍を藏置し其の後或は新撰實錄を收藏
し或は一時移藏したる實錄を還藏せし時の形止
を録したるものなり

宣祖三十九年丙午摩尼山實錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四六七

光海君十年戊午摩尼山實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九一九三

孝宗五年甲午摩尼山實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九五五四

孝宗八年丁酉摩尼山實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九七二四

○ 摩尼山實錄曝曬形止案

寫本

摩尼山史庫に藏めたる實錄及群書を曝曬したる

史部

時の形止を録せしものなり

光海君三年辛亥摩尼山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六六四

光海君九年丁巳摩尼山實錄曝曬形止案 二冊

圖書番號 九六六一

仁祖七年己巳摩尼山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四四三

仁祖十一年癸酉摩尼山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五九八

○ 鼎足山城實錄奉安形止案

寫本

顯宗庚子京畿道江華郡摩尼山史庫を同郡傳燈山
鼎足山城に移建し實錄を移藏し其の後實錄閣を
改修する時及改粧或は謄出の後之を收藏し又新
撰實錄を收藏せし時の形止等を録したるものな
り

顯宗元年庚子鼎足山城實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九五九二

顯宗五年甲辰鼎足山城實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九七二三

顯宗六年乙巳鼎足山城實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九五五二

顯宗七年丙午鼎足山城實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九六八九

肅宗四年戊午鼎足山城實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三五八

肅宗九年癸亥鼎足山城實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四三九

肅宗三十三年丁亥鼎足山城實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三五六

正祖五年辛丑鼎足山城實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九五二九

○ 鼎足山城實錄曝曬形止案

寫本

鼎足山城史庫に藏したる實錄其の他群書を曝曬したる時の形止を錄せしものなり

顯宗四年癸卯鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五六四

顯宗五年甲辰鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五四四

顯宗五年甲辰鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五五〇

肅宗三年丁巳鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六〇一

肅宗十七年辛未鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六〇七

肅宗二十年甲戌鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三六〇

肅宗二十四年戊寅鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二八三

肅宗二十七年辛巳鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四六二

肅宗三十年甲申鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二〇一

肅宗三十二年丙戌鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九六一六

肅宗三十五年己丑鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三五九

肅宗三十八年壬辰鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九六一九

肅宗四十三年丁酉鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九六一四

景宗元年辛丑鼎足山城實錄曝曬形止案

圖書番號 九四九三

景宗四年甲辰鼎足山城實錄曝曬形止案

圖書番號 九六一五

英祖三年丁未鼎足山城實錄曝曬形止案

圖書番號 九六五九

史部

英祖四年戊申鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四二一

英祖九年癸丑鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六〇〇

英祖十二年丙辰鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五二五

英祖十八年壬戌鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三〇七

英祖二十一年乙丑鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九四七四

英祖二十五年己巳鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九四六三

英祖三十年甲戌鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九六二六

二四一

英祖三十六年庚辰鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九四八一

英祖四十年甲申鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九一七九

英祖四十二年丙戌鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五三五

英祖四十五年己丑鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五三四

英祖四十七年辛卯鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五三六

英祖五十年甲午鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五三一

正祖元年丁酉鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五三二

正祖九年乙巳鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五三八

純祖五年乙丑鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二三八

純祖十三年癸酉鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九一八八

純祖十九年己卯鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三七二

純祖二十五年乙酉鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五三九

純祖二十九年己丑鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三七二

純祖三十二年壬辰鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三七四

憲宗二年丙申鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六五三

憲宗九年癸卯鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六五四

憲宗十二年丙午鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六五五

哲宗元年庚戌鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三三八

哲宗三年壬子鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六五二

哲宗七年丙辰鼎足山城實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二二二

哲宗十一年庚申鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二一九

李太王元年甲子鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

史部

圖書番號 九二五五

李太王八年辛未鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二四四

李太王十七年庚辰鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二四七

李太王二十五年戊子鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三三九

李太王三十年癸巳鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二〇四

李太王光武二年戊戌鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二九七

李太王光武四年庚子鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二九三、九二九四

一四三

李太王光武七年癸卯鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二九二

李太王光武十年丙午鼎足山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二九六

○ 鼎足山城實錄考出時形止案

寫本

藝文館官員を鼎足山城史庫に遣し實錄を考出せし時の形止を録したるものなり

顯宗六年乙巳鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九五八九

顯宗七年丙午鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九二九九

顯宗七年丙午鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九五八二

顯宗十年己酉鼎足山城實錄考出時形止案

圖書番號 九三七五

顯宗十年己酉鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九五九六

顯宗十四年癸丑鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九四五一

顯宗十五年甲寅鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三五一

顯宗十五年甲寅鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三九八

肅宗六年庚申鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九五四八

肅宗七年辛酉鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三五四

肅宗十四年戊辰鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九四七八

肅宗十五年己巳鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九二二五

肅宗十五年己巳鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九六一八

肅宗十六年庚午鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三五五

肅宗二十四年戊寅鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三四四

肅宗二十八年壬午鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九一九七

史部

肅宗三十年甲申鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九二三六

肅宗三十一年乙酉鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九二一六

肅宗三十九年癸巳鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九六一三

肅宗四十三年丁酉鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九二〇〇

肅宗四十四年戊戌鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九四五三

肅宗四十五年己亥鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三九二

景宗四年甲辰鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

二四五

史部

圖書番號 九五二七

英祖三年丁未鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九五二六

英祖七年辛亥鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九六一一

英祖十一年乙卯鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九六一二

英祖十九年癸亥鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三三五

英祖二十年甲子鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三三二、九四七六

英祖二十三年丁卯鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九二二九

英祖二十六年庚午鼎足山城實錄考出時形止案

二四六

一冊

圖書番號 九三六三

英祖二十九年癸酉鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九五三三

英祖三十一年乙亥鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九六二四

英祖三十二年丙子鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九六二五

英祖三十四年戊寅鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九二〇五

英祖三十五年己卯鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九四七九

英祖三十八年壬午鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九二〇三

英祖三十八年壬午鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九二五

英祖四十一年乙酉鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三六一

英祖四十三年丁亥鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三六二

英祖四十三年丁亥鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九六一七

英祖四十六年庚寅鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三六四

英祖五十一年乙未鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九六二七

英祖五十二年丙申鼎足山城實錄考出時形止案

史部

圖書番號 九五三七

正祖三年己亥鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九五三〇

正祖八年甲辰鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三六七

正祖十九年乙卯鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三七〇

正祖二十年丙辰鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三七三

正祖二十一年戊午鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九三六八

純祖元年辛酉鼎足山城實錄考出時形止案

一冊

二四七

圖書番號 九六二二

○ 鼎足山城實錄閣修改形止案

寫本

鼎足山城史庫の實錄閣を重修せし時の形止を録したるものなり

肅宗十三年丁卯鼎足山城實錄閣修改形止案

一冊

圖書番號 九三三三

肅宗二十九年癸未鼎足山城實錄閣修改形止案

一冊

圖書番號 九一九四

肅宗三十九年癸巳鼎足山城實錄閣修改形止案

一冊

圖書番號 九六五七

英祖十年甲寅鼎足山城實錄閣修改形止案

一冊

圖書番號 九五二八

英祖十七年辛酉鼎足山城實錄閣修改形止案

一冊

圖書番號 九三五七

英祖三十三年丁丑鼎足山城實錄閣修改形止案

一冊

圖書番號 九三六九

英祖四十一年乙酉鼎足山城實錄閣修改形止案

一冊

圖書番號 九五七〇

正祖元年丁酉鼎足山城實錄閣修改形止案

一冊

圖書番號 九五七二

○ 鼎足山城實錄染蠟及修補時形止案

寫本

圖書番號 九三六五

肅宗二十五年己卯藝文館官員を鼎足山城史庫に遣し實錄の冊紙に蜜蠟を塗布し又實錄中弊壞の處を修補せし時の形止を録したるものなり

○ 鼎足山城濬源錄奉安形止案

寫本

鼎足山城史庫の濬源閣に濬源錄を藏めたる時の形止を録せしものなり又英祖乙亥釐正形止案あり

肅宗八年壬戌鼎足山城濬源錄奉安形止案

圖書番號 九四六五、九四七一

一冊

肅宗十年甲子鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三二三、九五六八

肅宗十四年戊辰鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四七〇

肅宗十七年辛未鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九五〇七

肅宗二十年甲戌鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六二〇、九四二二

肅宗二十三年丁丑鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二二七

肅宗二十五年己卯鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

史部

圖書番號 九二〇二

肅宗三十一年乙酉鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六五八

肅宗三十三年丁亥鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四四一

肅宗三十四年戊子鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二五四

肅宗三十五年己丑鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二〇六

肅宗三十六年庚寅鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六六五

肅宗三十七年辛卯鼎足山城塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二四八

二四九

肅宗三十九年癸巳鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二四五、九二四九

肅宗四十二年丙申鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六六七

肅宗四十六年庚子鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六六八

景宗四年甲辰鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六六三

英祖二年丙午鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二四六

英祖五年己酉鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二四一、九二四二

英祖九年癸丑鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二〇七

英祖十二年丙辰鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二五三

英祖十五年己未鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二五二

英祖二十二年丙寅鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二五一

英祖二十三年丁卯鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四四七

英祖三十一年乙亥鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九一七三

英祖三十一年乙亥鼎足山城濬源錄奉安釐正形止案

一冊

圖書番號 九七〇〇

純祖十八年戊寅鼎足山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三六六

○ 鼎足山城濬源錄曝曬形止案

寫本

鼎足山城史庫の濬源閣に藏せし濬源錄を曝曬したる時の形止を録せしものなり

肅宗十三年丁卯鼎足山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九七二三

純祖十三年癸酉鼎足山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九四五八、九四五九

純祖二十三年癸未鼎足山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九一八五、九一八七

純祖三十年庚寅鼎足山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九一八六

史部

純祖三十二年壬辰鼎足山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九四六八

李太王八年辛未鼎足山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五八〇

李太王光武六年壬寅鼎足山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五五三、九五五四

李太王光武七年癸卯鼎足山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九六七五、九六七六、九六七七

李太王光武十年丙午鼎足山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九六七二

○ 鼎足山城濬源譜牒奉審形止案

一冊寫本

圖書番號 九四四二

肅宗三十四年戊子鼎足山城史庫に宗簿寺主簿を遣し御牒、譜畧、濬源錄等を審視せし時の形止を録

したるものなり

○鼎足山城濬源閣修改形止案

寫本

鼎足山城史庫の濬源閣を重修せし時の形止を録したるものなり

肅宗二十六年庚辰鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九六五六

肅宗二十七年辛巳鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九二二八

肅宗二十九年癸未鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九二三七

肅宗三十三年丁亥鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九三〇六

景宗元年辛丑鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九六六六

景宗四年甲辰鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九二四三

英祖三年丁未鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九一九九、九四七五

英祖六年庚戌鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九六六〇

英祖十九年癸亥鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九六一〇

英祖二十二年丙寅鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九三三四

英祖四十九年癸巳鼎足山城濬源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九四六九

正祖元年丁酉鼎足山城濬源閣修改形止案

圖書番號 九四七七 一冊

正祖四年庚子鼎足山城濬源閣修改形止案

圖書番號 九四七三 一冊

正祖十二年戊申鼎足山城濬源閣修改形止案

圖書番號 九四六六 一冊

正祖十三年己酉鼎足山城濬源閣修改形止案

圖書番號 九四七二 一冊

正祖十四年庚戌鼎足山城濬源閣修改形止案

圖書番號 九四五七 一冊

純祖二年壬戌鼎足山城濬源閣修改形止案

圖書番號 九一九二、九四五四 一冊

憲宗十四年戊申鼎足山城濬源閣修改形止案

史部

圖書番號 九四三八

○ 太白山實錄奉安形止案

寫本

宣祖三十九年丙午初めて慶尙北道奉化郡太白山史庫の實錄閣に歷代の實錄及他の書籍を藏め其の後各代新撰の實錄を收藏し或は實錄閣修改又は重建の後收藏したる時の形止を録せしものなり

宣祖三十九年丙午太白山實錄奉安形止案

圖書番號 九四四八 一冊

仁祖十二年甲戌太白山實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二六九

仁祖十三年乙亥太白山實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二一七

顯宗七年丙午太白山實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三九九

肅宗九年癸亥太白山實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九五三二

李太王六年己巳太白山實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九六七九

李太王光武七年癸卯太白山實錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九五六九

○太白山實錄曝曬形止案

寫本

太白山史庫に藏したる實錄其の他群書を曝曬したる時の形止を録せしものなり

圖書番號 九三八五

光海君二年庚戌太白山實錄曝曬形止案 一冊

光海君六年甲寅太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五二一、九六〇二

光海君十年戊午太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二七一

仁祖三年乙丑太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六四六

仁祖七年己巳太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三〇八

仁祖十年壬申太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二七五

仁祖十三年乙亥太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六〇九

仁祖十七年己卯太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三九一

仁祖十九年辛巳太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六〇八

仁祖二十三年乙酉太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六八一

孝宗二年辛卯太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六〇四

孝宗干支未詳太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四三四

顯宗二年辛丑太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二二〇

肅宗三年丁巳太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三〇〇

肅宗四年戊午太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五八三

肅宗六年庚申太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五八四

肅宗十年甲子太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五七七

肅宗十二年丙寅太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五七六

肅宗十五年己巳太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五七一

肅宗十七年辛未太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九七〇五

肅宗三十年甲申太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五二〇

肅宗三十二年丙戌太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六九三

肅宗三十五年己丑太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九七〇二

肅宗三十八年壬辰太白山實錄曝曬形止案 一冊

史部

一冊

圖書番號 九五一九

肅宗四十年甲午太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九七二八

肅宗四十二年丙申太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三八七

景宗二年壬寅太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六九〇

英祖元年乙巳太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二五七

英祖三年丁未太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二二一

英祖五年己酉太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二七八、九二九一

英祖六年庚戌太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二五六

英祖九年癸丑太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二七四

二五五

英祖十八年壬戌太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四四四

英祖二十五年己巳太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二七二

英祖三十年甲戌太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三九四

英祖三十三年丁丑太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三九三

英祖三十五年己卯太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三九六

英祖三十七年辛巳太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九四八七

英祖四十年甲申太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五〇九

英祖四十二年丙戌太白山實錄曝曬形止案

圖書番號 九四八六

英祖四十五年己丑太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九四八九

英祖四十七年辛卯太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九四八八

英祖五十年甲午太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三一二

正祖四年庚子太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五一七

正祖十四年庚戌太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五九一

正祖二十四年庚申太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三〇五

純祖五年乙丑太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三〇二

純祖六年丙寅太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五二四

純祖十年庚午太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五二三

純祖十七年丁丑太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五二四

純祖二十二年壬午太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五九〇

純祖二十八年戊子太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五八八

純祖三十一年辛卯太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五八一

憲宗四年戊戌太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五八五

憲宗七年辛丑太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五四六

史部

憲宗十一年乙巳太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五四三

憲宗十四年戊申太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五七八

哲宗元年庚戌太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五七三

哲宗三年壬子太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五四二

哲宗七年丙辰太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五七五

哲宗十年己未太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五七九

李太王元年甲子太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五七四

李太王二年乙丑太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四四五

李太王八年辛未太白山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五六五、九五八六

李太王二十五年戊子太白山實錄曝曬形止案

二五七

一冊

圖書番號 九五九三

李太王二十九年壬辰太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五八七

李太王光武二年戊戌太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五六六、九五九五

李太王光武四年庚子太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五六三、九五九四

李太王光武七年癸卯太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五七一

李太王光武十年丙午太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五六七

李王隆熙四年庚戌太白山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二九五

○ 太白山實錄考出時形止案

寫本

肅宗庚午及己卯藝文館官員を太白山史庫に遣し實錄を考出せしめたる時其の形止を録して復命せしものなり

肅宗十六年庚午太白山實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九五一三

肅宗二十五年己卯太白山實錄考出時形止案

一冊

圖書番號 九五二二

○ 太白山璿源錄奉安形止案

寫本

太白山史庫の璿源閣に歴代の璿源錄を藏めたる時の形止を録せしものなり

仁祖七年己巳太白山璿源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九七〇八

仁祖十一年癸酉太白山璿源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九七〇三

仁祖十二年甲戌太白山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四〇三

仁祖十四年丙子太白山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三〇三

仁祖十八年庚辰太白山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九一九〇

仁祖二十年壬午太白山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四〇五

仁祖二十三年乙酉太白山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六九九

仁祖二十六年戊子太白山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六九八

孝宗元年庚寅太白山塔源錄奉安形止案 一冊

史部

圖書番號 九七〇六

孝宗二年辛卯太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九七〇七

孝宗三年壬辰太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九七一五

孝宗五年甲午太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九七〇四

孝宗八年丁酉太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三九七

顯宗二年辛丑太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二七七、九四五二

顯宗四年癸卯太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四五五

顯宗八年丁未太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二七六

顯宗十年己酉太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四二六

顯宗十三年壬子太白山塔源錄奉安形止案 一冊

二五九

史部

圖書番號 九四四〇

肅宗元年乙卯太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二八九

肅宗四年戊午太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三三一

肅宗八年壬戌太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二七五

肅宗十三年丁卯太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九七一九

肅宗十五年己巳太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九六三一

肅宗十六年庚午太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二七八

肅宗二十年甲戌太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九一八三

二六〇

肅宗二十三年丙子太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二八二

肅宗二十五年己卯太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二八一

肅宗二十八年壬午太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九六三〇

肅宗二十九年癸未太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二四〇

肅宗三十一年乙酉太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二五〇

肅宗三十七年辛卯太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二一〇

肅宗四十年甲午太白山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四二八

一冊

肅宗四十四年戊戌太白山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九一九八

景宗三年癸卯太白山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四五〇

英祖元年乙巳太白山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二三〇

英祖三年丁未太白山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九一七四

英祖五年己酉太白山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九一七七

英祖十年甲寅太白山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四三六

英祖十一年乙卯太白山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九一六六

英祖十七年辛酉太白山濬源錄奉安形止案

史部

圖書番號 九三八九

一冊

英祖三十一年乙亥太白山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三九〇

英祖四十三年丁亥太白山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九一五一

英祖四十九年癸巳太白山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二〇八

正祖二十一年丁巳太白山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九一九五

純祖二十六年丙戌太白山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二九〇、九四二四

李太王光武六年壬寅太白山濬源錄奉安形止案

一冊

二六一

史部

圖書番號 九五五五

李太王光武九年乙巳太白山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九五六二

○ 太白山塔源錄曝曬形止案

寫本

太白山史庫の塔源閣に藏せし塔源錄を曝曬したる時の形止を録せしものなり

純祖五年乙丑太白山塔源錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四二七

純祖二十年庚辰太白山塔源錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二八八、九四二〇

哲宗十四年癸亥太白山塔源錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九七二六、九七二〇

李太王八年辛未太白山塔源錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三二一、九五五七

李太王光武七年癸卯太白山塔源錄曝曬形止案

圖書番號 九六九四

李太王光武九年乙巳太白山塔源錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六七八

李太王光武十年丙午太白山塔源錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九七一九

李王隆熙四年庚戌太白山塔源錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六八八

○ 太白山塔源錄移安後奉審形止案

一冊

寫本

圖書番號 九四〇二

仁祖十二年甲戌太白山史庫の塔源閣を重修するため塔源錄を他所に移し其の現状を審視せし時の形止を録したるものなり

○ 太白山塔源閣修改形止案

寫本

太白山史庫の塔源閣を重修せし時の形止を録し

たるものなり

仁祖十三年乙亥太白山塔源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九三〇九

肅宗三十八年壬辰太白山塔源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九二〇九

正祖十四年庚戌太白山塔源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九四六一

純祖三十一年辛卯太白山塔源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九二七〇、九四一九

憲宗十一年乙巳太白山塔源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九六〇五、九七一

哲宗元年庚戌太白山塔源閣修改形止案

一冊

圖書番號 九六〇六、九七一〇

李太王六年己巳太白山塔源閣修改形止案

史部

一冊

圖書番號 九六八〇

○五臺山實錄奉安形止案

寫本

宣祖三十九年丙午初めて江原道江陵郡五臺山史庫の實錄閣に歷代の實錄及他の書籍を藏め其の後各代の新撰實錄を入藏したる形止を錄せしものなり

宣祖二十九年丙午五臺山實錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四二五

光海君十年戊午五臺山實錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二八〇

孝宗四年癸巳五臺山實錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三七八

肅宗二年丙辰五臺山實錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三三四

肅宗三十二年丙戌五臺山實錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三三六

○ 五臺山實錄曝曬形止案

寫本

五臺山史庫に藏せし實錄其の他群書を曝曬したる時其の形止を録せしものなり

宣祖四十年丁未五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四九四

光海君二年庚戌五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四九八

光海君六年甲寅五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五〇二

光海君十年戊午五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二七九

仁祖三年乙丑五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二六六

仁祖十年壬申五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三三八

仁祖十三年乙亥五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五〇四、九五九七

仁祖十九年辛巳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三四五

仁祖二十三年乙酉五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三三六

仁祖二十四年丙戌五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二六一

孝宗二年辛卯五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三三七

孝宗四年癸巳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三八一

孝宗九年戊戌五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二六四

顯宗二年辛丑五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三三〇

顯宗八年丁未五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三四三

肅宗元年乙卯五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二八一

肅宗三年丁巳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四一一

肅宗十二年丙寅五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六四〇

肅宗十五年己巳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三八〇

肅宗十七年辛未五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三二四

肅宗二十三年丁丑五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六九六

肅宗二十四年戊寅五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三一六

肅宗二十六年庚辰五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三四〇

肅宗三十年甲申五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三一九

肅宗三十五年己丑五臺山實錄曝曬形止案 一冊

史部

圖書番號 九三一七

肅宗三十七年辛卯五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二六〇

肅宗三十九年癸巳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二六二

肅宗四十三年丁酉五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三一四

景宗二年壬寅五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三三一

英祖元年乙巳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二八四

英祖三年丁未五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一五五

英祖四年戊申五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三二二

二六五

英祖十二年丙辰五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三八二

英祖十六年庚申五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一五六

英祖十八年壬戌五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三二九

英祖二十一年乙丑五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五〇三

英祖二十三年丁卯五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一六七

英祖二十三年丁卯五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二六七

英祖二十五年己巳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二六八

英祖三十年甲戌五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五〇〇

英祖二十三年丁丑五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四九五

英祖三十五年己卯五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二八七

英祖三十八年壬午五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二八九

英祖四十一年乙酉五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三三三

英祖四十三年丁亥五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二八二

英祖四十五年己丑五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六五一

英祖四十九年癸巳五臺山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二八六

英祖五十一年乙未五臺山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九七二六

正祖元年丁酉五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三四八

正祖三年己亥五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一七二

正祖九年乙巳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一六九

純祖三年癸亥五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一六一

純祖五年乙丑五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二六五

純祖八年戊辰五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一五二

純祖十八年戊寅五臺山實錄曝曬形止案 一冊

史部

圖書番號 九一七〇

純祖二十三年癸未五臺山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三一八

純祖二十八年戊子五臺山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九一五四

純祖三十一年辛卯五臺山實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九一六二

憲宗四年戊戌五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一五九

憲宗九年癸卯五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四三〇

憲宗十二年丙午五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一五七

哲宗元年庚戌五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一六〇

哲宗三年壬子五臺山實錄曝曬形止案 一冊

二六七

史部

二六八

圖書番號 九二八五

哲宗七年丙辰五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六四五

哲宗八年丁巳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一六五

哲宗十一年庚申五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一七一

李太王元年甲子五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四九六

李太王二年乙丑五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六四八

李太王十七年庚辰五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九二二三

李太王二十五年戊子五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三八八

李太王三十年癸巳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六三四

李太王光武二年戊戌五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四九二、九五〇八

李太王光武四年庚子五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九四九一

李太王光武七年癸卯五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九五〇一、九五九九

李太王光武十年丙午五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九三二

李王隆熙三年己酉五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六七〇

年代未詳五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九一八四

李太王光武十年丙午五臺山實錄曝曬形止案 一冊

圖書番號 九六五〇

一冊 寫本

肅宗元年乙卯藝文館官員を五臺山史庫に遣し實錄の現狀を審視せしめたる時其の形止を録して復命したるものなり

○ 五臺山實錄考出時形止案

一冊 寫本

圖書番號 九四九〇

肅宗十六年庚午藝文館官員を五臺山史庫に遣し實錄を考出せしめたる時其の形止を録し復命したるものなり

○ 五臺山濬源錄奉安形止案

寫本

五臺山史庫の濬源閣に歷代の濬源錄を藏めたる時の形止を録せしものなり

仁祖七年己巳五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四三五

仁祖九年辛未五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三八四

仁祖十一年癸酉五臺山濬源錄奉安形止案

史部

圖書番號 九四九九

一冊

仁祖十四年丙子五臺山濬源錄奉安形止案

圖書番號 九四一五

一冊

仁祖十八年庚辰五臺山濬源錄奉安形止案

圖書番號 九四一三

一冊

仁祖二十年壬午五臺山濬源錄奉安形止案

圖書番號 九一六四

一冊

仁祖二十三年乙酉五臺山濬源錄奉安形止案

圖書番號 九三三二

一冊

仁祖二十六年戊子五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三九五

孝宗二年辛卯五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

史部

圖書番號 九一五三

孝宗三年壬辰五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三三八

孝宗四年癸巳五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三八三

孝宗五年甲午五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四二一

孝宗八年丁酉五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四一〇

顯宗二年辛丑五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三三五、九六四九

顯宗四年癸卯五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四〇八

顯宗八年丁未五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三五〇

顯宗十年己酉五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九四二三

顯宗十三年壬子五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三七六

肅宗元年乙卯五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三四一

肅宗四年戊午五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三三九

肅宗八年壬戌五臺山濬源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九三七七

肅宗十三年丁卯五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六四一

肅宗十五年己巳五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九五〇五

肅宗十六年庚午五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三二二

肅宗十九年癸酉五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六四二

肅宗二十年甲戌五臺山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四一七

肅宗二十二年丙子五臺山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三二五

肅宗二十八年壬午五臺山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四一四

肅宗二十九年癸未五臺山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四三三

肅宗三十一年乙酉五臺山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九二七三

肅宗三十四年戊子五臺山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九一五八

肅宗三十八年壬辰五臺山塔源錄奉安形止案

史部

一冊

圖書番號 九六三二

肅宗四十年甲午五臺山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四一六

肅宗四十三年丁酉五臺山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三七九

景宗三年癸卯五臺山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二五九

英祖元年乙巳五臺山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九六三八

英祖三年丁未五臺山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九六三三

英祖九年癸丑五臺山塔源錄奉安形止案 一冊

圖書番號 九二五八

英祖十三年丁巳五臺山塔源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六三七

二七一

英祖十五年己未五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六九三

英祖二十一年乙丑五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六三六

英祖二十七年辛未五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三二〇

英祖三十年甲戌五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三二一、九六六二

英祖三十四年戊寅五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三三三

英祖三十五年己卯五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九一六八

英祖四十五年己丑五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三四二

英祖四十九年癸巳五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三四九

純祖三十一年辛卯五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三三三、九三二四

哲宗八年丁巳五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三二六、九六四七

哲宗十四年癸亥五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三二七、九六四四

李太王光武六年辛丑五臺山濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九五五八、九五六一

○ 五臺山濬源錄曝曬形止案 寫本

五臺山史庫の濬源閣に藏せし濬源錄を曝曬した

る時の形止を録せしものなり

李太王八年辛未五臺山濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九四〇〇、九六四三

李太王光武七年癸卯五臺山濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五五一、九五五六

李太王光武十年丙午五臺山濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九二九八、九五二八

○ 五臺山濬源譜略調査形止案

一冊

寫本

圖書番號 九六六九

隆熙三年己酉宮内府事務官を五臺山史庫に遣し濬源譜略及他の書籍を調査せしめたる時其の形止を録し復命したるものなり

○ 五臺山濬源閣改建形止案

一冊

寫本

圖書番號 九四九七

肅宗二十年甲戌五臺山濬源閣頽圮したるを以て宗簿寺直長を遣し之を改建したる時其の形止を録し復命せしものなり

○ 五臺山各儀軌奉安形止案

寫本

史部

李太王九年甲辰御眞模寫、濬源殿増建、永禧殿營建の三都監儀軌、同乙巳即帝位大禮、追尊の二都監儀軌、同年憲宗孝定后の殯殿、國葬、山陵三都監、李王純明妃の殯殿、園所二都監等の儀軌、同年翼宗及各殿上尊號都監儀軌等を藏めたる形止を録したるものなり

李太王光武八年癸卯五臺山儀軌奉安形止案

一冊

圖書番號 九六〇三、九六九七

李太王光武九年甲辰五臺山儀軌奉安形止案

一冊

圖書番號 九四〇六、九四〇七、九四一八、九四四九

○ 赤裳山城實錄曝曬形止案

寫本

全羅北道茂朱郡赤裳山城史庫に藏したる實錄其の他の群書を曝曬したる時の形止を録せしものなり

李太王光武四年庚子赤裳山城實錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五五一

李太王光武十年丙午赤裳山城實錄曝曬形止案

圖書番號 九五四七

一冊

○赤裳山城濬源錄奉安形止案

寫本

赤裳山城史庫の濬源閣に歴代の濬源錄を藏めたる形止を録せしものなり

仁祖二十六年戊子赤裳山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九三二〇

純祖十年庚午赤裳山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六二二

純祖十八年戊寅赤裳山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九六二三

純祖三十一年辛卯赤裳山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四六四

憲宗十年甲辰赤裳山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九一八〇

李太王八年辛未赤裳山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九七二二

李太王光武六年壬寅赤裳山城濬源錄奉安形止案

一冊

圖書番號 九四八〇

○赤裳山城濬源錄曝曬形止案

寫本

赤裳山城史庫の濬源閣に藏せし濬源錄を曝曬したる時の形止を録せしものなり

仁祖十年壬申赤裳山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九六九一

李太王光武六年壬寅赤裳山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五六〇

李太王光武七年癸卯赤裳山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九三〇四

李太王光武十年丙午赤裳山城濬源錄曝曬形止案

一冊

圖書番號 九五四九

○ 外奎章閣形止案

寫本

正祖五年辛丑江華行宮の東に外奎章閣を建設し翌年江華府冊庫の秘書を移藏し其の後隨時入藏したる形止を録せしものなり秘書とは御製御筆冊寶譜略誌狀其の他重要書籍なり

正祖六年壬寅外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一三三、九一四五

正祖八年甲辰外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一四七

正祖九年乙巳外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一四四、九一四三

正祖十五年辛亥外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一三六、九一四六

正祖十五年辛亥外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一四二、九一五〇

正祖十九年乙卯外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一三九

純祖六年丙寅外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一二九

史部

純祖十四年甲戌外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一四一、九一四〇

純祖二十八年戊子外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一三一、九一四八

憲宗二年丙申外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一三七

憲宗五年己亥外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一三〇

憲宗九年癸卯外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一三二、九一四九

哲宗七年丙辰外奎章閣形止案 一冊

圖書番號 九一三八、九一三五

○ 實錄形止案

寫本

朝鮮歴代の實錄は編纂若くは改修の後其の卷數と各卷に分ちたる起至の年月及分藏したる櫃數竝に摠裁都廳郎廳等の官職姓名を附記し之を實錄形止案と稱し各史庫に藏置したり

宣祖實錄形止案 一冊

圖書番號 九六九五、九三〇一

宣祖修正實錄形止案 一冊

二七五

史部

圖書番號 九四八四、九六八五、九二六三、九六八六

光海君日記形止案 一冊

圖書番號 九一九一、九六八二、九四〇一

仁祖實錄形止案 一冊

圖書番號 九四八三、九六八三、九六九四

孝宗實錄形止案 一冊

圖書番號 九五一六、九六三五、九五五九、九七二一

顯宗實錄形止案 一冊

圖書番號 九四三一、九四三二、九六二九

顯宗改修實錄形止案 一冊

圖書番號 九四〇九、九一六三、九一七六、九五四〇

肅宗實錄形止案 一冊

圖書番號 九三一五、九七二二、九七〇一

景宗錄形止案 一冊

圖書番號 九三二七、九五一五

景宗修正實錄形止案 一冊

圖書番號、九六七一、九六七三

英祖實錄形止案 一冊

圖書番號 九三四七、九六七四

地理類

○ 新增東國輿地勝覽 五五卷二五冊 印本

圖書番號 七九九、一九三二、三四七七

成宗宣城君盧思愼等をして大明一統志に倣ひ東國輿地勝覽を撰せしめ、中宗の二十五年庚寅更に李荇等に命し増補訂正したるものなり、卷首に略圖を掲げ京畿以下諸道の沿革、風俗、廟社、陵寢、宮闕、官府、學校、土産の類及孝子烈婦の行狀、城郭、山川、樓亭、寺社、驛院、橋梁の位置、名賢の事蹟、詩人の題詠に至るまで備載せざるはなし

○ 東國地理誌 冊 韓百謙著 印本

圖書番號 三九七九

前漢書朝鮮傳、後漢書高句麗傳、同東沃沮傳、同扶餘國傳、挹婁傳、同三韓傳、其の他四郡二府二郡、高句麗百濟、新羅、高麗等の地理に關する記事を摘録したるものにして、間問自己の意見を附記せり

韓百謙字は明吉、久菴と號す、清州の人、判官孝胤の子なり、明宗丁未に生れ、官叅議に止り、宣祖庚寅に

歿す退溪李滉に師事して學行あり遺稿二卷世に行はる弟柳川浚謙は仁祖の國舅たり子柳市興一は相府に入り俱に文名あり

○ 大韓疆域考

九卷二冊

丁若鏞著
張志淵補 印本

圖書番號 七三三五 七三四一

丁若鏞康津に竄逐せられ茶山の東庵に幽居せし時與猶堂集の著あり疆域考は集中の一本にして張志淵之に案説を附し又任那考及白頭山定界考等を加へて世に公にす即ち本書なり原本十卷を九卷に改め卷初に地圖を挿入し第一卷には朝鮮考、四郡總考、樂浪、玄菟、臨屯、眞番、樂浪別考、帶方考、二卷には三韓總考、馬韓、辰韓、弁韓別考、任那考、第三卷には卒本考、國內考、丸都、安市、慰禮、漢城考、第四卷には沃沮考、濊貊考、同別考、靺鞨考、第五卷には渤海考、同續考、第六卷には道路沿革考、第七卷には西北路沿革考、附九連城考、第八卷には浪水辨、白山譜、第九卷には白頭山定界碑考等を載す

○ 山經表

一冊

寫本

圖書番號 五九一〇

史部

朝鮮全道に於ける山經表にして白頭山を中心とし、東西南北に連亘せる大幹支脈の山經分布等を記載したるものなり

○ 朝鮮水經

一五卷四冊

丁若鏞著 寫本

圖書番號 一八九四

丁若鏞の著にして書中擧ぐる所は朝鮮北部の諸水多く初に涿水を擧げ其の下に禿魯水、鹽難水、滄水を附し次に滿水、淀水、浪水、浣溪水、龍水、瀦水及滯水等の諸川に付所在地、名稱等の異同を辨し其の發源より流域、沿岸、分派、合流等の狀況を山海經、漢書地理志等其の他支那、朝鮮の古書數十部を引用し又諸家の説を擧げて考證せり門人李晴の注あり

○ 道路考

四卷四冊

申景滉著 寫本

圖書番號 七二〇八、七三二七

朝鮮各道の里程を記したるものなり第一卷には陵園墓の正路、溫泉宮の六大路即ち義州、慶興、平海、東萊、濟州、江華等第二卷には八道各邑四至旁通路及諸營里數第三卷には四沿路即ち白頭山路、鴨綠

二七七

江路、豆滿江路並に入道沿海路、八道の驛遞、擺撥路第四卷には海路、烽路、交隣使行路程里附録には潮汐風雨の船路に關する事項等を載せり、英祖四十六年庚寅に成る

申景濬字は舜民、號は旅庵、高靈の人、洙の子なり、肅宗壬辰に生れ、英祖甲戌文科に登り、官承旨に至り、正祖辛丑に歿す、儀表圖、俯仰圖、疆界志、山水經、日本諺韻、諺書音解等の著あり

○山里攷

二卷一冊

寫本

圖書番號 三八八六、一一四二六

朝鮮全道の山經の來脉、延支と程道往來の距離等を記載したるものにして、山經は白頭山を中心とし、東西南北に連亘せる大幹支脉の分布を示し、程里は京城を中心とし、八道各郡に通する大路の里數及重地大處に通する正路捷徑を委細に載せり、一に箕封方域誌と稱す

○東國名山記

一冊 成海應著 印本

圖書番號 五一五四、六七二一

朝鮮に於ける名山勝水等を分記したるものにして

て京都、畿内、海西、關西、關北、湖中、湖南等に分てり、東京外國語學校、韓國校友會に於て印刷したるものなり

成海應字は龍汝、研經齋と號す、昌寧の人なり、英祖庚辰に生れ、正祖癸卯進士となり、戊申筮仕して、官陰城縣監に止る、文章に秀て、學行あり、著述多し

○京兆府誌

一冊 李承敬編 寫本

圖書番號 六五九九

漢城府の事蹟を記載したるものにして、基趾、公廡、坐衛、節次、各房職掌、五部坊契、四山禁標、各司の公文等を編録せり

李承敬字は景誠、老華と號す、韓山の人、叅判道在の子にして、純祖乙亥に生れ、憲宗丁酉司馬に中り、丁未景陵叅奉に入仕し、屢郡邑を典り、李太王の時に歿す、官牧使に至れり

○北漢誌

一冊 釋聖能著 印本

圖書番號 三二九九、一〇七三九

肅宗三十七年北漢に山城を築く、本書は山城衛成の僧聖能か山城紀事を編成して、北漢誌と名け、刊

行したるものなり、卷初に地圖を挿み、道里沿革、山谿、城池、事實、官員、將校、宮殿、寺刹、樓觀、橋梁、倉廩、定界、古蹟等の十四目を詳記せり

釋聖能號を桂坡と稱す、景宗の時の人にして、嘉義大夫、南北兩漢都摠攝、大覺登階の職を授けらる

○重訂南漢誌 一三卷 洪敬謨編 寫本

圖書番號 四〇六八、四〇八七、七二三

南漢山の地誌にして、此の地は百濟王溫祚初めて都を置きたりと傳ふ、仁祖其の址に據りて改築し、山城と爲す、本書は憲宗十二年編者か南漢守禦使徐命膺の編成に係る地誌を補足し、山川地形、衙署、土產、人物、城史、陵墓、故實等細大漏さず備載せしものなり

○松都誌 七卷二冊 鄭昌順補編 印本

圖書番號 四九八三

松都は今の京畿道開城にして、仁祖二十六年留守金墳、曹臣俊撰する所の松都雜記を増刪して一卷と爲し、松都誌と稱して梓行し、後李鏊、嚴輯等相繼いで増修したるも、兵燹に罹り散逸せしもの多し

英祖三十三年吳遂采續志一卷を増補し、正祖六年に至り、鄭昌順新舊を酌採して、此の書を完成す、高麗世記、國朝記事、疆域沿革、官員、郡名、城郭、烽燧、部防、姓氏、戶口、田制、風俗、土產、山川、形勝、題詠、學校、宮殿、祠廟、官舍、樓亭、關防、兵制、賦役、郵撥、橋梁、陵墓、佛宇、古蹟、人物、才行、忠臣、孝子、孝婦、名官、留守、經歷、都事、文科、蔭仕、司馬、武科、武南附邊將、附錄等の目あり

○中京誌 一一卷六冊 金履載編 印本

圖書番號 四四六二、一〇七三四

開城の地誌にして、開城は一に中京と稱したり、仁祖二十六年戊子開城留守金墳か曹臣俊の松都雜記を増刪して一卷を編し、松都誌と名けて梓行し、其の後五十二年肅宗庚辰留守李鏊か僉正朴來慶進士金始兌をして、新に逸事を増補せしめ、上下二卷とし、其の後六年乙酉留守嚴緝之を刊行し、竝に舊誌と稱す、其の後五十三年英祖丁丑留守吳遂采か進士韓命相、李養浩と共に乙酉以後の事を編輯して、松都續誌と名く、其の後二十六年正祖壬寅留守鄭昌順か原續兩誌を取りて合編し、尙ほ増補し

て三編と爲し其の明年癸卯留守徐有防進士馬之光趙有善と共に其の闕略を補ひ松京誌補遺と名け乙巳留守尹塾之を刊布す其の後十八年純祖壬戌留守金文淳其の遺實を蒐輯して補遺と合編し松都續誌と名く其の後二十三年甲申留守金履載原續誌を合し中京誌と名け其の後七年庚寅留守徐憲淳又繼いて編摩し其の後二十六年哲宗乙卯留守趙秉夔之を刊行す

金履載字は公厚江右と號す竹裡履喬の弟なり英祖丁亥に生れ正祖庚戌文科に登り提學を歴て憲宗丁未に歿せり官吏曹判書に至り諡を文簡と云ふ

○高麗古都徵七卷三冊 韓在濂編 印本

圖書番號 七二六八

開城の古蹟を一統に編輯したるものにして卷の一は國都考山水考城郭考卷の二は宮殿考卷の三は公廡附征東省館舍郊驛坊市橋梁卷の四は風俗卷の五は壇廟考附景靈殿積慶園籍田山陵考附永安城とし補遺には壇廟及山陵卷の六は大學考附

九齋卷の七は寺院附仁熙殿惠明殿なり
韓在濂字は霽園清州の人英祖乙未に生れ純祖丁卯司馬に中れり

○水原府邑誌 一冊 寫本

圖書番號 一〇七〇二、一〇七四三

京畿道水原郡の邑誌にして卷首に地圖を附し次に坊里建置沿革郡名形勝城池官職山川姓名風俗壇廟社稷壇公廡堤堰倉庫物產橋梁驛院牧場烽燧樓亭寺刹古蹟孝子忠臣孝婦烈婦忠奴旱田水田進貢糶糴田稅大同均稅軍摠先生案等を備載せり

○廣州府邑誌 一冊 寫本

圖書番號 一〇七〇一、一〇七四〇、一〇七四一

京畿道廣州郡の邑誌にして坊里道路建置沿革郡名形勝城池官職山川姓氏風俗陵寢附墓廟院壇公廡堤堰倉庫物產橋梁驛院牧場關阨烽燧樓亭寺刹古蹟鎮堡人物田賦進貢糶糴田稅大同均稅俸廩軍兵冊板等の目あり

○光州牧誌 二卷一冊 寫本

圖書番號 一〇八〇〇

全羅南道光州郡の邑誌にして建置沿革、官職、坊里、戸口、田結、城池形勝、風俗、山川、古蹟、校院、壇廟、廨舍、館驛、樓亭、寺刹、橋梁、堤堰、場市、糶糴、貢賦、軍額、物産、姓氏、人物、名官、雲章、叙述、題詠の目あり

○赤城誌

五卷二冊 趙秉瑜編 寫本

圖書番號 一七〇八、一六六五

全羅北道茂朱郡の邑誌にして卷の一は沿革、郡名、疆界、坊里、結總、進貢、糶糴、田稅、大同、選武、俸廩、場市、橋梁、堤堰、形勝、風俗、山川、土產、姓氏、壇廟、公廨、倉庫、驛院、寺刹、衙舍、樓亭等卷の二は學校、院宇、時術、齊等卷の三は官案、文科、蔭仕、武科、生進等卷の四は人物、寓居、學行、忠臣、孝子、烈女、孝婦、遺逸等卷の五は衣裳、鎮冊、板亭、亭臺、岩池等なり李太王丙申郡守趙秉瑜之を編輯せり

○麗水誌

二卷一冊 會儒所編 寫本

圖書番號 一〇七九三、一〇七九四、一〇七九五、一〇八〇三

全羅南道麗水郡の邑誌にして李太王光武六年壬寅會儒所に於て之を開刊す

○慶尙道地理誌

一冊 寫本

史部

圖書番號 一〇〇〇七

世宗六年甲辰及七年乙巳各道に命し道内各邑の沿革、府州郡縣郷所部曲の離合、山川界域の險阻、關坊、山城、邑城の周回、廣狹、溫泉、水穴、風穴、鹽盆、鹽井、牧場及良馬の所産、土地肥瘠、水泉深淺、風氣寒暖、風俗所尙、戸口土產の數、租稅歲貢轉運の程途、營鎮、梁浦の建設、軍丁戰艦の數額、海中諸島の距離、島中農民の有無、煙臺烽火の所在、歷代陵寢、名人墳墓及土姓傑出の人、古昔靈異の跡等を調査し以て地理誌を編纂せしむ本書は河濱か慶尙監司たりし時編したる慶尙道の地理誌にして監營に保存せしものなり卷首に自序あり

河濱字は淵亮、晋州の人、敬齊と號す、高麗廢王禑丙辰に生れ、朝鮮太祖丙子文科に登り、藝文館大提學を経て領議政に至り、端宗癸酉に歿す、諡を文孝と云ひ、文宗廟庭に配享す

○慶尙道續撰地理誌

一冊 寫本

圖書番號 一〇〇〇八

世宗の時各道地理誌を編成し、睿宗元年己丑更に

各道に命し之を續撰せしむ本書は即ち其の一なり

○慶尙道邑誌

七一卷二〇冊 寫本

圖書番號 六六六

慶尙南北兩道七十一邑の邑誌を合編したるものにして各邑の地圖沿革郡名官名姓氏山川坊里風俗戸口田賦軍額城池林藪倉庫校院關坊鎮堡烽燧壇廟陵墓公廨佛宇樓亭道路橋梁島堰場市驛院牧場形勝古蹟土産進貢俸廩官跡人物科甲題詠碑板冊板等を記し純祖の時之を合冊とせり而して金山義城盈德固城の四邑誌一冊は李太王の時に追録したるものなり

○東京雜記

三卷三冊 閔周冕補編 印本

圖書番號 一二五五、一三七五、三二七三、五三一四、五四

五八

慶尙北道慶州は新羅千年の王都にして一に東京と稱す遺蹟最も多し本書は其の雜記にして舊と東京誌なる書なりしを顯宗己酉閔周冕之を増修刊行し又肅宗辛卯南至薰之を重刊し憲宗乙巳成

原默更に増補を加へ雜記と改名して刊行す第一卷は辰韓記新羅記慶州地界建置沿革官號沿革屬縣鎮管屬任人吏邑名姓氏風俗山川勝地土産城郭關防烽燧宮室倉庫學校驛院橋梁祠廟陵墓祈雨所第二卷は佛宇古蹟藪戸口軍額田結堤堰各坊各洞名官人物第三卷は寓居科目蔭仕孝行友愛忠義貞烈技藝書籍題詠雜記補遺異聞等に分目せり
閔周冕字は章五驪興の人晋亮の子なり仁祖二十六年戊子進士に中り孝宗癸巳謁聖文科に壯元たり初め仁川府使となり次て吉州牧使となり未だ任に赴かず廣州府尹に累遷し己酉慶州府尹に除せらる

○咸州志

一冊

寫本

圖書番號 一〇九八五、一二三四九

慶尙南道咸安郡の邑誌にして京師相距四隣疆界建置沿革郡名形勝風俗各里戸口田結山川土産館宇城郭壇廟學校書院驛院軍器烽燧堤堰灌溉亭舍橋梁佛宇古蹟名官任官姓氏人物流配善行文武科司馬塚墓旌表冊板題詠叢談等に分類備載せり

○ 高靈誌

一冊 李斗勳編 寫本

圖書番號 四一五七

慶尙北道高靈郡の邑誌にして疆界沿革坊里山水
姓氏土産土俗壇祠公廨校院亭齋寺刹驛院烽市橋
店堤堰墳墓政務故事文官武官生進蔭仕學行文望
儒碩烈行守宰及題詠等を載録せり

○ 青松府誌

一冊 寫本

圖書番號 一〇八三四

慶尙道青松府の邑誌にして卷首に地圖あり建置
沿革屬縣官員郡名姓氏風俗形勝山川土産城郭烽
燧關防橋梁樓亭學校驛院佛宇祠廟塚墓古跡名官
人物孝子烈女題詠等の目を立つ

○ 義興邑誌

一冊 寫本

圖書番號 一〇八一七

慶尙道義興縣の邑誌なり首に地圖を掲げ建置沿
革郡名官職姓氏山川風俗坊里戸口田賦軍額城池
倉庫關防鎮堡烽燧學校壇廟陵墓佛宇宮室樓亭道
路橋梁島嶼堤堰場市驛院牧場形勝古蹟土産進貢
俸廩宦蹟科舉人物題詠碑板等に分類編載せり

○ 峴山誌

一冊 寫本

圖書番號 一〇九七七

江原道襄陽郡の邑誌にして峴山は其の舊稱なり
收録する所本郡建置沿革屬縣縣址縣名官員水源
嶺阨官廨俸稟學校祠廟驛院幅員坊面烽燧堤堰田
番進貢糴糶詳定風俗姓氏名官人物孝烈津浦里站
島嶼物産牧場園林形勝寺刹古蹟題詠先生案等な
り

○ 平壤志

一六卷一〇冊 尹斗壽編 印本

圖書番號 四八八五

平壤志には原志續志後續志あり原志九卷には疆
域分野沿革城池部坊郡名風俗形勝山川樓亭祠墓
公署倉儲學校古蹟職役兵制驛遞橋梁土産土田貢
賦教坊院亭寺宇戸口人物孝烈古事文談神異雜志
詩文等を録せり宣祖二十三年庚寅梧陰尹斗壽平
安道觀察使を以て平壤在任の時之を編刊す續志
五卷は斗壽の後孫游か英祖六年庚戌編刊したる
ものにして載する所概ね原編に同じ憲宗三年丁
酉原志と共に合刊す又哲宗五年乙卯後續志二卷

あり州人の編する所にして後人之を添補せり本書は之か合本なり

尹斗壽字は子仰、梧陰と號す海平の人、知足菴、竹の子なり、中宗癸巳に生れ、明宗乙卯生員に魁たり、戊午文科に登り、光國、扈聖の二勳に策して海原府院君に封せられ、官領議政に至り、宣祖辛丑に歿す、諡を文靖と云ふ、壬辰宣祖義州に播遷の時久しく相位に在りて、勞勩甚た多し、弟月汀根壽亦文名あり、子稚川、防、陶、齋、昕、白、沙、暄、長洲、暉、四人俱に文科に登りて顯官に至る

○平壤志選

三卷一冊

印本

圖書番號 七八〇九

平壤志中の詩のみを抄録したるものなり

○龍灣誌

二卷二冊

印本

圖書番號 七九八、一七一〇、一〇九三六

龍灣は平安北道義州の別名にして、本書は其の邑誌なり、憲宗十五年進士金應洙の増補重刊に係る、疆域沿革、郡名官職、姓氏形勝、山川、島嶼、坊里、風俗、土産、城池、關防、壇廟、校院、祭典、戶口、田土、賦稅、倉庫、穀總

徭役、館、廨、樓、亭、漁、鹽、進、貢、俸、廩、軍、額、鎮、堡、烽、燧、場、市、驛、遞、道、路、橋、梁、津、船、堤、堰、寺、刹、邸、吏、各、庫、府、先、生、人、物、忠、勳、孝、行、烈、行、文、官、武、職、文、蔭、武、蔭、勤、仕、蓮、榜、名、宦、流、寓、古、蹟、聖、祖、興、王、事、蹟、及、歷、代、故、事、賑、施、奇、聞、異、蹟、追、附、孝、烈、辛、壬、事、蹟、追、附、軍、功、等、の、目、あり、卷、首、に、義、州、の、全、圖、を、掲、く

○祥原誌

一冊

韓世衡編

寫本

圖書番號 一〇九五二

平安南道祥原郡の邑誌にして、英祖六年庚戌郡人韓世衡舊誌に依りて増補續成したるものなり

○關北邑誌

五冊

寫本

圖書番號 六六七、一〇九九五、一二二七〇

咸鏡南道各郡の邑誌を合編せしものにして、詳畧同し、からす中に就き、咸山誌通紀は原補六卷あり、尤も明細なるも、其の他は概ね簡略なり

○北關誌

二卷二冊

李端夏編

寫本

圖書番號 二二六一

咸鏡北道各郡の邑誌を概括編輯したるものにして、初め澤堂李植北評事たる時之に着手して終ら

さりしを其の子畏齋端夏又北評事となり之を繼成す肅宗癸酉北兵使申汝哲の刊行する所なり

○咸興志 二卷 一冊 寫本

圖書番號 一三二四

咸鏡南道咸興郡の邑誌にして女眞の割據せし處なり高麗の時元人に侵略せられしも太宗十六年之を興復して府治を置き再々郡治に改め咸興本宮の所在地として最も深き關係を有せり二卷に分ち第一卷には地界、部社、建置沿革、郡名、姓氏、風俗、形勝、山川、土產、城郭、關防、烽燧、宮室、樓亭、學校、驛院、倉庫、佛宇、祠廟、陵墓、古蹟、名宦、官案、寓居、人物、孝烈、科貢、蔭官第二卷には公署、戶額、田案、倉儲、貢賦、兵案、吏案、賤案、橋梁、題詠、雜記等を載す

○宮闕志 五冊 寫本

圖書番號 三九五〇、三九七四

宮闕の所在、建築、殿閣の位置、名稱及沿革等を蒐録したるものにして第一冊は京城の城壁、城門より廟社、殿宮、文廟、官衙、亭館、樓臺及地方の行宮、歴代の殿廟等を統記し第二冊は景福宮第三冊は昌德宮

第四冊は昌慶宮第五冊は慶熙宮とす肅宗の時の命撰にして憲宗更に之を増補せしむ

○宮闕志 三冊 寫本

圖書番號 一一五二、一一五三

景福宮、昌德宮及昌慶宮等の殿名、堂號、門號、間數、丈量及宮牆の延長等を詳記したるものなり

○北闕圖 一冊 寫本

圖書番號 九九七八

景福宮の殿閣等を圖せしものにして北闕は即ち景福宮なり

○北闕後苑圖 冊 寫本

圖書番號 九九七九

景福宮後苑の狀況を圖せしものなり

○東闕圖 一冊 寫本

圖書番號 九九八〇

昌德宮殿閣の圖にして東闕は昌德宮の別稱なり

○集慶殿舊基圖帖 一冊 寫本

圖書番號 一〇六九七

慶州所在集慶殿舊基の圖帖なり殿は朝鮮太宗の

時太祖の影幘を安置せし處にして客舎の北に在り宣祖壬辰兵火に罹り影幘は江陵府に移し殿址と碑石及紅門を餘せしか後人圖寫して形止を略記したるものなり

○北道陵殿誌

八卷三冊

魏昌祖編

印本

圖書番號

一二七八、一二九四、一三〇五、二七九四、三

五五四 三六四二

英祖二十三年戊辰太祖誕生之地たる北道陵殿を監理せし兵曹正郎魏昌祖か輿地勝覽の體に倣ひて陵園宮殿に關する故實碑文、道里、地名等を輯録し後、日の考證に資せしものなり肅宗の詩竝に序德陵、穆祖、安陵、同妃、附舊德陵、智陵、翼祖、淑陵、同妃、義陵、度祖、純陵、同妃、定陵、桓祖、及和陵、同妃の此神道碑四至記碑、舊碑文、澹源殿遺蹟、誕生基、王生島、樗亭、德崎寺、雲嶺、導昌寺、安養寺、釋王寺、慶興殿遺蹟、讀書堂、土宇基、馳馬臺、咸興本宮遺蹟、祭星壇、擊毬亭、永興本宮、同舊基、龍堂、赤島等を載す英祖二十三年丁卯咸興監營に於て刊行す

魏昌祖字は仲孝長興の人訓導榮祖の弟なり肅宗

癸未に生れ英祖壬子文科に登り官承旨に至り辛卯に歿す世世北道に居りて文學を尙ひ又科甲多く北道の望族と稱せらる

○江華府宮殿錄

一冊

江華府編

寫本

圖書番號 三二六九

李太王十八年京畿道江華に在る行宮、奎章閣、長寧殿、奉先殿、萬寧殿の間架數等を錄したるものなり

○孝陵誌

一冊

鄭基春編

寫本

圖書番號 一六五五、七七五一

仁宗封陵以後の事蹟の記録なり仁宗昇遐後に於ける大妃の下教、仁宗の行狀及誌文、世子を封したる教命文、竹冊文、哀冊文、仁聖王后を嬪に封する冊文、仁宗の大臣に諭したる手書、賓客に與へたる答書等を列録し而して陵の謄録と英祖懸板の謄本竝に齋宮詩篇等を卷尾に附せり

鄭基春字は汝元、雪青と號す東萊の人府使老容の子なり哲宗庚戌司馬に中り戊午孝陵參奉に除し李太王丙子に歿す官司導寺僉正に至れり吏泊と文行とを以て一世に著る

○ 祠院攷

一冊

寫本

圖書番號 一三六

各道書院の所在地、其の建置、歷代配享者、歷代賜額の年時等を記し、祠院約五百五十餘所に達せり

○ 東國文獻院宇篇

一冊

寫本

圖書番號 六八四二

朝鮮到る處院宇を濫設し、其の弊甚しきを以て、李太王元年甲子初政に當り、其の正しからざるものは概ね之を毀撤し、凡そ四十七個所を存せり。本書は其の建設、所在、及享祀諸人を列録したるものにして、卷首に啓聖祠及文廟に享祀せる聖賢碩學の名を列せり

○ 東國闕里誌

二卷一冊

孔明烈編

印本

圖書番號 一〇五〇、三二二、三四九八、四〇一九、四

二六一、四二六二

闕里は魯の曲阜孔子の舊居にして、孔廟の所在地なり。闕里誌は明の陳鏞の撰にして、孔子六十五世の孫孔久植の訂補したるものに係る。東國闕里誌は此に倣ひて名けたるものなり。東國闕里と稱す

史部

るは今の水原府華城に在り、孔子六十三世の孫文

獻公瑞麟講學の所なりと云ふ。本誌は正祖の遺志を承け、瑞麟の後孫明烈の編次せしものにして、通

編二卷第一卷は華城闕里祠奉安聖像、御製文贈諡筵說等十九目を列し、第二卷は列聖朝授官恩澤以下十三目を載せ、附録に新羅王子獻聖像事蹟十八

目を載せり

孔明烈は大司憲瑞麟の後孫なり

○ 晋州郷校移建事蹟

一冊

寫本

圖書番號 五九四〇

純祖壬申晋州の郷校を移建したる時、州の儒生等其の事蹟を記したるものにして、建移後享祀の節次と郷飲酒禮の儀式を並録し、前後執事の人名を載録す

○ 龍堂誌

二卷一冊

金魯奎編

印本

圖書番號 一五九八、一五九九、二七九七

白頭山の陽豆滿江の主瀆を慶源の龍堂と呼ぶ。李穆祖誕生の地にして、太祖の射を習ひし所なり。太宗の時瀆祠を建て、春秋に致祭せしも、歲月久しく

二八七

して祠宇頽圮せり金魯奎深く之を慨し學塾を此の地に初設して風紀を維持し終に本書を編し以て世に公にするに至る龍堂圖記國朝寶鑑攷龍堂地靈分合圖齋祀土主聖蹟紀略龍堂表書示龍南齋諸生疏章批旨詔勅等を列載す李太王甲辰吳相奎等捐財して刊行す

金魯奎は北關に居り李太王の時不次を以て觀察使に至れり

○海東聖蹟誌

二卷一冊

印本

圖書番號

五〇四一

宣祖壬辰丁酉の際關羽の神靈能く軍勝を冥助したりと稱し南廟を京城の崇禮門外に東廟を興仁門外に初設し又明軍の都督陳璘は全羅道康津縣に遊擊藍芳威は同南原府城西門外及慶尙道星州及安東府に關羽の廟を建立して之を祭り爾後歷代之か祀を修す此の書廟祠考遺印考祀典考祭文考靈感考藝文考記類銘類詩類賦類贊類聯類匾類等の目あり

○安東太師廟事蹟抄略

圖書番號

五〇一二

一冊

金履翼編

印本

高麗太祖の功臣金宣平權幸張吉三太師を安東に立廟享祀したるに金氏權氏の子孫其の位次の先後を争ひて決せず金氏の後孫履翼か位次を證すへき書類を抄略編輯し權氏の論を辨駁したるもの是なり正祖十四年庚戌刊行す

金履翼字は輔叔臚窩と號す安東の人老稼齋昌業の曾孫なり英祖癸亥に生れ正祖乙巳進士を以て文科に登り官吏曹判書に至り仕を致し純祖庚寅に歿す諡を簡獻と云ふ純祖乙丑珍島に謫居して島人を教誘し陋俗を化せり著す所循稱錄あり

○鎮安大君祠墓事實

一冊

寫本

圖書番號

一〇九九

朝鮮の初鎮安大君李芳雨の祠墓咸鏡道の咸興に在りしをか故ありて京道畿豐徳の大君洞に在る配忠州夫人池氏の塋側に改葬し爾後泯晦して傳はらざりしに三百七八十年を経て英祖の時に至り十五代の孫李國柱の上言に據り祠堂を設け祭

祀を復興せり本書は其の縁由を記述したるものなり

○西岳志

圖書番號 四六三〇

一冊 鄭克後著 印本

慶尙北道慶州の西岳里に書院あり明宗十六年龜岩李楨の創設に係る金廈信薛聰及崔致遠を配享す其の後退溪李滉院名を西岳精舍と改め仁祖元年重修の額を賜ふ此の書西岳の位置、書院の創始、齋號、重修、賜額、廟中神位、享祀時日、三賢事實、儒臣編著、諸賢雜詠、三賢子孫、請額疏、略跋文等を録す

鄭克後は雙峯老人と號し延日の人襲明の後なり旅軒張顯光の門に遊學し文學を以て薦められ師傅を拜したるも仕へず晩に著書を以て任と爲し慶州に居る仍て西岳志を撰し又歷年通攷を刊行す

○竹溪誌

圖書番號 六二〇五

三卷一冊 周世鵬編 寫本

慶尙北道豐基郡竹溪は高麗の時文成公晦軒安裕の藏修したる地なり中宗三十六年辛丑慎齋周世

史部

鵬是の郡に宰たり晦軒の廟を白雲洞の遺址に建て別に書院を立て以て朱晦庵の白鹿洞書院に擬す仍て本誌を編し其の顛末を記し併せて周程、朱三儒に關する祠院記等を載す一卷は竹溪誌二卷は尊賢錄、學田錄三卷は別錄なり哲宗十四年癸亥晦軒の後孫時中等之を刊行す

周世鵬字は景游、號は慎齋、尙州の人文備の子なり中宗壬午司馬に中り同年文科に登り湖堂に選せられ官叅判に至る歿後判書を贈られ諡を文敏と云ふ

○顯忠祠誌

圖書番號 三二六四

二卷四冊 白鳳奭編 印本

高麗太師姜邯贊義州白馬山城を扃設し朝鮮仁祖の時に至り府尹林慶業之を修築せり肅宗己丑の歲州人金九鳴議を倡へ祠を建て二氏を祭る正祖己酉顯忠の額を賜ひ其の後黃一皓崔孝一を追配し車禮亮等六人を東西位に配し又白大豪等百十六人を東西壇に分配せり何れも仁祖丙子の義士なり李太王己巳州人白鳳奭等祠享せられたる忠

臣義士の始終の事歴十編を録し刊行す即ち本書なり

○梵宇攷

一冊

寫本

圖書番號 四七七、四二〇七

三國史記、高麗史及古今の文集、輿地勝覽、各邑誌其他の諸書を考證して各道に散在せる新舊寺院の存廢所在、沿革等を記したるものなり正祖己未三年の編成に係る

○海印寺事蹟

一冊

印本

圖書番號 二二六三、一一九〇五、二一九七一

慶尙南道陝川郡海印寺の緣起及重修の記事、寺蹟碑文並に大藏經を印板したる跋文等を載録せるものにして李太王丙午經板の字劃と邊飾を改繕したる時海印寺に於て上刊す

○梵魚寺勗建事蹟

一冊

釋東溪編 印本

圖書番號 九八四五

梵魚寺は慶尙南道東萊の北金井山の中腹に在り有數の古刹にして其の創建事蹟を録せるものなり

○佛國寺歷代記

一冊

釋歸隱編 寫本

圖書番號 三七九六

新羅法興王戊申慶尙南道慶州郡吐舍山に佛國寺を始勗し朝鮮哲宗丁巳に至る約千三百三十年間に於ける寺舎の興廢と寺中の事蹟とを録したるものなり

○松廣寺事蹟

一冊

寫本

圖書番號 一〇三二九

全羅南道順天郡曹溪山に在る松廣寺の事蹟を録せしものなり新羅の時僧慧鄰始めて庵を築きて此に居り高麗の時僧普照伽藍を増建して住留後僧高峰に傳へ朝鮮太祖の時に至り僧無學に命じて留住せしむ寺中器物の奇古なるもの草木の神異なるもの山水の絶勝なるもの樓庵の壯麗なるもの等悉く載録せり卷末に寺の全圖を附す

○金山寺事蹟

一冊

寫本

圖書番號 一一八九二

全羅北道金堤郡母岳山金山寺の事蹟記にして郡の位置、建寺の年代、佛家の古蹟、梵宮殿閣の數、爰等

を詳細に記録せり

○ 華嚴寺事蹟 一冊

印本

圖書番號 一一〇七七

全羅南道求禮郡智異山華嚴寺の沿革及當寺に關係する文字乃至藏眞せし物名等を録述せしものにして肅宗の丁丑華嚴寺に於て刊行す

○ 龍湫寺事蹟 一冊

釋杜慧編 寫本

圖書番號 六一〇四

慶尙南道安義郡德裕山に在る長水寺は高麗末の創建にして屢廢し屢興り景宗元年辛丑之を改建し英祖元年乙巳寺傍に龍湫菴を建立す十二年丙辰釋杜慧前後の沿革を記したるもの是なり

○ 義林寺圖 一冊

寫本

圖書番號

義林寺は慶尙南道鎮海の餘航山に在り此の圖は義林寺境内の形狀を記したるものなり

○ 葛來塔事蹟 一冊

印本

圖書番號 一一〇三三

江原道旌善郡太白山の淨巖寺に在る葛來塔一名

史部

水瑪瑙寶塔の來歴を誌述せしものにして世尊文殊の神異なる往蹟を詳載せり傳へ云ふ塔基を開きし時三葛あり來る時正に冬なるも三個の葛花開けり故に其の村を葛來と名くと正祖二年戊戌釋翠岩性愚之を誌し寶塔重修誌は李太王十一年甲戌釋景雲以社之を誌せり

○ 二十一都懷古詩 一冊

柳得恭著 印本

圖書番號 六六九七

朝鮮四千年以來の建國開都の懷古詩にして檀君朝鮮より高麗まで並せて二十一都其の絶句四十三篇あり正祖乙巳箋註編次し李太王丁丑に刊行す

柳得恭字は惠風冷菴と號す文化の人進士龜の子なり英祖己巳に生れ正祖丁酉檢書官を授けられ官府使に至る

○ 關東日錄 一冊

洪仁祐著 印本

圖書番號 四七五、四五一九、六三〇八

明宗八年癸丑四月洪仁祐許國善南時甫等關東遊覽の途に上り陸行百里海行五十里山行三十里の

二九一

地を跋涉し五月に至りて歸郷せる紀行なり
洪仁祐字は應吉、耻齋と號す南陽の人なり退溪李
混の門人にして篤學力行又孝を以て聞ゆ

○關東十境

一冊

帖

圖書番號 一〇二九二

江原道に屬する勝區中侍中臺、叢石亭、三日浦、海山
亭、清澗亭、洛山寺、鏡浦臺、竹西樓、望洋亭、月松亭等の
圖を描寫したる畫帖にして題詠は金尙星其他
英祖の時の諸家の手に成れり關東は江原道の別
稱なり

○金剛山記

一冊

趙成夏著 印本

圖書番號 六一八三

金剛山は江原道に在り皆骨、楓嶽、霜嶽等の別稱あ
りて朝鮮第一の勝區と稱す本書は李太王乙丑の
年著者か登山實見せし四十三日間の日記、詩文等
を編次したるものにして金剛山記、東遊詩、遊金剛
日表等あり

趙成夏字は舜韶、小荷と號す豐壤の人判書秉駿の
子なり出てて游荷秉龜の後を繼ぐ憲宗乙巳に生

れ哲宗辛酉副司勇を以て文科に登り官吏曹判書
に至り李太王辛巳に歿す諡を文獻と云ふ

○北關紀事

一冊

洪儀泳著 寫本

圖書番號 四二三四

本書は正祖七年著者か太祖の發祥地たる咸鏡道
一帯を巡視し興王事蹟、山川道里、風土民俗、關防事
宜、茂山事宜、開市事宜、行營事宜、北評事事宜、田賦事
宜、軍丁事宜、糶糴事宜、海戶進上事宜等の目を設け
古今の沿革並に現時の情況を列舉し私見を附し
たるものなり

洪儀泳字は正則、良齋と號す南陽の人海峯命元の
後なり英祖庚午に生れ正祖癸卯文科に登り官參
判に至る

○北輿要選

二卷一冊

金魯奎著 寫本

圖書番號 六九六九

鮮清の定界碑は肅宗壬辰分水嶺に建設したるも
兩國間の紛議を來すこと多きを以て慶源の處士
金魯奎夙に心を疆界の事に留め古今文字の據る
へきものを哀輯し間間私見を附し以て境界視察

委員の参照に資せり此の書即ち是なり上下二卷あり上卷は白頭古蹟攷、白頭舊疆攷、白頭圖本攷、白頭碑記攷、下卷は探界公文攷、勘界公文攷、察界公文及查海公文等なり

○ 勘界顛末

二冊 李重夏著 寫本

圖書番號 一五二四、一五二五

李太王二十四年五月勘界使李重夏か清の勘界使と會同し朝鮮西北の國界を酌定するに當り雙方の論據一定せず實地測量の結果各其所見を以て復命したる報告書にして二十三年三月清の總理各國事務衙門か吉林圖們江境界未定の爲吉林將軍を劃定委員として派遣せし奏議を併載し辨晰攷證八條を附せり

李重夏字は厚卿、二堂又坦齋と號す全州の人縣監寅植の子なり憲宗丙午に生れ李太王癸酉進士に中り丁丑叅奉を拜し壬午文科に登り官奎章閣提學に至り大正六年に歿す少より文名あり再度御史となり三度觀察使となり清白廉直を以て開てゆ

○ 龜城城役誌

一冊

寫本

圖書番號 三三三

肅宗三十一年乙酉始めて平安道龜城郡の城地壇臺を修補す此の書は其の役の始末と工匠施賞物力所入、機械軍餉等の備置定式とを録したるものにして三十八年壬辰に編成す

○ 擇里志

一冊 李重煥著 寫本

圖書番號 一六三八

朝鮮全域内の山水録にして形勝を叙述し士の居里を擇ふへき事を詳説せり一に八域志と云ひ又博綜誌山水録とも稱す

李重煥字は輝祖、清潭は其の號なり驪州の人齋震休の子にして肅宗庚午に生れ癸巳文科に登り英祖の時に歿す官兵曹正郎に止る

○ 皇華程塗考

一冊

寫本

圖書番號 六七〇二

朝鮮より支那北京へ行く道程を記したるものにして義州鴨綠江より柵門に至るまで百二十里、柵門安市城より瀋陽に至るまで四百五十里、瀋陽願

堂寺より山海關に至るまで七百八十七里、山海關
深河より朝陽門に至るまで六百六十七里、鴨綠江
より朝陽門に至るまで總計二千二百四十里とせ
り其の他九連城より朝陽門に至るまで都市の名
稱及古蹟の大概を記載せり

○ 士民必知

二卷一冊

印本

圖書番號

六三三、六三二四

初め英人^{ヘルベツト}紇法朝鮮文を用ひて地球及萬國の山川
風土、政令、學術等を略記し白南奎、李明翔等之を漢
譯し更に金澤榮之を補ひ李太王三十二年乙未に
出版したるものなり

○ 東輿圖

二三冊

寫本

圖書番號

一〇三四〇

哲宗の時古山子の作りたる朝鮮地圖にして第一
冊は慶源、穩城、鐘城第二冊は慶興、會寧、茂山第三冊
は富寧、厚州第四冊は鏡城、甲山、三水第五冊は明州、
吉州、江界、渭原、楚山第六冊は端川、利原、北青、碧潼、昌
城第七冊は洪原、咸興、熙川、雲山、龜城、朔州、義州第八
冊は定平、永興、寧遠、孟山、德川、价川、寧邊、安州、博川、泰

川、嘉山、定州、郭山、宣川、鐵山、龍川第九冊は高原、文川、
德源、陽德、成川、江東、殷山、順川、慈山、順安、肅川、永柔、甌
山第十冊は歙谷、通川、安邊、淮陽、谷山、遂安、三登、祥原、
平壤、中和、黃州、江西、咸從、龍岡、長連、三和第十一冊は
興、高城、金城、金化、平康、鐵原、伊川、安峽、兎山、新溪、平山、
瑞鳳山、載寧、安岳、信川、文化、殷栗、松禾、豐川、長淵第十
二冊は襄陽、杆城、麟蹄、楊口、狼川、春川、永平、抱川、健川、
朔寧、麻田、積城、坡州、長湍、開城、金川、白川、延安、海州、康
翎、瓮津第十三冊は江陵、昌平、橫城、洪川、加平、砥平、楊
根、廣州、楊州、漢陽、果川、水原、始興、高陽、陽川、安山、交河、
金浦、富平、仁川、通津、江華、喬桐第十四冊は三陟、旌善、
寧越、永春、丹陽、堤川、清風、原州、^忠州、陰城、驪州、陰竹、利
川、竹山、陽智、龍仁、陽城、安城、稷山、振威、平澤、南陽、牙山、
沔川、唐津第十五冊は蔚珍、平海、寧海、英陽、眞寶、青松、
禮安、奉化、安東、榮川、順興、禮泉、豐基、龍宮、咸昌、聞慶、延
豐、槐山、報恩、清安、懷仁、鎮川、清州、文義、懷德、木川、燕岐、
全義、天安、公州、溫陽、新昌、定山、禮山、大興、青陽、德山、洪
州、海美、瑞山、結城、保寧、泰安第十六冊は盈德、清河、興
海、新寧、義城、義興、軍威、比安、仁同、善山、開寧、尙州、金山

黃潤、永同、青山、茂朱、沃川、錦山、珍山、龍潭、鎮岑、連山、高山、魯城、恩津、礪山、石城、龍安、益山、扶餘、林川、咸悅、鴻山、韓山、臨陂、沃溝、舒川、庇仁、藍浦第十七冊は長鬢、延日、慶州、永川、河陽、慈仁、慶山、漆谷、大邱、玄風、昌寧、星州、高靈、草溪、陝川、知禮、居昌、安義、長水、鎮安、任實、全州、金溝、秦仁、金堤、井邑、萬頃、扶安、古阜、興德十八冊は蔚山、機張、彦陽、梁山、金海、密陽、昌原、漆原、靈山、咸安、宜寧、三嘉、晉州、丹城、山清、咸陽、雲峯、求禮、南原、谷城、淳昌、玉果、潭陽、昌平、光州、長城、高敞、茂長、靈光、咸平第十九冊は東萊、熊川、鎮海、固城、統營、泗川、昆陽、河東、南海、光陽、順天、樂安、同福、寶城、和順、綾州、南平、長興、羅州、康津、靈岩、務安第二十冊は巨濟、興陽、海南、珍島第二十一、二十二冊は濟州、旌義、大靜等とし州縣、大小營、鎮堡、山城、烽燧、驛站、面洞、里等を詳細に記せるものなり別に目錄一冊を附す

○ 大東方輿全圖

二二冊

寫本

圖書番號 一〇三三三、一〇三四一

詳密なる朝鮮の地圖にして京畿、忠清、慶尙、全羅、江原、黃海、咸鏡、平安、濟州に別ち州縣、大小營、鎮堡、山城、

史部

烽燧驛站、坊面、田賦、民戶、人口、軍總、牧場、倉庫、穀總、津堡、海堡、面等を詳記し且表を以て此等の數を示し索覽に便せり

○ 京畿圖

四〇冊

寫本

圖書番號 自一〇三四二至一〇三七九、一〇六四三、一〇

六四四

京畿道の地圖にして仁川、楊州、水原、廣州、開城、驪州、長湍、江華、南陽、龍仁、坡州、利川、豐德、抱川、竹山、朔寧、安城、高陽、加平、通津、富平、金浦、永平、麻田、安山、交河、陰竹、振威、始興、積城、果川、漣川、陽智、陽城、陽川、喬桐、大阜、砥平、楊根、永宗に區分せり

○ 湖西圖

五一冊

寫本

圖書番號 一〇三八〇、自一〇三八一至一〇四三一、一

〇五一五

忠清、南北道の地圖にして忠清、南道を公州、洪州、瑞山、平薪、鎮興、三、馮川、泰安、懷德、韓山、舒川、德山林川、稷山、恩津、青陽、連山、扶餘、藍浦、結城、保寧、海美、牙山、溫陽、大興、定山、鎮岑、魯城、石城、庇仁、唐津、新昌、全義、燕岐、天安、平澤に分ち忠清、北道を清州、忠州、陰城、鎮川、沃川、

二九五

清風、鴻山、報恩、堤川、清安、永同、文義、懷仁、丹陽、永春、黃澗、青山、延豊に區分せり

○ 湖南圖

七九冊

寫本

圖書番號 自一〇四三至一〇五一

全羅南北兩道の地圖にして湖南右海全圖、務安、木浦鎮(共二)、順天、防踏鎮、突山鎮(共三)、光州、海南、濟州、大靜、旌義(合圖)、羅州、智島、鎮黑山島(共三)、靈巖、梨津、鎮於蘭、鎮、楸子島(共四)、靈光、多慶浦、荏子鎮(共三)、寶城、長興、會寧鎮(共二)、興陽、虻、渡鎮、呂島、鎮、鉢浦、鎮、鹿島、鎮(共五)、咸平、綾州、康津、古今島、鎮、馬島、鎮、智島、鎮(共四)、長城、昌平、求禮、潭陽、南平、珍島、金甲鎮(共二)、光陽、蟾津、鎮(共二)、同福、谷城、萬頃、古、群山、鎮、全州、南原、任實、扶安、黔毛浦、蟬島、鎮、淳昌、古阜、金堤、泰仁、茂長、錦山、益山、茂朱、長水、礪山、臨陂、金溝、鎮、安、萬頃、興德、珍山、咸悅、井邑、龍潭、雲峯、高敞、龍安に區分し附するに法聖、高山、青山島、和順、南桃、樂安、沃溝、玉果、臨淄、群山を以てせり

○ 嶺南圖

一二冊

寫本

圖書番號 一〇五二二、一〇五二三、一〇五二四

慶尙南北兩道の地圖にして晋州、牧場、蔚山、牧場、益

山、禿用、金島、金井、島嶺、架山、天生、赤梁、昌寧、泗川、機張、三嘉、比安、熊川、慈仁、英陽、漆原、聞慶、安義、長木浦、開雲浦、豆毛浦、西平浦、西生、浦項、彌助項、多太、釜山、知世浦、助羅浦、玉浦、寧海、密陽、青松、東萊、左水營、善山、仁同、漆谷、順興、河東、巨濟、陝川、金山、永川、盈德、固城、義城、慶山、南海、開寧、宜寧、河陽、龍宮、奉化、清河、彥陽、鎮海、眞寶、咸昌、知禮、居昌、清道、草溪、咸陽、醴泉、榮川、興海、豐基、梁山、咸安、昆陽、高靈、玄風、山清、丹城、軍威、義興、新寧、禮安、延日、長鬢、靈山、統營、管下各鎮地圖三千浦、唐浦、蛇梁、龜梁、山浦、永登、加背、梁、栗浦、知世浦、玉浦、助羅浦、長新、興山、嶺、津、永、登、木、浦、尺、城、加、德、安、骨、齊、浦、龜、山、南、村、統營全圖に區分せり

○ 海西圖

四二冊

寫本

圖書番號 自一〇五一六至一〇五五七

黃海道の地圖にして海州、首陽山城、龍媒鎮(共三)、鳳山、蒜山鎮(共二)、載寧、長壽山城(共二)、信川、黃州、正、方、山城、鐵島鎮(共三)、平山、延安、長淵、助泥鎮、吾叉鎮、金沙鎮、白翎鎮(共五)、松禾、甕津、安岳、谷山、文城鎮(共三)、瑞興、善積鎮、所己鎮、大峴山城(共四)、遂安、文山鎮(共二)、白川、金川、殷栗、九月山城(共二)、兎山、新溪、豐川、許沙鎮、椒島鎮

(共三文化、康翎、登山鎮(共二長連に區分せり)

○ 關東圖

二八冊

寫本

圖書番號 自一〇六四五至一〇六七二

江原道及咸鏡南道の一部を含みたる地圖にして
春川、洪川、原州、江陵府、麟蹄、三陟鎮、橫城、楊口、平昌、寧
越、通川、淮陽、伊川、旌善、襄陽、蔚珍、金城、平康、鐵原、平海、
金化、安峽、三防、歙谷、狼川、三陟、杆城、高城に區分せり

○ 關西圖

八五冊

寫本

圖書番號 自一〇五五八至一〇六四二

平安南北兩道の地圖にして平壤、堡山鎮、成川府、順
川、龍淵鎮(共二安州牧地圖老江鎮(共二龍岡、黃龍鎮
(共二中和府、城山鎮(共二价川、金城鎮(共二江西、寧遠

陽德、江東、孟山、甌山、德川、祥原、永柔、肅川、順安、寧邊府、
江界、慈城、厚昌、龍川府、定牧、宣川、劍山鎮、東阿耳
峴鎮、東嶺鎮、龜城府、安義鎮、楸山鎮、西林鎮、宜熙川、
山羊鎮(共五)、鐵山府、沙鎮(共三)、雲山、委曲鎮、難秦
碧潼、大坡兒、小吉號、里秋仇非(共八)、雲山、委曲鎮、難秦
川、昌城府、昌城鎮、管甲、慶堡、昌州鎮、特塞鎮、大吉號、朔
州府、仇寧鎮、幕嶺鎮、渭原、鎮、龍洞堡(共四)、嘉山、郭山、
博川、般山、薪島、三登、三和府、慈山府、咸從府、壬海鎮、柔

史部

院鎮、古城鎮、西城鎮、東津鎮、廣梁鎮、慈山、慈母山城鎮
に區分せり

○ 關北圖

二四冊

寫本

圖書番號 自一〇六七三至一〇六九六

咸鏡南北兩道の地圖にして咸興、安邊、北青、永興、文
川、德源、鏡城、高原、穩城、慶源、慶興、甲山、定平、洪原、利原、
端川、吉州、明川、茂山、三水、鍾城、會寧、富寧、長津に區分
せり

○ 鬱陵島内外圖

二冊

寫本

圖書番號 一〇三三四、一〇三三九

慶尙北道鬱陵島内外の形狀を圖せしものなり

○ 中東地圖

一冊

寫本

圖書番號 一〇三三二

卷首に亞細亞附近の總圖を附して天下と稱し次
に支那の全圖を置き次第に北京、山西、陝西、山東、河
南、泗川、南京、兩湖、浙江、江西、福建、廣東、廣西、貴州、雲南、
遼東等に區分し又次に朝鮮全圖を掲げ京畿、忠清、
全羅、慶尙、江原、咸鏡、黃海、平安とし卷末に日本琉球
の圖あり

二九七

金石類

○金石錄

二四六冊 金在魯編 摺本

圖書番號 一〇〇〇九

本書は高麗朝鮮二期に亘る金石の拓本を蒐輯したるものにして原編二百二十六冊續編二十冊共に二百四十六冊の巨帙なりしも今散逸し本府に藏するもの僅に三十九冊收むる所百六十四種を存す

○三韓金石錄

一冊 吳慶錫編 寫本

圖書番號 七三三六

朝鮮の金石文を収録し年代撰者書者等を考證したるものにして哲宗九年に成る

吳慶錫字は元秬、號は亦梅、海州の人なり純祖辛卯に生れ官知中樞に至り李太王己卯に歿す書を能くし尤も隸に工なり又能く山水を書き殊に金石考據の學に精し

○碑銘記

一冊

寫本

圖書番號 三三二二

宣祖の私親德興大院君の神道碑、元宗の生母仁嬪金氏の墓誌、定遠大院君行狀草、興慶園誌、啓運宮具氏の墓誌、元宗王子綾昌君佺の墓誌、仁祖妃仁烈王后韓氏の行狀及長陵誌等を集録せるものなり

○關東金石錄

一冊 寫本

圖書番號 四八八二

襄陽神興寺龍巖大師の塔碑、其の他諸人の神道碑文等を謄寫したるものなり

○崇仁殿碑

一帖 擧本

圖書番號 一〇二八四

李廷龜撰
金尙容篆

箕子を祀れる平壤崇仁殿の碑文の拓本にして碑は光海君癸丑に立つ文は李廷龜の撰に係り金玄成之を書し金尙容其の額に篆す

金玄成字は餘慶、南窓と號す金海の人なり中宗壬寅に生る明宗の時文科に出身し官敦寧府同知事に止る詩は其の長所にして書は趙子昂を學び嘗て平壤箕子廟の碑文を書す天性孝友にして學を好み又酷た山水を愛したりと云ふ光海君辛酉に歿す

金尙容字は景擇、仙源又楓溪と號す安東の人にして四味堂克孝の子林塘鄭惟吉の外孫なり明宗辛酉に生れ宣祖壬午進士に中り庚寅登科し史局に入りて檢閲となり累進して仁祖壬申相府に入る丙子の難陪して江都に入り翌年江都守を失ふや自ら火藥を以て焚死す時に年七十七諡して文忠と云ふ

○ 神德后私第舊基礎碑 一冊

正祖撰
洪良浩書 揚本

圖書番號 一〇一三四

太祖の妃神德皇后康氏私第舊基礎碑の拓本なり基礎は黃海道谷山郡神留山下に在り正祖二十三年己未に碑を立つ文は正祖の撰に係り洪良浩の書する所なり

○ 博川聖蹟碑 一帖

金義淳撰
徐榮輔書 揚本

圖書番號 一〇二二〇

壬辰の歲宣祖播遷して平安道博川郡に行在す純祖八年戊辰石碑を立て其の事蹟を記す本帖は其の拓本なり金義淳文を撰し戸判徐榮輔之を書す金義淳字は景元、山木軒と號す安東の人仙源尙容

七代の孫なり英祖丁丑に生れ正祖己酉文科に登りて官判書に至り純祖辛巳に歿す文簡と諡す

○ 仁祖誕降舊基礎碑 一帖

李觀命撰
金正臣書 揚本
金濟謙篆

圖書番號 一〇二三七

壬辰の歲宣祖義州に播遷し翌年海州に移蹕したる時王妃及諸王子妃嬪を海州に留む元宗時に潜邸に在り民家に居住す而して仁獻王妃偶ま仁祖を誕生せり後肅宗十六年庚午黃海觀察使權瑬申請して仁祖誕降の舊基に碑を立つ景宗庚子李觀命をして碑文を改撰し金正臣をして之を書し金濟謙をして額に篆せしむ

李正臣字は邦彥松蘂と號す延安の人白洲明漢の曾孫なり顯宗庚子に生れ肅宗戊寅に蔭仕參奉を以て文科に登り官參判に至り英祖丁未に歿す金濟謙字は必亨竹醉と號す安東の人夢窩昌集の子なり肅宗庚申に生れ己亥蔭仕僉正を以て文科に登り官承旨に至り景宗壬寅死を賜ふ左贊成を贈職し忠愍と諡す

○ 明成皇后誕降舊里碑

一帖 李王書 搨本

圖書番號 一〇二二二、一〇二二三、一〇二二四

李太王妃閔氏は京畿道驪州郡蟾樂里に於て誕生し光武元年明成皇后に追封す仍て八年李王の皇太子たりし時其の誕生地を追慕し碑を立て題して明成皇后誕生舊里とす

○ 莊陵靈泉碑

一帖 徐榮輔撰 搨本

圖書番號 一〇二五三

端宗莊陵祭井碑の拓帖にして正祖の時徐榮輔文を撰し朴基正之を書し十五年辛亥に建立したるものなり

朴基正字は一如順天の人なり憲宗戊戌に生る朴彭年の祀孫にして正祖甲辰文科に登り官參判に至る

○ 遲遲臺碑

一冊 徐榮輔撰 搨本

圖書番號 一〇二五二

京畿道水原廣州の境界に立てたる遲遲臺碑の拓本にして純祖七年丁卯直提學徐榮輔撰文し知春秋館事尹師國之を書し水原府留守洪明浩題を篆

す碑は純祖七年丁卯十二月の建立に係る

尹師國字は賓卿直菴を號す漆原の人なり英祖戊申に生れ己卯文科に登り掌令を経て江原監司となり子規樓を重修す官判敦寧府事に至り純祖己巳に歿す筆法甚た妙なり

洪明浩初名は鳴漢字は公舒なり豊山の人にして郡守重聖の孫なり英祖丙辰に生れ癸未進士に中り叅奉を以て辛卯文科に登り官判敦寧府事に至り純祖己酉に歿す諡を孝定と云ふ

○ 御射臺碑

一帖 李敏采書 搨本

圖書番號 九九八五

正祖十六年壬子光陵に幸行の時楊州郡に駐蹕し臺上に於て射を試みたる事蹟を記録したるものにして楊州牧使李敏采の書したる碑石の搨本なり

李敏采字は稚行韓山の人にして贈叅判思述の子なり英祖庚申に生れ正祖丁酉文科に登り官叅判に至る純祖の時に歿す

○ 荒山大捷碑

一帖 金貴榮撰 搨本

南宋應雲篆

圖書番號 九九九二

全羅北道南原郡荒山に在る朝鮮太祖勝捷の遺蹟碑にして宣祖十年丁丑の年に建つ

金貴榮字は顯卿、東園と號す、商山の人、僉樞士元の孫なり、中宗庚辰に生れ、明宗丁未文科に登り、翰林に歷任し、湖堂に選はれ、文衡を典り、宣祖癸巳に歿す、官左相に至る

宋寅字は明仲、頤庵又鹿皮翁と號す、礪山の人にして丞相軼の孫なり、中宗丁丑に生れ、駙馬を以て、礪城尉に封せられ、宣祖甲申に歿す、諡を文端と云ふ、頤庵都尉の貴を以て、專心學を講し、經を窮め、禮を明にし、晩に山水を喜ひ、亭を漁濱に作り、逍遙以て終る、又善書を以て、名あり、詩文流暢にして、凝滯の痕を留めず、頗る朗誦するに足る

南應雲字は致遠、菊窓と號す、宜寧の人、參判世健の子なり、中宗己巳に生れ、乙未文科に登り、宣祖丁亥に歿す、官禮參に至れり

○延城大捷碑

一幅

李恒福撰
鄭尙容篆

搨本

圖書番號 一一九四一

史部

碑は黃海道延白郡龍鳳面横井里に在り、宣祖壬辰

招討使李廷龍か延安府に於て戰勝したる事實を勒したるものなり、李廷龍字は仲薰、四留齋と號す、慶州の人なり、中宗辛丑に生れ、明宗辛酉文科に登り、翰林に歷任し、宣祖宣武功に策し、月川君に封せられ、庚子に歿す、官知中樞に至り、諡して忠穆と云ふ

鄭賜湖字は夢輿、禾谷と號す、光州の人なり、明宗癸丑に生れ、宣祖丁丑文科に登り、光海君の時に歿す、官吏參に至れり

○洪灌取義碑

一冊

徐載贊撰
洪儀泳書

搨本

圖書番號 一〇二〇、一〇二一

高麗の忠臣洪灌か仁祖の時、李資謙の亂に遭ひ、西華門に於て殉節せし事實を勒したる碑にして、京畿道開城西華門の舊址に在り、純祖己巳後孫之を堅つ、文は金載瓚撰し、徐榮輔之を書し、洪儀泳隸を書せり

洪灌字は無黨、號は靜軒、南陽の人なり、高麗肅宗の時、文科官左僕射に至る、仁宗四年、李資謙の亂に殉

節す諡を忠平と云ふ

○四朝關王廟碑 一帖

搨本

圖書番號 一〇〇八八

京城東門外及南門外に在る關羽廟の碑の拓本にして肅宗、英祖、莊祖及正祖の撰並に書なり

○文殊院重修碑 一帖

金富軾撰 釋坦然書 搨本

圖書番號 一〇二二二

高麗眞樂公李資玄の清平山文殊院重修碑記の搨本なり文は高麗金富軾の撰に係る釋坦然は俗姓孫なり高麗仁宗の時の高僧にして大鑑國師の號を賜ふ息菴李資玄の門人にして神筆を以て世に鳴れり

○黃江書院廟庭碑 一帖

宋煥箕撰 金履九篆 搨本

圖書番號 一〇二七八

黃江書院は忠清北道清風郡黃江に在り權尙夏のために建つ英祖己巳黃江書院の額を賜ひ正祖丁巳碑を鐫し庭に立つ宋煥箕文を撰し閔台樹之を書し金履九額を篆す

宋煥箕字は子東、性潭と號す恩津の人尤菴時烈の

五世孫なり英祖戊申に生れ正祖朝遺逸を以て登庸され祭酒より吏判に歷任し純祖丁卯に歿す官左贊成に至り諡を文敬と云ふ

閔台樹字は子三、驪興の人大憲著堂の玄孫なり英祖丙寅に生れ正祖己亥文科に登り純祖丙寅に歿す官禮判に至れり

金履九字は元貞、自然窩と號す安東の人贊善亮行の子なり英祖丙寅に生れ正祖戊戌、惠陵參奉に除し官尙衣僉正に至る

○紹賢書院碑 一帖

洪鍾應撰 李景在書 金炳學篆 搨本

圖書番號 一〇二四二

紹賢書院は平安南道平壤の蒼光山下に在りしか今存せず憲宗丙申に建て金祖淳を享したるものなり祖淳字は上原號は楓阜安東の人なり正祖の時文科に中り吏判に至る純祖の國舅にして永安府院君に封せられ諡を忠文と云ふ碑は哲宗八年に立つ洪鍾應文を撰し李景在之を書し金炳學題を篆す

洪鍾應字は士協芍玉と號す大湖元變の孫にして

純祖癸亥に生れ丁亥文科に登り翰林提學を歴て李太王丙寅に歿せり官吏判に至り諡を文獻と云ふ

金炳學字は景教、穎樵と號す安東の人吏判洙根の子なり純祖辛巳に生れ憲宗己酉進士に中り教官を授けられ哲宗癸丑文科に登りて文衡を典し官領議政に至り李太王己卯に歿す諡を文獻と云ふ李景在字は季行松西と號す三山台重の曾孫にして正祖庚申に生れ純祖庚辰文科に登り直閣より提學を歴て李太王の時に歿し官領相に至り諡を文簡と云ふ

○ 義烈祠碑

一帖 鄭元容撰 揚本

圖書番號 一〇三三三

宣祖壬辰の後妓の祠を建てたるもの一二に止まらず平壤の妓桂月香の義烈祠亦其の一なり憲宗乙未碑を立つ觀察使鄭元容文を撰し金應根之を書す

金應根字は溪卿宜石と號す春山弘根の弟なり正祖癸丑に生れ純祖丙子司馬に中り壬子洗馬に入

史部

仕し州郡を屢典し錦伯廣昌を歴て哲宗癸亥に歿せり官刑判に至る諡を清獻と云ふ

○ 嚴興道旌閭碑 一帖 尹師國撰並書 摺本

圖書番號 一〇二八〇

江原道寧越郡戶長嚴興道旌閭碑の拓本にして仁祖の時の人尹師國の撰並に書なり端宗位を世祖に遜り寧越に幽死せる時嚴興道下邑の一小吏を以て危禍を顧みず號哭殮斂したることあり後世其の節を義とし肅宗英祖の時工曹佐郎、工曹叅判を特贈し正祖の時祭を賜ひて旌表し其の十五年辛亥碑を建つ

○ 孝娥頓氏碑

一本 宋眞明撰 揚本

圖書番號 一一九四三

平安南道平壤の孝女頓氏其の父の溺死を救はんとして能はず屍を求めて得ず同溺せし事蹟を記したるものにして初め觀察使盧禎碑を立てしも年久しくして剝頽し英祖壬子觀察使宋眞明別に一文を撰して復た豎立す

宋眞明字は汝儒疎亭と號す吏判成明の弟なり肅

一〇三三

宗戊辰に生れ甲子文魁に登り翰林と銓郎とを歴任し英祖の戊午に歿す官吏判に至れり

李性孝字は謹甫、全州の人にして判尹匡世の子なり、肅宗丁丑に生れ英祖乙巳文科に登り庚申に歿す、官校理に止る

○ 陟州東海碑

一帖 許穆撰並書 搨本

圖書番號 一〇〇〇〇

眉叟許穆か江原道三陟府使たりし時東海頌を撰篆し顯宗辛丑碑を汀羅島に立てしか、風浪に激沈したるを以て肅宗己丑に至り更に改刻して竹串島に建設したるもの所謂退潮碑是なり

許穆字は和父、眉叟と號す、陽川の人、判書磁の曾孫なり、宣祖乙未に生れ孝宗庚寅薦を以て叅奉を授けられ後遺逸を以て掌令を拜し肅宗乙卯大司憲を歴て官右相に至り壬戌に歿す諡を文正と云ふ、禮論を以て尤菴宋時烈に反對し遂に南人の領袖たり、其の經術文章は一世の推重する所又篆書を善くす

○ 谷雲精舍記

一帖 宋時烈撰 搨本

圖書番號 一〇二四一

金壽增嘗て平康郡守たりし時山水の勝を探赜し春川の史呑に至り水石の平康なるを見て此に結構し盤施の所と爲し名けて谷雲精舍と云ひ記を宋時烈に請ひ舍側に鑄立す、谷雲は金壽増の號なり

○ 己酉移粟碑

一帖 搨本

圖書番號 一〇二七七

英祖五年己酉咸鏡道災年に値ひ慰諭御史李宗城を遣はし流民を安集し他道の粟を移用す、此の碑は親書の教旨を刻したるものなり

○ 高句麗廣開土王陵碑

四軸 搨本

圖書番號 一一七二三、一一七二九

廣開土王は好太王又は永樂太王と稱す、高句麗第十九代の王にして其の陵碑支那盛京省輯安縣東崗碑石街の平野中に在り、高約二十二尺、四面に文を刻す、碑の建立は長壽王二年なり

○ 北八陵表

八帖 李太王撰 搨本

圖書番號 一〇〇一〇、一〇〇一五、一〇〇九七、一〇一

太祖の壽祖穆祖の徳陵同妃の安陵は共に咸鏡北道慶興郡に在り曾祖翼祖の智陵は咸鏡南道安邊郡に在り同妃の淑陵は咸鏡南道文川郡に在り祖度祖の義陵同妃の純陵考桓祖の定陵同妃の和陵は皆咸興郡に在り今尙ほ八陵の舊表石あり光武五年改堅し陰記を親製す是は其の拓本なり

〇 桓祖定陵神道碑

一幀

鄭地 李廷龜 撰
吳翊 書
金尙容 篆

搨本

圖書番號 一一九六〇

咸鏡南道咸興郡に在る桓祖定陵の神道碑の拓本にして鄭摠之を撰し成石璘之を書し權中和額に篆し後碎破し光海君辛亥改堅せり文は舊作を仍用し吳翊改書し金尙容改篆し李廷龜陰記を撰す鄭摠は復齋と號す清州の人圓齋樞の子なり麗末文科に登り朝鮮太祖の時修文殿大學士に至り西原君に封せられ文愨と諡す
吳翊字は弼甫月岡と號す同福の人晚翠億齡の子なり宣祖甲戌に生れ癸卯文科に登科し翰林を歴

て官同知中樞府事に至る

〇 明聖王后誌

一冊 閔黯撰 寫本

圖書番號 九八二〇

顯宗の妃明聖王后金氏は清風府院君佑明の女にして仁祖壬午に誕生す孝宗辛卯世子嬪に冊し己亥顯宗即位するや王妃に進封す肅宗九年癸亥昇遐し翌年甲子顯宗の崇陵に祔葬するに當り尤菴宋時烈誌文を製進す後六年庚午時烈禍を被るや大提學閔黯之を改撰したるもの即ち是なり
閔黯字は長孺號は文湖驪興の人鳴臯應協の子なり仁祖丁丑に生れ顯宗戊申文科に登り文衡を典し官右議政に至る肅宗己巳閔妃を廢する頒教文を製進したる故を以て甲戌復位の時死を賜ふ

〇 仁敬王后誌

一冊 權愈撰 寫本

圖書番號 九八二一

肅宗の元妃仁敬王后金氏は光城府院君萬基の女にして顯宗辛丑に誕生す辛亥世子嬪に冊し甲寅肅宗即位するや王妃に進封す庚申昇遐し翌年辛酉翼陵に葬むるに當り尤菴宋時烈誌文を製進す

後十年庚午時烈禍を被る時藝文館提學權愈之を改撰したるもの即ち是なり

權愈字は退甫號は霞谷安東の人掌令詞の玄孫なり仁祖癸酉に生れ顯宗乙巳文科に登り文衡を典し官禮曹判書に至り肅宗の時に歿す文集あり世に傳はる

○弘陵表

一帖 揚本

圖書番號 一〇二三六

英祖の元妃貞聖王后徐氏弘陵の表文にして正祖の筆作なり王后の誕日嘉禮冊封封妃及昇遐等を簡畧に記載し乙巳の年に豎立す

○健陵誌

一帖 尹行恁撰並書 揚本

圖書番號 一〇〇七六、一〇〇八一、一〇〇八五

正祖庚申の年を以て昇遐し健陵に葬る純祖尹行恁に命し陵誌を撰し並に書して玄宮に埋む陵は水原郡花山に在り

○仁陵遷奉時誌文附識

一帖 拓本

圖書番號 一〇〇八二

純祖の仁陵遷移の時に於ける誌文の附識なり仁陵の遷移は哲宗六年乙卯其の議あり因て命して遍く畿田近遠を相せしめ哲宗亦親ら西東の地を審し明年丙辰獻陵に至り吉を右岡子坐原に卜し得て敢塗を啓き克襄は惟幽誌に則り舊慣を用ひ命して純祖甲午以後の事實を以て附識と爲す此は寧陵(孝宗)の古事に遵ひしと云ふ

○綏陵表

一帖 李太王撰 揚本

圖書番號 一〇〇一三、一〇〇九四、一〇一〇八

光武三年己亥翼宗を追崇し文祖翼皇帝と稱し妃を神貞翼皇后と稱し六年壬寅文祖の綏陵表石の次に新表石を立て追號を刻す陵は京畿道楊州郡に在り

○景陵誌

一帖 尹定鉉撰 李啓朝書 揚本

圖書番號 一〇一九五

憲宗乙酉の歳を以て昇遐し景陵に葬る判書尹定鉉誌文を撰し判書李啓朝之を書す陵は京畿道楊州郡に在り

尹定鉉字は鼎叟粹溪と號す南原の人大提學行恁

の子なり正祖癸丑に生れ憲宗癸卯文科に登り吏曹判書を歴て官判義禁に至り李太王甲戌に歿す諡を孝文と云ふ父行恁正祖の時に文名を以て知遇を受け寵を專にせしため純祖の初死を賜ふ定鉉父の文名を繼くと雖積廢すること久しく五十一年に及び始めて登科し十年内に驟進して崇秩に至れり

李啓朝字は舜卿、桐泉と號す東江錫奎の子にして正祖壬子に生る純祖壬子司馬に中り庚寅文科に登り提學を歴て哲宗乙卯に歿す官吏判に至る諡を文貞と云ふ

○孝昌墓碑

一帖 正祖撰 搦本

圖書番號 一〇〇七七、一〇〇七八、一〇三二一

正祖の撰に係る文孝世子墓神道碑にして李性源之を書す墓は京城龍山に在り

○孝昌墓表

一冊 正祖撰 搦本

圖書番號 一〇一〇〇

文孝世子孝昌墓の表文にして其の誕生、定號、冊封、卒逝及廟號、墓號等を記せり

史部

○順康園碑

一冊 張維撰 寫本

圖書番號 九七五一

仁嬪金氏の神道碑文なり仁祖反正の後嬪墓を追封して順康園と稱し碑を立つ張維文を撰し義昌君李珣之を書し申翊聖篆す

張維は月沙李廷龜の門にして孝宗の舅なり字は持國、谿谷と號す宣祖丁亥に生れ光海君の時登第し官右相に至る當時摺紳中文章學問を以て鳴る然れども申象村と等しく老佛の氣趣を交へ純然たる朱子學派に非ず人或は之を以て是非す仁祖戊寅に歿す

李珣字は藏仲、杞泉と號す宣祖の第八男にして義昌君に封せらる宣祖己丑に生れ仁祖乙酉に歿す諡を敬憲と云ふ

○綏慶園表

二帖 李太王製 搦本

圖書番號 一〇一八二、一〇一八三、一〇二八八、一〇二八九

光武三年己亥莊祖の私親暎嬪李氏に諡號を加へ墓を封して園と爲し仍て表石に刻し又記を刻す園は京畿道楊州郡に在り

三〇七

○ 徽慶園誌

一帖 金炳學撰 搨本

圖書番號 一〇二〇九、一〇三一一

正祖の嬪にして純祖の生母たる綏嬪朴氏の墓誌なり朴氏は潘南の人判敦寧準源の女にして宮號を嘉順墓號を徽慶園と云ふ金炳學誌を撰し洪祐吉之を書す

洪祐吉字は成汝諱士と號す藥軒萬衡の後孫にして純祖己巳に生れ哲宗庚戌文科に登り提學より六曹判書を歴て官判敦寧に至る李太王庚寅に歿し諡を孝文と云ふ

○ 鎮安大君墓碑

一帖 正祖撰並書 搨本

圖書番號 一〇二二一、一〇二二三、一〇二四九、一〇一九〇

鎮安大君の墓碑にして己酉に鐫豎す文は正祖の撰に係り書も亦正祖の筆なり鎮安大君は太祖の第一子にして王位を繼承すべきものなれども其の弟に譲り咸興に退居す諡を靖懿と云ふ墓は京畿道開城郡古蓋に在り

○ 樂善君神道碑

一帖 朴弼成撰 搨本

圖書番號 一〇一八六

樂善君の神道碑なり樂善君名は瀟字は子淑樂善は其の封號なり仁祖の第二子にして辛巳に生れ官都總管を歴て司饗院都提調に至り肅宗乙亥に歿し靖憲と贈諡す謹慎孝友を以て當時に推重せらる碑文は朴弼成之を撰し礪城君李楫之を書す朴弼成字は士弘雪松齋と號す潘南の人都正泰長の子なり孝宗壬辰に生れ丁卯に歿す壽九十六諡を孝靖と云ふ孝行を以て閭に旌す李楫は宣祖の第七子仁城君珙の曾孫なり顯宗戊申に生れ礪城君に封せられ階顯祿大夫に至り英祖辛亥に歿す諡を孝憲と云ふ平日孝行純篤なりしを以て閭に旌す

○ 延齡君墓道文

一冊 李頤命撰 趙泰耆書 寫本

圖書番號 六六二三

肅宗の子延齡君明の墓道文にして神道碑は李頤命撰し趙泰耆書し閔鎮遠篆し庚子の年豎立す墓表は肅宗の撰に係り西平君橈之を書し己亥に豎立す

李頤命字は養叔、疎齋と號す全州の人、領相敬輿の孫なり。孝宗戊戌に生れ、肅宗庚申文科に登り、丙寅重試に登り、翰林を歴て官左相に至り、景宗壬寅に歿す。諡して忠文と云ふ。

趙泰者字は德叟、素軒又覆谷と號す楊州の人、左相師錫の子なり。顯宗庚子に生れ、肅宗丙寅文科に登り、副學を歴て官領相に至り、景宗辛丑に歿す。

○ 恩彦君夫人宋氏墓誌

一冊 金汝根撰 搦本

圖書番號 一〇二五七

莊祖別子恩彦君夫人宋氏の墓誌にして、宋氏は鎮川の人、參奉樂休の女なり。英祖甲申に生れ、純祖己卯に歿し、京畿道通津馬松里に葬る。哲宗即位の後、金汝根に命し墓誌を撰せしむ。

金汝根字は魯夫、吏判洙根の弟なり。純祖辛酉に生れ、憲宗辛丑假監役に入仕し、縣監を歴て己酉國舅を以て、永恩府院君に封せられ、將任を歴て官領敦寧に至り、哲宗癸亥に歿す。諡を忠純と云ふ。

○ 恩信君碑

一帖 正祖撰並書 搦本

史部

圖書番號 一〇〇九九、一〇一五〇

莊祖の第三子恩信君の神道碑にして、正祖の撰に係る。恩信君名は禎、字は愼哉、英祖乙亥に生れ、甲申恩信君に封せられ、官都總管を歴たり。辛卯事に因り、濟州に流配せられて歿す。甲午爵位を復し、正祖即位の後、顯錄大夫を贈り、諡して昭愍と云ふ。

○ 元天錫墓碣

一帖 許穆撰並篆 搦本

圖書番號 一〇一六一

元天錫の墓碣にして、顯宗十二年辛亥に立つ。許穆撰文し、又篆し。天錫の外裔孫李命殷之を書す。天錫高麗の末國子進士となり、高麗の政亂るるを見て、隱居獨行し、號を耘谷と稱す。國亡ひて後、江原道原州の雉岳に居り、太宗屢之を召すも出でず。其の義を高くす。子洞に基川縣監を授く。

李命殷字は敬叔、白雲と號す。全州の人、監司億孫の玄孫なり。仁祖の丁卯に生れ、顯宗の末年貞陵參奉を授く。肅宗乙卯文科に登り、官掌令に至る。善書を以て稱せらる。

○趙愼墓表

一帖 趙璞撰 趙萬永書 揚本

圖書番號 一〇一五八

高麗淮陽府使趙愼の墓表陰記にして初め七代の孫石谷璞文を撰し翠屏珩之を書したるものありしか歳久しくして折傷し純祖三十年庚寅十四代の孫徹永等之を改建し萬永更に書す墓は忠清南道林川郡に在り愼初めの名は思廉豐壤の出にして平章事趙孟の後なり高麗の末に生れ太宗嘗て潜邸にありし時之れに學を受く官淮陽府使に止まる

趙璞字は叔温石谷と號す豐壤の人處士希尹の子なり宣祖丁丑に生れ癸卯司馬に中り丙午文科に登り官僉知中樞府事に止まる

趙萬永字は胤卿石厓と號す豐壤の人柯汀鎮寬の子なり英祖丙申に生れ純祖癸酉文科に登り兩銓と將任とを歴て豐恩君に封せられ官領敦寧に至り憲宗乙巳に歿し忠敬と諡す

○嚴興道墓碣 一帖 尹陽來撰並書 揚本

圖書番號 一〇一八四

寧越の戸長嚴興道の墓碣にして尹陽來寧越府使たりし時文を撰じ並に書し英祖二年丙午に刻堅す興道は寧越の人戸長となり世祖二年丁丑端宗禍を被るや屍を斂むる者なし時に興道直に趨き之れを營葬す端宗復位するに及び贈官褒忠せらる

尹陽來字は季亨晦窩と號す坡平の人にして府尹理の子なり顯宗己丑に生れ肅宗戊子に文科に登り官輔國兵曹判書に至り耆社に入りて歿す諡して翼獻と云ふ

○徐花潭神道碑

一帖 揚本

朴民獻撰 韓護書 南應雲篆

圖書番號 一〇一八〇

徐敬徳の神道碑にして門人朴民獻の撰文に係り篆額は南應雲にして書は石峰韓護なり宣祖十八年京畿道開城郡花潭に立つ徐敬徳字は可久花潭又復齋と號す唐城の人成宗己酉に生れ世世開城に住し明宗丙午遺逸を以て終れり時に年五十八宣祖特に右相を贈り文康と諡す

朴民獻字は希正、正菴と號す、咸陽の人、耻菴忠佐八世の孫なり、中宗丙子に生れ、明宗丙午文科に登り、湖堂を歴て、官監司に至り、宣祖丙戌に歿す。

韓灑字は景洪、石峯と號す、清州の人なり、宣祖の時二十五歳にして進士となり、書を以て其の名世に鳴り、明將李如松及琉球使梁燦等皆其の筆を要む、明王世貞筆談に曰く、石峯書如怒猊抉石、渴驥奔川と、朱之蕃も亦賞して、王右軍、顔真卿相優劣すと云へり。

○趙守翼墓表

一帖 申翊聖撰 搨本

圖書番號 一〇一四五

趙守翼の墓表、陰記にして、文は門人申翊聖の撰に係り、仁祖乙亥に立つ、趙守翼字は時保、豊壤の人、應教廷機の子なり、明宗乙丑に生れ、宣祖辛卯文科に登り、官弘文校理に至り、宣祖壬寅に歿す、子滄の貴を以て、豊寧君を贈らる、墓は京畿道楊州郡に在り、申翊聖字は君爽、樂全堂、又東淮と號す、平山の人、象村欽の子にして、宣祖の駙馬なり、宣祖戊子に生れ

己亥、東陽尉に封せられ、仁祖甲申に歿す、諡を文敬と云ふ、早歲禁闈に出入し、貴顯を極めたるも、意を文章に專にし、著述甚た多く、又小楷、八分、篆籀を善くし、仁祖辛巳、清人の誣を被りて、清陰金尙憲と俱に瀋陽に拘囚せられし、か昭顯世子其の誣を卜明して、事遂に解く。

○李忠武公神道碑

一帖 正祖撰 搨本

圖書番號 二三七三、三七五七

正祖甲寅、李舜臣に領議政を加贈し、忠清南道牙山の墓に神道碑を建つ、文は正祖の撰に係る。

○金漢佑神道碑

一帖 徐文重撰 李靚書 竝篆 拓本

圖書番號 一〇三三

金漢佑の神道碑にして、徐文重文を撰し、花春君李靚之を書し、並に篆し、肅宗壬午に鐫立したるものなり、漢佑は宣祖の後宮仁嬪金氏の父なり、金氏元宗を誕す、元宗追崇の後、漢佑に領議政を贈る、墓は京畿道開城郡龍首山に在り。

徐文重字は道潤、夢漁と號す、大丘の人、晚沙景雨の

孫なり仁祖甲戌に生れ孝宗丁酉司馬に中り蔭補を以て牧使を授けられ肅宗庚申文科に魁し官領議政に至り己丑に歿す諡を恭肅と云ふ著す所朝野記聞及將兵説あり世に行はる

李觀字は汝涵、宣祖の曾孫にして仁城君珙の孫なり仁祖己丑に生れ花春君に封せられ肅宗辛卯に歿す

○李文馨墓碣

一帖 洪爽周撰 金魯敬書 揚本

圖書番號 一〇二二

宣祖の時の吏判拙翁李文馨の墓碣にして洪爽周文を撰し金魯敬之を書したるものなり墓は京畿道開城郡豊徳に在り

金魯敬字は可一、酉堂と號す慶州の人判書頤柱の子なり英祖丙戌に生れ純祖乙丑文科に登り弘文提學を歴て官吏判に至り憲宗丁酉に歿す

○洪受濟墓碣

一帖 徐宗泰撰 洪禹宣書 揚本

圖書番號 一〇二四

洪受濟の墓碣にして撰文は晚靜徐宗泰書は受濟の子禹宣なり受濟字は方叔南陽の人海峰命元の

孫なり仁祖丁丑に生れ顯宗己酉進士に中り官正郎に至り肅宗丁丑に歿す墓は忠清北道忠州郡に在り立碑は景宗四年甲辰にして李晩成碑面の大字と權致中墓碑の揚本とを附せり

徐宗泰字は魯望、晚靜堂と號す大邱の人文尙の子なり孝宗壬辰に生れ肅宗乙卯生員となり庚申登科し文衡を典り官領議政に至り己亥に歿す諡して文孝と云ふ

洪禹宣字は仲徳、南陽の人海峰命元の曾孫なり顯宗丙午に生れ肅宗の時蔭仕を以て監役を授けらる英祖丁未に歿す

○金柱臣神道碑

一帖 朴宗薰撰 金履喬書 揚本

圖書番號 一〇二七、一〇二八

慶恩府院君金柱臣の神道碑なり撰文は朴宗薰書は金履喬篆額は金祖淳にして墓は京畿道高陽郡大慈山に在り鐫豎は純祖二十六年丙戌の年なり金柱臣字は履卿壽谷又は洗心齋と號す慶州の人顯宗辛丑に生れ肅宗丙子生員となり官領敦寧府

事に至り景宗辛丑に歿す諡して孝簡と云ふ

朴宗薰字は舜歌、荳溪と號す潘南の人西溪世堂の後なり純祖壬戌進士を以て文科に登り文任を経て官左議政に至り憲宗辛丑に歿す諡して文貞と云ふ

金履喬字は公世、竹里と號す昔泉時榮の孫にして英祖甲申に生れ正祖己酉文科に登り文衡を歴て官右相に至り純祖壬辰に歿す諡を文貞と云ふ

○趙尙綱墓表

一帖 趙暎撰 搨本

圖書番號 一〇一四六

趙尙綱の墓表なり尙綱字は子章、鶴塘と號す豐壤の人都正道輔の子にして肅宗辛酉に生れ戊子進士に中り庚寅文科に登り銓郎を歴て官吏判に至り英祖丙寅に歿す墓は京畿道楊州郡に在り表文は其の子暎の撰書したるものなり

趙暎字は光瑞、肅宗丙申に生れ英祖庚申文科に登り官吏判に至り庚戌に歿す特に領中樞府事を贈らる

○金履元神道碑

一帖 李立錫撰 搨本

李匡師書並篆

史部

圖書番號 一三二八三

兵曹判書金履元の神道碑にして游齋李立錫之を撰し圓嶠李匡師之を書し並に篆し英祖壬申之を刻堅す金履元字は守伯、善山の人縣令弘遇の子なり明宗八年癸丑に生れ宣祖十六年癸未文科に登り官兵曹判書に至る光海君六年甲寅に歿し墓は京畿道楊平郡陽白山に在り

李匡師字は道甫、圓嶠と號す角里真徳の子にして肅宗乙酉に生れ正祖丁酉に歿せり文章名筆一世の鉅匠を以て推重す家禍に因り一生を不遇にて終れり

○尹趾仁神道碑

一帖 李宗城撰 搨本

李匡師書曹命篆

圖書番號 一〇二二五

楊江尹趾仁の神道碑文なり梧川李宗城之を撰し圓嶠李匡師之を書し澹雲曹命篆額を書す墓は京畿道陽城に在り建碑は英祖癸亥の年なり尹趾仁字は幼麟、號は楊江坡平の人判書絳の子なり孝宗丙申に生れ甲戌文科に登り官兵曹判書に至り

三三三

肅宗戊戌に歿す

李宗城字は子固梧川と號す慶州の人鷺谷台佐の子なり肅宗の時進士に中り三代に歷仕して官吏曹判書及右相を経て領議政に至れり初諡は孝剛後文忠と改む歿する年六十八

曹命教字は彝甫淡雲と號す晦谷漢英の曾孫にして肅宗丁卯に生る己亥文科に登り翰林より提學を歴て官吏叅に至り英祖癸酉に歿す

○尹志淳墓表 一帖

尹淳撰並書 搨本

圖書番號 一〇二六〇

進士尹志淳の墓表に白下尹淳か陰記を撰書したるものなり尹志淳字は和甫漆原の人正郎叙績の子にして崔明谷の門人なり顯宗丙午に生れ肅宗己巳司馬に中り庚午に歿せり英祖戊午表を立つ墓は京畿道楊州郡に在り

尹淳字は仲和白下と號す肅宗庚午に生れ英祖辛酉に歿す李圓嶠の師にして善書を以て聞へたり

○趙鎮寬墓表 一帖

趙寅永撰 搨本
趙萬永書

圖書番號 一〇二一九

趙鎮寬の墓表にして季男寅永文を撰じ長男萬永之を書し憲宗庚子に豎立す趙鎮寬字は裕叔柯打と號す豐壤の人永湖曠の子なり英祖己未に生れ聰悟異凡五歲能く句を作る儼として成人の如し長するに及び宋閒靜堂に就いて學ひ壬午生員進士兩試に中り侍直を拜して癸未賢良科に登り官吏曹判書に到る純祖戊辰耆社に入り其の年を以て歿す諡して孝文と云ふ墓は京畿道永平郡に在り

○李台佐墓誌 一帖

李宗城撰 搨本
李匡師書

圖書番號 一〇二六一

鷺谷李台佐の墓誌の拓本にして墓は京畿道開城郡豐徳に在り台佐字は國彦鷺谷は其の號なり龜川世弼の子にして顯宗庚子に生れ肅宗乙卯文科に登り翰林より銓郎を歴て官左相奉賀に至り英祖己未に歿す諡を忠定と云ふ其の子領議政宗城文を撰し圓嶠李匡師之を書し英祖壬午之を刻せり

○洪樂性墓表 一帖

洪爽周撰 搨本

圖書番號 一〇一四三

正祖の時の領議政洪樂性の墓表の拓本にして碑は京畿道長湍郡に在り純祖戊辰其の孫諱周墓表陰記を撰述し墓前に鑄立す前面は谷雲金壽増の隸書を集め後面は石峰韓淺の書を集刻す洪樂性字は子安號は恒齋豊山の人判書象漢の子なり肅宗戊戌に生れ英祖甲子文科に登り官領議政に至り正祖戊午に歿し長湍九蟠山に葬る諡を孝安と云ふ

○ 朴明源神道碑

圖書番號 一〇〇七五

一冊 正祖撰 揚本

朴明源の神道碑の拓本にして碑は京畿道坡州郡に在り顔真卿の字を集め篆は李陽氷の字を集め正祖庚戌に鑄立す明源は英祖の女和平翁主に向し錦城尉に封せられ歿後忠僖と諡せらる

○ 朴準源神道碑

圖書番號 一〇二一八

一帖 純祖撰 朴宗慶書 揚本

純祖の外祖忠獻公朴準源の神道碑の拓本にして己巳に刻立す碑は京畿道驪州郡に在り

史部

朴宗慶字は汝會潘南の人忠獻公朴準源の子なり穎悟絶倫生れて七朔能く言語行歩を爲し七歳能く賦詩を爲す正祖庚戌司馬となり純祖辛酉文科に登り官弘文提學、摠戎使、兵曹判書を経て吏曹判書に至る文肅と諡す

○ 閔致祿神道碑

圖書番號 一〇二二二

一帖 金炳學撰 閔泳駿書 揚本

李太王妃閔氏の父驪城府院君致祿の神道碑の拓本にして金炳學文を撰し閔泳駿之を書し閔泳駿額を篆せり碑は忠清南道保寧郡にあり

閔泳駿字は遠卿、泉食は其の號なり吏判鍾顯の曾孫にして純祖丙戌に生れ李太王辛未文科に登り直閣より提學を歴て官吏判に至り甲申に歿せり諡を文忠と云ふ

○ 李侂愚墓表

圖書番號 一〇一五三

一帖 李應翼撰 揚本

李侂愚の墓表の拓本にして墓は忠清南道沔川郡に在り碑は李太王戊戌に立つ文は子應翼の撰に係る侂愚は監司在秀の子にして官府使に至り李

太王丁亥孝行を以て叅判を贈らる

○ 金光遂生壙銘 一帖 金光遂撰 搨本

圖書番號 一〇二八五

金光遂自撰の生壙銘にして圓橋李匡師之を書し
首に尋盟軒小記を冠せり

金光遂は尙古堂と號す商山の人樂健亭東弼の子
なり光海君の時進士を以て蔭仕に就き官牧使に
至る公卿の家より出て文學に従事し又金石鍾鼎
の學に深し自ら稱して尙古子と云ふ

○ 李裕元壽藏碑 一冊 李裕元撰 搨本

圖書番號 一〇二二三

哲宗庚申橋山李裕元か生前葬地を預定し碑を立
て文を撰し又粹溪尹定鉉游觀金興根、顯樵金炳學
心菴趙斗淳、荷屋金左根の文を列書し經山鄭元容
の撰せし可吾室銘を附刻す

李裕元字は景春、橋山は其の號なり桐泉啓朝の子
なり純祖甲戌に生れ憲宗丁酉司馬に中り辛丑文
科に登り待教副學を歴て官領相に至り李太王戊
子に歿せり諡を忠文と云ふ

○ 徐命善賜祭碑 一帖 正祖撰 搨本

圖書番號 一〇一七四

徐命善賜祭の文を刻したる碑の拓本にして碑は
京畿道長湍郡に在り正祖親ら文を撰し命善の姪
澄修之を碑に刻し墓前に立て陰記を附す女壻李
晚秀の書なり命善字は繼仲大丘の人判書宗玉の
子なり英祖乙巳に生れ文科に中り官領議政に至
り正祖辛亥に歿す諡を忠憲と云ふ

李晚秀字は成仲、履翁と號し一に履園と稱す延安
の人左議政福源の子なり英祖壬申に生れ正祖癸
卯司馬に中り蔭官に補せられ己酉文科に登り文
衡を典り官輔國判敦寧府事に至り純祖庚辰に歿
す諡を文獻と云ふ文學に優長し尤も館閣四六文
に工にして當時應製の文字は其の手に出づるも
の多し

○ 五倫山觀寂寺碑 一幅 搨本

圖書番號 一一九四五

五倫山觀寂寺の碑にして肅宗十八年壬申に豎つ

○ 神興寺碑 一帖 趙肅撰 搨本

趙肅撰 搨本

圖書番號 一〇二三九

江原道襄陽郡雪嶽山神興寺事蹟碑の拓本にして碑は英祖甲申に立つ趙暎文を撰し金相肅之を書し英祖親ら撰碑の由來を題す

金相肅字は季潤、坯窩と號す光山の人沙溪長生の後にして判尹元澤の子なり肅宗丁酉に生れ英祖甲子進士に中り蔭仕を以て桂坊を歴て官縣令に至る

○ 廣法寺事蹟碑

一幅

李時恒撰
黃敏厚書
洪鉉輔篆

揚本

圖書番號 一二九四六

平安南道平壤大成山廣法寺勅設の事蹟碑にして英祖丁未に立つ李時恒文を撰し黃敏厚之を書し洪鉉輔篆せり

李時恒字は士常、華隱と號す遂安の人なり顯宗壬子に生れ肅宗己卯文科に登り英祖丙辰に歿す官兵佐に至れり業を約齋柳尙連の門下に受け文名一世に稱せらる

洪鉉輔字は君舉、守齋と號す金華萬容の孫にして

史部

肅宗庚申に生れ戊戌文科に登り銓郎を歴て官禮曹判書に至り英祖庚申に歿す諡を貞獻と云ふ

○ 眞鑒禪師碑

一冊 崔致遠撰並書 印本

圖書番號 一〇〇七四

全羅南道知異山雙磎寺に在る眞鑒禪師碑の木板印本にして崔致遠文を撰し並に書し篆額亦同人の筆なり禪師法號は慧昭俗姓は崔全州金馬の人昌元の子なり新羅哀莊王甲申貢使に隨ひ唐に入り滄洲の神鑒大師より戒を受け興德王庚戌歸國し知異山雙磎寺に住す閔哀王號を慧昭と賜ひ皇龍寺に貫籍し文聖王庚午坐化す獻康王眞鑒と諡し定康王丁未碑を立つ後八百三十九年朝鮮英祖元年乙巳に至り石爛字缺せしを以て更に木板に移刻し以て傳ふ

崔致遠字は海夫、孤雲と號す新羅憲康王の時の人なり年十二商船に隨ひ唐に入り十八歳進士に擧げられ官都統巡官承務郎侍御史内供奉賜紫金魚袋に至る二十八歳命に依り歸國し兵部侍郎に除

せらる唐に在る時黃巢檄一編を草し文名を天下に馳す東歸の後文學を唱道し朝鮮始めて聖賢道統の曙光を見るを得たりと云ふ高麗顯宗の時文昌侯を贈られ後又文廟に従祀せらる其の墳墓忠清南道鴻山郡に在り

○翠雲堂碑

一帖 鄭斗卿撰 尹舜舉書 搨本

圖書番號 一〇二四〇

江原道鐵原郡寶蓋山深源寺に在る翠雲禪師の塔碑なり禪師姓は孫名は學璘江華の人なり宣祖乙亥に生れ十五歳にして出家し西山青蓮の衣鉢を傳へ孝宗庚寅に寂す僧臘六十三なり弟子法慧六行雪玄等碑を立つ文は鄭斗卿撰し尹舜舉之を書す

鄭斗卿字は君平、東溟と號す溫陽の人叢杜堂之升の孫なり宣祖丁酉に生る當時詩人輩出し斗卿亦早歳にして藻譽あり北渚金塗儻相となるや白衣を以て從事となる仁祖己巳登科し官禮曹參判弘文館提學に至り顯宗癸丑に歿す顯宗嘗て斗卿賦する所の域中王亦大天下佛爲尊の句を讀み曰く

斗卿此を以て終に大提學となるを得す豈に冤ならすやと特に文衡を贈る

尹舜舉字は魯直、童土と號す坡平の人八松煌の子なり出てて雪峯燧の後を繼く宣祖辛丑に生れ仁祖癸酉生員及進士に中り顯宗の初遺逸を以て薦められ掌令に歿す幼時睡隱姜沆に従學し禮を沙溪金長生に學ひて踐履愈篤し仁祖丁丑下城の後舉業を廢し郷里に歸りて道義を講論す屢徵命ありしも起たす兄石湖文學、弟魯西宣舉と與に道德節義を以て士林に景仰せらる

○明將翰札

一冊 搨本

圖書番號 一〇二八一

宣祖二十五年壬辰の役明將李如松等か朝鮮僧將西山大師休靜に致したる書札にして平安北道寧邊郡妙香山普賢寺に藏置せしを正祖十六年壬子平安監司洪良浩か石刻拓本したるものなり

傳記類

○箕子志

五卷一冊 印本

圖書番號 九四二九

箕子の實記にして初め尹斗壽之を撰し後李珥箕子實記を撰せしか光海君の時平壤人士等之を合編し更に他人の述作を添附し以て一冊と爲す本書是なり

○箕子志

九卷三冊 鄭璘基等編 印本

圖書番號

四七一六、四七三六

宣祖の時領相尹斗壽著す所の箕子志二卷あり李太王十六年鄭璘基等其の缺略を補はむと欲し廣く經史を涉し諸家の記述に就きて其の精要を取り以て編纂印行したるものにして洪範、傳錄、祀典、致祭文、御製、賦、詩、辭、操、歌、贊、論、說、語、序、記、及、碑、文、跋、等を列記し卷首に肖像、附、贊、手、筆、事、蹟、圖、詞、哀、圖、譜系圖世系序を載せり

○箕子外記

三卷一冊 徐命膺編 印本

圖書番號

五〇五、二二二三、一一五三〇

全編を上中下の三卷に分ち上編には敘述、篇章、制度、出處等中編には道學下編には論說、廟享、事蹟、歌詠等を次叙し其の間井田圖、洛書爲井田淵原圖、八陣爲井田對位圖其の他洛書諸圖等を附記し箕子

史部

東遷以來の事蹟を考證したるものなり

○列聖誌狀通紀

二二卷一四冊 印本

圖書番號

自三三八至三三九一

太祖以上四世穆祖、翼祖、度祖、桓祖より英祖、元妃貞聖王后に至る各代の行録、行狀、誌文、神道碑銘、表石、陰記、竹冊文、玉冊文、哀冊文、諡冊文、樂章、祭文、禪位教書、敎命文、頒敎文等を蒐輯編次したるものなり初め肅宗十四年戊辰穆祖より元宗に至る五卷及補遺一卷を編刊し後東平尉鄭載崙私に仁祖以下列朝諸文を哀輯し舊本と併せて十冊と爲せり肅宗魚有龜、洪啓廸等をして之を校し編して二十卷十冊と爲し再刊せしむ英祖三十四年戊寅更に英祖元妃貞聖王后に至るまでを増修刊行せしもの即ち現本なり

○長陵誌狀

一冊 印本

圖書番號

一八一

仁祖の行狀、誌文、諡冊文、哀冊文を蒐集したるものにして行狀は左相李景奭誌文は大提學趙綱諡冊文は大司憲趙翼哀冊文は藝文提學金光煜撰進す

三一九

李景奭字は尙輔、白軒と號す、全州の人、愚谷惟侃の子なり、宣祖乙未に生れ、光海君癸丑進士に中り、仁祖癸亥文科に登り、選はれて湖堂に入り、文衡を典り、官領議政に至り、顯宗辛亥に歿す、文忠と諡す

趙綱字は日章、龍洲又柱峯と號す、漢陽の人なり、宣祖丙戌に生る、仁祖丙寅に登科し、文衡を典り、官判中樞府事に至り、清白吏に選せられ、諡して文簡と云ふ、釋褐前既に士望あり、李爾瞻之と結はんとして斥絶せらる、仁祖丙子斥和十臣中の一なり、金光煜字は晦而、竹所と號す、休菴尙黨の子なり、宣祖庚辰に生れ、丙午文科に登り、翰林提學を歴て、官叅贊に至り、孝宗丙申に歿す

○ 寧陵誌狀

一冊

印本

圖書番號 一八〇八

孝宗の行狀、諡冊文及哀冊文を合編したるものなり、行狀は李景奭諡冊文は趙綱哀冊文は李一相撰せり

李一相字は咸卿、青湖と號す、明漢の子なり、仁祖戊

辰登科し、官禮曹判書に至り、文衡を典る、文肅と諡す

○ 崇陵誌狀

一冊

印本

圖書番號 三二四四

顯宗の行狀、哀冊文、諡冊文、陵誌等を合編したるものなり、行狀は南九萬、哀冊文は李殷相、諡冊文は姜栢年、誌文は金錫胄撰す

南九萬字は雲路、藥泉と號す、宜寧の人、縣令一星の子なり、仁祖己巳に生れ、孝宗辛卯進士に中り、丙申文科に登り、文衡を典り、官領議政に至り、肅宗辛卯に歿す、文忠と諡し、肅宗廟庭に配食す、文章經術と謙言偉業とを以て、朝鮮名相と稱せらる、肅宗己巳閔妃を廢し、張嬪を以て妃に陞したる時、遠竄を被り、甲戌閔妃の位を復するに及ひ、復た入りて首相となる

李殷相字は説卿、東里と號す、延安の人にして、玄洲昭漢の子、月沙廷龜の孫なり、青湖一相、靜觀齋端相等と從兄弟たり、光海君丁巳に生れ、孝宗辛卯に登

科し湖堂に入り其の七年重試に中り刑曹判書を歴て肅宗戊午に歿す諡して文良と云ふ

姜柏年字は叔久、號は雪峯、晋州の人、竹窓籀の子なり、宣祖癸卯に生れ、仁祖丁卯文科に登り、文任を経て、官判中樞府事に至り、肅宗辛酉に歿す、領議政を特贈せられ、諡を文貞と云ふ

金錫胄字は斯百、息庵と號す、清風の人にして、潛谷増の孫、歸溪佐明の子なり、仁祖甲戌に生れ、孝宗丁酉進士、壯元に顯、宗壬寅文科、壯元に捷ち、肅宗庚申許翼、許瑛等の陰謀を密啓したる功に依り、保社功臣に録せられ、封を清城府院君に受け、文衡を典り、右議政に至る、諡して文忠と云ふ

○ 懿陵誌狀

一冊

印本

圖書番號 一一五七一

景宗の行狀、誌文、哀冊文、諡冊文を合篇したるものなり、行狀は李德壽、誌文は柳鳳輝、哀冊文は李師尙、諡冊文は趙泰億の撰なり、英祖の時に印刊す

柳鳳輝字は季昌、晚菴と號す、約齋尙運の子なり、孝宗己亥に生れ、肅宗己卯文科に登り、銓郎、提學を歴

史部

て官左相に至り、英祖丁未に歿せり

李師尙字は聖望、全州の人都、承旨夏の子なり、孝宗丙申に生れ、肅宗己巳文科に登り、舍人、提學等を歴て、官行大憲に至り、英祖乙巳に歿す

趙泰億字は大年、號は謙齋、楊州の人、苔村嘉錫の子なり、肅宗の乙卯に生れ、壬午文科に登り、翰林吏郎と文衡を歴て、官左相に至り、英祖戊申に歿し、文忠と諡す

○ 元陵誌狀續編

一冊

印本

圖書番號 一九三八、三五〇六、三七六二、七七五二、七七

五三

英祖昇遐後、誌狀を編し、純祖五年乙丑、英祖貞純王后昇遐後、續編を纂す、上尊號玉冊文、封王妃教命文、樂章、諡冊文、哀冊文、祭文及表石陰記等を合編し、活字を以て印出せり

○ 健陵誌狀

一冊

印本

圖書番號 一〇〇八一

正祖健陵の誌文、行狀等を集めたるものにして、行狀は李晚秀撰し、誌文は尹行恁の撰なり

三二一

○ 健陵誌狀續編

一冊

印本

圖書番號 三七八一、三八九一、七七五四、七七五五

正祖庚申に昇遐し隆陵東岡に葬る純祖辛巳正祖妃金氏亦昇遐し隆陵の右麓に葬り後正祖の陵に遷して合祔し誌狀を撰して之を録す初葬の時の誌狀を原編とし此を續編と稱す誌文は沈象奎撰し金氏の行狀は金履喬撰し誌文は金祖純撰す教命文、竹冊文、玉冊文、諡冊文、哀冊文、樂章、祭文等を附し活字を以て印出す

沈象奎字は穉教號は斗室青松の人叅判念祖の子なり英祖丙戌に生れ正祖己酉文科に登り文衡を典り官領議政に至り憲宗戊戌に歿し諡を文肅と云ふ

○ 仁陵誌狀

一冊

印本

圖書番號 一九六三、二〇七二、三五〇五、三七七八、七

七五六

仁陵は純祖の陵なり其の誌文、行狀等を集め仁陵誌狀と名く收むる所行録、行狀、誌文、教命文、竹冊文、玉冊文、樂章、諡冊文、哀冊文、定世室告由祝文、表石、

記等あり

○ 綏陵誌狀

一冊

印本

圖書番號 二〇七一、二〇九九、三五一七、三七八四、七

七五七

文祖行狀、綏陵誌文、教命文、竹冊文、諡冊文、哀冊文、玉冊文、嬪宮親祭文、表石、陰記を合編したるものなり文祖の初諡は孝明世子其の墓號は延慶墓なりしか憲宗の時翼宗大王綏陵と追崇し李太王の時文祖翼皇帝と追崇せり

○ 景陵誌狀

一冊

印本

圖書番號 二〇九八、三一七五、三五一九、三七八三、七

七五八

憲宗及孝顯后金氏の誌狀なり憲宗は己酉に昇遐し其の行狀は權敦仁撰し誌文は尹定鉉撰し后金氏は憲宗癸卯に昇遐し行狀は趙寅永撰し誌文は金蘭淳撰す附するに行録、教命文、竹冊文、玉冊文、諡冊文、哀冊文、祭文及陰記等を以てし哲宗即位の初年活字を以て印出せり
權敦仁字は景義號は彝齋安東の人にして遂菴尙

夏の後なり正祖癸卯に生れ純祖癸酉文科に登り
文任を歴て官領議政に至り哲宗の己未に歿す
金蘭淳字は士猗號は碧谷安東の人竹醉謙の孫な
り正祖五年辛丑に生れ純祖四年甲子進士に中り
十三年癸酉文科に及第し翰林副學官を歴て吏曹
參判に至り憲宗十五年己酉に歿す諡を孝文と云
ふ

○ 睿陵誌狀

一冊

印本

圖書番號

一九五〇、一九七二、三五二六、三七八五、七

七五九

哲宗の誌狀にして哲宗の行實議政府左議政趙斗
淳の哲宗行錄、行狀、吏曹判書金炳學の睿陵誌文、判
中樞府事趙斗淳の上尊號玉冊文、工曹判書金炳國
の樂章、知中樞府事尹致義の諡冊文、議政府左參贊
李敦榮の哀冊文等を輯録せり
金炳國字は景用、顯漁と號す、顯樵炳學の弟にして
乙酉に生れ哲宗庚戌文科に登り待教より訓將、六
曹判書を歴て官領相に至り李太王甲辰に歿す諡
して忠文と云ふ

史部

李敦榮字は允若、莘憇と號す、桐漁相璜の從子なり
純祖辛酉に生れ丁亥文科に登り提學と六曹判書
を歴て官判中樞に至り李太王甲申に歿す諡を文
貞と云ふ

○ 三陵誌狀續編

一冊

印本

圖書番號

一九四八、一九七三、二〇五六、二一六五、三

八〇三、七七六〇

純祖仁陵、翼宗綏陵、憲宗景陵三陵の誌狀を集めたるものなり、純祖遷陵誌文、哲宗親祭文、玉冊文、樂章、表石陰記、純元王后、純祖王妃、行錄、行狀、誌文、敕命文、玉冊文、樂章、諡冊文、哀冊文、哲宗親祭文、玉冊文、樂章、表石陰記、憲宗玉冊文、樂章、告由祝文、孝顯王后、憲宗王妃、玉冊文、樂章等を收む

○ 兩陵誌狀續編

一冊

印本

圖書番號

二〇九七、三五二八、三七六八、七七六一、七

七六二

純宗、後に純祖追上尊號玉冊文及樂章と翼宗、後に文祖遷陵の時の誌文、哀冊文、親祭文、表石陰記、追上尊號玉冊文及樂章等にして親祭文は憲宗の撰其

三二三

の他は鄭元容等の選進せしものなり哲宗の初年内閣に命し活字を以て印出せり

○世子行蹟

一冊

寫本

圖書番號 一八五八、二三五六、二三七一

昭顯孝章兩世子の墓誌なり昭顯世子諱は淫仁祖の元子にして光海君壬子に誕生し仁祖乙丑王世子に冊封せらる丁丑清國に質となり乙酉に還國し其の年薨逝せり諡を昭顯と云ふ墓誌は李植之の撰なり孝章世子諱は緯字は聖敬英祖の元子にして肅宗己亥に誕生し英祖己巳に王世子に冊封し戊申に薨逝す諡を孝章と云ふ後眞宗と追崇せり墓誌は英祖の撰に係る

○仁城君行録

一冊

李楹編

寫本

圖書番號 二二一、一八五九

宣祖の子仁城君瓚の行狀諡狀墓碣子海原君健の行狀諡狀墓表陰記海陽君僖の墓表陰記孫花山君滾の行狀諡狀神道碑花陵君洮の行狀諡狀神道碑等を編輯し且其の曾孫たる編者の墓表陰記を同編す

李楹字は文卿退休堂と號す花陵君洮の子なり肅宗辛未に生れ宗室を以て綾昌君に封せらる

○宗班行蹟

五卷二冊

寫本

圖書番號 一八六五

宗班の行蹟を記載したるものにして歴代の世子大君王子王孫の碑碣表誌遺事等を収録し附録二卷には嬪及公主翁主の行蹟を記載し麟平大君に止む

○宗班行蹟補

四卷四冊

寫本

圖書番號 一八五七、二三七〇、三三七二

宗班の行蹟を補續したるものにして礪城君楫に止む

○高麗名臣傳

一二卷六冊 南公轍著 印本

圖書番號 一六七三

高麗の諸臣洪濤等二百四十四人道學鄭夢周一人死節河拱辰等七人死事申崇謙等六人孝子文忠等十七人烈女俞氏等十二人逸民南乙珍等二十五人の行事實蹟及大學生武臣判事等の傳ふべきものを録せり純祖壬午書成り活字を以て印行す

南公轍字は元平、金陵又穎翁と號す宜寧の人雷淵有容の子にして壺谷龍翼の玄孫なり英祖庚辰に生れ正祖壬子文科に登り直閣を経て吏曹判書大提學に至り純祖辛巳右相を経て領議政となり憲宗庚子に歿す諡して文憲と云ふ

○ 國朝名臣錄

一七冊 金堉編 寫本

圖書番號 三六九二

朝鮮開國以來の名臣の事蹟を編纂したるものにして第一冊は道學第二冊より第十二冊までは事業第十三冊より第十七冊までは忠節とし類を分ちて之を録せり

○ 國朝名臣言行錄

五一卷三二冊 寫本

宋徵殷編

圖書番號 五七四三

太祖より孝宗に至る名臣の言行錄にして前集、後集、外集、別集、續集等に分てり

○ 國朝名臣錄

六三卷三〇冊 李存中編 寫本

圖書番號 五七二一

朝鮮開國以來の名臣の小傳及事蹟、言行等を記載

史部

したるものなり前集十四卷別集十一卷外集十六卷續集一卷後集二十一卷とし國初より仁祖の時まで年代世次に従ひて編纂せり

李存中字は敬以、荷堂と號す全州の人領相鹿川濡の孫なり肅宗癸未に生れ英祖庚午陝川郡守より文科に登り文衡園を被り官大司諫に至る辛巳に歿す清德文名を以て一世の推仰する所なるも權臣を論劾したるため顯達に至らず

○ 名臣錄

一二卷一二冊 寫本

圖書番號 一六九〇

正祖か抄啓文臣に命し編次せしめたるものにして朝鮮に於ける名臣の略傳なり全部四百餘名五十四篇と爲し又前後、外、別、續集の五類に分ち前集は十二篇趙浚より張弼武に至る百五十一名後集は十八篇白仁傑より金堉に至る八十五名外集は十三篇金宏弼より成渾に至る五十三名別集は十篇にして金宗瑞より吳達濟に至る百五名續集は一篇崔德之より安邦俊に至る十三名此等の諸名臣に就き姓名、字號、出生地、試科、閱歷、賜號、祭祀、事

三二五

蹟、行狀等を附記せり

○名臣誌狀輯略

一六冊

寫本

圖書番號 七〇四〇

朝鮮開國より英祖の時に至る名臣の誌狀を輯録したるものにして續輯六卷は原輯十卷中に漏れたるものを追録せり

○海東名將傳

六卷三冊

洪良浩著

印本

圖書番號

三六一七、四一七六、四一八四、四三一四、四三

五、四七六三、四七九七、六六一〇

新羅、高勾麗、百濟、高麗及朝鮮仁祖の時に至る最も傑出したる名將の傳を編したるものにして第一卷新羅に於ては金度信、張保臯、沈那高、勾麗に於ては扶芬奴、乙支文德、安市城主百濟に於ては黑齒常之、高麗に於ては庚黔弼、姜邯瓚、楊規、尹瓘を挙げ第二卷は吳延寵、金富軾、趙冲、金就礪、朴犀、金慶孫、李于晟第三卷は金方慶、韓希愈、元冲甲、安祐、鄭世雲、安遇慶、鄭地第四卷は高麗の崔瑩、朝鮮の李之蘭、崔潤德、李從生、魚有沼、李舜臣、權慄第五卷は郭再祐、鄭文孚、黃進、休靜、鄭起龍、金時敏第六卷は李廷範、林仲燮、金

德齡、鄭忠信、金應河、林慶業、鄭鳳壽、柳琳等なり

○海東高僧傳

二卷一冊

高麗高宗命撰

寫本

圖書番號 五一六七

高麗高宗二年乙亥京北五冠山靈通寺住持釋覺訓に命し撰述せしめたるものにして高勾麗、新羅に佛教を弘布せし順道以下立大梵等數十人の傳記を載せり

高宗は高麗第二十三代の王にして諱は暉、字は天祐、康宗の子なり、明宗二十二年壬子に生れ、甲戌即位し、己未昇遐す、在位四十六年、春秋六十八、江華弘陵に葬る。釋覺訓は族姓名ならず、別名を覺月と稱す、高麗高宗の時の人、華嚴宗の師にして法門の棟樑たり、文章を善くし、又奇行あり、李奎報と交はる、生歿年月は詳ならず

○崧陽耆舊傳

五卷一冊

金澤榮著

印本

圖書番號 四一五六

麗末諸忠臣の逸事及朝鮮國初より李太王の時に至る開城諸名士の事實を編纂したるものにして

豊基郡守金信榮見て之を悦ひ光武七年印刷に付したるものなり其の内容は首編に於て鄭夢周以下崔清に至る數十人の逸事及崧陽耆舊の名を載せ附録として崧陽雜事を收む

○ 國朝人物考

七四卷七四冊

寫本

圖書番號 一二四七一

朝鮮國初より肅宗に至る歷代人物の傳記にして原考、六十六卷續考八卷あり相臣、國戚、儒學、鄉宰、名流、文官、武弁、休逸、蔭仕、士子、莊光立節、燕山罹禍、巳卯黨籍、乙巳罹禍、牛栗泛遊、倭難立節、倭難征討、光海立節、光海罹禍、癸亥舉義、甲子死節、虜難立節、征討、甲寅以後罹禍立節等二十三目に分ち續考は其の遺漏を補へり

○ 人物考

二六卷二六冊

寫本

圖書番號 四一九六

正祖か抄啓文臣等に命し國初より肅宗に至る間の名人の略歴を編述せしめたるものにして原稿二十三卷續稿二卷總目一冊とし先づ本人の生歿科甲、官歴等を表示し次に碑狀中言行に關する句

史部

語を節録せり

○ 嶺南人物考

一〇卷一〇冊

蔡弘遠編 寫本

圖書番號 一七四一

言行録及墓碑碣銘等に就き慶尙道出身者の事歴を採集したるものにして正祖の命に依り蔡弘遠等之を編次し四百五十餘名の多きに達せり蔡弘遠字は邇叔、平康の人、夔巖濟恭の系子なり英祖壬午に生れ正祖壬子文科に登り官叅判に至る

○ 明陪臣考

四卷二冊

黃景源著 寫本

圖書番號 四七九八

仁祖丁卯以後明のために忠節を盡したる者二十九人の列傳を叙し又八人を附し尊周の義を稱したるものにして後に陪臣傳と改稱せり全文載せて江漢集に在り

黃景源字は大卿江漢と號す長水の人郡守處信の孫なり肅宗己丑に生れ英祖庚申蔭直長を以て文科に登り史局に入り文衡を典り官吏曹判書に至り正祖丁未に歿す諡を文景と云ふ文章當時に雄

三三七

たり

○安氏列賢傳

一冊 車知玉撰 印本

圖書番號 五三六八

忠原伯安置器及安翰の事蹟を撰述したるものなり共に高麗の人にして撰者は翰の門人なり末尾に定宗の祭文を附す

○三學士傳

一冊 宋時烈撰 寫本

圖書番號 五七九一

洪翼漢、吳達濟及尹集の傳記なり仁祖十四年丁丑清兵京城に侵入し仁祖難を南漢山に避くるに當り三學士斥和論を主張し清の諭慰に服せずして禍を被れり洪翼漢字は伯升、花浦と號す、南陽の人なり、吳達濟字は季輝、秋潭は其の號、海州の人なり、尹集字は成伯、號は林溪、南原の人なり、附録に明帝の勅諭、尤菴墓誌、王世孫上疏及正祖の祭文等を載す

○金將軍傳

一冊 朴希賢撰 印本

圖書番號 二〇一〇

金應河の傳記なり應河は鐵原の人にして早く枯

特を失ひ射獵を以て事と爲す、朴承宗の薦を蒙り武職より宣川郡守を歴たり己未の年都元帥姜弘立に隨ひ虜地に入り力戰して歿す、仍て褒録贈職建祠立碑以て其の忠を表す、尾に後叙挽詞祭文を録す

朴希賢は密陽の人にして官吏文學官に至る文名あり

○崔烈士傳

一冊 曹允大編 寫本

圖書番號 四一六〇

光海君戊午明に薙州の虜亂あり兵を朝鮮に徵す時に崔永元なる者金將軍應河に隨ひ深河に前往し金將軍と共に戰亡す即ち己未の春なり永元字は忠甫、浮翁と號す、海州の人にして宣祖戊寅に生れ死時年四十二なり、純祖己未判書曹允大爲に傳を作る、申獻朝、洪爽周等の跋あり

○樹烈千秋傳

二卷二冊 崔重湜編 印本

曹允大字は士元、號は東浦、昌寧の人、西州夏望の孫なり、正祖己亥文科に登り文任を経て官吏曹判書に至り純祖壬申に歿す

圖書番號 七五七

崔孝一の傳記なり初め黃景源撰する所の本傳あり英祖之に樹烈千秋傳の名を與へ憲宗九年其の遠孫崔重湜孝一の誓文祭文狀啓及褒揚事實を増補し猶ほ舊名を附して刊行し哲宗辛酉崔亨烈重刊す崔孝一字は元讓義州の人十七歳武科に及第し明末清初朝鮮の去就決定せざるの際に於て林慶業と與に堅く義を取りて動かす明の毅宗崩するに及び梓宮に痛哭すること七日餓死以て其の志を表せり其の一族亦關西辛巳の亂に殉死す肅宗乙未特に戸曹叅判を贈る

○柳淵傳

一冊 李恒福編 印本

圖書番號 五八六八

大丘の士族柳淵明宗甲子殺兄の誣獄を以て冤死す十六年己丑其の妻李氏獄案を翻へし夫の冤罪たることを明にせり宣祖丁未白沙李恒福之が傳を作り其の前後の事實を詳にす

史部

○角干實紀

三卷二冊

印本

圖書番號 五八七七

新羅大角干金庾信の事歴を録せるものなり庾信は金海の人舒玄の子にして駕洛太王十二世の孫なり新羅眞平王乙卯に生れ出ては將入りては相として百濟高句麗の二國を統合す其の豐功偉烈新羅第一と稱せらる官大角干に至り文武王癸酉の年に歿し後興武王と追尊せらる

○太師權公實紀

六卷三冊 權重顯編 印本

圖書番號 三六五八

高麗太師權幸の事蹟を記したるものなり第一卷は事業考第二卷は墓道考第三四卷は廟祠考附爭辨槩畧第五六卷は子孫考等にして卷尾に補遺を附す李太王己酉三十一代の孫重顯之を編成刊行す權幸は安東の人本姓は金氏高麗太祖を助け功ありしを以て姓を權と賜ひ官三韓壁上三重大臣亞父功臣太師に至れり

○晦軒實記

二卷一冊 安克權編 寫本

圖書番號 六八八二

三二九

安裕の詩文若干を集め附するに遺像、墓山圖及附録各篇を編蒐す。裕は順興の人にして晦軒と號す。高麗高宗癸卯に生れ、元宗庚申文科に登り、翰林集賢殿大學士を経て官都僉議中贊に至り、忠烈王丙午に歿す。諡を文成と云ひ、文廟に従享す。麗末儒學頹廢し、竺教旺盛の時に方り蹶起して斯道を倡明し、學を興し、才を育するを以て己か任と爲し、東方理學の宗師たり。英祖甲申、其の後孫克權編成刊行し、純祖丙子再刊し、李太王の甲申三刊せり。

○ 三憂堂實記 六卷三冊 文載豹等編 印本

圖書番號 五一九〇

江城君文益漸の實記なり。益漸字は日新、三憂堂と號す。江城の人にして高麗恭愍王庚子文科に登り、癸卯使して元に赴き、侍郎に拜せられ、丙午歸還し、官右文提學に至る。太祖の登極に及び、門を杜きて出てす。元より還りし時、木縣の種子を齎し、播藝す。朝鮮に木縣の蕃殖せしは、蓋し此より始めりと云ふ。第一卷は自著の詩文、第二卷より第五卷は諸家の說、第六卷は世系年譜なり。李太王

庚子後孫載豹等之を蒐輯刊出す

○ 柳氏六賢實紀 六卷二冊 柳汀植等編 印本

圖書番號 一一九八四

文化柳氏の經術、孝行を以て著名なりし六家、即ち柳璣、柳孟、智、柳鐵柱、柳世溫、柳晦根、柳敷の實記を蒐輯したるものにして、卷首に六家の世系圖を冠し、五賢院祠錄を卷末に附せり。柳璣字は欽甫、南亭と號す。高麗恭愍王庚戌に生れ、從兄夏亭寬に従學し、朝鮮太祖丙子遺逸を以て薦められ、南臺掌令を拜せしも、仕へず。世宗辛丑に歿す。住地草溪郡に栢山書院を創建して、享祀す。孟智字は明淑、法聖亭と號す。南亭璣の子なり。太宗甲申に生れ、先蔭を以て入仕し、官縣監に至り、端宗癸酉に歿す。栢山書院に従享す。鐵柱字は完國、嶺亭と號す。法聖亭孟智の曾孫なり。中宗甲午に生れ、明宗辛亥武科に登り、宣傳官を歴て、關北防禦使となり、野人を斥退せし戰功に因り、官全羅兵使に至り、宣祖辛卯に歿す。世溫字は士順、臨湖と號す。法聖亭孟智六世の孫なり。宣祖乙亥に生れ、甲午武科に登り、宣傳官を歴て、官縣監に

至り仁祖甲子に歿す栢山書院に従享す晦根字は
暉哉栢岡と號す臨湖世温の孫なり光海君壬子に
生れ肅宗丙辰に歿す數字は公遠松嶽と號す栢岡
晦根の子なり肅宗己巳に生れ英祖丁巳に歿す栢
岡松嶽の両後孫等より合力して李太王の壬寅に
刊行す

○敬齋實紀

三卷一冊 洪宅夏編 印本

圖書番號 三九三一

洪魯の實記にして卷一は遺傳卷二、三は附録なり
正祖戊申後孫宅夏之を刊行す

○杜門洞實記

三卷一冊 印本

圖書番號 四六四七

朝鮮太祖高麗に代りて國を開くや麗臣七十二人
新朝に事ふるを恥ち深く萬壽山に入りて出てす
其の洞を名けて杜門と曰ふ今開城郡に屬す而し
て七十二人の姓名傳はらず唯曹義生、林先味及名
不知孟氏の三人のみ著はる正祖命して表節祠を
立て之を祀り後成思齋、朴門壽又顯發したるも只
成思齋のみ其の祠に并享す本書は思齋の後孫其

の先思齋に關係したる文字のみを收輯したるも
のにして純祖己巳之を刊行す

○採薇軒實記

一冊 全秉佑等編 印本

圖書番號 六三〇、二二〇二

高麗末に於ける杜門洞七十二士中の一人全五倫
の實記にして李太王丙寅に後孫秉佑等蒐輯刊行
す五倫字は仲至、採薇軒と號す旌善の人平簡公杜
庵賁の子なり元至正の間に生れ恭愍王戊戌蔭仕
に入り庚子文科に居魁し翰林直學士を歴て官典
法判書に至る高麗亡ひ旌善の瑞雲山に隠れ太宗
の時に歿す性理の學に於て當時圃隱、鄭夢周の流
亞を以て稱せらる

○凝溪實紀

三卷一冊 玉世寶編 印本

圖書番號 六九一七

玉沾の實記にして後孫世寶之を編刊す沾字は待
售、凝溪と號す班城の人監務斯美の子なり定宗己
卯登科し官校理に至り清白吏に選せられ壽五十
五にして歿す冷隱吉再に師事し易理に深く著述
多し

○李文靖公實紀 四卷一冊 李得元編 印本

圖書番號 一三三五、一三三六

文靖公李隨の事歴を録せるものにして純祖二年壬戌十三世の孫得元の編に係り遺文事蹟祠墓叙述系牒を載す李隨は太宗甲午文科に及第し世宗潜邸の時師傅となり其の即位に及び擢んでられて吏曹判書藝文館大提學となり文靖と諡し世宗の廟に配食す世に傳ふ其の先は全州の人なるも李隨海西の鳳山郡に住せしを以て鳳山に籍せりと

李得元字は士春、竹齋と號す其の婿高時穆竹齋遺事を記して曰く得元委巷の人を以て外方に流落し深く世に知られず而も倜儻氣節あり孝友天に出つ詩詞清楚にして季唐の風調あり書も亦精妙なりと

○竹林實紀 二卷一冊 權致根編 印本

圖書番號 四五〇七、五二四四、五七〇五

權山海の實記にして純祖の時後孫致根之を編刊す山海は安東の人諡文靖希正の曾孫にして竹林

と號す太宗癸未に生れ世宗庚申才行を以て薦められ端宗甲戌官僉正となり乙亥端宗遜位の事あるや憤慨して官を棄つ丙子成三問等六臣端宗の復位を謀り事洩れて逮捕せらるるを聞き閣より投して自ら死す世祖仍て官爵を追奪す明宗に至り冤を伸へ正祖に及びて吏曹叅判を追贈せらる

○楸溪實記 五卷二冊 尹洛鉉編 印本

圖書番號 二〇七八

尹孝孫の實記にして憲宗丁未後孫洛鉉之を編し己酉の年刊行す卷首に圖式世系年譜を載し第一卷は孝經註釋第二卷は詩文雜著第三卷は疏狀記事第四卷及第五卷は附録にして上下編に分てり孝孫字は有慶、楸溪と號す南原の人にして翊衛處寬の子なり世宗辛亥に生れ庚午司馬に中り端宗癸酉文科に登り官參贊に至り燕山君癸亥に歿す諡して文孝と云ふ

○鄭文獻公實紀 二卷一冊 鄭述編 印本

圖書番號 一七一四

寒岡鄭述か鄭汝昌の事歴を輯録せるものなり汝

昌は世宗三十二年に生れ戊午の史獄に鍾城に竄せられ甲子死を賜ふ中宗の時特赦して文獻公と諡し文廟に従祀せらる蓋し朝鮮の名儒なり上卷は世系事實行狀遺事叙述遊頭流録話名說薦學行疏著述下卷は史禍首末褒贈祀典從祀頒教文祭文碑詩章等なり

○ 嚴戸長實紀 三卷一冊 嚴碩憲編 印本

圖書番號 一三〇三、一三〇四、一四九七

嚴興道の事蹟を輯録したるものにして收むる所事蹟記述文傳贊行狀墓誌祠院文賜祭文及附録等なり後孫之を編し純祖十七年丁丑に上刊す

○ 愚齋實紀 四卷二冊 孫綸九編 印本

圖書番號 六六五四

孫仲暉の實記にして首に世紀圖と年譜とを載せ次に詩一首疏一篇及政院日記を收め附録として祭文輓詞誌銘碣銘を編輯せり仲暉字は泰發愚齋と號す慶州の人雞川君昭の子なり世祖癸未に生れ癸卯進士に中り己酉文科に登り檢閲を歴て官吏判に至る諡を景節と云ふ

○ 唐谷實紀 二卷一冊 寫本

圖書番號 五〇四五

孫綸九は愚齋九世の孫孫星德は其の宗孫なり鄭希輔の詩文學說及事蹟を編輯したるものにして誌碣及後人の贊述門人錄等を附し李太王二十六年己丑に刊行す鄭希輔字は仲猷唐谷と號す晋州の人清溪可願の曾孫なり成宗戊申に生れ明宗丁未に歿す

○ 石軒實紀 一冊 柳埈編 印本

圖書番號 四三四八

柳沃の實記にして詩賦論策疏共八編は玄孫東淑之を聚收し諸賢叙述院享首末贈職首末は十二世の孫璣之を編次し哲宗丙辰に刊行す柳沃字は啓彦石軒と號す文化の人訓導文豹の子なり成宗丁未に生れ燕山君庚申司馬に中り中宗丁卯文科に登り官典翰に止まり己卯に歿す後吏曹參判を特贈せらる

○ 黃岡實記 五卷一冊 李選編 印本

圖書番號 六七二七

金繼輝の實記にして年譜一卷、狀誌一卷、事實一卷、遺文一卷、誄語一卷あり外、玄孫孫芝湖李選之を編成し、英祖甲寅五世の孫金鎮玉之を刊行す。金繼輝字は重晦、黃岡と號す。光山の人。左議政國光の玄孫なり。中宗丙戌に生れ、明宗己酉文科に登り、翰林を経て官參判に至り、宣祖壬午に歿す。文學淵博にして經濟の才あり。沙溪金長生は其の子なり。

○昌臺鄭公實紀

五卷一冊 鄭允燮編 印本

圖書番號 五一〇五

鄭大任の事蹟を記したるものなり。第一卷は年譜第二卷第三卷は狀誌、遺事、第四卷は書院奉安文、傳啓第五卷は諸賢紀述上言草を録す。李太王己巳後孫允燮之を編刊す。鄭大任字は重卿、號は昌臺、烏川の人。判書光厚の後なり。明宗癸丑に生れ、宣祖壬辰義を倡へ、戰功あり。甲午武科に登り、是の歲に歿し、戶曹參判を贈らる。

○梁大司馬實記

一一卷五冊

印本

圖書番號 一四九四、一四九六、一五六四、二八六二、二九

六六、三四四三

梁大樸の事歴を輯録せるものなり。梁大樸字は士真、松巖又青溪道人と號す。全羅北道南原の人。宣祖壬辰義を倡へ、家財を散して義旅を糾合し、二子及家僕を行伍に編し、當時の名士高敬命を推して盟主と爲し、各地に轉戦し、完山の陣中に死す。兵曹判書を贈り、忠壯と諡す。

○湖叟實紀

八卷二冊 鄭一鑽編 印本

圖書番號 五二二三、二四六八

鄭世雅の事歴を録せしものにして、正祖五年辛丑六世の孫鄭一鑽之を編次し、翌年七世の孫夏遊、夏洗等之を刊行す。第一卷は世系圖、第二卷は姓貫、鄉里、年譜、第三卷は遺稿、遺墨、第四卷は遺事、第五卷は事實、行狀、墓碑銘、第六卷以下は附録にして、栢巖事蹟、遺稿、遺事等第七卷は喪典、第八卷は紫陽忠賢祠事蹟及諸錄等なり。宣祖壬辰子栢巖と義を唱へ、戰功あり。後紫陽の舊隱に歸臥し、光海君壬子に歿す。年七十八。正祖の時栢巖と合祀す。

○金襄武公實記

二卷 冊 金志穆等編 印本

圖書番號 三九〇九

金大虚の實記にして八代の孫志穆等之を編輯し李太王丁卯之を刊行す大虚は宣祖壬辰義を倡へ九戰九捷したりと云ふ純祖二十七年丁亥諡して襄武を贈らる

○鄭忠壯公實紀

二卷二冊 鄭禧編 印本

圖書番號 四六四五

忠壯公鄭運の實記にして李太王丙寅八代の孫禧の編成刊行に係る鄭運字は昌辰河東の人なり宣祖壬辰李舜臣の部將となり屢戰ひて功あり

○鄭忠武公實紀

二冊 寫本

圖書番號 四七三

錦南君鄭忠信の實記にして第一冊は世系年譜及言行を録し第二冊は誌狀祭輓及褒揚の文字を蒐む宣祖壬辰に功あり累進して副元帥に至り錦南君に封せらる

○崔貞武公實紀

四卷二冊 崔慶老編 印本

圖書番號 一五七四、一六三二、一七五〇

崔震立の實記にして世系年譜遺稿狀銘日記筵教奏啓祭文等を具載す肅宗戊午玄孫慶老明川郡守

史部

たりし時之れを刊編し英祖乙未五代孫宗謙之を重刊す宣祖壬辰義を倡へ仁祖丙子節に殉す

崔慶老は慶州の人永基の子にして武科に中り官明川郡守を経て同知中樞府事に至る

○中和齋實紀

一冊 姜來鎬編 印本

圖書番號 五〇三九

姜應貞の事歴を録せるものなり附録として清溪遺事東隱遺稿等を併記す十三代の孫姜來鎬之を編纂し李太王二十三年に至り之を刊行せり應貞字は公直中和齋と號す宣祖三十五年に生れ仁祖十五年に歿す年三十六恩津に居り孝行を以て稱せらる李深源云ふ鄭汝昌姜應貞皆是れ聖賢の徒なりと李安訥云ふ中和齋は百世の師なりと以て其の人と爲りを知るへし

○思菴實紀

二卷一冊 印本

圖書番號 四五六六

花山君千萬里の實記なり卷首に畫像を掲げ次に自叙の文を録し次に逸稿を載せ尾に諸家の文字と花山の子聲軒祥發軒蔚及孫泰疇畊疇の詩を附

三三五

す憲宗丙午後孫錫奎の刊行する所なり千萬里字は遠之漢土の人にして思菴と號す嘉靖癸卯に生れ隆慶辛未武科に魁たり宣祖壬辰調兵領糧使兼總督將として李如松に隨ひ來り後六年丁酉又麻貴等と再ひ來り遂に朝鮮に止まりて歸らす壬辰の勢を以て花山君に封し後大報壇に配享す歿年詳ならず

○ 澹湖實紀

二卷一冊 尹胄夏編 印本

圖書番號 二〇五六

尹景男の實記にして上疏一編祭文一編あり其餘は世系家狀等を附録とす又其の玄孫商擧の遺事を附せり李太王甲午景男十世の孫胄夏編輯刊行す澹湖は景男の號なり

○ 林忠愍公實紀 五卷二冊

印本

圖書番號 自五七五至五七八、一七〇四、一七〇五、二九五

二、三一七七、三五九一

正祖十五年の命撰に係り林慶業の事歴を録せり第一卷は御製序祭文遺文第二第三卷は年譜第四卷は賜祭文傳後叙煇第五卷は行狀諡狀神道碑祠

版奉祭文請額疏營建通文及嗣子林重蕃の上言等なり林慶業字は英伯平澤の人宣祖二十七年甲午に生る光海君戊午武科に登り智畧人に過く仁祖丙子清兵入寇の時に當り西道の六郡定州寧邊義州等の牧使府尹を歷終に平安兵使に陞り乙酉虜中に陥り纔に生還せり前後國事に盡瘁し功勞甚た多し然れども後終に人の誣擠する所となり丙戌獄中に冤死し其の妻亦自決す肅宗の時冤を雪き左贊成を贈られ忠愍と諡す

○ 尹忠憲公實紀

三卷一冊

尹光顔編 印本

圖書番號 三八九九

忠憲公尹陰の實記にして世系年譜遺文墨蹟狀誌等より成る正祖乙卯後孫光碩咸陽郡守たる時族弟光顔に托して編刊せしものなり

尹光顔字は復初盤湖と號す坡平の人鳳溪掄の曾孫なり英祖丁丑に生れ司馬に中り正祖丙午文科に登り官判書に至り純祖の時に歿す

○ 藏拙窩實記

一冊 金吉秋等編 印本

圖書番號 七〇〇五

藏拙窩金澤の言行及狀誌を録したるものなり言行は其の從姪吉秋之を編し誌狀は其の七代の孫世熙之を編し卷末に澤の長子金神童の事を附す純祖二十七年丁亥世熙の刊行に係る

○ 河西集序行狀 一冊

印本

圖書番號 一一五〇五、一一五〇六

金麟厚河西集の序及行狀を合刊したるものなり集序は趙希文の撰にして行狀は梁子澂の撰なり梁子澂字は仲明、彭岩と號す南原の人瀟灑園山甫の子なり河西の女婿にして弟子なり

○ 炭翁行狀

一冊 金陽淳編 印本

圖書番號 一一五七三

炭翁金忠柱の行狀を録したるものにして末尾に炭翁採薇詩一編を附す炭翁は端宗及世祖の時の人にして父玄錫は縣監たり共に世祖即位の時慘禍に罹り兄と共に賤籍に入り太白山の杜谷に隱る後轉して安山郡麻霞山に入り自ら炭翁と號す金陽淳字は元會、健翁と號す安東の人郡守履禮の

史部

子なり英祖丙申に生れ純祖癸亥司馬に中り己巳文科に登り翰苑に入り官吏曹叅判に至り憲宗庚子冤を蒙りて杖死す

○ 松江行狀

一冊 金壽恒編 印本

圖書番號 六七三五

松江鄭澈の行狀を録せるものにして文谷金壽恒の編したるものなり卷末に柳成運の跋文を附す金壽恒字は久之、文谷と號す安東の人清陰尙憲の孫なり仁祖己巳に生れ丙戌進士に登り孝宗辛卯文科に魁たり選はれて湖堂に入り官領議政に至る肅宗己巳に死を賜ひ甲戌に伸冤す諡を文忠と云ふ

○ 朴毅烈公誌狀

一冊 朴章鎬編 印本

圖書番號 一七二一

毅烈公朴晋の誌狀なり李太王癸酉活字を以て印出す宣祖の壬辰朴晋密陽府使を以て戰功を立て竟に軍中に歿す其の子孫屢陳訴し終に追録せられ爵諡を贈らる

○ 尹慶元行狀

一冊 尹師國編 寫本

三三七

圖書番號 一一五八五

尹慶元字は善餘漆原の人にして憲敏公卓然の子なり明宗庚申に生れ宣祖壬午進士に中り壬辰に陽城縣監を以て戦亡す宣祖其の功を嘉し承旨を贈り英祖又大司憲漆坪君を加贈し閭に旌す慶元の孫監察尹載吾族孫師國に屬して其の行狀を編す

○ 潜谷碑狀

一冊

印本

圖書番號 四八八〇

潜谷金塔の碑狀を編輯したるものにして神道碑は李景奭の撰、墓誌銘は趙綱の撰、行狀及湖西宣惠碑銘は李敏求の撰なり

李敏求字は子時、東洲又觀海道人と號す芝峯李暉光の子汾沙李聖求の弟なり宣祖己丑に生れ光海君壬子に登科し仁祖反正の初湖堂に入り官江華留守に至る丁丑の變難に値ひ江華陷落したる時死を免れ脱して歸る是を以て寧邊に責配せられ終に永廢して顯宗庚戌に歿す二子元揆、重揆共に江都の難に殉せり

○ 權益慶諡狀

一冊 尹容善撰 寫本

圖書番號 九八四二

贈内部大臣權益慶の諡狀にして議政尹容善の撰したるものなり益慶は都元帥慄の子にして官司憲府監察に至り仁祖丁丑清兵の難に害を被り哲宗の時特に命して閭に旌し李太王光武の初内務大臣を追贈す

尹容善字は景圭、自有齋と號す海平の人にして輔國致義の子なり純祖己丑に生れ少にして文名あり李太王乙酉前縣令を以て文科に登り官議政に至り甲辰に歿す諡を文忠と云ふ孫德榮、澤榮皆驥貴にして澤榮は王舅となれり

○ 陶庵家狀

一冊 朴聖源編 寫本

圖書番號 五四七八

李緯の言行録にして門人朴聖源の編次に係る李緯字は熙卿、陶庵又寒泉と號す牛峰の人なり

○ 李弘述家狀

一冊 李明翼編 寫本

圖書番號 一一四九四

李弘述の言行録にして後孫李明翼の輯録したる

ものなり弘述字は士善、全州の人、肅宗乙卯の武科にして官刑曹判書に至る

李明翼は全州の人なり、訓將忠定公李弘述の孫にして英祖の時蔭仕として官洪川縣監に止る

○耆社諸臣生諡狀 一冊

寫本

圖書番號 九九三〇

英祖四十九年癸巳壽八旬に滿ちたるを以て耆社老臣、韓翼、慕以下十五人を召し、養老の宴を行ひ且諸臣に命じて各自の諡狀を自作せしむ、仍て生諡狀と云ふ、其の耆臣は韓翼、慕、李益、征、南泰、齋、南有容、安允、行、沈毀、李光輔、金始煥、邊致明、趙榮進、高夢聖、俞彥述、安僕、洪晟、辛受采の十五名なり

○諡狀約錄

三冊

寫本

圖書番號 六七三三

正祖東宮に在りし時、寫字官に命し、宰相の諡狀を謄寫せしめたるものにして、一冊は左議政李觀命、吏曹判書金東鼎の諡狀、二冊は吏曹判書朴師涿、李周鎮の諡狀、三冊は右議政金字杭、閔百祥、左議政鄭暲良等の諡狀なり

史部

○鼓山家狀

一冊 任震宰編 印本

圖書番號 四一六三

任憲晦の家狀にして、子震宰之を編し、李太王の時に刊行す、憲晦字は明老、號は鼓山、豐川の人、西齋徵夏の後なり、純祖辛未に生れ、哲宗戊午蔭仕に補せられたるも、就かす辛酉遺逸に進められ、官祭酒を経て大司憲に至りしも、竟に就かす、李太王丙子に歿す、諡を文敬と云ふ

○歸隱狀碣

一冊 李鍾岱編 寫本

圖書番號 九八七九

李教英の行狀及墓碣銘を、其の子鍾岱の移謄したるものにして、前者は李晚燾之を撰し、後者は金興洛之を撰せり、李教英字は華汝、歸隱は其の子なり、眞實の人にして、得魯の子なり、純祖癸巳に生れ、李太王丙子進士に中り、官府使に至り、乙未に歿す、李晚燾字は觀弼、響山と號す、眞實の人にして、退溪李滉の後、大司成彙濬の子なり、憲宗壬寅に生れ、李太王丙寅文科に登り、官承旨に至る、隆熙四年藥を

三三九

仰いて死す

金興洛は槐山と號す義城の人鶴峯誠一の宗孫なり純祖丁亥に生れ李太王丁卯蔭官に補せられたるも仕へず遺逸に選せられ南臺を拜し通政に登り光武の初に歿す學問精篤近世嶺南儒林の英なり

○河秋槎家狀

一冊 河鍾仁編 印本

圖書番號 三四三〇

河鍾仁か其の父廷容の孝行の事蹟及其の母金氏の烈行を録したるものなり廷容の撰に係り金永冑の諺釋したる家訓集説を附し李太王戊戌に刊行す秋槎は廷容の號なり

河鍾仁は晋州の人にして世世全州に居れり

○北亭松谷行録

二卷一冊 印本

圖書番號 五一七〇

縣監柳世章號拱北亭及其の弟處士世彰號松谷の行事を録したるものにして純祖十四年甲戌に刊出す

○車文節公遺事

二卷一冊 車錫周等編 印本

圖書番號 三四一八

三四〇

麗末の義臣雲巖車原頼の事蹟を録せるものなり雲巖は太祖七年權臣河崙の爲に冤死し太宗命して祭を致し世宗又諡を賜ふ世祖の時特に詞臣に命して序記詩文を集め雲巖雪冤録と名く六臣の獄起りてより遂に塵裏に埋るること二百餘年正祖辛亥に至り雲巖の後孫錫周旁孫信用等諸家の記實を博集して世に公にす本書是なり上下二編に分ち上編は遺稿詩雪冤録諸公姓名應制下編は世系圖記實附録には行狀事實追述上樞文祝文跋等を載せ忠清道觀察使朴宗岳の序文あり其の緣由を詳記せり

○孫襄敏公遺事

二卷一冊 孫星德編 印本

圖書番號 一一九〇三

孫昭の世系年譜遺文敎書賜祭文墓碣銘兵曹稷帖等を編次したるものなり正祖辛亥に刊行す昭字は日章慶州の人叅議晟の子なり世宗癸丑に生れ端宗癸酉生員進士に中り世祖己卯賢良科に登り丁亥李施愛の亂に平虜將軍朴仲善の從事官とな

りて功あり敵愾功臣二等に策し官工曹參議を経て雞川君に封せられ成宗甲辰に歿す襄敏は其の諡なり

○炭翁遺事 三卷一冊 金處一等編 印本

圖書番號 四二五三

炭翁金忠柱の遺事なり卷首に系譜と先世事蹟とを掲げ第一卷は遺事誌狀子孫を録し第二卷第三卷は諸家讚述の文字を録せり九世の孫處一等之を編成し憲宗戊戌に刊行す

○南判尹遺事 一冊 南鶴鳴編 印本

圖書番號 四八六七

南致勤の事蹟を録せしものなり致勤字は勤之、明宗の時武擧の第一に中り各處に歷仕し屢南道の防禦使を以て外寇を掃蕩し功あり後資憲大夫漢城府判尹兼知訓練院事五衛都總府都總管を贈らる南鶴鳴其の子孫の斷絶して偉蹟の傳らざるを慨し肅宗二十六年庚辰系譜遺事誌文等を採録して此の書を編次せり

南鶴鳴字は子聞、晦隱と號す宜寧の人藥泉九萬の

史部

子なり

○李忠武遺事 一冊 寫本

圖書番號 一四八九

李舜臣の事蹟を抄録せしものにして宣祖二十四年辛卯二月珍島郡守に除せられ壬辰戰死に至るまでの著しき事實を抜摘したるものなり

○金忠壯遺事 三卷一冊 肅宗命編 印本

圖書番號 一三四二、一三四三、一五〇一、一五〇二、二七

九九、三四四五、四八四七、五四三一、五四三二、五四三三

金德齡の事蹟を録せるものなり德齡は全羅南道光州の人字は景樹、壬辰の役忠勇軍を挈け各地に轉戦して功勞鮮からさりしも奸者の誣ゆる所となり遂に非命に歿す顯宗の時に至り兵曹參議を贈り肅宗更に兵曹判書を贈り祠を建て諡を忠壯と賜ふ此の書は其の詩文、年譜、記傳を輯録して三卷と爲し卷尾に其の兄贈持平金德弘か招討使高敬命に従ひ抗戰殉歿せし事略竝に弟金德普字は子龍か幼にして從役する能はず智異山に隠れ尋いて丁卯胡亂の際疾のために義に就くを得ず憤

三四一

死したる事蹟及義烈祠春秋享祭等の顛末並に詩筆行狀等を列記して附録とせり

○ 金將軍遺事 一冊 李時恒編 印本

圖書番號 七〇六一

金景瑞の事蹟を輯録せしものなり景瑞は龍岡の人明宗二十年に生れ二十歳にして武科に應ず日本に使用してより名望益顯れ光海君の時北虜横暴し姜弘立元帥となり景瑞副領兵となり之を討伐す虜首貴永介か弘立と和を議するに當り其の陷る所となり獄に囚はるること六年遂に殺さる仁祖命して舊秩を復し右議政を贈る景瑞の死後百十四年家乗既に逸し國史亦明ならず李時恒諸書を收集して此の書を編成せり書中の要目は世系年譜遺文劄牌狀聞劄錄伸冤疏陳情疏忠烈傳等にして卷末に李時恒纂輯の來由を叙せり

○ 洪翼靖遺事 一冊 洪樂信編 寫本

圖書番號 一五二一

洪鳳漢の家に在りての行誼官に在りての施措平生の事行等を録したるものなり

洪樂信字は仲諱、豊山の人にして領相翼靖公鳳漢の子なり英祖己未に生れ癸未司馬に登り丙戌文科に登り官知敦寧に至る

○ 海雲遺事 一〇卷二冊 洪志燮編 印本

圖書番號 五五七六

洪啓夏の遺事を輯録したるものなり啓夏字は士沃、海雲と號す南陽の人なり肅宗甲午に生れ正祖甲辰に歿す孝子を以て聞ゆ本書は其の世系所著の詩文及年譜等を収録せり哲宗己酉玄孫志燮之を編刊す

○ 易東事蹟 一冊 印本

圖書番號 四〇四八

禹倬の實記なり禹倬字は天章、丹陽の人にして高麗玄宗壬戌の年に生れ文科に登り官成均祭酒に至り忠惠王壬午に歿し諡を文僖と賜ふ嘗て寧海司錄となり郡内の淫祠を毀ち又監察糾正となりて忠宣王の失徳を敢諫せり經學に邃く最も易理に精通す程傳の初めて來るや之を知る者無し倬閉門月餘工夫を凝らし善く之を解せりと云ふ故

を以て易東と號せり

○ 厩村請廡實事

一冊 黃心顯編 印本

圖書番號 六九七五 七二二

厩村黃喜を文廟に從享することを請ひたる後孫士林等の通文、疏章其の他請廡に關する文字を哀收す李太王庚寅後孫心顯之を編成活印す黃喜字は懼夫厩村と號す長水の人高麗恭愍王癸卯に生れ恭讓王己巳文科に登り朝鮮太祖を賛けて勳業顯著なるものあり官領相に至り年九十にして歿す諡を翼成と云ふ世宗廟庭に配享す學問功德國初の名相と稱す後屢文廟に陞廡することを請ひしも竟に許されず

○ 河西從享事實

一冊 寫本

圖書番號 二三四六

正祖丙辰河西金麟厚を文廟に配享するに當り八道儒生及館學儒生の上疏之に對する批答竝に相臣儒賢等の往復せる書牘を記載したるものなり

○ 南趙兩先生事蹟

一冊 印本

圖書番號 五〇三四

史部

南乙珍、趙狷兩隱士の事蹟を併録したるものにし

て正祖十五年辛亥士林韓廷鎬等刊行す南氏の祖先は新羅に興り高麗の末乙珍と稱する者あり夙に學に志し鄭夢周等と道義の交を爲せり朝鮮太祖の時に迨ひ召したるも出てす洪武甲子沙川縣鳳凰山下に隱れ自ら夷齊の探薇に倣ふ人之を南仙窟と稱せり趙氏は其の始祖遠く南宋の時に興り降りて麗末に及ぶ趙狷字は胤効、開國功臣趙浚の弟なり朝鮮太祖の召に應せず二君に仕へざるの義を固守したり

○ 尹鈴原事蹟

一卷 寫本

圖書番號 五三三九

鈴原府院君尹壕の事歴を録せるものにして其の墓碑銘及曾孫裕後の手録に係る補遺竝に夫人延安府夫人田氏の墓表陰記を附せり尹壕字は叔保世宗十六年に生れ十六歳にして生員となり三十九歳魁科に中り遂に右議政に上り鈴原府院君に封せられ七十三歳にして歿す平靖公と諡す

○ 李舜臣事蹟

一冊 寫本

三四三

圖書番號 九七八四

李舜臣の諡狀及家狀抄略を正祖二年己亥政院に於て謄寫し覽に供したるものなり

○ 權元帥實蹟 一冊

寫本

圖書番號 四二五四

忠莊公權慄の事蹟を録したるものなり即ち誌狀祭文及事行の諸書に出たるもの並に亂中の事實と身後褒揚の文字とを編集し卷尾に其の兄同知恂の墓銘を附す慄字は彥慎晚翠堂と號す安東の人領議政轍の子なり中宗丁酉に生れ宣祖壬午文科に登り壬辰に戰功あり都元帥を拜し官戸曹判書に至り己亥に歿す諡を忠莊と云ふ祠を幸州に建て功を紀し額名を賜ふ

○ 錦南君事蹟 一冊

寫本

圖書番號 七六八二

錦南君忠武公鄭忠信の諡狀世系及年譜を錦南家乗の中より採録せしものなり

○ 崔孝一事蹟 一冊

寫本

圖書番號 一〇七九

義州の人崔孝一の事蹟を記したるものにして贈職筵教後孫調用傳教樹烈千秋傳崔義士傳平安監司狀啓禮曹回啓賜祭傳教祭文兵曹草記批答並に車義士禮亮等の事蹟を併記せり

○ 滄浪實蹟 三卷一冊 高貞鎮編 印本

圖書番號 四四七九

高敬履の事蹟を輯録せしものにして憲宗三年丁酉後孫貞鎮の編次に係る敬履は長興の人字は而惕滄浪と號す霧峯敬命の從弟なり少より氣節あり光海君初年大學生を以て抗章を上り牛溪松江の誣を辨したるも後黨争の爲禁錮せられて歿せり湖南の士爲に其の冤を伸ふ第一卷は遺稿賦詩疏書雜著第二卷は輓詩祭文行狀遺事墓誌銘請文題詠疏事顛末贈職事顛末及感懷說第三卷は附録にして世系年譜並に諸氏の序跋等を載せ其の刊行の緣由を詳記せり

○ 居昌劉氏事蹟 二卷一冊 劉祥佑編 印本

圖書番號 二〇五八

居昌劉氏の事蹟を編録したるものにして族譜序

史蹟顯達せし諸劉氏の事蹟、開國功臣録、原從功臣録、券、兩漢の歴數、劉氏の世系本源等を記載せり李太王光武六年印行す

○ 光山卓氏世蹟書

一冊 卓有協編 寫本

圖書番號 一一九七四

景濂亭卓光茂、竹亭卓愼及竹林齋卓中の詩文及其の題輓を掇拾したるものなり

○ 皇朝人事蹟

一冊 寫本

圖書番號 二五四二

支那人の朝鮮に來り永住したる者の行事に付其の要略と科宦に收用したる規例中公私史冊に採出したるもの等を撮録せしものなり

○ 靖孝公家乘

一冊 李悛編 印本

圖書番號 六六七八、七二〇七、九九二六

宣祖の王子仁興、君瑛の行録と誌狀及遺稿を輯録し夫人宋氏の誌狀を附す、靖孝は仁興君の諡なり其の子朗善、君悛之を編成し肅宗十年甲子に刊行す

李悛字は碩卿、觀瀾と號す、宣祖の第十二男仁興君

史部

瑛の子にして朗善君に封せらる年甫七八歲翰墨に留意し長するに及び王右軍の字體を慕ひ篆籀草隸俱に其の妙に造り、列代の寶冊及公私の碑額其の手に出づるもの多く古人の論書要語を集め臨池說林と名つけ、又大東金石帖を編す、山水を愛し足跡殆んど國中に遍く、詩集八卷あり、孝敏と諡す

○ 眞寶李氏世獻

二冊 李康鎬編 寫本

圖書番號 五九二九

退溪李滉六世の孫、守約以下諸子孫の行蹟を輯録したるものにして、李太王乙巳に成る眞寶は退溪一家の本貫なり

李康鎬字は濟卿、眞寶の人、守約六代の孫なり、哲宗辛亥に生れ、李太王甲午生員に中る

○ 東萊鄭氏家乘

三卷三冊 寫本

圖書番號 二〇二〇、七二八七

東萊鄭氏累世の墓碑、誌狀等を列載したるものにして、始祖鄭文道以下判官鄭愼儉に至る

○ 安山金氏家乘

四卷二冊 金處巖編 寫本

三四五

圖書番號 六九八〇、六九八一

安山金氏の遠祖高麗尙書金殷傳以下諸子孫の墓文、行狀及事蹟等を蒐載したるものにして殷傳十五世の孫處巖の編する所なり

金處巖字は仲礪、安山の人、進士、養直の子なり、英祖乙亥に生れ、正祖乙卯生員を以て文科に登り、官執義に止る、純祖の時に歿す

○秋溪家乘

五卷三冊 秋世文編 印本

圖書番號 三四二八

秋溪秋氏の家乘にして、前四卷は始祖籍符羅髓より後孫詠香堂芝と凝香堂蘭に至る事行を録せり、先づ其の世系及墓山圖を載せ、諸人の稱述したる誌狀詩文並に後代褒崇したる儒狀祭文等を編輯し、髓二十代の孫世文、李太王己巳に之を刊出し、後一卷は原編刊行の後追得したる事項を収録し、續編として繼刊したるものなり

○月城家史

二卷一冊 金昌熙著 印本

圖書番號 六二八七

石叢金昌熙の著す所にして、十六代祖齊肅公稱よ

り父文貞公鼎集に至る事蹟、言行を略述せり、李太王辛巳之を撰し、甲申活印す、金氏は慶州の人而して、月城は慶州の舊號なり

○昌寧成氏文獻志 一冊

成文濬等原編 印本
成載崇、李重輯

圖書番號 一八七九

昌寧成氏の實蹟にして、宣祖の時滄浪、成文濬之を編輯し、名けて夏山文獻志と云ふ、哲宗の時其の後孫載崇、近默更に輯補を加へ、名けて重輯文獻志と爲し、活字を以て印行す

成文濬字は仲澗、滄浪と號す、昌寧の人、牛溪渾の子なり、明宗己未に生れ、宣祖乙酉司馬に中り、己丑蔭仕に補せられ、官縣監に止る、仁祖丙寅に歿す、家庭に學ひ、篤志力行の士なり、文集あり
成載崇字は士修、牛溪渾の九世孫なり、英祖丙申に生れ、憲宗丁酉監役に入仕し、官監役に至り、哲宗の時歿す

○彝尊錄

二卷一冊 金宗直著 印本

圖書番號 一五二二、二五四三、六六八七、二二〇五一

估畢齋金宗直か其の父直提學金叔滋の言行を輯

録したるものにして初刊は燕山君三年に成り明宗元年丙午再版に付したり内容は系圖紀年師友事業及祭儀等にして外祖司宰監正朴氏の傳先妣朴氏の行狀等を附記せり

金宗直字は秀温、估畢齋と號す善山の人江湖叔澁の子なり世宗辛亥に生れ、端宗癸酉進士に中り世祖己卯文科に登り官刑曹判書に至り成宗壬子に歿す諡を文忠と云ふ天資高明父訓を承けて學問に篤し文章典雅にして名士其の門に出づる者多く寒暄堂金宏弼、一蠹鄭汝昌は道學を以て名あり濯纓金駟孫、梅溪曹偉は文章を以て名あり嘗て吊義帝文を作る燕山君戊午士禍起り其の文を以て世祖を指斥するものと爲し禍泉壤に及ひしか中宗反正の初仲冤す

○ 崇孝錄

一四卷七冊 朴世采編 印本

圖書番號

五五七九、六二〇八、七六四九

朴世采か祖先の事蹟を蒐編したるものにして首に潘南朴氏の世派圖を掲げ先祖の遺稿、行實を載せ、逐次直派、旁支の行實、日記、遺事、詩文等凡て四十

史部

餘人の文を合録せり顯宗辛丑に刊行す

○ 慶州李氏金石錄

二四卷一〇冊 李裕元編 印本

圖書番號 四二九八

編者か其の先世及傍親諸族の誌狀其の他傳ふへき記述を輯録し李太王四年丁卯活字を以て印出したるものなり

○ 咸安李氏遺蹟彙編

二冊 李秉太編 印本

圖書番號 一一〇一六

咸安李氏の遺事實蹟及詩文墓碣を世代に依り編録せしものにして李太王丙申刊行す

○ 治隱言行拾遺

三卷一冊 吉興先等編 印本

圖書番號 四二五七

吉再の言行録なり六代の孫興先宗先等遺文を得て編刊せしものにして世系、遺像、年譜、遺詩文、追贈文字、事蹟所載書名及諸家讚詠の詩を合せ光海君七年乙卯刊行し哲宗九年戊午讎校重刊す

○ 退溪言行錄

六卷三冊 權斗經編 印本

三四七

圖書番號 二九九九、三〇一七、三四二六、三四二七、五一

九三、五四五四、五六三三、六九一四

退溪李滉の言行を輯録せるものにして第一卷には學問、讀書、論格致、存省、論持敬、成徳、教人第二卷には講辨、資品、起居、語默之節、律身、居家、附儉約、奉先、家訓、處鄉、辭受第三卷には交際、飲食、衣服之節、樂山水、出處事君、告君陳誠、居官、附教子弟、居官第四卷には

論理氣、論禮冠婚喪祭、論時事第五卷には論人物、論科擧之弊、崇正學、雜記、筵臣啓辭、考終記第六卷附録實記には通述、遺事、行略、崇終獻議、教文、祭文等を輯録し實記は門人金誠一、言行通述は門人鄭惟一、遺事は李珥、行略は朴淳等の撰に係る又崇終獻議、文廟從祀時、中外頒教文、文廟從祀時、家廟賜祭教文、宗廟配享時、家廟賜祭教文、祭文、賜祭文等を併載せり權斗經之を編輯す

權斗經字は天章、蒼雪と號す安東の人冲齋撥の後孫なり孝宗甲午に生れ肅宗庚寅蔭縣監を以て文科に登り官修撰に止まる

○ 退陶言行通録

八卷四冊 權斗經編 印本

圖書番號 五八〇二

李滉の嘉言善行を録したるものにして肅宗三十三年の編纂に係れり五卷は言行二卷は年譜一卷は褒崇祭祝讚述の文を録せり畧は退溪言行録に同じ退陶と云へるは李滉中歲居を退溪の上に移し晚年地を陶山の下に卜し終老の所と爲し陶翁と改號せしを以てなり

○ 寒岡言行録

四卷二冊 張顯光等編 印本

圖書番號 三六五九

寒岡鄭述の言行を門人の録編したるものなり生前の儀則と身後獎稱の文字とを收めて殘すなし純祖丁卯後に刊行す

○ 百弗菴言行録

七卷三冊 印本

圖書番號 四二八八

正祖の時の人崔興遠の言行を録したるものなり卷首に世系、年譜及誌狀を載せ卷尾に門徒録あり百弗菴は崔興遠の號なり

○ 帶方世家言行録

六卷三冊 尹行恁編 印本

圖書番號 三二二二

南原尹氏の中名臣碩徳の事歴及嘉言善行の國史野乘家録に出てたるを哀輯したるものにして附録及續編あり正祖己酉に成り李太王庚子編者の曾孫秉綬之を刊行す

○ 三綱行實圖 三卷一冊

印本

圖書番號 一三八、一三九

世宗十三年集賢殿副提學僕循等に命して支那朝鮮の書傳中より君臣父子夫婦三倫の模範となるへき忠臣孝子烈女を選抜し編輯せしめたるものにして各事實に圖を配し漢文を以て説明し次に七絶二首を以て詠歌に便し更に四言一句の贊を加へ圖の上欄には漢文と同意味の諺文を書き添へたり收むる所孝子三十五人、忠臣三十五人、烈女三十五人なり

僕循は慶州の人なり慶壽の子にして太宗戊子生員文科に中り丁未重試に登り官吏曹參議に至る博學能文を以て世に顯る

○ 續三綱行實圖

一冊

寫本

圖書番號 七三三二

史部

中宗九年大提學申用漑に命して撰進せしめたるものなり蓋し世宗の時三綱行實の撰あり年代已に久うして其の間又忠孝貞烈の甄録すべきもの尠からず故に申用漑等専ら事例を近世に採りて續三綱行實を作れり孝子例三十六人、忠臣例六人、烈女例二十八人各例の終に七絶二首を附して之を歌誦せしむ

○ 東國新續三綱行實

一七卷九冊 印本

圖書番號 三八、三九、八九一、一八三二、一九三二

世宗の時僕循に命して忠臣孝子烈女等の事實を圖し畧解を施して人民に觀感せしめんとし成宗の時諺解を加へ中宗及宣祖の時之を續纂し光海君六年甲寅更に柳根等に命して増續せしめたり忠臣一卷孝子八卷、烈女八卷なり

○ 三綱錄

一八冊

寫本

圖書番號 九九三三

正祖丙申より癸卯に至る毎式年に於て各道より忠孝烈三綱を抄録して禮曹に報し禮曹より上聞して贈職給復或は賞典を賜はりたる事蹟を編録

三四九

したるものなり

○三綱錄續

五冊

寫本

圖書番號

三〇六九

哲宗丁巳より李太王戊辰に至る毎式年各道より忠孝烈三綱を禮曹に報し禮曹より上聞し贈職給復或は賞典を賜はりたる記録を存案として本曹に藏眞したるものなり

○石城三綱錄

一二卷一冊

印本

圖書番號

三四二九、五一六五

忠清南道石城郡に於ける忠孝烈三綱の實蹟を編録したるものなり卷首に邑誌を畧載し李太王十二年己亥郡守安洪壽及朴奎文等邑儒と謀り之を刊行す

○槐山郡三綱錄

一冊

尹鑑烈編

印本

圖書番號

四二七一

忠清北道槐山郡の三綱錄にして忠臣、孝子、烈婦百四十九人を収録し首に邑號沿革を書せり

尹鑑烈は純祖の時の人にして槐山郡の土班なり

○江西郡三綱錄

一冊

安洪鎔編

印本

圖書番號 二二六二六

平安南道江西郡の忠臣、孝子、孝婦烈女の實蹟を編輯したるものにして李太王癸卯郡守安洪鎔之を刊行す

安洪鎔字は公瑞竹山の人にして純祖辛卯に生れ李太王庚寅始めて禁都に仕へ江西郡守に歷任せり

○一一倫行實圖

一冊

曹伸撰

印本

圖書番號

一三七、二〇七四、三五〇二、七九一一

金安國か中宗の經筵に侍講たりし時長幼朋友の二倫を撰し之を三綱行實に加へて世に行はむことを進言し王の嘉納する所となりたるも未だ行ふに及ばずして慶尙道觀察使に轉す因りて之を司譯院正曹伸に囑して撰次せしめ印行して管内に頒つ體裁は三綱行實に似て長幼朋友の德行を圖に描き其の上に諺文を以て説明し終に同意味の漢文を添へたり收むる所兄弟圖二十五人家族圖七人朋友圖十一人師生圖五人後正祖二十一年に至り三綱行實圖と合して五倫行實と爲せり

曹伸字は叔奮、適庵と號す、偉の庶弟なり、官教官に至る七たひ、燕京に赴き、三たひ日本に往く、文章を能くし、著す所、百年録、設聞瑣錄等あり

○五倫行實圖 五卷四冊

印本

圖書番號

二八五九、三三七二、三六四六、四八四一、四九

八一、四九八二、五八一六、五八一七、五八一八、五八一九、

五九五六、六九八六、自七六二八至七六三八、自一一六一八

至一一六二五

正祖二十一年丁巳、李秉模等に命し、三綱行實圖及二倫行實圖の二書を集め、修正を加へたるものにして、收むる所、孝子三十三人、忠臣三十五人、烈女三十五人、兄弟二十四人、宗族七人、朋友十一人、師生五人なり

○清齋忠節錄

一冊 朴正林編 印本

圖書番號 四七六六、六三四〇

清齋朴審問か、端宗のために節を立てたる事實を録し、諸家の誌狀、詩文、公私祭祝文、教旨、忠臣班次圖、祠院錄及簡牒等の文字を並録し、其の父副提學剛生の墓表を卷尾に附す、初め舊本ありしも、李太王

史部

辛丑に至り、更に諸孫等合議して、重刊せり

朴審問號は清齋密陽の人、羅山耕叟剛生の子なり、太宗戊子に生れ、世宗丙辰文科に登り、官正郎に至る、端宗乙亥遜革の時に當り、成三問等六忠臣と端宗の復位を謀り、翌年丙子適ま、使命を以て明に赴き、還りて義州に到れば、六臣已に死せり、即ち藥を仰ひて死す、純祖甲子、吏曹叅判を贈られ、哲宗丙辰、吏曹判書を加贈し、李太王辛未、忠貞と追諡す

○知足堂忠烈記

一冊 印本

圖書番號 五〇四七、七八〇〇

成宗の時の名臣趙之瑞の事歴を記述したるものにして、肅宗四十四年新塘書院に於て創刊し、後晋州朝陽閣に於て重刊せり、内容は之瑞の學問、官歴及遺事を收拾し、附するに、其の妻鄭氏、鄭夢周の玄孫、旌表の記事を以てせり

○續精忠錄

五卷二冊 金箕禮編 印本

圖書番號 五四一五

本書一、二卷は金慶福の系譜及尼湯介の亂及壬辰の役に於ける戰功記畧にして、繪圖を挿入し、邑誌

碑銘等を附録とし三卷は李夢瑞の實記にして四卷は啓本疏文等五卷は賜額日記等を附録とせり金慶福八代の孫箕禮之を編次し睿宗癸亥に刊行す金慶福字は伯綏慶州の人萬戶守經の子なり明宗庚戌に生れ宣祖庚辰武科に登り府使に至り癸未藩胡の亂穩城巡邊使の軍官として戦功あり宣祖其の忠烈を稱し之を宋の岳飛に比し岳武穆精忠録一帙を賜ふ仍て本書を續精忠録と名く光海君壬戌に歿し顯宗甲寅兵曹參判を追贈し肅宗乙卯永興郡精忠祠に主享す李夢瑞字は應吉完山の人直長好仁の子なり明宗丙辰に生れ宣祖乙酉武科に登り壬辰の戦功を以て宣武原從功臣に録せられ縣監に至り戊申に歿す肅宗乙卯軍器僉正を追贈し精忠祠に配享す

○ 忠烈實錄 二卷二冊 鄭德善等編 印本

圖書番號 七一八、五五七二

宣祖壬辰晋州牧使金時敏戦亡し翌年癸巳右兵使崔慶會等二十七人戦亡し金時敏は忠愍祠に崔慶會等は彰烈祠に享せらる其の前後の事實と褒揚

の文字とを録したるものなり純祖辛卯院儒鄭徳善等遺誌を撫拾し守城記、陷城記、疏啓、碑文、祭文等に分目し以て刊行す

○ 忠烈錄 二卷一冊 鄭亨達等編 印本

圖書番號 四三五五

宣祖壬辰に戦亡せし金堤郡守鄭湛の事蹟を録したるものなり卷首に詩文二首を掲げ次に遺事、諸狀、祭文を載せ以下は事畧、雜記、記跋、上梁文、請諡、疏事畧を録し純祖己巳十代の孫亨達文達等之を編刊す鄭湛字は彦潔其の先は野城の人世世三韓の鼎族たり宣祖癸未武科に登り屢州郡を司り壬辰の功に因り兵曹參判を贈らる

○ 崇節祠三忠錄 三卷一冊 趙鎮寬等編 印本

圖書番號 四〇九〇、四〇九一

宣祖壬辰に戦歿し開城の崇節祠に配享したる宋金劉の遺文並に諸家の碑記、傳説等を輯録したるものなり宋名は象賢字は徳求、泉谷と號す明宗六年二十歳にして進士に及第し東萊府使を以て節に死せり年四十二忠烈と諡す金名は鍊光字は彦

精、松巖と號す中宗十九年に生る淮陽府使たり享年六十九禮曹參判を贈らる劉名は克良當時副將として臨津の役に死す兵曹參判を贈り武毅と諡す正祖二十二年留守趙鎮寬儒生金鍾五等之を編成す

○ 晉陽忠義世編 二卷一冊 柳協奎等編 印本

圖書番號 三七四四

晋州の人柳辰同、珩、琳、忠傑、孝傑、智傑、炳然、赫然、星河、星彩等の地贈褒揚の事蹟と誌狀傳記等の文字を輯纂したるものにして正祖の時に編し純祖甲子後孫孝源の統制使たりし時之を刊行す

○ 花原勳節錄 三卷一冊 張鉉豐編 印本

圖書番號 五一四五、七七八

花原張氏の忠孝烈節を録したるものにして第一卷には張氏始祖太師の事實及結城君僖襄公莊襄公の事實を載せ第二第三卷には壬辰戰役の忠臣張翮其の長子士逸の孝其の孫漢の妻李氏の烈等三節の旌閭せられたる事實及名士の記文詩律等を載せり正祖十六年壬子之を刊行す

史部

○ 旌忠錄 四卷一冊 黃暉編 印本

圖書番號 九八七、九九〇、九九一、九九二、四五六四

宣祖壬辰南原の人にして忠節を盡したる三名臣の事蹟を輯録せるものにして第一卷は左贊成忠清道兵馬節度使黃進の事蹟なり黃進字は明甫其の先は長水縣の人晋州城防守の際力戰節に死し武愨と諡す第二卷は漢城府尹平昌郡守高得賚の事蹟なり得賚字は殷甫龍潭の人第三卷は左承旨安瑛の事蹟とす安瑛字は元瑞清溪と號す孝宗四年黃進の孫黃暉之を編次し純祖の時に至り宋煥箕、洪奭周等の序跋を加へ黃進七世の孫黃再洙等之を刊行す

○ 正氣錄 一冊 高由厚編 印本

圖書番號 三四二四、三六三六、四一七〇、四七五一、五三

〇〇、五七〇九、七八一三

高敬命父子の忠節を録せるものにして其の慷慨

三五三

殉節を壯とし文天祥正氣の歌より取り尹根壽の命名したるものなり敬命字は而順、霽峯と號す六子あり壬辰の役義を湖南に倡へ錦山に戰死す二子亦之に殉し忠節一門に萃まる霽峰の子由厚此の書を編次し宣祖三十二年己亥由厚の弟用厚増補刊行す

○重刊忠烈錄 八卷二冊 金魯奎編 印本

圖書番號 一三三〇、一六九五

金應河の事歴を詳記す應河字は景義、安東の人に於て宣祖乙巳の武科なり戊午深河の役宣川郡守兼左營將として元帥金景瑞の標下に屬し力戰して死す年四十明、遼東伯を贈り朝鮮、議政を贈り忠武と諡す第一卷には遺像圖世譜、遺墨、記文、贈祭文、御製詩第二卷には旌褒事實第三卷には遺文、碑文、告祝祭文第四卷には諸家記述第五卷には傳箋第六卷には悼詩第七卷には詩文別錄第八卷には附錄等を載す正祖戊午其の後孫魯奎編刊す

○江都忠烈錄 二卷一冊 金昌協編 印本

圖書番號 三〇七六

仁祖十四年十二月清軍京城を犯す前右議政金尙容王后、王世子を奉して難を江華に避く江華亦陥り尙容之に死す尙容字は景澤、仙源と號し安東の人なり仁祖壬午鄭樾等祠を江都に建て其の忠節を表す孝宗戊戌額を賜ひ尙容と節を與にせる李尙吉、李時稷、黃善身、權順長、金益兼、沈覬、尹焄、宋時榮、具元一、姜興業等を配享せり本書は以上節臣の忠烈なる事蹟を輯録し上下二卷と爲す肅宗二十七年尙容の曾孫金昌協の編次に係る載する所建祠始末、追享事實、賜祭文、行狀、碑銘、諡狀、附遺書、墓誌銘、三忠臣傳、南門殉義碑記、忠烈祠、殉節碑記等なり金昌協字は仲和、農岩と號す安東の人文谷壽恒の子なり孝宗辛卯に生れ顯宗己酉進士に中り肅宗壬戌文科に魁たり文衡を典り官禮曹判書に至り戊子に歿す諡を文簡と云ふ嘗て業を妻父靜觀齋李端相に受け天資穎悟學問高明又文章醇雅にして弟三淵昌翁と與に名を齊ふす而して三淵は詩を以て勝る肅宗己巳父文谷非命に殞るを痛み是

より官に就かず肅宗必ず之を致さむと欲して得ず蓋し朝鮮儒者中學問文章兼備の士なり

○ 金議政江都丁丑錄 一冊 金光煥編 印本

圖書番號 六九七七

仁祖丙子清軍入侵し王南漢に播遷せし時原任大臣金尙容江華に於て廟社を守り節に殉せし當時の事蹟を記録したるものにして金氏の第二孤金光煥之を編成し慶尙道觀察使具鳳瑞其の緣由を附記す

金光煥字は晦叔安東の人仙源尙容の子なり宣祖己卯に生れ光海君己酉進士に中り官敦寧府都正に止り仁祖壬午に歿す

○ 龍城雙義錄 四卷二冊 鄭聖鶴編 印本

圖書番號 四八一

仁祖五年丁卯の變に際し龍川龍骨山城守將逃竄し人心恟恟たるを慨し降將張士俊を殺して義を唱へ地方を克復したる功を以て英祖の時忠武祠に配祭せられたる襄武公鄭鳳壽及弟江西縣令鄭麒壽の事蹟を輯録したるものなり襄武江西の年

史部

譜、龍骨倡義錄、本朝諭旨、天朝箭牌票告示文、江西遺稿、事蹟節錄、倡義將士錄、襄武江西の行狀祭文、祝文、請諡疏、禮曹關文、禮曹完文、諸稿又附録として三英錄、主簿、遂安孟山事蹟、同樞行狀、水使墓碑銘、參奉墓表、營將墓碣銘、都事事蹟等を載す正祖十八年甲寅に刊行す

○ 寶城宣氏五世忠義錄 一冊 宣宗漢編 印本

圖書番號 一一四九三

明洪武年間朝鮮に來り特に湖南觀察使を拜し終に寶城に永住せし宣允社以下宣炯、宣居、怡、宣若海、宣世綱等五世忠節の事歴を録したるものにして純祖庚寅後孫宗漢の編次に係り憲宗十年甲辰に刊行す退休堂遺蹟、平襄公行狀、畫像贊、副元帥公戰亡事蹟、水使公行狀、瀋陽日記、參判公行狀、教書、褒忠祠祝文、葬時祝文、戰亡事蹟、禮曹關文、上言、禮曹回啓、謹悉儒疏、臺疏、原情等に分目せり

○ 桂氏四代忠孝錄 一冊 桂顯珣編 印本

圖書番號 五四二二

遂寧桂氏桂漢、明桂馨、遠桂之文、桂天祥の忠孝實蹟

三五五

を編録せしものにして其の後孫顯駒之を刊行す
桂顯駒字は敬甫、慎齋と號す、牛峰は又其の一號なり
憲宗丁酉に生る

○李氏二世忠孝錄 一冊 金麗鍾編 印本

圖書番號 五九三一、六一七五

星山李世翰の戊申日錄家訓其の他諸報狀忠孝傳
等を纂集し李裕鍊以下三世の忠孝を闡揚したる
ものにして正祖十三年己酉活字を以て印行す李
裕鍊は晋州の人其の先景武公李濟より出づ英祖
四年鄭希亮等嶺南に叛きし時裕鍊慷慨の餘、食幅
を裂きて戰衣と爲し二子を激勵し里中の壯士金
斗潑を伴ひ中軍の將禹夏亨に獻策して功あり正
祖十二年に至り命して其の家を復せしむ

○吉氏世孝錄 二卷一冊 吉繼道編 印本

圖書番號 四四五八

處士吉昌舉父子の孝行錄にして哲宗十一年庚申
曾孫繼道之を刊出す吉昌舉字は續卿、海平の人治
隱吉再の後孫なり肅宗戊辰に生れ英祖己卯に歿
す志を仕途に絶ち孝子を以て聞ゆ

○金氏世孝圖 一冊 印本

圖書番號 四一八八、六二四六、七八〇六

金潤光及其の子碩基俱に孝を以て聞ゆ哲宗の時
閭に旌せらる因て碩基の弟碩奉父兄の孝行を圖
し金學性之か贊を作り編次刊行す

○成侍中孝行錄 二卷一冊 成瑛編 印本

圖書番號 一七七三

侍中成松國の孝行を録したるものなり第一卷は
孝行事實と圖形とを載せ第二卷は侍中の子孫梅
竹堂三問等七人の行狀を録し書院に躋享したる
事實を記し十四代の孫瑛之を輯成し英祖八年壬
子に刊行す

成瑛字は季輝、侍中松國の後なり孝宗己未に生れ
肅宗戊午司馬に中り庚午文科に登り官同知中樞
府事に至る

○慕菴孝行錄 三卷三冊 李健榮編 印本

圖書番號 三三〇一

慕菴李顯惺の孝行を録したるものなり李太王甲
辰特に其の孝行を褒揚し秘書丞を贈らる其の子

健榮褒揚に關する文書と摺紳間に稱述せられたる詩文とを摭採し活字を以て印刊す顯愷官副司果に止り年四十八にして歿す

李健榮は慶州の人慕菴顯愷の子なり官度支部司稅局長陸軍副領に至る

○兄弟急難圖

一冊 李峻編 印本

圖書番號 五七〇八

李嶽李峻の兄弟尙州に在り宣祖癸巳流離の際兄弟救難の狀を圖し之に關する諸家の詩文を集め肅宗の時峻の玄孫更に増録して刊行せしものなり

李峻字は叔平、蒼石と號す興陽の人月澗嶽の弟なり明宗庚申に生れ宣祖辛卯文科に登り官副提學に至り仁祖乙亥に歿す學を西厓柳成龍に受け中興龜鑑を撰進し遺稿あり兄嶽亦學行を以て薦められ官縣監に至る

○孝友錄

一冊 申元福撰 寫本

圖書番號 一一〇七三

申元祿の孝友なる諸行を記述せしものなり元祿

史部

字は季綏悔堂と號す鵝洲の人教授俊禎の孫にして中宗丙子に生れ官訓導に止り宣祖丙子に歿す元福は其の實兄なり

○文廟享祀錄

一冊 印本

圖書番號 一四五二 一五五九、二四〇四、三四六二、五二

三一

英祖の命を承け金龜柱等の編輯したるものにして英祖の序あり卷初に文廟享祀圖を掲ぐ文廟の正位は大聖至聖文宣王を祭り正位の東西には顔子、曾子、子思、孟子の四賢、殿の東西には閔損、冉耕以下十六人、廡の東西には澹臺滅明、宓不齊以下の諸弟子、漢、唐、宋、元の諸儒並に新羅の薛聰、崔致遠及高麗朝鮮の諸士とを配享し其の略歴を記し次に啓聖祠圖、崇節祠圖等を掲げ晋、唐、宋の大學生四人の畧歴を附し以て古聖賢を崇尊するの意を表せり金龜柱字は汝範、慶州の人領敦寧、金漢者の子なり英祖の時筮仕し江西縣令となり癸未文科に登り舍人を經て官副提學、大司憲に至り丙午に歿す

○國朝儒先錄

四冊 柳希春編 印本

三五七

圖書番號 四二二四

柳希春か宣祖の命に依りて編次したるものにして李後白の序文あり宣祖性理の學を好み一日提學柳希春に語るに李彥廸の文集は既に之を閲覽せり金宏弼鄭汝昌趙光祖等は皆不世出の賢者なり若し述作あらは予の爲に之を輯めよと因て希春諸儒と共に之か編纂に従事し宏弼に關しては景賢錄中より之を摘採し彥廸に關しては遺事の中に就て其の要を抄録し其の他は多く聞見に徴して之を編成し以て國朝儒先錄と題せり金宏弼鄭汝昌は估畢齋金宗直の門人趙光祖は寒暄堂金宏弼の門人にして李彥廸と共に文廟に従祀せられたる名儒なり

○ 俎豆錄

二冊 李萬運編 寫本

圖書番號 一一三四

太廟及文廟に配享したる者其の他各地の祠院に殿享從配したる者の姓名小傳を一併に記録したるものなり正祖の時李萬運之を編す

○ 成仁錄

一冊 尹斗壽編 印本

圖書番號 三二〇四、一一五七九、一一五八七

文天祥と鄭夢周との諸贊を集め二士の肖像及筆蹟をも添へたるものなり宣祖十四年の編成に係る

○ 三仁錄

一冊 李尙逸編 印本

圖書番號 五五六一

慶尙北道善山郡に於ける金澗河緯地及李孟專三士の事蹟を録したるものなり金澗は龍巖と號し高麗亡ひて明に入り李氏に仕へず河緯地は端宗のために節を立て李孟專は耕隱と號し時事艱危を預知し聾盲に托して仕へす後世之を三仁と稱す耕隱の後孫尙逸三人の事蹟を合録し顯宗九年戊申江原道觀察使たりし時之を刊行す

○ 估畢齋門人錄

一冊 金紐編 印本

圖書番號 六七九九

估畢齋金宗直の門徒止々堂一蠹寒暄堂梅溪秋江

等五十人の姓名、官職、行、畧等を録したるものにして其の孫紐の定本なり、宣祖庚辰の刊出に係りしも歳久しくして刑弊せるを以て李太王乙亥嶺南儒林等之を改刊せり、蓋し嶺南か朝鮮の鄒魯と稱せられたるは實に估畢齋か往を繼き來を開きし功なりと爲し追慕の餘、浸梓の舉に出たるものなるか如し

金紐は宣祖の時の人にして樸齋と號し、司馬に中る

○己卯錄

圖書番號 四五〇〇

一冊 金培著 印本

燕山君四年戊午の士禍より中宗十四年己卯に至る黨争の殃に罹りたる諸儒を列記したるものにして其の出所、行狀、流竄、削罷、革科、訴冤等に類別し附傳には貴賤を論せず之に左袒せし者は皆之を録せり而して目錄八賢傳の下に鄭光弼以下二百餘名を收め領議政以下の畧傳を叙し事件に關聯したる前後の事蹟を記せり、金培忠清道觀察使たりし時刊行す

史部

○壺山外史

圖書番號 六七五五

一冊 趙熙龍編 寫本

趙熙龍か常に耳目に觸れ感を興したる諸人の傳を編したるものなり、憲宗甲辰に成る其の人名は朴泰星、受天傳、金壽彭傳、庚世通傳、金神仙傳、李湘藻傳、崔北傳、李宣佃傳、金億林、熙之傳、權孝子傳、李益成傳、金弘道傳、金鍾貴傳、朴永錫傳、金祐孫傳、金完喆傳、張友璧傳、金永冕傳、朴基淵傳、趙神仙傳、嚴烈婦傳、金琬傳、李陽秘傳、姜致祐傳、李興潤傳、千壽慶傳、張混傳、王漢相傳、李同傳、金亮元傳、李在寬傳、劉童子傳、張五福、千興喆傳、嚴啓興傳、趙秀三傳、吳昌烈傳、申斗柄傳、田琦傳、聾山大師傳、朴允默傳等共三十九篇四十一人なり

趙熙龍號は壺山又又峰と號す、金秋史正喜の門人にして書畫を以て名あり

○熙朝軼事

二卷一冊 李慶民編 印本

圖書番號 四二三六、四三三七、四三三八、五一五三

學行名節其の他一善一藝の傳ふべきものにして史乘に載せず草莽の間に湮滅するものを闡揚す

三五九

るため諸家の記録雜著に就きて博く之を蒐録し主として孝友、忠義の傳記を列し次に文學、書畫、琴、碁、醫、卜及貞節の女流に至るまで其の實歴を編次して風教の裨補に資したるものなり

李慶民字は元會、雲岡と號す江陽の人なり純祖甲戌に生れ僉知中樞府事を拜し李太王癸未に歿す家世寒微にして吏曹の小吏たりしも文字を專業とし服役の餘暇書卷を廢せず公卿貴人皆高士を以て待てり

○ 溪下見聞

二卷一冊 金履脩編 寫本

圖書番號 六一四七

金砥行の嘉言善行を其の子履脩が家庭に於ける聞見に隨ひて録出したるものなり下篇に祭文墓誌等を附す正祖の時に成る砥行字は幼道、密庵と號す肅宗丙申に生れ官監役を除して就かす英祖甲午に歿す屏溪尹鳳九に學ひ學問精篤なり金履脩字は永叔、安東の人監司盛廸の曾孫なり英祖乙丑に生れ官奉事に止る正祖戊申に歿す

○ 景賢錄

六卷三冊 金夏錫編 印本

圖書番號

一六九一、一六九二、一六九三、一六九四、一七八九、二四〇九、四三四四、四三四五、四四五五、五七一五

初め李楨、金宏弼、曹偉の事蹟を編輯して景賢錄上下卷を成せり其の後鄭述は李氏の景賢錄中曹偉を省き金宏弼のみ取りて之に増補を加へ景賢錄上下二卷と爲し又遺文、行狀、年譜等を編次して續錄上下二卷を作る然るに失火に遇ひ燒失す次て鄭述の門人金夏錫其の草稿を得て校正編次し又補遺上下二卷を編輯し合せて六卷と爲し肅宗四十五年己亥刊行せしもの即ち本書なり

○ 新刊素王事紀

一冊 印本

圖書番號 五七二〇

孔子の事歴及歷代追崇の次第等を叙記したるものにして其の要目は魯司寇像、先聖紀年圖、先聖世系圖、廟宇、祠祭、行幸、正南面、賜袞冕、州縣學廟設戟、二仲丁祀、祭用三獻、獻官法服、賜禮器、賜樂、設拜頌祝、賜贊、禁淫祀、賜書、賜田、蠲稅、役、襲封、世官、曲阜、墓給灑掃、暮禁樵採、拜謁、位政等なり附録には大明會典祀儀

の下に正壇陳設圖、四配十哲、兩廡陳設圖等を載せ又孔子廟祀の下に釋典儀、迎神、送神及正配位陳設圖を載せ卷末に朝鮮の文廟享祀位、人名及啓聖詞を併録せり

○文山詳傳

三卷三冊 洪啓禧編 印本

圖書番號 七八三七

宋の文天祥の傳にして編者讀書の餘暇文山遺集及正史稗編等に就き適意の事項を取り之を哀成し別に義例を設けず年紀に準して之を記述し校書館の活字を假りて印刷に付したるものなり

○朱子行狀輯注

一冊 李滉編 印本

圖書番號 一七六九

南宋勉齋黃幹の編に係る朱子行狀を主體とし更に群書を涉獵し逐事分注を加へたるものなり

○文公先生紀譜通編

六卷 三冊 印本

圖書番號 四三九三

史部

朱子の年譜、行狀本傳を本とし更に群書を涉獵し逐事分注を加へたるものなり

○隋唐五代人物傳

四冊 嚴台永編 寫本

隋唐より後周に至る賢臣名士の畧傳を抄蒐したるものなり

嚴台永字は應三、寧越の人なり梧西瑤の玄孫にして李太王乙亥に生れ甲午農商衙門主事に入仕し叅書官を歴て大正二年に歿す官副贊議に至る

○先儒姓氏

一冊 寫本

經書に出てたる先儒の姓名を録したるものにして周濂溪以下百六十一人漢儒は馬融一人のみを掲ぐ

系譜類

○國朝譜牒

一冊 寫本

太祖以來の世系を編次したるものにして大王、王

妃の尊號、誕生、昇遐、陵寢及王子女等順序に隨ひ之を列書せり英祖の時に成り孝章世子(後に眞宗と追尊す)に止む

○ 國朝譜牒

一冊

寫本

圖書番號

二三五八、八七八四

李王家始祖以來の世系を編次したるものにして大王王妃の尊號、誕生、昇遐、陵寢、誕生等男女の順序に隨ひ列書し憲宗の時に編成したる太祖以來の譜牒にして篇末に憲宗八高祖圖を附す

○ 國朝譜牒

一冊

寫本

圖書番號

二三五九

哲宗の時に編成したる太祖以來の譜牒にして篇末に大王八高祖圖を附す

○ 濬源系譜紀略

八冊

印本

圖書番號

二〇八八、二三〇六、二三四八、八五九六、自八

六〇六至八七八〇、八七八三

李王家の世譜にして總叙、凡例、先系、繼序、圖世系、八高祖圖等を編載せり肅宗の時始めて之を刊行し新王即位の都度重校補刊し李太王三十四年丁酉

之を刊行す

○ 列聖王妃世譜

八卷三冊

寫本

圖書番號

二三五七、二三七一

穆祖より顯宗に至る歷代王妃の系譜を編次したるものにして行狀、神道碑銘等を附録せり顯宗の時に成る

○ 列聖王妃世譜

一一卷六冊

寫本

圖書番號

二三六六、二三七七、二三七八

穆祖より哲宗に至る歷代王妃の系譜を編次したるものにして行狀、神道碑銘等を附せり哲宗の時に成る

○ 列聖皇后王妃世譜

五卷五冊

寫本

圖書番號

二三六五、二三七五、二三七六

穆祖より李太王に至る歷代皇后王妃の系譜を編次したるものにして行狀、神道碑銘等を附録せり李太王の時に成る

○ 全州李氏世譜

八卷八冊

李容肅編

印本

圖書番號

一〇二八

朝鮮太祖の祖度祖の長子贈兵曹判書李子興の子孫を録したるものなり。子興十二代の孫司直萬翼之に着手し、萬翼六代の孫容肅更に増補し、哲宗戊午之を刊行す。

李容肅字は敬之、純祖戊寅に生れ、官司譯正に至る。

○ 全義李氏族譜 一〇卷一〇冊

李德容編 印本

圖書番號 五三

高麗太師李棹の子孫録にして、舊譜は宣祖七年に編成し、其の後屢次補修を行ひ、肅宗三十七年之を大成す。嘗て世宗之を手書して、孝靖公李貞幹に與へたる家傳忠孝世守仁敬の八大字を卷頭に刊載せり。

○ 龍仁李氏族譜 一二卷一二冊

李參鉉等編 印本

圖書番號 四六二八、四八四二

高麗大師李吉卷の子孫録にして、英祖壬子後孫宜顯か諸族と謀り、創刊す。癸巳の年、宜哲其の族人と謀り、前譜の訛舛を校正、重刊し、李太王己巳後孫

史部

鉉更に博采精校し、以て之を刊行す。李參鉉字は台卿、鍾山と號す。勿齋崇祐の孫にして、純祖丁卯に生れ、甲午、司馬に中り、憲宗辛丑文科に登り、提學を歴て、李太王の時に歿せり。官禮判に至る。

○ 慶州李氏族譜

二卷二冊 李裕元編 印本

圖書番號 一六一五、三九九三

慶州李氏の遠祖居明二十四世の孫白沙文忠公恒福の子孫を録したるものなり。編者は恒福九世の孫にして、李太王戊辰に編次、活印す。卷首に世系分派圖を掲ぐ。

○ 陝川李氏世譜 二卷二冊 印本

圖書番號 八六〇一

陝川李氏の始祖謁平の後孫開の子孫等の合譜なり。中宗二十三年己丑始めて譜牒を修めし。兵燹に罹り損失す。李太王元年甲子之を補修して刊行す。

○ 慶州金氏族譜 一九卷一九冊 印本

三六三

圖書番號 二九九一

新羅敬順王の後裔たる慶州の金氏の合譜にして李太王十年癸酉諸後孫協力して之を編刊す

○清風金氏世譜 四卷四冊 金在魯編 印本

圖書番號 一八一九、三七七四

清風金氏高麗門下侍中大猷の子孫を合録せし族譜なり英祖二十六年庚午後孫在魯之を輯刊す

○清風金氏世譜 二〇卷二〇冊

金學性等編 印本

圖書番號 一七一、一八二五

清風金氏の系譜なり金氏舊と譜牒あり宣祖壬辰兵火に焼失せしを以て仁祖丁丑潜谷金増譜牒を新修し英祖庚午清沙金在魯之を増補し哲宗丁巳判書金學性諸族と與に之を續修す

金學性字は景道、松石と號す雲溪鍾正の曾孫にして純祖丁卯に生れ戊子司馬に中り文科に登り待教、副學提學を歴て官兼吏判に至り李太王の時に歿せり諡を孝文と云ふ

○金海金氏族譜 四冊 金一永編 印本

圖書番號 五九二三

金海金氏の世譜にして首露王を始祖とせり李太王辛巳後孫一永の編輯せしものなり第四卷に駕洛國の故地金海の古蹟及金氏の先世誌狀を附す

○延安金氏派譜 三卷三冊 金世基等編 印本

圖書番號 一二四四三

延興府院君金悌男兄弟の子孫譜なり李太王光武五年辛丑金悌男宗孫世基諸族と謀りて編刊す

金世基字は大有、延安の人延興府院君悌男の宗孫なり哲宗壬子に生れ李太王甲戌司馬に中り蔭仕に補せられ壬午文科に登り官資憲に至り李太王戊申に歿す

○東萊鄭氏派譜 五卷五冊 鄭元容等編 印本

圖書番號 八六〇、一一〇五、三九一八

東萊鄭氏中水竹鄭昌衍の子孫の系譜のみを編録せるものにして哲宗己未鄭元容等の編に係る鄭氏の譜は曩に宣祖十八年乙酉鄭惟吉始めて編成し孝宗六年乙未鄭良弼之を補修し肅宗四十二年丙申鄭必東更に之を補し全譜を成せり丙申以後

は卷帙浩繁にして全譜と爲し難きを以て各孫其の派譜を編輯せるものにして本書も其の一なり

○海州鄭氏派譜 二卷三冊 鄭冕錫等編 印本

圖書番號 一八二一

海州鄭氏大司諫愼の族派を分ちて一譜を編成したるものなり其の一冊は附録にして行狀碑銘等を收む李太王光武四年庚子愼の後孫等相共に編輯上刊す

鄭冕錫字は聖益海州の人農圃文字十世の孫なり憲宗己酉に生れ李太王庚寅文科に登り秘書院丞を歴たり

○慶州鄭氏世譜 一〇卷一〇冊

鄭寅奎等編 印本

圖書番號 七〇一

新羅の初六部長の一人背山珍支部長智伯虎の子孫録にして智伯虎は儒理王二十九年壬子姓を賜はり鄭氏となれり鄭譜は英祖十年壬子創刊し正祖十六年壬子純祖三十四年甲午及哲宗八年丁巳に重刊す此の書は即ち丁巳本なり

史部

鄭寅奎字は致協慶州の人忠愍公撥十世の孫なり憲宗戊戌武科に登り官水使に至る李太王の時に歿す

○奉化鄭氏世譜 九卷九冊 鄭應哲等編 印本

圖書番號 六九〇二

奉化鄭氏高麗正議大夫公美以下の世譜なり鄭氏は英祖丁亥に譜牒を作り後李太王乙巳後孫應哲等之を増修刊印す鄭應哲は奉化の人にして三峯道傳の後なり憲宗癸卯に生れ李太王丁卯文科に登る

○藩南朴氏世譜 二〇冊 朴宗薰編 印本

圖書番號 一九二九、二二八四

藩南の人高麗戸長朴應珠の子孫を録したる族譜なり純祖辛卯其の後孫朴宗薰の編輯上刊する所に係り合して九卷とし毎卷或は上下編或は五六編に分ち墳墓圖を附す

○密陽朴氏世譜 一三卷一三冊

朴淵會等編 印本

圖書番號 八二三

三六五

密陽朴氏中端宗の時の忠臣朴審問の子孫の派譜にして李太王十年癸酉後孫淵會諸族と共に編刊す

○ 楊州趙氏世譜 七卷二冊

圖書番號 三七五八、三七五九

趙泰萬編 趙榮國增修 印本

楊州趙岑の子孫を合録したるものにして岑十二世の孫泰萬之を編し景宗元年辛丑弟泰億慶尙監司たりし時刊出し英祖十九年癸亥再從孫榮國増修重刊せり

趙泰萬字は濟博古朴齋と號す楊州の人苔村嘉錫の子なり顯宗十三年壬子に生れ肅宗四十三年丁酉學行を以て登仕し官侍直に至り英祖三年丁未に歿す

趙榮國字は君慶月湖と號す楊州の人大憲泰東の子なり肅宗二十四年戊寅に生れ景宗三年癸卯進士に中り英祖六年庚戌文科に登り翰林を歴て官吏曹判書に至り同王三十六年庚辰に歿す靖憲と諡す

○ 豐壤趙氏世譜 三〇卷一〇冊

趙暉等編 印本

○ 豐壤趙氏世譜

三五卷一〇冊

趙寅永等補編 印本

○ 豐壤趙氏世譜

八〇卷二九冊

趙秉弼等補編 印本

圖書番號 一〇七、一六七、一六八、一八二四、一八二九、

一八三〇、一八三一

高麗太祖の功臣趙孟の子孫三十七派の系譜にして三種あり顯宗の時趙諫始めて之か編次に着手し英祖三十六年庚辰趙暉之を續成して三十卷とし後純祖二十六年丙戌趙寅永増補して三十五卷とし後又李太王光武四年庚子趙秉弼更に之を増補し八十卷とせり

趙暉字は明瑞永湖と號す鶴塘尙綱の子にして肅宗己亥に生れ英祖戊午司馬に中り壬申文科に登り提學を歴て官吏判に至る正祖丁酉に歿す諡して文翼と云ふ

趙秉弼字は聖必幹山と號す豐壤の人斗山龜永の子にして憲宗乙未に生れ李太王庚午文科に登り三司を歴て戊申に歿す官内部大臣に至る

○ 白川趙氏世譜

二三卷一三冊

趙冕根編 印本

圖書番號 二九二九

白川趙氏の譜牒にして左僕射趙之遴に始まり十三世に至り京郷の子孫を収録す第一卷には先代の事蹟と墓道の文字とを輯録せり李太王十七年庚辰後孫趙冕根之を上刊す
趙冕根字は周伯參判台祥の曾孫にして純祖壬午に生れ未だ仕へずして歿す

○ 驪興閔氏族譜

三八卷三八冊

閔致序等補編 印本

圖書番號 一六九、二二九三、三七八六、一二二二四

驪興閔氏一族の系譜にして閔氏の譜は朝鮮國初太宗の妃元敬王后の本系を修するに當り始めて之を編し其の後司諫閔定命十餘卷を撰せしか兵燹に失し光海君十四年壬戌驪興君閔仁伯姓譜一卷を編輯し顯宗十二年辛亥閔鼎重旁搜博考して八編を成す肅宗三十九年癸巳閔鎮厚閔鎮遠復た政輯し純祖二年壬戌閔昌焮之を増修し李太王二十六年己丑閔致序等續成上刊せり

史部

閔致序字は景殷純祖十七年丁丑に生れ憲宗十年甲辰進士に中り十四年戊申蔭を以て判書となる李太王二十六年己丑に歿す

○ 驪興閔氏派譜

一冊 閔致序等編 印本

圖書番號 一八、一九

驪興閔氏中監司光勳の子大司憲著重左議政鼎重驪陽府院君維重三兄弟の子孫最も繁榮し之を三房派と稱す本書は即ち其の系譜なり

○ 海平尹氏世譜

一九卷八冊 尹塔編 印本

圖書番號 一八四八

慶尙道海平縣(今善山郡)尹氏の世譜なり原譜は十九卷にして別編並に古蹟墓山圖等を附載す後孫塔之を編次し黃海監司たりし時に上刊す
尹塔字は泰升霞谷と號す海平の人長洲暉の孫なり光海君壬戌に生れ孝宗庚寅進士に顯宗壬寅文科に登り官戸曹判書に至る肅宗己巳廢妃の時權貴に忤ひ竄せられて壬申に歿す翼正と贈諡す

○ 海平尹氏世譜

三六卷一四冊

尹致定編 印本

三六七

圖書番號 一七〇、一八二六、一八二七

海平尹氏世譜の舊本は宣祖壬辰の兵燹に失し肅宗、正祖の兩時に於て屢改修を加へたるも訛誤遺漏を免れざるを以て哲宗二年尹致定舊本の五層圖を改めて六層となし遠派微族に至るまで一齊に之を網羅し始めて完成したるものなり

尹致定字は士能、石醉と號す龍浦世紀五世の孫にして正祖庚申に生れ純祖己丑文科に登り提學を歴て官吏判に至る李太王の時に歿す諡して文貞と云ふ

○ 杞溪俞氏族譜

一二卷三冊

俞命咸等編 印本

圖書番號 一八一三

杞溪俞氏の族譜にして仁祖二十三年乙酉市南俞榮之を編刊し次て肅宗三十年甲申俞命咸俞命健二人更に之を増補編成し連山郡守俞命聃之を刊行す原八卷と別録及附録三卷一冊あり外に墳墓圖を併載す

俞命咸字は士亨、著作樟の子なり顯宗壬寅に生れ

肅宗丁卯司馬に中り丁亥文科に登り官持平に止まり辛卯に歿す

俞命健字は仲強、大司憲楸の子なり顯宗甲辰に生れ肅宗壬午司馬に中り官牧使に止まり景宗甲辰に歿す

○ 杞溪俞氏世譜

一一卷一一冊

俞致善編 印本

圖書番號 二三六二

杞溪俞三宰の子孫錄にして初め肅宗三十年甲申の年に編刊し後李太王四年丁卯俞致善の京畿觀察使たりし時更に増補重刊す

俞致善字は子慶、牧使漢葛の曾孫なり純祖癸酉に生れ辛卯司馬に中り蔭補を以て判官を拜し憲宗甲辰文科に登り官判書に至り李太王の時に歿す

○ 昌寧成氏族譜

四卷四冊 成瑛編 印本

圖書番號 九七九八

昌寧の人成仁輔の子孫錄にして初め成宗二十四年癸丑に編し光海君八年丙辰之を刊し後肅宗三十五年己丑之を重刊す成氏には元路上路下の別

あり親族の關係なきものとせしか後舊墓の短碣を得て其の親族たること判明せり本書は兩派の合譜なり

○昌寧成氏思肅公派譜 一冊 成道默編 印本

圖書番號 三一五一

昌寧成氏思肅公世純以下一派の系譜なり世純十世の孫道默の編次したるものにして憲宗二年丙申之を上刊す

成道默字は聖及昌寧の人なり文簡公成渾八代の孫にして純祖甲子進士に登り乙丑入仕して屢州郡を典り官敦寧都正に至り哲宗甲寅に歿す

○海州崔氏世譜 五卷五冊 崔尙鼎編 印本

圖書番號 八四七

海州崔氏の派譜にして英祖二十年甲子編者等諸族と謀り哀輯上刊す先祖文憲公沖以下の著述したる文字の遺佚せるものを收拾し家藏と題して附載す

崔尙鼎字は君受海州の人領議政奎瑞の子なり肅宗丁未に生れ己卯司馬に中り蔭仕に補し官參議

に至る

○豊山洪氏族譜 六卷六冊 洪象漢編 印本

圖書番號 二一

豊山洪氏の一族を合録したるものなり肅宗三十五年始めて之を上刊し英祖四十四年修補再版す洪象漢字は雲章豊山の人吏參錫輔の子なり肅宗辛巳に生れ英宗丁未進士に魁たり甲寅禁府都事を授けられ乙卯文科に登り官判書に至り己丑に歿す

○大邱徐氏世譜 一〇卷九冊

徐有偉等編 印本

圖書番號 二〇二、二〇一

高麗徐開の子孫録にして肅宗二十八年壬午初めて刊し英祖十二年丙辰五十一年乙未純祖十八年戊寅及哲宗三年壬子に重修す本書は即ち壬子本なり全宗を九派に分ち癸編には墓表、神道碑銘墓誌銘、補遺記、名字、行第圖等を収録せり

徐有偉字は可大、大邱の人大憲命九の從孫也正祖癸卯に生れ哲宗癸丑假監役を歴て官監役に至る

○ 昌原黃氏族譜

六冊

印本

圖書番號 九九三

高麗恭愍王の時に於ける檜山府院君黃石奇以下其の子孫の族譜にして二十七世に及へり李太王の時に印刊す

○ 綾城具氏姓譜

三卷一冊 具仁等編 印本

圖書番號 四一、四二

具仁等か宣祖八年に編成し邊循の校訂を経て其の翌年に上板したるものなり全編を上中下三卷に分ち上は具氏歴代の墓誌類にして中下は其の姓譜を載し附するに別譜を以てす

具仁字は大春、八松齋と號す綾城の人なり明宗の時經學を以て諮議に薦められしも仕へず學問に沉潜して後進を教導し一時名流門下より出る者多し

○ 昌原孔氏族譜

一冊 孔胤道編 印本

圖書番號 三一六五

昌原孔氏の族譜にして卷首に闕里圖昌原府圖を掲ぐ孔氏以後世代の順序に依り編輯し譜牒と爲

す英祖の四十七年辛卯孔胤道之を上刊す

孔胤道字は貫汝、休岩、瑞麟、九世の孫にして英祖王子に生る

○ 新安朱氏世譜總卷

一冊 朱錫冕編 印本

圖書番號 四七八、四七九

清溪公朱濟の世譜にして朱濟字は景陶、朱熹の曾孫なり高麗高宗十一年七學士と共に朝鮮に來り遂に歸化せりと云ふ跋文は朱熹二十五世の孫徑の撰する所にして文中に濟の東來後六百八十餘年と記せり卷首に李太王の詔文あり編修の緣由を明にせり

朱錫冕號は岡山、新安の人なりと云ふ李太王の時仕に入り協辨を歷たり

○ 穎陽千氏族譜

一〇卷一〇冊

千光祿編 印本

圖書番號 二九三〇

穎陽千氏の譜牒にして花山君千萬里に始り京郷の五十三派を分ちて子孫を收録せり李太王光武七年癸卯後孫光祿之を刊出す

千光祿字は華善、花山君萬里の後孫にして哲宗辛亥に生れ、李太王四十年癸巳文魁に登り、持平に歴任せり。

○御製孝章世子年譜

一冊 英祖編 印本

圖書番號 七二三

眞宗東宮に在り、十歳にして昇遐す。英祖其の夙就岐嶷なるを以て、特に悲傷し、戊申親ら其の年譜を作りて刊行す。

○仁興君年譜

一冊 李愔編 印本

圖書番號 六二四一

宣祖の第十二子仁興君瑛の年譜にして、其の詩文若干を附録せり。瑛字は可輦、醉隱と號す。宣祖三十七年甲辰に生れ、仁興君に封せられ、孝宗二年辛卯に歿す。編者愔は其の子にして、肅宗の二十五年之を上刊す。

李愔字は和叔、最樂堂と號す。全州の人。靖孝公瑛の子なり。仁祖庚辰に生れ、朗原君に封せられ、肅宗庚辰に歿す。兄觀瀾、朗善君、俱に賢宗室と稱せらる。

○冲菴年譜

二卷二冊 吳熙常編 印本

圖書番號 四〇四五

冲菴金淨の年譜なり。上卷は年譜にして、下卷は祭文、本傳、碑誌及諸家の記述と、夫人宋氏の旌閭記會孫聲遠の義士傳等を附す。純祖三十一年辛卯、其の嗣孫商協して之を哀輯し、業を卒ふるに及ばず。子聖恭之を吳熙常に囑して、完了し、越えて四年乙未に刊行す。

吳熙常字は士敬、老洲と號す。海州の人。月谷瑗の孫なり。英祖癸未に生れ、正祖庚申薦を以て、洗馬を拜し、官贊善に至り、純祖癸巳に歿す。吏曹判書を贈られ、諡を文元と云ふ。熙常名家の孫にして、其の兄寧齋允常の薰陶を膺け、學問文章並に名あり。

○霽峯年譜

一冊 高濟寅編 印本

圖書番號 四六四四、五一七一

高敬命の年譜にして、附するに父子三人殉節の事蹟を以てせり。敬命字は而順、霽峯と號せり。中宗二十八年光州に生る。才學俊秀、殿試甲科に魁たり。後文臣庭試第一名に中り、官弘文館副校理、司憲府持

平に至る宣祖壬辰に壇を秋城館に設け香を焚き天に誓ひ勤王の義を倡へ轉戦して二子と與に陣歿す仍て光州に褒忠祠を建て忠烈公と諡す長子從厚は孝烈と諡し次子因厚は毅烈と諡す

○牛溪年譜補遺

五卷二冊 尹拯編 寫本

圖書番號 七二五四

牛溪成渾の年譜中に遺漏せるものを諸家の文集、雜記、漫筆、野乘等より收拾し德行、出處、答問、雜錄、從厚、疏章、年譜後説の七門に分ちて編纂したるものなり英祖五十年甲午牛溪の後孫光默之を刊行す卷末の師友門人録は尹光紹の増補に係れり

○栗谷牛溪年譜

四卷四冊 宋時烈編 印本
尹宣舉編

圖書番號 三〇七〇

栗谷李珥及牛溪成渾の年譜を合編したるものにして栗谷年譜は尤菴宋時烈之を編次し牛溪年譜は美村尹宣舉之を編次す附録として行狀、碑誌及祭祝文を收輯し更に兩氏に關する諸家の疏笏を合編す

尹宣舉字は吉甫魯西又美村と號す坡平の人八松煌の子なり光海君庚戌に生れ仁祖癸酉生員進士に中り遺逸を以て薦められ諮議を授け執義に叙せられたるも就かす顯宗己酉に歿す特に領議政を贈り文敬と諡す仁祖丙子清國僭號の書來到の時進士を以て上疏し來使を斬らむ事を請ふ丁丑の後錦山に隱る嘗て慎獨齋金集の門に従學せり

○松江年譜

二卷二冊 宋時烈編 印本

圖書番號 五六四三

鄭澈の年譜にして顯宗十五年甲寅に編成す澈字は季涵松江と號す延日の人松谷淵の玄孫なり中宗丙申に生れ明宗辛酉進士に中り壬戌文科に魁し銓郎を歴て官左議政に至り光國平難兩勳に録せられ宣祖癸巳に歿し文清と諡す文章清名あり

○西厓年譜

三卷二冊 印本

圖書番號 一七三二、二八四六、五一七六、五一七七

柳成龍の年譜にして全部三卷第一、二卷は世系表並に年譜記事第三卷は行狀、祭文、書院奉安文、輓詩等を附載す成龍字は而見西厓は其の號なり豊山

の人にして退溪李滉に學ぶ甲子生員進士に中り
丙寅文科に及第し官領議政に至る壬辰の扈從功
臣にして文忠と諡す

○沙溪年譜

一冊 金鎮玉等編 印本

圖書番號 七〇〇八、七二六一

金長生の年譜なり長生字は希元沙溪と號す光州
の人にして業を栗谷李珥の門に受け博く禮學に
通し學行を以て著はれ官叅判に至る丁卯清軍東
侵の際兩湖號召使となり義を擧げ轉戰して功あ
り明宗三年に生れ仁祖九年八十四歳にて歿す文
元と諡し文廟に従祀せらる外曾孫李氏初めて年
譜の編纂に著手せしも業を卒へすして歿し玄孫
金鎮玉金鎮泰等遺命を承け補纂修潤を加へて上
刊す

金鎮玉號は韞齋光州の人なり吏曹判書金益熙の
孫にして英祖の時蔭途を以て江原監司に拜せら
る

○旅軒年譜

三卷一冊

印本

圖書番號 一三一五、一三一六

史部

張顯光の年譜なり顯光字は德晦旅軒と號す仁同
の人にして明宗甲寅に生れ性理の學に通し官吏
曹判書に至り文康と諡し洛東書院に享祀せらる
著書頗る多し

○漢陰年譜

四卷三冊 李基讓編 印本

圖書番號 四三三一

漢陰李德馨の年譜なり三卷以下は誌狀遺事、教書、
祭輓等の文字を録す李太王己巳祀孫宜翼京畿觀
察使たりし時印出す

李基讓字は士興號は苾菴廣州の人漢陰德馨の後
なり英祖甲子に生れ正祖乙卯縣監を以て文科に
登る

○八松年譜

二卷一冊

尹舜舉等編 印本

圖書番號 五二四九

文正公尹焯の年譜にして遺事、挽章、祭文等を附せ
り焯の子舜舉諸兄弟之を起草し後孫憲圭及鳳鎮
之を訂補し憲圭の子承鎮之を釐正し哲宗甲寅之
を印行す焯字は德輝、八松と號す坡平の人大司成

三七三

惇の玄孫なり宣祖辛未に生れ丁酉文科に登り官大司諫に至り仁祖己卯に歿す少より學業を修め聲譽蔚然たり牛溪成渾迎へて以て女婿と爲し是より學行愈進む仁祖丙子斥和の疏を作り竟に仕へす後領議政を贈り諡を文正と云ふ不祧の命あり

○ 慎獨齋年譜

二卷一冊 金箕洪等編 印本
圖書番號 六一八二

慎獨齋金集の年譜なり金集は金長生の子にして道學を承襲し其の禮説と文集は既に刊行せられたるも年譜は二百餘年未だ成らざりしを以て李太王八年辛未後孫箕洪在謹等之を編成刊出す

○ 浦渚年譜

五卷二冊 尹拯等編 印本
圖書番號 三三〇、三三一

趙翼の年譜なり翼字は飛卿號は存齋其の先は豐壤の人なり門生尊稱して浦渚先生と云ふ宣祖十二年に生れ壬寅文科に登り官左議政に至り孝宗十七年七十七歳にして歿す文孝と諡す本書第一

卷世系年譜は尹拯の編にして第二卷墓誌銘は尹宣舉神道碑銘は宋時烈誌狀は宋浚吉等の手に成り第四、五卷には諸儒の祭文、挽詞、祝文、辨疏等を附載す

○ 陽坡年紀

二卷二冊 鄭大和著 寫本
圖書番號 六九八三

著者の日記にして宣祖三十五年壬寅より孝宗七年丙辰に至る五十五年間に互り公私の大小事を録せり中に就き清と始めて交際せしこと及相業に關すること等見るべきなり

鄭太和字は囿春、陽坡と號す東萊の人濟谷廣成の子なり宣祖壬寅に生れ仁祖甲子進士に中り戊辰文科に登り史局に入り官領議政に至り顯宗癸丑に歿す翼憲と諡し顯宗廟庭に配享す

○ 同春年譜

四卷二冊 印本
圖書番號 二八四五、四八三五

宋浚吉の年譜にして正祖四年庚子に上刊す浚吉字は明甫號は同春、恩津の人宣祖三十九年漢城貞洞の寓居に生る仁祖甲子の生員進士にして官叅

贊に至る顯宗壬子に歿す歳六十七文正と諡し文廟に配享す

○市南年譜 一冊 兪相基等編 印本

圖書番號 五一六〇

市南兪樑の年譜なり卷首に世系を録し次に年譜事畧に及ふ初め長孫相基之を編し半藁に止りしを五代の孫纘柱之を補ひ其の友洪量海金奎五に托して修潤校正し英祖五十一年乙未に刊行す
兪相基字は公佐號は祈招齋杞溪の人市南樑の孫なり孝宗辛卯に生れ蔭仕を以て縣令に至り肅宗戊戌に歿す嘗て尤菴宋時烈に學ひ又明齋尹拯に從遊す後尹拯と家禮源流の事を以て絶つ

○松谷年譜 二卷一冊 趙持謙編 印本

圖書番號 五九〇九

松谷趙復陽の年譜にして其の子持謙の編したるものなり卷尾に言行總畧を附し且つ文集中に漏れたる檢閲時請勿送再師疏の一長篇を載す持謙歿後子孫之を印刊す復陽字は仲初漢陽の人浦渚翼の子なり光海君元年己酉に生れ仁祖癸丑進士

史部

に中り戊寅文科に登り翰林待教大提學を経て吏曹判書に至り顯宗辛亥に歿す文簡と諡す

趙持謙字は光甫遼齋又鷗浦と號す豐壤の人浦渚翼の孫なり仁祖己卯に生れ顯宗庚戌科に登り選れて湖堂に入り官副提學兼大司成に至り肅宗丙寅に歿す

○靜觀齋年譜 二卷一冊 李喜朝編 印本

圖書番號 七三三、七三二、七三三、七三二、七三三、七三二

李端相の年譜なり端相字は幼能靜觀齋と號す延安の人仁祖六年戊辰に生れ戊子進士に魁し己丑文科に登り官副提學に至り顯宗十年己酉に歿し文貞と諡す越えて三年壬子子喜朝本書を編成し肅宗二十九年癸未に至り刊行す

○文谷年譜 二卷二冊 金昌協等編 印本

圖書番號 四二九五

文谷金壽恒の年譜なり文谷歿後第二子農巖昌協年譜を草し第五子昌緝之を繼修し純祖二年壬戌に至り諸後孫公私文蹟を更考補纂し卷首に世系と子孫録を載せ以て印行す

三七五

○^{ハク}明齋年譜 六卷三冊 尹光紹編 印本

圖書番號 一一五三五

明齋尹拯の年譜にして草本は初め門人の手に成りしか族曾孫光紹其の繁を刪り缺を補ひ訂正編次し英祖二十五年己巳の年刊行したるものなり各冊二卷上冊を年譜中を附録下を後録とせり尹光紹字は稚承素谷と號す坡平の人八松煌の後なり英祖庚申蔭官を以て文科に登り官知敦寧府事に至り正祖の時に歿す

○南溪年譜附録 四卷二冊 印本

圖書番號 五四〇八、七〇八六

南溪朴世采の年譜の附録にして收むる所行狀、墓表、致祭文、東宮致祭文、御製祭文、門人祭文、書疏等なり

○寒水齋年譜 一冊 印本

圖書番號 五一三〇

寒水權尙夏の年譜なり卷首に世系を録し年譜の末に追奪復官延諡等を繼録す門人の撰定したるものにして英祖三十七年辛巳慶尙監營に於て開

刊す

○厚齋年譜 二卷一冊 金鐘正編 印本

圖書番號 四五六五

金餘の年譜なり卷首に世系を録し純祖辛未曾孫鐘正之を編成し戊寅之を刊行す金餘字は直卿厚齋は其の號にして清風の人なり仁祖丙戌に生れ遺逸に薦められ南臺を経て官叅贊に至り英祖壬子に歿す領相を贈り文敬と諡す曾て學を玄石朴世采に受け學問淵博なり

金鐘正字は伯剛號は雲溪清風の人厚齋餘の曾孫なり英祖壬寅に生れ辛酉司馬に中り丁丑文科に登り官吏曹判書に至り正祖丁未に歿す諡を清獻と云ふ

○良齋年譜 七卷三冊 印本

圖書番號 一七四六

崔奎瑞の年譜にして世系言行を録し卷尾に遺戒遺事を附す編者の名を署せずと雖五代の孫璜か哲宗の時刊行せしものなるへし崔奎瑞字は文叔良齋と號し海州の人孤竹慶昌の玄孫なり孝宗庚

寅に生れ顯宗己酉司馬に中り肅宗庚申文科に登り英祖戊申大臣を以て致仕退居す李麟佐の亂を告げ之を討平し一絲扶鼎の四字を書下せられ乙卯に歿す諡を忠貞と云ふ

○ 三淵年譜 二卷一冊 金洙根編 印本

圖書番號 二九七二、三〇九八、四一八五、四三二一、四

三二二、四三三三、四五六〇、五一六二

金昌翁の年譜にして金洙根の編する所に係る昌翁字は子益、三淵と號す安東の人領議政文忠公壽恒の子なり孝宗四年癸巳に生れ顯宗癸丑進士に中り高文卓操を以て薦められ官進善に至り景宗二年壬寅に歿す後文康と諡す卷未に行狀墓表を附せり

金洙根字は晦夫、安東の人牧使麟淳の子なり正祖戊午に生れ純祖戊子進士に中り蔭仕を以て童蒙教官を拜し甲午文科に登り文任を経て官吏曹判書に至り哲宗甲寅に歿す諡を正文と云ふ哲宗廟庭に配享す二子楨樵炳學、楨漁炳國俱に上相に至り炳學文衡を興る

史部

○ 杞園年譜 一冊 魚命能編 寫本

圖書番號 一二九七五

魚有鳳の年譜にして憲宗四年戊戌玄孫命能の編成したるものなり有鳳號は杞園と稱し顯宗十三年壬子に生れ遺逸を以て官贊善に至る英祖二十年甲子に歿す

魚命能字は而爽、愚堂は其の號なり咸從の人杞園有鳳の玄孫にして正祖丁卯に生る

○ 黎湖年譜 四卷二冊 印本

圖書番號 一七二六、一七三七、一一四七八

朴弼周の年譜なり弼周は肅宗六年漢城の太平館洞に生る字は尙甫、黎湖と號し文敬と諡す始祖は全羅道羅州潘南縣の人にして弼周は其の十七世の孫なり篤學力行名利に淡く英祖の時官議政府右贊成兼世子貳師に至りしも遺逸の禮を以て待遇せられ肅宗、景宗、英祖に歴任し年六十九にして歿す

○ 梧川年譜 二卷二冊 寫本

圖書番號 一七一六

三七七

李宗城の年譜にして宗城字は子固、梧川と號す廣州の人、鷺谷台佐の子なり、肅宗の時進士に中り、英祖の時文科に登り、三代に歴史し、官領相に至る初諡は孝剛、後文忠と改む、六十八にして歿す

○ 荷棲年譜

一冊 印本

圖書番號

五〇四〇、五〇九七、五四六〇、六六八六、六

六八八、六六九二、六六九三、六六九四、六七五八、六七五九、

六八八九

趙瓊の年譜なり、瓊字は景瑞、荷棲は其の號なり、豐壤の人、牧使尙紀の子なり、英祖三年丁未に生れ、癸未文科に登り、官は翰林を経て右議政に至り、正祖丁未に歿す、忠定と諡す

○ 桐漁年譜

二卷一冊 李敦字編 印本

圖書番號

二八二六

李相瓊の年譜にして其の姪敦字の編する所なり、李太王十二年乙亥に印刊す、相瓊字は周玉、號は桐漁、全州の人、承旨得一の子なり、英祖癸未に生れ、正祖丙午司馬に中り、文科に登り、翰苑に入り、官領議政に至り、憲宗辛丑に歿す、諡を文翼と云ふ、憲宗廟庭に配享す、學識淵博にして相業偉大なり

李敦字初名は敦榮、字は允恭、號は辛憇、桐漁の從子なり、純祖辛酉に生れ、丁亥文科に登り、文衡に圈し、官輔國兼吏曹判書に至る、李太王の時に歿す、諡を文貞と云ふ

○ 洪翼靖公年譜畧

一冊 洪樂仁等編 寫本

圖書番號

三三三六

洪鳳漢の畧年譜にして釋褐以後の内外官歴と事務の施措とを記し、及賜諡賜祭に關したる大畧を載録せり

洪樂仁字は大園、安窩と號す、豐山の人、翼齋鳳漢の子なり、英祖己酉に生れ、辛巳教傅を以て文科に登り、官叅判に至り、正祖辛亥に歿す

○ 冠巖紀年

七冊 洪敬謨編 寫本

圖書番號

五九一一

冠巖洪敬謨自編の年譜にして英祖二十六年甲午に始り、憲宗七年辛丑に至る六十八年間に於ける經歷事實を録せり

○ 海石日錄

三〇卷一五冊 金載瓚編 寫本

圖書番號 四一九三

編者出仕の初日より歿年に至るまで五十四年間の日記にして疏、筭、筵、說、批、答、書、啓、及、附、録、等、を、併、載、す

○ 清州韓氏世系

一冊 韓應疇編 寫本

圖書番號 一〇二六

清州の人韓應疇か其の始祖蘭より自己に至る歴世の字號、生歿、官職、行事、誌狀等を録したるものにして哲宗三年壬子の歲に成る

韓應疇字は公範、清州の人縣監義新の子なり純祖乙亥に生る

○ 三陟沈氏世系

一冊 沈晋洙等編 寫本

圖書番號 六三〇九

三陟沈氏の始祖迪冲より二十四世の孫相哲に至る世系を寫録したるものなり

○ 宋熙業十二世系

一冊 宋熙業編 印本

圖書番號 七七八一

編者の内外曾祖以下父母に至る世系並に自己の前後妻の内外世系と共に十二家の先系を録し之

史部

に十六祖圖を冠し又十二系中文科に登りたる各

人の科榜及自己兩妻の八高祖圖を卷尾に附し仁祖の二十二年甲申に刊出す

宋熙業は礪山の人順菴寅の曾孫なり官は縣令を經たり

○ 梁文襄公外裔譜

一冊 寫本

圖書番號 三五三三、一一五七五

世祖の時の大提學文襄公梁誠之の奏議に據り奎章閣を創立し提學、直提學、直閣待教の官を設け文臣を峻選して之に任し以來十六年凡て三十人皆梁誠之の外裔なり正祖之を賞歎し丁酉の年奎章閣に命し本書を編せしむ

○ 慕堂内外子孫錄

三冊 寫本

圖書番號 三二〇四

慕堂洪履祥の内外子孫を列録したるものなり其の年間は慕堂の子婿より正祖十八年甲寅に現在せし人に及ぶ

○ 金氏分貫錄

一冊 金昌熙編 寫本

圖書番號 四六四三

三七九

金氏分派の族貫を地方別と爲し各其の祖系を正し同族の關係を昭にしたるものにして卷首に分貫收草事例を載せ次に摺紳、有司、節目等の數例を擧ぐ卷末には各道有司邑分掌記を掲げ以て本支の所掌を詳にせり

○ 朴氏溯源錄

二卷二冊 朴世旭等編 印本

圖書番號 一六五九

新羅始祖朴赫居世の後孫密陽の人世旭か其の始祖の事蹟及八君分派各貫の名人を彙録したるものなり編成は英祖四十四年戊子にして刊行は正祖の十年戊午なり

○ 河忠烈公貫系辨認錄

六卷三冊

朴光輔編 印本

圖書番號 二九七三、三一三二

端宗の時の忠臣河緯地の貫郷に付或は丹溪なりとし或は晋州なりとし丹溪の河氏と晋州の河氏と互に争ふこと數百年に及へり淵泉洪爽周禮曹判書たりし時丹溪の河始徹と晋州の河錫中とを對質し其の丹溪にして晋州に非ざることを判定

す編者は河緯地と事を共にしたる朴彭年の後孫にして丹溪河氏たることを證するため本書を編せり

○ 文譜

四冊

寫本

圖書番號 一〇三一

純祖憲宗、哲宗及李太王の四代間に於ける文科登第者の姓貫を分類し父祖以上八世の名と外祖妻父との姓名とを録したるものにして編成は李太王の末年なり

○ 三班十世譜

六冊

寫本

圖書番號 四二五二

純祖後哲宗の時に至る文蔭武の三班に登りたる人の十世を録したるものなり

○ 摺紳五世譜

一冊

寫本

圖書番號 一三二九

李、金、鄭、徐、尹、趙、洪、申、沈、閔、權、朴、韓、柳、俞、宋、吳、任、姜、南、林、黃、崔、具、蔡、丁、睦、魚、元、呂、許、曹、安、成、盧、郭、慎、白、嚴、孟、奇、張邊羅四十四家五世の系譜なり下部に其の外祖及妻父の名を附書し官職を傍注せり

○ 名人號譜 一二卷一〇冊 李容民編 寫本

圖書番號 二三八〇

羅麗以來の別號を編録せしものにして忠孝節義道徳勲業及詩文書畫に至る迄凡そ一藝一能ありて別號ある人は織悉蒐集し僧尼娼妓に至るまで備載せり

○ 號譜

六冊 寫本

圖書番號 五〇六九

聞人の別號を編輯したるものにして第一冊には堂齋菴軒山川溪谷等を以て分類し第二冊以下は姓を類聚し略歴を載す而して官位の高低人格の賢否は之を問はず別號ある人は一切載録せり

年表類

○ 皇極經世書東史補編通載 九卷九冊

申翊聖編 印本

圖書番號 一三三七、三四八五、四六〇〇、四八七五

宋の邵雍の皇極編に基き宣祖の時申翊聖か東史の事實を參酌して補撰したるものなり邵雍の記

史部

す所は周の世宗己未契丹を征するに止まり宋の

太祖受禪以下を録せず翊聖は丘濬の編次せし史

綱に法り其の目を捨てて其の綱を取り専ら高麗

史、東國通鑑、東國史略等の書を根基と爲し李彥迪

李滉の遺説を襲用して編次せり筆を檀君朝鮮に

起し高麗廢王禡十年以降朝鮮太祖元年壬申に至

りて止む

○ 經世指掌 二卷二冊 洪啓禧編 印本

圖書番號 三七、六六、一七二三、二〇七三

英祖三十四年洪啓禧か邵康節の皇極經世書を本とし帝堯以來四千有餘年間一歳を一劃とし四千二百劃を作り之に支那及朝鮮に於ける歴史上の大事を記入したるものにして後編は明太祖洪武十七年即ち高麗廢王禡十年より朝鮮英祖三十四年までの月の大小正閏及干支朔日を列記し元會運世を以て歲月日辰に比例し其の理數を説明せり

○ 皇極一元圖 二卷二冊 印本

圖書番號 自四三至四六、一八三三

三八一

英祖五十年癸巳戸曹判書徐命膺に命じて編纂せしめたるものなり其の上巻は宋の邵雍の皇極經世書に則り元會運世の各年を圖に表はし其の相當の年に支那及朝鮮の重要な歴史上の事實を記入し下巻は英祖卽位の初年甲辰より以後一百二十年を上元中元に分ちて作成せる千歲曆なり

○ 歴代紀年

三卷二冊

寫本

圖書番號 七二七二、一一〇七〇

正祖東宮に在りし時の編にして上は盤古三皇より下は明の永曆年間に至るまで享國の遲速年月の長短園寢の所在后妃の姓氏等を備載し歴代の王統をして一目の下に瞭然たらしむ

○ 紀年兒覽

八卷五冊

李萬運編

寫本

圖書番號 四六九四、七四七一

英祖末年李萬運か學童の便覽に資するため博く史乘に取り歴代沿革皇王統系等を簡明に編次し正祖元年丁酉李德懋之を修潤し翌年戊戌李萬運更に訂正せるものなり其の内容は支那朝鮮に分ち第一二三卷は支那上古紀より清紀に終り第四

卷は歴代の國都世系圖第五卷は檀君朝鮮より高麗第六卷は古代より高麗に至るまでの地界第七卷は朝鮮の紀事第八卷は八道地圖三朝鮮の世次圖四郡二府三韓世圖等なり

○ 歴代總目

一冊

寫本

圖書番號 三二〇、三二八一

支那太古帝堯元年甲辰より明章宗に至る歴代帝王の帝都在位年數改元生壽及陵墓其の他顯著の事蹟に就き簡略に之を記載し上下約四千年間の事蹟を舉げて一小冊子内に縮寫したるものなり

○ 亞細亞三國歴代

三冊

寫本

圖書番號 四一六四、五〇三五

朝鮮を主とし日本支那歴代の卽位及崩御の年時等を年代の順序に従ひ列記し又附するに傳授總圖王都表受弒君表登極序次圖及譜系圖を合編したる一冊を以てす

○ 歴代帝王傳世之圖

一冊

印本

圖書番號 九八四八

支那唐堯元年甲辰より明毅宗崇禎十六年癸未に

至る約四千年間歴代帝王傳世の要略を圖したるものにして、僭國及朝鮮の事歴を以て其の下に附記す而して朝鮮は漢の宣帝五鳳元年甲子即ち新羅始祖赫居世元年より朝鮮仁祖二十一年に至る事蹟を記載す凡例を按ずるに本圖は記年を主とし帝王の興亡、立廢、崩年、篡弒等は之を特書せり

○ 登壇年表

一冊

寫本

圖書番號 三六三五

宣祖二十七年甲午より李太王十六年己卯に至る歴代各營の大將たりし登壇武將の姓名并に叙任年月日等を記録せしものなり登壇とは大將を拜したる者を云ふ

○ 東史年表

一冊 魚允迪著 印本

圖書番號 一二六三

朝鮮國を創始したる檀君の元年戊辰より李王の隆熙四年併合の時に至る四千二百四十三年間の年表にして歴代の興廢及重大事實等を摘要記入し又同時并興せし列國は層欄を設けて之を記存し其の下に日本、支那、西洋の紀年を附し參考に便

史部

し卷首に歴代一覽表を冠す

目錄類

○ 摛文院奉安摠目

一冊

寫本

圖書番號 一二七一〇

摛文院に藏せし王室書類の目錄にして摛文院は昌德宮内に在り奎章閣學士の直所にして正祖五年辛丑に刱建す

○ 書香閣奉安摠目

一冊

寫本

圖書番號 七九二四

書香閣に藏せし歴代の御製、御筆、關王廟碑文、簇子、其の他上尊號、玉冊文、御製書冊等の總目錄なり

○ 奉謨堂奉安御書摠目

三卷三冊

寫本

圖書番號 七八三八

奉謨堂に藏せし王室の譜牒、誌狀、寶鑑、遺教、大寶御製、御筆、御畫、御押の摠目にして奉謨堂は正祖の時歴代書品を藏するため昌德宮内に建設したるものなり

○ 寶文閣冊目錄

一冊

寫本

三八三

圖書番號 一二六一七

寶文閣に藏置せし書籍の目錄にして寶文閣は王室藏書の所なり

○ 集玉齋書籍目錄 二冊

圖書番號 一二六七六

集玉齋に藏せし書冊の目錄にして第二冊は第一冊に漏れたる書冊を収録し集玉齋目錄外書冊と名く

○ 春坊藏書總目 一冊

圖書番號 一二六七二

侍講院に藏置し王世子講學の用に供したる書籍の目錄なり春坊は侍講院の別稱にして王世子所屬官職の總稱なり

○ 奎章總目 四卷三冊

圖書番號 四四六一

奎章閣に藏せし支那本を經史子集の四に分類し各書に就き其の編著者名と所著義例とを標し或は序跋の文を節取して其の體様の槩略を示し或は評隲の言を援引して其の編摩の得失を明にせ

り正祖の時奎章閣諸員に命し之を編定せしむ

○ 奎章閣書目 五冊 寫本

圖書番號 一二六七〇、一二七〇六

奎章閣に藏置せし書籍の目錄にして閔古觀、隆文樓、隆武樓に藏せし書冊及新に内下せる書冊、奎章閣樓上庫、樓下庫及摛文院に在りし書冊の目錄を分別して記載したるものなり閔古觀は昌德宮後苑に在りし書閣の名にして隆文樓及隆武樓は景福宮内勤政殿東西の歩廊に在りし樓名なり

○ 内閣訪書錄 二卷一冊 寫本

圖書番號 一七四八

奎章閣に藏置せる支那本を經史類、子集類の二に分ち各書に就き編著者及義例評隲を略附せるものにして内閣は奎章閣の通稱なり

○ 隆文樓書目 一冊 寫本

圖書番號 一二七〇九

隆文樓に藏置せし書籍の目錄にして書架に依り分録せるものなり樓は勤政殿の東廊に在り

○ 承華樓書目 一冊 寫本

圖書番號 九八七五、九八七六、九八七七、九八七八

承華樓に藏置せし書冊、書帖、書篋、書簇、書篋等の目錄にして承華樓は昌德宮に在り憲宗此の樓を建て書書を貯藏して常に披覽せりと云ふ

○大畜觀書目 一冊 寫本

圖書番號 一一七〇一

大畜觀に藏置せし書籍の目錄にして大畜觀は昌德宮内に在りし書樓の名なり

○弘文館書目 一冊 寫本

圖書番號 一一七一

弘文館に藏置せし書籍の目錄にして書名、部數、冊數、備考等に分ち閱覽に便せり館は景福宮内に在り經籍、文翰、侍講及代撰の事を掌れり

○芸閣冊都錄 一冊 寫本

圖書番號 一一七〇七

校書館に藏置せし書冊の種類、冊數及冊板の種類、板數を摠錄せる簿冊なり芸閣は校書館の別稱にして奎章閣に隸し其の位置宮門外に在りしを以て外閣とも稱したり

史部

○慶州府校院書冊目錄 一冊 寫本

圖書番號 七七一八

慶尙北道慶州の龜崗書院、東江書院、仁川書院、梅月祠等に所藏せし書冊の目錄なり

○編輯局書冊目錄 一冊 寫本

圖書番號 一一五五四

韓國學部編輯局に藏せし書籍の目錄なり

○奎章閣曝書目錄 一冊 寫本

圖書番號 一一〇七二

隆熙二年奎章閣所藏四庫の書籍を曝曬せし時に修正したる目錄なり書名、部數、冊數及備考を記し尾に其の冊數總計を表示せり

○緝敬堂曝曬書目總錄 一冊 寫本

圖書番號 一一七〇四

景福宮内緝敬堂に藏置せし書籍を曝曬し其の書目を經、史、子、集、書、畫、韻、醫、算、新、奇、雜、著、試、帖、小、說の十部に分ちて載錄せるものにして緝敬堂は宮内燕寢の傍に在り内藏せるものなるを以て内府祕藏とも稱したり

○ 實錄字數

一冊

寫本

圖書番號

七九二九

實錄字と稱する銅活字の字種及字數を録したる目錄なり此の活字は世祖及成宗の時に鑄造し又顯宗九年にも鑄造し本字數には之を七櫛に分藏し鑄字五萬四百三十四字木字二萬七千七百五十四字あることを記せり

○ 韓構字數

一冊

寫本

圖書番號

四七五二

肅宗二十六年平壤の人韓構の書を字本と爲し銅活字を鑄造す之を名けて韓構字と云ふ後正祖六年及哲宗九年にも鑄造せり其の字種及字數を記したる目錄なり

○ 奎章字數

一冊

寫本

圖書番號

七九〇八

奎章閣の外閣即ち校書館に在りし活字の目錄にして當時總數十五萬一百七十字大字十萬五千六百三十八小字四萬四千五百三十二と記せり

○ 芸閣字數

二部一冊

寫本

圖書番號

五七四六、六六四八

校書館所藏の衛夫人字と稱する大小活字を七櫛に配置したるもの摺て十三萬六千九百字を列録せり

○ 芸閣唐字數

一冊

寫本

圖書番號

六五五六

唐鐵字大小三萬七千一百八十六字七櫛所貯の字數を録したるものなり

○ 新訂字數

一冊

寫本

圖書番號

七九二八

正祖壬辰に加鑄し旁字分類して七櫛に納めたる活字を記載せり大字は舊三萬四千八百四十八字新六萬七千四百七十八字合せて十萬二千三百二十六字とし又小字は舊三萬九千五百八十二字新八百五十九字合せて四萬四百四十一字あることを示せり

○ 生生字譜

一冊

印本

圖書番號

四五三三、七〇二六、七〇七二、七〇七三、七〇七四

○七四、七六八四

正祖十六年康熙字典を字本と爲し木活字を造り之を生生字と名く即ち其の字譜にして康熙字典の例に依り字割の順序に従ひ字種及字數を録し終に計數を掲げ原字一萬四千九百八十六字疊字十四萬四千二百六十字總て十五萬九千二百四十六字小字此に稱ふと記せり

○ 各道冊板目錄

一冊

寫本

圖書番號 七九二六

憲宗六年庚子各道各郡に藏寘せる書籍の板木を録したるものにして完全と刃缺とを註記し又一部に要する紙數を詳記せり

○ 三南冊板目錄

一冊

寫本

圖書番號 七〇五〇

全羅忠清慶尙三道各邑に在る冊板を摠録せるものにして英祖三十五年己卯之を調査し冊板の刃缺と冊紙の枚數とを備録せり

○ 嶺南校院書冊目錄

一冊

寫本

圖書番號 七七二〇

慶州府の郷校と西岳玉山書院と崇烈祠とに藏し

史 部

たる書冊の目錄なり安東の三溪虎溪泗濱書院尙州の道南玉成近巖書院星州の檜淵書院武屹書齋等の藏書目錄を附せり

子部

子部

儒家類

○ 聖學十圖

一卷 李滉著 印本

圖書番號 八五七、八五八、八五九、二三二八、二三二九、

自二三三一至二三三八、三一五九

李滉か宣祖の經筵に侍せし時聖學の大端を辨し心法の至要を明にするため濂洛以來諸儒の圖說に就き其の最も的確なるものを選択し一卷と成し每圖の下に自己の意見を叙述し以て宣祖に進めたるものなり十圖とは第一太極圖第二西銘圖第三小學圖第四大學圖第五白鹿洞規圖第六心性情圖第七仁說圖第八心學圖第九敬齋箴圖第十夙興夜寐箴圖是なり

○ 聖學輯要

一三卷七冊 李珥著 印本

圖書番號 自二一八至二三五、二二五七、二二五八、二

一五九、二一六〇、二一六一、二一六二、二一六三、二一六

四、二三三九、二三四〇、二三四一、二三四二、五三八五、五

三八八

三八六、六七二五

宣祖八年李珥か弘文館副提學たりし時聖學に益し治道に補あらしむるため撰進したるものにして眞西山の大學衍義を以て簡要を缺きたるものと爲し直に大學の本旨に據りて次序を立て聖賢の言を引いて之を考證し更に説明を加へたり分ちて五篇と爲す第一篇統說第二篇修己第三篇正家第四篇爲政第五篇聖學道統是なり此の書は同人著擊蒙要訣と共に朝鮮に於て最も廣く讀まれるものにして英祖三十五年刊行す

○ 聖學輯要贊

一冊 洪儀泳著 寫本

圖書番號 九九五五

純祖十一年辛未弘文館校理洪儀泳か栗谷の聖學輯要を演釋して三十三贊を述へ乙覽に供したるものなり

○ 聖學要語

四卷一冊 寫本

圖書番號 三三

聖經賢傳中の修養に資すべき語類を集めたるものにして敬の工夫を以て終始せり

○天命圖說

一冊 鄭之雲著 印本

圖書番號 七〇〇、七八四六

鄭之雲の著す所にして金慕齋、思齋等に就きて質し李退溪證正せり第一節に天命を論し第十節存省論を以て終る退溪の圖說序を並附せり仁祖庚辰全州尹韓興一録梓す

鄭之雲字は靜而、秋楹と號す慶州の人なり慕齋金安國、思齋金正國兄弟の門に學ひ意を仕途に絶ち窮居道を樂しむ明宗己巳に生れ辛酉に歿す

○二峯心理篇

一冊 鄭道傳著 寫本

圖書番號 三二八三

心難氣、氣難心、心問天答の三篇より成り心難氣は佛家修心の旨を述へて老氏を非とし氣難心は老氏養氣の法を擧げて釋氏を非とす要するに儒家は心理氣の三者を説き不偏不易なるか故に左教中第一なりと云ふに歸着す心問は上天に對して善惡吉凶の報酬屢顛倒すること擧げて質問し天答は上天之に答ふる語にして天定りて人に勝つの意を發揮す蓋し鄭道傳は麗末上下佛老に浸

子部

淫せるを慨し排佛斥老尊儒の旗幟を樹てたるものなり陽村權近本書に序し又註を施せり

鄭道傳字は宗之、三峯と號す奉化の人高麗密直云敬の子なり高麗忠穆王の時に生れ恭愍王の時文科に登り政堂文學に至り太祖開國壬申推戴の功を以て奉化伯に封せられ官判參軍事に至る戊寅太祖の子芳碩に附して太宗を害する事を謀りて誅せられ後文憲と追諡せらる少時牧隱李穡に業を受け文學を以て名あり又堪輿の術に明なりしと云ふ外に三峯集、心理氣三編、經濟文鑑等の著あり

○宋季元明理學通錄

一一卷一一冊 李滉著 印本

圖書番號 一二七七

李滉の未定稿にして篋底に藏せしか歿するに及び門弟遺稿を檢して之を得宣祖九年安東府をして刊刻せしめたるものなり宋の朱子より以下明の蔡虛齋、鄒立齋に至る朱子派に屬する儒者の行狀、傳記及語録を最も簡明に列記せり

三八九

○ 理學綜要 二二卷一〇冊 李震相著 寫本

圖書番號 六五九七

理學の宗要を綜説したるものなり首に天道の頭腦を明にし仍て性心の體用に及ひ而して深く氣質の利病を極め然る後之に繼くに學問の路脈を以てし涵養を窮究の本と爲し省察を擴充の要と爲し之を日用の彝倫に稽へ之を天下の事業に措き因て以て聖賢主理の旨に歸宿す蓋し關異扶正の一助と爲さむと欲するなり李太王丁西其の子承熙門人許愈等と謀り之を刊行す
李震相字は汝雷寒淵と號す星州の人判書源祚の子なり

○ 旅軒性理説 八卷六冊 張顯光著 印本

圖書番號 一七九四、一七九八、一七九九、一一五〇一

張顯光の集中性理に關する文を集めしものなり李退溪と同しく醇乎たる朱子派にして理本氣末太極即理の理一元論を主張す而して四端七情に關しては退溪に反し却て奇高峯に合せり本書には圖書發揮篇題、易卦總説、太極説、諸説會通、經緯説

總論、經緯排説帖序、晚學要篇、宇宙説を收む

○ 性理遺編

圖書番號 六二九一

一冊 李楨著 印本

明宗十九年甲子李楨か順天府使たりし時宋の熊節纂する所の性理群書及明の胡廣輯する所の性理大全中より贊、箴、説、銘、詩、文、論、序、記、賦、行實、行狀等を拈出し彙めて一帙と爲し以て遺忘に備へ後學を警省したるものなり

李楨字は剛而龜巖と號す泗川の人湛の子なり中宗壬申に生れ丙申文科に魁たり官副提學に止り宣祖辛未に歿す退溪李滉の門に游ひ大道を聽き始めて宋儒の道學書を刊行す宣祖の時屢召命ありしも起たす山中に居りて學徒を教授し詩文を以て自ら娛しむ

○ 性理管窺 四卷二冊 蔡之洪著 印本

圖書番號 四〇九六、四〇九七

古經傳中の性理に關する諸説を収録して之に著者の私見を附記せるものなり
蔡之洪字は君範、三患齋と號す仁川の人寒水齋權

尙夏の高弟なり顯宗壬寅に生れ官縣監に至る徳行あり詩文を善くす別に天文集あり英祖壬子に歿す

○ 性理淵源撮要

一冊 柳崇祖編 印本

圖書番號 五二七六

易の一陰一陽之謂道を初め儒家の性理篇及釋氏老氏楊墨等各派の性理說中殊に其の淵源を道破せるものを采摭せるものなり叙述は極めて簡單なるも頗る要領を得たるものにして性理の學說を知るに便なり中宗六年辛未編輯刊行す

○ 退溪高峯往復書

三卷三冊 李_{奇大} 混_大 著 印本

圖書番號 四三八六

退溪李滉と高峯奇大升との性情辨難往復書を集めたるものなり退溪と高峯とは其の太極に關する説と四端七情に關する説とに於て各意見を異にし數回書を往復して辨難せり本書には四端七情に關する部分は未だ悉さざる所あるか如し詳しくは退溪集高峯集及四端七情分理氣往復書を看るへし

子部

奇大升字は明彦高峯又存齋と號す幸州の人なり中宗丁亥に生る宣祖の時に登科し經幄に侍して屢嘉謀を進め官副提學大司憲に至り壬申に歿し文憲と諡す嘗て李退溪の門に遊ひ聲名あり高峯集五冊あり

○ 四端七情分理氣往復書

二卷二冊 李_{奇大} 混_大 著 印本

圖書番號 一四八八、三八八八、三八八九、四四五三

退溪李滉と高峯奇大升との四端七情に關する辨論書を集めたるものなり四端は孟子の所謂惻隱、羞惡、辭讓、是非にして七情は子思の所謂喜怒哀樂、愛、惡、欲なり此の辨論の端は鄭之雲の天命圖說に對し李退溪か後叙を書して發表せるに起り退溪の主張は四端は理よりして發し七情は氣よりして發すと斷し四端七情に理氣を區別するに在り高峯の見地は四端七情は初より二義あるに非ず要するに理氣の共發にして強ひて區別を立つべきに非ずとするに在り而して二氏の論争は結著を見ずして終りたり末段に天命圖說十節を附せ

三九一

○ 四七續篇

一冊 李滉 李珣 著 寫本

圖書番號 四二四

退溪李滉と高峯奇大升とか四端七情に關する辨論を開始してより端なく朝鮮學界の問題となり爾後歷代の鉅儒最も力を之に傾注せり本書は退溪の説に牛溪成渾、栗谷李珣の説を加へ明宗より宣祖に亘る三儒宗の説を一冊中に網羅したるものなり附録として英祖の時の人李東、林泳と趙聖期との理氣辨後に題するの文あり
成渾字は浩源、牛溪と號す昌寧の人、松成守琛の子なり、中宗乙未に生れ、年十餘にして、文才あり、遂に意を學業に絶ち、専ら力を道學に效し、又休庵白仁傑に就きて學ぶ、宣祖戊辰遺逸を以て薦められ、癸酉持平を拜し、官左叅贊に至り、戊戌六十四を以て歿す、諡して文簡と云ひ、文廟に從祀す、朝鮮の碩儒を論する者多く退、栗、牛を推す而して、牛溪は栗谷に長すること、一年相俱に道義の交を爲し、最も親善なりしと云ふ

○ 四七辨證

一冊 洪重寅 著 寫本

圖書番號 六七八

四端七情の未發、已發等の説を辨證したるものにして、退溪、栗谷等先儒の言を引證して辨説せしもの多し、星湖李滉篇木に題解せり
洪重寅は豊山の人、判書萬朝の子にして、官都正を経たり

○ 百行源

一冊 英祖 撰 印本

圖書番號 七四四、二三五三、二九五〇

英祖孝道を崇尚し、孝は百行の本にして、百姓必す行ふべき所以を説き、別に諺文を以て譯を附し、命して刊行せしめ、之を諸道に頒賜す

○ 孝悌編

一冊 英祖 撰 印本

圖書番號 二二四四、七九五五

孝悌の大義を講述し、人道の大綱を闡明したるものにして、癸亥の歲、英祖春秋七旬に躋り、先世追慕の念切なるより、此の篇を撰し、卷首に興懷の序を弁し、以て上印せり

○ 御製勸世爲孝悌文

一冊 英祖 撰 印本

圖書番號 六六二四

英祖癸巳孝悌を勸勉するため論語に孝悌爲仁之本の義を敷演し李滉の勸義歌に擬して此の文を撰し洪鳳漢等に命じて校正せしめ芸閣をして刊頒せしむ

○ 敦孝須知

一冊

寫本

圖書番號 一六〇

孝を以て徳の總稱と爲し百行の本を孝に歸一し古來の孝に關する言説を摭集し部門を分ちて排列す孝の本然孝の體より孝と各徳目との關係を説き終に孝行の例を擧げたり

○ 永世追慕錄

一冊 英祖撰 印本

圖書番號 一四七六、二〇一九

英祖丁卯より丙子に至る十年の間慈殿仁元王后に致したる頌祝の詞にして丁丑母后の喪に丁り追慕して己ます其の致詞を輯録し甲申の年之を刊行す

○ 御製追慕錄

一冊 英祖撰 印本

圖書番號 六六〇七、六六〇八、七一九一、一一五六五

子部

英祖庚寅、年仲秋小學立教を講ずるに際り父王、母后及先王を追慕し之を撰述す元仁孫等命を承けて校正し全羅道觀察使之を開刊す

○ 續永世追慕錄

一冊 英祖撰 印本

圖書番號 六六〇九、一八三六

英祖庚寅季秋肅宗の明陵を展し追慕の情を述べたるものにして蔡濟恭等之を校正し芸閣活字を以て印出す英祖は其の三十三年丁丑仁元母后の喪に在りて永世追慕錄を撰し又庚寅の年仲秋肅宗及景宗を追慕して追慕錄を製し更に又本書を撰せり

○ 孝行錄

一冊 權溥編 印本

圖書番號 一五二〇

權溥老境に躋りし時其の子權準書工に命し二十四孝の圖を描き益齋李齊賢に乞ひ之か贊を作らしめ之を父に獻し以て慰安に供す溥自ら三十八孝行を擇ひ又益齋をして贊を作らしむ前二十四贊は十二句後三十八贊は八句なり後權近之に註解を施し跋文を加へて劄劄に付し孝行錄と名け

童蒙をして詠歌誦諷せしめ以て孝道鼓吹の資と爲す

權溥字は齊萬、菊齋と號す高麗忠烈王の時の人官大提學政丞に至り永嘉府院君に封せらる
權準字は平仲、松齋と號す忠宣王の時官贊成に至り吉昌府院君に封せらる

○ 孝說

一冊 朴敦行著 印本

圖書番號 五一〇二

朴敦行年七十三の時の撰述にして事親の節を十三段に分ち古書を引用して之を説明し以て人子のために鑑戒を垂示したるものなり

朴敦行字は慎吾、純祖の時に生れ李太王の時に歿す志を官途に得さりしと雖至性篤孝の士なり

○ 敦孝錄

五七卷二三冊 朴聖源編 印本

圖書番號 二八三八、五四八一、五八〇六

朴聖源か古今經史の中孝行に關する文を萃編したるものなり孝經、孝義、孝教、生事、喪事、奉祭、孝感、顯美、繼述、廣孝の目あり正祖七年癸卯序を撰し嶺藩に命して入梓刊行せしむ

○ 廣孝錄

二卷一冊

印本

圖書番號 一四一四

英祖四十一年既に高齡に達し世子諸臣屢進宴を請ふの疏を上り遂に受爵の典を行ふに至りたる事實を録せり傳教、御製文、別單其の他廷臣の謝箋、上疏、劄子を列記す

○ 編註廣孝論

一冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 六三三五

孝道の最も重き所以と悌、齊家、睦、祭儀とを論述し後世年少輩の遵守し違ふことなきを勸勉せしものなり

○ 童蒙先習

一冊 朴世茂著 印本

圖書番號 自二三三至二五一、九三三、九三四、九三五、一

五三四、二九四七、二九四九、三九二六、一一五二七

五倫の要義を簡短に叙述し而して之れか總論を附し更に支那朝鮮の歷代世系を録し以て童蒙の諷誦に便にし徳行の涵養に資せり中宗の時の著にして首に肅宗の序及び宋時烈の跋あり蓋し朝鮮に於ては兒童か書を學堂に學ふは初に千字文

次に此の書なり其の廣く世に行はれたるを知るへし

朴世茂字は景蕃逍遙堂と號す咸陽の人成宗丁未に生れ中宗辛卯文科に及第し官檢閱獻納に至る史院に在る時直言を以て權貴に斥けられ邑倅となる識者目して吏隱と云ふ本書を著し子弟に授け明宗甲午年七十八にして歿す

○ 擊蒙要訣

二卷一冊 李珥著 印本

圖書番號 二八二四、三四三一、三四三二、四一六七

栗谷李珥か幼學のために讀書窮理と立心筋躬、奉親接物等の事を編して一書と爲したるものなり立志、革舊習、持身、讀書、事親、喪制、祭禮、居家、接人、處世等十章に分ち祠堂圖、時祭圖、設饌圖、祭儀の出入儀、參禮儀、薦獻儀、告事儀、時祭儀、忌祭儀、墓祭儀、喪服中行祭儀等を卷尾に附せり宣祖丁丑編輯刊行す

○ 童學初讀

一冊 寫本

圖書番號 一四七三

童幼初學のために天地人道を略説し章句と爲したるものなり

子部

○ 愚谷訓子格言

一冊 姜德後著 印本

圖書番號 五二六二

姜德後か子弟教訓のために編纂したるものにして統説、立志、收欽、格物、致知、誠實、矯氣質、養志氣、正心、檢身、恢德量、改過、遷善、敦篤、正家、事親、刑内、教子、友兄弟、序長幼、信朋友、親親、御婢僕、待鄉黨、摠論の二十三條に分説し卷尾に洪齋周の跋文あり

姜德後字は懋叔、愚谷と號す晋州の人應教克誠の曾孫なり宣祖丁未に生れ仕官を求めずして經傳を潛究す顯宗戊申に歿す

○ 夙惠記略

一冊 印本

圖書番號 六三一九

初學者の矜式に資するため幼にして夙惠なる者の小傳を輯めたるものなり其の記す所始生として神農氏、帝嚳、高辛氏、蒼頡、并に釋迦佛、老子等を擧げ次て七八月若は周歳の者又三歳より十五歳に至る者次下には總角十餘歳二十歳に至る少年の夙惠なる者の事歴を記述せり

○ 進修楷範

二卷二冊 柳雲編 印本

三九五

子部

圖書番號 四一三四

古書の中より修徳に資する文句を拔萃して備忘と爲したるものなり中宗十四年之を刊行す事父母、處兄弟、撫宗族、御卑幼等の九門あり柳雲は文化の人なり燕山君の時に登科し官大司憲に至る己卯の士禍に黜けられ縦飲疾を成して歿す文敬と諡す別に文集あり

○古今士範

二卷二冊

寫本

圖書番號 七〇二二

支那古來の名士の言行を四字題を設け其の大意を抄録したるものなり

○内訓

三卷三冊

昭惠王后撰

印本

圖書番號

一一六三、一六二五、二八〇一、二九七一、三

五四九、三五五〇、四六二五、四六二六

徳宗の妃韓氏の撰なり韓氏閔徳夙に顯れ歴代后妃中其の比類を見ず妃嬪のために内訓七篇を纂述手書して規箴と爲したるもの即ち是なり

昭惠王后韓氏は清州の人左議政韓確の女にして世祖丁巳誕生し世祖乙亥粹嬪に冊し成宗を生む

成宗辛卯徳宗追崇の時妃に進封し春秋六十八敬陵に葬る

○女四書諺解

四卷三冊

印本

圖書番號 三二八五、三二八九、三九四八

後漢曹大家の女誡唐宋若昭の女論語明仁孝文皇后の内訓明王節婦の女範都合四種の書を集め諺文の句讀及解釋を附したるものにして英祖の序あり

○小學諺解

六卷五冊

英祖命編

印本

圖書番號 四四三、一八七二、二一一二、二一一三、二一一

五、二二一六、二二一七、二二二六、二四四四、二四四五、

二四四六、二九一八、一一九五八

小學諺解には舊本ありしも完全ならず英祖二十年甲子更に其の繁冗を刪り精校を加へ以て刊行せしむ

○小學抄略

二冊

寫本

圖書番號 八五二、八五三、八五五、一四二三、三五二二、

三八二四、三八二五、三八二六、三八二七、三八二八、自三

八四八至三八六四、自三八六五至三八八二、七三四三

朱子小學の内則以下を略抄し之を内篇とし嘉言以下を略抄し之を外篇とせり

○ 小學抄略諺解 二冊 寫本

圖書番號 八五四、八五六、三八二九、三八三〇

小學の要旨を抄略し内外二篇に分ち諺解を附したるものなり

○ 御製小學指南 二卷一冊 英祖撰 印本

圖書番號 三二〇一、四五七七

英祖丙戌小學を重講したる時題辭と内外篇に就き訓義を作り兪拓基等に校正を命し活印せしめたるものなり

○ 小學問答 二卷一冊 朴準源著 印本

圖書番號 一七二七、一七八八、一一五八三

正祖二十年丙辰純祖東宮に在りて小學を講せし時著者小學の問目に從ひ答述し之を編次したるものなり純祖二年壬戌の刊行に係る

○ 小學枝言 一冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 一一八九四

小學に據り各篇の諸節を列舉し其の下に字句及

子部

要旨を解釋して舊註を補ひたるものなり又大學講義一卷と心經密驗一卷とを合編す本書は與猶堂集第二百卷七十八冊に收む

○ 海東小學 六卷二冊 朴在馨編 寫本

圖書番號 七六〇三

高麗以來の名儒碩輔遺逸義士淑媛等の嘉言善行を諸書より摭撫し朱子小學の篇目に依り彙分類別し以て範世陶俗の資と爲したるものなり

○ 心經釋疑 四卷一冊 李滉撰 印本

圖書番號 七五三、七五四、七五五、一九六一、二〇四五、二〇四六、二〇四七、二〇四八、二九二六、三二〇九

李滉が宋の眞西山の心經を講する際其の字句に就き解釋を下せるを門人李徳弘、李成亨等の手記せるものなり後此の書江湖に傳播し筆寫の際往往にして眞を失ひ謬を傳ふ孝宗最も心經を愛讀し顯宗亦之を喜ぶ肅宗に至りて宋時烈等盛に宋學を鼓吹するあり終に時烈、朴世采等に命して心經釋義を官刊せしむ時烈等因りて李徳弘の子孫より古正本を獲て更に之を校正し繁雜を去り簡

明にし以て定本と爲す字句の澁晦なるものは別に諺文を以て解釋を施せり

○ 心經發揮 四卷二冊 鄭述編 印本

圖書番號 八〇〇、八〇一、八〇七、八〇八、二三八四、二

四四八、二四五六、三一五五、三五二五、三五三一、三九三

〇、五四三九

編者西山真德秀の心經に倣ひ特に條章を加へ程朱諸先輩の言を以て羽翼とし周濂溪太極圖說伯程子定性書程伊川好學論張橫渠西銘朱子仁誠等の説及程朱行略を以て附録とし之を心經發揮と名け宣祖の三十六年癸卯刊行す

○ 心經標題 二卷一冊 李咸亨著 寫本

圖書番號 三二八四、四五四八

李退溪の心經講義を本とし更に諸書を參考し難字難句を註釋せるものなり

○ 心經質疑考誤 一冊 曹好益著 印本

圖書番號 五四七三、六三三三、六三三四、六三三一

心經質疑の誤謬を改正せるものなり心經質疑は李退溪の門人受業質疑の際師の答を録したりと

稱するも曾て退溪の校閲を経たるものに非ず往々誤謬を傳へたり是れ考誤の著ある所以なり

○ 心經密驗 一冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 二二八九四

心經は心を治むるの要書なるを以て著者研究を加へ各節に案説を附し以て體験を警む大學講義小學枝言二書と合編し與猶堂集第二百卷七十八冊に收む

○ 心學至訣 二卷一冊 朴世采編 寫本

圖書番號 三四八一、四四三二

朴世采か肅宗の經筵に侍して心經を講せし時其の根本義たる居敬の工夫に最も力を注ぎ心經中の諸文の外經傳中より居敬に關する語句を摭摭し之か次第を立て其の題目を分てるものにして敬之綱條敬之工夫敬之事義敬之病痛敬之地頭敬之配合敬之管攝敬之功效の目あり

○ 近思錄釋義 一四卷四冊 鄭暉著 印本

圖書番號 八六一、五四四九

鄭暉か近思錄を以て聖學入門第一の書と爲し最

も方を之に注ぎ難解の箇處は諸儒の説を引き併せて自己の主見を加へ以て本書を編成す後改訂を加へて上梓す

鄭暉字は時晦、守夢と號す、草溪の人、明宗癸亥に生れ、宣祖十六年に及第し、官參贊に至る、栗谷の門人にして、沙溪、金長生と同學なり、仁祖乙丑に歿す、別に國朝寶鑑錄の著あり

○ 星湖近思錄疾書

一四卷一冊 李瀾編 寫本

圖書番號 七三三四

星湖李瀾、か近思錄中より、拔萃し之を十四卷に分ち、箋解を加へ、家塾子弟の講習に使せるものなり

○ 夙興夜寐箴註疏

一冊 盧守愼撰 印本

圖書番號 一九五八、三二四一、三四四四、三四九六、三

四九七、三五〇一、三九二三、五二四八、六五二二、六六〇
三、七七一九、七八五一、七八五三、七八五四、七八五五、
七八五六、七八五七、一〇二七三、一一五九〇

中宗の時、盧守愼、島配中に在りて、宋の陳栢の夙興夜寐箴を読み、其の辭旨の簡切にして、工夫の周密

子部

なる大に聖賢の學に效ありと爲し、乃ち先儒の成説を掇取し、逐條註疏を加へ、宣祖の時に至り、之を進獻す、宣祖嘉納し、校書館に命して、印行せしめ、僧杜暹更に、醜財私刊せり、後英祖の時、本書に附するに、聖學十圖中に在る箴圖を以てし、校書館に命し、印行せしむ

○ 敬齋箴集說

一冊 李象靖著 印本

圖書番號 三九六九、四四三三、四五四九、四七八七、五

〇八一、五三〇八、七八一四、七八二二、一一五三四

李象靖、か宋の朱子敬齋箴を正條とし、程朱以下諸學者の敬に關する諸説を列舉し、朝鮮にては李退溪の説を加へ、而して、按の一字を下して、自家の意見を挿入せり、卷首に宋の王魯齋の敬齋箴圖を掲げ、一目瞭然たらしむ

李象靖字は景文、大山と號す、肅宗辛卯に生れ、密庵李栽の門に學ひ、英祖乙卯及第し、刑曹參議となる、後安東に退いて、帷を下し、子弟を教育す、極めて正統なる退溪派の學者なりと云ふ、正祖辛丑に歿す

○ 聖賢道學淵源

一冊 寫本

三九九

圖書番號 一三六九

書經の精一執中人心道心の語を冒頭とし以下四書及程朱の語に及び以て道學の淵源を示せるものなり

○兩賢傳心錄 八卷四冊 正祖命編 印本

圖書番號 八九六

正祖二十年朱熹の封事、奏文及賦詩に就き朱子の學說、政論及尤庵の封事、奏文、詩文中其の主張人物の見るべきものを集めしめ之を兩賢傳心錄と名け國內に行はしむ別に附録あり朱熹及宋時烈の傳を載せり

○兩賢淵源錄 一冊 朴悞編 印本

圖書番號 一四六九、一四七〇

新堂鄭鵬、松堂朴英二人の詩文及其の墓誌、行狀、弔祭文、挽詞等を收拾し一書と爲したるものにして新堂は性理の學に沈潜し松堂に就いて學ひ師弟の情甚た厚し金應祖の跋文に曰く新堂の學以て松堂を啓發するあり則ち淵源一脈概ね想見すへし云云肅宗四十六年庚子朴悞之を編次印行す鄭

鵬字は雲程、新堂と號す善山の人なり世祖丁亥に

生れ成宗丙子進士となり壬午文科に登り燕山君の時弘文館校理を以て事を論し盈徳に杖竄せられ中宗靖國後復叙して校理となりたるも辭して赴かす其の壬申に歿す朴英字は子實、松堂と號す密陽の人なり家世將種にして弓馬に習ひ豪邁不群武科に登り宣傳官に叙せられしも成宗殂落後燕山君の政亂るるを知り家を挈けて郷に歸り一意讀書し大學を鄭新堂に受け沈潜講究遂に大義に通せり後官に就き累遷して慶尙左道兵使となり中宗庚子に歿す諡を文穆と贈らる

○學顏錄 一冊 朴吉應編 印本

圖書番號 一四七七

顔子の言行及之に對する諸儒の評註を編集したるものにして卷首に其の師旅軒張顯光の宇宙要括十帖及標題要語等を載す

朴吉應字は徳一、眞靜と號す密陽の人縣監信の子なり宣祖戊戌に生れ仁祖甲戌蔭職察訪を以て文科に登り官承旨に至る

○ 警心箴

一冊 金光粹撰 寫本

圖書番號 二二〇七

撰者の心得せし十箴を作り以て自警としたるものなり事親輔君祭廟正家友愛謹刑廢讒慎色結友安貧等十條の目を設く

金光粹號は松隱、義城の人なり世祖戊子に生れ燕山君辛酉進士に中り明宗癸亥に歿す文學衍義を以て義城藏待書院に享す遺集あり世に行はる

○ 醒心錄

三卷一冊 寫本

圖書番號 六五九一

上卷は孔子より孟子に至り中卷は周濂溪より李燾に至り下卷は鄭圃隱より宋尤庵に至り言行の法るべきものを摘取編録したるものなり

○ 儒學經緯

一冊 申箕善著 印本

圖書番號 五九二二、六二三七

儒學を經緯より見て五門に分ち一に理氣二に天地形體三に人道四に學術五に宇宙述贊を述へ李太王三十三年丙申刊出したるものなり

申箕善字は言汝、陽園と號す平山の人、涯、景七世

子部

○ 仁經

二〇卷七冊 沈能圭著 寫本

圖書番號 四二二二

十三經及心經、近思錄、性理大全、小學、朱子大全、語類等の書より仁字に關する文句を摘取したるものなり卷首に五行人體性情圖七性九位圖、仁說圖等を附せり

沈能圭字は士龍、月浦と號す三陟の人、漁村、彦光の後孫なり正祖庚戌に生れ哲宗己未進士に中る

○ 求仁錄

四卷二冊 李彥迪著 印本

圖書番號 四六一四、四六一五、四六二〇

李彥迪平安北道江界に配せられ勉學求道の志愈堅く泰然として講誦に従事す謂へらく仁、義、禮、智、信は五達徳にして仁之か首たり所謂仁は萬善の本なり孔門の千萬語要は求仁を説けるに外ならずと因りて四書五經より程、朱、張、真等宋儒の仁を説ける章句を撫集して之に註釋を加へ以て四卷

四〇一

と爲し求仁録と名つく書の成りしは明宗五年に在り

○種徳新編

三卷二冊 金埭著 印本

圖書番號 一五二五、一五二六、一五二七、二八〇三、三

四三七、三九五七

著者金埭幼時小學を讀み感激する所あり遂に道徳涵養の要項を主とし此の書を成せり仁祖の序文あり

○種徳新編諺解

三卷二冊 金埭著 印本

圖書番號 一五三三、一五三四、二八〇二、三五二〇

種徳新編に諺文を以て解釋を附したるものなり

○古鏡重磨方

一冊 李滉編 印本

圖書番號 一三六六、一三六七、一三六八、一五三八、一

五八二、一五八三、一五八四、一五八五、一八八四、三三五

五、三二九七

支那の古書中上は湯の盤銘より下は朱晦菴真西山の述作に至るまで苟も磨心の材料となる可き箴銘を摭録したるものにして明鏡の本體玲瓏なれども塵翳之を覆へは則ち曇る人心亦然り私欲

之を蔽へは則ち其の本體を失ふ人人其の心を磨ることを須らく古鏡を磨するか如くなるへしとの意に出つ宣祖四年後門人寒岡鄭述之れを刊行す

○海東續古鏡重磨方

一冊 朴左馨編 寫本

圖書番號 七八三一

李退溪の古鏡重磨方に倣ひ海東賢君名臣の箴銘を摭取して編次したるものなり卷首に正祖の詩朱子及退溪の詩を掲ぐ

○自省編

二卷二冊 英祖撰 印本

圖書番號 一七七五、一七七六、一七九七、自三〇七至

二三二一、三三三四、三六一九、三八三一、三八三二、三八

三三、三九六六、五一四七、五四五二

○續自省編

一冊 英祖撰 寫本

圖書番號 三五四八、四〇一一、四七三四

前書は英祖二十二年後書は同三十五年に於て各内外二編を撰し李詰輔、元景夏、趙明履等をして校考せしめたるものなり其の内編は身心を以て主眼と爲し外編は鑑戒を以て要旨と爲し俱に自省

に資せしものなり

○ 後自警編 六卷六冊 金昌集編 寫本

圖書番號 七六七五、七六八〇

肅宗の時金昌集か宋の趙善瑒著す所の自警編の例に倣ひ朝鮮古今人物の行誼事業の以て鑑戒と爲すへきものを集めたるものなり李願命の序文正祖の跋文あり

金昌集字は汝成、夢窩と號す安東の人仁祖戊子に生れ顯宗癸丑進士となり肅宗甲子登科し官右相に拜し尋て領議政に陞る景宗壬寅建儲の事に關し士禍に遇ひ巨濟島に竄謫せられ竟に死を賜ふ

○ 廣補自警編 二五卷一二冊 寫本

圖書番號 五二三二

序文に採本朝之退溪、栗谷、尤庵三先生之言以附焉とあり又於宋人自警本編精抄其格言至論付之篇未合以名之曰廣補自警編とあり大體は漢土の學問事業行誼を主とし朝鮮先儒の言論をも採録したるものにして宋の趙善瑒著す所の自警編に倣ひ編纂したるものなり目を分つて修己、識量、出處、

子部

格君心、知人、爲政、安民、自警本編鈔等と爲す

○ 宇宙要括帖 一冊 張顯光著 印本

圖書番號 一四三二

旅軒張顯光の著なり會眞、一原、俯仰、中立、傳統、載道、景慕、傍搜、遠取、反躬の十帖を首に掲げ標題要語と方寸持存法及筋記とを附す皆心性の學に補益せんと欲するに似たり

○ 宙衡

二五卷一四冊 李緯編 寫本

圖書番號 一九九

父子、君臣、夫婦、兄弟、朋友、學術、治道、出處、應事、接物、尙論、人物等の十目に分ち經史子集中より之に關する事類を抄録したるものなり

○ 下學指南 二卷二冊 安鼎福編 寫本

圖書番號 七六〇四

論語の下學而上達の義を取りて讀書、爲學、心術、威儀、正家、處己、接人、出處の八條に分ち經傳の金科、玉條及古人の嘉言、善行を援据し以て警省の資に供し又二六時中の行事を分別彙編し以て首卷とせ

四〇三

○三先生遺書 三卷一冊 朴世采編 印本

圖書番號 五一五七、七七四八

退溪李滉の聖學十圖と牛溪成渾の爲學之方後朱門旨訣と改じと栗谷李珥の擊蒙要訣の三書を合編したるものなり肅宗乙丑安邊府使沈壽亮之を印板す

○書社輪誦 一冊 李緯編 印本

圖書番號 六三三二、七〇六三

陶庵李緯か濂洛諸賢の文字中最も學問に切要なるもの三十餘編を選取し從學の徒をして輪次誦せしめたるものなり英祖二十六年庚午門人洪啓禧之を刊行す

○九社學規 一冊 寫本

圖書番號 五七五七

天命、物則、九容、九思、敬之全體、反隅、座右銘、慎獨六種、心義利解の十科に分ち學規を作りたるものなり或は曰ふ茶山丁若鏞の撰なりと又晤堂李象秀の撰なりとの説あり尾に吳恒默の勸勉文及詩と孟

鎮鶴の勸學論及詞を附す

○大東正路 六卷五冊 許試著 印本

圖書番號 五七四四

李太王四十年許試か古道の衰亡を嘆し世態人心を矯正せむとして編次したるものなり初に漢唐宋明各代に於て儒教を尊崇し國家の治平を致せし故實、沿革等を説明し之に次くに朝鮮古今の名臣巨儒の善口徳行を附記す

○御製讀書錄 一冊 英祖撰 印本

圖書番號 二〇一七、二四二九、一一七〇〇

英祖冲歲講學年條と書名とを列録し正祖の向學を勸勉したるものなり英祖四十三年丁亥刊行す

○日得錄 二冊 寫本

圖書番號 五七五九

奉章閣臣等か正祖の言を記録し程朱の語録等の書に倣ひたるものにして政事、文學、人物、評論等あり

○課誦 一冊 寫本

圖書番號 二二〇三、九九一三、九九一四

古鏡重磨方中より拔萃したるものにして文祖の課誦に供したるものなり其の目次は成湯の盤銘武王の席四端銘鑑銘盤銘杖銘范蘭溪の心箴朱晦庵の遊藝銘書字銘窓銘敬齋箴六先生畫像贊書畫象自警張南軒の主一箴吳草廬の和銘陳茂卿の夙興夜寐箴禮記の九容九思及張橫渠の六有等なり

○ 讀書記

四卷四冊 朴世采著 寫本

圖書番號 一三九一、二七九五

朴世采か小學近思錄大學中庸を以て道に入るの無二門と爲し朱子の註釋中猶ほ未だ曉り易からざる所ありとし普く朝鮮諸儒の説を參考し之に自見を加へ解釋せしものなり顯宗九年に成り肅宗三年丁巳更に數言を補記せり讀書の餘に成れるより之を讀書記と名く

○ 關西問答錄

一冊 李全仁編 印本

圖書番號 四五六九、七八六一

晦齋李彥迪明宗二年丁巳平安北道江界に謫せられ庶子全仁之に隨ひ朝夕側に侍し學問に關する問答を爲して教益を受け之を記集して關西問答

子部

集と名け顯宗六年全仁の玄孫弘熙月沙李廷龜の孫李端相に託して上梓す附録として李全仁の進修八規疏を載す疏は全仁か宣祖に上りて父晦齋の忠義を聲明せるものなり

李全仁字は子敬浩溪と號す晦齋の庶子なり明宗の時に生れ篤學行義を以て聞ゆ官禮賓正に至る別に晦齋言行錄の著あり宣祖の時に歿す

○ 困齋愚得錄

三卷三冊 鄭介清著 寫本

圖書番號 四六一八、四六一九

鄭介清の筆録にして多く道學修養に關する説を載せり其の他宣祖に上れる疏文及書牘を合編し卷末に行狀事蹟を附せり

鄭介清字は義伯困齋と號す羅州の人中宗の時に牛れ幼にして學に志あり易學律呂に至るまで研鑽遺す所なし中年京城に出て開城の徐花潭に從學す晚年全羅南道務安の淹潭に卜居して道を講し遠近來り學ぶ者甚た多し其の學は一に程朱の規に従ひ稱して醇粹と爲す鄭澈と素と惡し澈の上卿となるに及ひ困齋に排節義説の著ありと

四〇五

稱して之を擠し慶源に謫せられ宣祖十一年其の地に歿す

○南冥學記類編

五卷二冊 曹植編 寫本

圖書番號 六五九三

前賢言行の省察存養に有益なるものを鈔録したるものにして一卷は道の體を論し二卷は學の要を論し三卷は致知存養を論し四卷は臨政教人を論し五卷は異端を論し卷末に太極圖等の圖式を附す

曹植字は樵中南冥と號す昌寧の人なり中宗癸卯に生る少時豪氣絶倫奇才自ら負ふ二十餘歳にして學術大に進み知る所必ず之を行はずんは已ます明宗宣祖の際屢遺逸を以て召されたるも起らず官判官に止まり光海君庚申に歿す領相を贈られ諡を文貞と云ふ

○溪山記善錄

一冊 李德弘著 寫本

圖書番號 三〇六六

李德弘か其の師事したる朱子學の泰斗李退溪の學問品性より日常瑣事に至るまで親炙指導を仰

きたる問答體の隨筆にして外曾孫金萬然之を編次し後進の訓戒に資す

○陶菴語錄

一冊 朴大陽編 寫本

圖書番號 七〇六六

陶菴李緯の語録にして朴大陽の編成せるものなり李緯は肅宗の時に登科し官副提學に至り致仕して復た出てす帷を下して子弟を教ふ朝鮮名儒の一人なり

朴大陽字は聖中東岡と號す陶菴の門人なり

○華西雅言

一二卷三冊 金平默編 寫本

圖書番號 六二四五

華西李恒老の門人金平默か華西の論道文字と語録及家庭拾録に散在するものを彙文類輯して三十六篇八百九十一條と爲したるものなり李太王十一年甲戌に成る

金平默字は穉章重菴と號す淨友堂湜の後孫にして華西李恒老の門人なり純祖己卯に生れ李太王の時入仕し官監役と爲る

○寒岡言行錄謬條辨破錄

一冊 印本

圖書番號 三七四八

鄭寒岡述の言行録を刊行するに際し鄭家より張旅軒顯光を門人の首に録したるより張家より確證を引據して辨駁したるものなり

道家類

○ 莊子辨解

一冊 韓元震編 寫本

圖書番號 一六四八

韓元震か其の友成君覺の請に應して撰述したるものなり莊子の學孔孟の道と異なる所を辨破して學者の迷徑を回さしめんとせしものなり内篇各章の大意を説くに止む肅宗四十二年丙申に成る

韓元震字は徳昭南塘と號す清州の人遂菴權尙夏の門人なり宣祖の時に生れ光海君の時官執義兼經筵官となる文章浩博嘗て李巍岩と本然氣質の性を論し往復爭辨せり孝宗の時に歿す文純と諡せらる

子部

○ 句解南華真經 一〇卷一〇冊 印本

圖書番號 一六八〇、三一三三、四四三一

明林希逸の句解したる莊子の書を諺文にて口訣を述べたるものなり卷末に李士表の新添十論を附せり

○ 敬信錄諺釋 一冊 印本

圖書番號 一三五九、一三六〇、一三六一、自二五九二至

二七九一、自五八二三至五八四八

道教の諸説及各種應報の事蹟を集めたる敬信錄を諺文を以て譯せるものなり道教の説に據れば禍福は人の自ら招くものにして幽冥に諸神あり各人の行動を玉皇上帝に報し其の裁斷に依りて吉凶の果を下すものなり故に諸惡莫作諸善奉行を教理の第一義とし經文呪文を作りて善を勧め惡を懲すを方便とせり

○ 感應篇圖說 五卷五冊 印本

圖書番號 三九七〇、三九七一、四三八四、四三八五、自

一一〇二〇至一一〇六六、一一〇六七、一一〇六八

善惡感應必然の理を圖説したるものなり經典は

四〇七

已に敬信録に收めたるを以てこの感應篇は漢文に譯文の譯を附し且圖を加へて了解に便せり李太王の命刊に係る

○三聖訓經

一冊

印本

圖書番號 七三二九

關聖帝君(蜀漢の關羽)文昌帝君晋の張亞及孚佑帝君(唐の呂巖)の經文に譯文の譯を附したるものなり三聖共に生前の功德に因り仙果を成し天宮に陞り帝君の位を得て下界人間の善惡を監視し禍福を降すと是れ清の時に至り俄に勃興せる道教の一變態なり而して三帝中關帝最も強力にして至上至尊三界伏魔大聖關聖と稱す文昌帝君は舉科の司部神にして司祿職貢舉眞君と稱し孚佑帝君は諸願成就の神にして四生六道有感必孚三界十方無求不應と稱す

○過化存神

一冊

印本

圖書番號 自七九三二至八三三一、一一六八三、一一六八

四、一一六八五、一一六八六、一一六八七

關聖帝君の覺世眞經、救劫文附對聯句、靈驗記等を

編刊して八方に均布したるものなり李太王の命刊に係る

釋家類

○白花道場發願文略解

一冊

釋義相著
釋體元註釋

印本

圖書番號 七六七二

新羅の僧義相の原著にして高麗忠肅王十五年戊辰釋體元原文各節の下に註釋を加へ甲戌鷄林府に於て開板したるものなり

釋義相俗姓は金氏新羅眞平王甲申に生れ眞德女王庚戌の年唐に入りて終南山智儼尊者に從ひ華嚴經を受く既にして玄關に達し法界圖を製して尊者に進む尊者覽て嗟嘆し更に之か解釋を作らしむ義相乃ち筆を揮つて編を成し世に行はる義相洛山觀音窟に詣りて禮拜發願する時此の文を述ふ新羅孝昭王辛丑三月法齡七十八を以て坐脱す高麗に至り圓教國師を追諡し制して海東華嚴の初祖と爲す

○華嚴經觀音品別行疏

二卷一冊 釋體元著 印本

圖書番號 五三九九

釋體元の華嚴經觀音品註疏を覺華寺住持性之の校勘せしものなり

○看話決疑論

一冊 釋知訥著 印本

圖書番號 一一九七九

禪教共に一實道に歸すとの旨意を以て禪門十種病其の他諸種の疑問を華嚴經圓覺經等に涉り辨説せしものなり高麗高宗二年乙亥其の高足無衣子慧謹及大師崔沆の跋文あり光海君戊申順天の松廣寺に於て刊行す

釋知訥別號は牧牛子高麗末の人にして元に入り順帝の國師となり普照と號す曹溪山十六祖師の中第一祖師なりと云ふ

○牧牛子修心訣

一冊 釋知訥著 印本

圖書番號 七七八五

牧牛子の修心訣を慧覺尊者信眉か諺文を以て翻譯したるものにして中宗六年庚申慶尙南道陝川

子部

郡鳳栖寺に於て開板す

○禪宗唯心訣

一冊 釋延壽著 印本

圖書番號 七六四二

禪宗唯心の心訣を叙述したるものにして中宗六年庚申慶尙南道陝川郡鳳栖寺に於て開板したるものと光海君初年己酉慶尙北道聞慶郡圓寂寺に於て再板したるものとあり

○禪門拈頌集

三〇卷一〇冊 釋慧謹編 印本

圖書番號 三二八八

釋慧謹か高麗高宗十三年海東曹溪山修禪社に在りて編録せしものなり由來禪門は不立文字と稱するも其の源を得むと欲すれば其の流を尋ぬるに如かざるを以て諸佛祖の拈頌等に就いて凡そ千百二十五則を採集し以て悟宗論道の資と爲せり朝鮮仁祖十四年全羅南道寶城地大鳳山大原寺に於て開刊す

釋慧謹は眞覺大師と稱し無衣子と號す高麗高宗の時の人佛日禪師の法嗣にして曹洞宗の智識な

四〇九

○ 禪門拈頌說話

三〇卷五冊 釋覺雲著 印本

圖書番號 一三七一

覺雲禪師が禪門拈頌集の拈中の語を摘舉し之に
詳密なる說話を施したるものにして高麗にては
廣く世間に行はれ禪門必讀の書となれるか如し
然るに朝鮮に至り佛教排斥せらるるや此の書亦
世に出てす深く山寺に藏せられたるを天隱子別
號三教了父なる處士之に序を弁して肅宗甲子に
開刊す
覺雲禪師は龜谷と號し高麗高宗の時の人にして
釋慧謹の門弟なり

○ 觀音現相記

一冊 崔恒撰 印本

圖書番號 六六一、六六二

世祖七年壬午京畿に巡狩し砥平上院寺に駐蹕す
其の日觀音菩薩現相し祥光朗耀として天地を燭
照すること良や久ふして散す世祖大に歡慶し寺
に優賞を與へ諸罪人を赦宥し政府以下奉觴稱賀

し勳府は像を造り殿を營む仍て命して圖書を國
内に遍布し崔恒に命し現相記を撰せしめたるも
の即ち此の記なり

○ 佛事問答

一冊 釋普雨著 印本

圖書番號 二二〇七七

水月道場空華佛事如幼賓主夢中間答の名に據り
客と道人とに託し佛事に付ての問答を記したる
ものにして解し易からしむるため諺文を以て句
讀を附せしものなり

釋普雨號は虛應又懶庵と稱す江原道麟蹄郡雪岳
山百潭寺の僧なり禪旨に深く文詞に長し明宗朝
禪教兩宗を復立し佛教を八道に弘布す明宗二十
年臺諫及大學生等の連章に因り濟州に流され遂
に殺さる

○ 念佛普勸文

一冊 釋明衍譯 印本

圖書番號 五三八八

肅宗三十年甲申慶尙北道禮泉郡龍門寺の僧明衍
か諸佛經の説を摘取し次て念佛文と爲し之を該
文に譯解し一般に普勸したるものなり

釋明衍は清虛大師の後裔なり

○ 龍珠寺祈福偈

一冊 正祖撰 寫本

圖書番號 自九九八八至九九九〇、九九九三

正祖二十九年乙卯水原花山顯隆園の齋宮として龍珠寺を建立したる時偈語を作り之を手寫して報恩供養の誠意を表す

○ 濟衆甘露

二冊 釋普圓等編 印本

圖書番號 七八三四

李太王九年壬申より十二年乙亥に至る四載に亘り三角山甘露庵主普月暨正觀か七所の法筵に臨み苦海慈雨品、十種圓信品、普光蓮花品、一切圓通品、如是偈讚品、妙現授記品、返本還源品、無盡方便品、不可思議品、轉不可說等を説きたる語録にして十五年戊寅の春刊行したるものなり

○ 經文纂鈔

一冊 釋井幸編 印本

圖書番號 七六五〇

華嚴法華摠持序及大方廣佛華嚴經疏序、畧纂偈摠持門、妙法蓮華經釋題、陀羅尼天王呪等を鈔編したるものにして間諺文を挿入せり李太王二十二

子部

年乙酉海印寺に於て開刊す

○ 三門直指

一冊 印本

圖書番號 三二二五

佛門の眞訣にして即ち念佛門、圓頓門、經截門の三門に分つ念佛門は念佛法及眞言偈頌等を載せ圓頓門は牧牛子の成佛論問答と義湘師四法界圖頌を載せ經截門は牧牛子決疑問答と休休菴坐禪文並精進圖說看堂規等を掲ぐ間諺文を次て譯を施したる個所あり英祖四十五年己丑安州隱寂寺に於て開板す

○ 禪家龜鑑

二卷一冊 印本

圖書番號 七三四九

佛家の要語を摘取し諺文を以て註釋を施したるものなり

○ 山史畧抄

一冊 寫本

圖書番號 五九五二

諸佛の出世及住世、袈裟鉢具の制度緣起、其の他諸法の傳統等を編録したるものにして哲宗癸亥に成る

四二一

○ 名僧集説

一冊

印本

圖書番號 一一六七五

牧牛子の誠初心學人文と元曉像の發心修行章野雲像の自警序並に頌及佛說像法滅像經等を合編したるものにして李太王二十年癸未海印寺に於て重刊す

○ 禪宗永嘉集諺譯

二卷二冊 世祖命編 印本

圖書番號 六二四

唐永嘉沙門玄覺之を撰し宋石壁沙門行靖之を註し晋水沙門淨源の修定科本にして世祖元年丙子口訣を親定し慧覺尊者信眉等諺文を以て之を翻譯し判教宗事海超孝寧大君補等門に依り科を逐ひ叅詳警校し之を刊行す後中宗庚辰安陰縣長水寺にて重刊せり

○ 大報父母恩重經諺解

一冊 印本

圖書番號 二三五四、自三二二三至三二一九、三五六一、三

八九三、四九五七、四九五八自五三五七至五三六二、七五三七、

七五三八、七五三九、七五四〇、七五四一、七七八七、二五四〇、一一五四一

佛說大報父母恩重經を諺文を以て音義を附したるものなり正祖の時内閣に於て刊出す

○ 阿彌陀經諺譯

一冊 崔錫舜譯 印本

圖書番號 六二二

阿彌陀經を諺文にて翻譯したるものなり卷尾に淨土往生呪を附せり李太王光武九年乙巳崔錫舜等の刊板する所にして十一年丁未の年釋性月三角山安養菴に於て印出したるものなり附録として往生記を載せり

○ 天地八陽神呪經

一冊 印本

圖書番號 一三一九

三藏法師義淨の釋教文に諺文を以て句讀を附したるものなり竈王經、歡喜竈王經を附載す

○ 五大眞言

一冊 印本

圖書番號 六七四九

德宗王妃か佛經の中五大眞言を諺文を以て翻譯せしめたるものなり附録として靈驗畧抄を載す

○ 眞言集 三卷三冊 釋朝奎編 印本

圖書番號 三一四三、七七〇四

佛經中の眞言を蒐輯し梵文を漢字と諺文とを以て對訓したるものなり初め龍岩禪師其の高足白岩と與に刊行し和順郡萬淵寺に其の板を藏せしか回祿の災に遭ふ因て編者更に原本を修正し正祖二十四年庚申楊州道峯山望月寺に於て重刊す又別に肅宗十四年戊辰寧邊妙香山普賢寺に於て開板せるものあり

○ 請文 一冊 印本

圖書番號 一〇〇一

佛家の眞言請文に關するものを蒐録したるものなり曾て板本ありしも刊缺せしを以て肅宗四十五年己亥陝川郡伽倻山海印寺に於て重刊し李太王二十年癸未更に七星請儀文を附して印出せり

○ 雲水壇歌詞 一冊 印本

圖書番號 二二〇三

佛偈眞言等を抄録せしものにして孝宗己亥昆陽棲風寺の比丘僧敬熙之を刊印す

子部

○ 釋門家禮抄 一冊 釋眞一編 印本

圖書番號 七六六九

釋門の吉凶二禮に就き仁祖の時釋懶菴眞一支那の慈覺大師禪院清規及應之大師五杉集並に釋氏要覽の中より要項を抄出したるものなり孝宗十年己亥に刊行す

○ 雲水僧家禮 一冊 印本

圖書番號 五三九八

佛家の讚偈頌供養に關するもの及送迎魂式の次第を記述したるものにして肅宗四十五年己亥海印寺に於て重刊す

○ 佛家日用集 一冊 釋井幸編 印本

圖書番號 五四〇〇

李太王六年己巳釋井幸か佛家の禮節佛誦呪念佛心經及日用語點作法の要妙文句等を編録したるものなり書中梵字又は諺文にて書したる所あり十九年壬午の年之を續刊す

○ 水陸無遮平等齋儀撮要 一冊 印本

一冊

四一三

圖書番號 九九三三

水陸無遮齋の儀式を摘録し間間印法圓及眞言等を載せり宣祖二十年甲戌忠清道恩津縣雙溪寺に於て開板したるものなり

○ 仔夔文節次條例

一冊 釋聖能編 印本

圖書番號 五三八九

水陸齋供の儀文を潤益し景宗四年甲辰海印寺に於て刊行したるものなり

○ 施食儀文

一冊 釋東賓編 印本

圖書番號 一一〇八

佛家の迎魂儀式を編次したるものにして大刹四明日迎魂施食儀文と題せり肅宗三十六年の刊行に係る

○ 茶毗文

一冊 印本

圖書番號 五三九六

茶毗の作法を詳述したるものにして李太壬午秋淡堂井幸大師海印寺に於て重刊す

○ 西域中華海東佛祖源流

一冊 釋采永編 寫本

圖書番號 二三七九

印度支那及朝鮮に於ける佛教の法嗣系統を記載せしものにして初に七佛名を書し西天は第一祖摩訶迦葉より菩提達摩に至り支那に在りては達摩を初祖とし及菴信に至り及菴より更に海東に傳はり平山處林懶翁石屋清瑛太古に及び遂に太古を以て臨濟の正脉とし爾後の各法嗣及門派諸弟の名を其の系下に記し英祖時代に及び次に海東禪派正傳圖高勾麗百濟新羅高麗の祖師並に曹溪山十六師の名を録せり卷初に釋迦如來成道應化事蹟記實を掲げ卷末に行蹟塔銘及跋文あり英祖四十年全州終南山松廣寺に於て刊行す

○ 西域中華海東佛祖源流

一冊 釋昨妙編 寫本

圖書番號 一一〇七四

僧昨妙か釋采永の編したる同名の書を抄録編次したるものにして蘇東軾の序及李浩の跋あり

兵家類

○ 兵將說

一冊 世祖撰 印本

圖書番號 七五八、七五九、五二九、五三三

世祖は朝鮮歷代中最も兵事に心を用ひ性格剛毅果斷將畧あり機に臨み事に應じて諸將に訓示する所皆鑿鑿として肯綮に中れり然れども其の言簡潔にして解し易からざるものあり因りて時の名臣申叔舟、鄭麟趾、姜希孟等之に註釋を施したるもの即ち本書なり兵將說、兵法大旨あり簡にして要を得何れも兵家の箴と爲すに足る

○ 兵將圖說

一冊 印本

圖書番號 八七、八八、一三四、一〇一、一八〇、九、三

七七三

文宗の命撰に係る陣法書を修訂せるものなり陣法書は文宗元年初刊の後更に大字小字の二本あり小字陣法書は端宗三年に成り大字陣法書は世祖四年に成り概ね大差なしと雖節目に至りては互に出入不同あり成宗之を憾とし其の二十三年

子部

柳子光等に命し更に再訂して定本と爲さしめ之を印行す即ち本書なり其の體裁を見るに項目内容は初板の陣法と異なる所なく唯諸種の圖は卷末に載せしを此には初に收め文を後に載せたり

○ 續兵將圖說

一冊 英祖命撰 印本

圖書番號 八三、一六〇、一六一、一八一

五、一八五一

成宗の時兵將圖說あり古今の陣法を説けり其の後制度變遷あり英祖二十五年己巳趙觀彬、朴文秀、具聖任、金聖應、金尙魯等五人に命し更に兵將圖說に續いて本書を成さしむ其の體裁及内容等兵將圖說と大差なし初に武旗を掲げ次に九宮八陣、六花、圓陣、方陣、直陣、銳陣、疊陣、鶴翼、曲陣、玄武陣等諸種の陣形終に形名、結陣、軍令を示せり就中軍令を説くこと最も詳し

○ 兵學通

二卷一冊 正祖命編 印本

圖書番號 一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三、二

〇五三、二〇五四、二〇五五、二二二五、二四五二、二四五

三、二四五四、二四五五、三二六六、三三五四、四〇三三、

四一五

子部

四〇二四

正祖即位の初張志恒等に命し編輯せしめたるものにして大體は續兵將圖説及兵學指南に依り又之に現行練習の圖を加へたるものなり收むる所場操別陣號令、分練、夜操、城操、水操、陣圖等にして皆當時實行せるものに係り今の操典に類せるものなり正祖九年に刊行す

○兵學指南

五卷一冊 正祖命編 印本

圖書番號 二二、二四、二五、二〇〇、二九五六

明人戚繼光の著、紀効新書中操鍊の法を撮要して編成せしものなり正祖十一年新に刊行す、五卷より成り旗鼓定法、旗鼓總決、營陣正設、營陣總圖、場操程式、城操程式、水操程式を收む

○肄陣總方

一冊 正祖命編 印本

圖書番號 四七二、三二五七、三三三五、五二五三

武藝別監の諸種の作陣法を集録したるものなり方陣、內陣、直陣、免陣、曲陣、玄武陣、六花陣の圖を添ふ正祖五年辛丑の編成に係る

四一六

○武藝圖譜通志

四卷四冊 正祖命撰 印本

圖書番號 二八一九、二八九一、二八九三、四一四〇、四

一四一、四九二五、五〇〇九、六二二三、六五一七、六五三

二、六五三三、六五三四、六六九八、六七二二、六八五七

朝鮮當初の武藝は射の一技に止まりしか宣祖の時壬辰の事ありてより更に各種武技の必要を感ずるに至れり偶ま明人戚繼光の紀効新書を購ひ得て始めて棍棒を加へ十二般と爲し英祖の時に至り更に長鎗を加へて十八般と爲し正祖に至り騎藝の六技を加へて二十四般と爲す本書は此等の武藝を圖に描きて説明せるものなり收むる所長鎗、竹長槍、旗槍、銃、銃、狼筈、双手刀、銳刀、倭劍、提督劍、本國劍、双劍、馬上双劍、月刀、馬上月刀、挾刀、藤牌、拳法、棍棒、鞭棍、馬上鞭棍、擊球、馬上才の二十三技射を加へて即ち二十四般なり

○武藏圖譜通志

一冊 正祖命撰 印本

圖書番號 二八二八、四一五二、四一五三、四三二〇、四

八四九、五二一四、五二二五、六一五二、六一五三、六一五

四、六一五五、六一五六、六一五八、六一五九、六一六〇、
七〇四五、七〇七六

武藝圖譜通志に諺文を以て解を附したるものな
り

○陣法

圖書番號

九四四、一一〇〇、一六二六、三二一〇、三三

〇四

太宗及世宗武を重んじ河崙、卞季良等に命じて陣法に關する古來の諸説を編集せしめたり然るに其の書唯古文に據りて編述せるに過ぎず因りて文宗更に首陽大君、鄭麟趾、金孝誠等に命じて新に陣法を編述せしむ即ち本書なり收むる所分數形名、結陣、用兵、軍令、勇怯之勢、勝敗之形等にして卷末に各編の繪圖を添へて説明せり文宗元年に開刊す

○陣說

圖書番號

八九、一三五

一冊 韓孝純編 印本

韓孝純か當時の武士専ら弓馬の餘技のみを學びて兵書を講習し戰法を研究する者なきを慨し古

子部

今の兵書中陣法及行軍に關する部分を拔萃し又之に諸家兵を論するの語を加へ以て本書を作れり而して序に於て必ず實際に行ふべきものなることを論斷せり

韓孝純字は勉叔、月灘と號す中宗癸卯に生れ宣祖丙子文科に登り官左相に至る光海君の時廢母の議を庭請し仁祖立つに及び官爵を追削せらる

○東國兵鑑

二卷二冊 文宗命編 印本

圖書番號

七六〇、一九三四、三七七〇

前漢武帝の時より高麗廢王禡の時李太祖か女真人、拔都を擊退したるまで大凡そ朝鮮と支那との間に起れる戰役三十餘回の事略を列舉せるものなり

○歷代兵要

一三冊 李石亨等編 印本

圖書番號

五〇七〇

李石亨か全羅道觀察黜陟使たりし時同僚趙枚、宋林明等と共に編纂せるものなり支那上代より朝鮮太祖に至るまでの史冊に出て兵略上趣味ある戰爭記事を拔萃せるものにして太祖女真人、拔都

四一七

を大破するを以て終れり世祖元年光州に於て開刊す

○制勝方略

二卷一冊

金宗瑞著
李鎰增補
印本

圖書番號 一三二、八二六

太宗世祖の時金宗瑞之を案出し宣祖の時李鎰之を増補修正せしものなり初に慶興鎮、慶源鎮、鍾城鎮、穩城鎮、會寧鎮、富寧鎮、吉州鎮、鏡城鎮等八鎮城の部落堡壘等の位置及攻守の要害と用意とを詳記し次に防邊隊の守るべき軍務二十九條禁令二十七條及穩城、鍾城、會寧、慶源、吉州、富寧六鎮の軍官の官名を書し終に宣祖の時の咸鏡北道兵馬節度使李鎰の諸行制勝方略状と之に對する回状とを附せり咸鏡道胡人の防備は朝鮮の重大軍政なりしを以て之に對して周到なる劃策を立て事あれば六鎮五衛協力して相救援するの制と爲せしものなり

金宗瑞字は國卿、節齋と號す順天の人太宗乙酉文科に及第し世宗の時咸吉道都節制使となり文宗の時左議政に陞り几杖を賜ふ頗る智略あり時人

目して大庖と爲す世祖癸酉に歿す

李鎰字は重卿、龍仁の人なり明宗戊午武科に中り將略あり尼湯介か慶源、鍾城に亂を起せる時特に慶源府使となり防禦の任に當る宣祖壬辰東邊防禦使となり屢戰功あり辛丑に歿し左參贊を贈らる

○演機新編

三卷三冊

安命老編
印本

圖書番號 一三四〇

黃帝九軍、孔明八陣、李靖六花の諸法を推明し唐宋以來諸家の説を辨析し君德、將道、星象、太乙、奇門等の目を立つ顯宗元年庚子の編成刊行に係る

安命老字は德叟、順興の人忠顯公弘國の孫なり光海庚申に生れ孝宗庚寅文科に登り官奉常正に止る肅宗庚申に謫せられ未だ宥せられずして歿す

○行軍須知

一冊

金錫胄編
印本

圖書番號 六六七九、一二三六〇

宣祖壬辰以來兵學盛に講究せられ支那の兵書翻譯せらるるもの多し本書は肅宗の時の右相金錫胄か兵曹判書たりし時武經摠要中より其の兵事

に緊要なるものを抄出し以て刊行せるものなり
正祖命編の兵學指南と相須ちて當時兵家の要書
たり

○ 風泉遺響

一冊 宋奎斌著 寫本

圖書番號 一四九〇

正祖二年宋奎斌か壬辰の役丙子の變に鑑み國防
陣形兵器等に付き私見を縷述したるものなり
宋奎斌は正祖の時の人官正憲大夫行同知中樞府
事に至る

○ 民堡輯說

一冊 申觀浩編 印本

圖書番號 五三三二

李太王三年丙寅佛國軍艦江華島を攻撃し物情騷
然たり申觀浩時勢に鑑み國を守るは人民個個を
して守らしむるに如くなきを思ひ翌年此の書を
作る伍甲堡制堡器保約に分ち多くの古兵書より
抄出せり

申觀浩字は國賓威堂と號す後に名を穩と改む純
祖辛未に生れ官兵曹判書に至り李太王戊子に歿
す

○ 武經節要

七卷一冊 印本

圖書番號 二三八五

武經總要全書の前後集中より節略纂輯せしもの
にして第一卷は選將以下十條第二卷は用騎以下
二十三條第三卷は八陣法以下七條第四卷は九地
六形雜叙戰地攻城法等第五卷は水攻水戰火攻第
六卷は守城以下六條第七卷は太乙占法にして圖
式を並せ附せり

○ 紀効新書節要

一冊 印本

圖書番號 一四〇八、一四〇九

明人戚繼光の紀効新書に就き其の煩を刪り其の
要を節し以て編輯せしものなり

○ 陰雨備

一冊 寫本

圖書番號 六二九二

兵備を論したるものにして重關防壯軍制警荒嬉
修都城借財用得將才の六條に分てり

○ 神器秘訣

一冊 韓孝純編 印本

圖書番號 一三三、三一八九

韓孝純か宣祖三十六年咸鏡道巡察使たりし當時

世に傳れる銃器、火藥の用法及製法を記せる書籍
中實用に適切なるものを拔集し之に太公兵法、孫
子兵法、尉繚兵法、威繼光兵法を補添せるものなり
神器と云へるは銃砲の他の武器に比し神妙の用
あるかためなり

○ 白砲裝放法

一冊

寫本

圖書番號 一一四八七

白砲の制を説き藥丸を裝ひ火箭を放つの法を述
へたるものにして諺文を交へて之を記せり

○ 新傳煮硝方

一冊 金指南著 印本

圖書番號 七九二七

肅宗二十四年戊寅相臣南九萬の建白に依り譯官
金指南か北京に於て學得せし煮硝方を軍器寺に
命して刊行せしものなり然るに中間に廢して不
用とせしも正祖二十年丙辰相臣尹著東の建白に
依り更に軍器寺をして刊行せしむ
金指南字は季明、廣川は其の號なり牛峯の人、肅宗
の時官知事に至る

○ 馬經諺解

二冊 李曙著 印本

圖書番號 七二〇

馬經を諺文に抄譯せるものにして仁祖の時の著
に係る文中處處圖を挿入せり

李曙字は寅叔、月峰と號す、孝寧大君補の後なり、武
科に中り、長湍府使となり、光海君癸亥兵を募りて
義を舉ぐ、仁祖親ら曙を延曙に迎ふ、靖社元勳に錄
し、完豊府院君に封せられ、忠定と諡す、摠戎使を以
て南漢山築城を董し、積瘁鬚髮盡く白し、丙子北門
を守り、忽然地に倒れ、寓舎に歸り、婿蔡裕後に謂つ
て曰く、會稽の耻雪かす、吾瞑目する能はずと

農家類

○ 農家集成

一冊 申泓編 印本

圖書番號 六七二九、六九三一

世宗の命撰に係る農事直説、朱熹の勸農文、世祖の
時、姜希孟の作れる、衿陽雜錄及四時纂要を集めた
るものなり、農事直説は朝鮮水土の支那と異なる所
あり、支那の農書を直に朝鮮に實施する能はざる
ものあるを以て、各道觀察使に命し、其の地方老農

に就きて實驗方法を尋ね録して報告せしめ更に詮次を加へて一卷と爲したるものなり裕陽雜録と四時纂要とは四時の農事及農作物に付き注意事項を集録したるものなり孝宗六年乙未の編纂に係る

申沅字は浩仲、二知堂と號す高靈の人仁祖の時登科し官通政牧使に至り年三十八にして歿す

○ 蠶桑輯要

一冊

寫本

圖書番號

四六二二

養蠶の百姓に缺くへからさることを述へ其の法を平易に説明し更に卷末に養蠶に要する器具の圖を描き其の用法を説明せり蓋し當時養蠶の必要を感じ一般男女に周知せしむるため諺文を以て本書を作りたるものなり

○ 蠶桑撮要

一冊

李祐珪編

印本

圖書番號

自二六九〇至二六九七

李太王十九年壬午二十年癸未年間各國と通商條約を結ひし後魯桑栽種法、養蠶繅絲法等を外國書籍中より抄出し以て之を成書とし各種の器具圖

子部

様を附載して二十一年甲申の年刊行したるものなり

李祐珪字は聖天、韓山の人叅判教植の子なり哲宗甲寅に生れ李太王乙酉内務府主事に任し羅州郡守に至る

○ 種諸譜

一冊

徐有架著

印本

圖書番號

五六〇〇

純祖三十四年徐有架か湖南巡察使たりし時甘藷栽培に關し著述したるものにして叙源、傳種、種候、土宜、耕治、種栽、壅節、移挿、剪藤、收採、製造、功用、救荒、麗藻の十四項に分ち諸書を涉獵し自家の意見を附し親切周詳に叙論せり

徐有架字は準平、楓石と號す大邱の人保晚齋命膺の孫なり英祖甲申に生れ正祖丙午進士に中り庚戌文科に登り翰林待教副學を歴て文衡に圉し官吏判に至り憲宗乙巳に歿す文簡と諡せらる文詞瞻麗にして百家に旁通す楓石集、增補山林經濟等の著あり

○ 增補山林經濟

一六卷八冊

朴世堂著
徐有架增補

寫本

四二一

子部

圖書番號 七六七六

卜居、治農、種樹、養花、養蠶、牧養、治圃、攝生、神德、治膳、救荒、辟瘟、辟蟲、家政、求嗣、養兒、救急、四時纂要、田家占候、選擇、雜方、格物、清齋位置、棋經、筆訣、山野樂、東國山水等の項に分ち著者の著述を記述せり山林經濟の名は田家に處する者の日常必須なる事項を掲載せる意なり
朴世堂字は季肯、西溪と號す、益南の人なり、顯宗庚子生員文科に登り、官判中樞府事に至る、吾社に入り致仕す、文節と諡す

醫家類

○東醫寶鑑

二五卷五冊

印本

圖書番號 四四七、八四九、一九三三、二〇〇三、二〇三三

二、三五五三、一六五、一七二

許浚宣祖の知遇を受け、其の二十九年支那朝鮮の醫書を哀聚して完備せる一書を成すへきことを命せらるる是に於て編輯局を設け自ら主任となり他の醫官等と共に編輯に従事す、偶ま丁酉の役起

四二二

り諸醫星散し編輯の業も一時中止の已むを得ざるに至り、役後更に浚一人に命じて撰せしむ既にして宣祖昇遐し、光海君三年辛亥に至り甫めて完成し、其の五年癸丑板成り、印行す、朝鮮に於ける第一の醫書なり、篇數二十三、内景篇(即ち内科學)四、外形篇(即ち外科學)四、雜篇(即ち流行病、霍亂、婦人病、小兒病)十一、湯液篇(即ち藥方)三、及鍼灸篇一にして各病下に處方を條記し、體裁頗る整然たり、且其の説明甚しき、怪誕牽強の弊なく、漢方の醫書に在りては翹楚を推すへし

許浚字は清源、明宗の時に生れ、醫官となり、光海君の時に歿す、朝鮮杏林の扁倉なり

○濟衆新編

八卷五冊

印本

圖書番號 七二四、七三五、一六三八、二〇七七、二〇三〇

一、七六四五

正祖の時侍醫康命吉に命し、古今の醫書を參考して要を撮り、繁を削り、以て編集せしめたるものなり、第一卷は風、寒、暑、温、燥、火より起る諸病及藥方、第二卷は内傷、虚勞、精、氣、神、血、夢、聲音、言語、津液、痰、飲よ

り起る諸症及藥方第三卷は五臟六腑蟲小大便頭面眼耳鼻口舌齒牙咽喉の諸症及藥方第四卷は頸頂胸腹手足毛髮生殖器肛門霍亂咳嗽等の諸症及藥方第五卷は積聚浮腫消渴瘧疾癰疽諸瘡解毒急病の諸症及藥方第六卷は婦人病第七卷は小兒痘疹癩疹養老の諸症及藥方第八卷は藥性歌を載せたり就中第八卷の藥性歌は主要なる藥物の効用を四言四句に綴り記臆に便せり
康命吉字は君錫昇平の人なり英祖丁巳に牛れ醫官となり楊州牧使に至る

○ 壽民妙詮

四卷二冊

寫本

圖書番號 四八〇九

初に身形精氣神血等を古書より引きて説明し加ふるに道家の養生法を以てし次に五臟六腑胞蟲大小便頭面手足等の各機關に説及し其の病を惹起する原因及症狀を述べたり

○ 簡易辟瘟方

一冊

印本

圖書番號 三九九、五三七、五六九六、七八五〇

中宗十九年甲申平安道に癘疫大に流行し終熄せ

子部

す翌年醫官に命して其の病候藥名治法辟穰等を簡明に記述せしめ各項に諺文の譯を附し印刊頒布したるものなり

○ 新纂辟瘟方

一冊

印本

圖書番號 二九四五、三四八七、一一四二九

光海君四年壬子咸鏡道に癘疫大に流行し八路に傳播す翌年簡易辟瘟方を印頒し尙ほ粗率を慮り更に東醫寶鑑の撰者許浚に命し本書を撰定し瘟疫の原因脈理形證藥名治法穰法辟法不傳染法鍼法不治證禁忌等を記述せしめ印頒す

○ 辟疫神方

一冊

印本

圖書番號 二四〇六、二九四四、五三三

光海君五年癸丑春毒疫盛に行はれ民死するもの多きに因り許浚に命して毒疫の治法及藥方中行ひ易く又效驗あるものを選集せしめ官刻して廣く行はしめたるものなり毒疫の起原症狀より治法及藥法に至る迄頗る簡にして要を得たり

○ 辟瘟新方

一冊

印本

圖書番號 七八七三、一一五七〇

四二三

孝宗四年癸巳黃海道に痲疫大に流行せしを以て
醫官に命して其の病源藥治辟穢禁忌等を簡明に
記述せしめ各項に諺文の譯を附し校書館に於て
印刊し中外に頒布したるものなり

○ 諺解胎產集要

一冊 許浚著 印本

圖書番號 一八一、一八二

胎產に關する諸症及藥方を述へ之に諺文の解を
施せり第一求嗣より始め男女の精力を強健にす
る藥方を説き次に孕胎に遷り妊娠中の諸症藥方
産前諸症及藥方次に産後の諸症と藥方及臨産豫
備藥物を述へ次に産時の方位避禁日等を述へ最
後に附録として初生兒の救急法を添へたり宣祖
四十一年戊申内醫院に於て刊行す

○ 諺解臘藥証治方

一冊

印本

圖書番號 三一六三、三四七九、五二五四

毎年臘月藥房内醫院に於て年内に用ふべき各種
の丸藥を調製し之を臘藥と稱したり本書は其の
對證投劑の方法を諺釋し醫家をして知り易から

しめたるものなり

○ 蔘芪小識

一帖 英祖撰 搦本

圖書番號 一〇三一五

英祖四十六年庚寅蔘芪性偏大小宜審八字を親書
して内醫院に下し更に其の意を敷演して小識を
親撰し都提調洪鳳漢に命して書せしめ刻して之
を搦したるものなり

○ 鍼灸經驗方

一冊 許任著 印本

圖書番號 八〇九、四四九二、四四九三、六七九七

仁祖の時の醫官許任か鍼灸の良書なきを憾み其
の經驗せる諸方を基として著述し仁祖二十二年
甲申白軒李景奭湖南觀察使睦性善に囑し刊刻す
其の内容は初に鍼灸諸穴の大體を述へ次に各症
に涉りて鍼灸法を説き終に鍼灸に日を擇ふべき
事を説けり

許任字は仁叟陽川の人清白吏晶の孫なり英祖丙
午に生れ甲戌宣傳官に入仕し丙子武科に登り訓
正を歴て官亞將に至る正祖丙辰に歿せり

天文類

○ 天東象緯考 一八卷八冊 崔天壁著 印本

圖書番號 四四五二、四五五四、五〇五二

凡そ天變地異は古代に於ける國家の大事件にして天帝之を以て國君を警むと信せられたりされは歴代の史官は必ず之を史に記し後世の鑑と爲す崔天壁亦此の主旨に依り肅宗三十四年戊子高麗四百七十五年間の史に見ゆる天地の異象を集めて本書を成せり天變、地變、日變、虹貫、日月變、經緯星變、雜變を收む

○ 諸家曆象集 四卷四冊 印本

圖書番號 六九一、六九八、六九九、七〇〇、九四〇、一

五八七、一七四二、一七四三、三一五六、三三五二、五三六九

世宗二十七年乙丑李純之に命し編纂せしめたるものにして古書を檢出し天文一卷、曆法一卷、儀象一卷、晷漏一卷を蒐成せり世宗は朝鮮歷代中最も天文に興味を有し本書の外其の製作に係る簡儀、日晷、定時儀、渾天儀及漏刻器等何れも精妙を極め

子部

曆も亦大明曆授時曆、回回曆等の諸曆及曆法の諸書を參考して別に之を制定せりと云ふ

○ 國朝曆象考 四卷二冊 印本

圖書番號 四三二八

正祖十九年曆官成周憲等に命し編集せしめしものにして一部四卷曆法沿革、北極高度、東西偏度、更漏の五目より成れり蓋し朝鮮以前は曆象の制度備らざりしか世宗に至り最も意を曆に用ひ鄭麟趾等に命して曆書七政通軌を校正せしめ官刻し又簡儀器、仰儀器を鑄造し漢城の北極星及子午線を測定し以て季節及漏刻の標準を示せり後正祖の時に至り赤道儀、地平器を製して眞時刻を示すの機と爲し其の算測は皆京城の北極星を標準とせり斯の如く朝鮮は歴代曆象に就きて深く意を用ひしかは其の曆法儀象の制度等見るべきもの多し

○ 新法步天歌 一冊 李俊養編 印本

圖書番號 三九六八

隋の丹元子の著に係る舊本步天歌は年代久遠に

四二五

して差忒甚た多し仍て編者は哲宗十三年壬戌燕京實測新書及清道光時星圖歩天歌に據り推驗して紫微太微天市分野及天漢界度等天文の星圖並に歌訣を校編せり觀象監に於て刊行す

○ 曆事明原註解 五卷三冊 曹震圭著 印本

圖書番號 二八八八

正祖の時觀象監曆官曹震圭が曆事明原に註解を施し官刊したるものなり

○ 推歩續解 四卷三冊 南秉哲著 印本

圖書番號 四七八〇、四九三〇、四九三二、七八三〇、一

一五六四、

南秉哲が支那江慎修の著曆象考成に依り日躔月離、交食及恒星を解したるものなり推日躔用數、推日躔法、推月離用數、推月離法、推月食用數、推月食法、推日食法及又法、推恒星用數、推恒星法の十日あり哲宗十三年に成る

南秉哲字は子明、圭齋と號す宜寧の人にして壺谷龍翼の後太華有常の曾孫なり純祖丁丑に生れ純祖及憲宗に歷事し官吏曹判書大提學に至り哲宗

癸亥に歿す文貞と諡す

○ 授時曆捷法立成 一冊 姜保編 印本

圖書番號 八九二、八九三

高麗忠烈王二十四年戊戌世子忠宣王元に入り授時曆法を見て之を朝鮮に傳へんと欲す時に書雲正姜保盡く其の法に通せしを以て之を傳寫せしめ書雲觀に置き後忠惠王四年に刊行す

○ 時憲紀要 二卷二冊 南秉吉著 印本

圖書番號 一七三九、二六六三、二六六四、一一六六

六、一一六六七

南秉吉は天文に於ける天才の稱あり當時天文曆法は科擧の一科なれば中人の子弟之を學習する者多し曆法は清の時に西洋曆學をも參斟して時憲法となり從來の曆法に比し最も精緻完備を致せしも學習者其の難解に苦しめり仍て南秉吉本書を著して時憲法の精要を紀述し後進に便す上卷は七政篇にして曆法沿革、天象、地體、黃赤道、經緯度、曆元、歲實、地半、經差、清蒙氣差、恒星行度、恒星算例、太陽行度、日躔算例、太陰行度、月離算例、五星行度、土

星算例、木星算例、火星算例、金星算例、水星算例、五星
段目算例を載せ下篇は交食篇にして交食總論、月
食算例、月食帶食算例、日食算例、日食帶食算例を載
せたり哲宗十一年庚申に成る

南秉吉後相吉と改む字は子裳六一齋と號す圭齋
秉哲の弟にして純祖庚辰に生れ哲宗庚戌文科に
登り官禮判に至れり天文に精通すること當時第
一と稱せらる別に時憲紀要推歩捷例等の著あり
李太王己巳に歿す

○ 四餘纏度通軌

一册

印本

圖書番號 二二四三四

明の曆官順行周天したる紫氣星、月孛星、逆行周天
したる羅喉星、計都星等即ち四餘星の纏度を推算
し其餘の朔策に満たざるものは閏餘の分に成
る所以を説明して書と爲す世宗此等の推歩は所
在に據り同しからざるを以て漢城を標準とし李
純之及金淡に命じて校正を加へ甲子活字を以て
刊行す其の顛末は跋文にあり

○ 七政算内篇

三卷二册

印本

子部

二二九、二四一〇

圖書番號 四八、四九、八九四、三三七、三三八、二

高麗より朝鮮の初に至るまで久しく唐の宣明曆
法を遵用せるを以て其の差益甚し世宗始めて曆
法を釐正するや鄭鉉之等に命し元代授時の法及
明代通軌の法を講究せしめ更に李純之及金淡を
して授時通軌の法を參酌せしめ以て本書を作る
七政は第一曆目第二大陽第三大陰第四中星第五
交食第六五星第七四餘星にして各一篇と爲し卷
首に天行諸率、日行諸率、月行諸率及日月食の限度
を冠せり卷尾に短跋あり日の出入は處に隨ひ各
異り諸曆同しからざるを以て内篇は漢陽日至の
晷に據り推求して本國の所用と爲すと記せり本
書の成れるは世宗二十四年壬戌にして活印は同
二十六年甲子なり

○ 七政算外篇

三卷五册

印本

圖書番號 八一、一八〇

世宗曆法を釐正し李純之及金淡に命し元代授時
曆及明代通軌の兩法を參酌して七政算内篇を撰

四二七

し又、回回曆經通經假令の書に増刪補闕を加へて本書を成す其の内容は第一太陽第二太陰第三交食第四五星第五太陰五星凌犯にして内篇の七政とは異れり

○ 太陽通軌

一冊

印本

圖書番號

一二四三五

太陽の度数を推算したるものなり明の曆官の原著にして世宗の時李純之等に命し漢城を標準として校正せしめ甲子活字を以て刊行したるものなり

○ 太陰通軌

一冊

印本

圖書番號

一二四三六

太陰の度数を推算したるものなり明の曆官の原著にして世宗李純之等に命し漢城を標準として校正せしめ甲子活字を以て刊行したるものなり

○ 大統曆日通軌

一冊

印本

圖書番號

一二四三七

卷首に曆算の求法を示し次に大統立成卷を上とし太陽盈縮の分績を列記し次に太陰遲出疾度立

成等の目を掲げ太陰遲疾の限數を列記す明の曆官の原著にして世宗曆法を釐正するに際り李純之及金淡に命し校正を加へ甲子活字を以て刊行す校正顛末は四餘纏度通軌の跋文に在り

○ 交食通軌

一冊

印本

圖書番號

一二四三八

明の曆官か日月の交食軌度を推算し其の法を區別して日食通軌及月食通軌と爲し用數目錄及陽食入交陰食入交を其の上に加へて一冊と爲し交食通軌と名く世宗の時李純之及金淡に命し漢城を標準として校正せしめ明傳來の授時曆各年交食を附し甲子活字を以て印出す其の本書校正の顛末は四餘纏度通軌の跋文に在り

○ 五星通軌

一冊

印本

圖書番號

一二四三九

世宗の時明の曆官か金、木、水、火、土、五星盈縮の度損益の率及求法を説明したる書に據り李純之及金淡に命して漢城を標準として校正を加へしめ甲子活字を以て刊行す校正事實は四餘纏度通軌の

跋文に在り

○ 月五星凌犯

一冊

印本

圖書番號 一二四四〇

明宣宗宣德十年正月より十二月に至る間に於ける月五星相凌犯したる原本に就き世宗の時李純之及金淡に命し漢城を標準として校正せしめ甲子活字を以て刊行したるものなり校正事實は四餘纏度通軌の跋文に在り

○ 重修大明曆

二卷一冊

印本

圖書番號 一二四四一、一二四四二

金太宗天會五年司天官揚級始めて大明曆を作り金海陵王正降年間司天官趙知微之を重修し元始めて之を襲用す世宗の時李純之及金淡等に命し漢城を標準として之を校正せしめ甲子活字を以て刊行す校正事實は四餘纏度通軌の跋文に在り

○ 庚午元曆

二卷一冊

印本

圖書番號 一二四四三

世宗曆法の大政なるを以て鄭欽之等に命し元の授時曆の法を講究せしめ更に李純之及金淡に命

子 郵

し漢城を標準として之を校正せしめ甲子活字を以て刊行したるものなり校正事實は四餘纏度通軌の跋文に在り

○ 交食推歩法

二卷一冊

印本

圖書番號 六七

曆法は古來帝王の政に重要なるものなり高麗以來朝鮮の初に至るまでは唐の宣明曆及明の大統曆の法を循用したるを以て年代の久遠と地域の東西とに因り差謬極めて多し世宗始めて金の大明曆元の授時曆明の通軌等の諸法を推究し先づ朝鮮漢陽は北極出地三十八度少弱なることを測定し新術を推演して本書を撰し日月交食に付き盈縮の差、遲疾の差、加減の差、日の出入の分、晨昏の分、半晝の分及冬至の赤道日度と黃道日度との法を古法に依らずして直に推求し以て本書を成し其の法則の記誦に便ならしむるため算法歌詩を製し世祖三年戊寅李純之に命し金石梯と共に交食推歩法及算法歌詩の假令及註解を作らしめ交食推歩法を上下二卷とし又註解したる算法歌詩

四二九

を算學發啓蒙と題して卷首に冠せり

○重修大明曆丁卯日食月食假令

二卷二冊

印本

圖書番號

四〇四九、四〇五〇、四〇五一、四〇五二、五

〇四四、六五二三

世宗二十九年丁卯八月朔に日食あり同月望に月食ありたるより金代に用ひたる大明曆の法を以て之を推測し假令の實積を録せしめたるものなり

○七政算内篇丁卯年交食假令

一冊

印本

圖書番號

一七九、三二八五、三一八八

世宗二十九年丁卯八月朔に日食望に月食あり世宗即ち七政算法を以て曆日の遲疾を推算し假令を示せしものなり

○日月交解

一冊

寫本

圖書番號

七八四一

天體の運行測度より日月蝕の推算を説けるものなり

○星鏡

二卷二冊 南秉吉編 印本

圖書番號

一六六七

支那古來の天文書を本とし旁ら西人の説をも參照し星宿の圖譜を描きて其の説明を加へたるものなり二十八宿の外紫微垣、太微垣、天市垣、近南極星あり星數は一等星十六、二等星五十一、三等星百五十九、四等星三百四十九、五等星三百九十九、六等星三百四十三別に卷末に赤道儀圖及其の用法を載せたり哲宗十二年辛酉に成る

○遼海星宗

六卷六冊

寫本

圖書番號

七五六六

數より易を論して天文、地理、方位及人事に及び天地、人三才の關係密切なるを説き終に五福星に及ぶ而して五福星の所在は自ら定則あり其の在る所は民壽福にして兵革の災なし即ち支那河西の乾地、遼東の良地、東夷の巽地、蜀川の坤地、洛邑の中宮の五地なりと爲す而して暗に朝鮮を以て遼東の良地に當て福德星の所在に擬するか如し李太王二十一年に成る

なり

○時憲七政百中曆

一冊

印本

圖書番號

四九七八、四九七九、六七九一、六七九二

七政百中曆を時憲曆法を以て編成せしものなり
英祖四十八年壬辰に始り正祖五年辛丑に止む凡
て十なり

○百中曆

一冊

印本

圖書番號

六七四四、自七二二九至七三三八、自七二六四

至七二七七

正祖四年より光武八年に至る曆本なり大統曆法、
時憲曆法等を並載す

○千歲曆

三卷三冊

印本

圖書番號

六七四五、七三三二、七三三三、七三三四、七

二二五、七二二六、七三二七、七三二八、自七二二九至七二

五六、七二五七

世宗二十六年朝鮮曆を製作し民間に配布せしか
猶ほ精緻を缺き時に差異を生ずることあり正祖
の時に至り更に精密なる支那の曆法を朝鮮に移
し其の六年に至り千歲曆成れり第一冊は正祖元

年丁酉より百十年丙戌に至る毎歳の大小月及二

十四節氣、毎月の初一日十一日廿一日の日辰干支

を時憲曆法を以て推算し第二冊は同一の内容に

大統曆法を以て推算し第三冊は肅宗十九年癸酉

より正祖十六年壬子に至る百年間の大統時憲を

對舉したる中曆を附せり第一冊の卷頭に世宗二

十六年甲子を上元とし推定せし元圖を冠せり

○大統萬歲曆

二冊

印本

圖書番號

一四八五、一八四七、二八八三、六七四六、自

七二七九至七二〇五、七二〇六、七二〇七、七二〇八、七二

〇九、七二一〇、自七二二一至七三二九、七三三〇、七三三

正祖元年丁酉より光武一百七年癸未まで合せて
二百二十七年間の陰曆干支と毎年十二朔の大小
及二十四節候の日時を大統數を以て推算編纂せ
しものなり

○漏籌通義

一冊

印本

圖書番號

三二九四、四八八九、六三三八、一一五八〇

古代よりの漏刻通義を説明し併せて一年四季五
更の各更に主たる星宿を挙げたり而して本書の

説明する漏籌は十一箭より成り一年を十一に分ち各箭を之に配して一晝夜の比等せる前後二季節を主管せしむ例へは冬至初日より大寒後二日に至る間と小雪前四日より冬至前一日に至る間とは第一箭を用ひて時刻を計り大寒後三日より立春後二日に至る間と立冬前四日より小雪前五日に至る間とは第二箭を用ひて時刻を計るか如し

○ 法漏籌通義

一冊 金泳著 印本

圖書番號

三二五八、三三〇六、三三五六、三三五七、三

五〇〇、三八一〇、三八一一、三八二二、三八一八、三八一

九、三八二〇、三八二二、

漏壺の法は初め一年二十四節氣に準して二十四箭を用ひしか正祖の時毎節氣を三候に細分し以て七十二候とし三十七箭を増し晝極長夜極短の冬至の初候には第一箭を獨用し晝極短夜極長の夏至の初候には第三十七箭を獨用し其の他は二候相對して共に一箭を用ひ每箭を五更とし每更を五點として丁東の響裡に時刻を表示せり

子部

○ 儀器輯說

二卷二冊 南秉哲著 印本

圖書番號

四七七九、四七八一、四七八二

古來朝鮮に於て使用せし天文に關する諸器の構造及理法と其の算法とを説明せるものにして渾天儀、渾蓋、通憲儀、簡平儀、驗時儀、赤道日晷儀、渾平儀、地球儀、勾陳天樞合儀、兩景揆日儀、量度儀等の十儀を收む

○ 量度儀圖說

一冊 南相吉著 印本

圖書番號

七六五三

天文推歩の算は斜弧三角の法最も簡捷なるも支那の梅勿菴圖を以て算に代ゆるの便法を案出せり然るに著者一弧度一角度毎に一圖を要するの繁を憾み一步を進めて量度儀器を製し天地の高大と日月の運行とを轉移して推測する新法即ち器を以て圖に代ゆるの捷法を發明す仍て其の儀器を圖解し之に説明を加へ更に平儀加減法を附し哲宗六年乙卯活字を以て印行す

○ 算術管見

一冊 李尙懌著 印本

圖書番號

五九一四

四三三

支那數理精蘊の闕を補ひ各等邊形拾遺前人の未
 た發明せざる所の圓容三方互求西人杜德算の割
 圓及弦矢の捷術を推演したる弧線求弦矢及弦矢
 求弧度等四編を詳述し編尾に不分線三率法解一
 編を附せり哲宗六年乙卯判書南相吉活字を以て
 印出す

李尙懌字は志叟哲宗の時の人なり

○算學正義 三卷三冊 南相吉著 印本

圖書番號 七八三八

算數の諸法を説けるものにして上中下三編に分
 ち上編は専ら立法比例の綱領を論し中下編は明
 理を論せり李太王四年丁卯の年編成刊行す

方術類

○選擇要略 三卷三冊 李純之著 印本

圖書番號 一七二

陰陽干支を説けるものにして干支の陰陽生剋よ
 り五行の配當に及び年、月、日、時刻の各干支か一一
 有意義なることを述へ一事を成さむとする必ず

適當なる干支の年、月、日、時刻を擇ふへしと爲し事
 の部門を分ちて之を詳説せり

○選擇紀要 二卷二冊 南秉吉著 印本

圖書番號 四二〇

年、月、日、時刻の干支を選擇する法を説けるものな
 り南秉吉觀象監提調として生徒に天文曆法及干
 支術を教ふるや適當なる教科書なし仍て時憲紀
 要を著し天文曆法の教科書と爲し本書を著して
 選擇干支術の教科書と爲せり哲宗十三年に成る

○增補天機大要 二卷二冊 池日賓編 印本

圖書番號 九八九

首に太極八卦、河圖洛書及先天後天等の圖説より
 五行生剋、陰陽順逆並に曆家秘訣を掲げ次に喪葬
 起造、婚姻の三門を主とし移居、上官、入學、祭祀、裁衣
 求嗣、進人、出行、輿販、偃武、教兵、造贊、伐木、養蠶等の宜
 日、忌日の選擇法と避凶、趨吉の方法とを記したる
 ものなり英祖十三年丁巳編者の父日源、明の林紹
 周著す所の天機大要に増刪を加へ新增天機大要
 と名けて刊行し同三十九年編者又増補し觀象監

に於て之を重刊せり

○ 協吉通義

二二卷一〇冊

正祖命編 印本

圖書番號 二八二七、二八七七、二八九二、二九八二、二

九八三、三六三八、三六三九、四六三七、四六三八、四九八

四、一一五九九、一一六〇〇

支那梅穀成の協紀辨方と魏鑑の象吉通書の協字吉字とを取りて名けたるものなり協紀辨方及象吉通書は支那陰陽書中最も根據あり詳精なる二名著なり正祖十九年文臣に命して二書の繁雜を省き訛謬を正し以て進めしむ此の書是なり第一卷及第二卷は本原と稱し河圖洛書陰陽五行干支納音納甲を説き第三卷より第七卷は義例と稱し陰陽術の諸神を説き第八九卷は公規と稱し時候時刻を擇ひて諸神に祭享を致すことを説き第十十一卷は用事と稱し天子より庶民に至るまで事に應じて忌むべき月及宜しき日を説き第十三十四卷は立成と稱し歲月日時の吉凶神殺を説き第十五卷より第十八卷は利用と稱し相山定墓の法

子 部

を説き第十九卷は總論第二十卷は辨論第二十一

二十二卷は附録なり

○ 撮要新書

二卷二冊 朴興生著 印本

圖書番號 一一五二

胎産冠婚上官興造出入耕桑祭病喪葬禳占等の方位日時宜忌吉凶等を論したるものにして李太王三十一年甲午著者の後孫重浩刊行す朴興生字は敬夫菊堂と號す密陽の人蘭溪堞の從弟なり世宗の時年十三にして進士に中り十七又生員に中り官縣令に止まる嘗て業を桑村金自粹に受け英敏の稱あり晩年學行頗る高し深く神術符緯を信す

○ 新刊詳註六壬斷經秘訣

五卷一冊 印本

圖書番號 二二三〇、二二三六、二三〇八

六壬術の一書にして古來の斯術に關する諸秘訣を集めたり第一卷起課總例は卦を記すの範例を擧げ第二卷相克相生は干支生克の理を述へ第三四五卷金鎖玉匙總訣は六壬術の術語を列記せり

四三五

六壬術とは干支一巡六十中壬申、壬午、壬辰、壬寅、壬子、壬戌の六壬を最も重しとし之を以て吉凶禍福の占筮を爲すものなり朝鮮に於ては古來將帥の家にも多く本法を傳ふと云ふ

○ 洪範衍奇

一冊

寫本

圖書番號 一一四七六

各術書を輯聚したるものにして洪範正宗變局、生氣法、八門下、卜八門法、天時晴雨賦、助制、詳細、朝鮮分野、年局歌、人品論、流年評、商賈篇、逃亡章、失物章、求財出行章、避亂圖、生章、罡局、月輪圖、人命章、占人壽算、卜六親章、洪範衍奇、水驗、早驗、年國事、歷年經驗、軒轅制式及五音屬姓法等を收載せり

○ 洪範正宗

一冊

寫本

圖書番號 七五七一

六十花甲子を首とし干支陰陽、五行相沖、八卦、九宮、遁甲等の法を載録したるものなり

○ 秘扇玉匙

一冊

寫本

圖書番號 七三五〇

干支と星名とを以て推斷したる算命術書なり

譯學類

○ 吏文續集輯覽

二卷一冊

印本

圖書番號 一五七七

曩に吏文抄あり其の語數多からず又時用に適せざるものあり崔世珍中宗の命に依り更に時用吏文を輯集し之に註解を加ふ續集の名は舊抄に對して言へるなり其の三十四年己亥の刊行に係る

○ 語錄解

一冊

南二星編 寫本

圖書番號 五、一五三九、五三〇六、七六五六

語錄は宋時の俚語を輯録せるものにして宋の諸儒後學を訓誨するに用ひ又尺牘を往復するに用ひ曩に退溪の門人之を解釋せしも未だ精ならず顯宗の時に至り翰林南二星等に命して更に考校を加へしめ宋浚吉亦之に干與し刪定する所あり書成りて之を獻し語錄解と名く顯宗十年なり南二星字は仲輝、宜拙と號す仁祖乙丑に生れ顯宗の時に登科し官禮曹判書に至り肅宗癸亥に歿す章簡と諡す資性和厚詩に工なり

宋浚吉字は明甫、同春堂と號す、恩津の人にして清
坐窩爾昌の子なり、宣祖丙午に生る、少時沙溪金長
生の門に遊ひ、長生の歿後、其子慎獨齋に學ぶ、仁祖
二年進士となり、遺逸を以て仁祖、孝宗、顯宗の三代
に歴事せしと雖、久しきに亘らす、官大司憲に至り
顯宗壬子に歿す、諡して文正と云ひ、文廟に從祀す

○老乞大

一冊 邊憲編 印本

圖書番號 五一五八、六一九三、六二九四

漢語學を攻むるに必要な書なり、朝鮮に於て漢
譯科の士を取るには此の書を以てしたり、初め世
宗の時之を命編せしか、傳習久しうして訛舛亦尠
からず、仍て英祖の時に至り、譯官邊憲等新に音義
を釋し、又方孝彥等之を補足して刊に付す

邊憲字は德章、原州の人なり、肅宗丁亥に生れ、景宗
壬寅譯科に選はれ、官正憲、同中樞に至る

○重刊老乞大

一冊 印本

圖書番號 九三二、二〇五二、三二七三、三一八六、三七

九九、四八六八、四八六九、四八七〇、五一九八、五五六三、

七八五二、一一五九七

子部

正祖の時、司譯院官人に命し、老乞大に校讐を加へ
重刊せしめたるものなり、時に知中樞府事李洙等
老譯官を以て専ら、其の任に膺り、其の十九年業を
訖へ、印行す

李洙字は樂夫、金山の人なり、景宗辛丑に生れ、英祖
辛酉譯科に選はれ、官崇祿、知中樞に至る

○老乞大諺解

二卷二冊 李洙著 印本

圖書番號 二〇四九、二〇五〇、二〇五一、四〇一七、四

八六六、四八七三、四八七四、五五六四、五五六五、五五六

六、七九三〇

重刊せし老乞大に諺解を附したるものなり

○老乞大新釋

一冊 邊憲撰 印本

圖書番號 四八七一、四八七二

英祖の時、判書洪啓禧、使命を以て清京に赴くや、譯
官邊憲等をして老乞大の訛謬を正し、新釋を作ら
しむ、此の書是なり、蓋し英祖の命に出つ、其の三十
七年書成りて、官刊す

○朴通事諺解

六卷三冊 印本

圖書番號 一八一〇

四三七

成宗の時崔世珍の著せる朴通事諺釋一冊ありし
も早く兵火に失はれ後周仲なる者老朴輯覽なる
一書を發見す即ち老乞大、朴通事二書の要語を集
めて之を註解せるものなり附録として單字解あ
り是れ亦崔世珍の撰したるものなり肅宗三年丁
巳に至り司譯院都提調權大運院正邊暹朴世華等
に命し此の書を取りて更に攷證修訂を重ねしめ
朴通事諺解と名け原書の老乞大輯覽及單字解を
附し以て官刊す

○華音啓蒙 二卷一冊 李應憲著 印本

圖書番號 自二九三至三〇三、五〇三八

朝鮮に於て支那語通譯の書は數多あるも古今音
聲變して實用に適せざるを以て李太王の時譯官
李應憲本書を著し常行實用の支那語を集む卷尾
別に千字文、百家姓、十干、十二支、二十八宿の文字を
附し並に支那音を以て之に註し二十年癸未に開
刊す
李應憲字は稚章、金山の人なり憲宗戊戌に生れ官
通津府使に至る

○華音啓蒙諺解 二卷一冊 李應憲著 印本

圖書番號 四〇四三

諺文を以て華音啓蒙に解釋を加へたるものなり

○華語類抄 一冊 印本

圖書番號 四〇四四

支那恒用の物名を分類列記し之に諺文を以て支
那音及朝鮮音を附したるものなり

○五倫全備諺解 八卷四冊 印本

圖書番號 一四五六、一四五七

漢語を攻むるに必要なる書にして五倫全、五倫備
兄弟の對話に托し語學講習に便せんため二百有
餘種の書中より好句を採り之を編し每字の下支
那の雅俗音を諺文を以て譯注せしものなり肅宗
二十二年丙子司譯院に於て其の撰修に著手せし
か幾もなくして中廢し三十五年己丑に至り復た
業を繼ぎ金昌集司譯院提調として特に其の功を
董督し書成るや劉克慎財を捐てて刊に付す景宗
元年なり

○國漢會話 二卷二冊

圖書番號 一六五九

李準 鄭 瑛編 寫本

漢語に諺文を以て發音を附したるものなり其の體裁は左に朝鮮の發音を書し右に漢語を書し朝鮮發音の種類に従ひ排列類聚せり李太王乙未に成る卷末に各國の名を書し英語にて對譯せしものを附す而して諺文解は李準、瑛、漢文釋は鄭瑛、記錄は李琪、瑛編輯は李明善、校訂は姜璉熙なり李準、瑛、貞山と號す子爵夏瑛の弟にして官學部協辨に至れり

鄭瑛字は太瑩、延日の人にして文忠公夢周の後孫なり哲宗甲寅に生れ李太王庚寅に文科に登れり

○ 蒙語老乞大 八卷八冊 印本

圖書番號 二二〇二

蒙古語を諺文を以て對譯し學者に便したるものなり

○ 蒙語類解 三卷三冊 方孝彥編 印本

圖書番號 三七五一、三七五二

蒙語を類聚し諺文を以て解したるものなり原編

子部

二卷補編一卷あり補編は原編中に漏れたる語を續輯す開刊は正祖十四年庚戌なり

○ 捷解蒙語 四卷四冊 印本

圖書番號 三七五三、二二一三六

英祖の時司譯院堂上李億成其の傳來の書に就き訛誤を正して之を刊行せしか年所を經る久しくして真本泯ひたり仍て正祖十四年譯學方孝彥新に校讐して完本と爲し譯學金亨宇私財を捐てて鈔梓す

○ 同文類解 三卷二冊 玄文恒編 印本

圖書番號 一八三二

英祖の時清學訓長玄文恒に命し清語物名の訛舛を釐正せしめたるものなり語錄解を卷尾に附し官刊す

玄文恒字は汝常、英祖の時の人なり

○ 譯語類解 二卷二冊 印本

圖書番號 五六五一

支那恒用の文字、言語中簡短なるものを取り諺文を以て清音及朝鮮音を附したるものなり

四三九

○ 八歳兒

一冊

印本

圖書番號 一四七一

清語の學修書なり原本は字割音義に多く訛謬あり仍て正祖元年行知樞金振夏に命して嚴密に校訂を加へしめ司譯院判官張再成をして字を書せしめ同年刊行す

○ 小兒論

一冊

金振夏編

印本

圖書番號 三三三四、一二三三五

清語を學ぶの書には老乞大三譯總解八歳兒及本書等あり就中八歳兒及本書は編冊稀少なるを以て講習せずして殆ど廢書となれること多し編者之を概し本書を訂正して重刊せり

○ 三譯總解

一〇卷一〇冊

崔厚澤等編

印本

圖書番號 一五二九

肅宗六年閔鼎重司譯院提調たる時院僚崔厚澤等をして清書三國志を取り相共に講說せしめ之を編輯して三譯總解と名け二十九年朴昌裕吳廷顯

等之を刊行す後英祖五十年知中樞金振夏更に訛誤を刪り校正を加へ司譯院提調金尙詰之を刊行す其の字は即ち張再成の書する所なり

○ 隣語大方

一〇卷五冊

印本

圖書番號 一六三二

明治以前に於ける日本の通俗語を平假名にて書し諺文を以て解釋を施せるものにして朝鮮司譯院に於ける日本語の學修書なり

○ 捷解新語

一〇卷一二冊

崔鶴齡編

印本

圖書番號 一六三八、一六三九、三九五二

司譯院於て日本語を平假字にて記し諺文を以て讀方及意義を附したるものなり宣祖の時譯官康遇聖始めて之を編し仁祖五年丁卯譯官崔鶴齡正刊布し肅宗二年重刊せり

○ 捷解新語文釋

一二卷四冊

印本

圖書番號 一六七八

捷解新語に文釋を加へたるものにして司譯院に

於て編す

類書類

○ 大東韻府群玉

二〇卷二〇冊

權文海著 印本

圖書番號 一五八九、一八五二、三四四八

元の陰時夫の韻府群玉に倣ひ韻字に依り事實を分ちて記載し檀君以來宣祖に至る數千年間の一切の史實、人物、地理、文學、藝術等を網羅す其の引用書目を見るに朝鮮各方面の有名なる著書を涉獵して殆ど遺す所なし蓋し朝鮮に於ける個人の著書中最も精力を盡せるものと謂ふへし

權文海字は瀨元、草澗と號す明宗の時に登科し官監司に至る嘗て李退溪の門に遊ひ柳成龍、金誠一等と親交あり宣祖の時に歿す

○ 芝峯類說

二〇卷一〇冊

李眸光著 印本

圖書番號 七〇四三、七二一七、一二三六九

李眸光の著にして天文、時令、災異、地理、諸國、君道、兵

子部

政、官職、儒道、經書、文字、文章、人物、性行、身形、語言、人事、

雜事、技藝、外道、宮室、服用、食物、卉木、禽蟲の部門に分ちり多く古書古聞に採り間間一家言を加ふ奇事逸聞多し光海君六年に成る

李眸光字は潤卿、芝峯と號す仁宗癸巳に生れ宣祖及光海君に仕へ官吏曹判書に至る人物閒雅詩文に名あり一時の清流たり

○ 星湖僊說

三〇卷三〇冊 李瀾著 寫本

圖書番號 七三六四

李瀾か平生の隨録を輯編したるものにして天地門、萬物門、人事門、經史門、及詩文門に分ち著者の蘊蓄を傾注せり其の聞見の博洽、考證の明確世人の稱賞する所なり

○ 星湖僊說類選

一〇卷一〇冊

安鼎福編 寫本

圖書番號 四四一六

李瀾の星湖僊說より煩を刪し要を取り更に分編せしものにして僊說の門を篇と改め毎篇を門に別ち天地篇を天文門、地理門、鬼神門、人事篇を人事

四四一

門、論學門、論禮門、親屬門、君臣門、治道門、服食門、器用門、技藝門、經史篇を經書門、論史門、聖賢門、異端門、萬物篇を禽獸門、草木門、詩文篇を論文門、論詩門に分ち更に細目を設け類に依りて輯録し自己の按説を小註として附記せり、僊説に比し簡明にして考閱に便なり

○五洲衍文長箋散稿 六〇冊 李圭景著 寫本

圖書番號 五六二七

支那、朝鮮及外方に於ける古今の事物に付き天文、時令、地理、風俗、官職、文事、技藝より宮室、器用、飲食、禽獸等に至るまで細大となく雅俗となく苟も疑義あるもの謬説あるものは見るに隨ひ筆に任せて考訂辨證せり

李圭景字は伯揆、五洲又嘯雲と號す、桐菴德懋の孫にして憲宗の時の人なり

○國朝彙言 一三卷一三冊 寫本

圖書番號 四七一七、一一九七三

國朝寶鑑を根據とし其の他の諸書を引用して君

道、臣道、六曹及人事等の大綱の下に各小目を分ち古今の事例を類記せしものなり

○東圃彙言 一四冊 金時敏編 寫本

圖書番號 四八五九

金時敏の編する所にして分ちて君道、臣道、吏部、戶部、禮部、兵部、刑部、工部、人事の九門と爲し朝鮮朝野の故事を蒐録したるものなり

金時敏字は士修、東圃と號す、蕉窓金盛後の子、肅宗辛酉に生れ、蔭に依りて珍山郡守となる、詩を善くし又文集あり、英祖丁卯に歿す

○新補彙語 五九卷一五冊 金摺編 印本

圖書番號 六五六三、六五六四、六七四七、六七四八、七

三〇四

孝宗十年癸巳に成る乾道、坤道、萬物、人倫、儒道、君道、臣道、天官、地官、春官、夏官、秋官、冬官、四禮、百用、人事、服食の十七門に分ち各門に屬する字句を百餘家中より類聚して攷古に便せり

金摺字は記仲、號は秋潭、光山の人、府使潤雨の子な

り宣祖乙酉に生れ光海君庚戌司馬に中り文科に登り官牧使に至り孝宗の時に歿す

○ 文彙

九卷九冊

寫本

圖書番號 一六二四

編者讀書の際前人の語句を抄彙したるものにして天道地道人倫君道臣道天官春官夏官秋官冬官儒道人事の十二門に分ち編次せり

○ 類苑叢寶

四七卷二二冊 金堦編 印本

圖書番號 四二五、四六六、六五〇八、一一四七五

朝鮮に完全なる類書の編纂されしものなきより宣祖壬辰を経て書籍の焚滅せる後に當り藝文類聚、類函、天中記、山堂肆考、韻府群玉等の諸書を參考し互に補闕潤色して編成せしものなり天道、天時、地道、帝王、官職、吏部、戸部、禮部、兵部、刑部、人倫、人道、人事、文學、筆墨、奎印、珍寶、布帛、器用、飲食、冠服、米穀、草木、鳥獸、蟲魚、四夷、神鬼の二十七門に分てり仁祖二十一年癸未に成る

○ 萬家叢玉

一二卷八冊 印本

圖書番號 四八二

子部

天道部、君道部、臣道部、政事部、道學部、吏部、戸部、禮部、兵部、刑部、工部、雜部等の十二門に分ち其の各部に關する字句を收録したるものなり

○ 新篇玉叢

四卷二冊 印本

圖書番號 五九九、五二〇、五二〇一、六一六八、六一六九

古人の書に就き參考となるべき語句を拾集したるものにして天道、地理、人倫、君道、臣道、人事、朋友、宮室、邊塞、喪、患、儒學、異端、僧道、仙道、草木、花木、蔬菜、飲食、遊賞、器用、寶具、音樂、飛禽、走獸、鱗介、雜技、圖書等の部門に分てり

○ 玉纂

一九卷七冊 印本

圖書番號 一一六五七

天道、地道、人事に關する名物、度数、竝に凡百の事爲を古書中より摘取し五十門に分ち合計八百五十餘條を成せり

○ 經史集說

一五卷七冊 印本

圖書番號 七二九〇、七五五四

天道、地道、祥瑞、災異、君位、君道、亂政、臣道、人倫、人品、官

四四三

子部

爵外職、寶貨、音樂、道學、經籍、宴飲、飲食、喪禮、制園、器械、器用、時事、人事、禽獸、花木、果實等二十四門に分ち、經史中の語句を類集したるものなり

○ 經書類抄

五卷三冊

印本

圖書番號

四六〇二、七七三四

經書の語句を摘要し部分類聚したるものにして、天道、地理、人倫、君道、后妃、卜筮、治化、臣道、用人、出處、賞刑、民生、農桑、貢賦、財貨、酒食、荒淫、音樂、祭祀、喪事、器用、宮室、軍旅、畜物、草木、異端及人事部等に分つ又類抄附録として、性行、進修、聖賢、道學、稽古等の目あり

○ 咫聞別集

一二卷六冊

閔魯行著

印本

圖書番號

四八二三

古書中名物度数に關する記事を摭取し之を名數咫聞と名け、後更に綴拾して咫聞別集と稱したるものなり、第一卷は人倫、交契、身體、第二卷は陰、陽、二氣、名山川、流峙、宮室、居處、舟車、器用、衣服、飲食、第三卷は五穀、衆卉、鳥獸、昆虫、第四卷は六畜、禽虫、雜辨、物理の怪、第五卷は事物の別名、朔物の名、文章、緣起の名、第六卷は碎事、鉤沈、第七卷は人事の名、上第八卷は

四四四

人事の名下第九卷は古人の年壽、第十卷は編年記、覽第十一卷は人道、雜事第十二卷は讀書好學等なり

閔魯行字は雅顔、杞園と號す、驪輿の用人、拙堂、聖徽八代の孫なり、正祖壬寅に生れ、蔭補を以て官、郡守に止まり、哲宗の時に歿す

○ 古今事實類聚

四卷四冊

寫本

圖書番號

四五四三、七六四六

宋の祝穆の古今事文類聚中より百官に關する部分を類聚したるものなり

○ 策類

七冊

寫本

圖書番號

七七九八

天道、地道、人倫、儒道、君道、臣道、人事、天官、地官、春官、夏官、秋官及冬官等十三門に分ち各門に關する古人賢の要語と朝鮮の故事とを錄せしものなり、策類と稱するは科擧應試者のために編せしより題名とせしものなるへし

○ 片錦

一冊

寫本

圖書番號

五八五八

天地萬物及人事に關する成語、別居等の文句を分類別録し、童蒙初學の考閱に便せしものなり

○ 隨錄

一冊

寫本

圖書番號 七六八五

人事人倫の兩門に分ち並せて七十三目を列し、經史子集中各目に關する事考を採摭類聚せしものなり

○ 攷事撮要

三卷三冊

魚叔權等編
崔鳴吉增修 印本

圖書番號

六六一、一一一七、一一三三、一二二一、一八

八三、二七九六、七〇二三

事大交隣其の他各種の事項にして日用闕くへか
らざるものを取り以て編纂したるものなり此の
書魚叔權の手に成るものは明宗九年甲寅に止り
乙卯以後宣祖十八年乙酉に至る間は許筠の增補
に係り朴希賢又之を續成して光海君壬子に訖る
仁祖丙子崔鳴吉更に之を増減修正せり上卷は紀
年中卷は中朝忌辰以下十三項下卷は接待倭人事
例以下十七項附錄には朝鮮歷代の忌辰より八道
官職總數に至る五十三項の雜記を載す

子部

魚叔權は也足堂と號す咸從の人西川世謙の孫なり官學官に止る

崔鳴吉字は子謙、遲川と號す全州の人なり宣祖丙戌に生れ乙巳に登科し仁祖反正の時延平府院君李貴の大義を策するや謀劃多くは其の手に出づ遂に靖社功一等に錄せられ完城府院君に封せらる又文衡を典り官領議政に至り其の丁亥に歿す諡を文忠と云ふ

○ 攷事新書

一五卷七冊

徐命膺編 印本

圖書番號 六七七〇

英祖の時藝文館に於て魚叔權等編する所の攷事撮要の舊本疎畧なるを以て增刪を謀り年を闔して成らざりしを藝文館提學徐命膺私業として其の繁冗を汰し緊要を補ひ又校理鄭忠彥に囑して叅訂校勘せしめ領議政金陽澤亦損益する所あり凡て十五卷と爲し攷事新書と名く天道、地理、紀年、典章、儀禮、行人、文藝、武備、農圃、日月、醫藥の十一部門あり出版は英祖四十七年辛卯に在り

○ 琬琰通考

六卷三冊

金世均著 寫本

四四五

圖書番號 七二九四

歴代帝王の廟號、尊號及年號等を議定するは邦禮の至敬至慎なるものなり然るに之を考據すへきの書無きを以て本書を著せり李太王之善しとし更に博攷すへきを命し以て完成せしめたり其の載する所の項目第一卷は國朝尊號、建元及韻彙、附明諡、列朝殿廟考第二卷は歴代帝王諱、同追諡第三卷は歴代僭號、偽諡、附外國及東國歴代第四卷は歴代帝王、尊王、韻彙、諡號、韻彙及年號、重襲、改元、年號、用字、年號並稱第五卷は建元、韻彙、附陵號第六卷は歴代諡法釋義、東國見行諡法等なり

金世均字は公翼、晚齋と號す安東の人なり憲宗辛丑三十歳にして忠良、應製文科に中り官藝文館檢閱、弘文館提學を経て吏曹判書に至り又屢次監司、留守たり己卯の年に歿す行年六十八文貞と諡す

○ 琬琰同號抄 二卷一冊 李太王命編 寫本

圖書番號 七二九五

前書と同一目的に因り李太王の命編に係り李氏歴代尊號の下に諡號、建元、殿廟號、宮園號、東國歴代

諡號及建元支那歴代諡號及建元、陵號等を記載し附録として僭號、偽諡及外國傳等を載せり

○ 儒胥必知 一冊 印本

圖書番號 六七〇〇、七〇八三、一一七〇一

通編を上言、擊錚原情、所志類、單子類、告白類、文券類、通文套、吏頭彙編の八目に分ち其の書式、熟語等を備載せり

○ 新式儒胥必知 一卷一冊 黃泌秀著 印本

圖書番號 五五九七

儒胥必知に倣ひ新式に改成せしものなり李太王光武五年に成る

黃泌秀號は惠菴、昌原の人都正道淳の子なり李太王の時、入仕し官郡守に至り李王の時に歿す

○ 兒戲原覽 一冊 張混編 印本

圖書番號 四五八四、四七一三、四七一四、四七一五、五三〇一

古今の事文を類聚し童蒙初學の覽攷に使したるものにして純祖三年癸亥張混の編次に係る天地形氣より國俗、人事に至り備はらざるものなく附

するに數彙及補遺を以てせり

張混字は元一、而已、广と號す竹軒友壁の子なり、英祖己卯に生れ家世寒微なりしを以て科官を得ず、正祖の時監印所司準となり御定諸書を校正し純祖戊子に歿す、幼より孝を以て聞え長して博學強記なり、著述に富む、詩宗、唐律集英、蒙諭篇、近取篇、切用方、童習數方圖及本書は之を、印行せしも、篋段集二十卷及古文柯則、庭下至訓、大東故寔、騷壇廣樂、初學字彙、東民須知、文壇姓譜、祭儀圖式等は未だ刊行せず

○ 寰瀛誌

圖書番號 五四七七

二卷一冊 魏伯珪著 印本

天文、星緯、節序、運會、地理、疆域、國都、山川、帝王、國統、聖賢、道統、名物、度數、道釋、兵陣、官職、宮室、陵墓等に付き類を分ち條を逐ひて之を誌し六十四の圖解あり、英祖四十六年庚寅に成り純祖二十二年壬午其の族孫榮馥之を刊行す、魏伯珪は存齋と號す長興の人なり

○ 才物譜

四冊

寫本

子部

圖書番號 四四〇〇、七六九四

春夏秋冬の四集は分ち三才萬物の古名或は別稱を彙類し一一註脚を加へ間諺解を施し又朝鮮歷代の制度、文物を記せり

○ 雜同散異

圖書番號 七二七八

五三冊 安鼎福編 寫本

經、史、子、集の文字を隨録せしものなり又名物、度數、閭巷、稗說等をも記せり

○ 竹僑便覽

圖書番號 二四四二

三冊 韓錫敷編 寫本

朱子の家禮と沙溪金長生の喪禮とを採取し又古今諸家の説を證として喪祭二編を作り農書一編を添へ三編と爲し農書の末には養生術及科式を添附せり、哲宗初年己酉に編す

○ 阮堂尺牘

圖書番號 四九〇五、五三一〇、七一六五

二冊 寫本

金正喜の尺牘を輯めたるものにして南相吉之を刪定せり

金正喜字は元春、阮堂と號し又秋史と號す慶州の

四四七

子部

人酉堂魯敬の子なり正祖丙午に生れ純祖己巳生員に中り己卯文科に登り奎章閣待教を歴て官叅判に至り哲宗丁巳に歿す學問深弘該博又金石鐘鼎に造詣あり當時詩書畫三絶を以て推さる遂に盛名の累する所となり奇禍に罹り再度流竄せらる

○寒暄筭錄

五卷三冊

印本

圖書番號 二五三、二五四、二五五、一九七一、二五八三、

二五八四、五五四五

朝鮮公私萬般の消息文に關する用語、文例書式を類記せるものなり

○簡牘精要抄

一冊

寫本

圖書番號 五四二〇

初學兒童の教科用として抄集したるものにして其の載する所時令、物名、文學、書式、請謝、科擧、方圖、吊賀、婚禮、國忌、邑號、上言、詞訟、文券、單子、告目、吏讀報狀、立案、關帖等なり

隨錄類

四四八

谿谷漫筆

二卷一冊

張維著 寫本

圖書番號 六八六〇

主として谿谷張維の儒學文章に關する漫録を集めたるものにして間間史實人物評を交へ經傳諸百家に對して縱横に意見を述べ書の成りしは仁祖十三年乙亥なり仁祖戊寅に歿す

○西浦漫筆

二卷二冊

金萬重著 寫本

圖書番號 七三五三

諸子百家の中に就き疑問のある處を辨析し卷末に新羅以降朝鮮に至る著名の詩を畧評したるものを附せり

金萬重字は重叔、西浦と號す忠烈公金益兼の子なり仁祖丁丑に生れ顯宗の時に登科し孝行卓異なるを以て閭に旌せられ官判書に至り肅宗壬申に歿す諡を文孝と云ひ肅宗廟庭に配享す

○賢谷隨筆

一冊

鄭宗愈編 寫本

圖書番號 九八六〇

古書及俚諺を聞見に隨ひ手抄したるものなり卷首に崔寔農家諺と書せり

鄭宗愈字は愉如、賢谷と號す、東萊の人、翰林元淳の子なり、英祖甲子に生れ、正宗丁酉進士に中り、教官を授けられ、官掌樂正に止り、純祖戊辰に歿す、平泉李匡呂の門人にして、行義純篤、學問膽博なり。

○五龍齋錄 四卷一冊 南溟學著 印本

圖書番號 四四〇二、四七三二

南溟學の手録にして、其の子陽龍之を上刊す、蒙恩錄、廬憂錄、君親夢教錄の三類に分ち附するに書五龍錄後、工曹佐郎南公墓表、五龍齋南先生忠孝追慕碑記の三篇を以てす。

南溟學字は聖源、五龍齋と號す、英陽の人、爾赫の子なり、英祖辛亥に生れ、己卯進士に中り、戊子蔭仕を以て、顯陵叅奉を拜し、官僉正に止り、正祖戊午に歿す。

○觀水漫錄 一冊 寫本

圖書番號 五〇四九

正祖の時、水原に城を築き、留營に陞し、れる後、之か殷繁策を記述したるものに似たり。

○雲樵漫錄 一冊 白榮洙著 寫本

子部

圖書番號 八二二

白榮洙か官遊の時、作れる所の詩及公牒文字を漫錄、謄寫したるものにして、憲宗六年庚子に始り、李太王二十九年壬辰に至る。

白榮洙字は景韶、雲樵と號す、水原の人都承旨仁英の後なり、純祖辛未に生れ、武を以て進み、官同知中樞に至り、齡八十を踰ゆ。

○三官通 一三卷五冊 尹東哲等著 寫本

圖書番號 四六一一

本書收むる所は、易解說、家位、輯稿、履考、附錄等なり、三官通と名けたるは、耳官、目官、口官の三官に通するを云ふ。

尹東哲字は與叔、老耘と號す、坡平の人、左尹勉教の子なり、景宗壬寅に生れ、英祖丙子に參奉となり、錦伯を経て、官判書に至り、正祖己酉に歿す、文學政事を以て著はれ、又隸書に工なり。

○雅言覺非 三卷一冊 丁若鏞著 寫本

圖書番號 七四八三

朝鮮流用俗語の原語原字の意義に戻り、訛謬尠か

四四九

らざるより確證を舉げて之を訂正せるものなり

○ 晝永編 四卷四冊 鄭東愈著 寫本

圖書番號 五七六八

純祖五年乙丑の年長夏消遣の一法として支那朝鮮の古書を涉獵し古事を研究して隨筆漫録したるものなり

○ 孰遂念 一六卷七冊 洪吉周纂 寫本

圖書番號 六六五〇

樸通修養及游戲娛樂は人々之を欲するも能く遂くる者なし著者亦得ず故に之を空言に付し本書を成し孰遂念と名け一部を十干に分つ第一は家園の經營を記し甲爰居念とし次は使令の分職を録し乙各授念とし家には禮儀を重しとし之を丙有秩念とし人學問せざるべからず之を丁五車念とし財産を儲蓄し貧窶を周郵し家具を鮮明せんかため戊三事念を作り身心を戒飭し放逸を防遏し交遊を謹慎せんかため己兢遵念を作り風物を玩賞し翰墨に優遊するを欲し庚式敖念を叙し旅行を規定し勝覽を紀存するを欲し辛勳智念を叙

し之に續くに壬居業念を以てし學問の程課を論し結ふに癸孰遂念を以てし本著の意義を論せり凡て十六觀とす古人は文字を竹に書し之を編と云ひ帛に書し之を卷と云ふ今紙に書す故に編又は卷と云ふは甚た謂れなし之を以て本書は觀と改め觀閱の意を記すとせり
洪吉周字は憲仲、沈瀼と號す淵泉夷周の弟にして正宗丙午に生れ純祖丁卯司馬に中り蔭仕を以て進み官郡守に至り憲宗の時に歿す

○ 御賜棠溪寶硯記蹟 一冊 金錫臣編 印本

圖書番號 三四二三、四七六四

仁祖十四年丙子南漢圍城の時棠溪金華俊注書を以て宿直し硯石の賜與を受け之を家藏したる事蹟と之に關する詩文を編録したるものにして李太王六年己巳棠溪の五代の孫金錫臣之を編刊す

○ 正祖手筆日記 九冊 寫本

圖書番號 一一九三三

正祖の日記にして二十一年丁巳一年間なり之を

四課に類別し公務に關するものは課務とし讀書に關するものは課讀とし著述に關するものは課述とし射體に關するものは課射とせり

○ 荷谷朝天記 三卷三冊 許篈編 印本

圖書番號 四二五六

宣祖七年聖節使朴希立に従ひ書狀官として明京に赴きたる許篈の手に成れる旅中日記なり肅宗三十三年曾孫許墀之を刊行するに當り過江錄年譜、荷谷集目錄を以て卷尾に附せり

許篈字は美叔、荷谷と號す、陽川の人、草堂暉の子なり、明宗辛亥に生れ、宣祖戊辰生員に魁たり、甲申文科に登り、官典翰に止り、戊子に歿す、兄箴、弟筠、妹蘭雪、軒俱に詩名あり、少時眉菴、柳希春に従學し、後疏を上り、栗谷李珥を斥けしを以て甲山に竄せらる

○ 老稼齋燕行錄 六卷六冊 金昌業編寫本

圖書番號 四五三八

金昌業、か肅宗三十八年伯兄冬至使兼謝恩使、金昌業に従ひ清京に入りたる時の紀行にして、往返一百四十六日行程六百餘里記文の外、長短の詩什四

子部

百二篇を添へたり

金昌業字は大有、老稼齋と號す、安東の人文谷壽恒の子なり、孝宗戊戌に生れ、肅宗辛酉進士に中り、甲戌教官を授けられたるも、就かす、景宗辛丑に歿す、幼にして英慧長して、豪放富貴功名を慕はず、山林の樂を縦にし、詩を以て自ら娛しむ、景宗辛丑伯兄昌集遠竄せられたるを憤悒して歿す

○ 燕行錄 一冊 嚴璫編 寫本

圖書番號 一三〇五八

嚴璫、か冬至副使として清京に赴程したる時の日記にして、英祖四十九年癸巳十一月發行の日より翌年甲午の春返命の日に至るまで、風雨陰晴、沿路の聞見、山川道里、風俗觀覽等を記載せり、嚴疇字は儒文、梧西と號す、寧越の人、判書貞憲公緝の孫なり、肅宗丙申に生れ、英祖丁丑文科に登り、正祖丙午に歿す、官禮曹參判に至る諡して肅憲と云ふ

○ 燕行紀 四卷二冊 徐浩修編 寫本

圖書番號 四九〇七

四五

正祖十四年庚戌清の乾隆帝八句の萬壽節に當り徐浩修進賀副使を以て清京に赴きたる時の來往日記なり

徐浩修字は養直大邱の人文靖公命膺の子なり英祖丙辰に生れ乙酉文科に登り官吏曹判書に至り正祖の時に歿す諡を文敏と云ふ

○ 薊山紀程

五卷五冊 寫本

圖書番號 六七七八

純祖三年癸亥徐長補書狀官として清京に赴く時隨行したる伴尙の詩竝に畧程記等を編したるものなり

○ 燕行日記

四卷四冊 寫本

圖書番號 七五六〇

憲宗十五年己酉十月一日より翌年庚戌二月十五日に至る奏達文字を録したるものなり蓋し當時朝鮮人が清國に往留して毎日所見せる朝報より録出したるものなり

○ 乘槎錄

三卷一冊 崔斗燦編 寫本

圖書番號 六五九二

純祖十七年丁丑著者妻父大靜縣監に隨從し濟州に遊ひ翌年歸路海上惡風に遇ひ漂流すること十六日遂に支那浙江の地に着し清の保護に依りて歸還するを得たり本書は其の日記なり

崔斗燦字は應七江海散人と號す正祖己亥に生る家は太邱に在り録中に庚午試舉人と自稱せり

○ 海上日記草

一冊 朴定陽編 寫本

圖書番號 七七三二

李太王二十四年丁亥朴定陽か米國公使として赴任したる時横濱より航海中の日記を上達したるものなり卷尾に諺文電報を附す

○ 乙卯公私要錄

一冊 趙寅熙編 寫本

圖書番號 一一四九二

趙寅熙か注書たりし時の日記なり

趙寅熙字は士義陽齋と號す楊州の人判書得林の子なり純祖壬午に生れ憲宗癸卯司馬に中り哲宗辛亥文科に登り事に因りて削られ癸丑に復し後翰苑に入り官吏曹參判に至り李太王壬午に歿す

○ 龜菴擬政内外案

一冊 金濟學編 寫本

圖書番號 四〇六七

金濟學か朝鮮の各官職に漢、唐、宋、明、歴代の人物を擬したるものにして其の才行職任に近似する者を取りて之に八字の評語を附し内案、外案に分てり内案の首は議政府にして領議政には蜀漢の人諸葛亮を擬し外案の首は水原府にして留守に宋人文天祥を擬せり蓋し閒餘の戯作なるも朝鮮舊官制の考據には一助なしとせず

○古鑑

圖書番號 七三二四

一三卷三冊

寫本

支那歴代帝王羣臣の事歴に就き各名下に四字句の提題を掲げて其の大意を記述し間間著者の私見を加へたるものなり

○賢己

圖書番號 六九二八

一冊

寫本

本書上半は典故の出處を隨記し下半は喪禮備要を問目とし自己の所見を録したるものなり

子部

○存筭新鈔

圖書番號 七〇三〇

八卷六冊

寫本

本書は事物の人生、日常生活及經濟衛生等に利効ありと認むるものを列録せり

藝術類

○列聖御筆

圖書番號

自九八三至一〇〇八九、一〇三一〇、一〇三

一帖

印本

一、自一〇三三至一〇三三七

太祖、文宗、世祖、成宗、仁宗、明宗、宣祖、元宗、仁祖、孝宗、顯宗、肅宗、景宗十三代の親筆を陰刻印搨して之を一帖に編粧せしものなり

○宣廟御筆

圖書番號

一〇二二六、一〇二七一、一〇三二八

二帖

搨本

宣祖か萬機の暇に揮灑したる筆蹟を第九子義昌君珖に寵賜し仁祖八年庚午珖の鈔梓搨印せしもの及義州駐駕中の詩を親書したるもの刻搨なり

○孝宗御筆

一冊

搨本

四五三

子部

圖書番號 一〇二六五

孝宗の眞蹟にして書簡三通及零墨若干を收む書簡には辛巳及壬午の干支あり仁祖十九年辛巳及二十年壬午孝宗儲位に在る時の筆なるへし

○ 肅宗御筆

一六幅

印本

圖書番號 一〇〇九〇、一〇九六三

肅宗萬機の暇を以て翰墨に留意し八疊屏風の書として二件を親書す其の一は畿甸山河都城宮苑列署星拱諸坊基布東門教場西江漕泊南渡行人北郊牧馬の八題を以て七言絶句を楷書し一は古人の五言絶句を草書したるものなり

○ 景宗御筆

一〇枚

搨本

圖書番號 一一九六一

肅宗二十二年丙子景宗東宮に在り親ら敬以直内義以方外の八大字を揮灑し侍講院に下し板刻せしものなり侍講院説書閣鎮遠の跋文を附す

○ 宗簿寺掲板

一帖

搨本

圖書番號 一〇三二四

英祖三十五年己卯の歲宗正寺に親臨し世譜を審

四五四

閱し昔年宗正本寺今日袞衣拜閣の十二字を書し跋語數句を附し以て板に刻す其の搨本なり宗室綾昌君楹に賜與したるものに係る

○ 敦寧府掲板

一冊

搨本

圖書番號 一〇三二三

英祖三十五年己卯眞殿に酌獻禮を行ひ譜閣を奉審したる後此を書し敦寧府に掲けたるもの搨本なり

○ 書賜闡義昭鑑纂修諸臣

一冊

搨本

圖書番號 一〇二二四、一〇三〇九

英祖闡義昭鑑纂修諸臣に下賜するため親ら數句を製し揮灑して之を板刻搨出したるものにして本冊は纂修郎廳洪準海に内賜せしものなり

○ 東宮寶墨

一帖 莊祖書

圖書番號 一〇二二五

莊祖八歳にして東宮に在りし時之を書し掌樂僉正李益煥の子申得に與へたるものなり
莊祖諱は愼字は允寬毅齋と號す英祖の子正祖の

父にして李太王は其の玄孫なり英祖乙卯誕生し翌年世子に冊し己巳聽政し壬午昇遐す春秋二十八顯隆園に葬る光武三年莊祖懿皇帝と追尊し園を隆陵と號す

○ 萬川明月主人翁序

二帖 正祖撰 搨本

圖書番號 一〇一六五、一〇一六六

正祖二十二年戊午自ら萬川明月主人翁と號し其の序を作り一帖は楷字を以て書し一帖は篆字を以て書し之を刻榻したるものなり

○ 御筆懸板

一冊 李太玉書 搨本

圖書番號 一〇二九五

李太王の眞蹟にして漱芳齋華岳亭等の大字なり

○ 六先生遺墨

一冊 尹師國編 印本

圖書番號 一〇二六六

朴彭年、成三問、李埜、河緯地、柳誠源、俞應孚等六臣の斷篇遺墨を刊行したるものにて編者の跋文を附す

○ 醉琴軒千字文

一冊 朴彭年書 印本

子部

圖書番號 九八七一

朴彭年草體を以て千字文を書し塔永豐君李璵に與へたるを付刊せしものなり宋時烈の跋あり朴彭年字は仁叟、醉琴軒と號す世宗甲寅文科に中り官副提學、刑曹參判に至り世祖の時端宗復位の獄に係り惡刑を受け獄中に歿す英祖戊寅吏曹判書を贈り忠正と諡す

○ 遜齋筆蹟

一冊 成世昌書 搨本

圖書番號 九九七七

成世昌の書したる歸去來辭一篇を明宗十六年辛酉南平縣監沈鏗の榻刻したるものなり

成世昌字は蕃中、遜齋と號す昌寧の人虛白堂倪の子なり成宗辛丑に生れ燕山君辛酉司馬に中り參奉に補せられ中宗丁卯文科に登り湖堂に選せられ文衡を典し官左議政に至り奸臣の誣を被り竄死す寒暄金宏弼の門に出入し文章氣節あり

○ 自庵筆帖

一帖 金絳書 搨本

圖書番號 九九九五

自庵金絳の筆蹟にして五言絶句八首を刻搨す詩

四五五

は父母、君師、妻子、兄弟、朋友の道を詠したるものなり

金録字は大柔、自庵と號す、光山の人なり、生員、進士に中り、中宗癸酉の文科出身にして、官副提學に至る己卯の禍作るや、趙靜庵及金冲庵と、同じく捕へられしか、首相鄭光弼に頼りて救はれ、極邊に杖流せられ、其の甲午に歿す、宣祖の時、吏曹判書を贈られ、文懿と諡す、書を善くし、人多く之に倣ふ

○ 一家書法

一冊 金希壽書 搨本

圖書番號 一五〇九

金希壽及金魯の筆蹟を刻榻したるものなり

金希壽字は夢禎、悠然齋と號す、安東の人、成宗乙未に文科に登り、湖堂に選はれ、丁亥に歿す、官大憲に至る

金魯字は景魯、東臯と號す、大憲希壽の子なり、燕山君戊午に生れ、中宗乙酉文科に登り、湖堂、銓部、直學を経て、癸酉に歿す、官僉中樞に至る

○ 師任堂筆蹟

一冊 申氏書 印本

圖書番號 九九九四

栗谷李珥の母申氏は太任を景慕して自ら師任堂と號す、栗谷を生み、婦徳の餘、文墨に嫻ふ、本帖は姨孫女の懇囑に應じ、唐五絶六幅を揮灑せしものにして、李太王六年己巳、尹宗儀江陵に幸たりし時、同邑崔家より眞本を得て、繡綉したるものなり、申氏又梅花草虫の畫を以て世に鳴れり

○ 河西筆蹟

一冊 金麟厚書 印本

圖書番號 一〇三二七、一〇三二八

河西金麟厚の筆蹟を木版としたるものにして、行體を以て、杜甫、李白、韓愈、蘇軾及朱熹等の傳を寫せり

金麟厚字は厚之、河西又湛齋と號す、蔚山の人なり、中宗庚午に生れ、庚子に登科し、選はれて湖堂に入り、春坊を兼ぬ時に、仁宗東宮に在り、契遇尤も厚かりしか、即位未だ幾もなくして昇遐す、河西遂に志を世に絶ち、山に入りて慟哭せりと云ふ、明宗庚申に歿す、後大官を贈られ、文靖と諡し、文廟に従祀せらる、蓋し河西は全羅道に於ける學問の宗匠なり

○ 石峰書法

一冊 韓漢書 搨本

圖書番號 一〇二六三

宣祖の時の名筆石峯韓濩か世說中の語を取り行體を以て書し板刻したるものなり

○石峰千字文 一冊 韓濩書 印本

圖書番號 九八七二

石峰韓濩の書を板刻したるものなり初板は宣祖三十四年辛丑にして肅宗十七年辛未親序を卷首に冠し以て重刊す

○定齋農巖遺墨 一冊

圖書番號 一〇二六七

定齋朴泰輔農巖金昌協等の遺墨を集めたるものなり

○李載恒書帖 一冊 李載恒書 印本

圖書番號 九九九九

李載恒の筆蹟を木版となせるものなり
李載恒字は君望肅宗の時に生れ英祖の時に歿す能筆を以て名あり

○白下書帖 一冊 尹淳書

圖書番號 一〇二七〇

子部

白下尹淳の墨蹟を一冊と爲したるものにして楷行草諸體悉く備り細字殊に多し

○古今歷代法帖 一冊 揚本

圖書番號 五七一三

支那に在りては夏禹の篆より明代に至るまで百餘家の筆跡を載せ朝鮮に在りては新羅金生より李朝景宗の時に至るまで八十餘家の筆跡を收聚せり

○海東名賢筆蹟 一帖

圖書番號 一二〇一五

金宗直徐居正李滉鄭述申光漢李珥李敬輿吳竣等の筆蹟を集聚したるものなり

○左海雙絶 一帖

圖書番號 一〇三〇〇

中宗より宣祖に至る間の名家の詩札を蒐編したるものにして款識は存するも原書は脱落したるもの多し惟た容齋李荇企齋申光漢聽天沈守慶高峰奇大升一松沈喜壽等五人の書する所あり詩格並に書法俱に美なりとし之を雙絶と云ふ

四五七

○ 志慶帖

一帖

本

圖書番號

一〇二五四

正祖元子相見禮の時盛儀に列したる者聯句を作り以て慶を志したるものなり

○ 恭默閣記

一帖

徐有隣書 搨本

圖書番號

九九八一

恭默閣の記帖にして閣は昌德宮景春殿の東に在り英祖諒闇の時臣僚を晋接せし所なり正祖癸卯其の頽漏を新葺し之か記を製し徐有隣に命して書せしめ刻掲したるものあり

○ 健元陵齋壁詩

二二枚

鄭志儉書

搨本

圖書番號

一一九四〇

正祖八年甲辰健元陵(太祖陵)の石役を親監し役畢りて後齋室の壁上に詩を書し之を掲板と爲す其の搨本にして奎章閣直提學鄭志儉書す

鄭志儉字は子尙、澈齋と號す東萊の人益菴萬和の玄孫なり英祖丁巳に生れ辛卯進士に中り癸巳洗馬を授けられ正祖丁酉文科に登り官奎章閣直閣を歴て文衡に圈點せらる禮曹叅判に至り乙卯に

破す

○ 李提督祠堂記

一帖

李福源書

搨本

圖書番號

一〇二二九

正祖十二年戊申明の提督李如松の祠堂記を製し大臣李福源をして之を書せしむ蓋し如松は宣祖壬辰朝鮮に對し靖難の功あり其の孫應仁朝鮮に徙居して屢代を歴たり是に於て後孫に命し祠を立て不祧の典を施し記文を鑄立せしむ

○ 命書朱夫子詩

一一冊

圖書番號

九七七〇

正祖二十四年庚申大臣閣臣抄啓文臣卿宰下大夫等凡て百二十四人に命し朱子詩全部を枚數を定めて大書せしめ親ら序を卷首に書したるものなり以上諸員の姓名及官歴を總目に書し每首に書者の名を標識す

○ 慈慶殿記

一帖

徐榮輔書

搨本

圖書番號

一〇一七六

昌慶宮内の慈慶殿は正祖誕生の所にして又母嬪惠慶宮臨御の所なり純祖の時に至り惠慶宮は純

祖の母妃孝懿后に付す純祖後の命を受け之か記を作り徐榮輔に命して之を書せしむ其の板刻の搨本なり

○景春殿記

一冊 沈象奎書 搨本

圖書番號 一〇二七〇

正祖昌慶宮の景春殿に誕生す純祖感を起し敬を起すの地と爲し戊辰親ら記文を作り沈象奎に命して之を書せしめ殿額に刻掲す其の搨本なり

○竹石奉教書帖

一帖 徐榮輔書 搨本

圖書番號 一〇二二〇

純祖七年丁卯春塘臺に御し閣臣及承旨史官等と射禮を行ひたる時徐榮輔に命し謝箋文を書せしむ其の搨本にして竹石は榮輔の別號なり

○永柔學士臺詩帖

一帖 李敏采等書搨本

圖書番號 一〇二二三

平安南道永柔郡に學士臺あり顯宗辛丑李敏廻同郡に宰たり二弟敏叔敏采隨往す敏采一詩を賦して此に題し敏叔其の韻に次す肅宗三十二年丙戌敏叔の子觀命亦同郡に宰たり弟健命隨行し前韻

子部

を廣き竝に石に刻す英祖壬申敏叔の孫徽之亦復た同郡に宰たり弟弘と俱に和韻して之を刻す其の搨本なり

○祠院諸處題額帖

一帖 搨本

圖書番號 一〇二八六

各所の樓祠書院齋亭等の賜額の拓本を編集したるものにして白雲樓、愍忠祠、拜鵑樓、彰節祠、彰節書院及錦江亭は正祖十五年辛亥尹師國書し六臣祠は肅廟十八年壬申宋時烈書し尙義齋、休仁齋は正祖辛亥朴基正書せり

○清虛樓重建記

一冊 搨本

圖書番號 一〇二七五

江原道原州郡酒泉の清虛樓は肅宗の題詠ある所にして鬱攸のため灰燼となりしを英祖戊寅牧使任璘重建し洪象漢文を撰し板刻して壁に掲ぐ其の搨本なり

○奎章閣上樑文

一冊 搨本

圖書番號 一〇二九九

奎章閣の上樑文にして正祖の時の人醇庵吳載純

四五九

の撰文徐有防の書なり

○漢南樓記

一帖

楊本

圖書番號 一〇一八八

京畿道廣州に南漢山城あり仁祖十四年丙子駐蹕の地にして行宮を建つ正祖二十一年丁巳留守洪樸行宮門上に一樓を建て名けて漢南樓と云ふ二十二年戊午黃昇源之か記を作り刻して掲ぐ其の楊本なり

黃昇源字は允之、長水の人、芝川廷彧の後なり、英祖壬子に生れ辛卯文科に登り文任を経て官吏曹判書に至り純祖丁卯に歿す諡を文献と云ふ

○華城北門樓上樑文

一冊

洪良浩書

楊本

圖書番號 一〇一九六

水原北門樓上樑文の懸板を搨出したるものにして大提學洪良浩の撰文に係り書者亦同人なり

○觀風軒重修記

一帖

朴基正書

搨本

圖書番號 一〇二五六

觀風軒重修記の搨本にして正祖十五年辛亥李命

植教を奉して撰文し朴基正之を書したるものなり觀風軒は端宗位を遜り寧越(江原道)に遷されたる時の寢室なり正祖其の頽敗を嘆し重修を命し又此の記を作らしむ

○六臣祠記

一冊

朴基正書

印本

圖書番號 一〇二七九

世祖の時端宗の復位を圖り成らずして戮に遭ひたる六臣の祠記にして宋時烈の撰文に係り百七十年の後正祖十五年辛亥に至り朴基正をして之を書せしめ改刊したるものなり六臣とは朴彭年成三問李塏河緯地柳誠源俞應孚の六人なり帖末成李兩氏の臨命詩權尙夏書する所の題六臣祠記後の文朴泰輔記す所の六臣祠宇記及尹師國書する所の六臣祠宇上樑文等を附す

○寧越題詠

一帖

尹舜舉等書

印本

圖書番號 一〇三三〇

江原道寧越郡に在る錦江亭記旨德庵重修記其の他曹尙治の次子規啼歌李滉の錦江亭詩曹夏望の越山志感詩等の板刻搨本を集めたるものなり亭

記は宋時烈の作にして庵記は尹舜舉の撰並に書に係る子規歌は曹允亨の書なり

○子規樓帖

一帖 尹師國書 揚本

圖書番號 一〇二二〇

江原道寧越郡の子規樓は端宗遷居の所にして正祖十五年辛亥道臣尹師國に命し之を重修せし後李福源の撰したる樓記を尹師國書し蔡濟恭の撰したる上樑文を李東郁書し洪良浩の撰したる上樑文を尹師國書したるものを揚出して之を帖と爲せしものなり

李東郁字は幼文、蘇岩と號す平昌の人、知樞、光溥の從子にして英祖己未に生れ丙戌文科に登り官叅判に至り正祖の時に歿す

○子規樓上樑文

一帖 李東郁書 揚本

圖書番號 一〇二三五

江原道寧越の子規樓上樑文にして蔡濟恭之を撰し李東郁之を書す

○玉山精舍記

一帖 南公轍書 揚本

圖書番號 一〇二四四

子部

玉山精舍記の揚本にして慶尙北道慶州郡玉山里に晦齋李彥迪讀書の精舍あり純祖壬戌金陵南公轍慶尙道觀察使を以て玉山を過き晦齋の後孫希誠の請に因り此の記を撰す

○金陵詩帖

一帖 南公轍書 揚本

圖書番號 一〇二二七

南公轍慶尙道の守令たり又監司たる時遊覽したる樓觀勝處に題詠したる詩を自書して板刻揚出し合粧したるものなり

○昌平客舍重修記

一冊 揚本

圖書番號 一〇一六四

純祖二十五年乙酉趙曦か全羅道昌平縣の客舍龍淵館を重修し記文を板刻し憲宗庚子趙寅永更に記文を板刻して掲壁したる其の揚本なり

○鏡浦臺賦

一帖 寫本

圖書番號 九九四一

江陵鏡浦臺の賦を書したるものなり

○荒山大捷碑閣懸板

一帖 揚本

四六一

圖書番號 九九八四

荒山大捷碑は雲峰に在り其の碑閣懸板を印出して作帖せしものなり

○安氏家藏諸賢筆蹟

一冊 安瑛編 揚本

圖書番號 六三〇二

中宗十三年戊寅博士安處順か求禮縣監となるや各流の贖贈したる詩文竝に往復したる書札等を明宗四年己酉其の子瑛の上梓したるものなり
安瑛字は文寶號は竹巖順興の人にして思齋堂處順の子なり中宗戊寅に生れ宣祖辛未に歿す

○村隱故舊眞蹟

一冊

圖書番號 一〇二〇二

宣祖の時の名流南郭朴東說字は說之西垞柳根字は晦夫玄翁申欽字は敬叔稚川尹昉字は可晦月沙李廷龜字は聖徵松藥堂李正臣字は邦彦柳川韓浚謙字は益之愚伏堂鄭經世字は景任芝峰李晬光字は潤卿谿谷張維字は持國清陰金尙憲字は叔度等十一人か村隱劉希慶に寄せたる筆蹟を集め一帖

と爲したるものなり

○諸賢簡帖

一冊 印本

圖書番號 四七九五

宣祖の時の人房元震か當時の賢宰名流の遺札を蒐録せしものにして月沙李廷龜以下尹雲衢に至る手札は板刻し沙溪金長生以下盧脊に至る手札は活字を以て印せり卷首に元震の芹宮蘭契と名くる交遊録を附載す
房元震字は而省蓼溪と號す唐城の人なり宣祖丁丑に生れ官重林察訪に至る

○明將手簡帖

一帖 釋休靜編 印本

圖書番號 九九五四

僧休靜曾て明提督李如松か贈れる詩一首都督李如栢か寄せたる書一片李如松竝に其の幕下諸將聯名の尺牘一通を收めて帖を作り之に短跋を附す後に至り之を刻せしもの即ち本帖なり帖中申維翰か演初(雪松)に寄せたる書翰あり
釋休靜字は玄應清虛堂又西山と號す俗姓は崔氏名は汝信光山の人なり中宗十五年庚辰に生れ幼

にして父母を喪ひ伶仃流離して智異山に遊ひ忽ち悟る所あり法を靈觀大師に聽き遂に剃髮して名山を遍歴すること七八年明宗の時禪科に中り禪教兩宗判事に至りしか幾もなくして歸山し復た出てす適ま壬辰の役起るや奮然蹶起軍門に詣り十六宗摠攝を拜し緇流を召集して之を高弟惟政等に付し戰功あり因て禪號を賜ひ扶宗樹教普濟登階尊者と云ふ後數年を経て宜祖甲辰入寂す時に壽八十五休靜常に關西寧邊妙香山に居りしを以て又西山大師と呼ふ詩を善くす

○簡牘

四冊 金光國編

圖書番號 一〇三〇八

英祖の時葆光堂金光國か燕山君の時より肅宗の時に至る諸人の手束を拮据蒐集し總て四帖と爲したるものにして初冊に金光國の小叙を附し毎簡筆者の小傳を録す

金光國字は大觀安東の人承旨俊元の玄孫なり肅宗己丑に生れ英祖乙卯文科に登り官參判に至り正祖の時に歿す

子部

○篆海心鏡

五卷二冊 金振興著 印本

圖書番號 二〇四二、五〇九六

篆書の辭典なり振興少時より東江呂爾徵に従ひて篆籀を學ひ終に善篆を以て名あり本書は玉筋體を以て四聲字を寫し各字下に楷體を附し以後學に便したるものなり肅宗元年東江の子雲浦聖齊の咸鏡監司たる時之を刊行す

○古畫帖

一帖 鄭敬書 金允謙書

圖書番號 二一六八一

鄭敬及金允謙の山水畫其の他款識なき山水蘭竹梅菊松蕉葡萄榴等の畫を以て作帖したるものなり鄭敬子は元均謙齋と號す光州の人にして官司導僉正に至る

金允謙字は克讓眞宰と號す安東の人老稼齋昌業の子にして官察訪に止る

○畫帖

一帖 尹程畫

圖書番號 一〇二九四

花艸折枝翎毛魚虎等十一種を畫き彩色を施したるものなり

四六三

尹程字は景顥、惠泉は其の號にして、坡平の人吏判絳の後孫なり。憲宗朝司馬に中り、官縣令に至る。畫格高妙にして、一世に名を擅にせり。

○ 縉紳畫像帖

一帖

圖書番號 一〇三〇一

正祖の時に於ける縉紳の畫像にして、判書尹師國等二十一人あり。

○ 眞鍮金見本帖

三帖

圖書番號 一〇二六八

太上老君、舜帝、僧侶、仙人等の圖像を描きたるものにして、作像原圖の見本に用ひたるものなり。

○ 寶印符信總數

一冊

圖書番號 一〇二九一

朝鮮開國以後に用ひたる各種の寶印符信等の形を圖し、總數を録したるものなり。

○ 外官印文

二冊

圖書番號 一〇三〇六

哲宗四年禮曹より八道四都に關飭して、觀察使以下戸長に至るまで各其の印信の搨本を提出せし

め之を收聚粘付し、以て後の考査に供したるものなり。

○ 縱橫累黍古今尺圖說

一冊

圖書番號 一〇二六四

累黍尺の度數を圖解したるものにてし、横黍古尺、縱黍今尺二種の圖を掲ぐ。

○ 鑄字事實記

一冊 金炳國書 搨本

圖書番號 一〇二二五、一〇一六八

從來懸板となしたるものを、哲宗九年石搨法に依りて搨本に製したるものなり。其の内容は太宗癸未の鑄字來歴及世宗庚子、庚寅、正祖丁酉、壬寅、丙辰等に於ける鑄字の沿革より、哲宗九年戊午に至る鑄成字數を記したるものにして、附するに鑄字監事官の人名録を以てす。

○ 各樣巾製

一冊

圖書番號 一〇二九〇

各種頭巾の様式を模寫したるものなり。

小説類

○花史

圖書番號 七六六〇

一冊 林悌著 寫本

各種花卉を以て國家君臣の制度に擬し花に關する故事に據りて治亂興亡の歴史を假作したるものなり其の文章亦豪宕なり著者常に曰く「四夷八蠻皆爲帝國獨朝鮮不能自立入主中國吾生何爲也吾死何恨也」と本書は其の拔越慷慨の意を託せり明人仲遵の撰したる花史二十七卷あるも花の品と候と友と器とを分説したるに止り本書と大に其の體裁を異にす

林悌字は子順白湖又謙齋嘯痴と號す羅州の人なり明宗己酉に生る宣祖丁丑文科に出身し官吏曹正郎を拜し北評事に迄り其の丁亥に歿す享年三十九天才絶倫日に至千言を誦し最も詩に長す好みて名山大澤に遊ひ嘗て俗離山に入り大谷成運に師事す李栗谷李白沙等皆之を稱するに奇男子を以てす

子部

○九雲夢

六卷 金萬重著 金春澤增訂 印本

圖書番號 四三六四、一一八九五

金萬重か其の母を慰むる爲に草せしものにして後從孫金春澤之を添修潤色せり人世の行樂は本來定縁あるも一夢に過ぎさることを比喻せるものなり

金春澤字は伯雨北軒と號す孝宗の時に生れ肅宗の時に歿す兵曹判書金鎮龜の子なり少より才氣爛發往往人を凌き自ら檢束を加へず遂に科擧に及第せず無官の秀才として終れり

○謝氏南征記

一冊 金春澤著 寫本

圖書番號 六二〇六

勸善懲惡を旨として作れるものにして妖妾か主婦を誣陥して之を逐出し其の家を覆亡せる事を述へたるものなり

○倡善感義錄

二冊 金道洙著 寫本

圖書番號 六二〇七

勸善の意を寓したる説話にして善者惡者より構誣を被り無限の苦難を受けたるも惡者に對して

四六五

猶は徳を以て遇し悪者其の義に感して屈服したりとの假構事を叙せるものなり

金道洙は春洲と號す清風の人なり英祖の時官知禮縣監に止まる著す所春洲集あり

○帷幄龜鑑

一〇冊

寫本

圖書番號 七六九一

漢高祖創業の史蹟を小説體に記述したるものなり當時張良帷幄の中に運籌せしを以て名けて帷幄龜鑑と言ふ

○雲英傳

一冊

寫本

圖書番號 七二五五

青坡の士人柳泳宜祖三十四年辛丑の春世宗の子安平大君塔の舊宅壽聖宮に遊び醉夢の中安平宮女雲英及金進士に逢ひたることに假托し其の慘切悲劇なる情史及悍奴の報果を叙述したるものなり一に壽聖宮夢遊錄と名く

○春香傳

一

呂圭亨著

寫本

圖書番號 六五九五

朝鮮倡優の演する春香歌をみ釋し支那小説西廂

記の體に倣ひて戲作したるものなり

○廣寒樓記

一冊

寫本

圖書番號 一一六一五

李桃隣と妓春香との情事を敘したる小説にして廣寒樓は二人邂逅の所なり

○王郎返魂傳

一冊

印本

圖書番號 七九〇七

吉州の人王思机なる者亡妻宋氏か冥司の王郎を捉ふることを知りて一夜王郎に魂謁し佛を念して厄を免かるへきを勧め遂に起死回生を得たる話柄を諺文を以て記したるものなり

○奇談隨錄

一冊

寫本

圖書番號 四五七〇

成宗の時に成りし鄭相國傳、高總角傳、閑良傳及陳砲手傳等を集輯し並に閭巷間の奇事異聞等を摘録したるものなり

○選諺篇

一冊

寫本

圖書番號 五四二七

朝鮮閭巷に流播する舊傳俚話を聞見に隨ひて寫

録したるものなり

○ 罷睡録

一冊

寫本

圖書番號 一二四一七

朝鮮閭巷に流傳する俚話を筆に隨ひて叙したるものなり一事を叙する毎に結尾に史斷を附せり

集部

別集類

○ 仁廟御製

一冊

印本

圖書番號 五七〇〇、一一五八八

仁宗の製述を蒐輯し附するに批答を以てせり宣祖の時全羅監司權垓錦山郡守李翼賓と謀り之を刊行す

○ 御製集慶堂編輯

六卷三冊

印本

圖書番號 一七〇一、四〇二五

英祖か甲申、乙酉、丙戌、丁亥の四年間に於て子孫に訓諭せし文詞中慕先詒後述懷等の文を集慶堂に於て編輯したるものなり芸閣に於て印行す

○ 御製續集慶堂編輯

六卷

印本

圖書番號 一七〇二、三〇五五

英祖の集慶堂編輯の續編にして四十四年戊子より庚寅に至る三年間の慕先詒後述懷等を收め芸閣に於て印行す

○英祖御製續編

一〇卷五冊

印本

圖書番號 三四四〇、三九四一

英祖三十四年戊寅其の製述を編成し具允明等に命し校正を加へしめ活字を以て印出す別に原編あり仍て續編と名く

○御製回甲編錄

一冊

印本

圖書番號 四三八九、五四六一、五四八四、七八二五

英祖三十年甲戌肅宗妃壽七十にして英祖華甲に恰當せしを以て此の書を作り回甲編錄と題し敬天、奉先、恤民、祛黨、抑奢等の五則を訓諭したる外特に容直言樂聞過の六字を自書して徳器涵養の主要を簡明に垂示したるものなり

○御製抑箴

一冊

印本

圖書番號 二四二八、三一九三

英祖三十九年癸未詩經の衛武公抑章の義意を取り抑箴二篇を撰し之に諸臣の賡進を添附したるものなり

○祭保母文

一冊

寫本

圖書番號 七三三三

肅宗二十三年丁丑英祖延祔君たりし時保母尙宮金氏の喪に際し此の文を撰す

○祭尙宮文

一冊

寫本

圖書番號 七七一四

肅宗四十三年丁酉英祖の延祔君たりし時尙宮朴氏の喪に際し此の文を撰す

○凌虛關漫稿

七卷三冊

莊祖著 印本

圖書番號 一五六九、一五七〇、一五七一、三〇五六、三〇

八〇、三四五三、三九二六

莊祖の遺稿を輯めたるものにして詩賦批判、書批、達批、敦諭、令旨、答官僚故事、題序、碑銘、陵誌、致祭文等あり凌虛關は莊祖の號なり

○弘齋全書

一八四卷一〇〇冊

印本

圖書番號 五七二、二〇二三、三〇三一、三六八二、三七七

五、四四六五

正祖の詩文、綸音、教旨其の他編著の全集にして第一卷以下第七卷に詩、第八卷以下第十三卷に序引、第十四卷以下第十六卷に記、碑、誌、第十七卷に行録、第十八卷に行狀、第十九卷以下第二十五卷に祭文、

第二十六卷以下第二十九卷に繪音、第三十卷以下第三十六卷に教、第三十七卷に敦諭、第三十八卷に諭書、第三十九卷以下第四十一卷に封書、第四十二卷以下第四十六卷に批、第四十七卷に判、第四十八卷以下第五十二卷に策問、第五十三卷に說、贊銘、第五十四卷以下第六十三卷に雜著、第六十四卷以下第六十九卷に經史講義、第二十卷、第二百一十一卷に鄒書、春記、第二百二十二卷以下第二百五卷に魯論復箋、第二百二十六卷に僧傳秋錄、第二百二十七卷、二百二十八卷に類義平例、第二百二十九卷以下第三百二十四卷に故實、第三百三十五卷以下第六十卷に審理錄、第六十一卷以下第七十八卷に日得錄、第七十九卷以下第八十四卷に群書標記を收む

○ 正祖草稿

五冊

寫本

圖書番號

四〇七八

正祖幼時の詩文を手録したるものにして堯舜孔孟、顏曾等聖人の頌より漢代諸帝乃至歷代人物の贊頌評論等あり終に菴興府院君等の詩を附記す

○ 御製至德祠記

一冊

寫本

集部

圖書番號 二三六九

正祖の撰に係る讓寧大君至德祠の記なり讓寧大君は太宗の長子にして弟世宗の聖徳あるを見伴狂自ら廢す太宗昇遐し世宗踐祚するに迨ひ大君を泰伯に比し之を頌す肅宗其の祠に命するに至徳を以てし正祖十三年己酉是の記を刻掲す

○ 桂苑筆耕集

二〇卷四冊

崔致遠著 印本

圖書番號

四三二〇、四三四九、七〇〇七欠本

新羅崔致遠唐より還り著す所の雜詩賦表集、覆篋集其の他合して八卷及本書桂苑筆耕集二十卷を進獻す表、狀、檄書、委曲、舉牒、齋詞、祭文、疏啓狀、雜書詩等あり

○ 大覺國師文集

三三卷二冊

釋煦著 印本

圖書番號

四五二一、四五二二、六二二五、六二二六

元集二十卷には序、記、表、辭、狀、書、疏文、祭文、眞讚、示文、詩等を收め外集十三卷には國師に關する書記、眞讚、詩、碑銘等を收む其の板慶尙南道陝川郡の海印寺に在り蓋し高麗時の刻板なり

四六九

釋煦俗姓は王氏、字は義天、其の名宋哲宗の諱を犯すを以て字を以て行ふ高麗文宗の第四子なり。文宗乙未に生れ、乙巳剃髮して靈通寺景德國師に受具し、丁未教書を以て祐世僧統師となる。宣宗乙丑宋に入り、華嚴有誠法師に攝衣し、甲戌還國する時佛經四千卷を齎來し、佛教の書籍大に備はれりと云ふ。肅宗辛巳に示寂す。國師に冊し、大覺と諡す。

○南陽詩集

二卷一冊 白賁華著 印本

圖書番號 七六七〇

白賁華の詩を蒐輯したるものにして、卷末に李奎報の撰したる墓誌一篇を附す。其の板海印寺に在り。高麗高宗の時の彫造に係る。

白賁華字は無外、南陽と號す。藍浦の人。翰林光臣の子なり。高麗明宗庚子に生れ、神宗戊午省試に中り。同年文科に登り、閣門祇候を歴て、官京山府副官に至り。高宗甲申に歿す。近臣を以て禪教を主とし、名稱法宗多く、其の門より出つと云ふ。

○東國李相國集

五三卷一四冊 李奎報著 印本

圖書番號 四九三八、五二七〇

全集四十一卷、後集十二卷より成る。共に高麗高宗二十八年辛丑、其の子涵の編刊せしものなり。然るに訛舛脱漏多きを以て、三十八年辛亥大藏經の彫造を終るに際し、分司大藏都監に命じ、改刊せしむ。涵は當時隣郡河東の監務たり、故に家藏本を以て、雖校に充つるを得たり。全集には賦詩、上樛文、頌讚、銘、韻語、語錄、說序、雜文、記、勝文、雜書、書狀、表箋、教書、批答、詔書、麻制、官誥、碑、銘、誌、誄、哀詞、祭文、道場、醮疏、佛道疏、釋道疏等を收め、卷首に年譜を冠す。後集は詩、贊、序、記、雜記、問答書、表、雜著、墓誌等にして、卷尾に誄書及墓誌銘を附せり。

李奎報字は春卿、白雲居士と號す。高麗明宗庚戌登科し、官平章事、大學士に至る。文章亦一代の大家たり。朝廷の辭令は皆其の手に出て、著述甚れ多し。

○梅湖遺稿

一冊 陳澹著 印本

圖書番號 七〇〇三

陳澹の排律、古詩、絕句を主とし、附録として事實評

品馴唱等を載す十五代の孫澤の哀集刊行せるものなり

陳渾は梅湖と號す驪陽の人なり高麗神宗三年庚申に及第し官右司諫に至る詩を善くし少時李奎報と才名を齊うす不幸にして身世零落し其の傳記及著作の傳はらざるもの多く今存せるもの僅に本集一冊に過ぎす

○ 止浦集

三卷二冊 金丘著 印本

圖書番號 11111011111

金丘の詩文集にして絶句古詩應製錄表箋啓疏書碑文等を載す朝鮮純祖元年後孫東瀟の刊行する所に係る

金丘字は次山、止浦と號す高麗熙宗辛未に生る高宗の時の文科出身にして吏部尙書政堂文學を経て實文閣大學士となり平章事を拜し忠烈王戊寅に歿す文貞と諡す嘗て晦軒安裕と道義の交を爲し詩賦に長し稼亭李穀常に之を推稱す朝に在りて偉績多く而して佛法を排斥するの故を以て權臣に忤ふ識者爲に益之を重せりと云ふ

○ 謹齋集

三卷二冊 安軸著 寫本

圖書番號 三三五

安軸の詩文雜著を集めたるものにして其の子宗源と宗源の孫純及純の子崇善の遺稿を卷尾に附す後孫慶運之を收輯編次し肅宗六年庚申濟州に於て刊出す

安軸字は當之、謹齋と號す順興の人碩の子なり高麗忠烈王壬午に生れ忠肅王甲子元に入り甲科に登り蓋州判官を歴て國に還り官三重大匡に至り忠穆王戊子に歿す諡を文貞と云ふ

安宗源字は嗣清、雙清と號す忠肅王乙丑に生れ忠惠王辛巳文科に登り朝鮮太祖甲戌官集賢殿太學に至り是の年に歿す諡を文簡と云ふ

安純字は顯之、別墅と號す恭愍王辛亥に生れ恭讓王己巳文科に登り朝鮮世宗庚申修文殿大提學に至り是の年に歿す諡を靖肅と云ふ

安崇善字は仲止、雍齋と號す朝鮮太祖壬申に生れ太宗辛卯文科に登り官藝文館大提學に至り文宗辛未に歿す諡を文肅と云ふ

○益齋亂稿 一〇卷四冊 李齋賢著 印本

圖書番號 三六五七、四二五九

李齋賢の詩文集なり就中詩最も妙境に入る其の子彰路及其の孫寶林の撫收する所なるも遺稿散佚して盡く録するに至らず亂稿の名ある所以なり卷末櫟翁稗説拾遺年譜墓誌等を附し高麗恭愍王十二年癸卯刊行し牧隱李穡の序文あり宣祖三十三年庚子其の後孫時發再刊し又肅宗十九年癸酉慶州府に於て重刊せり

○稼亭集 二〇卷四冊 李穀著 印本

圖書番號 五〇二八、五〇二九、六七六三

李穀の詩文集にして朴尙衷の編纂上梓したるものなり年所を経て原板毀敗せしより仁祖十三年後孫基祚嶺伯在任の時之を重梓す載する所年譜、雜錄、雜著、記、碑、說、跋、銘、贊、書、啓、序、表、牒、疏、詞、祭、文、墓誌、行狀、程文、詩、詞等なり

李穀字は仲父、稼亭と號す韓山の人なり高麗忠烈王戊戌に生れ益齋李齋賢の門に遊ひ學業を成就し忠肅王庚申に登科し癸酉の歲元に入り進士出

身を以て待ち國史院檢閱を授けられ中書郎中に上る歸來官都僉議贊成事に至り忠定王辛卯に歿す韓山伯に封せられ文孝公と諡す

○景濂亭集 五卷二冊 卓光茂著 印本

圖書番號 三六三七

卓光茂の遺稿を蒐輯し又他人より寄贈せし詩文及古蹟等を編次したるものにして子愼の竹亭集及曾孫中の竹林亭集を附し卷末に世系を載せり哲宗元年庚戌後孫雲翰之を刊行す

卓光茂字は謙夫、景濂亭と號す光山の人にして泉谷文位の子なり高麗忠惠王の時文科に登り官禮儀判書に至り壽八十一諡を文正と云ふ

卓愼字は係危、竹亭と號す茂の子なり高麗恭讓王の時文科に登り朝鮮に及び叅贊を拜し壽六十諡を文貞と云ふ

卓中字は建正、竹林と號す愼の孫なり朝鮮世宗の時生れ世祖の時文科に登り官直講に至る

○棼隱逸稿 六卷二冊 田祿生著 印本

圖書番號 三三三六

壁隱田祿生の後孫萬英か十九史畧補、高麗史、東國通鑑、東國史略其の他諸書凡そ四十八種に就き祿生の詩文を拾集し竝に家藏の諸牒を添入し以て編次せしものにして第一卷を原集とし批答、辭、疏等を收め第二卷以下を附録とし本傳、姓貫、扈從錄、功臣錄、官跡、應製錄、遺事、世系圖、歷、官畧、家狀、尊慕錄竝に季弟耕隱遺事、孫尉節孝實記、旌閭、遺事、家狀を集め以て全帙と爲せり卷首に陶谷李宜顯及黎湖朴弼周の序文を附す

田祿生字は孟畊、壁隱と號す潭陽の人なり高麗忠肅王戊午に生れ忠惠王の時登科し大司憲等を歴て政堂文學となり兼ねて大君師傅を拜せしか適々廢王禡元年乙卯朴尙衷等と同しく杖配せられ路に歿す

○ 圃隱集

七卷四冊 鄭夢周著 印本

圖書番號 三四三四、三四三五、四七二一、五八八四、六

二二〇、六三四二、一五六一

東方理學の開祖にして高麗殉國の忠臣たる鄭夢周著す所の詩文は家難に因り殆ど遺失し盡せり

集部

其の子宗城諸家の所藏と門人の所録等に據り蒐輯編次し朝鮮世宗二十一年己未初めて刊行し後中宗二十八年癸巳玄孫世臣新溪に宰たる時又開刊す宣祖十七年甲申柳成龍に校正を命し芸閣をして印行せしむ同四十年丁未永川郡守黃汝一臨臯書院儒生と共に又刊出し孝宗十年己亥後孫維城更に永川に於て重刊す英祖四十五年己丑續集を編成し原集と共に崧陽書院に於て圖刊し光武四年庚子後孫煥翼等又崧陽書院にて重刊せし時續集に新增する所あり柳成龍の校正せし原集四卷には詩雜著、拾遺、遺墨及年譜攷異等あり年譜攷異に宅墓碑、畫像、書院、本傳、行狀、碣陰等を附し附録に文、詩、賦、龍飛御天歌、書、疏、議、祭祝、告辭、諸家、記述等を收め續集三卷には歌、詩、疏、啓、墓誌銘、年譜、遺事、尙論、祠廟、褒典、陳情、讚述、記、題等を收め墓誌銘に祭儀及相思典を附す

鄭夢周字は達可、圃隱と號す迎日の人なり高麗忠肅王七年に生れ恭愍王庚子科擧に應し三場に連魁して遂に甲科に擢てらる時に士大夫喪祭の禮

紊亂し喪は百日にして終り祭は専ら佛式を用ふるを例とせしか圃隱自ら三年の喪に服し祭は朱熹の家禮を用ふ是より禮制舊に復するを得たり朝廷命して其の閭に旌表す嘗て大學に教授するや經義講説人意に超出す牧隱李穡之を稱して東方理學の祖と爲す詩文豪放峻潔讀者をして忠烈高邁の氣に感せしむ太祖壬申創業の時圃隱豫め其の謀を知り恭讓王に告げて將に之を殺さんとし却て太宗の使趙英珪の爲に路に要撃せられて斃る官門下侍中に至り忠義伯に封せらる太宗の末年領議政を贈られ益陽府院君に封せられ諡を文忠と云ふ次いて太宗の時文廟に配享せらる

○牧隱集

五五卷二五冊 李穡著 印本

圖書番號 四二七六、四二七七、四九七六、五七七二

李穡の遺稿にして初め孫季甸詩のみを選ひて六卷と爲し上梓せしか後又後孫德洙本集を刊行す詩稿三十五卷文稿二十卷あり文は記序説表箋教書頌讚銘箴弁答問題跋祭文塔銘墓文傳等にして卷首に年譜行狀を載せり其の詩文は李奎報と並

稱せられ人以て高麗の二大家と稱す李穡字は穎叔牧隱と號す稼亭穀の子なり高麗忠肅王戊辰に生れ益齋の門に學ひ高麗恭愍王癸巳に登科し甲午の年元に往き文科に及第し翰林知製誥を授けらる高麗恭愍王の時官門下侍中に至る朝鮮に及び太祖屢徵せしも仕へず丙子韓山伯に封せられ文靖と諡せらる

○柳巷詩集

一冊 韓脩著 印本

圖書番號 三四八三、五二三八

韓脩の詩集にして陽村權近の批點せしものなり宣祖三十五年八代の孫柳川浚謙湖南觀察使たりし時刊行す卷首に權近の序李穡の墓誌銘及高麗廢王禍の教文あり

韓脩字は孟雲柳巷と號す清州の人なり高麗忠肅王癸酉に生る幼より才名あり年十五にして登科し時人以て夙成と爲す又草隸を善くす官判府事大提學に至り廢王禍甲子に歿す諡して文敬と云ひ清城君に封せらる

○陶隱集

五卷二冊 李崇仁著 印本

圖書番號 三九八四、四二六六、四二六七

李崇仁の詩序記、傳、贊、狀、跋、表、箋等を收む太宗四年丙戌權近に命し編輯刊行せしめたるものなり
李崇仁字は子安、陶隱と號す高麗恭愍王壬寅に登科し官密直副使に至る朝鮮開國の初鄭圃隱に黨したるの故を以て削職杖流せらる當時圃隱、牧隱と文名を齊うす太宗經筵に臨み毎に悼惜して措かず封を加へ爵を贈る

○二峰集

一四卷七冊 鄭道傳著 印本

圖書番號 七二六、二九五七、三〇八一、三〇八二、三〇

八三、三〇八四、三五三六、三五三七、三六四四、四七二二

鄭道傳の詩文集にして曾孫文炯慶尙觀察使たる時始めて開刊し其の板久しく散逸せしか正祖の時内閣に命し更に印行せしむ本集載する所賦詩、詞疏書啓序記、說、跋、傳、行狀、墓表、祭文、策、題、銘、贊及經國文鑑、經國典、佛氏辨、心氣理篇、心問天答、經濟文鑑別集、陣法、拾遺、附録等なり

○陽村集

四〇卷一〇冊 權近著 印本

圖書番號 六三二九、七四七三

集部

權近の詩文集にして四十卷中詩十卷文三十卷記序、說、傳、跋、銘、讚、祭文、表、箋、批、答、劄、啓、疏、語、青詞、教書、上書、玉冊、哀冊、謝書、願文、唁、策、問、東國史畧傳、東賢事畧、碑銘、墓誌、行狀等あり顯宗十五年甲寅十世の孫濤の嶺南監司たりし時晋州牧使南夢賚と協力刊行す

○治隱續集

三卷一冊 吉再著 印本

圖書番號 四二五七

吉再の詩文集なり但詩五首文六首のみにして其餘は附録なり歷代諸王の賜祭文、傳教、諸名士の祭文、初堂記等を收載し哲宗九年戊午後孫冕周宋來熙の編校上刊せしものなり

吉再字は再父治隱は其の號なり善山の人高麗恭愍王癸巳に生れ廢王禍丙辰登科し官門下注書に至る朝鮮太祖開國の初太常博士に拜し屢徴したるも應せず嘗て鄭圃隱に従ひ性理の學を極め老境に及ふまで實踐彌篤く門に學ぶ者甚た多し諡して忠節と云ふ

○厖村集

一冊 黃喜著 印本

四七五

圖書番號 一11001

黃喜の遺稿にして後孫秧の蒐輯に係り詩箋疏笥、行狀墓表實記補錄等若干篇を收む卷首に年譜卷末には附録あり憲宗戊申に刊行す

○春亭集 一二卷五冊 卞季良著 寫本

圖書番號 五四一〇

卞季良の詩文を集めたるものなり世宗の時嶺營に命し板刊せしか年久うして壞破せしを以て純祖甲申居昌の儒生等之を更刊す收むる所詩序、說封事策表箋青詞祭文玉冊謚冊文碑文題跋其の他雜著なり

卞季良字は巨卿春亭と號す密陽の人判中樞院事玉蘭の子なり高麗恭愍王己酉に生れ辛禡壬戌進士に中り癸亥生員に中り乙丑文科に登り朝鮮太宗の時大提學を拜し庚戌に歿す謚を文肅と云ふ幼より聰明人に絶す圃隱鄭夢周及牧隱李穡の門に遊ひ後文衡を典ること二十餘年名士多く其の門に出つ

○騎牛子集 三卷一冊 李行著 印本

圖書番號 一11045

李行の詩文集にして收むる所詩疏墓誌及附録等なり李太王壬申十六代の孫鍾述之を刊行す

李行字は周道騎牛子又一可道人と號す高麗恭愍王壬辰に生れ辛亥文科に登り翰林長銓を歴て朝鮮太宗壬子に歿す官藝文館大提學に至り謚を文節と云ふ麗末の名臣なり朝鮮の初病を謝して歸隱し騎牛遊賞以て晦迹自靖せり享年八十一直節清名あり

○別洞集 三卷 冊 尹祥著 印本

圖書番號 四〇七二

尹祥の詩文集にして其の子季殷遺稿を收拾し後孫三徵に至り始めて刊行せるものなり載する所詩表箋疏陳言書序說祭文策跋歌謠等なり尹祥字は實夫別洞と號す高麗恭愍王癸丑に生れ朝鮮太祖丙子に登科し官藝文提學に至る久しく大司成を以て國子監に居り經學に精通し世宗乙亥に歿す

○蘭溪遺稿 一冊 朴瑗著 印本

圖書番號 三五七一、三六二八、四〇一〇、四〇一三、四

二四三、四二四四、四二六三、五二六四、六六二八

朴堧の詩文集にして後孫心學之を收拾刊行したるものなり載する所詩疏雜著等なり諡狀、神道碑銘等を附す全集中三十九篇の上疏は樂律に關するもの多し

朴堧字は坦父、蘭溪は其の號なり高麗廢王禡戊午に生れ乙丑に登科し朝鮮世宗の時講幄に出入し特に音樂に精通するを以て國樂を整理す官藝文館大提學に至り文獻と諡せらる

○ 泰齋集 五卷一冊 柳方善著 印本

圖書番號 七二六二

柳方善の詩文を収録せるものにして世宗三十二年庚午に上刊す第一卷に賦記、序、祭文及雜著等を收め他は皆詩を收む

柳方善字は子繼、泰齋と號す瑞山の人思菴淑の曾孫なり高麗廢王禡戊辰に生れ朝鮮太宗乙酉司馬に中り世宗癸亥に歿す

○ 憂堂集 三卷一冊 朴融著 印本

集部

圖書番號 七〇四九

朴融の詩文集にして後孫星默之を蒐輯し李太王乙亥之を刊行す詩九篇、祭文、居家誡、對策各一篇を載す其の他附録あり卷末に榜目を載せり、
朴融字は惟明、憂堂と號す密陽の人松隱翊の子なり太宗戊子生員に中り其の年文科に登り典翰を歴て官郡守に止まり世宗甲辰に歿す圃隱鄭夢周の門人なり

○ 不憂軒集 二卷一冊 丁克仁著 印本

圖書番號 六三二八

丁克仁の歿後三百餘年後孫孝穆其の故藁を收拾印行したるものなり第一卷に詩第二卷に文及歌曲を收め行狀、家狀、墓文等を卷首に載す黃景源及黃胤錫の序あり

丁克仁字は可宅、不憂軒又茶軒、茶角の號あり太宗元年辛巳に生る世宗十九年太學進士たる時佛に歸依するの非を陳疏し將に罪せられんとして宰相黃喜に救はれ纔に事なきを得たり文宗の時逸を以て擧げられ端宗の時全州府教授成均館主簿

四七七

司諫院正言等を歴て獻納に至り成宗十二年辛丑に歿す年八十一

○敬齋遺稿

二卷一冊 南秀文著 印本

圖書番號 一七八三

南秀文の詩文集にして九代の孫熙錫及十一代の孫國煥之を編輯す收むる所詩、序記、跋、墓誌銘、墓表、雜著、教書、箋、書契、祭文、祝文、告由文、解怪文、附錄等なり純祖四年甲子之を刊行す

南秀文字は景質、敬齋と號す固城の人道菴琴の子なり太宗戊子に生れ世宗丙午進士及文科に中り丙辰重試に魁たり文章を能くし高麗史の初草は大抵皆其の手に出つと云ふ官集賢殿直提學に止まり壬戌に歿す世宗の時湖堂を新設し文學の士を拔選せし時首選の榮を得たり位卑しと雖死後禮葬致祭の特典を受く

○太虛亭集

三卷二冊 崔恒著 寫本

圖書番號 四六一三

崔恒の詩文集にして其の妻弟徐居正成宗丙午に之を編次刊行し後宣祖二年己巳曾孫崔興源慶尙

道都事たる時重刊し後又仁祖三年乙丑七代孫蘊三度之を刊印せるものなり第一卷に古詩律を收め第二卷に序記、跋、書表、箋等を載す

○訥齋集

六卷三冊 梁誠之著 印本

圖書番號 四八七、一七〇〇、二二七四、二八五三、二八

七九

梁誠之の詩文集にして孫大樹か錦山郡守たる時刊板し正祖十五年辛亥奎章閣に命して改印せしむ載する所奏議及雜著、古今詩あり附錄として嬰時金守溫、徐居正等の詩文數篇を載す又遺事、墨蹟等を收む

梁誠之字は純父、訥齋と號す南原の人なり太宗乙未に生れ世宗辛酉に登科し五世に歷事して官吏曹判書に至り又文衡を典り南原君に封せらる成宗壬寅に歿し文襄と諡す其の官に在るや賛劃建白甚々多く奏議稿、五朝實錄、日記、麗史節要等著作亦舉げて數ふへからす

○金文節逸稿

三卷二冊 金淡著 印本

圖書番號 三三三八

金淡の詩文集にして仁祖二十二年六代の孫正郎
鑿の刊行する所なり詩疏策等を收め附録に御書
行狀等を載す卷首に世系年譜あり

金淡字は巨源、禮安の人縣令小良の子なり太宗丙
申に生れ世宗乙卯文科に登り官吏曹判書に至る
世祖甲申に歿す諡を文節と云ふ

○ 保閒齋集 一七卷四冊 申叔舟著 印本

圖書番號 七〇九五、七三五

申叔舟の詩文集にして成宗特に命して之を登梓
し仁祖二十三年後孫沔更に改板重印せしものな
り其の載する所詩及遼海編家訓策、記、序、跋、祭文、疏
文、誄、贊、說、銘、頌、箋、狀、奏、議、書、行、狀、墓、誌、表、碑、補、遺、等、に
して諸人記述碑狀等の附録あり遼海編には明使
倪謙の唱酬詩文を全載す

○ 成謹甫集 四卷一冊 成三問著 印本

圖書番號 四〇七一、七二二

成三問は忠節比なく文章亦最特異なり而も禍亡
の餘遺稿の存するもの幾どなし後尹裕後遺佚せ
る詩文若干を集めて刊布せり本書即ち是なり其

集部

の載する所詩、賦、序、跋、引、說、頌、銘、碑、銘、箋、策、及、附、録、等
にして附録に宋時烈の遺墟碑文、神主記、朴泰輔の
六臣祠記、金尙憲の六臣遺稿の跋あり

○ 檜軒逸稿 一冊 柳義孫著 印本

圖書番號 一六九九

柳義孫十二代の孫範休か故藁を輯纂したるもの
にして收むる所詩、教書、序、記、跋、碑、銘、各若干あり卷
首に鄭宗魯の序を附す

柳義孫は檜軒と號す全州の人にして直提學濱の
子なり世宗元年己亥生員となり丙午登科し翰林
より集賢殿に入り丙辰重試に擢せられ直提學を
拜し辛酉世子侍講院左輔德を兼ね官吏曹參判に
至り端宗の時全州黃方山中に笑臥亭を築きて退
居す世祖元年召に背きて赴かず旌義に謫せられ
て歿す

○ 漁溪集 二卷一冊 趙旅著 印本

圖書番號 四五六一、五〇九一、五二七九、五二八〇

趙旅の遺稿を集めたるものにして其の孫績等之
を登梓し後孫榮祐英祖十八年に之を改刊せり收

四七九

ひる所詩及附録なり

趙旅字は主翁、漁溪と號す、咸安の人なり。端宗癸酉進士に中り、端宗遜位の後、郷曲に隱遯し、遂に復た出てす時に、金時習、元昊、李孟、專成、昉、壽南、孝溫と俱に生、六臣と稱せらる。正祖の時、吏曹判書を贈られ、諡して靖節と云ふ。

○ 佔畢齋集

二五卷七冊 金宗直著 印本

圖書番號 五七九、五八〇

金宗直の詩文集にして、絶句、律詩、排律、古詩、賦、謠、樂府、冊文、祭文、書序、說、跋記、銘等あり。

○ 篠叢遺稿

二卷一冊 洪裕孫著 印本

圖書番號 四二〇、四二一

洪裕孫の詩文集にして、純祖十年庚午、後孫益九之を收拾刊行したるものなり。載する所文、二十餘篇、詩四十餘首、附するに、其の子至誠の詩集佛頂稿を以てす。

洪裕孫字は餘慶、篠叢又狂真子と號す。世宗辛亥に

生る家世寒微なりしも、才思絶倫にして、五歲早く斯文の先輩に遍謁し、異器を以て遇せらる。中宗の時進士の試に中りしも、意を仕途に絶ち、専ら詩文に耽り、秋江南孝溫と友とし、善し。中宗己丑に歿す。

○ 逍遙齋集

二卷一冊 崔淑精著 印本

圖書番號 二四三三

崔淑精の詩文にして、純祖十三年癸酉に刊行したるものなり。收むる所詩各體及記序、跋等あり。附録に交遊諸人の唱酬したる詩文及墓銘、記實を收む。

○ 梅月堂集

一七卷九冊 金時習著 寫本

圖書番號 七〇六二

金時習の詩文集にして、宣祖の時命して登梓せしめ、仁祖の時之を改刊せり。載する所詩、雜著、贊傳、說、辨序、義銘、箴、記、誥、天地篇、書、賦、補遺等にして、就中古今帝、王國家興亡論を初め、人主、天形、性理、修真、外數十篇は、其の抱負を窺ふに足る。

金時習字は悅卿、梅月堂と號す。又清寒子、贅世翁、東

峯、雪岑等の別號あり江陵の人世宗乙卯に生れ年五歲神童の稱あり世宗召見し其の才を試み大に褒賞を加ふ弱冠山中に讀書し端宗位を遜ると聞き落髮して僧となり伴狂自放し國內の山川足迹殆ど印せざるなく佳境に遇へば輒ち吟咏す年四十七髪を長し妻を娶り幾もなくして妻死す復た山中に入り放浪舊の如し宣祖癸丑に歿す儒臣栗谷李珣に命して傳を作らしむ正祖の時吏曹判書を贈り清簡と諡す

○ 止止堂詩集

一冊 金孟性著 印本

圖書番號

七〇五七

金孟性の詩集にして燕山君七年辛酉金應箕嶺南に府伯たる時刊行せしものなり

金孟性字は善源、止々堂と號す善山の人なり世宗丁巳に生る早歲孝を以て聞は遺逸を以て薦めらる成宗丙申文科に中り官銓郎に止り丁未に歿す

○ 青坡文集

二卷一冊 李陸著 印本

圖書番號

三九九一

李陸の詩文集にして子嶮之を編輯す第一卷は詩

集 部

雜著第二卷は劇談にして劇談を睿鑿、記實、摭異、度量等の十五類に分つ卷末に附録あり哲宗三年壬子之を刊行す

李陸字は放翁、青坡と號す固城の人容軒原の孫なり世宗戊午に生れ世祖甲申文科に魁し重試及拔英試俱に中りて官吏曹叅判に至り燕山君戊午に歿す群書に博通し詩文に名あり別に青坡劇談の著あり

○ 大峰集

四卷二冊 楊熙止著 印本

圖書番號

七〇八二

楊熙止の詩文集にして外裔孫李天燮の蒐輯したるものなり收むる所詩、疏、筭、書、序、祭文、墓碣記、科製、附録等にして十世の孫樂正祖丁未に刊行す

楊熙止字は可行、大峰と號す中和の人郡守孟淳の子なり世宗己未に生れ世祖壬午生員進士に中り成宗甲午文科に登り翰苑に入り銓郎を歴て湖堂に選せられ官大司憲に至り中宗甲子に歿す登科の後成宗の命を以て名を稀枝字を楨父と改めしか後本名に復せり

○ 虚白堂集 三五卷八册 成俔著 寫本

圖書番號 七〇六〇

成俔の詩文集にして其の子世昌編次刊行せり詩集十四卷は律絶古近各體を載せ文集十三卷は賦辭、記、序、跋、論、說、書、表、箋、箴、贊、頌、傳、雜著、祭文等なり補集五卷は詩風雜錄二卷は歌行、樂府等拾遺一卷亦詩なり末に行狀を附す

○ 懶齋集 二卷一册 蔡壽著 印本

圖書番號 五八一〇

蔡壽の詩文集にして賦記碑疏、行狀、策、詔、詩等を收む顯宗十五年後孫之治の刊行したるものなり蔡壽字は耆之、懶齋と號す仁川の人なり世宗己巳に生れ睿宗己丑に登科し讜直を以て聞ゆ燕山君の時奸臣を糾摘し死地に置かれたるも毫も意とせず中宗靖難後仁川君に封せられ官知事に至り其の乙亥に歿し襄靖と諡す

○ 眞一齋集 一册 柳崇祖著 印本

圖書番號 四七六五

柳崇祖の詩文集にして後孫時亨等の蒐輯したる

ものなり詩疏各一篇及年譜附録を載す八世の孫刻之を刊行す

○ 錦南集 五卷四册 崔溥著 印本

圖書番號 五二三一

崔溥の詩文集にして宣祖の時外孫柳希春之を刊行す載する所疏、記、碑、銘等若干篇あり崔溥字は淵淵、錦南と號す耽津の人なり端宗甲戌に生る成宗壬寅文科に中り選れて湖堂に入り公務を以て蔚州に赴き風波の爲支那浙江省に漂到し誤つて寇賊と認められ僅に生還し命に依り漂海録を撰す并て估畢齋文集を藏せしより燕山君戊午の東禍に遭ひ叔流せられ甲子殺害せらる官司諫に止まり中宗反正の後承旨を贈らる

○ 秋江集 五卷五册 南孝溫著 印本

圖書番號 三〇一八

南孝溫の詩文集にして賦、詩、論、記、書、序、祭文、雜著等を收め冷話を附せり宣祖十年丁丑外曾孫俞泓刊行せしも壬辰兵火に燒失し肅宗三年丁巳泓の曾孫俞枋改刊す

南孝温字は伯恭秋江と號す生六臣の一人にして
宜寧の人なり端宗甲戌に生る嘗て估畢齋金宗直
に従學す宗直之を視るに弟子を以てせず名を呼
はずして號を稱したりと云ふ成宗の時疏請し昭
陵を復せんとして用ひられず遂に意を科官に絶
ち文酒自放し成三問朴彭年等六臣の傳を述ふ庚
子に至り母命に依り勉めて進士に中り成宗壬子
に歿す後燕山君の時復昭陵疏の事を以て禍泉壤
に及び其の子忠世亦禍に死す正祖の時に至り特
に吏曹判書を贈られ文貞と諡す

○ 風月亭集

二卷二册 李婷著 印本

圖書番號 二五八二

李婷の詩文集にして原集一卷補遺一卷あり初め
成宗命して上梓せしも兵火に焼失し景宗辛丑後
孫夏相居昌に守れる時更に刊行す
李婷字は子美風月亭と號す成宗の弟なり端宗甲
戌に生る賢にして才あり時人漢の河間王徳と東
平王蒼とを以て之に比す成宗即位するや之に事
へて尤も謹み唱和甚た多く湛樂の情を極む其の

集 部

作る所の詩支那に流播せるものあり富林君滉と
翰墨の友なりしか成宗戊申に歿せり諡して文孝
と云ふ

○ 月軒集

五卷三册 丁壽岡著 印本

圖書番號 四〇三七

丁壽岡の詩文集にして子玉亨の蒐輯したるもの
なり收むる所賦詩祭文傳記論書序表箋制奏頌等
あり卷首に父子偁の遺詩四篇を載せ卷末に兄壽
崑の詩文と孫應斗の遺稿若干篇を附す後孫時潤
順天府使たる時刊行し癸巳の年英祖十字を卷首
に加へ全羅道臣に命して改刊す

丁壽岡字は不崩月軒と號す羅州の人なり端宗甲
戌に生れ成宗丁酉文科に中り官大司成に至る兄
壽崑と俱に才名あり子玉亨孫應斗皆當時に名あ
り

○ 花山遺稿

一册 權柱著 印本

圖書番號 四二七五、五六三二

權柱の詩文集にして玄孫槩の蒐輯に係る詩序書
雜著遺墨附録等あり正宗二十二年戊午後孫等之

四八三

を刊行す

權柱字は支卿、花山と號す、安東の人、縣令暹の子なり、世祖丁丑に生れ、成宗甲午進士に中り、庚子文科に登り、都承旨となり、燕山君甲子の士禍に罪を以て、平海郡守に左遷せられ、翌年死を賜ふ、直節清名を以て一世に推重せらる

○ 四雨亭集

二卷二冊 李湜著 寫本

圖書番號 六三二

李湜の詩集にして、燕山君六年其の子道安副正李轍之を哀輯刊行す

李湜字は浪翁、四雨亭と號す、世宗の孫なり、世祖戊寅に生れ、富林君に封せらる、王孫の貴を以て天性淡泊、惟た文字を喜ふ、尤も詩詞に工にして、往往警句絶唱あり、年三十にして歿す

○ 山堂集

五卷二冊 崔忠成著 印本

圖書番號 四〇四〇

崔忠成の詩文集にして、後孫鍾翼之を編輯す、收むる所、雜著、書序、記、墓誌、疏、傳、附錄等なり、李太王丙寅後孫秉潤之を刊行す

崔忠成字は弼卿、山堂と號す、全州の人、烟村德之の孫なり、世祖戊寅に生れ、成宗辛亥に歿す、寒暄堂金宏弼の門に入り、學に淵源あり、と雖、年僅に三十に過ぎず、處士を以て終れり

○ 鄭文翼公遺稿

一冊 鄭光弼著 印本

圖書番號 五四〇一、六六五二、六九〇八、六九〇九

鄭光弼の詩二十三首、墓碣銘二首、世系、神道碑銘の實錄、野乘中に散出したる事蹟等を以て成れり、肅宗二十八年子孫等の哀集、開刊せしものなり、曾孫昌衍の上疏一首を附載す

鄭光弼字は士助、守夫と號す、東萊の人にして、東萊君蘭宗の子なり、世祖壬午に生れ、成宗壬子の文科出身たり、官領議政に至る、諡して文翼と云ふ、中宗廟庭に配享す

○ 一一樂亭集

一五卷三冊 申用溉著 印本

圖書番號 四〇三五、四〇三六

申用溉の詩文集にして、其の原板ありしも、兵亂に遭ひて散失し、肅宗の時に至り、六代の孫醒齋翼相全羅監司たる時之を重刊す、詩、賦、箴、贊、記、序、跋、論議

狀祭文、行狀、墓記、碑銘、墓碣、附録等あり

申用、概字は概之、二樂亭又松溪と號す、高靈の人、保
閒齋申叔舟の孫なり、世祖癸未に生れ、成宗戊申の
文科出身たり、成宗龍山に讀書堂、湖堂を創設し、文
學の士を精選し、以て修養の所と爲すや、用、概首と
して、其の選に入る、一時之を榮とす、中宗の時、文衡
を典り、士林の領袖たり、遂に相國を拜し、能く姦黨
を斥退す、中宗己卯に歿し、文景と諡せらる

○ 濯纓集

六卷二冊 金駟孫著 印本

圖書番號 四〇三三、七一一

金駟孫の詩文集にして、顯宗の時、摺紳學者相議し
て、刊行せるものなり、載する所、賦、雜著等にして、拾
遺一卷は詩、一卷は世系及祭文等なり

金駟孫字は季雲、濯纓と號す、金海の人なり、世祖甲
申に生れ、成宗丙午文科に中り、官銓郎に至る、燕山
君戊午の史禍起るや、佔畢齋金宗直の弟子として、
其の義帝を吊ふ文に、賛し、以て忠憤を寓す云々の
語あり之か爲に、亂逆の罪に問はれ、極刑に處せら

集部

る中宗の初め承旨を贈らる

○ 訥齋遺稿

二卷二冊 朴增榮著 印本

圖書番號 四五二〇

朴增榮の詩文集にして、後孫廷龍の蒐集、刊行し、憲
宗八年壬寅、後孫永文之を續刊す、收むる所、詞賦、操
詩、疏、應製文、表祭文、書、墓碣、禮辭及附録等にして、附
録に訥齋、江叟の二稿及年譜を載す
朴增榮字は希仁、訥齋と號す、密陽の人、存誠齋楮の
子なり、世祖甲申に生れ、成宗丁酉進士に中り、癸卯
文科に登り、丙午重試し、湖堂に入り、壬子に歿す、年
僅に二十九なり、文行を以て一世の盛名を負ふ、明
使董越其の詩文を賞揚し、成宗硯を與へて、其の才
を推奨す

○ 睡軒詩集

三卷二冊 權五福著 印本

圖書番號 一三八四

權五福の詩稿にして、從孫文海、燕山君禍後に之を
拾集す、附録として、文十餘篇及、柳子光傳、竝に、柳西
厓の戊午史禍事蹟、戊午黨籍等を載せり

權五福字は嚮之、睡軒と號す安東の人なり世祖十二年丁亥に生れ成宗十七年丙午司馬試に中り尋て登科し翰苑を歴て弘文館に入り燕山君二年丙辰校理に至り便養を乞ひ出て野城に宰たること三年戊午の禍起るや佔畢齋金宗直の門下たるの故を以て鞠庭に拿致せられ金駟孫權景裕と共に拷殺せらるる時に年三十二中宗の時承旨を贈らる學行高潔交遊する所は皆當世の清流にして特に金駟孫と最も莫逆の交あり俱に極禍に罹りて終る行義一世に推重せらるるのみならず文章亦著名なり

○ 聾巖集

五卷二冊 李賢輔著 印本

圖書番號 一六八五、四〇二、五一六八、六二九七

李賢輔の詩文集にして顯宗六年外孫金啓光之を開刊す詩、書、錄、記、跋、序、酒禮、祭禮並に圖式歌等あり附録として行狀、碑銘、祭文及詩等を收む

李賢輔字は棐仲、聾巖と號す永川の人なり世祖丁亥に生る燕山君戊午の文科出身にして官知中樞事に至り諡して孝節と云ふ嘗て正言たる時事を

論し燕山君の怒に觸れ獄に投せらるるに際し彼れ鐵面而髯者と録せられたるより時人號して燒耐陶瓶と爲す蓋し外暗にして内烈なるを云ふなり晩に郷里に退きて親を養ひ農を勗む士大夫其の行を高しとせざるなし明宗乙卯に歿す

○ 慵齋遺稿

一冊 李宗準著 印本

圖書番號 四二八二

李宗準の遺稿にして後孫昌郁及權思浹、李野淳等の蒐輯したるものなり詩、疏、雜著、附録等を收め附するに李弘準の詩文集、訥齋遺稿を以てす純祖甲申之を刊行す李宗準字は仲鈞、慵齋と號す慶州の人琴湖時敏の子なり成宗丁酉進士に中り乙巳文科に登りて湖堂に選せられ官檢詳に止り燕山君戊午史禍に死し肅宗己巳副提學を贈らる佔畢齋金宗直の門下にして詩、文、書、畫を以て名なり

李弘準は訥齋と號す宗準の弟にして進士たり

○ 忘軒集

一冊 李胃著 寫本

圖書番號 六九一〇

李胃の詩集にして宣祖四年辛未其の姪孫楸之を

登梓す

李胄字は胄之、忘軒と號す固城の人にして左相原の曾孫なり世祖の戊子に生る蚤歳より才名あり又詩を能くす成宗戊申の文科出身にして官正言に至る燕山君戊午史禍起るや絶島に杖流せられ甲子に殺さる

○李評事集

三卷一冊 李穆著 印本

圖書番號

四七四八、五七五一、五七五二、七〇六四

李穆の遺稿にして仁祖の時曾孫久澄之を刊行せり收むる所賦詩策、記、解、祭文等なり附録に金駟孫の舊遊賦序、南衮の柳子光傳、戊午史禍事蹟、戊午黨籍等を收む

李穆字は仲雍、寒齋と號す完山の人なり少にして佔畢齋、金宗直に學ひ成宗の時生員の試に魁たり性硬直峻、烈時流の推す所となる曾て大學に遊ひし時成宗病み大妃巫をして禱らしむ穆諸生を率ゐ杖して之を逐ふ尹弼商相臣たる時天會ま大に早す穆上疏して曰く弼商を烹れば乃ち雨降らんと燕山君乙卯に登科し北評事に至る戊午の史禍

集部

起るや金宗直に黨するの故を以て斬らる中宗の初特に吏曹判書を贈られ貞簡と諡す

○松齋集

五卷三冊 李堦著 印本

圖書番號

六五三〇

李堦の詩文集にして從子李滉之を蒐輯す原集二卷拾遺一卷は詩疏、年譜、墓銘等を收め續集二卷は詩序、記、附録等を載す原集は宣祖十七年甲申外曾孫吳滉忠州牧使たりし時刊行し續集は李太王庚子從後孫中麟刊行す

李堦字は明仲、松齋と號す眞寶の人府使禎の孫なり睿宗己丑に生れ成宗壬子生員に中り燕山君戊午文科に登り檢閲を歴て官戸曹參判に至り中宗丁丑に歿す學問淵博なり

○灌圃詩集

一冊 魚得江著 印本

圖書番號

一六八六、四〇六三

魚得江の詩集なり明宗十三年戊午慶尙監司吳謙之を編次す退溪の跋を附す
魚得江字は子游、灌圃又混沌山人と號す咸從の人なり明宗丙辰の文科出身にして官大司諫に至る

四八七

後冠を掛けて郷に還り屢徴するも起たす特に嘉善を加へらる詩文を善くし尤も詩律に長す明宗庚戌に歿す

○三可集

一冊 朴遂良著 印本

圖書番號

五〇四二、二二三〇

朴遂良の遺稿にして後孫時赫か詩、簡牘、雜著、附録及遺筆等を收拾刊行し従叔朴公達の四休堂遺稿及従子朴億秋の聾軒事蹟を附す

朴遂良字は君舉、三可亭と號す江陵の人なり成宗庚寅に生れ中宗の時孝行を以て閭に旌せられ遺逸を以て縣監を拜す己卯の士禍起り官を罷めて歸郷し詩酒自ら樂む時に其の従叔四休堂公達亦俱に嘉遯し唱和多し明宗辛亥餘年を終る其の従子億秋字は德叟、聾軒と號す郡守となり時望あり

○安分堂詩集

二卷一冊 李希輔著 寫本

圖書番號 五二二二

李希輔の詩集にして古詩、賦、歌、律、絶等を收む

李希輔字は伯益、安分堂と號す平壤の人にして成

宗癸巳に生れ燕山君辛酉の文科出身たり選はれて湖堂に入り官大司成に至る明宗戊申に歿す

○十清集

四卷二冊 金世弼著 印本

圖書番號 五二二九

金世弼の遺稿にして明宗の士禍に際し文書を搜集沒收せし時此の遺稿亦其の中に在り殘す所僅に二卷に過ぎず英祖の時後孫光岳宗族と相議し之を刊行す詩、序、說、墓碣、墓表、行狀、附録等あり

金世弼字は公碩、十清軒又知非翁と號す慶州の人なり成宗癸巳に生る燕山君丙辰の文科出身にして中宗の初選はれて湖堂に入り官吏曹叅判に至り諡して文簡と云ふ嘗て經幄に侍し周易に精しと稱せらる己卯の士禍に當り靜庵趙光祖を匡救したるを以て遠竄せられ中宗癸巳に歿す

○訥齋集

一六卷六冊 朴祥著 印本

圖書番號

一六三一、二八五一、二八五二、二九五四、三九

八五、四二〇三、五〇〇一

朴祥の詩文集にして明宗二年丁未弟祐の編輯刊行したるものなり肅宗甲子金壽恒續集附集を編

刊し正祖乙卯全羅觀察使に命して重刊せしか憲宗辛丑焼失し癸卯改刊す原集七卷は詩にして續集四卷は詩序記跋祭文なり別集一卷は賦詩文にして附録二卷あり又附集二卷は兄禎弟祐子敏中從子概の詩を録せり

朴祥字は昌世、訥齋と號す忠州の人なり成宗甲午に生れ燕山君丙辰司馬辛酉文科に第し嘗て潭陽府に在り冲庵金淨と俱に上疏して愼妃を復せんことを請ひ因て竄逐せられ中宗庚寅に歿す後學行を以て特に吏曹判書を贈られ諡を文簡と云ふ

○ 憂亭集

六卷五冊 金克成著 印本

圖書番號 一六八九

金克成の詩文集にして雜著及附録あり雜著には四書疑殿策謝箋、日本書契墓碣後識等、附録には教書、行狀の後識、祭文等を收む卷末に系譜を載す
金克成字は成之、蘿軒又憂亭と號す光州の人なり成宗甲午に生れ燕山君戊午の文科出身にして文武兼備を以て稱せらる中宗の靖難に因り靖國功を策せられ光城府院君に封せらる官右議政に至

集部

り中宗庚子に歿す諡を忠貞と云ふ

○ 容齋集

一一卷七冊 李荇著 印本

圖書番號 一七〇三、三六五〇、七九〇六

李持の遺稿にして仁祖十二年其の孫眉江景曾か清州牧使たる時開刊したるものなり收むる所各體の詩大部分を占め僅に數文あり外集一卷は全部賦のみにして卷首に行狀を載せり

李荇字は擇之、容齋と號し別に滄澤漁叟、青鶴道人の號あり成宗戊戌に生れ燕山君乙卯年十八にして登科す直情徑行を以て屢竄謫に遭ふ中宗反正の後召還せられて經幄に在り相府に入りて直節嘉謨甚た多し始め金安老と相善かりしか後其の奸を知り鄭光弼等と其の惡を發く安老局に當るに及び咸從縣に貶せられ病を得て謫所に歿す中宗甲午の年なり官大提學左議政に至り諡して文獻と云ふ

○ 慕齋集

一五卷七冊 金安國著 印本

圖書番號 一七〇六、三一九八、四三八一

金安國の詩文集にして宣祖の時眉庵柳希春、玉溪

四八九

盧禎、黃岡金繼輝、榮川許忠吉、義城盧從元等相謀りて之を開刊し、後肅宗十三年相國金構龍岡縣に宰たる時之を重刊せり。辭、賦、詩、表、箋、奏、教、事、論、書、傳、旨、書、疏、狀、書、契、策、題、記、序、題、跋、箴、銘、頌、祝、祭、文、神、道、碑、墓、碣、墓、表、墓、誌、及、附、錄、等、を、收、む。

金安國字は國卿、慕齋と號す。義城の人。成宗戊戌に生れ、燕山君癸亥の文科出身たり。官大提學、左贊成に至り、中宗癸卯に歿す。文敬と諡し、仁宗廟庭に配享せらる。弟思齋と共に業を寒暄堂金宏弼に受け、兄弟並に儒林の宗匠たり。

○ 冲齋集

九卷五冊 權撥著 印本

圖書番號 五四一四、五七二六

玄孫深の蒐輯したるものにして、顯宗辛亥の刊行に係り、後肅宗乙酉五代の孫斗經之を重刊す。詩、啓、辭、書、祭、文、墓、碣、墓、表、對、策、雜、著、日、記、朝、天、錄、遺、墨、附、錄、等、を、收、め、卷、首、に、世、系、圖、及、年、譜、を、載、す。

權撥字は仲虛、冲齋と號す。安東の人なり。成宗戊戌に生れ、中宗丁卯の文科出身たり。官參判に至り、北門の禍作るに及ひ罷めて歸り、明宗乙巳左贊成を

以て柳灌を力救し、朔州に謫せられ、遂に歿す。宣祖の初特に左相を贈られ、忠定と諡す。

○ 冲齋逸稿

一冊 權撥著 印本

圖書番號 一六八八

權撥の詩文集なり。遘禍の時文稿多く散佚し、僅に詩、啓、辭、祭、文、策、等、若、干、篇、を、存、す。顯宗十二年、宗孫霖同堂諸族及金秋吉、南亨會等と共に哀集編刊す。

○ 挹翠軒遺稿

四卷二冊 朴闇著 印本

圖書番號 三七〇〇、四〇七九、五〇八三、五〇八七、五〇

八八、五〇八九、五〇九〇、五二二七、五二二八、五八五九、六

二八〇

朴闇の遺稿にして、李持之を収録刊行せしも、後刻板損滅し、吳竣、趙錫胤等相議して之を重刊し、統制使鄭弘佐、判書俞得一等更に之を改刊せり。收むる所詩、記、祭、文、行、狀、等、に、し、て、附、錄、あ、り、正、祖、十、九、年、乙卯更に慶尙道監司に命し刊行せしむ。

朴闇字は仲悅、挹翠軒と號す。高靈の人なり。成宗己亥に生れ、燕山君丙辰の文科出身たり。風神異常にして、當時の文壇に馳騁す。經筵に在るや、事に遇ふ

て言はさるなく直聲宮廷に振ふ燕山君之を憚り
甲子の史禍起るや東萊に竄し尋て擊殺を加ふ刑
に臨み顔色を變せざりしと云ふ時に年僅に二十
六中宗の初都承旨を贈る

○ 逍遙堂逸稿

五卷二冊 朴河淡著 印本

圖書番號 七〇三八

朴河淡の詩文集にして後孫時默廷瑛等の蒐輯し
たるものなり賦、詞、詩、書、序、記、跋、箴、銘、贊、上、檄、文、祭、文、
碑、銘、附、錄、等、あり憲宗四年戊戌之を刊行す

朴河淡字は應千、逍遙堂と號す密陽の人忠順公承
元の子なり成宗己亥に生れ中宗丙子生員に中り
己卯賢良に薦せられて赴かず明宗庚申に歿す

○ 陰崖集

四卷二冊 李籽著 印本

圖書番號 七二五八

陰崖李籽の詩文集にして後孫道興及族孫彝章の
蒐輯編次する所なり首尾に年譜と狀誌を附す英
祖三十年甲戌の刊行に係る載する所詩賦、策、疏、書
記、跋、箴、上、檄、文、碑、文、雜、著、附、錄、等、なり

集 部

李籽字は次野、號は陰崖、韓山の人大司諫禮堅の子
なり成宗庚子に生れ燕山君辛酉司馬に中り甲子
文科に登り官刑曹判書に至り中宗癸巳に歿す諡
を文懿と云ふ中宗癸巳廢錮を以て終る

○ 靜庵集

一五卷五冊 趙光祖著 印本

圖書番號 三二二八、三二二九

趙光祖の詩文集にして原集五卷附錄六卷續集四
卷なり舊本嶺板、完板共に刳缺甚しきに至り李太
王二十九年綾州の儒林等相議して重刊せり載す
る所賦、詩、對、策、疏、啓、辭、書、箴、誌、辭、經、筵、陳、啓、拾、遺、等、二
百餘編附錄は遺墨、事實、語類及傳旨、教文、伸冤、褒贈
從祀、疏、啓、祭文、祝文、世系、年譜、碑狀等なり

趙光祖字は孝直、靜庵と號す漢陽の人なり成宗壬
寅に生る年十七八にして父元綱の魚川の任所に
隨往し適ま寒暄堂金宏弼の熙川に謫居せるを以
て往いて之に學ひ經術行誼一時の冠冕たり中宗
の時遺逸に擧げられ文科に登り幾もなくして官
大司憲に至りしか竟に群奸の爲に誣構せられ己
卯十月北門の禍に遇ひ領相鄭光弼泣諫力救し幸

四九一

に死を減せられ綾州に謫せられしも光弼亦逐はるるや遂に死を賜はる後特に上相を贈られ諡を文正と云ひ文廟に従祀せらる

○ 企齋集

二四卷一〇冊 申光漢著 印本

圖書番號 四七八六

申光漢の遺稿なり賦及詩を十二卷に收め附録二卷は文集にして三卷は辨記、志、說、論、序、筭狀、碑、誌、祭文、雜著、表、箋、銘、歌謠等を載し別集七卷は詩を收む申光漢字は漢之、企齋又駱峰、石仙齋と號す高靈の人なり成宗甲辰に生る中宗庚午の文科出身にして文衡を典り官左贊成に至り明宗乙卯に歿す諡を文簡と云ふ文章を能くす

○ 思齋集

四卷二冊 金正國著 印本

圖書番號 一四〇三、一四〇四、一六七五、三七〇一

金正國の詩文集にして宣祖の時孫堯立の永柔縣に宰たる時平安道伯尹斗壽助力して之を刊行し縣令尹孝先其の誤を正せり載する所詩、跋、序、記、書、論、書、疏、親、祭文、青、詞、祭文、辨、說、約、條、雜著、箋、題、論、墓、碑、

墓碣、墓誌、贊、箴、銘、撫、言、答、書、己卯黨籍等なり

○ 冲庵集

七卷七冊 金淨著 印本

圖書番號 四九三五、六七〇八、七三三〇、一一六一六

金淨の詩文集にして明宗の時其の從姪天宇牧使許伯琦と力を併せて刊行し後仁祖の時曾孫聲發錦山郡守たる時重刊せり收むる所詩、祭文、墓碣、銘、跋、序、辨、書、教、書、風、土、錄、疏、亂、藁、書、札、附、錄、年、譜、等、なり金淨字は元冲、冲庵と號す慶州の人なり成宗丙午に生る十歳にして四書に通し弱冠文科に魁たり時に中宗初年なり中宗愼妃を廢し章敬后を立つ章敬后逝去の後冲菴上疏して愼妃を復せんと請ひ罪を獲て報恩縣に配流せらる己卯の獄起るに及ひ將に構殺せられんとし領相鄭光弼の爲に救はれ濟州島に杖配せられしか翌年竟に死を賜ふ官刑曹判書に至り宣祖の初諡して文簡と云ふ

○ 自庵集

二卷一冊 金絳著 印本

圖書番號 四五七一、四五七二

金絳の詩文集にして孝宗十年外玄孫安應昌義城に宰たる時刊行せしものなり收むる所詩、賦、表、頌、

策、疏、記、書牘、歌曲、附録等なり

○ 學圃遺集 五卷二冊 梁彭孫著 印本

圖書番號 五二八一、五二八二

梁彭孫の詩文集にして、憲宗の時後孫纘永之を輯刊す所詩賦辭、贊、銘、碣、文雜著疏等を二卷に收め餘は皆附録なり

梁彭孫字は大春、學圃と號す濟州の人なり成宗戊申に生れ中宗丙子の文科出身にして己卯の士禍に趙靜庵を救ひて黜けられ末路爲に振はず校理に終る後特に吏曹判書を贈られ諡を惠康と云ふ

○ 花潭集 一冊 徐敬德著 印本

圖書番號 一六八七、二九一九

徐敬德の遺稿にして原理氣、理氣說、大虛說、鬼神生死論、復其見天地之心、温泉辨、聲音解、跋前聲音解未盡處、皇極經世數解、六十四卦方圓之圖解、卦變解及擬疏、序、書、字詞、銘、詩等若干篇を收む附録に碑銘遺事等あり

徐敬德字は可久、花潭又復齋と號す唐城の人なり成宗己酉に生る世世開城に居り中宗の時嘗て母

集部

命を以て司馬試に赴き後復た科擧に應せず心を道義に潜め窮理の學を修む中宗の時參奉に擬せられたるも起たす明宗丙午遺逸を以て終る遊門の弟子頗る多し宣祖の時特に右相を贈られ文康と諡す

○ 湖陰雜稿 八卷八冊 鄭士龍著 印本

圖書番號 四六七二

鄭士龍の詩文集にして第一卷より第六卷までは詩、第七卷は墓碣銘、第八卷は劄記、表箋等なり

鄭士龍字は雲卿、湖陰と號す東萊の人府使光輔の子なり成宗辛亥に生れ中宗己巳文科に登り丙子重試に登り湖堂に選ばれ文衡を典り宣祖辛未に歿す官領經筵に至る文章豪邁、風流跌宕、名塗に穩歩し大耄を躋享して太平宰相の稱あり

○ 晦齋集 一四卷五冊 李彥迪著 印本

圖書番號 一六四一、三〇九四、四四六〇、四八九〇、七八

一六

李彥迪の遺稿にして其の孫浚の編刊せしものなり第一卷より第四卷は詩、第五卷は賦、雜著、書、序論、

四九三

第六卷は箴銘記、祭文、行狀、碣銘、第七卷及第八卷は疏（一絶十日疏）第九卷以下は箴、狀、劄、大學章句補遺序、

中庸九經衍義序、求仁錄序、奉先雜儀序等を收め、附

録には世系圖、年譜、行狀李滉撰、神道碑銘奇大撰、墓誌李恒撰、

玉山書院記法燁撰、江界府祠廟記朴承任撰等を載せり

仁祖七年玉山書院に於て重刊す

○ 聽松集

一冊 成守琛著 印本

圖書番號

三五七四、五一六四、五二五二、五八〇九、六九

一八

成守琛の遺稿にして收むる所但た詩詞數篇のみ

附録には其の弟守琮の節孝先生稿を載す

成守琛字は仲玉、聽松と號す、昌寧の人にして思肅

公世純の子なり、成宗癸丑に生る業を趙靜庵に受

け、學行大に進み、中宗の時遺逸を以て薦められ、屢

縣官に除せられしも、就かず、明宗甲子に歿す、専ら

力を實學に用ひ、著作を喜はず、故に遺集は詩詞數

篇に過ぎず、而も皆是れ有道者の言なり、又書を以

て世に名あり

成守琮字は叔玉、中宗己卯の文科出身にして士禍

に遭ひ、削科の後意を世に絶ち、兄と共に孝養に勵め、誠を盡し、學を講して倦まず、慕齋、金安國、其の墓面に題し、節孝先生と云ふ

○ 立巖集

六卷三冊 閔齊仁著 印本

圖書番號

四五七九、五八四九

閔齊仁の詩文集にして、光海君二年孫汝任の興海郡守たりし時、刊行せしものなり、詩、賦、辭、銘、雜文等を收む

閔齊仁字は希仲、立巖と號す、驪興の人なり、成宗癸丑に生る、中宗庚辰の文科出身にして、官左贊成に至る、嘗て乙巳の僞勳に參し、後に削らる

○ 龍巖集

四卷二冊 朴雲著 印本

圖書番號

四七三三

朴雲の詩文集にして、正祖三年後孫之を收拾し、鄭幹之を編刊す、載する所、詩、賦、書、雜著、序、祭文、墓表、行狀、擊蒙篇、紫陽心學至論等なり

朴雲字は澤之、龍巖と號す、密陽の人なり、成宗癸丑に生る、少にして、松堂朴英に學ひ、晩に李退溪の門に遊ひ、學問益進む、中宗の時進士に中り、明宗壬戌

師に先ちて歿す

○ 聾齋逸稿

二卷一冊 李彦适著 印本

圖書番號 一六〇五

李彦适の遺稿にして十一代の傍孫能變同族と謀りて刊行したるものなり僅に詩文若干篇を載す
李彦适字は子容、聾齋と號す驪州の人、晦齋彦迪の弟なり成宗甲寅に生れ中宗辛丑蔭仕を以て參奉を拜し官察訪に止まり明宗癸丑に歿す正祖甲辰持平を贈らる

○ 獨菴遺稿

一冊 趙宗敬著 印本

圖書番號 六二九、六三三、六九七八

趙宗敬の遺稿にして宣祖二十年丁亥其の子廷樞、溫陽郡守たりし時始めて印出し仁祖二十一年重刊せしか歲月を経て刊本傳はらず英祖三十六年後孫曦慶尙道に觀察たる時舊本を探り猶ほ墓文及遺蹟の家に藏せしものを附し以て三たひ録梓す收むる所詩數百首なり

趙宗敬字は孝伯、獨菴と號す豐壤の人なり燕山君

集部

元年乙卯に生れ中宗十一年丙子司馬に就き其の十五年庚辰別試に登科し弘文館に入り清官を歴て其の名愈顯はれ世の推許する所となりしか二十五年金安老の事を論して彈劾せられ致仕して果川の青溪山下に居り田夫村翁と遊ひ三十年乙未病みて其の地に歿す享年四十一

○ 潜庵逸稿

五卷二冊 金義貞著 印本

圖書番號 三六二四、一三三三

金義貞の遺稿にして賦、詩、辭書、雜著、祭文、頌、策、附錄等を收め純祖三十三年癸巳後孫等之を刊行す
金義貞字は公直、潜菴と號す豐山の人、虛白堂楊震の子なり燕山君乙卯に生れ中宗丙子進士に中り丙戌文科に登り官修撰に止まり明宗丁未に歿す
哲宗に至り吏曹判書を贈り李太王甲子文靖と追諡す文學行義を以て河西金麟厚と名を齊うす

○ 武陵雜稿

一六卷九冊 周世鵬著 印本

圖書番號 四四九五、四四九六、五〇七五

周世鵬の詩文集にして原集別集あり宣祖の時其

四九五

の子博之を編次登梓せしか兵火に失せしを以て
哲宗の時に至り後孫秉恒族人相炫と力を協せて
更に收輯刊行せり收むる所賦、辭、詩、封事、書、雜著、序、
記、跋、祝祭文、墓誌、碣、拾遺、附録等なり

○石川集

五卷五冊 林億齡著 寫本

圖書番號 三七四六、四五五一

林億齡の詩文集にして載する所律詩、絶句、古詩歌、
碑銘、賦、排律、記等なり

林億齡字は大樹、石川と號す善山の人なり燕山君
丙辰に生る中宗乙酉の文科出身にして官監司に
至る文章行誼俱に世に稱せらる

○大谷集

三卷一冊 成運著 印本

圖書番號 五二四六、一一五九五

成運の遺稿にして宣祖三十六年門人金可幾之を
收輯し可幾の子徳民、柳根等と謀り之を刊行す載
する所詞、賦、説、記、書、遺事、疏、墓碣、祭文、文疏、銘等なり
成運字は健叔、大谷と號す昌寧の人なり明宗乙巳
兄遇の士禍に冤死せるより以後意を世途に絶ち

門を杜ちて道を求め造詣精深屢徴せられたるも
起たず官司瞻正に至り宣祖己巳に歿す承旨を追
贈せらる

○龍門集

六卷三冊 趙昱著 印本

圖書番號 四七〇五

趙昱の遺稿にして正祖三年其の後孫時簡の刊行
したるものなり載する所賦、詩、辭、書、雜著、年譜等に
して附録あり

趙昱字は景陽、愚菴又葆真庵と號す平壤の人なり
燕山君戊午に生る早歲趙靜庵に師事し中宗己卯
靜庵禍を被るや遂に意を科擧に絶ち其の兄養心
堂晟と龍門山中に隠れ道義を講修し從學する者
日に多し遺逸を以て屢官を授けられ長水縣監に
至る明宗丁巳に歿し後吏曹參議を贈らる

○圭菴集

四卷二冊 宋麟壽著 印本

圖書番號 六九一九

本書は宋麟壽の詩文集なり嘗て兵火を経て散佚

したるも三百年の後十三代の孫台憲士友の家に
就き舊稿を理し詩疏、書、墓誌、墓表若干篇を收拾し
て之を編輯し附録、年譜等を合せ李太王丁未の年
刊行せり

宋麟壽字は省叟、圭庵と號す恩津の人にして逍遙
堂順年の後なり燕山君己未に生れ中宗壬午文科
に登り翰苑に入り湖堂に選ばれ官吏曹叅判に至
る明宗丁未奸小輩の構誣を被り禍死し宣祖の初
伸冤して官を加へ文忠と諡す學行忠節を以て著
る

○一齋集

一冊 李恒著 印本

圖書番號 五〇九九、二五八一

李恒の詩書雜著若干篇を收む玄孫星益の編する
所なり顯宗十四年癸丑に刊行し碣銘、遺事、祭文、輓
詞を附録とす

李恒字は恒之、一齋と號す驪州の人なり少にして
弓馬を事とす年三十にして節を折り書を讀み深
く經術に通す明宗の初經明行修の士を擧ぐるや
恒其の首たり經幄に入り郡守を超授せられ後掌

集部

樂正に至る

○葛川集

四卷二冊 林薰著 印本

圖書番號 五二七七

林薰の詩文集にして顯宗の時曾孫之を刊行せり
收むる所詩賦、疏銘、狀、記、雜著等にして一卷を附録
とす

林薰字は仲成、自怡堂又枯查翁と號す平澤の人な
り世稱して葛川先生と云ふ燕山君庚申に生れ明
宗及宣祖の時遺逸を以て屢徵召せらる進言して
修身正心を勧め且李滉を去る勿れと請ふ官判決
事に至り宣祖甲申に歿す

○孝廉齋集

三卷一冊 李擎柱著 印本

圖書番號 二九九四

李擎柱の文集にして第一卷は年譜第二卷は詩、賦、
箴、銘、贊、說第三卷は附録なり

李擎柱字は石楚、孝廉齋は其の號なり慶州の人に
して燕山君庚申に生れ延豐縣監に歷任し宣祖丁
酉に歿せり燕山君の時避けて嶺南山陰縣に寓居
し經學を以て屢道剡に登る暫く一縣に赴きしか

四九七

棄歸して終老す年九十八

○北厓詩稿

一冊 李增著 印本

圖書番號 八四、九七三七

李增の詩文は盡く兵火に失ひ僅に其の子慶深の誦得せし詩八首あり金玄成之を書し孝宗十年孫禮曾孫廷夔又詩二十九首を得李景奭之を書し以て登梓す附録に碑銘、祭文、誌文及司馬榜目文科榜等を載す

李增字は可謙、北厓と號す韓山の人なり燕山君辛酉に生れ明宗庚申の文科出身なり官參贊に至る宣祖庚寅平難の功を録せられ鵝川君に封せらる其の庚子に歿し諡を懿簡と云ふ

○退溪集

六八卷三一冊 李滉著 印本

圖書番號 一六七七、一七三五、三五七〇、三五九三、三

六〇一

原集四十九卷別集一卷外集一卷續集八卷年譜三卷言行錄六卷より成る收むる所詩、教、疏、劄、經筵講義、啓儀、辭狀、啓、辭、書契、修答書、襍著、序、記、跋、箴、銘、表、箋、上、檄、文、祝、文、祭、文、墓、碣、誌、銘、行、狀、等、に、し、て、宣、祖、三、十

一年己亥陶山書院に於て開刊す

○長吟亭遺稿

一冊 羅滉著 印本

圖書番號 七二六三

羅滉の遺稿にして士禍の餘草稿の存するものな
く祇た詩、賦數十篇あり肅宗四年に至り五世の傍孫良佐收拾刊行せり
羅滉字は正源、長吟と號す羅州の人なり早歲趙靜庵の門に遊ひ性理の學を窮め時人大儒と稱す遺逸を以て薦められ參奉を授けらる明宗乙巳弟副提學淑と俱に慘禍を破りて死す

○溪堂遺稿

一冊 崔興霖著 印本

圖書番號 五二八三

崔興霖の草稿は多く逸して傳らず純祖の時に至り後孫學洙家藏の文字及諸家の文集中に散見する詩、銘、祭文、遺事若干篇を蒐輯し之を刊行す附録あり

崔興霖字は賢佐、溪堂と號す中宗丙寅に生る夙に時事の憂ふへきを見て報恩郡金積山に隱遯し竟に仕へず嘗て大谷成運の門に遊ひ東洲成悌元、南

溟曹植と交遊し宣祖辛酉に歿す

○河西集 三二卷一〇冊 金麟厚著 印本

圖書番號 一〇二一、二八五四、三五二二 四二五八、四

六八一、六九九二、七七二九

金麟厚の詩文集にして賦、古詩、律詩、絕句、筭、雜著、家禮、考誤書、序、箋、記、啓、跋、文、贊、銘、墓誌、頌等を載せ別集に賦、詞、古詩、律、挽、墓銘等を收む正祖二十年丙辰金麟厚の文廟に従享したる後士林遺稿を哀輯し戊午之を刊行す

○龜岩集 六卷三冊 李楨著 印本

圖書番號 四四六九

李楨の詩文集にして原集二卷は仁祖庚辰士林之を刊行し續集二卷は英祖戊辰田禹基等之を刊行し別集二卷は李太王壬寅後孫泰煥等之を刊出す原集二卷には詩、記、啓、辭、疏、筭、箋、祭文、贊、附録等續集二卷には詩、賦、書、記、箋、雜著、祭文、墓碣、跋、附録等別集二卷には詩、書、跋、附録等を載せり

○寓菴遺集 七卷一冊 金澗著 印本

圖書番號 六五一六

集部

金澗の詩文集にして六代の孫棟の蒐集に係る詩序、記、銘、墓誌、銘、論、策、教書、表等を收め遺事、諡狀等を附す英祖五年己酉の刊行に係る

金澗字は應霖、寓菴と號す安東の人安原君公亮の子なり中宗壬申に生れ辛卯進士に中り己亥の別試に文科壯元に登り湖堂に選せられ官禮曹參判に止まる明宗癸亥に瞻系辨誣の事を以て明に使し命を辱しめす病みて燕京の館舎に歿す宣祖庚寅光國勳に策せられ花山君に封せらる文章言議を以て退溪李滉、河西金麟厚、錦湖林亨秀と友とし善し

○守菴遺稿 二卷一冊 朴枝華著 印本

圖書番號 六七〇九

本書は英祖甲子金構か龍岡に守たる時守庵朴枝華の遺集の胎本を得て之を愛玩し遂に上梓せしものなり詩、墓碣、墓表、行狀、書牘、附録等を收む其の詩は格調清高にして雅醇誦すべきものあり西河李敏叙序を并し其の他の追悼詞を附す朴枝華字は君實、守菴と號す旌善の人なり中宗癸

四九九

西に生る家世世寒微なり嘗て吏文學官を拜したるも就かず花潭徐敬徳に従ひて學ひ専ら禮律を窮め詞藝群を抜き明宗宣祖の時其の名一世に高く諸老の敬する所たり年八十にして壬辰の役に値ひ避けて楊根に在りしか一日水濱に至り木を斫りて杜詩白鷗元水宿何事有餘哀の二句を書し水に投して死す好事者以て水仙と稱す

○眉巖集

六卷三冊 柳希春著 寫本

圖書番號 五四〇六

柳希春の詩文及雜著を集めたるものなり諸家の祭文、輓詞、行誼狀、請額、疏等の文字を附録とす李太王丙寅後孫廷植の刊出する所なり

○錦湖遺稿

二卷一冊 林亨秀著 印本

圖書番號 二八六六、四〇六四、六一四六

朴亨秀の遺稿にして肅宗七年外玄孫柳應壽の收輯に係り金壽恒之を編次し李敏叙之を登梓す載する所絶句律詩、古詩、排律、歌冊文、詩、雜著等にして附録あり又附するに從子林檜の觀海遺稿を以てす

林亨秀字は士遂錦湖と號す中宗甲戌に生れ乙未の文科出身にして才文武を兼ねたりと稱せらる明宗の初黜せられて濟州に牧たりしか罷歸の後丁未の士禍に死す從子檜字は公直觀海と號す光海君の時文科に出身し仁祖甲子李适の難に廣州の牧使たりしか賊の爲に執へられ屈せずして死す

○林塘遺稿

二卷一冊 鄭惟吉著 印本

圖書番號 四〇三八、四〇六六、五〇八二、五三七七

鄭惟吉の遺稿にして其の詩文は兵火の爲に大抵亡失せし外孫仙源金尙容、清陰金尙憲等の誦記せしもの及家中存餘のものを合して二卷と爲し仁祖の時曾孫太和忠清道伯たりし時之を刊行す應制錄、酬唱錄、題咏錄、東槎錄、實接錄、傷悼錄、雜吟錄、表箋文の九門に分類し以て各體の詩文を收む價接録は集中生色の文字なり
鄭惟吉字は吉元、林塘又尙德齋と號す文翼公光弼の孫なり中宗乙亥に生れ弱齡を以て戊戌の文科に魁たり選はれて湖堂に入り文衡を典ること二

十餘年宣祖の時相に拜せられ老を以て几杖を賜ふ明使屢至るに際し毎に其の接伴使たり文章風標時人の推す所たり宣祖戊子に歿す

○ 汲古遺稿

三卷二冊 李洪男著 印本

圖書番號 三六三三、三六三四

李洪男の遺稿にして光海君九年丁巳孫廷紳の嘉山郡守たりし時刊行せしものなり原集二卷は皆詩にして餘一卷は詩及賦一首文七篇を收む卷首に世系を載せり

李洪男字は士重汲古子と號す廣州の人樽巖若水の子なり中宗乙亥に生れ文科に登り選ばれて湖堂に入り父若氷の冤死に際し之に坐して寧越に竄せらる弟洪胤と隙あり叛を謀ると讒し洪胤遂に斬せらる洪男其の功を以て召還せられ工曹參議となる人痛憤せざるなし宣祖の時事蹟初めて分明となり職を削らる

○ 蘇齋集

一三卷八冊 盧守愼著 印本

圖書番號 五七一、五二九三

盧守愼の詩文集にして原集十卷に賦詩箴贊祝教

集部

書序跋記祭文科製疏筭箴行狀墓文等を收め附録一卷に年譜行狀を載し内集上下篇に侍講錄草創錄懼塞錄問答錄養正錄庶幾錄を收む孝宗三年會孫峻命之を編輯し景命奉化に宰れる時之を登梓す

○ 聽天堂詩集

一冊 沈守慶著 寫本

圖書番號 六六九

沈守慶の詩集にして守慶は詩作に耽りしと雖其の稿甚た少く今は唯本書一冊あるのみ

沈守慶字は希安聽天堂と號す豐山の人なり中宗丙子に生れ明宗丙午の文科出身にして八道の方伯を歴て官右議政に至る嘗て湖堂に入り清白吏に選せらる宣祖壬辰義兵を倡起し己亥に歿す

○ 潛溪遺稿

一冊 李全仁著 印本

圖書番號 四七七八、五一八五

李全仁の遺稿にして收むる所詩箴序疏附録等なり憲宗十二年丁未後孫等之を刊行す

○ 東湖集

二卷一冊 邊永清著 印本

圖書番號 四三四一 七七二四

五〇一

邊永清の詩文集にして後孫正録以度等之を蒐輯す詩百餘篇祭文一篇を收め哲宗十一年庚申後孫疇建鋪夔等之を刊行す

邊永清字は開伯東湖と號す原州の人原州府院君安烈の後孫なり中宗丙子に生れ明宗丙午進士に中る乙酉文科に登り官尙衣院正に至り宣祖庚辰に歿す

○頤庵遺稿

一二卷四冊 宋寅著 印本

圖書番號 四七三八

宋寅の遺稿にして詩集文集詩續集文續集外集附録及補遺に分ち詩歌詞墓文行狀祭文跋序禮說簡牘等を收む仁祖十二年甲戌曾孫熙業之を編刊す

○土亭遺稿

二卷一冊 李之齒著 印本

圖書番號 五七〇、一一九四二

李之齒の詩文集にして肅宗四十六年庚子玄孫楨翊の慶州府尹たりし時開刊したるものなり詩辭說疏等を收め附録に遺事朝野諸名士の祭文墓碣銘諡狀等を載す

李之齒字は馨仲土亭と號す韓山の人なり中宗丁

丑に生る少時徐花潭に従ひ性理の學を窮む諸家雜術通曉せざるなく其の言往往人の意表に出つるものあり時人之を目して異人と云ふ宣祖の初牙山縣監を拜し良吏を以て稱せらる戊寅に歿す

○嘯臯集

一〇卷五冊 朴承任著 印本

圖書番號 一〇一九、一〇二〇、三八九〇

朴承任の詩文集にして原集四卷續集四卷及附録上下二卷に分ち收むる所賦詩序跋記書雜著祭文墓文疏筭啓策箴及玉冊文等なり

朴承任字は重甫嘯臯と號す潘南の人なり中宗丁丑に生れ早く文科に出身し官大司諫に至る幼時史畧を讀み問ふて曰く武王天下の爲に暴紂を伐つ何ぞ殷宗室に於ける賢微子の如きを擇ひ之を立てずして乃ち自ら取るやと父大に之を異とす宣祖丙戌に歿す別に孔門心法洞目心法等の著あり

○蓬萊詩集

三卷一冊 楊士彥著 印本

圖書番號 五一〇八

楊士彥の詩集にして賦策跋祭文及書數篇を附し

又其の二弟士俊、士奇の楓臯詩、青溪詩等を附載せり

楊士彦字は應聘、蓬萊と號す能詩、能書を以て鳴り仙風道骨と稱せらる中宗丁丑に生れ明宗丙午文科に登り官府使に止まる一代の奇傑を以て落拓振はず宣祖甲申に歿す弟士俊字は應舉、楓臯と號す官僉正に至り次弟士奇字は應遇、青溪と號す文科に登り官府使に至る皆詩を能くす

○ 錦溪集

五卷一冊 黃俊良著 印本

圖書番號 五八〇三

黃俊良の詩文集にして宣祖十七年甲申黃應奎之を證正す詩記、書、祭文、疏、辨、上、樑文、跋等を載し尾に行狀と李滉の祭文を附せり

黃俊良字は仲舉、錦溪と號す平海の人なり中宗丁丑に生れ庚子の文科に出身し官牧使に至る嘗て李退溪の門に學ひ明宗癸亥退溪に先して歿す退溪爲に其の行を述へ祭るに文を以てせり曹郎たるの時關佛の疏を進め是より名益重し

○ 瞻慕堂集

三卷一冊 林芸著 印本

集部

圖書番號 五二七八

林芸の詩文集にして絶句、律詩、排律、古詩、賦、記、策問等を載し中一卷は狀誌なり

林芸字は彦成、瞻慕堂と號す葛川薰の弟なり中宗丁丑に生る兄と俱に學行を以て名あり又俱に孝を以て旌閭せらる宣祖の時薦められて屢叅奉を授けられ壬寅に歿す

○ 玉溪集

七卷四冊 盧禎著 印本

圖書番號 一四〇六

盧禎の詩文集にして初め子焯之を抄録し以て鏡梓せしか兵火に罹り逸したるもの多し孫春仁祖十年壬申之を増補して重刊す載する所詩、賦、表、箋、詔、祭文、行狀、碑誌、疏、啓狀、書、雜著、奏論、記、序等にして別集に世系、年譜、誌狀等を收む

盧禎字は子膺、玉溪と號す豊川の人なり中宗戊寅に生れ明宗の初に登科し宣祖の時官吏曹判書に至り戊寅に歿す内外に歴官すること三十餘年なるも實際に公事を視しは三年に滿たすと云ふ幼より孝を以て聞え諡を文孝と贈らる

五〇三

○ 習齋集

四卷一冊 權肇著 印本

圖書番號 五二七二

權肇の詩稿にして子鞞之を收輯刊行するに際し偶ま禍に遭ひ稿本散逸せしか孝宗四年曾孫諱星州に牧使たる時更に之を刊行せり

權肇字は大手、習齋と號す陽村權近五世の孫なり詩を以て名あり中宗庚辰に生れ其の癸卯に登科し官禮曹叅判に至り宣祖癸巳に歿す政治に恬淡にして唯詩作を喜ひしと云ふ

○ 清虛堂集

四卷二冊 釋休靜著 印本

圖書番號 五〇六八、五一〇六、六二八八、六三〇五

僧休靜の詩文集にして上佐鍾峰之を蒐輯し光海君四年壬子上下二卷を刊行し仁祖八年庚午徒弟葆真等之を重刊し正祖の後更に増補して四卷と爲し刊行す收むる所詩書記、碑鍾銘、行蹟、蹟疏、募緣文、偈語、雜著及附錄等なり卷首に宣祖御賜墨竹詩一首正祖撰壽像堂銘并序及酬忠祠賜祭文を冠す

○ 德溪集

八卷五冊 吳健著 印本

圖書番號 五二二一、五二二三、六六二七、一一九九〇

吳健の詩文集にして詩、賦、表、教書、祝文、祭文、疏、筭、啓狀、日記、書、序、論、策、題、行狀、遺事、祝文、祭文、輓詞等あり別に年譜と神道碑銘を合部し純祖二十七年丁亥後孫思德之を刊行す

吳健字は子強、德溪と號す寧城の人なり中宗辛巳に生る明宗戊午文科に登り官典翰に至る嘗て南冥曹植に従學し後經幄に居り啓沃甚た多し詮郎となり身を持する謹嚴公直にして世に容れられず官を棄て郷里星州に歸り子弟を教へ復た出て仕へず宣祖甲戌に歿す

○ 思庵集

六卷三冊 朴淳著 印本

圖書番號 一六二九、一六三〇、三四一四、三四一五、五

〇五三

朴淳の詩文集にして歿後六十年を経て徐必遠等之を刊行す載する所詩、啓、書、賜祭文、雜著、書、序、記、碑誌、表及附錄等なり憲宗八年丁巳に重刊す

朴淳字は和叔、思庵と號す忠州の人なり中宗癸未に生れ明宗の時甲科に中り文衡を典り領相に至る文學行義一代の賢相と稱せられ宣祖己丑に歿す

す諡して文忠と云ふ嘗て學を花潭徐敬徳に受け
釋褐して尹元衡を彈劾す

○ 松塘集

四卷二冊 俞泓著 印本

圖書番號 五二六六

俞泓の詩集にして仁祖の時孫伯曾遺稿を收拾し
梓に付するに際し其の父大逸の慵隱集を卷末に
附す

俞泓字は止叔、松塘と號す景安公汝霖の孫なり中
宗甲申に生れ明宗癸丑文科に登り官左議政に至
り光國平難二勳に策せられ杞城府院君に封せら
る宣祖甲午に歿し忠穆と諡す嘗て明に使し國譜
辨誣の功あり又宣祖壬辰西幸を力賛し世子に隨
行す季子大逸字は徳林、慵隱と號す官叅判に至る
伯曾は大逸の子なり

○ 月川集

六卷三冊 趙穆著 印本

圖書番號 三二〇〇、四五八一、四五八三、六七八一

趙穆の詩文集にして顯宗七年子錫朋遺稿を收集
し禮安縣監李碩寬之を刊行す載する所詩、疏書、雜
著、跋、祭文、祝文、誌、碣等にして末に荀彧論、蜀、洛

集部

三黨論を并載す

趙穆字は士敬、月川と號す横城の人なり中宗甲申
に生る幼にして穎悟五歳既に大學を受け長して
科擧の業を廢し李退溪に就き學術を研鑽せり其
の著困知雜錄等學者の矜式たるものあり明宗壬
子司馬に中り宣祖の時叅判に至り其の丙午に歿
す

○ 龍庵集

五卷一冊 馬應房著 印本

圖書番號 五二四七

馬應房の詩文集にして憲宗十一年馬龍煥編次し
後孫祥麟等の刊出する所に係る自序一編龍城園
中口號一首並約誓其の他は附録とし行狀、墓碣、碑
銘、傳及諸家の序、跋等を載録し族會孫果窩の墓誌
銘と七代の世孫釣巖の行狀を附せり

馬應房字は靖叔、龍菴と號す宣祖の時蔭仕を以て
縣監たりしか壬辰の役に値ひ義を倡へて旅を募
り丁酉西原に戰没し特に叅判を贈らる

○ 柏潭集

一〇卷四冊 具鳳齡著 印本

圖書番號 三一九、五二七一、六二九〇

五〇五

具鳳齡の詩文集なり顯宗十一年後學金啓光豐基郡守たりし時録梓せしものにして載する所詩律絶句類疏啓文書等なり擬弘文館陳弊疏一篇は編中出色と稱せらる

具鳳齡字は景瑞柏潭と號す清城の人なり中宗丙戌に生る明宗庚申文科に登り官藝文提學に至る幼時風采既に成人の如し長して李退溪の門に學ひ其の高足たり

○ 高峯集

五卷五冊 奇大升著 印本

圖書番號 一四七五

奇大升の詩文集にして仁祖七年趙纘韓の嶺南善山に守たる時遺稿を收得して登梓す載する所詩表疏辭記文銘序行狀跋等にして論思録上下二卷を附録とす

○ 鰲峰集

三卷三冊 金齊閔著 印本

圖書番號 一一四七七

金齊閔の詩文集にして詩墓文跋記等を一卷に編し更に保邦要務疏四十二條を兩卷に分編す曾孫道器の刊行に係る

金齊閔字は士孝鰲峰と號す義城の人校理運秋の曾孫なり中宗丁亥に生れ明宗戊午進士に中り宣祖癸酉文科に登り官承旨に止まる己亥に歿す少時一齋李恒の門に遊ひ經學を受け宣祖壬辰戰功多し

○ 桃灘集

三卷三冊 邊士貞著 印本

圖書番號 四七四九

邊士貞の詩文集にして七代の孫穰の蒐輯に係る詩雜著策祭文疏書附録等を載し英祖戊子之を刊行す

邊士貞字は仲幹桃灘と號す長淵の人水亭處厚五世の孫なり中宗己丑に生れ宣祖癸未學行を以て薦められ叅奉を授けらる丙申に歿す宣祖壬辰義兵大將として功勞あり丙午宣武原從勳に録し掌令を贈らる

○ 喚醒堂逸稿

三卷一冊 朴演著 印本

圖書番號 四七〇六

朴演の逸稿を集編したるものにして詩書雜著及附録あり

朴演字は濟仲、喚醒堂と號す中宗己丑に生る父巖
學行を以て稱せられしか演能く之を繼述せり宣
祖辛卯に歿す

○ 龜峰遺集

二卷一冊 權德麟著 印本

圖書番號 四五〇八、五七〇七

權德麟の遺稿にして詩文及策僅に八首を上巻と
爲し附録を下巻とせり後孫致福の收拾編次する
所なり

權德麟字は君瑞、龜峰と號す安東の人僉正繼中の
子なり中宗己丑に生れ明宗癸丑文科に登り官郡
守に止まり宣祖癸酉に歿す

○ 虛菴遺稿

三卷一冊 鄭希良著 寫本

圖書番號 三〇一九

鄭希良の詩集にして中宗六年辛未其の友李堦江
原觀察使たりし時刊行す

鄭希良字は淳夫、虛菴と號す海州の人叅議忱の孫
なり中宗己丑に生れ燕山君乙卯生員を以て文科
に登り湖堂に選ばれ翰林に入る戊午史禍に遭ひ
江に沈めりと託し以て世を遜れ年三十四にして

歿す

○ 八谷集

五卷三冊 具思孟著 印本

圖書番號 五七四七

具思孟の詩文集にして長子茂之を編次し次子宏
之を上梓す然るに未だ製本に至らず丙子の難に
値ひ原板散失せしかは仁祖二十六年外孫沈長世
榮川に守たる時重刊せり載する所詩、辭、頌、疏、筭、祭
文、墓誌、序、箋、表、論、策及附録等なり第三子容の竹窓
遺稿を末に附す

具思孟字は景時、八谷と號す中宗辛卯に生る明宗
戊午文科に登り官左贊成に至り宣祖甲辰に歿す
仁祖の外祖たるを以て綾安府院君を贈られ諡を
文懿と云ふ宮禁に連姻すと雖富貴の氣なく文識
餘あり其の子容字は大受竹窓と號す

○ 芝川集

六卷三冊 黃廷彧著 印本

圖書番號 五一九一、五六三〇、五七三三、五七四八、六七六二

黃廷彧の遺著を集めたるものにして仁祖十年外
孫李厚源之を開刊す載する所詩、教書、疏、筭、箋、序、記
銘、跋、哀辭、祭文、墓文、附録等なり書契には答日本書

契擬與日本關白書擬進日本檄書其の他日本に關するもの數篇あり

黃廷或字は景文、芝川と號す、長水の人にして、翼成公喜の後なり、中宗壬辰に生る、明宗戊午に登科し、宣祖の時、光國勳に錄せられ、長溪府院君に封せらる、官大提學判中樞に至り、宣祖丁未に歿す、詩を以て一代に鳴り、湖陰鄭士龍、蘇齋盧守愼等と名を齊うす

○ 溪東集

二卷一冊 全慶昌著 印本

圖書番號 四七八五

全慶昌の詩文集にして、門人孫處訥の蒐輯したるものなり、賦詩、跋、雜著等、僅に七篇に過ぎず、李太王二十年癸未、傍後孫致賢之を刊行す

全慶昌字は季賀、溪東又晚悟と號す、慶山の人文平公伯英五代の孫なり、中宗壬辰に生れ、明宗乙卯進士に中り、宣祖癸酉文科に登りて、翰院に入り、官正郎に止まり、乙酉に歿す、嘗て國系辨誣の事に對して、功勞あり、原從勳に錄し、應教を贈らる

○ 梧陰遺稿

四卷三冊 尹斗壽著 印本

尹斗壽の遺稿にして、長子防之を刊行せしものなり、收むる所、詩、序、跋、記、上樑文、墓文、祭文、題後、筭書啓辭、雜說等にして、附錄一卷あり、宣祖壬辰文事を以て、明の諸將と交り、其の詩文當時の事に關するもの尠からず

○ 峒隱集

三卷一冊 李義健著 印本

圖書番號 五〇三六、五四〇三、五六〇一

李義健の遺稿にして、迂齋李厚源、申欽及鄭弘溟に刪定を請ひ、印行したるものなり、收むる所、五七言古詩、近體、絕句、排律、三百餘篇外に、誌、銘等を附録す

李義健字は宜仲、峒隱と號す、全州の人、廣平大君李輿の後孫なり、中宗癸巳に生る、少時任俠、後節を折りて、道に志し、名利を見ること、糠粃の如く、恬憺冲雅親に事へて、至孝なり、年三十二母の命に従ひ、始めて試に赴き、明宗十九年甲子進士となるや、當時廟堂諸卿頻に推薦せしも、謝して、就かず、晩に敦寧府直長となり、精勵甚た、力む、幾もなく、親の喪に遇

ひて任を致し復た仕官を思はず光海君十三年辛酉齡八十九にして歿す

○孤潭逸稿 五卷二冊 李純仁著 印本

圖書番號 四五三四

李純仁の詩文集にして十代の孫鎮玉の蒐輯したるものなり詩疏、教文、祭文、科體、賦、詩、表策、附録等を收む李太王二十八年辛卯鎮玉の從弟鎮琦等之を刊行す

李純仁字は伯生、孤潭と號す全義の人縣令弘の子なり中宗癸巳に生れ甲子進士に中り宣祖壬申文科に登りて翰院に入り官都承旨に止まり壬辰に歿す弱冠より栗谷李珥及南溟曹植の門に遊ひ壬辰西幸に扈從し功勞多く病死するや宣祖震悼して衣を脱し襚を作れりと云ふ後一等衛聖の勳に追録し全陵君に封し又吏曹判書を贈る

○霽峯集 六卷六冊 高敬命著 印本

圖書番號 四五二〇、四八五二

高敬命の詩文集にして光海君九年丁巳季子用厚南原府に宰たる時之を登梓す載する所古詩、律詩

集部

絶句、賦、銘、誌、說等にして元集五卷の次に遺集及續集あり遺集には賦、記、論、書、表、柳根の檄等諸篇を收め續集には詩四十餘首を載す

高敬命字は而順、霽峯又苔軒と號す長興の人なり中宗癸巳に生る明宗戊午甲科に擢てられ東萊府使となる後宣祖壬辰子從厚、厚因と共に義旅を倡へて起ち檄を四方に馳せ竟に錦山に戰歿す後贊成を贈られ諡して忠烈と云ふ

○龜峰集 一卷五冊 宋翼弼著 印本

圖書番號 四〇七六、四四九七

宋翼弼の詩文集にして初め門人沈宗直詩集を刊出し金長生の後孫金相聖又其の全集を合編改刊す收むる所賦、詩、雜著、玄繩篇、禮問答、家禮註說、附録及弟翰弼の雲谷集等なり

宋翼弼字は雲長、龜峯と號す中宗甲午に生る祀連の子にして雜科出身なり家世世微賤士大夫の間に齒する能はずと雖七八歳の頃筆を下せば輒ち人を驚かし長するに及ひ學識富贍を以て知られしか賤流不可赴舉を論する者あり遂に停舉せら

五〇九

れ科官を得ずして宣祖己亥に歿す李山海、崔慶昌、白光弘、崔崑、李純仁、尹卓然、河應臨と共に八文章家の稱あり、金長生父子及徐湑、鄭暉の輩皆其の門に出つ。英祖の時持平を贈られ、隆熙四年正卿を加贈し、文敬と諡す。弟翰弼字は季鷹、雲谷と號す亦兄と名を齊うす。

○桑楡集

二卷一冊 柳思規著 印本

圖書番號

四六三三、四六三四

柳思規の詩文集にして光海君十年其の子參判舜翼、黃海道觀察使たる時遺稿を收輯して刊行せるものなり。

柳思規字は汝憲、桑楡と號す。晋州の人なり。中宗甲午に生れ、明宗壬戌文科に登り、官參議に至る。屢出て州牧となり、治行第一と稱せらる。性恬澹、惟た吟詠を喜ぶ。

○牛溪集

一二卷六冊 成渾著 印本

圖書番號

三五五八、三五七五、四二四六、四四六三、四四

六四、五二九一、五二九四

成渾の詩文集にして原集六卷は詩、章疏、簡牘、雜著

等を收め、續集六卷は亦詩、章疏、簡牘、雜疏等を收め、純祖己巳七代の孫肯柱、密陽府使在任の時、門人等之を重刊す。

○栗谷全書

四四卷三八冊 李珥著 印本

圖書番號

二九八七、三〇一一、三〇一二、三〇一三、三二

七〇、三七一五、三七九三、三七九四、四〇九三、五〇〇四、五

五一六、五五五七、五七五〇、六五〇九、六六四五、六七九八

李珥の詩文集、續集、外集を合編したるものにして、英祖十八年壬戌陶菴李緯刪定し、二十五年己巳之を印行し、後純祖十四年甲戌拾遺六卷を合せ、栗谷全書と名け、以て重刊す。收むる所第一卷以下第十八卷は辭賦、詩、疏、劄、啓、議、書、應製文、序、跋、記、贊、銘、祭文、雜著等、第十九卷以下第二十七卷は聖學輯要、第廿八卷以下第三十卷は經筵日錄、第三十一卷及卅二卷は語錄とし、第三十三卷以下を附録及續編とせり。世系圖、年譜、院享錄、門人錄、行狀、諡狀、神道碑銘、墓誌銘、墓表記、追記、紫雲書院、廟庭碑、賜祭文、御製歌祭文、數書、祭文、哀詞、挽詞、諸家記述、雜錄等を併載す。

○松江集 一 一卷七冊 鄭澈著 印本

圖書番號 三六三〇、三六三一

鄭澈の詩文集にして子宗溟之を蒐輯す原集一、二卷は詩、雜著、祭文、書、疏、笥等を收め長子起溟の華谷遺稿を附し續集一二卷には詩、雜著、疏、啓、祭文等を收め別集七卷には詩、賦、墓碣、祭文、書、雜著、世系、年譜及附録を收む仁祖十年壬申の刊行に係る

鄭澈字は季涵、松江と號す迎日の人なり中宗丙申に生る早彦河西金麟厚に従ひて學ひ長して栗谷李珣、牛溪成渾と親善なり明宗壬戌甲科に擢てられ持平となる時に東西の黨論大に熾にして鄭澈深く東人を憎み宣祖己丑の獄に崔永慶を誤殺せしより東黨最も之を仇視す官左相に至り宣祖癸巳に歿し諡を文靖と云ふ長子起溟字は鵬舉、華谷と號す才ありて天す

○拙翁集 一〇卷四冊 洪聖民著 印本

圖書番號 四〇五三

洪聖民の詩文集にして仁祖十年壬申其の孫命者安東府に宰たる時之を梓行す載する所多くは詩

集部

文にして六卷以下に對説、論策、序録、後記、叙書、疏誌、碑銘等を收む

洪聖民字は時可、拙翁と號す南陽の人なり燕山君丁巳に生る明宗甲子の文科出身にして官吏曹判書、大提學に至り益城君に封せられ明宗戊申に歿す文貞と諡す石壁春卿の子にして栗亭天民は其の弟なり七世文科に連中し綸旨の起草を掌り父子兄弟俱に選はれて湖堂に入る

○清江集 四卷三冊 李濟臣著 印本

圖書番號 四七〇三、五七七四、六二七四

李濟臣の詩文集にして光海君二年庚戌其の子潛窩命俊之を編刊す收むる所詩、辭、贊、銘、辨、對説、序、跋、記、書、疏、誌、狀、箋、祝祭文等なり卷首に世系及附録を載す

李濟臣字は夢應、清江と號す全義の人なり中宗丙申に生る明宗戊午司馬に中り甲子文科に登り官威北兵使に至り宣祖癸未に歿す後領議政を贈らる幼にして學を龍門趙昱に受け長して尙震の門に遊ひ尙震大に之を器重す乙巳士禰の後官に在

五一

るを樂ばず詩酒に放情して世を終る

○月汀集

一一卷七冊 尹根壽著 印本

圖書番號

四〇九四、五一九二、五六三一、七一〇〇、一一

六〇七

尹根壽の詩集にして孫廷之の蒐集に係る收むる所詩、筭子、收儀、啓辭、疏、玉冊文、樂章、傳、論、辨、題、跋、朝天錄、序、記、書、碑、銘、墓誌、祭文、哀詞、附錄等なり。後朱陸論難、韓文吐釋、漫錄等を別集四卷とせり。文學淵博著述亦多かりしも概ね兵火に失ひ仁祖二十五年に至り孫丹陽郡守挺之、從孫咸鏡監司履之と相謀り殘稿を開刊す。後英祖四十九年六代の孫得觀徧く遺文を拾收して四卷と爲し之を別集と名く

○聚遠堂集

二卷一冊 曹光益著 印本

圖書番號

一六五一

光益の詩文集にして八代の孫緯文の蒐輯したるものなり。詩、書、記、科、製、遺、錄、年、譜、附、錄、等、を、收、む、李、太、王、の、時、後、孫、漢、奎、刊、行、す

曹光益字は可晦、竹窩、又聚遠堂と號す。昌寧の人。持平孝淵の孫なり。中宗丁酉に生れ、明宗戊午生員進

士の兩試に中り甲子文科に登り官平安都事に止まり宣祖戊寅に歿す。文學あり孝行を以て旌閭せらる

○鶴峯集

一六卷一〇冊 金誠一著 印本

圖書番號

四二五〇、四二九二、四八九八、五五〇〇

金誠一の詩文集にして原集七卷續集五卷附錄四卷より成る。原集は仁祖二十七年己丑に編し詩、賦、詞、辭、筭、啓、狀、招、諭、文、書、雜、著、祭、文、墓、文、行、狀、等、を、收、め、續、集、は、正、祖、六、年、壬、寅、に、編、し、詩、教、文、疏、筭、啓、狀、公、移、書、雜、著、記、祭、文、墓、誌、等、を、收、め、附、錄、は、哲、宗、二、年、辛、亥、に、編、し、世、系、圖、年、譜、行、狀、墓、文、言、行、錄、祝、祭、文、教、書、等、を、收、む、同、年、文、集、と、共、に、重、刊、す

金誠一字は士純、鶴峯と號す。義城の人なり。中宗戊戌に生れ早歲にして李退溪に學ひ宣祖戊辰文科に出身す。選はれて湖堂に入り副提學を経て日本に使し充直を以て稱せらる。宣祖壬辰慶尙右道兵馬使を以て招諭使を授けられ慶尙監司を拜し列邑に召募し成功を期せしも癸巳遂に任所に歿す。正卿を贈られ諡を文忠と云ふ

○ 柏谷集

四卷四冊 鄭崑壽著 印本

圖書番號・二〇〇

鄭崑壽の詩文集にして外曾孫沈樸之を蒐輯す詩表、贊、辭、序、記、跋、說、祭文、疏、劄、啓、狀、啓、呈文、揭帖、赴京日録、書、碑誌、行録、附録等を收め卷首に世譜年譜を加へ肅宗三十六年庚寅玄孫健之を刊行せり

鄭崑壽字は汝仁號は柏谷、清州の人大護軍承門の子なり中宗戊戌に生れ宣祖丁卯進士に中り壬申大學館薦を以て義禁府都事を授けられ癸酉文科に登り宣祖壬辰明に使し請兵を得たる功を以て一等勳に録し官贊成に至り壬寅に歿す領議政を追贈し忠翼と諡す

○ 月篷集

二卷三冊 柳永吉著 印本

圖書番號 五三〇

柳永吉の遺稿を集めたるものにして仁祖二十四年其の子恒の輯刊する所なり全部律詩絶句の類にして卷末記す所に據れば猶ほ著述幾百ありしも壬辰の兵燹に失ひ唯人口に膾炙するものを刊行するに止めたりと云ふ

集部

柳永吉字は德純、月蓬と號す全州の人、春湖永慶の兄なり中宗戊戌に生れ明宗己未文科に登り官參判に至り宣祖己亥に歿す才氣甚た高く詩に於て最も工なり子恒亦文科出身して竄謫十餘年に及び官監司に止まる

○ 鵝溪遺稿

六卷三冊 李山海著 印本

圖書番號 四七六一、五三二

李山海の遺稿にして箕城錄以下律詩、古詩、絶句、雜著、疏類等載す多くは宣祖壬辰陣中の手記に係る

李山海字は汝受、鵝溪と號す中宗己亥に生る五歳已に神童の稱あり明宗辛酉に擢科せられ文名大に振ふ文衡を典り官領議政に至る光國平難の二勳に策し鵝城府院君に封せられ宣祖己酉に歿す諡を文忠と云ふ宣祖壬辰西幸を力贊し爲に遠竄に處せらる當時東西二黨あり山海は東人の主たり常に西人に忌疾せられ屢彈劾に遭ふ或は云ふ陰に宮禁に連結し爲に清議に譏らる

○ 謙菴集

八卷四冊 柳雲龍著 印本

五三三

圖書番號 四五一三

柳雲龍の詩文集にして弟成龍の編次せしもの水害に漂失し六代の孫泳更に之を蒐集し英祖十八年壬戌に刊行す後、宗孫宗陸純祖三年癸亥に重刊せり收むる所詩、疏、書、雜著、記、論、識、跋、祭文、遺事、世系錄、行年記、年譜、附錄及遺墨等なり

柳雲龍字は應見、謙庵と號す豊山の人立菴中郢の子なり中宗己亥に生れ宣祖丙子蔭仕を以て禁府都事を拜し光國原從功臣に錄せられ官通政牧使に止まり宣祖辛丑に歿す扈聖原從功臣を追録し吏曹叅判を贈らる退溪李滉の高足にして經學行義共に一世に推重せらる

○簡易集

九卷九冊 崔昱著 印本

圖書番號 一六三七、一六七九、二九四一、三〇四六

崔昱の詩文集にして載する所奏、封事、院言、辭、疏、箋表、書、揭帖、謠、韻、祭文、上樛文、撤策、評、說、碑、記、序、識、跋、錄等なり雄篇大作尠からず

○述古齋集

一冊 金寶著 印本

圖書番號 一一九八

金寶の詩文集にして詩、墓誌銘、雜著、世系譜、年譜及附錄等を收む後孫永祚之を刊行す

金寶字は邦彦、述古齋と號す龍宮の人にして中宗己亥に生れ宣祖壬申孝行を以て薦められ厚陵奉を拜し光海君乙卯に歿す

○孤竹遺稿

一冊 崔慶昌著 印本

圖書番號 五八一、五八二、三〇七八、六二八九

崔慶昌の詩集にして孫振海收輯し振海の櫟村遺稿を附し肅宗九年癸亥に上刊す

崔慶昌字は嘉蓮、孤竹と號す中宗己亥に生れ宣祖戊辰に登科し官府使に至る天資豪爽器識絶高詩を以て世に鳴り又弓矢の法と琴笛の律に精妙なり宣祖嘗て文武の才ありとし大に用ひんとせしも物議の阻する所となり竟に振はす癸未の年に歿す孫振海櫟村と號す亦詩を善くす

○東岡集

一九卷九冊 金宇頤著 印本

圖書番號 三四八八、四六〇一、五六二〇

金宇頤の詩文集にして載する所詩、詞、賦、箴、疏、劄、啓、辭、書、雜著、祭文、誌、行狀、經筵講義等なり第十八卷以

下は補遺にして詩、賦、疏、啓、劄子、書、祭文、行録、雜著、附録等を收む

○ 柏巖集

七卷四冊 金功著 印本

圖書番號 四三二七

金功の詩文集にして英祖壬辰六代の孫銓郎璋之を刊行す辭賦、詩、教書、疏、劄、啓、辭、狀、啓、呈文、書、雜著、序、箋、祭文等を收め年譜及附録上下あり

金功字は希玉、柏巖と號す禮安の人なり中宗庚子に生る少時李退溪に學ひ宣祖丙子の文科出身たり宣祖壬辰嶺南右道觀察使を拜し勞勳甚た多く官參判に至り光海君丙辰に歿す後に宣武勳に錄せられ又吏曹判書を贈らる諡を敏節と云ふ

○ 四留齋集

一二卷五冊 李廷諱著 印本

圖書番號 五二八五

李廷諱の詩文集にして孫聖龍黃海道觀察使たりし時録梓せるものなり載する所詩、疏、劄、雜著、祭文、書牘、世系譜錄、行年日記、海西結義錄、義兵約束、書狀、狀、啓、牒、關、倭、變、錄、等にして附録二卷あり

集部

李廷諱字は仲薰、四留齋又退憂堂と號す慶州の人なり中宗辛丑に生る明宗辛酉明經を以て登科し屢權臣の前に仕路を塞かれ出て延安府使となり民望あり壬辰の役母に陪して難を避け路延安を過ぐ延安の民驚喜して迎へて曰く是れ我使君なりと遂に檄を傳へ數千人を招集し城に據りて死守し機に隨ひ變に應したるを以て宣武勳に錄せられ月川府院君に封せらる官知中樞事に至り宣祖庚子に歿す諡を忠穆と云ふ

○ 松厓集

四卷二冊 朴汝龍著 印本

圖書番號 四五二四

朴汝龍の詩文集にして憲宗十二年丙申後孫之を刊行す第一卷に石潭語錄第二卷に疏、序等數篇を收む第三第四卷は附録にして閔鼎重、李敏輔、趙宣永、洪直弼其の他の撰に係る年譜、行狀、諡狀、墓碣銘、神道碑銘、祭文等を集め終に洪祐健の跋を載せり朴汝龍字は舜卿、松厓と號す沔川の人なり中宗辛丑海州の立巖村に生る栗谷李珥石潭に在りて學

五一五

徒を教養す乃ち就いて學ひ栗谷の歿するや其の文集編成に力むること數年遂に之を完成し又其の祠宇建設に力を盡せり宣祖の時參奉を拜し尋いて正郎に至り光海君辛亥に歿す吏曹判書を贈られ文溫と諡す

○ 鳳溪逸稿

二卷一冊 洪世恭著 印本

圖書番號 三六二三

洪世恭の遺稿にして十二代の孫學鍾の蒐輯に係り詩啓狀、書、雜著、附錄等あり李太王庚子之を刊行す

洪世恭字は仲安、鳳溪と號す南陽の人郡守備の子なり中宗辛丑に生れ明宗丁卯生員に中り宣祖癸酉文科に登り官平安道調度使に止まり戊戌に歿す丁未に扈聖宣武功一等を録し領議政を贈り唐城府院君に封す

○ 南窓雜稿

一冊 金玄成著 印本

圖書番號 三四八二

金玄成は學識淹雅にして詩文竝に善くし草隸又絶妙なり自著の五七言律絶百餘篇を手寫し天坡

吳翽に遺贈し以て異日の面目を施さむことを評せり其の後仁祖十二年甲戌吳翽黃海道觀察使たりし時之を登梓す

○ 西厓集

二四卷一二冊 柳成龍著 印本

圖書番號 一六〇七、一六〇八、三〇九三、三二〇七、四七

二九、四九四〇、五四九八、五四九九

柳成龍の詩文集にして原集二十卷別集四卷より成る原集には詩、奏文、疏、劄書狀、啓、辭、呈文、書牘、雜著、序、記、論、跋、箋、銘、祭文、誌狀等を收め別集には詩、疏、劄、啓文、呈文、書、雜著、備邊、雜錄、奏議、記事、跋、書後、銘、祭文等を收む仁祖十一年癸酉孫衫陝川郡守たりし時刊行せり

○ 芹曝集

一冊 寫本

圖書番號 二七三三

柳成龍の懲咎録中第三卷より第七卷に至る軍國機務十條及疏劄若干篇を抜編したるものなり

○ 洛涯遺稿

二卷一冊 金安節著 印本

圖書番號 二八四二、六七八五

金安節の詩文集にして後孫濟默の上梓したるも

のなり賦詩序祭文行狀雜著等を收む附録一卷あり行狀墓表等を載す

金安節字は子亨洛涯と號す尙州の人なり明宗壬寅に生れ幼時健齋朴守一に學ひ稍長して業を板谷成允謙に受く宣祖の時進士に中りしも光海君廢母の事に値ひ舉業を廢して野に處り仁祖壬申に歿す

○ 萬竹軒集

二卷一冊 徐益著 印本

圖書番號 七〇八一

徐益の詩文集にして曾孫六谷必遠の蒐集に係り載する所詩科體疏墓銘疑附錄等なり正祖庚戌七代の孫鎮恒之を刊行す

徐益字は君受萬竹軒と號す扶餘の人進士寬の孫なり中宗壬寅に生れ明宗甲子生員に中り宣祖己巳文科に登り舍人を歴て官府尹に止まる平生栗谷李珥と友とし善し北路に宣撫たる時十二策を建議せしことあり

○ 浮休堂集

一冊 釋善修著 印本

圖書番號 六七四〇

集部

釋善修の詩を上佐覺性熙玉等の蒐輯したるものにして光海君己未に之を刊行す

釋善修は浮休堂と號し中宗癸卯に生れ光海君乙卯に示寂す

○ 南冥集

一四卷八冊 曹植著 印本

圖書番號 一三六二、四〇三二

曹植の詩文集にして絶句律古詩賦銘書跋疏誌記論雜著學記言行錄教旨等を載す第三卷及第四卷に載する致知存養治道治法等の十有餘篇は悉く著者の心血を灑きたる大作なり其の七八冊は別集にして行狀及師友録を載す

○ 寒岡集

二一卷九冊 鄭述著 印本

圖書番號 一二七八、一四四一、一四四二

鄭述の詩文集にして原集十二卷續集六卷別集三卷より成る收むる所原集は詩疏簡啓辭書雜著序記跋祝祭文墓文行狀年譜續集は詩賦論疏書雜著序祝祭文行狀別集は書雜著祭文詩答問等なり

○ 四溟堂集

七卷一冊 釋惟政著 印本

圖書番號 六三二七

五一七

僧松雲の詩集にして光海君四年門徒惠球等始めて哀萃印出し孝宗の時公峯山人性一等更に舊本に就いて重刊したるものなり收むる所詩數百首文十に過ぎす蓋し兵燹の殘篇を集めたるものなり終に海眼の撰に係る行蹟を載す

○重峯集

二〇卷一〇冊 趙憲著 印本

圖書番號 四〇八八、五〇〇〇、六五六二、六八一五、六

八四七

趙憲の詩文集にして原集十三卷に詩賦疏啓書雜著日記題跋表狀文檄辭告諭文等を收め附録七卷には世徳年譜狀錄碑表遺事褒典贊述哀悼祠院宅里義徒等を收む

○息庵集

五卷三冊 黃暹著 印本

圖書番號 四二三七、五三七六

黃暹の詩文集にして肅宗三十五年申景濬の刊する所なり收むる所詩批答疏書雜著序記跋銘贊箋冊祝文祭文行狀等にして附録一卷あり

黃暹字は景明、息庵又遯庵と號す昌原の人なり中宗甲辰に生る宣祖の時甲科に登第し壬辰兵曹叅

知を以て義州に扈從し又世子に江界に従ふ歸還の後將に大に用ひられんとせしか時事日に非なるを見て豐基の舊居に退き終に官大司憲を以て光海君丙辰に歿す

○芝山集

九卷五冊 曹好益著 印本

圖書番號 三〇三〇、三九八六、五三一六、六二九八、六二

九九

曹好益の詩文集にして收むる所賦詩書祝文祭文墓誌箋序記跋雜著等なり雜著には太極論妙香山遊錄遊香楓山錄等あり卷首に世系を載せ年譜及附録あり

○村隱集

三卷三冊 劉希慶著 印本

圖書番號 七二六三

劉希慶の詩集にして孫自勗之を集收し金昌協をして選定せしめ自勗の子泰雄湖南萬戸たりし時上梓せしものなり詩を一巻に收め酬唱傳記墓表等を附録とす

劉希慶字は應吉、村隱と號す江陵の人なり仁宗乙巳に生る其の家世世微賤なりしと雖至孝天性に

出て長するに及び讀書を好み特に禮學に精通したり光海君廢母の時節を守りて屈せず仁祖初年嘉義に陞されしか退きて枕流臺に居り唱酬以て自ら娛み其の丙子に歿す

○ 鳴臯集

八卷一冊 任鎮著 印本

圖書番號 六九三八

任鎮の詩集にして肅宗三十年甲申外玄孫朴權故藁を拾收して編刊したるものなり

任鎮字は寬甫、鳴臯と號す、豐川の人なり、仁宗の時に生れ、牛溪成渾に従ひて學ぶ、宣祖壬辰、明李如松の從事となり、二十韻排律を草して、歎賞せらるるも、仕路塞りて申ふるを得ず、不平の氣一に之を詩に發して、自ら慰む、官僅に參奉に止りて歿す

○ 李忠武公全書

一四卷八冊 李舜臣著 印本

圖書番號

四五七、四五八、一一〇六、一一〇七、一一五

六、一一五七、一一七二、一一九九、一二〇九、一二二〇、

一二三〇、一二三七二、一二七三、一二七四、一五四二、一九

二八、三九一七

李舜臣の遺稿全書なり、正祖二十年乙卯尹行恁に

集部

命して之を編次せしむ、卷首に正祖の繪音を掲げ、教諭、圖說、世譜、年表、詩、雜著、狀、啓、亂中日記及附録等を收む

李舜臣字は汝諧、德水の人にして、文靖公邊五世の孫なり、明宗乙巳に生れ、宣祖丙子武科に及第し、造山萬戸となり、反胡を撃て功あり、時の領相柳成龍と里閭を同うす、仍て僉使に陞し、尋て全羅水軍節度使に擢す、宣祖壬辰、水軍統制使を拜し、龜甲船を操して、閑山島前洋に奇功を奏す、宣祖戊戌、露梁の役、飛丸に中りて斃る、宣武功臣に録し、領議政を贈り、德豐府院君に封し、忠武と諡す

○ 沙村集

四卷二冊 張經世著 印本

圖書番號 四三七〇、四五六八

張經世の詩文集にして、純祖二十四年甲申、後孫炕收輯上刊す、詩歌、詞記、書說、序跋、行狀、祭文、墓文、誄辭、附録等を載せり

張經世字は兼善、沙村と號す、明宗丁未に生れ、宣祖乙丑文科に登り、官縣令に至り、光海君乙卯に歿す

○ 梧里續集

六卷三冊 李元翼著 印本

五一九

圖書番號 三一〇三、四八九七、六九二二

李元翼の文集にして肅宗十七年辛未に成る後十五年乙酉玄孫存道佚編を哀收刊行せり

李元翼字は公勵、梧里と號す太宗の子益寧君移の玄孫なり明宗丁未に生れ宣祖の時文科に出身す宣祖壬辰吏曹判書を以て平安都巡察使を兼ね勳勞顯著なりしより完城府院君に策封せられ遂に相國を拜す光海君廢母の時に際し直諫して斥けられ仁祖反正の時領揆に召用せらる仁祖甲戌に歿し諡を文忠と云ふ

○久菴集

二卷一冊 韓百謙著 印本

圖書番號 四六七〇、五六一九、五八七六、六三二六

韓百謙の詩文集にして上卷には箕田遺制説、深衣説、四端七情説、東史纂要後跋、潮汐弁接木説、勿移村久菴記下卷には題跋、序記、疏及行狀等を收む

○沙溪遺稿

一四卷六冊 金長生著 印本

圖書番號 一六七〇、一六一一、四二四〇、六二六八

金長生の遺稿にして肅宗十一年乙丑校書館に命

し刊行せしめたるものなり載する所疏、啓辭、奏草、狀啓、書辨、説、序記、跋、祭文、詩、墓誌銘、行狀、筵席對問、語錄等にして別稿と題し近思錄釋義十四卷を收む

○一松集

九卷五冊 沈喜壽著 印本

圖書番號 四三一六、七三〇六、七五七九

沈喜壽の詩文集にして仁祖二十七年孫儒行の刊行したるものあり詩、書、筭、封事、議、祭文、墓誌等を載す一卷は補遺にして詩及雜著を收む

沈喜壽字は伯懼、一松と號す青松の人なり明宗戊申に生る宣祖壬申に登第し選はれて湖堂に入り文衡を典り相國を拜し光海君壬戌に歿す廉謹吏に錄せられ諡を文貞と云ふ嘗て盧守愼海島に謫居する時鯨濤を冒し往いて學ふ後に館閣の領袖を以て稱せらる

○海狂集

二卷一冊 宋齊民著 印本

圖書番號 六六六八

宋齊民の遺稿にして正祖七年後孫益中之を刊行す上卷は召募文萬言疏及上李體察書下卷は附錄

にして遺事、輓詩、祭文、墓誌、銘傳、墓表、祭文、行狀記文等を收む

宋齊民字は士役、海狂と號す、洪州の人なり、土亭李之菡に從學し、宣祖壬辰萬言疏を呈し、容れられず、遂に世と絶ちて山中に入り、壬寅の年に歿す

○林白湖集

四卷二冊 林悌著 印本

圖書番號 一六三六、七五六四

林悌の詩文集にして、李恒福の選次したるものなり、收むる所詩賦、箋表、文誌等にして、光海君十四年從弟愔咸陽郡守たりし時之を刊行す

○西垆集

八卷三冊 柳根著 印本

圖書番號 四五八八、六三三九、六九四〇、七一〇一

柳根の詩文集にして、外孫吳挺緯か憲宗三年壬寅忠清道觀察使たりし時刊行したる詩集四卷と、外曾孫金震標か憲宗六年己巳三陟府使たりし時刊行したる文集四卷とを合成せり、教表、箋文、雜著、序記、跋書、碑銘、行狀疏、箭等あり

李根字は晦夫、西垆と號す、晋州の人なり、明宗己酉

集部

に生る、宣祖壬辰忠清監司より、五道共馬副體察使を拜し、尋て運餉檢察使を拜し、明軍に糧百萬石を運送し、特に勳勞を賞せられ、扈聖功に策し、晋原府院君に封せらる、官文衡、賛成に至り、仁祖丁卯に歿す、諡して文靖と云ふ

○勿巖集

五卷二冊 金隆著 印本

圖書番號 四一三〇

金隆の詩文集にして、正祖元年五世の孫尙建の收輯刊行する所なり、收むる所詩文各體及家禮、太極圖說、通書、小學、古文眞寶の講錄等あり、附するに年譜及附録を以てす

金隆字は道盛、勿巖と號す、咸昌の人なり、明宗己酉に生る、早歲曠臯朴承任に從學し、弱冠又李退溪の門に遊び、尤も禮に深し、壬辰の役、列邑に檄し、以て忠憤を激發す、翌年參奉を拜したるも、仕へず、尋て甲午に歿す、孝宗の時承旨を贈らる

○樂齋集

一〇卷四冊 徐思遠著 印本

圖書番號 四六九六

五二一

徐思遠の詩文集にして收むる所詩書墓碣碑文祭文祝文雜著年譜附錄等なり門人等之を蒐集し憲宗癸卯後孫宅烈之を刊行す

徐思遠字は行甫、樂齊と號す、達城の人、典教、治の子なり、明宗庚戌に生れ、宣祖甲申教官を授けられ、官司禦に止まり、光海君甲寅に歿す、寒岡鄭述の門下にして、經學行義を以て著はる

○ 鶴巖集

二卷一冊 朴廷璠著 印本

圖書番號 四五六二

朴廷璠の遺稿にして九代の孫時源、造源等の蒐集したるものなり、僅に詩祭文等十一篇及附錄、補遺等を收む、李太王七年庚午の刊行に係る

朴廷璠字は君信、鶴巖と號す、高靈の人、樂文堂澤の子にして、判官溢の後を繼ぐ、明宗庚戌に生れ、宣祖の時行誼を以て薦められ、禮賓主簿を拜す、官郡守に止まる、學問を以て一時の名賢碩儒と交游し、宣祖壬辰の功に因り、仁祖丙子承旨を追贈せらる

○ 獨石集

一冊 黃赫著 印本

圖書番號 四八八

黃赫の詩文集にして附錄に賜祭文及墓碣銘を收む、正祖十一年丁未後孫璿慶尙道觀察使たりし時刊行す

黃赫字は晦之、獨石と號す、芝川廷彧の子なり、明宗辛亥に生れ、宣祖の時文科に出身し、官承旨に至る、宣祖壬辰戰功あり、光海君壬子誣ひられて獄に下り、遂に死す、仁祖の初左贊成を贈り、長川君に封せらる

○ 荷谷集

四冊 許篈著 印本

圖書番號 三九二一

許篈の遺稿にして朝天記上中下は明に使せし時の日録なり

○ 靑陸集

六卷三冊 金德謙著 印本

圖書番號 三〇九二、三六一六、四八六四、五〇六七

金德謙の詩文集にして詩凡四百五十餘首外に記、說、論、傳、跋、帖、封事、箴、詞、賦、箋、文、啓、上、樞、文、等三十三篇あり、其の子尙收輯し、仁祖二十五年丁亥慶州府尹たりし時刊行せり

金德謙字は景益、靑陸と號す、商山の人、明宗壬子に

生れ宣祖癸未に登科し丁酉重試を経て終に壽職を以て嘉善に陞り同中樞府事となり仁祖癸酉に歿す仕路振はさりしと雖其の弟醒翁徳誠と俱に行義を以て聞え仁祖の初屢封事を採納せらる

○ 苔泉集

八卷二冊 閔仁伯著 印本

圖書番號 四五三五

閔仁伯の詩文集にして後孫璣容の編輯に係る收むる所賦詩表、頌、疏、祭文、跋、碑銘、師友錄、討逆日記、頒教文、龍蛇日錄、龍蛇追錄、朝天錄、邦禮同異、家史、擴言記聞、遊賞等なり附するに其の子埜の龍岩實記二卷を以てし李太王十一年甲戌之を刊行す

閔仁伯字は伯春、苔泉と號す驪興の人副正思權の子なり明宗壬子に生れ宣祖癸酉進士に中り甲申文科に魁たり驪陽君に封せられ官知中樞府事に至り仁祖丙寅に歿す左賛成を贈られ諡を景靖と云ふ牛溪成渾の門下にして文學を以て盛名あり閔埜字は載萬、龍巖と號す苔泉仁伯の子なり仁祖丙子江都に入り丁丑全家十三人皆節に殉す一門

集部

忠烈古今に稀なりと云ふ正祖己酉戸曹判書を贈られ庚戌忠愍と諡す

○ 忘憂集

二卷一冊 郭再祐著 印本

圖書番號 一三六四 一四五五

郭再祐の詩文集にして宣祖壬辰に於ける疏啓及王旨を往復したる關文、書牘等あり首に世系、年譜及傳を載せり

郭再祐字は季綏、忘憂堂と號す玄風の人にして監司越の子なり明宗壬子に生れ早く舉業を棄て仕宦を欲せず宣祖壬辰家財を散し郷兵を募り自ら天降紅衣將軍と稱し挺身して各地に戦ひ後右兵使を授けらる嘗て朋黨の弊を論して靈巖に瀆せられ光海君の時上疏し永昌大君の死を救はんとして得ず遂に山中に入り方術を學ひ火食を絶ち其の九年丁巳に歿す後壬辰功臣の策勳に録し正卿を贈られ諡して忠翼と云ふ

○ 晚翠逸稿

二卷一冊 金蓋國著 印本

圖書番號 四八六一

五二三

金蓋國の詩文集にして英祖五十年甲午五代の孫相立之を收刊す載する所詩祭文日記附録等なり
 金蓋國字は公濟晚翠と號す延安の人なり明宗壬子に生る少時業を嘯臯朴承任に受く宣祖の時文科に登第し官郡守に止まる幼にして至孝の名あり宣祖壬辰義兵を募り承旨を追贈せらる

○健齋逸稿 二卷一冊 朴遂一著 印本

圖書番號 四七〇八

朴遂一の遺稿にして肅宗四十六年宗孫思沃收拾刊行す載する所詩書祭文雜著附録等なり
 朴遂一字は純伯健齋と號す龍巖雲の孫なり明宗癸丑に生る早歲退溪李滉と經義を辨論す後宣祖壬辰敬菴盧景任と義を結ひ兵を募り參奉を授けられ丁酉遂に戰死す

○青溪集 五卷二冊 梁大樸著 寫本

圖書番號 四五二六

梁大樸の詩文集にして光海君十一年己未子慶遇の編する所なり律詩絶句古詩書文記論金剛山紀行頭流山紀行附録等を收む

梁大樸字は士眞青溪又松巖と號す南原の人にして葵軒儀の子なり明宗の時に生れ官學官に止まる宣祖壬辰首として義を倡へ遂に兵馬の間に死す然れども外家微なるの故を以て追録の典なし其の詩文は明人に賛揚せられ熊化序を作りて賛嘆を極む子慶遇亦文名あり

○玉峯詩集 三卷二冊 白光勳著 印本

圖書番號 三四一三、四二六九

白光勳の詩集にして光海君二年辛亥其の子振南の編纂刊行せしものなり世人蓀谷李達孤竹崔慶昌及玉峯の詩を以て三唐と稱す

白光勳字は彰卿玉峯と號す海美の人なり明宗の時に生る宣祖の時明使來るあり蘇齋盧守慎接伴たり最も詩を善くする者を選び之と俱にせんとし白光勳を上請す光勳白衣を以て製述官となり詩名此より重し又筆藝に工なり官參奉に止まり光海君の時に歿す

○悠然堂集 四卷二冊 金大賢著 印本

圖書番號 五四七二

金大賢の詩文集にして收むる所詩書疏論序記跋
雜著祭文上樑文及附錄等なり

金大賢字は希之、悠然堂と號す豊山の人潜庵義貞
の孫なり明宗癸丑に生れ宣祖壬午進士に中り乙
未薦を以て察訪を授けられ官縣監に止り壬寅に
歿す後吏曹參判を贈らる文學行義を以て盛名あ
り子九人皆善く繼述す世人金氏九龍と稱す

○ 孤松遺稿

圖書番號 三二八二

一冊 崔纘著 印本

崔纘の詩集にして後孫興翰基正等か遺稿を蒐輯
編次したるものなり哲宗癸亥七代の孫承翰九代
の孫碩鉉等門中と謀りて之を刊行す

崔纘字は伯承、孤松と號す水原の人三洲希說の子
なり明宗甲寅に生れ仁祖甲子に歿す光海君の時
永昌大君の害に遭ふや哀大君歌を作りて之を傷
み爲に久しく縲紲の中に在り仁祖改玉の後禮賓
直長を授けられしも教旨下るの前既に屬纊せり

○ 旅軒集

二一卷一〇冊

張顯光著 印本

集部

圖書番號 二二五七、一三七六、二〇九三、一一五四二

張顯光の詩文集にして原集十一卷には詞賦詩疏
書問答雜著序記跋論銘文及行狀を收め續集十卷
には詞賦詩疏書狀祝祭文誄文上樑文雜著碑狀附
錄等を收む

○ 百拙齋遺稿

二卷二冊 韓應寅著 印本

圖書番號 五八六〇

韓應寅の遺稿にして肅宗二十八年曾孫聖佑湖南
觀察使たりし時之を刊行す詩疏表の外附錄あり
韓應寅字は春卿、百拙齋又柳村と號す清州の人な
り明宗甲寅に生る宣祖丁丑の文科に出て平難光
國兩勳に策せられ清平府院君に封せらる官右相
に至り光海君甲寅に歿し忠靖と諡せらる居常事
に臨みて明敏の稱あり素と漢語を學ひしを以て
明李如松の來るや漢陰李德馨と共に接伴使たり

○ 近始齋集

四卷二冊 金核著 印本

圖書番號 五五六八

金核の詩文集にして詩書雜著表箋啓遺事墓誌附
錄等あり正祖七年癸卯後孫之を刊行す

五二五

集部

金垓字は達遠號は近始齋、光州の人、搨清亭富儀の子なり、明宗乙卯に生れ、宣祖丁亥薦を以て參奉を授けらる、是歲司馬に中り、己丑文科に登り、翰苑に入る、宣祖壬辰義を倡へ、兵を募り、癸巳軍中に歿す、嶺南望士の稱あり

○白沙集

三〇卷一五冊

李恒福著 印本

圖書番號

二九三七、二九三八、三五五九、三六〇六、四

二三五、四七七、四八六、五一四九、七〇九八

李恒福の詩文集にして初め蒼谷李顯英、潛窩李命俊及錦南鄭忠信等の上刊せし江陵本及晋州本あり、内容を一にせず、英祖の時五代の孫梧川宗城兩本を合せ更に逸詩凡四十首、文凡十五篇を追收して全集と爲したるもの即ち本書なり、其の收むる所詩、筭啓儀、箴、銘、序、記、跋、雜著、墓文、行狀、遺事、祭文、書牘、朝天記、聞、朝天日乘等にして附録に年譜、家狀、神道碑、銘、墓表、賜祭文、挽詞、畫像、贊、書院、上樑文、其の他知友後人等の撰述記識等を收む

○五山集

八卷四冊 車天輅著 印本

五二六

圖書番號

二八三三、四八一〇、四八四八、五〇七八、五

一八八、五五二六、五五二七、五五二八、五五二九、五五三

〇、五五三六、七七二

車天輅の詩文集にして歿後久しく刊行せざりしか、正祖之を惜み平安監司洪良浩に命じて遺文を蒐集校讎せしめ、箕營に於て印出せしむ、附するに車氏世系圖、車氏三世文章錄及滄洲集を以てす、原集には賦、詩、序、記、跋、書牘、雜著、疏章、碑銘、墓誌、祭文、教書、告由文、啓歌、謠、箋、表、上樑文、引、勸善文、露布等を收め、三世文章錄には其の祖廣運の詩、父軾の詩文、兄般輅の詩を載せ、滄洲集には弟雲輅の詩文を收む、洪良浩の跋あり、印行の始末を記せり

天輅字は復元、五山と號す、延城の人、願齋軾の子なり、明宗丙辰に生れ、宣祖丁丑文科に登り、光海君乙卯に歿す、官奉常僉正に至る、文章敏給にして當時の使介、酬應、竝に交隣の文字は多く、其の手に出つと云ふ

○東川集

四卷二冊 李尙吉著 寫本

圖書番號

四五二七

李尙吉の詩文集にして九代の孫斗和十代の孫愚冕等の編次したるものなり詩疏策書論表賦行狀祭文墓誌朝天日記附録等を收む

李尙吉字は士祐、東川と號す星州の人教官喜善の子なり明宗丙辰に生れ宣祖乙酉進士を以て文科に登る明の毛文龍蝦島に駐兵したる時償使と爲り仁祖甲子李适の亂に平安監司となり竝に功勞あり丙子の歲廟社を江華に移すに方り之に隨行し丁丑に殉節す官工曹判書に至り左議政諡忠肅を贈らる

○ 柳川遺稿

二卷一冊 韓浚謙著 印本

圖書番號 五一〇〇、六七六七

韓浚謙の遺稿なり其の著述は多く兵火に罹り仁祖十七年其の子會一林川郡守たりし時若干篇を餘燼中より收拾し以て刊行す收むる所雜著祭文碑誌墓表行狀及詩等なり附するに年譜を以てす韓浚謙字は益之、柳川と號す清州の人なり世宗丁巳に生る仁祖の舅にして久庵百謙の弟なり光海

集部

君の時都元帥を拜し後に西平府院君に封せられ仁祖丁卯に歿す

○ 水北亭集

一冊 金興國著 印本

圖書番號 四三〇八

金興國の詩集にして後孫浩詰秉度載鍊等の蒐輯したるものなり純祖三十二年壬辰の刊行に係る行狀及申像村の八景詩を附す

金興國字は景仁、水北と號す順天の人平陽府院君承暉六代の孫なり明宗丁巳に生れ宣祖己丑文科に登り南床を歴て官副提學に止り仁祖癸亥に歿す文行を以て沙溪金長生秋浦黃慎象村申欽藥峯徐渚と交游し仕へすして節義の名甚た高し

○ 於于集

六卷五冊 柳夢寅著 寫本

圖書番號 四四九〇、四七二七、七四九六

柳夢寅の遺集にして收むる所詩序記教書不允批答祭文呈文書題跋碑陰記墓碣銘墓誌墓表傳哀辭雜著等なり

柳夢寅字は應文、於于堂又良菴と號す興陽の人に於して忠寬の孫なり明宗己未に生れ宣祖癸丑登科

五二七

し官吏曹參判に至る仁祖反正の後老寡婦の詩を
作りて曰く七十老孀婦端居守閨闈傍人勸之嫁有
郎顔如槿白首作春容寧不愧脂粉と此を以て獄に
投せられて死す兄弟父子叔姪俱に才名あり多く
顯要に登りしか皆連坐し或は遠竄せられ或は死
を賜はる

○ 楸灘稿

三卷二冊 吳允謙著 印本

圖書番號 四〇三一

吳允謙の詩文集にして孫道一の編刊したるもの
なり絶律古詩疏筭啓辭議呈文書祭文策等を收め
附録に墓碣銘年譜祭文賜祭文不允批答等を載せ
り

吳允謙字は汝益楸灘と號す海州の人にして監役
希文の子なり晩に廣州の先塋下に居り因て又土
塘と號せり明宗己未に生れ既に冠して牛溪成渾
に學ひ科擧を以て意と爲さす宣祖壬午司馬試に
中り尋いて丁酉別試に登り光海君癸丑廢母に際
し力争して屈せず丁巳通信使を以て日本に入り
仁祖の初年官領議政に至り後耆社に入り丙子に

歿す諡して忠貞と云ふ

○ 龍溪遺稿

四卷二冊 金止男著 印本

圖書番號 五〇五〇、五七九九、七〇九七

金止男の詩集にして外孫李觀夏遺篇を收拾し肅
宗二十三年外曾孫李善溥の印刊したるものなり
金止男字は子定龍溪と號す光州の人にして縣監
彪の子世愚の孫なり明宗己未に生れ宣祖辛卯登
科し正言を以て經筵に侍し名諫官の稱あり官監
司に至り仁祖辛未に歿す

○ 橘屋集

三卷三冊 尹光啓著 印本

圖書番號 六六四三

尹光啓の詩文集なり肅宗二年丙辰曾孫承厚か文
谷金壽恒に刪定を請ひ純祖二十九年己丑後孫正
殷之を刊行す收むる所詩記疏書序說傳誌銘哀辭
祭文雜著等にして逸稿を後に附す

尹光啓字は景說橘屋と號す海南の人拙齋行の孫
なり明宗己未に生れ宣祖己丑司馬を以て文科に
登り官正郎に止まり光海君の時に歿す

○ 石溪集

四卷二冊 閔昱著 印本

圖書番號 四五六三

閔昱の遺稿にして八代の孫致鍾の蒐輯したるものなり收むる所詩疏雜文銘贊序記祭文日記附録等なり李太王辛未に刊行す

閔昱字は晦叟石溪と號す驪興の人文兵使安迪の玄孫なり明宗己未に生れ仁祖乙丑に歿す重峰趙憲及沙溪金長生の門に従遊し學問深淵又直聲を以て稱せらる

○ 知退堂集 一五卷六冊 李廷馨著 寫本

圖書番號 四三八三

李廷馨の詩文集にして玄孫縉基の蒐輯したるものなり詩朝天錄疏筭墓碣勝捷碑文永嘉錄祭文書牘殿策雜著壽春雜記東閣雜記黃兎記事及世譜年譜附録等を收む

李廷馨字は德薰知退堂と號す慶州の人社稷令岩の子なり明宗己酉に生れ丁卯進士生員に中り宣祖戊辰文科に登り副提學を歴て官吏曹叅判に至り丁未に歿す

○ 逸翁集 二卷一冊 崔希亮著 印本

集 部

圖書番號 一六四七

崔希亮の詩文集にして五代の孫翊東の編輯に係り收むる所詩及雜著若干篇なり憲宗十二年丙午五代の孫齊東及從姪光億族孫麟國等相謀ぐて之を刊行す

崔希亮字は景明逸翁と號す水原の人濟用監正樂窮の子なり明宗庚申に生れ宣祖甲午武科に登り宣傳官を歴て官縣監階嘉善に止まり孝宗辛卯に歿す武人にして詩名あり壬辰李舜臣の幕下に屬し戰功多く英祖甲午兵曹判書を贈らる

○ 蒼石集 一八卷一〇冊 李垓著 印本

圖書番號 六九一六

李垓の詩文集にして收むる所詩教書揭帖疏筭啓辭呈文書雜著序記跋表箋啓箴銘上樑文祝文祭文碑碣墓誌行狀等なり

○ 漢陰文稿 一二卷六冊

李德馨著 印本

圖書番號 四七七〇、四八六三

李德馨の詩文集にして孫象鼎之を編刊す收むる

五二九

所詩表、教書疏、筭、啓辭狀、議呈文、書、雜著、祭文、墓誌銘等なり。顯宗十四年戊申の印行に係る。

李德馨字は明甫、漢陰又雙松と號す。廣州の人にして民聖の子、領議政克均五代の孫なり。明宗辛酉に生れ十一歳辭を吐きて人を驚かしむ。宣祖庚辰登科し湖堂に入り辛卯三十一歳にして大提學を拜す。壬辰の歲東西に馳驅して功あり尋て右議政を拜し又左相に陞す時に年三十八なり。壬寅領議政となり癸卯策勳に方り辭して許されず。光海君の時正を守りて變せず。竟に其の郷廣州の龍津に退歸し癸丑に歿す。年五十三。文翼と諡す。

○仙源遺稿

二卷二冊 金尙容著 印本

圖書番號

四四五九

金尙容の遺稿を集めたるものにして子光燦、光炫等の印出したるものなり。收むる所五絶、長律、古詩、雜著、墓銘、祭文、議疏、筭記等にして寛懷錄の序あり。光海君十四年壬戌の作にして交遊相識六十餘人の姓名を載せり。

○梧峰文鈔

一冊 申之悌著 寫本

圖書番號 二二〇七四

申之悌の文にして筭子一篇、書一篇なり。申之悌字は順甫、梧峯と號す。鵝洲の人にして明宗壬戌に生れ宣祖戊子文科に登り仁祖甲子に歿す。官承旨に至る。

○醒翁遺稿

四卷二冊 金德誠著 印本

圖書番號 三六一五、四九三四、五二一四

金德誠の詩文集にして肅宗三十二年丙戌孫演の收拾印出したるものなり。原集を第一、二巻と爲し詩、賦、儷文、雜著、疏、筭、啓辭等を收め別集を第三、四巻と爲し筵中奏事、醒翁年譜、行狀、神道碑銘、墓誌銘、墓表陰記、賜祭諡狀、祭文、挽詞等を收む。

金德誠字は景和、醒翁と號す。青陸德謙の弟にして其の先は商山の人なり。明宗壬戌に生れ宣祖戊子進士となり翌年己丑拔かれて成均館に入る。光海君丁巳廢母の事に關し李恒福、鄭弘翼等と齊しく直言して明川に流され尋て極北の穩城に又極南の南海島に移配せらる。仁祖初年放還せられ執義となり尋て大司成に陞り副提學、吏曹參議を歴て

大司憲に至り丙子に歿す年七十五清白吏に選録せられ諡して忠貞と云ふ

○ 體素集

三卷三冊 李春英著 印本

圖書番號 五八八〇、五八八一

李春英の詩文集にして仁祖二十五年丁亥子時材時楷等之を編刊す載する所詩、賦、記、書、序等にして補遺あり詩を收む

李春英字は實之、體素齋と號す全州の人にして宗室の出なり明宗癸亥に生る宣祖庚寅に登科し官僉正に止まり丙午に歿す人と爲り疎豪放逸にして詩詞も亦激烈慷慨の語多し故を以て時人に擯斥せられ振展することを得ざりしと云ふ

○ 五峯集

一六卷八冊 李好閔著 印本

圖書番號 七二八八

李好閔の歿後三年子景嚴及姪景義か遺文を收拾印出したるものにして第一卷以下六卷に五七絶五七律、古詩等第七卷以下に賦、表、箋、論、策文、序、記、跋、說、贊、銘、書、疏、劄、教、書、啓、議、奏、咨、揭、呈、文、碑、誌、碣、銘、祭文等を收め附録に諡狀及墓誌銘を載せり

集 集

李好閔字は孝彦、五峯又睡窩と號す延安の人なり明宗癸丑に生れ宣祖己卯進士壯元たり癸未殿試に赴き翌甲申擧げられて成均館に入り尋て注書を拜す壬辰の歲宣祖義州に在るの時禮曹判書を以て經幄に參し絲綸を代草す奏請、訓諭、檄其の他諸軍門往復書の如き大抵皆其の手に成らざるはなし後扈聖功に策せられ延陵府院君に封せらる壬寅兩館大提學となり尋て致仕し仁祖甲戌に病歿す諡して文僖と云ふ

○ 愚伏集

三二卷一六冊 鄭經世著 印本

圖書番號 一六四〇、二〇九二、三〇九五、三二二九、三二二

九〇、五三七九

鄭經世の詩文集にして初め孝宗八年丁酉上刊し憲宗六年甲辰重刊し光武三年後孫夏默更に別集を追刊す原集二十卷には辭、詩、奏文、教書、咨帖、疏、劄、議、啓、辭、呈、文、書、雜、著、序、記、疏、表、箋、啓、檄、上、樞、文、祝、祭、文、墓、文、誌、狀、等、を、收、め、別、集、十、二、卷、に、は、詩、教、書、咨、帖、疏、劄、辭、狀、啓、辭、書、序、論、思、問、錄、養、生、篇、經、筵、日、記、等、を、收、め、第、四、卷、以、下、を、附、録、と、爲、し、年、譜、言、行、錄、墓、誌、銘、神

五三一

道碑銘、墓表、行狀、諡狀、賜祭文、挽詞、奉安文、常享祝文等を載す

鄭經世字は景仁、愚伏堂と號す、晉州の人なり、明宗十八年癸亥に生れ、早く西厓柳成龍に就て學ひ、宣祖十五年壬午進士となり、其の十九年丙戌登科し、湖堂に入る、光海君の時陳疏して旨に忤ひ、禍將に身に及ばんとして李恒福等の進言に依り解職に止まりて事なきを得たり、仁祖初年大提學を拜し、其の十一年癸酉に歿す、諡して文肅と云ふ、後文莊と改む

○ 水色集

八卷四冊 許禰著 印本

圖書番號 五二〇七、七三三

許禰の詩文集にして詩、賦、記、祭文、疏、劄、挽詞等を收む、孝宗九年の刊行に係る眉叟許穆の跋あり、許禰字は子賀、水色又尙古齋と號す、陽川の人、塾堂錦七世の孫なり、明宗癸亥に生れ、宣祖丁酉登科す、柳孝立の隱謀を告發せるを以て軍社功臣に策し、陽陵君に封せられ、官判尹に至る、仁祖庚辰に歿す、最も詩に工にして、當時宗匠の稱ある東岳李安訥

石洲權禔等も猶ほ且之を名家としたり

○ 芝峯集

三四卷一〇冊 李睟光著 印本

圖書番號 四二二七、五二七四

李睟光の全集にして、仁祖十一年癸酉子聖求、敏求等の編次上梓したるものなり、載する所衆體詩及安南唱和錄、琉球贈答錄、朝天錄、東槎錄、鶴城錄、洪陽錄、皇華集次韻禁中錄、續朝天錄、新恩唱和錄、昇平錄、別錄、雜著、采薪雜錄、讀書錄、解題辭、秉燭雜記、警語雜篇、剩說餘論等なり、又附錄三卷あり

○ 鳳村集

五卷 朴東說著 印本

圖書番號 五二二九、五七〇

朴東說の詩文集にして、從孫朴世采の蒐輯したるものなり、收むる所詩、教書、呈文、啓辭、啓、疏、書、跋、祭文、行狀、雜文等にして、肅宗丁巳に刊行す、附錄鳳洲稿は弟朴東亮の詩文集なり、朴東說字は說之、南郭又鳳村と號す、潘南の人、拙軒應福の子なり、明宗甲子に生れ、宣祖甲午進士を以て文科に魁たり、官大司成に止まり、光海君壬戌に歿す

朴東亮字は子龍、寄齋、鳳洲、梧窓等の號あり、潘南の人、拙軒應福の子なり、宣祖己巳に生れ己丑生員に中り、庚寅文科に登り、史局に選せられ、扈聖の功を録し、錦溪君に封せられ、官戸曹判書に至り、仁祖乙亥に歿す、諡を忠翼と云ふ。

○月沙集 六八卷二二冊 李廷龜著 印本

圖書番號 四六七三、五三二八、五三三一

李廷龜の詩文集にして、門人崔有海編刊し、肅宗十四年戊辰孫翊相、從姪喜朝等重刊す、收むる所詩、講語、辨誣錄、奏、呈文、咨、啓、揭帖、啓事、講義、啓辭、議、疏、劄、雜著、簡帖、書牘、記、序、跋、上、樑文、碑銘、墓碣、墓誌、墓表、碑陰、記、行狀、諡狀、祭文、哀辭、表、箋、冊文、教命文、教書、樂章、教謠、書契、露布、朝天紀事、附錄等なり。

○農圃集 六卷四冊 鄭文孚著 印本

圖書番號 一六七二、六七三九

鄭文孚の詩文集にして、閔鼎重及李端夏の蒐輯したるものなり、收むる所詩、賦、箋文、儷文、狀、啓、附錄等なり、詩は北路の風光を録し、文は當時の狀勢を窺ふに足るもの多し、玄孫之を刊行し、李太王二十七

集部

年庚寅九代の孫奕教重刊す

鄭文孚字は子虛、農圃と號す、海州の人にして、府使愼の子彦愨の孫なり、明宗乙丑に生れ、戊子に登科し、辛卯出でて北評事となり、鏡城に在り、宣祖壬辰、儒生李鵬壽、崔配天等と兵を起して、吉州に戰ひ、功あり、因て、占州牧使に陞る、仁祖甲子將に重用せられんとし、其の詩句を司き、獄案を爲し、捕へられて、鞠朽に死す、後北人等冤を告ぎ、祠を鏡城に立て、彰烈の號を賜ひ、諡して忠毅と云ふ。

○象村集 六三卷二〇冊 申欽著 印本

圖書番號 四七六九、六三四三、六七三一、七七三〇

申欽の詩文集にして、收むる所辭、賦、風體、樂府、古今體、詩、序、記、墓誌、墓表、墓碣、碑銘、行狀、哀辭、祭文、雜著、疏、劄、啓、說、書牘、題跋、應製錄、內集、雜著、外集、彙言、山中獨求、正錄、先天窺管、志、詔使姓名記、晴窓軟談、附錄等なり、子翊聖の編輯する所にして、原集、後集、續集に分ち、原集は直に上刊し、尋て後集、續集を出せしも、未だ以て、遍く傳ふるに足らず、仁祖十四年丙子、從弟翊亮と謀り、更に刪定を加へ、泰仁縣監たりし時

五三三

湖南の詩山に於て録梓す

申欽字は敬叔、象村と號す。平山の人にして、瑛の孫なり。明宗丙寅に生る。幼にして聰慧人に絶し。經傳子史既に遍覽して、象緯、律曆、算數、鑿卜の書亦悉く涉獵せざるなし。宣祖乙酉進士となり。翌丙戌登科し、頗る推重せられし。光海君の時志を得ず。春川の昭陽江上に退居す。仁祖癸亥吏曹判書を以て召され、尋て文衡を典り、相府に入り、戊辰に病歿す。諡して文貞と云ひ、仁祖廟庭に配食す。學行純醇、能文を以て知られ、月沙、李廷龜、谿谷、張維澤、堂李植と並に文章四家と稱せらる。

○ 聞灘集

四卷二冊 孫遴著 印本

圖書番號 四二七九

孫遴の詩文集にして、後孫廷煥の編次したるものなり。收むる所、詩書、記、祭文、年譜、附録等なり。

孫遴字は季進、聞灘と號す。一直の人、副尉德雲の子なり。明宗丙寅に生れ、丙午文科に登り、官禮曹正郎に至り、仁祖戊辰に歿す。寒岡鄭述の門下にして、強直を以て著はる。

○ 遯峰集

三卷二冊 金寧著 印本

圖書番號 一七六六

金寧の詩文集にして、後孫等の蒐輯したるものなり。收むる所、詩、賦、疏、書、奉安文、祝文、祭文、銘、墓碣、年譜、附録等なり。純祖九年己巳に刊行す。

金寧字は汝和、遯峰と號す。善山の人、習該崇烈の子なり。明宗丁卯に生れ、光海君庚戌進士に中り、壬子文科に登り、官副護軍に止まり、孝宗庚寅に歿す。寒岡鄭述及旅軒張顯光の門に遊ひ、經學あり。光海君の時、權奸の勢焰を顧みず、再ひ上疏して事を論す。

○ 睡隱集

六卷四冊 姜沆著 印本

圖書番號 五八七九

姜沆の詩文集にして、孝宗九年尹舜舉收輯せり。詩、賦、箋、啓、上、樞文、祭文、銘、疏、文、序、記、書、雜著、行狀、墓誌、墓碣等を四卷とし、看羊錄一卷、附録及別集一卷あり。看羊錄は宣祖壬辰日本に拘留せられし時の日記にして、別集は課製文なり。

姜沆字は大初、睡隱と號す。晋州の人にして、希孟五世の孫なり。明宗丁卯に生れ、宣祖癸巳に登科し、官佐郎に至る。丁酉父と俱に李舜臣の營に赴かんとす。

欲し二船を舫して到るや適ま風伯の襲ふ所となり船相失し遂に拿へられて日本に至り大阪を歴て伏見城に送られ居ること四年輿地官號及強弱の勢を録し密に之を宮廷に致せり宣祖見て嘉賞すと雖終に大に用ひられず光海君戊午に歿す

○竹窓集

一〇卷二冊 姜籀著 印本

圖書番號 五二一

姜籀の詩文集にして子栢年の蒐輯したるものなり詩賦序記説教書祭文等を收め附録として神道碑銘墓誌銘等を載す孝宗五年甲午の上刊に係る姜籀字は師古竹窓と號す晋州の人雲祥の子なり明宗丙寅に生れ宣祖乙酉進士に中り丙申文科に登り翰苑に入り光海君の時仕へすして官僉知中樞府事に止まり孝宗庚寅に歿す子雪峰栢年文名あり

○市隱集

二卷一冊 韓舜繼著 印本

圖書番號 二四二四

卷の一は詩各體及記一篇を載せ卷の二は附録として各人の撰に係る遺事狀碣及褒贈祠享に關す

集部

る顛末を收む趙有善之を編輯し英祖二十五年癸巳印行す

韓舜繼字は仁淑交河の系なり花潭徐敬德に學ぶ栗谷李珣牛溪成渾等常に來り見る當時の人士亦其の篤行を慕ひ市隱と號せり宣祖の時年五十九にして歿す英祖己未行誼を以て持平を贈り鄉賢祠に享す

○蓀谷集

六卷一冊 李達著 印本

圖書番號 五三三、五三四、五三五

李達の詩集にして光海君十年許穎之を編輯し肅宗十九年に印出す

李達字は益之蓀谷と號す洪州の人なり雙梅堂詹の庶裔にして宣祖の時の人なり家世世寒微にして終に官に就かず然れども詩名一世に振ひ孤竹崔慶昌王峰白光勳と友とし善し時人之を呼ぶに三唐を以てす其の詩數篇明の尙書牧齋錢謙益の撰中に收むるものあり

○蘭雪軒集

一冊 許氏著 寫本

圖書番號 二八四三

五三五

金誠立の妻許氏の詩集にして弟筠之を哀輯したるものなり收むるに詩各體を以てし終に廣寒殿白玉樓上櫟文を附す卷首の序は明使翰林梁有年の撰に係る

許氏は蘭雪軒と號し宣祖の時の人草堂許暉の女にして岳麓箴荷谷簞蚊山筠と兄弟たり俱に詩を以て名あり而も許氏女流を以て之か冠たり出て西亭金誠立に嫁せしも早折せり

○慕夏堂集

三卷一冊 金忠善著 印本

圖書番號 六五二九

金忠善の遺稿にして憲宗八年壬寅編刊し李王隆熙二年戊申更に之を重刊せり第一卷に疏狀書記雜著第二卷に年譜第三卷附録に諸家寄稿の詩及書並に行録行狀墓誌碣傳其の他祭文等載す
金忠善字は善之慕夏堂と號す大邱の三聖山下友鹿村に住し李适の變に出て功あり仁祖丙子清軍京城に入るや勇氣老ひて衰へす晝夜兼行して京に上る時に王既に南漢城に遷れり乃ち雙嶺に至り大に戦ひ殺傷無數南漢に達する時和議已に

決せり是に於て大に哭して曰く豈に禮義の邦を以て膝を醜會に屈すへけんやと劒を投して友鹿村に歸り堂に匾して慕夏と云ひ其の壬午に歿す

○石樓遺稿

四卷四冊 李慶全著 印本

圖書番號 四七八三

李慶全の遺稿を集めたるものにして收むる所律詩絶句疏祭文記跋説銘歌謠教書上櫟文序等なり
李慶全字は仲集石樓と號す韓山の人にして鶯溪山海の子なり宣祖庚寅文科に出身し選はれて湖堂に入り官判中樞に至り韓平君に封せらる

○霽湖集

一三卷二冊 梁慶遇著 印本

圖書番號 一三六五、六二〇

梁慶遇の遺稿にして仁祖二十五年丁亥孫諱の編刊せしものなり原集十一卷續集二卷にして詩話雜著紀行誌銘等を收め子進士振鬪の伊村集を尾附せり
梁慶遇字は子漸霽湖又は點易齋と號す南原の人なり梁大槓の子にして宣祖丁酉文科に登り丙辰重試に中り官奉常僉正に止る

○ 沈亭集

八卷四冊 李彥英著 印本

圖書番號 四四九九

李彥英の詩文集にして詩書疏、呈辭、啓、狀、啓、雜著、說、論、殿策、祭文、墓誌、墓碣、狀、錄、遺事、年譜、附錄等を收む。李彥英字は君顯、沈亭は其の號にして碧珍の人佐郎、鄧林の子なり。宣祖戊辰に生れ辛卯司馬に中り。癸卯文科壯元に登り仁祖己卯に歿す。官判決事に至る。

○ 石潭集

六卷四冊 李潤雨著 印本

圖書番號 四二五

李潤雨の詩文集にして詩書、筭、啓、辭、箋文、呈文、銘序、記、跋、祭文、墓碣、墓誌、行錄、雜著等を收め附録として實記、年譜、家狀、輓章等を載せり。

李潤雨字は茂伯、號は石潭、廣州の人。遁村集の後なり。宣祖己巳に生れ辛卯進士に中り丙午文科に登り翰林に歴任し靖社原從功に録し官參議に至り仁祖甲戌に歿す。丙戌吏曹參判を追贈せらる。寒岡鄭述に従遊して文學行義當世に推重せられたり。

○ 南坡相國集

六卷三冊 沈悅著 印本

集部

圖書番號 四八六五

沈悅の詩文集にして顯宗六年乙巳趙遠期任義伯等之を編刊す。主として疏、筭を收め第一卷に詩若干を載す。

沈悅字は學而、南坡と號す。青松の人なり。四養堂忠謙の子にして出てて府使禮謙の後を繼げり。宣祖己巳に生れ癸巳登科し史局に入り三司を歴て仁祖の初年戸曹判書となり尋て右相を拜し領議政に至り耆社に入る。丙戌に歿す。諡して忠靖と云ふ。

○ 石洲集

一三卷五冊 權鞞著 印本

圖書番號

一七八一、三〇八五、三〇八六、三〇八七、三〇

八八、三〇八九、三〇九〇、三〇九一、三二九二、三二九三、五〇七六、五〇七九、五〇八〇、五〇九四、七〇二四

權鞞の詩文集にして仁祖十年癸酉參判洪養公州に尹たりし時上刊せしものなり。初め原集八卷外集一卷ありしか。顯宗甲寅其の友李東稷全羅觀察使たる時別集二卷外集一卷を編し又子伉の松庵遺稿を附す。

權鞞字は汝章、石洲と號す。習齋擘の子にして宣祖

五三七

己巳に生る壬辰行在に上書して李山海並に柳成龍を斬らんことを請ふ教官を拜して仕へず光海君の時妃兄柳希奮か事を用ひ任疏庵を削科せるを傷み詩を以て之を諷し獄禍を被り壬午に歿す

○敬菴集

七卷三冊 盧景任著 印本

圖書番號 四七〇四

盧景任の詩文集にして正祖八年後孫憲之を編刊す收むる所詩辭書、雜著、序記、說辨、識、遺事、祭文等なり附録に行狀、墓誌銘、祭文、詞等を收め續集に詩書、雜著、遺事、祭文、墓誌等を載す

盧景任字は弘仲敬庵と號す旅軒張顯光の甥なり宣祖己巳に生る早歲旅軒に學ひ西厓柳成龍の姪女を娶る宣祖辛卯文科に登り翌年壬辰義を唱へ旅を募り南方の鎮たり官校理に止まる又扈從の勞を以て承旨を贈らる

○惺所覆瓿稿

四二卷一二冊 許筠著 寫本

圖書番號 六二八六、六七一八

許筠の詩文集にして光海君三年自ら編次せしも

のなり第一卷より二十二卷に賦詩記、傳書論、說辨、雜文、跋、箴、銘、頌、贊、誄、哀辭、祭文、行狀、碑、表、誌、紀行、尺牘等を收め外に惺翁識小錄及閑情錄十七卷あり序、跋、目錄を合せて四十二卷なり、閑情錄は隱遁、高逸、閑適、退休、游興、雅致、崇儉、任誕、曠懷、幽事、名諫、靜業、玄賞、清供、攝生、治農の十六門に分ち別に詩、賦、雜文及瓶花史、觴書、金湯等を附せり

許筠字は端甫、蛟山と號す陽川の人なり宣祖己丑生員に中り甲午文科に登り官判官に至る詩文を善くし名國中に置し常に無據の言を幻作して朝野をして顛倒せしむ晚年李爾瞻の手足となり力を光海君廢母の事に盡し戊午誅せらる

○龜村遺稿

二冊 李溟著 寫本

圖書番號 一一六三三

李溟の遺集にして收むる所詩若干篇、上疏、附録等なり

李溟字は子淵、龜村又己百堂と號す全州の人吏郎廷賓の子なり宣祖庚午に生れ辛卯進士に中り丙午文科に第し官戸曹判書に至り仁祖戊子に歿す

○敬亭集 一三卷四冊 李民茂著 印本

圖書番號 五三四八

李民茂の詩文集にして詩記賦序啓辭論題跋表祭文、襍著、上樑文、銘等を收む論に東海無潮汐論、守道不如守官論、孟子不尊周論、階伯論等あり、顯宗五年甲辰子廷機之を刊出す

李民茂字は寬甫、敬亭と號す、永川の人にして鶴洞光俊の子なり、詩文に長し、曾て使を奉して燕京に入り、文墨の名を馳す、宣祖丁酉登科し、湖堂に入り、宣祖、仁祖兩代に歴史して官承旨に止まる

○清陰集

四〇卷一四冊 金尙憲著 印本

圖書番號 四二四七、五一〇三、五四九六

金尙憲の詩文集にして詩表、箋、教書、冊文、哀辭、祭文、銘、贊、頌、國書、疏、劄、啓、議、碑、碣、誌、狀、記、序、題、跋、書、牘、雜著等を收輯す

○北渚集

九卷三冊 金塗著 印本

圖書番號 五七八九、七〇九一、七三〇五

金塗の詩文集にして、孝宗九年孫震標か清州に宰

集部

たる時編刊せしものなり、詩、祭文、疏、劄、碑、銘、雜著等を收め別集として箋、教書、樂章、議、啓、辭、數編を載す

金塗字は冠玉、北渚と號す、順天の人にして、坡、裘、汝、物の子なり、宣祖辛未に生れ、丙申登科し、光海君の時私親追崇の議に赴かす、仁祖癸亥、默齋李貴、谿谷張維等と義を擧げ、反正に依りて、靖社功臣一等勳に錄せられ、昇平府院君に封せらる、官右相を拜し、尋て領議政に至り、後文衡を典り、耆社に入り、戊子に歿す、諡して文忠と云ひ、仁祖廟庭に配食す

○九畹集

四卷二冊 李春元著 印本

圖書番號 四三三六、四三三七

李春元の詩集にして、雜著、附錄及補遺あり、李春元字は元吉、九畹と號す、咸平の人にして、縣監允字の孫なり、初名を信元字を玄之と云ふ、宣祖辛未に生れ、庚寅進士となり、丙申登科し、光海君に歴史し、直節を以て著はれしか、官監司に至りて罷められ、仁祖甲戌に歿す

○松竹堂集

四卷二冊 鄭文翼著 印本

圖書番號 四〇三九

五三九

鄭文翼の詩文集にして後孫基永の蒐輯せしものなり收むる所詩策、疏啓、書文、附録等にして首に系譜年譜を載す李太王光武二年戊戌之を刊行す鄭文翼字は衛道、松竹堂と號す草溪の人贈吏判應鐸の子なり宣祖辛未に生れ丙午進士に中り光海君辛亥文科に登り湖堂に選はれ仁祖甲子李适の亂に戰功あり振武原從勳一等に策し官吏曹參判に至り癸卯に歿す

○東岳集

三〇卷一三冊 李安訥著 印本

圖書番號 五六三六、五六三九、五七七一、六七一六、

六七一七、六九四三、七七〇三

李安訥の詩文集にして載する所北塞錄、遠征錄、朝天錄、東槎錄、湖西錄、端州錄、洪陽錄、萊山錄、潭州錄、錦溪錄、月城錄、江都錄、關西後錄、關西續錄、東遷錄、江都後錄、咸營錄、朝天後錄、湖營錄、拾遺錄、集字體、其の他賦鈔、雜著鈔等なり又續集別錄及附録あり仁祖十八年庚辰姪椽全州判官たりし時之を刊行す李安訥字は子敏、東岳と號す德水の人にして容齋

持の曾孫なり宣祖辛未に生る幼時神童を以て稱せられ宣祖己亥登科し官兩館提學禮曹判書に至る適ま仁祖甲子李适の獄に坐し慶源に配せられ居ること二年にして洪州に移配せられ其の五年宥されて還る壬申使して燕京に入り還りて正憲に陞り丁丑に歿す諡して文惠と云ふ詩を以て當時に知らる

○潜窩遺稿

四卷二冊 李命俊著 印本

圖書番號 一六五三

李命俊の詩文集にして子顯基等の蒐輯したるものなり收むる所年譜、詩、疏、箋、書、祭文、策、序、雜著等にして附録あり

李命俊字は昌期、潜窩と號す全義の人清江濟臣の子なり宣祖壬申に生れ辛丑進士に中り癸未文科に魁たり官刑曹參判に止まり仁祖庚午に歿す

○鶴湖集

四卷二冊 金奉祖著 印本

圖書番號 三六二五

金奉祖の詩文集にして收むる所詩賦、疏、啓、箋、書、記、祭文、殿策、祝文、宗訓、行狀、附録等なり、首に世系及年

講を載す

金奉祖字は孝伯、鶴湖と號す、豊山の人、悠然堂大監の子なり、宣祖壬辰に生れ、辛丑進士に中り、光海君癸丑文科に登り、官持平に止まり、仁祖庚午に歿す

○ 鶴谷集

八卷四冊 洪瑞鳳著 印本

圖書番號 七二〇九、七二三八

洪瑞鳳の詩文集にして、詩、疏、劄、啓、議、碑、碣、誌、祭文、應製文、科表等を收む、又附録上下二卷あり、子命一の葆翁遺稿を附せり

洪瑞鳳字は輝世、鶴谷と號す、南陽の人にして、栗亭天民の子なり、宣祖壬申に生れ、庚寅進士、甲午文科、戊申重試に中り、湖堂に入る、仁祖癸亥靖社功三等、竝に寧社功二等の兩勳に録し、益寧府院君に封せられ、又大提學を拜す、丙子右議政となり、尋て領議政に至り、耆社に入り、乙酉に沒す、諡して文靖と云ふ

○ 菊潭集

二冊 朴壽春著 印本

圖書番號 五六四九

朴壽春の遺稿にして、第一冊は三卷に分ち、其の一

集部

卷には詩、賦、疏、檄、序、箴、銘等を收め、二卷には文と雜

著三卷には附録として、諸人の讚詠を載す、而して第二冊は世系圖、追先錄と、諸人の遺墨を編し、附録には神道碑銘を載せり、英祖元年乙巳、後孫履周の刊行する所なり

朴壽春字は景老、菊潭と號す、密陽の人、無盡齋慎の子なり、宣祖壬申に生れ、孝宗壬辰に歿す、文行あり、戶曹參議を贈らる

○ 海峯集

三卷三冊 洪命元著 印本

圖書番號 五七五四、五七五五

洪命元の詩文集にして、詩、各體及書牘、呈文、議、記、祭文等を收む、仁祖丙子の胡亂に際し、數度明に使し、外患の切迫を陳へ、揀援を揅ひたる呈文七、八篇あり

洪命元字は樂天、海峯と號す、南陽の人なり、宣祖癸酉に生れ、丁酉に登科し、官京畿監司に至る、石壁春卿の曾孫にして、家世世文學を崇尚し、弟無適堂命亨と共に名聲あり、仁祖癸亥に歿す

○ 潜冶集

一〇卷五冊 朴知誠著 印本

五四一

圖書番號 四〇八六

朴知誠の詩文集にして英祖四十二年元景淳全羅觀察使たりし時刊行す載する所疏書祭文雜著墓碣禮辨筭錄附錄等なり

朴知誠字は仁之、潜冶と號す咸陽の人にして逍遙堂世茂の孫なり宣祖癸酉に生る幼より至孝長して學問に篤く山林に隱棲して承旨の徵に就かず仁祖乙亥に歿す文穆と諡し牙山書院に配享せらる

○ 隱峰全書

三八卷一五冊

安邦俊著 印本

圖書番號 五三四九

安邦俊の全集にして、收むる所詩、疏、書、墓文、行狀、遺事、記事、祭文、序、記、跋、銘、箴、雜著、遺蹟、編錄及附錄等なり李太王元年甲子刊行す

○ 慎獨齋遺稿

一五卷五冊 金集著 印本

圖書番號 七四八〇

金集の遺稿を集めたるものにして原集に詩、疏、經筵奏辭書及沙溪、月塘、臨汀等の行狀、附錄に賜祭文、

孝宗廟庭配享教書、諡狀、神道碑銘、墓誌銘、墓表、遺事等を收む

○ 茶山集

二卷二冊 陸大欽著 印本

圖書番號 六九三〇、六九三六

陸大欽の詩集にして肅宗十一年猶子存善の編刊したるものなり

陸大欽字は湯卿、茶山又竹塢と號す泗川の人參判詹の子にして梅溪叙欽及孤石長欽の弟なり宣祖乙亥に生れ乙巳登科し仁祖に事へて官承旨に至り戊寅に歿す詩を以て名あり

○ 湖洲集

七卷三冊 蔡裕後著 印本

圖書番號 五三七〇

蔡裕後の詩文集にして肅宗三十一年乙酉從孫彭胤之を刊行す

蔡裕後字は伯昌、湖洲と號す平康の人なり宣祖乙亥に生る仁祖癸亥生員を以て文科に登り官吏曹判書に至り文衡を典り顯宗甲子に歿す諡して文惠と云ふ

○ 簡齋集

一冊 邊中一著 印本

圖書番號 二八二五、五二六一

邊中一の詩文集なり後孫道新正基等之を收輯し
哲宗十一年庚申之を刊行す收むる所詩書記祭文
附録等なり

邊中一字は可純簡齋と號す原州の人東湖永清の
孫なり宣祖乙亥に生れ顯宗庚子に歿す薦を以て
恭奉を授けられしも仕へず肅宗丙寅按廉使其の
忠孝實蹟を以て聞し閭に旌す

○ 晚雲遺稿

二冊 鄭忠信著 寫本

圖書番號 六九〇〇

鄭忠信の遺稿にして世系年譜、日記、事蹟及贊揚の
文字を收載す

○ 歸休堂集

三卷一冊 李培元著 印本

圖書番號 一四二七

李培元の詩文集にして一、二卷は詩文三卷は附録
なり後孫慶一等之を編定し哲宗二年辛亥後孫敦
輿等之を刊行す載する所詩記、說、墓誌等にして附
録は遺事、行狀、致祭文、序、記、詩、別錄等なり

李培元字は養伯、歸休堂と號す咸平の人咸川君良

集部

の玄孫なり宣祖乙亥に生れ辛丑司馬に中り壬子
文科に登り官參議に至り仁祖癸巳に歿す左議政
を贈らる

○ 竹陰集

一六卷六冊 趙希逸著 印本

圖書番號 六八三〇、七八一五

趙希逸の詩文集にして孫景望之を編刊し肅宗十
一年曾孫正萬更に重刊す收むる所賦、辭、詩、應製文、
上樑文、啓、表、箋、簡、策、祭文、記、序、跋、雜著、墓碣、墓誌、行狀
等にして附録に神道碑銘、祭文等を載す宋時烈、金
壽恒、李敏叙等の序あり

趙希逸字は怡叔、竹陰と號す林川の人にして雲江
媛の子なり宣祖乙亥に生れ辛丑進士壯元に擡ち
翌壬寅登科し尋て復た戊申重試に中る官禮曹參
判に至り戊寅病に歿す少時、家庭に學ひ長して清
陰金尙憲、守夢、鄭曄等の推許する所となり時望籍
甚たりしも官途振はすして終る詩文の外經史質
疑の著あり

○ 震峰集

二卷一冊 權宏著 印本

圖書番號 五三八二

五四三

權宏の遺稿にして純祖三十二年壬辰六代の孫勃の蒐輯刊行したるものなり

權宏字は仁甫震峰と號す安東の人恣齋大器の子なり宣祖乙亥に生れ仁祖丁卯行儀を以て薦められ尙方別座を授かる仁祖丙子の江都に扈駕し戊辰昭武寧社兩勳に原從を以て錄せられ官副率に至り南漢下城の後復た仕へず孝宗壬辰に歿す

○疎菴集

八卷三冊 任叔英著 印本

圖書番號 五七七三

任叔英の詩文集にして原集拾遺及附錄あり原集には詩賦序制箋啓書碑銘墓誌上樑文疏等拾遺には五七絶五七律詩記序等附錄には應酬の詩及祭文等を收む

任叔英字は茂叔疎菴と號す豊川の人にして竹庄説の曾孫なり宣祖丙子に生れ辛丑舉に赴き進士に中りしも科擧を以て意と爲さず光海君辛亥別試對策に宮闈の弊を指陳すること數千言考官沈喜壽之を奇とし擢して甲科第一と爲すや同列聽かす之を丙科の末に置く光海君亦試官を峻責し

且叔英の名を削るべきを命す領相李德馨等切諫總に其の名を復することを得たり壬子承文院に入りしか癸丑廢母の議に赴かず仍て職を罷められ家居すること十年仁祖癸亥反正の時未だ擢用を得ずして没す官脩撰に止まる

○化堂集

五卷三冊 申敏一著 印本

圖書番號 五二二七

申敏一の詩文集にして肅宗の時曾孫鉉之を編次し後湖南按察使たる玄孫思詰に送本して上梓せしむ收むる所賦詩銘箴上樑文序記論說跋書疏笥封事啓辭行狀墓誌別稿雜著等なり

申敏一字は功甫化堂と號す平山の人なり宣祖丙子に生れ光海君乙卯文科に登第し官大司成に至る嘗て牛溪成渾の門に遊ひ牛溪其の學問夙就を愛し孫女を以て之に娶はず潜谷金埴浦渚趙翼と莫逆の交あり孝宗庚寅に歿す

○溪巖集

六卷三冊 金埴著 印本

圖書番號 五二八四

金埴の詩文集にして英祖四十八年大山李象靖の

付梓刊行する所なり收むる所詩書疏祭文表箋雜著附録等なり

金玲字は子峻、溪巖と號す光州の人にして雲月堂富倫の子なり宣祖丁丑に生る父富倫退溪李滉に學ひ踐履篤實なりしか玲亦庭訓に濡染して操守堅確なり光海君の時文科に出身し官司諫に至る仁祖中興の後遭斥せられし者及自避せし者を召用するに際し堅く執りて應せず英祖の樹立を嘉尚し殷の三仁に比す仁祖辛巳に歿す

○ 休翁集

一冊 沈光世著 印本

圖書番號 五五七八

沈光世の詩集にして仁祖十三年乙亥子摠等之を刊行す

沈光世字は德顯、休翁と號す青松の人義謙の孫なり宣祖丁丑に生れ辛丑登科し應教を拜し光海君己未固城に竄せられしか癸亥反正に當り校理を以て召還せらる仁祖甲子李适の反するや行在に赴かんとして途に歿す

○ 月峰集

九卷一冊 高傳川著 印本

集部

圖書番號 四二九一

高傳川の詩文集にして玄孫萬紀之を蒐輯し六代の孫時佐又之を編次す詩程文疏、筭啓辭、應製錄、祭文、祝文、教書、墓碣、附録及年譜等を收め哲宗十一年庚申後孫勉鎮之を刊行す

高傳川字は君涉、月峰と號す長興の人霧峰敬命の孫鶴峯因厚の子なり宣祖戊寅に生れ乙巳進士に中り光海君乙卯文科に登りて靖社原從一等勳に録せられ官掌令に止まり仁祖丙子に歿す傳川一家三節の門に出て布衣の時より正言直諫を以て盛名あり文章は特に其餘事なり

○ 丹圃遺稿

一冊 趙希進著 印本

圖書番號 七〇八七

趙希進の遺稿にして孫德常之を輯集し詩賦策、墓碣等を收む英祖三十七年辛巳に刊行す

趙希進字は與叔丹圃と號す林川の人承旨瑗の子竹陰希進の弟なり宣祖己卯に生れ丙午進士に中り光海君丙辰文科に登り官掌樂正に止まる仁祖甲申に歿す

五四五

○浦渚集 三五卷一八冊 趙翼著 印本

圖書番號 三五二二、四六八〇

浦渚趙翼の遺稿にして詩疏、筭、啓、辭、書、雜著、序、記、跋、箴、銘、教文、教書、箋、呈文、移咨、策問、祝文、祭文、墓文、行狀等を收む

○朽淺集 八卷四冊 黃宗海著 印本

圖書番號 五四五六

黃宗海の詩文集にして子鶴立の蒐輯したるものなり。詩、疏、書、國家喪禮、冠昏喪祭禮、雜禮、祭文、序、說、跋、墓表、誌、錄、行狀、雜著、附錄等を收む。肅宗三十九年癸巳族孫燦固城郡守たる時之を刊行す

黃宗海字は太進、號は朽淺、懷徳の人徳休の子なり。宣祖乙卯に生れ、仁祖戊辰蔭仕に補せられ、官別提に止まり、壬午に歿す。鄭寒岡に親炙し、尤も禮學に邃にして孝友の稱あり

○潜谷遺稿 一一卷一〇冊 金埴著 印本

圖書番號 一七八二、四八九一、七三〇九

金埴の遺稿にして收むる所詩、賦、疏、筭、啓、辭、書、應製、錄、墓誌、表、箋等百篇に上る。附するに別稿及補遺一

冊を以てし別稿には表、箋、賦、策、補遺には疏、筭、錄、策題、詩を載す

○月塘集 一〇卷五冊 姜碩期著 印本

圖書番號 六七四一

姜碩期の詩文集にして英祖四十八年壬辰後孫命達之を哀聚刊行す。收むる所詩、疏、筭、議、筵、對、應製文、祭文及附錄等なり。又別集として疑禮問解二卷を附せり

姜碩期字は復而、月塘と號す。衿川の人にして東郭燦の子なり。宣祖庚辰に生る。少にして沙溪金長生の門に學ひ、最も禮說に嫻熟す。光海君丙辰文科に登第し、未だ幾もなくして廢母の事作り、爲に世と絶ちしか。仁祖反正の初庶事草創に際し、主として整理に軼掌し、其の功多きに居る。官右相に至り、甲戌に歿す。文貞と諡す

○痴巖逸稿 二卷一冊 裴尙益著 印本

圖書番號 四七五三、六七八三

裴尙益の遺稿にして後孫漢奎、漢周、永協等之を蒐集し、成鍾震に托して編次したるものなり。李太王

八年辛未之を刊行す附録あり

裴尙益字は益哉痴巖と號す達城の人牧使應の子なり宣祖辛巳に生れ光海君丙辰生員に中り仁祖甲子文科に登りて官判官に止まり辛未に歿す丁卯清亂の時江都に扈從し史官を以て權臣李貴の闕失を直書したるため怒に觸れ官途振はず

○ 崎菴集

一二卷四冊 鄭弘溟著 印本

圖書番號

四七四一、四七六八、六一四五

鄭弘溟の詩文集にして孝宗四年癸巳子涖及姪澆の編刊する所なり原集十卷には詩賦、表、箋、教書、上樞文、檄、疏、祭文、哀辭、誌銘、書、跋、記、辨を收め續錄二卷には疏書、啓、揭帖、遺事、陰記、誌銘、祭文、記、雜著、問目、漫述等を收め附録として墓誌銘及祭文、挽詞を載せり

鄭弘溟字は子容崎菴と號す松江澈の子なり宣祖壬午に生る少にして龜峰宋翼弼に從學し長して沙溪金長生の門に遊ぶ光海君の時登科し官大提學に至る谿谷張維、白軒李景奭と文章の交を爲し互に相推許す

集部

○ 秋山集

二卷一冊 朴弘中著 印本

圖書番號

五二八八、二二二六

朴弘中の詩文集にして七代の孫東奎の蒐輯したるものなり詩、序、記、疏、書、墓誌、祭文、雜著、傳表、啓、策等を收め憲宗丙午之を刊行す

朴弘中字は子建秋山と號す慶州の人松溪好謙の曾孫なり宣祖壬午に生れ庚子進士に中り戊申蔭仕を以て洗馬を拜し仍て抄選せられ官掌令に止まり孝宗丙戌に歿す文章器局を以て一時の名碩と交遊し光海君の時李爾瞻を疏撃し又沈礮、金振直と潜に、西宮に糧を納めしたるため再度遠島に流さる

○ 時菴集

七卷三冊 趙相禹著 印本

圖書番號

五三四七

趙相禹の詩文集にして憲宗乙巳六代の孫椽圭の纂輯したるものなり古詩、絕律、乙丑封事、丁卯封事、書、雜著、序、箴、贊其の他を收め附録に行狀、遺事、誌銘を收む

趙相禹字は夏卿時菴と號す楊州の人なり宣祖壬

五四七

午温陽の梅谷に生る少時至孝を以て聞え稱や長して沙溪金長生に師事し又學行の譽あり孝宗の時參奉に除せられたるも就かす其の八年丁酉に歿し特に閭に旌せらる

○琴巖集

一冊 宋夢寅著 印本

圖書番號 五七一四

宋夢寅の遺稿にして詩百五十餘篇と啓一篇あり光海君七年乙卯夫人閔氏之を收拾し内舅李晬光に托して編校し翌年丙辰友人李時稷之を刊行す李太王二十七年庚寅後孫炳俊等更に琴巖の墓銘遺事及閔夫人の輓詞を附して重刊せり
宋夢寅字は文炳琴巖と號す恩律の人贈承旨玲の子なり宣祖壬午に生れ乙巳司馬に中り光海君壬子に歿す

○孤青遺稿

一冊 徐起著 印本

圖書番號 七七九〇

徐起の詩を集めたるものにして英祖二十六年庚午洪啓禧か遺稿を散佚の餘に集めしものなり其の詩は纔に數首に止まり全卷殆ど附録より成る

而して附録には守菴朴枝華撰墓碣銘屏溪尹鳳九撰行狀願菴宋寅重峯趙憲西溪李得胤其の他門人等の祭文並に晦谷申愈の墓文等を載し洪啓禧の跋を附せり

徐起字は待可孤青、願窩龜堂の號あり利川の人に於て家寒微なり宣祖癸未に生る百家諸書を涉獵し特に釋氏を好みて大乘を究めたり又山水を愛し各地を周遊し名勝殆ど歴訪せざるなし晚に公州の孤青峯下に卜居して身を講學に委ね竟に仕へず孝宗辛卯に歿す

○南磻集選

一冊 羅海鳳著 印本

圖書番號 二五八六

羅海鳳か仁祖十二年甲戌の歲第二子休に命し其の詩文を哀集繕寫せしめ正祖の時に至り六世の孫學慎か谿磻酬唱と共に上梓したるものなり收むる所詩、檄、序、記、傳、上樑文、箴等にして遺事を末に附せり

羅海鳳字は應瑞南磻と號す羅州の人にして忠烈公德憲の從子なり宣祖甲申に生れ仁祖の初年遺

逸を以て參奉に除せられたるも就かす後別提に至り戊寅に歿す睡隱姜沆に就學し文辭甚だ優婉なり

○澤堂集 三四卷一七冊 李植著 印本

圖書番號 四三四三、四九二八、六五五三、七七一〇、七七

一一

李植の詩文集にして憲宗十五年甲寅全羅監司李東植之を刊行す收むる所原集は詩、教書、咨文、呈文、揭帖、疏、筭、序、引、跋、記、墓誌、碑銘、墓碣、墓表、續集は各體詩別集は、奏文、咨文、揭帖、冊文、教書、批答、箋、啓、檄、國書、疏、筭、啓辭、序、引、跋、記、墓誌、碑銘、墓碣、墓表、行狀、行錄、志、傳、說、箴、銘、賦、祭文、上樛文、募緣文、經筵日記、執策問、殿策問、雜著、書等なり

○白江集 一五卷八冊 李敬輿著 印本

圖書番號 四四一四、四四一五、六二七五、六二七六、六

二七七

李敬輿の詩文集にして肅宗十年子敏叔の哀輯印行したるものなり詩、疏、筭、啓辭、收議、呈辭、祭文、碑誌、行狀、策問、表、箋、教書、雜書等を收む宋時烈の序あり

集部

李敬輿字は直夫、白江又鳳巖と號す牧使綬祿の子にして世宗の別子密城君琛五世の孫なり宣祖乙酉に生れ辛丑に進士となり、光海君己酉登科し仁祖の時相府に入り尋て領議政に至りしか世子冊立に關して旨に忤ひ遂に遠配せらる孝宗登極の後召されて眷遇を承け耆社に入り丁酉に歿す諡して文貞と云ふ子敏叙は西河と號し官に登り且文名あり

○白石遺稿 五卷二冊 柳楫著 印本

圖書番號 四〇七三

柳楫の遺稿にして後孫光徳の哀輯に係り純祖三十二年壬辰光徳の子命基之を上梓せり詩、文、書、疏、序、說、墓銘等を收め官職、除拜、狀、誌、書牘等を附録とせり

柳楫字は用汝、白石と號す沙溪金長生の門人なり宣祖乙酉に生れ光海君丙辰生員となり仁祖の初年其の師沙溪の推薦に因り察訪に拜せられたるも幾許もなくして官を棄てて郷に歸り己丑に歿す

五四九

○ 澗松集 七卷四冊 趙任道著 印本

圖書番號 一一六五〇

趙任道の遺集にして本集五卷別集二卷あり本集には詩、疏、書、襍著、序、記、跋、箴、銘、祭文、祝文、碑誌、行狀等を收め卷首に世系年譜を冠し別集には序、說、記、錄及附録等を收む英祖二十年甲子玄孫弘燁之を刊行す

趙任道字は德勇澗松と號す生六臣漁溪旅の五世孫にして宣祖乙酉に生れ仁祖甲戌恭陵參奉を拜し顯宗戊申に歿す官工曹佐郎に至る

○ 伊溪遺稿 二冊 李賓國著 寫本

圖書番號 四七五八

李賓國の遺稿にして尾に四隱居士李禪撰する所の墓誌銘を附せり

李賓國字は欽卿號は伊溪全義の人宣教郎萬春の子なり宣祖丙戌に生れ仁祖の初才行の選を被り參奉に補せられ官縣監に至り孝宗癸巳に歿す

○ 龍洲遺稿 二三卷一二冊 趙綱著 印本

圖書番號 四四九八、四五九〇、四七一九

趙綱の遺稿を集めたるものなり載する所絶句、律詩、古詩、疏、筭、啓、辭、跋、說、記、辨、襍著、文、教書、誄、墓文、行狀及東槎錄等なり

○ 遲川集 一九卷八冊 崔鳴吉著 印本

圖書番號 五〇六二、五一三四、六五五二、六八六八

崔鳴吉の詩文集にして孫錫鼎、錫恒と共に編刊したるものなり載する所詩、疏、筭、啓、辭、收議、雜著、祭文、記、序、箴、書、跋、行狀、碑、碣、墓誌等なり

○ 谿谷集 三六卷一八冊 張維著 印本

圖書番號 五七六二、六七五〇、六九〇四、七〇〇〇

張維の詩文集にして原集三十四卷漫筆二卷より成り仁祖二十一年癸酉子善徵之を刊行す詞、賦、表、箋、教書、冊文、箴、銘、贊、雜著、說、序、記、祭文、碑、誌、狀、疏、啓、奏、咨、檄、帖及詩各體を收む

○ 孤山遺稿 六卷六冊 尹善道著 印本

圖書番號 二二八二、二二八三、五三三四

尹善道の遺稿を集めたるものにして多く詩、歌、賦、辭、書、疏、序、記類を載せ別集に俗歌を錄せり
尹善道字は約而孤山と號す海南の人にして駱村

毅中の孫なり宣祖丁亥に生れ光海君の壬子進士となり權臣李再瞻等を疏斥し極邊に竄せられ仁祖反正後始めて赦され麟坪大君の師傅となる癸酉遂に文科に登り官叅議に至る禮議を以て北邊に竄せられ宥還未だ幾ならずして顯宗辛亥に歿す正卿を贈られ忠憲と諡す

○竹南堂集 一二卷三冊 吳竣著 印本

圖書番號 六二九六

吳竣の詩文集にして肅宗十五年外孫李鳳朝が杆城に守れる時刊行せるものなり詩疏筭祭文銘雜著等を收む附録あり

吳竣字は汝完竹南と號す同福の人にして默齋百齡の子なり宣祖丁亥に生る光海君の戊午に登科し官判中樞事に至る詩文は當時名匠の推許する所にして又筆翰を善くす顯宗丙午に歿す

○鶴沙集 一〇卷五冊 金應祖著 印本

圖書番號 四三八〇

金應祖の遺稿にして英祖の時曾孫牧使倣之を勸訂し郷人合力して之を鋟梓す本集外集及附録あり

集部

り本集には詩教書疏、筭、啓書雜著、序、記、跋、銘、箋、上、樑文、祭文、閭表、墓碣銘、墓誌、碑銘、行狀等を收め外集には墓碣碑銘附録には世系年譜行狀其の他詩、詞、祭文等を載せり

金應祖字は孝徵鶴沙と號す豊山の人盧白堂楊震の玄孫なり肅宗の時に生る業を旅軒張顯光の門に受け又西厓柳成龍、愚伏鄭經世に親炙し學問一時に秀て嶺南士林の宗匠たり仁祖癸亥に登科し官左尹に止まり英祖の時に歿す

○樂全堂集 一五卷七冊 申翊聖著 印本

圖書番號 四〇八九、六五一〇

申翊聖の詩文集にして孝宗五年子冕及最之を蒐集し選定を東洲李敏求に請ひ以て上印したるものなり收むる所詩各體、小傳、序、記、傳、雜著、跋、疏、筭等あり

○玄谷集 七卷三冊 鄭百昌著 印本

圖書番號 四二二八、四二二九

鄭百昌の遺著を集めたるものにして孝宗元年子善輿之を上刊す詩集五卷に各體の詩を收め文集

五五一

二卷に批答、教書、箋表、上樑文、壽啓、序、疏、墓文、祭文等を編し、墓誌を卷末に附載す

鄭百昌字は徳餘、玄谷又谷口と號す、晋州の人にして誠謹の玄孫なり、宣祖戊子に生れ、孝を以て閭に旌せらる、光海君の時文科に出身し、廢母の時諫臣多く禍を被るに際し、百昌復た免かれず、官を奪れて退去し、澤堂李植、疎菴任叔英等と山水の間に娛遊せしか、仁祖即位の後、召用せられ、湖堂に入り、官觀察使に至り、乙亥に歿す

○釣隱集

四卷二冊 韓夢參著 印本

圖書番號 七二六

韓夢參の遺集にして、收むる所詩、書、序、跋、祭文、行狀、碑誌、雜著及附録等なり、正祖四年庚子後孫應益之を編刊す

韓夢參字は子夔、釣隱と號す、清州の人、奉事誠の子なり、宣祖己丑に生れ、光海癸丑司馬に中り、仁祖己卯學行を以て薦められ、察訪を拜し、顯宗壬寅に歿す

○東州集

四三卷一三冊 李敏求著 印本

圖書番號 六一三九、六七四二

李敏求の詩文集にして、仁祖十九年子元授の編輯したるものなり、宣慰、從軍、嶺南、嘉林、卯酉、東游、關東西の諸錄、鐵城、牙城、西湖、斷輪の諸錄及教、筭、書、序、記、跋、說、祭文、哀辭、上樑文、箴、銘、傳、賦、行狀、墓文等を收む

○雪汀詩集

六卷二冊 曹文秀著 印本

圖書番號 五一四〇

曹文秀の詩集にして、詩各體を收む

曹文秀字は子實、雪汀と號す、昌寧の人、判書光遠の孫なり、宣祖庚寅に生れ、仁祖甲子蔭縣監を以て文科に登り、官戸曹叅判に止まり、承襲して夏寧君に封せられ、乙酉に歿す、詩筆を以て盛名あり

○翠微集

一冊 釋守初著 印本

圖書番號 二一六〇

僧守初の詩雜著、序、書等を集めたるものなり、附録に行狀を載す

釋守初字は太昏、翠微と號す、俗姓は成氏、昌寧の人、梅竹軒三問の旁孫なり、宣祖庚寅に生れ、雪嶽敬軒に依りて落髮し、後浮休大師より受具し、仁祖己巳玉川靈鷲寺に開堂す、學徒日に増す、嶺外禪學の盛

なりしは翠微に濫觴すと云ふ肅宗戊申示寂す廻
に禪學に深きのみならず當時碩儒潜谷金墳澤堂
李植、東岳李、安訥等諸人と交遊し其の推獎する所
となる

○寒沙集

七卷四冊 姜大遂著 印本

圖書番號 七〇三六

本書は姜大遂の詩文集にして七代の孫秉和の蒐
輯に係る收むる所賦詩、挽詞、不允批答、教書、疏、筭、啓、
辭書、箋、啓序、記、跋、上、樑文、雜著、祭文、碑、碣、銘、墓誌、行狀
附録等なり李太王七年庚午諸族相謀りて之を刊
行す

姜大遂初名は大進字は學顔秋礪又寒沙と號す晋
州の人戀龍翼文の子なり宣祖辛卯に生れ光海君
庚戌生員及進士に中り壬子文科に登り官承旨に
止まり孝宗戊戌に歿す光海君の時永昌大君の殺
さるるに當り直諫する所あり世人之を三代遺直
と云ふ

○天坡集

四卷四冊 吳翹著 印本

圖書番號 五六一八、七〇五二

史部

吳翹の詩文集にして仁祖二十四年弟翹晋州牧使
たる時刊行す載する所詩、銘、序、記、說、雜文、疏、筭、祭文、
教書、啓、跋等なり

吳翹字は肅羽天坡と號す海州の人なり宣祖壬辰
に生る幼にして神童の稱あり光海君の時文科に
出身す榮達を欲せず山中に讀書せしか仁祖反正
の後選はれて湖堂に入り官黃海道觀察使に止ま
り甲戌に歿す

○晚沙稿

六卷一冊 沈之源著 印本

圖書番號 七六七一

沈之源の遺稿にして孫廷最の蒐輯したるものな
り疏、筭、啓、議、表、箴、祭文、家狀、墓誌、墓碣、銘、諡狀、詩、燕行
日乘附録等を收む英祖三十五年己卯の刊行に係
る

沈之源字は源之晚沙と號す青松の人竹西宗直の
從孫なり宣祖癸巳に生れ光海君丁巳進士に第し
庚申文科に登り翰林銓郎を歴て官領議政に至れ
り德量雅望を以て名相と稱せらる

○東溟集

一一卷七冊 金世濂著 印本

五五三

圖書番號 六二七一

金世濂の詩文集にして子弼相之を收輯し曾孫一基之を刊行す載する所詩、雜著、疏、劄、啓、辭、狀、教、書、祭文、序、說、跋、碑、銘、誌、表、海、槎、錄、及、附、錄、等、な、り

金世濂字は道源、東溟と號す善山の人にして省菴孝元の孫なり宣祖癸巳に生る幼にして才藝煥發し光海君の時登科し湖堂に入り官戸曹判書に至り仁祖丙戌に歿す諡を文孝と云ふ光海君廢母の時諫者多くは逐竄せられ世濂亦禍に遭ふ嘗て日本に使し驢を辭して受けず關西、海西の兩道に按察使となり治績克く著はる

○謙齋集

一二卷六冊、河弘度著 印本

圖書番號 二二〇四〇

河弘度の詩文集にして收むる所詩、賦、辭、書、祭文、奉安文、祝文、疏、墓表、墓碣銘、遺愛碑、銘、行狀、上樑文、倡義文、序、跋、記、說、雜著、附錄等なり首に師友錄を載す英祖十五年己未後孫大觀之を編輯す
河弘度字は重遠、號は謙齋、晋州の人觀察使自清六世の孫なり宣祖癸巳に生れ仁祖の時遺逸として

累召せられたるも至らず顯宗丙午に歿す南冥曹植に私淑して實踐篤行を以て稱せらる

○晴峰集

六卷二冊 沈東龜著 印本

圖書番號 二八四〇

沈東龜の詩文集にして詩表、箋、批、答、教書等あり附するに賦、頌、銘、贊、說等を以てす

沈東龜字は微號、勝峯と號す青松の人南厓諱の子なり宣祖甲午に生れ光海君乙卯に進士に第し仁祖甲子文科に登り翰林銓郎を歴て官舍人に至る

○冶谷集

一〇卷五冊 趙克善著 印本

圖書番號 一六四九

趙克善の詩文集にして曾孫敬熙之を蒐集し八代の孫鍾瀨、李太王癸巳に刊行す收むる所詩、疏、書、序、記、識、論、箴、說、雜著、祝文、祭文、墓碑、記、行狀、三官記等なり

趙克善字は有諸、冶谷と號す漢陽の人漢川府院君溫八代の孫なり宣祖乙未に生れ仁祖の時遺逸を以て童蒙教官を拜し孝宗己丑經學精明を以て薦められ掌令を拜し戊戌に歿す病褥に在る時特に

毛衣を賜ひ内醫を遣し診せしむ哲宗の時吏曹判書を贈られ文穆と諡せらる潜冶朴知誠及浦渚趙翼に師事し學問淹博なり

○白洲集 二〇卷九冊 李明漢著 印本

圖書番號 七三〇二、七五七七

李明漢の詩文集にして仁祖丁亥子一相の編する所に係り詩、記文、應制錄、帖、冊文、書、疏、序、跋、銘、狀等を收む

李明漢字は天章、白洲と號す月沙廷龜の子なり宣祖乙未に生れ天縱の才を以て兼て家庭の訓を受け夙歲にして聲譽蔚然たり光海君丙辰に登科し史局に入り湖堂に選はれ官大提學吏曹判書に至り仁祖乙酉に歿す諡を文靖と云ふ子一相亦文衡を繼ぐ

○記言 九三卷二五冊 許穆著 印本

圖書番號 一一二二

許穆の全集にして自ら纂定したるものなり原集四十六卷續集十六卷拾遺二卷自序續集二十卷別集二十六卷より成る學禮、文學、儒林、圖像、鬼神、人物

集部

清士別傳、族氏、壽考、棟宇、田園、居、祠、墓、遺事、羈旅、善行、戒懼、記行、妖祥、世變、山川、書畫、邊塞、治體、經說、東事、陟州、記事、東序、記言、碑文、四方論事、政弊、災異、四時慶賀、乞骸、妖孽、節行、其の他詩文雜著等に細分せり

○四友堂集 九卷四冊 宋國澤著 印本

圖書番號 四八七七

宋國澤の詩文集にして後孫之を蒐輯せり載する所詩、疏、啓、書、雜著、跋、祝文、祭文、行狀、墓誌、賦、疑、附錄等なり李太王庚寅八代の孫寅植等之を刊行す

宋國澤字は澤之、四友堂と號す恩津の人雙清堂愉七世の孫なり宣祖丁酉に生れ光海君己未生員に中り仁祖甲子文科に登り翰苑に入り官禮曹參議に止まり孝宗己亥に歿す贊成を贈られ諡を孝貞と云ふ

○商谷集 三卷一冊 姜瑜著 印本

圖書番號 四七三一、六一七六

姜瑜の詩文集にして六代の孫弼健、弼耆等の蒐輯したるものなり收むる所詩、疏、銘、祭文、附錄等なり附錄に遺事及行狀等を載す正祖戊午之を刊行す

五五五

姜瑜字は公獻、商谷と號す、晋州の人、翰林居禮、五代の孫なり、宣祖丁酉に生れ、光海君壬子進士に第し、仁祖甲子文科に登り、忠清、黃海兩監司を歴て、官戶曹參議に至り、顯宗戊申に歿す、吏曹判書を追贈し、諡を忠宣と云ふ。

○家州集

六卷一冊 李尙質著 印本

圖書番號 五三六、七〇七五

李尙質の詩文集にして、肅宗の時、子憲の收輯する所に係り、鄭斗卿之を刪定し、孫肇之を刊行す、末に子憲の道村遺稿を附せり。

李尙質字は子文、家州と號す、李氏の宗室なり、宣祖丁酉に生れ、仁祖の時、登科し、湖堂に入り、玉堂に在りしか、元宗追崇の事に値ひ、上筭極諫して、邊地に竄せられ、乙亥宥を蒙り、未だ還るに及はずして、途に歿す、子憲、道村と號す。

○吳中列公遺稿

二卷二冊 吳達濟著 印本

圖書番號 四四一七、七二三五

吳達濟の遺稿を集めたるものにして、肅宗二十三年丁丑孫遂一輯刊す、上卷は詩、賦、表、對策、疏、雜著、簡

牘を收め、下卷は附録にして、事蹟を載す。

吳達濟字は季輝、秋潭と號す、海州の人にして、楸灘允謙の姪なり、宣祖丁酉に生れ、仁祖甲戌文科に登り、第し、仁祖丙子の難に、校理たり、斥和の故を以て、翌年尹集、洪翼漢と共に、清人に捕へられ、瀋陽に害せらるる時に、年二十九諡して、忠烈と云ふ、世達濟の節を知るも、其の能文を知る者鮮し。

○東溟詩集

一一卷三冊 鄭斗卿著 印本

圖書番號 六五三六

鄭斗卿の詩集にして、古今各體の詩を載せり。

○騏峰集

四卷二冊 李時省著 印本

圖書番號 七〇三七

李時省の詩文集にして、崔錫鼎の刪定したるものなり、收むる所、詩、序、記、說、書、論、策、附録等なり、正祖十九年乙卯、後孫笑煥之を刊行す。

李時省字は子三、騏峰と號す、慶州の人、白沙李恒福の從孫なり、宣祖戊戌に生れ、蔭參奉を以て、孝宗庚寅文科に登り、官僉知中樞府事に止まり、顯宗戊申に歿す、幼にして、從祖白沙の薰陶を承け、文行を以

て稱せらる

○ 玄洲集

七卷二冊 李昭漢著 印本

圖書番號 二八四四

李昭漢の詩文集にして顯宗の時子般相の刊行する所なり收むる所詩各體及應製錄雜著等なり李昭漢字は道章、玄洲と號す月沙廷龜の子にして白洲明漢の弟なり宣祖戊戌に生る幼より神童の稱あり克く父兄の美を趾く世人三蘇を以て之比せり光海君の時登科し仁祖の初湖堂に入り僉使北渚金瑬の從事たり當時北渚の幕下多士濟濟を以て稱せられ玄谷鄭百昌、崎庵鄭弘溟、霽湖梁慶遇等と與に唱酬徵逐す官參判に至り、仁祖乙酉に歿す

○ 道村遺集

三卷一冊 吳次久著 印本

圖書番號 四〇一五

吳次久の遺稿にして七代の孫泰圭之を蒐輯し詩雜著、賦、誌文、附錄等を收む哲宗十一年庚申に刊行す

吳次久字は徵甫、道村と號す羅州の人昭樂正希の

集部

子なり宣祖戊戌に生れ孝宗乙未に歿す一代の名流と交遊し詩を以て名を著せり

○ 漁隱遺稿

五卷二冊 吳國獻著 印本

圖書番號 四九二四

吳國獻の遺稿にして八世の孫麟善の蒐輯に係り辭、詩、書、箴、銘、序、記、說、雜著、祭文、附錄、子姓、墓文、傳記等を收む李太王十年癸酉に刊行す
吳國獻字は仲賢、漁隱と號す海州の人同中樞府事山立の子なり宣祖己亥に生れ肅宗壬子に歿す壬辰戸曹佐郎を贈らる沙溪金長生の門下にして孝行を以て一郷に譽あり

○ 松坡集

七卷二冊 李海昌著 印本

圖書番號 六三三八

李海昌の詩文集にして肅宗の時孫必相及必重の刊行する所なり文、序、記、墓銘、教書、批答、詔、箋、疏、詩、賦等を收む

李海昌字は季夏、松坡と號す韓山の人なり宣祖己亥に生る仁祖の時登科し官舍人に止まる性硬直にして古諫臣の風あり是を以て時に容れられす

五五七

嘗て業を疎菴任叔英に受け詩文富艶にして尤も
駢儷に長す孝宗乙未に歿す

○ 雲岩逸稿

一冊 李興淳著 印本

圖書番號 五八六三

李興淳の五七律絶及碑銘一篇を收め別に附録あり
李太王七年庚午全羅道兵馬使李承淵か蘆沙奇
正鎮に請ひ校正を加へて刊行したるものなり
李興淳字は油然號は雲岩、韓山の人進士克誠の子
なり宣祖庚子に生れ仁祖甲子司馬に中り戊辰文科
に登り官執義に至り顯宗癸卯に歿す丙子講和
以後官を棄てて郷に隱遁し歿後吏曹參議を贈ら
る

○ 晚悔集

一四卷一〇冊 權得己著 印本

圖書番號 五五三一、五五三二、六九四五、六九四六

權得己の詩文集にして子諤及曾孫以鎮の蒐輯したるものなり前九卷は詩銘雜著、誌、行狀、書、拾遺、附録、殿策等を收め後五卷は晚悔集、借疑と題し論語、近思錄、孟子、家禮の疑義に關する意見を載す肅宗三十八年壬辰以鎮慶州府尹たりし時之を刊行す

權得己字は重之、晚悔と號す安東の人吏曹判書克禮の子なり宣祖庚午に生れ己丑進士に中り光海君庚戌文科に登り官禮曹佐郎に至り壬戌に歿す文學行義を以て盛名あり光海君母妃を西宮に遷居せしめたる後復仕へず

○ 龍西文集

五卷二冊 尹元舉著 印本

圖書番號 五七三〇、六九八七

尹元舉の詩文集にして從姪尹拯の刪定したるものなり詩、疏、祭文、雜著、表、碣、科體、拾遺、詩、附録等を收め英祖五十一年乙未之を刊行す

尹元舉字は伯奮、龍西と號す坡平の人後村愼の子なり宣祖辛丑に生れ仁祖癸酉生員進士兩試に中り孝宗癸巳叅奉を授け顯宗庚子遺逸を以て薦められ持平を拜し官進善に止まり壬子に歿す

○ 琴川集

二卷一冊 鄭時修著 印本

圖書番號 四二〇一、二二〇六四

鄭時修の詩文集にして首に世系年譜を掲げ尾に附録あり李太王光武九年乙巳後孫圭東か傍孫載善に校正を請ひ刊行せしものなり

鄭時修字は敬叟、琴川と號す、東萊の人、雪壑齋、矩の後なり、宣祖辛丑に生れ、仁祖癸酉司馬に中り、丙子清兵の至る時、義旅を倡へ、講和の後、遂に舉業を廢し、隱遁して詩を賦し、自ら傷み、丁亥に歿す。

○ 童土集

六卷二冊 尹舜舉著 印本

圖書番號 七三〇四

尹舜舉の詩文集にして、弟宣舉の子拯の輯次せしものなり、收むる所詩、序、記、跋、說、祭文、書、墓誌、墓碣、行狀及附錄等あり、就中學問時事に關する質問、應答の書多し、附錄に拯の撰に係る行狀等を載す。

○ 陽坡遺稿

一五卷七冊 鄭太和著 寫本

圖書番號 五九三五

鄭太和の詩文集にして、收むる所詩、啓、疏、筭、呈辭、啓辭、密啓、祭文、表、跋、家狀、曝史日記、己亥日記、西行記、飲水錄、不允批答、寧陵御札、附錄等なり。

○ 西歸遺稿

一〇卷五冊 李起淳著 印本

圖書番號 四三〇七

李起淳の遺稿を集めたるものにして、詩、記、疏、書、序、雜書、墓誌、銘、祭文、問答等あり、附錄に家狀、行狀、墓表、

墓誌、銘、年譜等を收め、兄興淳の雲巖逸稿を附す、李太王九年壬申の刊行に係る。

李起淳字は沛然、西歸と號す、韓山の人なり、宣祖壬寅に生れ、癸亥鄉試に應じ、翌甲子生員となり、名聲京華に振ふ、丁卯文科に登第し、越えて己巳成均館博士を拜す、丙子仁祖の南漢に圍まるるや、兄興淳及梁曼容、崔蕙、柳楫等と檄を飛し、義兵を礪山に集め、南漢を距る五里に前進せり、後居を全州の黃方山下に卜し、堂に扁するに西歸の二字を以てし、屢召されたるも、竟に起たず、顯宗壬寅に歿す、兄興淳字は油然、雲巖と號す、亦節義の士なり、仁祖の時仕へて司諫に至り、丙子官を棄てて郷に還る。

○ 鶴洲全集

一五卷六冊 金弘郁著 印本

圖書番號 七〇〇二

金弘郁の遺稿にして、初め肅宗四十四年戊戌に上印し、李太王十年癸酉七代の孫萬載逸詩を收拾し、且附錄を補ひ、之を重刊せり、收むる所詩、疏、筭、啓辭、教書、箋文、書牘、墓碣、墓表、行狀、祭文、序、記、箴、上樑文、論を收め、碑、行狀、教書、尊周彙編、年譜等を附録とす。

金弘郁字は文叔、鶴洲と號す慶州の人なり宣祖壬寅に生れ仁祖甲子進士に、乙亥文科に登り官翰林三司を歴て孝宗甲午黄海監司となり上疏して蒙咎し鞫拷に死す後吏曹判書を贈られ文貞と諡す

○ 棠溪集

一冊 金華俊著 印本

圖書番號 一一〇七五

金華俊の詩文集にして五代の孫錫臣の蒐輯したるものなり賦、表、詩、義、策、書、雜、著、銘、頌、贊、祭文、附錄等を收め李太王六年己巳に刊行す

金華俊字は士元、棠溪と號す光山の人秋浦式南の子なり宣祖壬寅に生れ仁祖癸酉進士に中り同年文科に登り丙子仁祖南漢に播遷の時注書を以て扈從す官說書に止まり甲申に歿す

○ 雪峰集

三〇卷八冊 姜柏年著 印本

圖書番號 六三三八

姜柏年の詩文集にして詩二十一卷其の他應製文及上樑文、勸善文、賦、序、跋、說、記、論、箴、銘、傳、祭文、策、題、疏、筭、啓、墓、碣、誌、表、碑、銘、諡、狀、等を收む附錄あり

○ 東村遺稿

二卷一冊 柳帶春著 印本

圖書番號 四〇九八

柳帶春の詩文集にして後孫曾て之を刊行し後純祖七年丁卯信川郡守趙鎮球重刊せり收むる所詩書、疏、祭文、附錄等なり

柳帶春字は榮叔、東村と號す瑞山の人僕正堰の子なり宣祖癸卯に生れ仁祖癸酉生員進士に中り壬午蔭仕を以て禮賓奉事に拜せしも仕へず肅宗辛未に歿す牛溪栗谷に學ひ孝を以て旌閭せらる

○ 炭翁集

一三卷七冊 權認著 印本

圖書番號 三〇〇四

權認の詩文集にして收むる所詩、疏、收議、經筵講義、書雜著、閒居筆舌、祭文、墓碣銘、附錄等なり
權認字は思誠、炭翁と號す安東の人晩悔得己の子なり宣祖甲辰に生れ仁祖丙子遺逸薦を以て大君師傅を授けられたるも仕へず孝宗己丑召されて侍講院諮議を命せられ掌令、進善、贊善等を歴て官左尹に至り顯宗壬子に歿す後議政府叅贊を追贈せらる

○ 漫浪集

九卷四冊 黃屎著 印本

圖書番號 四三〇四、四三〇五、五〇七四

黄屎の詩文集にして顯宗九年戊申子應老の收拾に係り沈梓の刊行する所なり絶句古詩律詩排律賦辭表箋教書批答玉冊文疏筭雜著行狀等載す
黄屎字は子由漫浪と號す昌原の人なり宣祖甲辰に生る仁祖甲子に登科し官左尹に止まる少にして聰明人に絶し藻譽嘖嘖たり釋褐の後日本に使用し又燕京に至り到る處に釋才を揮ふ嘗て文衡に薦められしか拜するに及はず孝宗丙申に歿す

○ 台溪集

圖書番號 一一九八三 八卷四冊 河潛著 印本

河潛の詩文集にして詩賦疏啓策論辨銘奏書序跋祭文墓碣銘墓表附錄等を載す李太王光武四年庚子許愈等校刊す

河潛字は潛伯台溪と號す兵判百宗の七世の孫なり宣祖甲辰に生れ仁祖癸亥生進俱に中り甲子文科に登り孝宗戊戌に歿す官執義に至る

○ 南坡集

一三卷七冊 洪宇遠著 印本
圖書番號 四一四五

集 都

洪宇遠の詩文集にして正祖六年壬寅玄孫福全か

白峰書院に於て印出したるものなり各體詩疏文行狀諡狀講義啓說書策題其の他を集め附録に世系年譜祭文遺事等を載す

洪宇遠字は君徵南坡と號す南陽の人にして晩全可臣の孫なり宣祖乙巳に生れ仁祖乙酉登科し吏曹判書となり後禍を被り謫所に歿す諡して文簡と云ふ

○ 東江遺集

一九卷三冊 申翊全著 印本
圖書番號 六八四四、六八六一

申翊全の遺稿にして子畧の蒐輯せしものなり收むる所辭賦序記臺誌行狀哀辭祭文疏筭啓辭雜著教書不允批答別錄志附錄等なり顯宗四年壬子畧の全羅道觀察使たりし時之を刊行す

申翊全字は汝萬東江と號す象村欽の子なり宣祖乙巳に生る沙溪金長生曾て象村を往訪す時に翊全僅に十歳應對成人の如し沙溪之を歎異せりと云ふ仁祖丙子に登科し官禮曹叅判に至り孝宗辛卯に歿す翊全文藝に夙就し兼て筆翰に工なり

○ 樂靜集 一四卷七冊 趙錫胤著 印本

圖書番號 六七六六、七〇五三

趙錫胤の詩文集にして肅宗の時門人等哀輯刊行す絶句、律詩、排律、冊教文、批答、箋文、疏筭、啓、等を收む。趙錫胤字は胤之、樂靜堂と號す白川の人にして南溪、廷虎の子なり。宣祖丙午に生れ仁祖戊辰に登科し湖堂に入り文衡を典り吏曹判書に至り清白吏に録せられ孝宗乙未に歿す諡して文孝と云ふ嘗て直言を以て屢斥竄に遭ふと雖諱避せり謨猷風采共に一時の典型たり

○ 同春堂集 三六卷一八冊 宋浚吉著 印本

圖書番號 四一三二、四八七六、五五〇四、五五三三

宋浚吉の詩文集にして玄孫明欽の蒐輯したるものなり疏筭、啓辭、書啓、獻議書、祭文、祝文、雜著記、題跋、碑、墓碣、墓表、墓誌、行狀、諡狀、年譜、詞、詩等合せて二十八卷經筵日記、附錄等八卷あり英祖四十四年戊子之を刊行す

○ 石湖集 八卷四冊 尹文學著 印本

圖書番號 六八五八

尹文學の詩文集にして收むる所詩、疏書、祭文、哀辭、墓表、附錄等なり附錄に世系圖、年譜等を載す。尹文學字は汝望、石湖と號す坡平の人八松、煌の子なり。宣祖丙午に生れ仁祖庚午進士に中り癸酉文科に登り副提學を歴て官吏曹判書に至り肅宗壬子に歿す英祖丙子特に左贊成を贈り諡を忠敬と云ふ

○ 晚洲遺集 八卷三冊 洪錫箕著 印本

圖書番號 四四二八

洪錫箕の遺稿を集めたるものにして正祖癸丑曾孫天瑞、泰垕等之を輯刊す尊周錄、檄、露布、絶句、律詩、應製文、序記、祭文等を收載し祭文、輓詞、墓碣銘、家狀等を附録とせり

洪錫箕字は元九、晚洲又後雲と號す南陽の人なり仁祖丁卯進士となり辛巳庭試に魁たり年七十五にして肅宗庚戌に歿す

○ 市南集 二七卷一一冊 兪榮著 印本

圖書番號 五七三七

兪榮の詩文集にして肅宗二年其の孫相基之を編

刊したるものなり詞賦詩各體、教書疏、劄啓書、雜著序記、說、上樛文、表箋、祭文、墓誌銘、行狀等を集め附録には兪樑の行狀、墓表、陰記、神道碑銘、墓誌銘、祭文、挽詞等を載す

○ 朱子大全

二一五卷一〇二冊

宋時烈著 印本

圖書番號

三五四二、三五四三、三九四九

宋時烈の全集にして其の歿後二十八年肅宗四十四年丁酉命して遺稿を蒐集刊行せしめたるに始まり別集、經禮問答、附錄、年譜等次第に追録印出し遂に卷帙完備するに至れり之を舊本とす後舊本を本とし之に黃江本を合せて抄刪摺添し憲宗十三年丁未に印行す是れ新本なり黃江本とは肅宗丁酉刊行の原集以前に門人權尙夏か哀粹繕寫したるものなり舊本は編次の法を南軒文集に取り新本は朱子大全の例に倣ひ力めて攷閲の便を圖れり收むる所賦詩、封事、疏、劄、啓書、啓、獻議書、雜書、序記、跋、銘、箴、贊、上樛文、祝文、祭文、哀辭、碑文、草稿、墓碣、墓誌、墓表、諡狀及行狀、傳等にして附録には權尙夏金

集部

翰、金鎮玉、崔鎮等の語錄、記述、雜錄を載す

○ 尤庵集

一五八卷五三冊

宋時烈著 印本

圖書番號

三六二七、四〇六九、六五二五

宋時烈の遺稿にして肅宗四十三年丁酉校書館に命し活字を以て印刊せしめたるものなり收むる所賦詩、疏、劄、奏、議書、序記、跋、雜著、箋、銘、狀、誌、傳、贊、碑文、祭文等なり後朱子大全に合收す

○ 尤庵後集

四〇卷四〇冊

宋時烈著 寫本

圖書番號

四八五五

宋時烈の遺稿中尤庵集に逸したるものを收輯せり第一卷は詩、疏、劄、書、啓、第二卷以下第二十八卷は書、雜書、呈文、序記、跋、銘、祝文、祭文、辭、碑、墓碣、墓誌、墓表、諡狀、行狀、傳等なり

○ 宋書百選

六卷三冊

李勝愚編 印本

圖書番號

一五七九、二五八九、三〇六八

李勝愚か朱子百選の例に倣ひ宋子大全中の書牘に就き學問、義理、時事に關するもの總て一百篇を抄出し之を註解したるものなり勝愚少時より宋子大全を讀み高山景行の念遂に此の編を爲すに

五六三

至れりと云ふ

李勝愚字は復汝、石耘と號す延安の人なり蔭仕を以て官郡守に止まる

○ 宋書節要 二〇卷一〇冊 李宜哲編 寫本

圖書番號 四一九七

朱書節要に倣ひて宋子大全中の書のみを選出したるものなり

○ 草廬集 二六卷一四冊 李惟泰著 印本

圖書番號 五〇〇七

李惟泰の詩文集にして任聖周、金砥行等之を參校訂正し金正默更に之を刪定したるものなり疏書、啓、獻議、登對、禮辨、詩、祭文、墓誌、墓表、雜著、祝文、納幣文、經義問答、易說、別集、附錄等を載す李太王乙丑七代の孫鏡之を刊行す

李惟泰字は泰之、草廬と號す慶州の人司議卿の曾孫なり宣祖丁未に生れ仁祖甲戌學行を以て薦められ恭奉を拜し丁亥諮議に除せられ官大司憲に在り肅宗甲子に歿す諡を文憲と云ふ慎獨齋金集の弟にして同門同春宋浚吉、尤菴宋時烈と名を齊

うす別に四書註辨疑四卷、四禮笏記一卷、教書二十一首、批答五十首及年譜等の著あり

○ 晦谷集 一二卷四冊 曹漢英著 印本

圖書番號 七三二一

曹漢英の詩文集にして肅宗二十年甲戌孫女婿林泳の編次上梓したるものにして收むる所詩、雜著、祭文、疏、啓、附錄等なり

曹漢英字は守而、晦谷と號す昌寧の人夏寧君文秀の子にして澤堂李植及沙溪金長生の門人なり宣祖戊申に生れ仁祖丁卯進士となり丁丑庭試に擧げらる仁祖丙子和を絶つことを上疏して金尙憲と偕に清人の拿捕する所となり送られて瀋陽に幽せらるるや日に尙憲と唱和し積みて巨帙を成す尙憲之に題して雪窖集と云ふ居ること三年放たれて還顯宗庚戌に歿す官參判に止まる諡して文忠と云ひ夏興君に封せらる

○ 楓巖集 一冊 金終弼著 印本

圖書番號 七八四四、七八四五

金終弼の詩集にして仁祖の十三年乙亥傍孫潛谷

増遺稿を收拾して刊行す

金終弼字は諧中、楓巖と號す清風の人なり宣祖の時に生れ少年進士となり尤も詩を善くす仁祖の時に歿す

○汾西集

一六卷四冊 朴瀾著 印本

圖書番號 六五五五、六五五八、六九七一

朴瀾の詩文集にして肅宗八年壬戌孫泰斗の編刊せしものなり原集十五卷附錄一卷あり詩序、記、墓文、行狀、頌、贊、銘、辨、說、書、策、題、祭文、跋等を收む
朴瀾字は仲淵、汾西と號す潘南の人にして治川紹の曾孫なり少より敏達にして業を白沙及玄軒に受け長して宣祖の駙馬となり因て錦陵尉に封せられ仁祖三年に歿す

○青霞集

七卷一冊 權克中著 印本

圖書番號 六七三四、七〇一五

權克中の詩文集にして肅宗三十年弟子金遇澄か全羅監司閔鎮遠に囑して開刊せしめしものなり載する所序、記、祭文、讀書錄、上樛文、露布文、遺事、書、詩等なり

權克中字は擇甫、青霞又花山と號す安東の人にして鰲峰權克中と同名異人なり宣祖の時に生れ十九歳の時論語を讀み感發する所あり後牛溪成渾に就いて道を學ひ刻苦勵精光海君の初洗馬に除せられしも旬日ならずして官を棄て専ら經典に沈潜し復た出てす詩名あり孝宗の時に歿す

○魯西遺稿

二六卷一三冊 尹宣舉著 印本

圖書番號 五三三四

尹宣舉の遺稿にして子拯之を編次せり原集二十卷續集三卷別集一卷附錄二卷收むる所原集は詩疏、狀書、雜著、祭文、哀詞、墓文、行狀、續集は詩、疏、狀書、雜著別集は詩書、日記附錄は世系、年譜、狀、碣、祭挽及書院祝祭文等なり

○滄洲遺稿

一八卷七冊 金益熙著 印本

圖書番號 六五五一、七二三九

金益熙の詩文集にして肅宗三十四年戊子孫鎮玉龍潭に宰たる時刊行す載する所應制錄、古詩律詩、排律、絕句、封事、疏、劄、啓、行狀、雜著及附錄等なり
金益熙字は仲文、滄洲と號す沙溪長生の孫なり光

海君庚戌に生る幼にして詩禮の家教を承け又谿谷張維、崎菴鄭弘溟に従ひ古文を學ぶ仁祖癸酉に登科し經幄に在り啓沃する所多し丙子の後春秋の大義を講し孝宗の眷遇益厚く文衡を典り官吏曹判書に至る其の丙申四十七歳にして歿す諡して文貞と云ふ

○南谷集

六卷二冊 權尙吉著 印本

圖書番號 四五七、四五八

權尙吉の詩文集にして純祖二十六年丙戌玄孫の收拾印布したるものなり弟尙任の序に尙吉の詩文合して一千餘篇別に虎書集ありしも不幸火に失し此の集僅に數百篇を存するのみと見ゆ詩、疏、書、雜著、箴、序、記、祭文、墓誌、拾遺、論、策、附錄等を收む
權尙吉字は子貞、南谷又近裏齋と號す光海君庚戌に生れ乙亥進士に中り仁祖丙子の難崔鳴吉和を主とするを聞き之を斬らんことを上疏し阻せられて果さず顯宗甲寅南谷の精舍に歿す純祖の時特に正卿を贈らる

○竹堂集

一〇卷三冊 申濡著 印本

圖書番號 四九九二

申濡の詩集にして時期及地名等に依り分類せり申濡字は君澤竹堂と號す高靈の人にして叔舟七代の孫なり光海君庚戌に生れ仁祖庚午進士となり丙子登科し昭顯世子に陪して瀋陽に入り復た使して日本に往く官叅判に至り能文の名あり顯宗乙巳に歿す

○八斯遺稿

二卷一冊 裴幼華著 印本

圖書番號 三三五〇

裴幼華の遺稿なり七代の孫相善之を編次し李太王二十六年己丑に刊行す詩書、雜著、祭文、附錄等を收む

裴幼華字は華隱、八斯軒と號す達城の人痴巖尙益の子なり光海君辛亥に生れ顯宗丁未蔭仕を以て察訪を拜し官主簿に止まり癸丑に歿す文學あり

○松潭集

二卷二冊 李榮仁著 寫本

圖書番號 六三二七、二〇六一

李榮仁の詩文集にして賦詩銘、襍著、傳、疏、書記、序、祭文等を收む附錄あり行狀を載す

李榮仁字は汝安、松潭と號す、吏判、後白の曾孫なり。光海君辛亥に生れ、顯宗己酉に歿す。官宣教郎に止まる。經學あり。

○久堂集

二四卷一八冊

朴長遠著 印本

圖書番號 三四三八、四二四一、四二七〇

朴長遠の詩文集にして、收むる所詩七百八首、疏、筭、啓、辭、箋、教書、墓誌、行狀、書、論、策問、筭錄、記聞等なり。附錄に神道碑銘、謚狀、行狀、言行錄、祭文、挽詞等を載す。英祖六年庚戌、達城館に於て開刊す。

朴長遠字は仲久、久堂と號す。高靈の人なり。光海君壬子に生れ、幼時外祖沈諤に就いて學ひ、神才を以て稱せらる。仁祖丁卯、生員となり。丙子に登科し、吏曹、禮曹判書を歴て、顯宗辛亥に歿す。謚して文孝と云ふ。天性純孝にして、屢閭に旌せらる。又深く性理禮學を究め、文章を以て能と爲さす。而も其の詩文皆典雅にして、誦すべく、又著述に富む。

○磨鏡軒集

一冊 洪九淵著 印本

圖書番號 六七三八

部

洪九淵の詩集にして、仁祖十三年父茂績之を開刊し、墓誌を附録とす。李植の序あり。

洪九淵字は而靜、磨鏡軒と號す。南陽の人にして、北汀處亮の子なり。光海君壬子に生る。幼にして、奇才あり。仁祖乙亥、齡二十四を以て夭す。

○六谷遺稿

六卷五冊 徐必遠著 印本

圖書番號 一七七五

徐必遠の遺稿にして、六代の孫榮智の編輯に係る。收むる所詩、表碣銘、跋、書例、啓辭、疏章、年譜、附錄等なり。李太王乙丑に刊行す。

徐必遠字は載邇、六谷と號す。扶餘の人。萬竹軒益の曾孫なり。光海君癸丑に生れ、仁祖癸酉、進士に中り。癸未、蔭仕を以て、叅奉を拜し、戊子、文科に登り、翰苑に入り、銓郎を歴て、官兵曹判書に至り。顯宗辛亥に歿す。謚を貞毅と云ふ。清名直節あり。

○葵窓集

五卷三冊 李健著 印本

圖書番號 七二九七、七六四三

李健の詩文集にして、子洮の蒐輯したるものなり。第一卷より第四卷に詩、第五卷以下に疏、序、跋、墓誌、

五六七

行狀雜著等を載す肅宗三十八年壬辰之を刊行す
卷尾に附録あり

李健字は子強、葵窓と號す仁城君琪の子宣祖の孫
なり光海君甲寅に生る仁祖戊辰仁城君罪を以て
珍島に謫せらるる時坐して濟州に流配せられ丁
丑宥を蒙り海原君に襲封し顯宗壬寅に歿す綺執
公子を以て學を好み詩に巧なり

○明谷文集

三卷二冊 具峯著 印本

圖書番號 四五〇六、一一九九八

具峯の詩文集にして七代の孫鶴祖、瑾祖等の編輯
したるものなり詩、記、箋、表及附録等を收め李太王
光武六年壬寅之を刊行す

具峯字は次山、明谷と號す綾城の人綾城君淳の玄
孫なり光海君甲寅に生れ仁祖戊子進士に中り孝
宗壬辰文科に登り官承旨に止まり肅宗癸亥に歿
す嘗て澤堂李植の門に入り文學政術を兼ね

○藏六堂集

二卷一冊 趙龜錫著 印本

圖書番號 五一九五

趙龜錫の詩文集にして肅宗戊午子泰東の印布し

たるものなり詩、祭文、疏、啓書、簡牘等を收む其の執
義時辭職仍陳時弊疏の如き龜錫平日の志節を窺
ふに足る尾に南九萬の墓表、陰記及姨弟朴世采の
跋を附せり

趙龜錫字は禹瑞、藏六堂と號す楊州の人にして藥
泉啓遠の子、象村申欽の外孫なり光海君乙卯に生
れ仁祖乙亥生員となり戊子に登科し顯宗の初年
執義を以て脩德行政十一條を疏陳し出でて全羅
監司となる後幾もなく事に坐して罷め歸り其の
乙巳に歿す

○歸溪遺稿

二卷二冊 金佐明著 印本

圖書番號 三四二二

金佐明の遺稿にして收むる所詩、疏、劄、啓辭、教書、致
祭文、序、跋、書後記事書、墓表、誌銘、行狀、祭文及自家世
系考等なり

金佐明字は一正、歸溪と號す清風の人にして潛谷
堵の子なり光海君丙辰に生れ幼にして聰明強記
倫を絶つ仁祖癸酉進士となり甲申登科し孝宗の
時重試に魁たり官輔國吏曹判書に至り顯宗壬子

に、歿す諡して忠肅と云ふ、顯宗廟に配享せらる
○ 閑隱集 四卷二冊 高汝興著 印本

圖書番號 七〇三九

高汝興の詩文集にして曾孫漢德之を蒐輯し正祖十六年壬子に刊行す收むる所聞見錄大學輯要、家禮釋義、詩附錄等なり

高汝興字は賓舉、閑隱と號す濟州の人なり光海君丁巳に生れ肅宗戊午に歿す魯西尹宣舉の門人にして經學行義を以て稱せられたりと雖處士を以て終れり

○ 東里集 一六卷五冊 李殷相著 印本

圖書番號 四八三〇、七二八九

李殷相の詩文集にして肅宗二十八年壬午外孫金鎮華の上梓したるものなり收むる所詩文各體を以てす即ち詩疏、筭、辭、表、箋、不允批答、教書、論書、序、跋、上樛文、策問、祭文、哀冊文、行狀、墓碣、別稿等なり首に金昌協の序を冠す

○ 春沼子集 九卷四冊 申最著 印本

圖書番號 六七七四、六八六三、七二〇二

集部

申最の詩文集にして門人金錫胄編次し英祖九年癸丑曾孫致謹の印行したるものなり收むる所辭賦、詩、原、序、記、說、論、傳、疏、書、牘、雜著、祭文、誄、墓、誌、碣、表、行狀、策、附錄等にして子儀華の四雅子遺稿を尾に附せり

申最字は季良、春沼と號す平山の人にして樂全翊聖の次子象村欽の孫なり光海君己未に生れ弱冠にして文名あり仁祖戊子大君師傅に薦められ尋て登科し官南床翰林に至り孝宗戊戌に歿す長子儀華字は端明、四雅と號す仁祖十五年喬桐の寓舎に生れ孝宗甲午進士に中り顯宗壬寅槐院に登り權知副正字となり其の年を以て歿す年僅に二十六亦才名あり

○ 梧灘集 一四卷七冊 沈攸著 印本

圖書番號 四七〇九、七〇〇一

沈攸の遺著にして收むる所詩表、箋、教書、賀狀、疏啓、辭、序、跋、祭文、挽辭、祝文、策、題、行狀等なり

沈攸字は仲敏、梧灘と號す青松の人にして晴峯東龜の子なり光海君庚申に生れ孝宗庚寅登科し官

五六九

副提學に至り肅宗戊辰に歿す

○木齋集 一三卷七冊 洪汝河著 印本

圖書番號 六二八一

洪汝河の詩文集にして第一、二卷は詩第三、四卷は疏第五卷は書第六卷は説論、記事、辨、雜文、傳、策、題序第七卷は記、跋、箴、銘、頌、贊、上、樑文第八卷は祭文、碣、銘、墓誌、墓石陰記、墓表第九卷は行狀第十卷は讀書劄記、雜著十一卷は東史提綱凡例にして第十二、三卷は附録等なり

○生老堂遺稿 三卷一冊 吳孝錫著 印本

圖書番號 四〇一四

著者六代の孫泰圭の蒐輯したるものにして收むる所詩、祭文表、記、贊、附録等なり哲宗十一年庚申に刊行す

吳孝錫字は善詒、生老堂と號す羅州の人道林以久の子なり光海君庚申に生れ肅宗丁丑に歿す明亡ひし後春秋の大義を守りて羅州大明洞に隱居し以て終る尤庵宋時烈大明處士と號す

○清溪集 八卷三冊 洪葳著 印本

圖書番號 四〇四二、四五八九

洪葳の詩文集にして子天叙の編次したるものなり收むる所詩、教書、不允批答表箋、疏、劄、啓、雜著、附録等にして附録に金壽恒、金壽興、洪命夏等の祭文を收む肅宗二十一年乙亥之を刊行す

洪葳字は君實、清溪と號す南陽の人なり光海君庚申に生れ孝宗庚寅に登科し湖堂に入り後廟薦を以て嶺南伯に任せられ顯宗庚子年四十にして歿す少時舅氏樂靜趙錫胤に就いて學ひ嘗て時弊を疏陳して朋黨を打破せんことを企て將に重用せられんとして果さず

○歸巖集 一〇卷五冊 李元禎著 印本

圖書番號 五四二四

李元禎の詩文集にして所載は詩、疏、狀、書牘、雜著序記、跋、文、誌、狀及附録等なり肅宗戊戌後に刊行す

李元禎字は士徵、歸巖と號す廣州の人洛村道長の子なり光海君壬戌に生れ仁祖戊子司馬に中り孝宗壬辰文科に登り家牒を歴て官吏曹判書に至り肅宗庚申に獄死す

○松溪集

八卷三冊 李潛著 印本

書圖番號 五二三七、六五六一、六八六五、七二三六

麟坪大君李潛の詩文集なり英祖四十九年癸巳玄孫鎮翼に命じて遺稿を進めしめ校書館に於て刊行す收むる所詩、疏、箭、書啓、呈文、祭文、雜著及燕途紀行日録等にして附録一卷あり

李潛字は用涵、松溪と號す仁祖の子孝宗の弟なり光海君壬戌に生れ麟坪大君に封せらる偶ま國家多難清の壓迫日に加はるに臨み屢使命を膺け功を社稷に樹つ且詩律清麗貴人の口氣に似す才藝の超倫を窺ふへし孝宗戊戌に歿す諡して忠敬と云ふ

○西巖遺稿

二卷二冊 李震白著 印本

圖書番號 五五八九、七〇七八

李震白の詩文集にして子澤沈等の蒐輯したるものにして收むる所詩、儷文、哀詞、雜著、科製詩、科製表附録等なり

李震白字は太素、西巖と號す全州の人宣城君茂生七世の孫なり光海君壬戌に生れ孝宗丁酉進士に

集部

中り顯宗甲辰蔭仕を以て叅奉に拜し官同知中樞府事に止まり肅宗丁亥に歿す詩名あり筆法又一家體を成す居官の時清白を以て稱せらる

○虛白堂詩集 三卷一冊 釋明照著 印本

圖書番號 五四九〇

明照禪師の詩文を輯録したるものにして詩三卷文六篇あり門下南印顯宗十年己酉に之を刊行す釋明照虛白堂と號し仁祖丁卯丙子の際僧軍四千餘を領し義粟數百餘石を募り軍餉を優にし嘉善大夫義僧都大將の牒を受く顯宗辛丑の年に寂す

○泛翁集 三卷三冊 洪柱國著 印本

圖書番號 六二二一、六六五八、六八三一、七〇五一

洪柱國の詩文集にして肅宗十二年丙寅子萬選か農巖金昌協に刪定を乞ひ上梓したるものなり收むる所詩、應製錄、附録等にして子萬選の臨湖遺稿を附せり

洪柱國字は國卿、泛翁又竹里と號す豊山の人にして慕堂履祥の孫月沙李廷龜の外孫なり仁祖癸亥に生れ戊子進士に中り顯宗壬寅登科し掌令とな

五七一

り尋て禮曹參議に至る仁祖大妃國恤の事に關し
奏議して効せられ久しく錮籍に罹りしか肅宗己
未安岳縣監となり肅宗庚申に歿す幼にして穎悟
類を絶ち鄭崎翁に就いて學ひ特に詩を以て聞え
たり其の子萬迪字は士吉臨湖と號す亦能く文事
に長す

○ 谷雲集

六卷三冊 金壽増著 印本

圖書番號 五七四五

金壽増の詩文集にして其の歿後十七年從子三淵
昌翁輯印す各體詩家記書祭文狀誌雜著等を收む
雜文中に法性傳武金事實等あり

金壽増字は廷之谷雲又雲水居士と號す安東の人
にして壽輿の兄なり仁祖甲子に生れ孝宗庚寅進
士となり官工曹參判に至る肅宗乙卯弟壽恒宋時
烈と共に竄せらるるや禍に坐す後俗塵を避けて
春川の谷雲に卜居し文墨を友とし年七十二にし
て歿す

○ 暘谷集

四卷二冊 吳斗寅著 印本

圖書番號 五〇三二

吳斗寅の詩文集にして英祖二十二年子泰周女婿
李緯と謀り之を刊行す收むる所詩疏筭文應製文
記祭文襟著附録等なり

吳斗寅字は元徵陽谷と號す海州の人天坡翻の子
なり仁祖甲子に生れ戊子司馬に中り己丑文科に
登り官判書に至る肅宗己巳閔妃を廢するや李世
華朴泰輔と共に諫めて拷せられ遠竄の途に歿す
後領議政を贈られ諡して忠貞と云ふ

○ 畏齋集

一一卷六冊 李端夏著 寫本

圖書番號 四七四四

李端夏の詩文集にして各體詩疏筭應製文序記跋
書墓文行狀諡狀言行錄遺事祭文雜著等を收む

○ 松月齋集

七卷三冊 李時善著 印本

圖書番號 四七七一、五四四二

李時善の遺集にして荷華兩篇は其の自編に係る
戊辰孫仁求仁堂仁山等か李光庭に編次を託して
刊行せしものなり詩書祭文及雜篇を收め行狀墓
碣銘墓誌等を附録とす

○ 竹西集

四卷二冊 李敏迪著 印本

圖書番號 五三〇一 五八〇七

敏迪の文集にして肅宗十年甲子子師命か湖南を按ずる時刊出せしものなり收むる所疏、筭家狀、程文等なり

李敏迪字は惠仲竹西と號す白江敬輿の子にして宗室の系に出つ仁祖乙丑に生れ丙戌進士となり孝宗丙申殿試壯元に捷ち官大司憲に至り顯宗癸丑に歿す

○ 退憂堂集 一〇卷五冊 金壽興著 印本

圖書番號 六七六八

金壽興の詩文集にして肅宗三十六年庚寅女壻李喜朝之を收輯し子昌說之を刊出す載する所詩、疏、筭啓、議、書、牘及雜著等なり

金壽興字は起之、退憂堂と號す安東の人清陰尙憲の孫なり仁祖丙寅に生れ戊子進士となり孝宗乙未登科し翌年重試に中り弟壽恒と聯璧の稱あり顯宗癸丑右相を拜せしも其の昇遐と共に春川に謫せらる肅宗の初年釋放せられて還り庚申復官せしも己巳尤菴か元子冊立に關して濟州に竄せ

集 部

らるるや之に坐して長髻に貶せられ翌年庚午其の地に歿す諡して文翼と云ふ

○ 月洲集 五卷三冊 蘇斗山著 印本

圖書番號 四三七九

蘇斗山の詩文集にして五世の孫洙憲之を蒐輯し裔孫等刪定刊行す收むる所詩、疏、書、雜啓、附錄等なり李太王丙寅に刊行す

蘇斗山字は望如月洲と號す晋州の人同知中樞府事東鳴の子なり仁祖丁卯に生れ孝宗壬辰進士に中り顯宗庚子文科に魁し官平安兵使に止まり肅宗癸酉に歿す

○ 老峯集 一二卷六冊 閔鼎重著 印本

圖書番號 四二二三、四二二六

閔鼎重の詩文集にして英祖十年甲寅從子丹巖鎮遠之を編す辭、賦、詩、疏、筭、書、行狀等を收め附録として筵中說話、啓牒、狀、啓、祭文、墓表、遺事等を載す

閔鼎重字は大受、老峯と號す驪興の人監司光勳の子なり仁祖戊辰に生れ少時學を市南俞榮に受け戊子進士となり己丑文科に魁たり三司吏郎を歴

五七三

て官左相に至る論して文忠と云ふ孝宗の時宋浚吉、宋時烈と齊しく重用せられ時烈の禍に遇ふや毎に之に同坐し肅宗己未長興に己巳碧潼に貶謫せられ遂に壬申碧潼の配所に歿す

○ 壺谷集 一八卷九冊 南龍翼著 印本

圖書番號 五七五三、七二九

南龍翼の詩文集にして詩各體及扶桑錄、詩文、燕行錄、課製錄、儷文、疏、筭、啓、序、記、跋、祭文、行誌、墓誌、碣、表、雜著等を收む十一、十二卷扶桑錄には日本に關する詩文多し

南龍翼字は雲卿壺谷と號す宜寧の人なり仁祖戊辰に生れ丙戌進士となり戊子庭試に登り選はれて湖堂に入る孝宗丙申重試壯元に擧げられ肅宗の時元子冊立に關して抗言し其の己巳西人の黨禍に遇ふや明川に遠竄せられ壬申に歿す諡して文憲と云ふ官吏曹判書大提學に至る

○ 靜觀齋集 二四卷一〇冊 李端相著 印本

圖書番號 四一五〇

李端相の詩文集にして肅宗八年壬戌子喜朝か北

伯尹趾善に編次を請ひ印出したものなり原集は詩及應製文、疏、啓、書、序、跋、祭文、公移、行狀、碑、銘、墓表等を收め別集は詩書附錄、世系圖、年譜等を載す

李端相字は幼能靜觀齋と號す延安の人にして月沙廷龜の孫、白洲明漢の子なり仁祖戊辰に生れ戊子進士となり己丑登科し選はれて湖堂に入り三司を歴て副提學に至り顯宗己酉に歿す文貞と諡し正卿を贈らる文獻の家に生れ幼にして警穎絶倫長して學行愈進み時望愈著れしも天壽を完うせず

○ 汾厓集 一二卷一二冊 申晷著 寫本

圖書番號 四〇七〇

申晷の詩文集にして收むる所詩、疏、筭、啓、辭、行狀、誌、銘、碑、銘、墓表、祭文、應製文、賦、雜著、附錄等なり申晷字は寅伯汾厓と號す平山の人東江翊金の子なり仁祖戊辰に生れ戊子生員進士に中る顯宗甲辰文科に登り銓郎を歴て官禮判に至り肅宗丁卯に歿す象村欽の孫東淮翊聖の孫にして幼より家學を承繼し文學政事を以て一世に推重せらる

○ 明齋遺稿

五一卷二六冊

尹拯著 印本

圖書番號 四八二八、四八二九

尹拯の遺稿にして英祖八年壬子從孫東洙之を編成す原集四十六卷二十三冊別集四卷二冊目錄一卷一冊合せて五十一卷二十六冊あり第一卷以下第四卷に辭賦詩第五卷以下第八卷に疏狀書啓第九卷以下第二十九卷に書第三十卷及第三十一卷に雜書第三十二卷以下第四十六卷に銘序記跋祝告文書院祝文墓表其の他を收め別集には専ら宋時烈と往復せし書を收む

○ 文谷集

二八卷一四冊 金壽恒著 印本

圖書番號 四〇七五、四〇九二、五八八五、六六二九

金壽恒の詩文集にして子昌集及昌協之を刪定し肅宗二十二年壬午芸閣活字を以て印行し越えて三年壬午安世徵靈光に宰たりし時増刪して上梓せり載する所詩疏筭啓議碑銘墓表行狀祭文頌教文冊文敎命文傳旨表箋上樑文序記題跋雜著書牘等なり

集部

○ 楓溪集

三卷一冊 李景華著 印本

圖書番號 五四〇七、六七〇四

李景華の詩文集にして六代の孫東奎の蒐輯に係り李太王五年戊辰に刊行す詩疏等の外附録あり李景華字は汝夏楓溪と號す振威の人愛日堂宗彦の孫にして尤菴宋時烈の門下なり仁祖己巳に生れ顯宗庚子生員に中り肅宗丙戌に歿す

○ 錦江集

六卷二冊 張璠著 印本

圖書番號 四二五七

張璠の詩文集にして英祖四十八年朴履章等協力刊行せしものなり載する所詩書記疏祭文狀誌附録等なり

張璠字は仲溫錦江と號す仁祖己巳に生れ肅宗の時學行を以て薦められ參奉を拜し官縣監に至る居常孝友鄉黨の矜式たり官に居るや亦實心直行苟も本領を曲けず辛卯に歿す

○ 霽月堂集

七卷四冊 宋奎濂著 印本

圖書番號 三六六七

宋奎濂の詩文集にして玄孫基鼎の蒐輯したるも

五七五

のなり收むる所辭詞、詩、疏、啓、行狀、墓誌、墓碣、祭文、序、上、樑文、銘、雜著、附錄等にして、純祖己卯に刊行す。宋奎濂字は道源、霽月堂と號す、恩津の人、松潭、栢壽の曾孫なり、仁祖庚午に生れ、戊子進士に中り、孝宗甲午文科に登りて、翰苑に入り、官禮曹判書に至り、肅宗己丑に歿す、經術、文行を以て、同春、宋浚吉、尤菴、宋時烈と名を齊うし、三宋と謂ふ。

○南溪集 一二五卷五六冊 朴世采著 印本

圖書番號 四九二一、四九二五、四九三七、五三九三、五

三九四、五三九五、六二六七、六五二八

朴世采の詩文集にして、正集八十七卷、外集十六卷、續集二十二卷あり、詩、疏、劄啓、議、書、啓、書、答問、雜著、史論、序、記、跋、銘、箴、昏書、上、樑文、祝文、祭文、碑、碣、表、誌、行狀、傳、年譜、公移等を收む。

○德浦遺稿 四卷二冊 尹摺著 印本

圖書番號 四四六六

尹摺の遺稿を集めたるものにして、玄孫憲圭之を編次し、純祖三十三年癸巳に刊行す、收むる所、詩、疏、書、雜著、祭文、科體論、策、附錄等なり。

尹摺字は子敬、德浦と號す、坡平の人、童土舜舉の子なり、仁祖辛未に生れ、孝宗壬辰生員に中り、顯宗壬寅蔭仕を以て、水庫別提を拜し、丙午文科に魁たり、官副提學に止まり、肅宗戊寅に歿す。

○損菴集 八卷四冊 趙根著 印本

圖書番號 六三二五

趙根の詩文集にして、英祖己巳從子榮祐の編刊したるものなり、疏、雜著、詩等を集め、附録として、年譜、遺事、祭文等を收む。

趙根字は復亨、損菴と號す、咸安の人、初名は之蘭、字を謙仲と云ふ、漁溪旅の後にして、同知逢源の子なり、仁祖辛未に生れ、庚寅生員となり、顯宗丙午文科に登第して、校理に擧げらる、嘗て尤菴、宋時烈に師事す、肅宗五年、宋尙敏の獄事に坐して、慶興に遠竄せられ、幾もなく、釋放を受け、庚申歸途に病死す。

○南岳集 六卷三冊 趙宗著 印本

圖書番號 四〇八四

趙宗著の詩文集にして、肅宗六年甲申子儀徵、儀祥等の編次、刊出したるものなり、載目は、詩、序、記、書、祭

文疏、墓文、教書、上樑文、對策、賦、雜著等にして墓誌銘一篇を尾に附す

趙宗著字は娶叔漢陽の人なり初め良齋と號す晩に終南山下の青鶴洞に卜居し因て南岳と改む仁祖辛未に生れ顯宗の時登科し官淮陽府使に止まり肅宗庚午に歿す記性人に過き特に史學に長し歴代の沿革、典故、法律より山川の狀態、險易等に至るまで悉く通曉せざるなし

○ 琴湖遺稿

五卷一冊 李志傑著 印本

圖書番號 六二八

李志傑の遺稿にして南九萬及崔錫鼎の抄定に係る收むる所詩各體、舊筮錄、百年錄、丙舍錄、芹宮錄、攝提錄、青坡錄、西湖錄、拾遺等なり

李志傑字は季夫、琴湖と號す碧珍の人、忠肅公尙吉の從孫なり、仁祖壬申に生れ進士を以て蔭仕を授けられ外職を経て官僉知中樞に至り肅宗辛巳に歿す文行を以て盛名あり其の子世瑾官參判に至る

○ 芝湖集

一三卷六冊 李選著 印本

集部

圖書番號 四二九九

李選の詩文集にして收むる所詩疏、筭、啓辭、書啓、獻議、書、雜著、序、跋、贊、祭文、墓誌、行狀、行錄、遺事、傳等なり、肅宗七年丙辰に刊行す

○ 西河集

一七卷八冊 李敏叙著 印本

圖書番號 五七四一

李敏叙の詩文集にして辭賦、詩、律、疏、筭、箋、冊文、教書、批答、祭文、序、跋、策、題、上樑文、記、雜著、銘、表、傳、行狀、書牘等を載せ尾に家狀を附せり

李敏叙字は彝仲、西河と號す全州の人にして白江敬輿の子なり、仁祖癸酉に生れ孝宗壬辰に登科し兄竹西敏廸と迭に時名あり官吏曹判書に至り文衡を典り肅宗戊辰に歿す諡して文簡と云ふ

○ 瑞石集

一八卷九冊 金萬基著 印本

圖書番號 六九六六

金萬基の詩文集にして肅宗二十七年辛巳孫春澤の檢校印出したるものなり、收むる所詩、序、記、跋、祭文、雜文、頌、箴、箋、批答、教書、上樑文、哀冊文、告祭文、致祭文、策文、書啓、疏、諡狀、誌、碣、表、附錄、教書、祭文、碑銘、家狀

五七七

等なり

金萬基字は永叙、瑞石又靜觀軒と號す光州の人に於て沙溪長生の曾孫なり仁祖癸酉に生れ五歳の時父益兼清人の難に殉節して孤となり外祖尹堉に就きて學ひ孝宗壬辰進士となり翌年登科し領敦寧府事兼大提學を拜す國舅たるを以て肅宗の初光城府院君に封せらる庚申の變訓練大將となり軍門に入りて功あり許堅等誅に伏するや保社功臣に録せられ丁卯に歿す諡して文忠と云ふ領相を贈られ顯宗廟庭に配享せらる

○ 敝帚遺稿

四卷二冊 任弘亮著 印本

圖書番號 七〇八〇

任弘亮の遺稿にして六代の孫聖模の蒐輯に係る收むる所詩、書、雜著、序、跋、上、樑文、祭文、行狀等なり李太王五年戊辰に刊行す

任弘亮字は士寅、敝帚と號す豊川の人司藝義の孫なり仁祖甲戌に生れ孝宗丁酉進士に中り顯宗壬寅文科に登り官牧使に止まり肅宗丁亥に歿す

○ 一峰集

一三卷七冊 趙顯期著 印本

圖書番號 四九三六

趙顯期の遺稿にして收むる所詩、錄、銘、書、序、雜著、祭文、疏、論、行狀、行錄、封事、別集等なり附するに子正緯の一默軒遺稿、行狀、雜著等を以てす

趙顯期字は揚卿、一峯と號す林川の人郡守時馨の子なり仁祖甲戌に生れ肅宗丙辰薦を以て義禁府都事に除せられ官府使に止まり乙丑に歿す
趙正緯字は象之、一默軒と號す一峰の第一子なり孝宗己亥に生れ肅宗辛酉進士に中り甲戌文科に登りて翰苑に入り官正言に止まり癸未に歿す

○ 息庵遺稿

二三卷一二冊 金錫胄著 印本

圖書番號 三〇九九、五八六五、六七七二、六九六七

金錫胄の詩文集にして肅宗二十三年丁丑門人洪禧之を編刊す收むる所詩、書、序、記、傳、說、跋、疏、筭、啓辭、收議書狀、祭文、應製、錄、雜著、誠、銘、策、日錄、誌狀、碣、表、碑、賦、箋、殿策、執策等なり

○ 楓厓遺稿

三卷一冊 金必振著 印本

圖書番號 四二〇、五六四一、六八八四

金必振の遺稿を集めたるものにして詩各體、序、祭文、言行錄、科體賦附錄等あり

金必振字は大玉、楓厓と號す慶州の人野塘南重の子なり仁祖乙亥に生れ孝宗丁酉進士に中り顯宗己酉蔭仕を以て水庫別檢を拜し官府使に止まり肅宗辛未に歿す文識淹博にして又筆名あり

○ 零沙集 一〇卷三冊 李世白著 印本

圖書番號 六七七三

李世白の詩文集にして詩疏、劄啓議、行狀、墓表、記、跋、表、箋、教書、祭文、祝文等を收む肅宗三十八年壬辰に刊行す

李世白字は仲庚、零沙と號す龍仁の人なり仁祖乙亥に生れ孝宗八年丁酉進士となり肅宗元年乙卯文科に登第し吏曹判書を経て戊寅右相を拜し尋て左議政に陞され癸未に歿す諡を忠正と云ふ己巳一時退きて楮島に處り優遊漁釣し觀復齋金崇謙の風を慕ふ後京に還るに及び追懷の情禁する能はず竟に零沙を以て號と爲す

集部

○ 竹室集 四卷二冊 任弘望著 印本

圖書番號 四三七二、五七七〇

任弘望の詩文集にして憲宗十年甲辰七代の孫憲晦之を編刊す詩疏、啓、跋、祭文、墓表、墓誌、行錄、雜書及年譜、行狀等を收め雜書は甲己錄、先蹟雜記等にして甲己錄は經筵日記なり憲晦附言して云ふ本書の外に全集ありしと雖回祿の災に罹りて餘すなし無名傳築城設鎮方畧等の作傳ふへくして傳はらずと

任弘望字は德章、竹室居士と號す豐川の人なり仁祖乙亥に生れ丁酉生員會試を歴て丙午別試文科に登第し槐院に入る庚申通政大夫を拜して濟州牧使となり乙丑禮曹參議となりしか尋て黃海監司を拜し後忠淸監司及慶州府尹となり出てて牧民に力むること數年乙未中樞府事を拜し耆社に入り肅宗乙未に歿す

○ 鰲亭逸稿 二卷一冊 金邦翰著 印本

圖書番號 二二〇七

金邦翰の文集にして上卷は疏、策、襍著、序、記、祝文、哀

五七九

辭等下卷は附録なり明治四十四年辛亥後孫時駿之を刊行す

金邦翰字は公漸、鰲亭と號す、月城の人なり、仁祖乙亥に生れ、肅宗丙辰司馬に中り、丁丑に歿す

○ 寛谷集

五卷二冊 金起泓著 寫本

圖書番號 七七七一

金起泓の詩文集なり、第一二卷は文、第三卷は詩、第四五卷は實記等にして、北咸に關する記事多し、李太王三十二年乙未、傍孫英哲等之を編成す

金起泓字は元潛、寛谷と號す、完山の人なり、仁祖乙亥に生れ、肅宗の時に歿す

○ 葵亭集

七卷二冊 申厚載著 印本

圖書番號 七二四五

厚載の詩文集にして、一卷より六卷に詩、七卷に雜著、序、記、辭、贊、箴、頌、祭文、教書表箋、疏、筭、碁、銘等を收む、丁範祖刪定し、正祖二年戊戌、孫思爽の刊行したるものなり

申厚載字は德夫、葵亭と號す、平山の人、正郎恒耆の子なり、仁祖丙子に生れ、顯宗庚子進士を以て文科

に登り、官判尹に至り、肅宗乙卯に歿す

○ 西浦集

一〇卷二冊 金萬重著 印本

圖書番號 四〇五九

金萬重の詩文集にして、子鎮華か、義城縣令たる時、刊行す、載する所、詩、疏、筭、啓、祭文、樂章、批答、教書、玉冊文、表、箋、序、跋、記錄、行狀等なり

○ 恬軒集

三五卷一〇冊 任相元著 印本

圖書番號 五九三〇

任相元の詩文集なり、第一卷以下第二十五卷を詩集とし、第二十六卷以下は文集にして、疏、筭、啓、論、記、序、雜著、碑銘、墓表、墓誌、行狀、祭文等を收む

任元相字は公輔、恬軒と號す、豊川の人にして、竹厓說の後なり、仁祖戊寅に生れ、顯宗乙巳文科狀元に掄ち、肅宗の時、重試に登り、累官禮曹判書に至り、丁丑に歿す、詩を以て知らる

○ 泛虛亭集

七卷二冊 宋光淵著 印本

圖書番號 四一〇五

宋光淵の詩文集にして、詩三百七十首と文九十五首とを收む、孫寅明の編次、印行したるものなり

宋光淵字は道深、泛虛亭と號す礪山の人にして雪村時詰の子なり仁祖戊寅に生れ顯宗丙午文科に登り官吏曹參判に至りて致仕し室を高陽の杏湖に築き亭に泛虛の二字を扁して優游風月を樂しむ肅宗乙亥に歿す

○拙修齋集 一二卷六冊 趙聖期著 印本

圖書番號 五六三五、五九二八、六六六〇

趙聖期の詩文集にして詩書辨說、行狀、祭文、論文、附錄等を收載し末に庚寅奉化縣刊太白山覺華寺藏と附記す蓋し肅宗庚寅なるへし雜著中に退溪、栗谷、四端七情人道理氣說、後辨理氣說等あり

趙聖期字は成卿、拙修齋と號す林川の人、知足堂之瑞六世の孫にして一峯顯期の弟なり仁祖戊寅に生れ孝宗の時進士となり文科に登第す學問深遠常に心を格物致知に竭せり肅宗己巳に歿し司憲府執義を贈らる

○止觀齋遺集 一冊 朴銑著 印本

圖書番號 七六七三

朴銑の遺稿にして子師漢の蒐輯したるものなり

詩雜文、附錄等を收む

朴銑字は晦叔、止觀齋と號す高靈の人、久堂長遠の子なり仁祖己卯に生れ孝宗丁酉進士に中り顯宗甲寅洗馬を授けられ官郡守に至り肅宗丙子に歿す名家の肖子にして文學行義を以て稱せらる

○迂齋集 一一卷五冊 趙持謙著 印本

圖書番號 四九〇〇、五七六一

趙持謙の詩文集にして詩、疏啓辭、序記、頌、箋、教書、供辭、勸善文、上樑文、祭文、誌狀等を收め、附錄あり

○楓溪集 三卷一冊 釋明晉著 印本

圖書番號 五四〇七

釋明晉の詩文集にして肅宗三十六年庚寅其の高足、聞僧の蒐輯刊行したるものなり詩、上樑文、記、說、序、祝詞、疏、銘、祭文、行狀等を收む

釋明晉字は醉月、楓溪と號す姓は朴氏密陽の人判書季賢の曾孫なり仁祖庚辰に生れ十一歳にして出家し春川清平寺義天大師より受具し十三歳金剛山に入り義謙大師に就き修道し肅宗戊子伽倻山白蓮菴に於て示寂す

○直齋集 一〇卷五冊 李箕洪著 印本

圖書番號 四三三九

李箕洪の詩文集にして李太王丁亥七代の孫承根の蒐輯刊行したるものなり詩、疏、書、序、記、跋、雜著、祭文、墓誌、墓碣、墓表、行狀、附録等を收む

李箕洪字は汝九、直齋と號す全州の人龜川君晬の曾孫なり仁祖辛巳に生れ肅宗丁卯叅奉を拜し甲戌遺逸を以て薦められ侍講院諮議を歴て官執義に止まり戊子に歿す宋時烈に師事し時烈罪竄の時屢抗疏して匡救する所あり北道會寧に竄せられ幾もなく宥を蒙る

○博泉集 三三卷五冊 李沃著 印本

圖書番號 五三九七

李沃の遺稿にして肅宗四十六年庚子子萬維編次刊行す文集八卷に賦、疏、筭、啓、序、記、說、論、行狀、謚狀、碑銘、祭文等を收め附録一卷補遺二卷あり詩集は北厓録より上洛録に至る十八卷にして又補遺二卷あり而して別集二卷には修省便覽、務本圖說等を收む

李沃字は文若、博泉と號す延安の人芹谷觀徴の子なり仁祖辛巳に生れ顯宗辛丑文科に登り官大司憲に至る

○寒水齋集 三四卷一四冊 權尙夏著 印本

圖書番號 三二四一

權尙夏の詩文集にして英祖三十七年辛巳門人韓元震、尹鳳九等遺稿を校讐し外曾孫黃仁儉之を刊行す載する所詩、疏、書、啓、收議、書、雜著、通文、呈文、語錄、序、記、題、跋、贊、祭文、告文、祝文、哀辭、碑碣、誌狀等なり權尙夏字は致道、遂菴又寒水齋と號す安東の人なり仁祖辛巳に生る尤菴宋時烈の高弟にして顯宗壬寅進士に中り後遺逸を以て薦められ官右議政に至り謚を文純と云ふ天姿高明學問醇篤にして師傳の正統を繼ぎ晩に黃江の下に卜築して學徒と講討す故に世人黃江先生と稱す

○壺隱集 六卷二冊 洪受疇著 印本

圖書番號 四八一五

洪受疇の詩文集にして子禹哲の編輯したるものなり一卷より四卷は詩、疏、不允批答、教書、箋、致祭文

祭文、雜著五卷は科體詩、科體表及科策等を收め六卷は附録にして諸家の挽詞、致祭文を載し景宗二年壬寅從姪禹傳慶尙道觀察使たる時に刊行す洪受疇字は九言、壺隱と號す南陽の人安分齋處尹の子なり仁祖壬午に生れ蔭仕を以て縣令を拜し肅宗壬戌文科に登り官兵曹叅判に止まり甲申に歿す詩と四六文を以て盛名あり明齋尹拯人言に遭ひし時上疏して救護する所あり北道慶興に謫せられしか幾もなくして宥さる

○ 遁翁集

圖書番號 一三七九、四九二七

七卷三冊 韓汝愈著 印本

韓汝愈の詩文集にして詩、箴、銘、雜著、經史、記疑、雜圖、辨解、題後、論等を收め世系、年譜、行狀等を附録とす純祖の時後孫弼梯之を刊行す

韓汝愈字は尙甫、遁翁と號す嶺南の人なり仁祖壬午に生れ夙に徐花潭宋尤庵の道を悦ぶ易に於て最も造詣あり肅宗己丑に歿す英祖の時特に持平を贈らる

○ 鶴庵集

六卷三冊 崔愼著 印本

集部

圖書番號 六六六六

崔愼の遺集にして七代の孫肇祖の蒐輯したるものなり詩、疏、供辭、序、書、聞見錄、祭文、附録等を收め李太王二十一年甲申九代の孫秉鎮之を刊行す崔愼字は子敬鶴菴と號す海州の人知中樞府事山厚の子なり仁祖壬午に生れ肅宗庚申に叅奉を授けられ縣監を経て己丑に歿す李太王壬午吏曹判書を贈り諡を文簡と云ふ

○ 禮谷集

圖書番號 五一九七

二卷一冊 具文游著 印本

具文游の詩集にして李太王光武五年辛丑六代の孫然升之を刊行す

具文游字は士雅、禮谷と號す綾城の人明谷峯の子なり仁祖甲申に生れ肅宗庚午進士に中り四山監役を授けられ官翊贊に止まり戊戌に歿す

○ 懶隱集

圖書番號 一六六九、四六三一

一〇卷六冊 李東標著 印本

李東標の詩文集にして玄孫漢膺の蒐輯したるものなり收むる所詩、疏、筭、啓書、序、記、雜著、上樑文、祝文

五八三

祭文、行錄、附錄等なり李太王庚辰之を刊行す

李東標字は君則、懶隱と號す眞實の人參奉三馨の

孫なり仁祖甲申に生れ肅宗乙卯生員に中り癸亥

文科に魁たり舍人を歴て官承旨に止まり庚辰に

歿す英祖辛酉吏曹判書を贈られ諡を忠簡と云ふ

退溪李滉の旁孫にして經學文章の外正意直諫を

以て一世に推重せられ小退溪の稱あり

○西坡集 三〇卷一五冊 吳道一著 印本

圖書番號 六三〇六、六六三〇、六七三六、七一七六

吳道一の詩文にして英祖五年己酉第三子遂燁永

柔郡守たる時鐵字を以て印出す詩賦八卷、疏筭、奏

議八卷、序記、雜著二卷、祭祀文二卷、書二卷、狀、銘、表、誌

二卷、館閣文一卷、雜識一卷、困得編二卷外に附錄二

卷あり

吳道一字は貫之、西坡と號す海州の人なり仁祖乙

酉に生れ顯宗癸丑文科に及第し官大提學に至り

肅宗癸未に歿す

○睡谷集 一九卷一〇冊 李畬著 印本

圖書番號 四八九六

李畬の詩文集にして詩及疏筭、筵奏、冊文、教文、樂章、

祭文、序、記、跋、論、雜著等を收載す

李畬字は治甫、睡谷又浦陰と號す德水の人澤堂植

の孫なり顯宗壬寅生員となり肅宗庚申に登科し

文衡を典りて官左議政に至り戊戌に歿す諡して

文敬といふ

○養窩集 一三卷一三冊 李世龜著 寫本

圖書番號 三四一六

李世龜の詩文集にして收むる所詩、疏、書、說、祭文、墓

誌、墓表、家狀、跋、題書後、識、傳、贊、序、銘、雜著等なり

李世龜字は壽翁、養窩と號す慶州の人白沙恒福の

曾孫なり仁祖丙戌に生れ顯宗壬子進士に中り蔭

仕を以て官牧使に至り遺逸を以て薦められ掌令

となり肅宗庚辰に歿す經術文行を以て盛名あり

其の子雲、谷光佐は一代の名相にして世人之を山

河間氣と稱す

○綱菴集 八卷四冊 申琬著 印本

圖書番號 四一七三

申琬の遺稿にして孫暲の蒐輯に係る收むる所賦、

辭、詩、疏、笱、啓、讓、家狀、諡狀、墓誌銘、墓碣銘、祭文、哀辭、雜著、書牘等なり英祖四十二年丙戌之を刊行す

申院字は公獻、絢菴と號す平山の人領相景禎の曾孫なり仁祖丙戌に生れ顯宗壬子文科に登り副提學を歴て官領相に至り平川君に襲封せられ肅宗丁亥に歿す諡を文莊と云ふ文章を以て當時に推重せらる

○ 厚齋集 五〇卷二五冊 金翰著 印本

圖書番號 七二八

金翰の詩文集にして原集四十六卷は詩、疏、奏、笱、啓、議、書、經、義、禮、疑、經、書、笱、記、雜著、序、記、跋、銘、箴、贊、婚書、上、樑文、祝文、祭文、碑文、墓誌、碣、行狀、諡狀、傳等別集四卷は疏、書、雜著等なり

金翰字は直卿、厚齋と號す清風の人正郎沙川克亨の孫なり仁祖丙戌に生れ肅宗甲戌學行薦を以て水庫別提を拜し諡議、進善、贊善、都憲を歴て英祖壬子に歿す官右叅贊に至り諡を文敬と云ふ南溪世采の門に入り學問膽博にして壽は九耄に至り一時の墓道文字多く其の手より出つ

集部

○ 是窩遺稿 八卷三冊 韓泰東著 印本

圖書番號 五四二、六八三

韓泰東の詩文集にして英祖五十一年乙未孫德弼の編刊したるものなり載する所賦、詩、疏、啓、序、記、跋、雜著、教書、批答、祭文、策問、上樑文、墓誌、行狀及科體義、賦、策、附録等なり

韓泰東字は魯詹、是窩と號す清州の人掌令禎の子なり仁祖丙戌に生れ顯宗丙午生員となり己酉文科壯元に捷ち官應教に止まり肅宗丁卯に歿す

○ 東岡遺稿 八卷二冊 崔是翁著 印本

圖書番號 五五六七、五八九六

崔是翁の遺稿にして一卷は詩二卷は書三卷は禮說四卷は序、記、贊、辨五卷は祭祝文六七卷は墓文、行狀八卷は附録なり哲宗戊午穰孫之を刊行す
崔是翁字は漢臣、號は東岡、朔寧の人贅洲徹之の子なり仁祖丙戌に生れ年三十を過ぎ遂に舉業を絶ち明齋尹拯の門に遊學す南溪朴世采之を見て經行を以て薦し持平を特授せられ官僉知中樞事に至る英祖庚戌に歿す

五八五

○明谷集 三四卷一七冊 崔錫鼎著 印本

圖書番號 一〇七七、一六一八、五〇五八、五八九七、五九〇二

崔錫鼎の詩文集にして景宗元年辛丑門人趙泰億

慶尙道觀察使たる時刊行す載する所詩賦序引記

駢儷祭文箴銘贊雜著題跋書牘疏筭收議誌狀等な

り

○游齋集 二四卷八冊 李玄錫著 印本

圖書番號 六六六一、六六八二

李玄錫の詩文集にして第一卷より第十一卷に坡

西錄、隨城錄、舟橋錄、禁中錄、北征錄、東征錄、鐵城錄、優

遊錄、南征錄、花山錄、嶺南錄、南隱錄、聞韶錄、東遊錄、寒

暑錄、築城錄、閑居錄、鶴城錄等の詩第十二卷以下第

二十四卷に疏書、序、跋、祭文、記、說、雜著、易義、窺班、讀書

雜錄、觀省雜錄等を收む

○藥圃集 二卷二冊 鄭吾道著 印本

圖書番號 一五四四

鄭吾道の遺稿にして玄孫東璣之を蒐輯し純祖甲

子に刊行したるものなり

鄭吾道字は一貫藥圃と號す河東の人孝友齋績の曾孫なり仁祖丁亥に生れ肅宗庚寅才行を以て薦められ特に僉知中樞府事を授けらる英祖丙辰に歿す尤庵宋時烈の門下にして肅宗己巳廢妃の時上疏し直聲を獲たり

○芸齋遺稿 二卷一冊 李坪著 印本

圖書番號 五〇三二

李坪の詩文集にして詩一卷文一卷附するに家乘

と諸人の誌狀遺事記述を以てし尾に従弟堉の魯

谷遺稿を添ふ英祖四十六年庚寅族弟孫瀾慶尙觀

察使たりし時編刊す

李坪字は對山號は芸齋或は芸谷と稱す德水の人

縣監喜相の子なり仁祖戊子に生れ肅宗甲子司馬

に中り戊寅叅奉に補せられ官縣監に止まり癸巳

に歿す

李堉字は載叔魯谷と號す李坪の從弟にして亦詞

才あり

○丈巖集 二六卷一五冊 鄭澐著 印本

圖書番號 七二〇

鄭澐の遺稿にして子義河之を編輯し孫棠之を刊出す詩、疏、筭、啓、議、書、經、義、問、答、讀、書、漫、錄、誌、碑、碣、表、諡、狀、行、狀、祭、文、序、記、跋、雜、著、等、を、收、む

鄭澐字は仲淳、丈巖と號す、延日の人にして松江澈の玄孫なり、仁祖戊子に生れ、肅宗壬戌進士となり、甲子登科し、景宗辛丑の士禍に罹りて、翌壬寅楚山に謫せられ、放釋歸還し、夢窩金昌集を祭る文を作りて復た薪智島に流さる、英祖乙巳右相を拜し、尋て領議政に至り、上筭して壬寅士禍に罹りし諸士の伸冤に力めたり、其の丁未又事に坐して、榮川に竄せられしか、謫に在ること一年有餘、己酉耆社に入り、丙辰に歿す、諡して文敬と云ふ

○夢窩集

一〇卷五冊 金昌集著 印本

圖書番號 四四二六

金昌集の詩文集にして、洪鳳漢の出捐に依り、英祖三十四年戊寅子濟謙の次子元行の編刊したるものなり、辭詩、疏、筭、議、等、を、收、め、濟、謙、の、詩、文、若、干、を、附、す

○滄溪集

二七卷一四冊 林泳著 印本

集部

圖書番號 四二一、五七九六

林泳の詩文集にして、詩、疏、書、教、書、箋、祭、文、記、序、跋、雜、著、上、樑、文、墓、文、行、狀、經、筵、錄、筭、錄、日、錄、等、を、收、む、附、錄、に、祭、文、挽、詞、等、を、載、せ、り

林泳字は德涵、滄溪と號す、羅州の人なり、仁祖己丑に生れ、顯宗辛亥登科し、選はれて湖堂に入り、官大司憲に至り、肅宗丙子に歿す、學行醇篤にして文章亦博雅なり

○槎川詩集

二卷一冊 李秉淵著 印本

圖書番號 二二六七、四二四二

李秉淵の詩集にして、洪樂純の跋あり、秉淵の手抄せしものに若干首を増し、合せて五百餘篇と爲し、之を刊行したるものにして、其の全集の行はるるは後の君子を俟つと云へり、正祖二年戊戌の出版なり

○養正齋集

一冊 金道凝著 印本

圖書番號 五二六一、七八〇七

李秉淵字は一源、槎川と號す、仁祖の時の人なり、詩を以て一世に鳴り、享年八十餘、英祖の時に歿す

五八七

金邁疑の詩文集にして詩各體及四六文數編を蒐輯す哲宗の時七代の孫顯龜之を編校刊行す

金道凝養正齋と號す金海の人左尹守玄の子なり

○ 白谷集

一冊 釋聖能著 印本

圖書番號 五八〇〇、一一〇五四

僧聖能の文集にして收むる所疏、序、記、說、跋、書、行狀、碑銘、祭文、諭善文等なり

○ 龜厓集

六卷三冊 李琯著 印本

圖書番號 六五二七

李琯の詩文集にして收むる所詩、書、雜著、銘、上、樑文、祝文、祭文、哀辭、墓誌、行狀、行蹟、記、聞、附錄等なり

李琯字は粹彥、龜厓と號す全州の人縣監成立の曾孫なり孝宗庚寅に生れ英祖壬子に歿す學行を以て一郷に推されしと雖山林に老死して當世に用ひられず

○ 農巖集

三八卷二〇冊

金昌協著 印本

圖書番號 二八三七、三一〇一、三一〇二、三六二二、四〇

八二、四二六、四四一三、四五四七、五三三九、六一四四、

六七五七、六七六一

金昌協の遺稿にして原集三十六卷に賦、詩、疏、筭、啓

議、講、儀、書、序、記、題、跋、教、書、箋、狀、上、樑文、贊、銘、祝、辭、婚、書、

雜著、墓文、行狀、祭文、哀辭、雜識等を收め續集二卷に

行狀、書、墓誌、說等を收む原集は門人金時保之を哀

輯し肅宗三十五年己丑始めて上刊す英祖の時安

東府使趙暎重刊を企て甲戌に至り年譜を合せて

再刊し續集は五代の孫洙根哲宗五年甲寅に之を

刊行せり

○ 遂初堂集

七卷三冊 權竹著 印本

圖書番號 四三三三

權竹の詩文集にして英祖二十五年己巳五代の孫思健の印行したるものなり賦、詩、疏、章、書、牘、行狀、墓文、序、跋、箴、銘、雜著等を收め遺事、狀、誌等の附録あり末に玄孫躋敏の淵西遺稿を附す

權竹字は怡叔、遂初堂と號す安東の人執義讓の子なり孝宗辛卯に生れ肅宗辛酉司馬兩試に中り己巳登科せしも適々瑤華の變あり竹義を引ききて仕官を絶ち連りに除命せられしも辭して就かず晚

に工曹叅議、大司諫、副提學、同副承旨等を拜し、英祖乙巳嘉善に陞り、尋て弘文館提學、大司憲に至り、丙午に歿す。諡して文貞と云ふ。

○無用堂遺稿 二卷一冊 釋秀演著 印本

圖書番號 六七二六

僧秀演の遺稿にして、弟子釋若坦等之を蒐輯して、景宗四年甲辰に刊行したるものなり。詩、書、序、記、墓緣文、說、疏、啓等を收む。

釋秀演字は無用、仍りて號と爲す。龍安の人。府使應弼の孫なり。孝宗辛卯に生れ、丁未出家して、曹溪の惠寬に依り、後慧空に受具し、壬子枕肱の門に遊ひ、丙辰柏庵に謁して、問難し、禪機愈熟す。肅宗己亥に示寂す。

○晚靜堂集 一八卷九冊 徐宗泰著 印本

圖書番號 四二四四、五三二七

徐宗泰の詩文集にして、騷、賦、詩、疏、筭、啓、議、故事、應製、序、記、識、說、跋、策、問、書、牘、祭文、哀辭、傳、紀、表、碣、誌、狀、雜著等を收む。

○約軒集 一四卷七冊 宋徵殷著 印本

集部

圖書番號 六六五九、七一〇四、七一〇五

宋徵殷の詩文集にして、詩、疏、筭、講義、奏事、啓、辭書、序、記、跋、雜著、奏、箴、頌、上、樑文、箋、策、應製文、祭文、哀辭、誌、表、行狀、諡狀等を收む。

○六化集 五卷一冊 梁居安著 印本

圖書番號 六三三〇

梁居安の詩文集にして、從孫在慶之を蒐輯し、李太王十六年癸卯之を刊行す。收むる所、賦、詩、書、雜著、箋、序、記、跋、祝文、祭文、墓誌、行狀、遺事、傳等にして、諸人の贈酬一卷を附し、又弟居易の六峯稿と、從弟居雄の遺文並に子井維の遺文を合して、一卷を附せり。梁居安字は遷伯、六化と號す。濟州の人。杏村禹圭の子なり。孝宗壬辰に生れ、進士に中り、英祖辛亥に歿す。西溪朴世堂及明齋尹拯の門に入り、經學に深し。

○瓶窩集 一八卷九冊 李衡祥著 印本

圖書番號 七二〇

李衡祥の詩文集にして、英祖二十六年甲午孫晚松の編刊したるものなり。收むる所、詩、樂府、箴、銘、頌、贊、箋、疏、書、物、則篇、子集考異、雜著、說、策、問、序、記、跋、上、樑文、

祝文、祭文、墓誌、碣、狀、牒等にして行狀を附す

李衡祥字は仲玉、瓶窩、又順翁と號す、全州の人、孝寧大君の後なり、肅宗丁巳、司馬に中り、庚申、別試に登り、或は濟州に牧となり、或は慶州に尹となり、嘉善に陞りて致仕し、英祖癸丑に歿す、朋黨の弊を慨歎して之を打破せんことを期し、又其の子孫を戒む故に嘗て黨禍の累なし、晩に永川に退き、浩然亭を築き、優游自適するもの三十年を以て、天壽を終る

○ 東溪集

一〇卷五冊 朴泰淳著 印本

圖書番號 六三三七

朴泰淳の詩文集にして、詩、箴、銘、頌、贊、教書、箋、狀、上、樛文、序、記、題、跋、祭文、告文、疏、啓、行狀、墓誌、碣、表、碑等、を收む、孫師緝之を編寫し、英祖十二年丙辰、女塔、宋成明、咸鏡監司たる時之を鏤梓す

朴泰淳字は汝厚、號は東溪、潘南の人、儒軒、潢の孫なり、孝宗癸巳に生れ、肅宗壬戌、司馬に中り、丙寅、文科に登り、官大司成に止まり、甲申に歿す

○ 南忠壯公詩稿

一冊 南延年著 印本

圖書番號 五二六九

南延年の詩稿にして、洪啓禧之を編輯し、英祖二十三年丁卯に刊行す、附録に致祭文、行狀、神道碑、挽章等を載せり

南延年字は壽伯、宜寧の人、贈承旨斗明の子なり、孝宗癸巳に生れ、肅宗丙辰、武科に登りて、宣傳官を拜し、官清州營將に止まる、英祖戊申、李鱗佐の亂に、清州營將を以て、屈せずして、殺さる、兵曹判書を贈られ、諡を忠壯と云ふ、武人にして、詩名あり

○ 三淵集

三六卷一八冊

金昌翁著 印本

圖書番號 四九〇三、六七二二、七二九六

金昌翁の詩文集にして、詩、書、序、記、題、跋、說、贊、雜著、上、樛文、墓誌、神道碑、墓碣、墓表、行狀、行錄、祭文、哀辭、雜錄、日錄、漫錄等を收む、其の名山、大川、樓臺、寺刹等に關する吟詠は、當時盛に傳誦せられたるものなりと云ふ

金昌翁字は子孟、三淵と號す、文谷壽恒の子なり、孝宗癸巳に生れ、仲兄農巖、昌協と俱に、文名あり、農巖は文に勝り、三淵は詩に勝る、遺逸を以て、官進善に

至り景宗壬寅に歿し諡を文康と云ふ

○ 碁峰集

四卷二冊 南正重著 寫本

圖書番號 一六三〇

南正重の遺集にして收むる所詩、疏、筭、啓、辭、議、教書、批答、致祭文、箋、行狀、雜著、附録等なり

南正重字は伯珍、碁峰と號す、宜寧の人、壺谷龍翼の子なり、孝宗癸巳に生れ、肅宗辛酉進士に中り、己巳文科に登り、銓郎を歴て、官觀察使に至り、甲申に歿す、名家の肖子として文學行義甚た盛名あり

○ 柳下集

一四卷六冊 洪世泰著 印本

圖書番號 七二七八

洪世泰の詩文集にして、景宗四年甲辰自ら編次、印行せるものなり

○ 洞虚齋集

一冊 成獻徵著 印本

圖書番號 四八一三

成獻徵の詩文集にして、從孫宇柱、國柱等の蒐輯したるものなり、收むる所詩、書、記、策、雜著等にして、英祖四十五年己丑に刊行す

成獻徵字は文式、洞虚と號す、昌寧の人、聽竹澗の玄

集部

孫なり、孝宗甲午に生れ、肅宗丙辰に歿す、幼より聰悟、八九歳にして辭を吐き、人を驚かす、年僅に二十三にして夭す

○ 晦隱集

五卷二冊 南鶴鳴著 印本

圖書番號 五七九四

南鶴鳴の詩文集にして、子夢嚙克寬之を輯編す、收むる所詩、賦、記、序、題跋、祭文、書、雜文、行狀、遺事、墓文、雜說等なり

○ 定齋集

一五卷七冊 朴泰輔著 印本

圖書番號 五二六三、六二七二、七三六六

朴泰輔の詩文集にして、原集、別集、附録及後集に分つ、原集九卷には詩、賦、箋、狀、箴、銘、贊、祭文、雜著、跋、傳、墓表、行狀、序、記、論、筭、啓、議、奏書、簡牘等、別集五卷には狀牒、斷訟案、增損、投壺儀、追尤錄、及坎流、編上下、附録一卷には行狀、後集六卷には詩、疑、義、策、箴、箋、表、奏、祭文、記、疏、啓、上言、表、行狀、墓表、及己巳、愍節錄等を收む

○ 芝村集

三二卷一五冊

李喜朝著 印本

圖書番號 四二一九、四二二三

五九一

李喜朝の詩文集にして英祖三十年子亮臣先人の門下と俱に之を編次し李台重の平安道觀察使たる時開刊廣布したるものなり收むる所詩、疏、書、啓、書、祝祭文、序、記、題、跋、諭、告、碑、誌、傳、狀、雜記、語錄、筭記、雜著等なり

○玉吾齋集 一八卷九冊 宋相琦著 印本

圖書番號 五九二九

宋相琦の詩文集にして英祖三十六年庚辰子必煥之を編次し孫載禧の印出したるものなり編を分ちて詩四卷文十二巻と爲し附するに漫録一卷附録一卷を以てす載する所辭詩疏、筭、啓、議、教文、冊文、教書、箋、狀、上、樑文、樂章、序、記、跋、墓文、諡狀、行狀、祭文、遺事、南遷錄等にして附録に祭文、碑銘、諡狀等を載せり

○老稼齋集 五卷三冊 金昌業著 印本

圖書番號 五〇六四

金昌業の詩集なり昌業嘗て兄夢窩に隨ひて燕京に遊ぶ故に集中當時の作少からず其の刊役に當りしは玄孫祖淳にして純祖二十年庚辰なり

○茅洲集 一〇卷五冊 金時保著 印本

圖書番號 七一〇三

金時保の遺集にして收むる所詩、書、序、記、跋、墓誌、行狀、祭文、哀辭及附録等なり正祖十四年庚戌孫履復編次刊行す

金時保字は士敬、茅洲と號す安東の人水北光炫の曾孫なり孝宗戊戌に生れ官都正に至り英祖甲寅に歿す農巖三澗等と往來して詩名あり

○玉川集 一八卷九冊 趙德隣著 印本

圖書番號 五六一三

趙德隣の詩文集にして第一、二卷は詩三、四卷は疏狀五、六卷は書牘七卷は雜著八卷は記、跋、銘九卷は祭、祝、上、樑文十卷より十七卷は誌、狀、文字十八卷は附録なり

趙德隣字は宅仁、玉川と號す漢陽の人將仕郎顔の子なり孝宗戊戌に生れ肅宗丁巳司馬に中り辛未文科に登り官承旨に止まる英祖即位の初一疏を呈し時弊を擧ふ此に因りて構誣を被り謫せられ途に死す

○竹泉集

三五卷一二冊

金鎮圭著 印本

圖書番號 四二一、五五五八、五五五九、五七六七、六二

六九、六二七〇、七二五九

金鎮圭の詩文集にして英祖四十九年子陽澤之を刊行するに臨み英祖奎章閣に命して其の業を助けしめ序を卷首に弁す收むる所賦詩、記、題、雜著、奏、策、教文、教書、書啓、冊文、樂章、箋、序、祭文、書、疏、簡、啓、墓表、墓誌、行狀、碑銘等なり

金鎮圭字は達夫、竹泉と號す光山の人、瑞石萬基の子なり、孝宗戊戌に生る、肅宗丙寅に登科し魁に居る、文衡を典り官禮曹判書に至り丙申に歿す、文靖と諡せらる、少にして宋尤庵の門に遊ひ文學に名あり且漢鑑に明なり、掌試公平と稱せらる

○疎齋集

二〇卷一〇冊

李頤命著 印本

圖書番號 七〇三二

英祖三十五年己卯、洪鳳漢、李頤命の遺著、後世に傳はらざるを歎き禍餘の散帙を掇拾、印出したる

集部

ものにして賦詩、疏、議、故事、教書、批、箋、序、記、跋、贊、銘、箴、雜著、誌、碣、狀、祭文、哀辭、書牘等あり、後序は孫鳳祥の撰に係り、本書印出の顛末竝に頤命進退屈伸の事實を記す

○采眞子遺稿

一冊 金聖甲著 印本

圖書番號 五八〇五

金聖甲の遺稿にして弟范甲之を采輯し三淵金昌翁之を刪定したるものなり、收むる所詩、科體詩、表等なり、附するに從弟致甲の惺齋遺稿を以てす

金聖甲字は時中、采眞子と號す、安東の人なり、孝宗の時に生る、其の從弟致甲字は用極、惺齋と號す、共に詩才あり、肅宗己丑相尋て夭死す

○北軒集

二〇卷七冊 金春澤著 印本

圖書番號 四九〇一

金春澤の詩文集にして初め自ら編輯し因海、鷲山、恩歸、拾遺の四編と爲し、後蘆山録を加へ九冊と爲し、孫斗秋更に選擇して七冊と爲し、刊行す、收むる所詩、書、序、記、辨、錄、祭文、論、疏、終事、志、幟、誌文、言行錄、散藁、說、策、問、答等なり

五九三

○ 晚隱遺稿

一冊 洪胄華著 印本

圖書番號 四五三一

本書は洪胄華の遺稿にして曾孫宗善之を蒐輯し純祖壬戌に刊行す收むる所詩、疏、祭文、雜著、附録等なり

洪胄華字は君實、晚隱と號す南陽の人牧使錫武の孫なり顯宗庚子に生れ肅宗戊戌に歿す尤菴宋時烈の門下にして孝行を以て聞ゆ

○ 一一憂堂集

六卷三冊 趙泰采著 印本

圖書番號 四〇九五

趙泰采の詩文集にして載する所詩、疏、筭、啓、辭、收、議、祭文、不允批答、墓文、銘等なり

趙泰采字は幼亮、二憂堂と號す楊州の人藥泉啓遠の孫なり顯宗庚子に生れ肅宗丙寅に登科し官右議政に至る景宗壬寅建儲の事を以て死を賜はる英祖の初仲冤を得て忠翼と諡せらる

○ 壽谷集

一三卷六冊 金柱臣著 印本

圖書番號

五五八〇、五七七七、六七五六、六八五五、七

金柱臣の詩文集にして原集に序、說、跋、辨、書、疏、筭、墓文、行狀、祭祝文、哀辭、居家紀聞、隨事、筭、錄、散言、上下篇を收め別稿には詩、賦、策、銘、經、義、雜、著、を載せ附録に行狀、遺事、賜祭文等を載す英祖三十六年庚辰孫孝大之を上梓す

金柱臣字は履卿、壽谷又洗心齋と號す慶州の人野塘南重の孫なり顯宗辛丑に生れ肅宗丙子生員となり庚辰工曹郎より出て順安縣監となる壬午肅宗の舅たる故を以て官領敦寧府事に進み景宗辛丑に歿す諡を孝簡と云ふ嘗て一牛重荷を負ひ嶺を踰ゆるに會ひ喘息の状を見るや惻然として曰く既に其の力を食ふ何そ其の肉を食ふに忍むむやと遂に終身牛肉を食はず又不殺耕牛辨を作る載せて本集に在り

○ 屏山集

一五卷八冊 李觀命著 印本

圖書番號 六二〇二

李觀命の詩文集にして收むる所詩、疏、筭、啓、書、啓、議、應製文、策題、上樑文、序、題、跋、雜著、行狀、諡狀、墓碣、墓誌、墓表、神道碑、祭文、哀辭等なり

○ 圃陰集 六卷三冊 金昌緝著 印本

圖書番號 六七六九、六八四六

金昌緝の詩文集にして兄昌翁哀編し英祖二年丙午門人俞拓基活字を以て印行す收むる所詩書雜著、序、記、行狀、墓誌、銘、祭文、哀辭、年譜及諸人の祭文、附錄等なり

金昌緝字は敬明圃陰と號す安東の人壽恒の第五子にして夢窩、農巖、三淵、老稼、齊等皆其の兄なり顯宗壬寅に生れ歳十三趙逢源に就いて學ひ二十歳の時澄懷錄を輯す肅宗甲子生員に中り教官を拜したるも就かす癸巳に歿す

○ 后溪集 八卷四冊 趙裕壽著 印本

圖書番號 五〇〇六、六九七二

趙裕壽の詩文集にして英祖二十三年丁卯江陵府に於て印刊す收むる所詩、行狀、墓誌、墓表、墓碣、祭文等なり

趙裕壽字は毅仲、后溪と號す豐壤の人翠屏珩の孫なり顯宗癸卯に生れ肅宗癸亥進士に中り官判決事に至り英祖辛酉に歿す

集部

○ 寒圃齋集 一〇卷五冊 李健命著 印本

圖書番號 七五七三

李健命の詩文集にして收むる所詩、疏、劄、啓辭、收議、箋、課製、教書、不允批答、哀冊文、序、記、題跋、雜著、墓銘、墓表、行狀、祭文、哀辭、書等なり

李健命字は仲剛、寒圃齋と號す全州の人西河敏叙の子なり顯宗癸卯に生れ肅宗丙寅文科に登り銓郎を歴て官左相に至る景宗壬寅に罪死し英祖乙巳に復官し忠愍と諡せらる

○ 朴正字遺稿

一五卷一〇冊 朴泰漢著 印本

圖書番號 九九九、三四三九、五〇二四

朴泰漢の遺稿にして弟師漢之を輯編す收むる所學則、治法、章疏、書牘、賦、詩、序、說、祭文、雜著、科製、讀書、劄記、附錄等なり

朴泰漢字は喬伯、高靈の人久堂長遠の孫なり顯宗甲辰に生れ肅宗甲戌文科に登り官承文副正字に止まり丙子に歿す明齋尹拯の門下にして經術文章を以て當時に盛名ありしも年僅に三十四にし

五九五

て天す

○ 園翁集 二卷一冊 李宜繩著 印本

圖書番號 四〇九九、六七五二

李宜繩の詩稿にして従子普赫の蒐輯したるものなり英祖五年己酉に刊行し哲宗七年丙辰に至り曾孫在沆茂朱府使たる時重刊す

李宜繩字は繩兮、園翁と號す龍仁の人白痴後天の曾孫なり顯宗乙巳に生れ肅宗戊寅に歿す詩を以て盛名あり當時文苑の宗匠たる西坡吳道一の褒獎せる文字に徴するも以て其の才調學識を推知すへし享年僅に三十餘

○ 遯窩遺稿 三卷三冊 任守幹著 印本

圖書番號 六九九〇

任守幹の遺稿にして子瑋英祖の時に編刊せり收むる所詩疏、記、序、跋、論、儷文、賦、墓誌、哀辭、祭文等なり任守幹字は用譽、號は遯窩、豐川の人恬軒、相元の子なり顯宗乙巳に生れ肅宗庚午司馬に中り甲戌文科に登り湖堂に選ばれ官承旨に至り景宗辛丑に歿す家世世文名あり肅宗辛卯通信副使を以て日

本に往き聲譽あり子瑋、珣俱に文を能くし第に登る

○ 松巖集 六卷三冊 李載亨著 印本

圖書番號 四〇八三、四二四八

李載亨の詩文集にして收むる所疏狀、書、雜著、祭文、墓表、家狀、詩、附錄等なり雜著に性命圖說等あり英祖戊寅に刊行す

李載亨字は嘉會、松巖と號す定宗の別子德泉君厚生の後なり顯宗己巳に生る七代の祖世良事に坐して鏡城に謫せられ子孫遂に其の地に住す稍や長するに及び適ま農巖金昌協鏡城に至るあり仍て就いて學ぶ肅宗庚申持平を以て召されたるも至らず英祖辛酉に歿す學術高明、規模嚴正平生の用工は自得に出づるもの多し

○ 德村集 一〇卷五冊 梁得中著 印本

圖書番號 七二七〇

梁得中の詩文集にして子舜諧の蒐輯に係る收むる所疏、登對筵話、論、賦、記、說、序、題、跋、通文、詩若干編、祭文、祝文、書等なり純祖丙寅外曾孫尹仁基之を刊行

す

梁得中徳村と號す濟州の人克復堂禹疇の子なり
宗乙巳に生れ肅宗甲戌經行を以て別薦せられ
丁丑叅奉を授けられ六品主簿に超遷し堂令を経
て官承旨に至り英祖壬戌に歿す

○ 朴靈恩遺稿

一冊 朴恒漢著 印本

圖書番號 七八六九

朴恒漢の詩文を弟師漢の蒐輯したるものにして
詩、自警文、書祭文、附録等を受む

朴恒漢字は道常又の字は徳一と云ふ止觀齋銚の
子なり顯宗丙午に生れ肅宗戊寅に歿す子文秀兵
判に官し奮武功臣に録勳せられたるため推恩し
て靈恩君左賛成を贈らる家學を善繼し文行を以
て一世に推重せられたるも早く歿し布衣を以て
終る

○ 澤齋遺唾

一冊 金昌立著 印本

圖書番號 七〇六七

金昌立の古體詩、律詩等八十餘首を集めたるもの
なり附録に行狀、墓表、墓誌銘、傳、哀章等を載す

集部

金昌立字は卓爾澤齋と號す文谷壽恒の末子なり
顯宗丙午に生れ年十八肅宗癸亥に歿す人と爲り
沈勇特に詩に長す

○ 芸窩集

六卷三冊 洪重聖著 印本

圖書番號 四〇七四、四六五八、五五八六、五七九五、七

三〇三

洪重聖の詩文集にして正祖八年孫良浩之を編輯
し明浩之を印行す收むる所詩序、記跋、上樑文、啓、說
書、誌銘、行狀、祭文、哀辭等なり

洪重聖字は君則、芸窩と號す無何堂永安尉柱元の
孫なり顯宗戊申に生る幼にして神童と稱せられ
長して文詞を善くす三淵金昌翁許すに知音を以
てし昆侖崔昌大と文契最も深し肅宗丙子進士に
中り洗馬を拜し官江華經歷に止まる英祖乙卯に
歿す

○ 影海大師詩集抄

一冊 釋若坦著 印本

圖書番號 一一六〇九

僧若坦の詩抄にして純祖辛酉法孫教萍の上刊し
たるものなり

五九七

釋若拙字は守叡、影海と號す。本姓は金氏、光山の人。通政中生の子なり。顯宗戊申に生れ、年十八にして出家し、英祖甲戌に示寂す。

○陶谷集 三二卷一六冊 李宜顯著 印本

圖書番號 五〇〇三

李宜顯の詩文集にして、英祖四十二年丙戌申國海之を編刊す。詩、疏、笏、啓、議、應、製、錄、神、道、碑、墓、碣、墓、誌、墓表、紀、錄、諡、狀、紀、狀、序、記、傳、題、跋、祭、文、雜、著、燕、行、襟、識、書牘、紀、年、錄、等、を、收、む、燕、行、雜、識、は、長、篇、に、し、て、二、卷、に、亘、れ、り。

○希菴集 二九卷一四冊 蔡彭胤著 印本

圖書番號 五一八九

蔡彭胤の詩文集にして、英祖五十一年乙未從孫濟恭の刊行したるものなり。收むる所賦、詩、疏、書、序、記、碑、碣、誌、上、樞、文、募、緣、文、續、山、書、祭、文、誄、辭、告、文、題、跋、論、說、雜、著、遺、事、狀、祈、雨、文、贊、銘、策、箋、誌、等、な、り。

蔡彭胤字は仲耆、希菴と號す。平康の人。湖洲裕後の孫なり。顯宗己酉に生れ、肅宗丁卯進士となり。己巳登科し、兄明胤と俱に薦められ、檢閱を歴て、官參

判提學に至り、英祖辛亥に歿す。詩名あり。

○昆命集 二〇卷 崔昌大著 印本

圖書番號 四九〇二、五一三五、五三二一、六五一一、六

八五六

崔昌大の詩文集にして、賦、詩、記、疏、笏、上、書、書、啓、書、雜、著、教、書、箴、頌、贊、祭、文、哀、辭、碑、墓、誌、墓、碣、墓、表、行、狀、遺、事、等、を、收、む、正、祖、九、年、乙、巳、に、刊、行、す。

崔昌大字は孝伯、昆命と號す。全州の人。明谷錫鼎の子なり。顯宗己酉に生れ、肅宗甲戌登科し、官副提學。吏參に至り、肅宗庚子に歿す。資性正直、簡亢にして文學盛名あり。著述に富む。

○虛靜集 二卷二冊 釋法宗著 印本

圖書番號 六六四七

釋法宗の詩文集にして、詩、記、碑、銘、勸、文、疏、跋、金、剛、錄、香山錄等、を、收、む、正、祖、壬、子、門、下、明、顯、等、寧、邊、妙、香、山、普、賢、寺、に、於、て、開、刊、す。

釋法宗號は虛靜と稱し、俗姓は傳らす。秋鵬禪師雪菴の衣鉢を傳へ、詩に尤も工なり。

○屏谷集 一〇卷五冊 權榘著 印本

圖書番號 二八二三、五六四八

權渠の詩文集にして子輔の蒐輯したるものなり
詩、書、雜著、序、跋、銘、祭文、墓誌、行狀、遺事、附録等あり正
祖二十一年丁巳外孫柳一春之を刊行す

權渠字は方叔、屏谷と號す安東の人宣教郎燈の子
なり顯宗壬子に生れ英祖己巳に歿す經學行義あ
りしと雖曾て一官をも得ず

○ 杞園集 三二卷一六冊 魚有鳳著 寫本

圖書番號 二一九七五

魚有鳳の遺稿にして詩、疏、啓、書、序、記、跋、雜著、贊、銘、墓
誌、銘、神道碑、銘、墓碣、銘、墓表、陰記、行狀、祭文、哀辭、散錄、
語錄等を收む

魚有鳳字は舜瑞、杞園と號す咸從の人監司震翼の
孫なり顯宗壬子に生れ肅宗己卯に進士壯元の中
り同年教官に拜し學行を以て薦せられ南臺承旨
贊善を経て英祖甲子に歿す學を農岩金昌協に受
け一世の儒宗として標式重望あり

○ 和隱集 八卷四冊 李時恒著 寫本

圖書番號 五四一

集部

李時恒の詩文集にして載する所辭賦、詩、疏、儷文、序
記、跋、說、雜錄、書、祭文、行狀、碑碣、附録等なり英祖十三
年丁巳時恒歿するの翌年其の妻金氏臧獲を賣り
遺稿を刊行す

○ 耐齋集 五卷三冊 洪泰猷著 印本

圖書番號 五三六、六六八三

洪泰猷の詩文集にして英祖六年庚戌の開刊なり
詩、書、序、記、跋、雜著、論、墓誌、哀辭、祭文等を收め從祖弟
濟猷の愛懶子稿を附す

洪泰猷字は伯亨、耐齋と號す南陽の人懶齋の玄孫
なり顯宗壬子に生れ肅宗乙未に歿す少にして豪
縱科擧に應せず好みて詩文を作る奇才あり歿後
持平を贈らる

洪濟猷字は仲經、愛懶子と號す耐齋泰猷の從弟な
り肅宗己巳に生れ丁酉進士に中る

○ 彌雲遺稿 九卷九冊 金令行著 寫本

圖書番號 四四〇一

金令行の遺稿にして子履健の蒐輯したるものな
り詩、祭文、家狀、遺事、雜著、科策、日記等を收む

五九九

集部

六〇〇

金令行字は子裕弼雲翁と號す安東の人蘭谷時傑の子なり顯宗癸丑に生れ蔭仕を以て郡守となり僉知中樞府事に至り英祖乙亥に歿す

○退谷集

二卷一冊 洪萬績著 印本

圖書番號 一六六一

洪萬績の詩文集にして憲宗戊申後孫之を編次す收むる所詩各體なり

洪萬績は南陽の人忠正公翼漢の從孫にして莊陵參奉を授けらる

○兼山集

二〇卷一〇冊 俞肅基著 印本

圖書番號 四三四〇

俞肅基の遺稿にして子彥傳之を蒐輯し英祖五十二年乙未門人金載順慶尙道觀察使たりし時之を刊行す收むる所詩書序記題跋說祝辭贊銘傳雜著祭文哀辭行狀墓表墓誌墓碣筭疑等なり
俞肅基字は子恭兼山と號す杞溪の人竹里命弘の從子なり嘗て三淵金昌翁の門に游ひ蔭仕を以て官判官に止まる

○月渚集

二卷二冊 釋道安著 印本

圖書番號 五〇九二、五八九四

僧道安の詩文集にして肅宗四十二年丙申弟子勝益等編次刊行す一卷は詩にして二卷は贊偈雜著等なり

釋道安號は月渚肅宗の時の人にして士夫の間に從遊す

○觀瀾齋集

八卷二冊 高晦著 印本

圖書番號 四三三二

高晦の詩文集にして六代の孫命麟の蒐輯に係り書序記告文行狀祭文附錄等あり哲宗壬戌之を刊行す

高晦字は汝根觀瀾齋と號す長興の人なり肅宗の時侍直を拜す同春宋浚吉及尤菴宋時烈の門に學ぶ

○兢齋編錄

四卷二冊 魚有龜著 印本

圖書番號 六五五七

魚有龜の疏筭啓辭所懷書啓奏事博考日記及漫錄を輯め附するに行狀賜祭文及輓詞を以てす正祖六年壬寅子判書錫定之を刊行す

魚有龜字は聖則、兢齋と號す咸從の人にして漢城右尹史衡の子なり。肅宗乙卯に生れ己卯生員進士に中り丁亥文科に登り玉堂を歴て江華留守に至る。景宗の國舅たるを以て咸原府院君に封せらる。性篤實にして文學あり英祖庚申に歿す諡して翼獻と云ふ。

○ 順菴集

六卷三冊 李秉成著 印本

圖書番號 四一〇六、六九二三

李秉成の詩文集にして子度重の蒐輯したるものなり。收むる所詩、書序、記、題、跋、祭文、哀辭、擴誌、附錄等にして附録に兄秉淵の手に成りし遺事を載す。英祖十七年辛酉娵姪柳儼黃海道觀察使たりし時之を刊行す。

李秉成字は子平、順庵と號す韓山の人。鳴谷山甫五代の孫なり。肅宗乙卯に生れ稍や長して農巖に師事し壬午進士となり官郡守を歴て後に工部郎に除せられ英祖乙卯に歿す詩才あり。

○ 寄翁集

六卷三冊 南漢紀著 印本

圖書番號 六六六二

集部

南漢紀の詩文集にして詩序、記、祭文、哀辭、狀、誌、雜著等を收め附するに孫公輔の省齋零稿を以てす。

南漢紀字は國甫、寄翁と號す宜寧の人にして壺谷龍翼の孫基峯正重の子なり。肅宗元年乙卯に生れ三十六年庚寅進士となり官同知に至り英祖二十四年戊辰に歿す。

○ 謙齋集

四五卷二〇冊 趙泰億著 印本

圖書番號 一一九二〇

趙泰億の詩文集にして收むる所賦、詩、疏、筭、書、啓、啓辭、議、墓碣、墓誌、墓表、行狀、諡狀、祭文、告文、諫、序、跋、題、後、箴、銘、贊、不允批答、教書、玉冊文、頒教文、箋狀、上樛文等なり。

○ 斗室寤言

六冊 李煥模著 寫本

圖書番號 二九八四

李煥模の詩文集にして詞賦、詩、書序、說、跋、論、策、經義、雜誌、箴、銘、贊、上疏、呈書、通文、雜著、祭文、行狀、遺事、墓誌等を收む。

李煥模號は斗室又打乖子と稱す德水の人。睡隱、澗の子なり。肅宗乙卯に生る。

○拙隱遺稿 八卷四冊 李漢輔著 印本

圖書番號 四八〇八

李漢輔の遺稿にして子徳肖之を蒐輯せり收むる所賦詩序記箴銘跋祝祭文上樑文狀碣禮説及雜著等なり

李漢輔拙隱と號す全州の人景淵堂玄祚の子なり肅宗乙卯に生れ英祖戊辰に歿す芝峯李暉光より世世文學行義を以て稱せられ漢輔亦善く遺業を繼述す

○月嶽書疏

圖書番號 七八二三

一冊 韓社著 印本

韓社の書疏にして英祖三十九年癸未子徳一の星州牧使たりし時上刊す

韓祉字は錫甫月嶽と號す清州の人は窩泰東の子なり肅宗乙卯に生れ己卯進士に中り乙酉文科に登り官監司に至る名家の肖子にして文學政事を以て盛名あり又清白吏に薦めらる

○巍巖遺稿

一六卷八冊 李東著 印本

圖書番號 四七三〇、六五三一

李東の遺稿にして詩疏書雜著序記祭文行狀墓銘公牒等數百篇を載せり

李東字は公舉巍巖と號す禮安の人にして水使璞の孫なり肅宗丁巳に生れ三十四歳の時參奉を拜したるも就かす後六年侍講院諮議となり懷德縣監を拜し又經筵官となり英祖丙子忠淸都事海運判官翊衛等に叙せられ丁未に病歿す論して文正と云ふ學行あり

○節谷集

圖書番號 四三〇〇

四卷二冊 金時觀著 印本

金時觀の遺稿にして玄孫彥根之を蒐輯し李太王二年乙丑に刊行す收むる所詩書序記跋雜著祭文行狀附録等なり

金時觀字は莊叔節谷と號す安東の人晩休壽昌の孫なり肅宗丁巳に生れ農巖金昌協に従學す英祖庚申に歿す

○正庵集

圖書番號 六六七二

二〇卷一〇冊 李顯益著 印本

李顯益の詩文集にして孫商進の蒐輯に係り收む

る所詩書序記跋雜著祭文誌銘雜識等なり英祖四十九年癸巳に刊行す

李顯益字は仲謙、正庇と號す全州の人郡守泓の子なり肅宗戊午に生れ戊子生員に魁たり遺逸を以て諮議を拜し官縣監に止まり肅宗丁酉に歿し祭酒を贈らる

○竹軒集

五卷二冊 金民澤著 印本

圖書番號 五三三八、二二〇〇六

金民澤の詩文集にして子善材の編輯したるものなり收むる所詩書疏啓不允批答序記傳識行狀祭文附録等にして末に従姪楚材の默齋遺稿を合附し英祖三十六年庚辰之を刊行す

金民澤字は致仲、竹軒と號す判書鎮龜の子にして瑞石萬基の孫北軒春澤の第四弟なり肅宗戊午に生れ兄春澤に學ひて己亥別試に登り尋て殿試に擧げられ官校理に至り景宗壬寅士禍に罹りて獄中に歿す年四十五性豪爽闊達にして文章瞻敏なり

○圃巖集

二二卷一一冊 尹鳳朝著 印本

集部

圖書番號 一四三八

尹鳳朝の詩文集にして詩疏簡啓議書序記說箴應製文雜著祭文祝文哀辭碑銘墓碣墓誌墓表行狀諡狀等を收む

尹鳳朝字は鳴叔、圃巖と號す坡平の人竹齋仁涵五世の孫なり肅宗庚申に生れ乙酉生員を以て文科に登り銓郎を歴て文衡を典り官判敦寧府事に至る英祖辛巳に歿す

○夢悟齋集

四卷二冊 沈尙鼎著 印本

圖書番號 七〇五九

沈尙鼎の詩文集にして友尹淳李巨源等之を蒐集し英祖十一年乙卯に刊行す收むる所詩疏啓祭文附録等なり

沈尙鼎字は聲凝、夢悟と號す青松の人府使楫の子なり肅宗庚申に生れ己卯進士に中り己丑文科に登りて官正言に至り景宗辛丑に歿す詩名あり

○陶菴集

五〇卷二五冊 李緯著 印本

圖書番號 一六一七、二七九二

李緯の詩文集にして收むる所詩疏書啓講義書序

六〇三

記、跋雜書、教書、上樑文、箴、銘、告祝文、祭文、哀辭及誌狀等なり

○ 恕菴集 一六卷八冊 申靖夏著 印本

圖書番號 六六八一、六八四五

申靖夏の詩文集にして賦、詞、詩、疏、書、尺牘、序、記、題、跋、雜著、行狀、神道碑、墓碣、墓表、墓誌、祭文、哀辭、雜記等を收む

申靖夏字は正甫、恕庵と號す、平山の人、綱菴院の子なり、肅宗辛酉に生れ、乙酉登科し翰林を歴て、官修撰に止まる、農巖、金昌協の門下にして、官低く又閑職なりしを以て、専ら文事を娛み、丙午に歿す

○ 青泉集 六卷三冊 申維翰著 印本

圖書番號 五〇三〇、六二七

申維翰の遺集にして、收むる所、詩、賦、書、序、記、跋、傳、贊、碑、銘、祭文、哀辭、雜著等なり

申維翰字は周伯、青泉と號す、寧海の人なり、肅宗辛酉に生れ、乙酉進士に中り、癸巳文科に登り、己亥製述官を以て、修信使、南泰耆に従ひ、日本に入り、海遊録の著あり、官奉常僉正に至る、文名あり

○ 東圃集 八卷四冊 金時敏著 印本

圖書番號 四一〇七

金時敏の詩文集にして、子勉行、蒐輯し、英祖三十七年辛巳に刊行す、詩程、詩書、牘、雜著、祭文、家乘、附録等を收む

○ 觀復庵詩稿 一冊 金崇謙著 印本

圖書番號 五〇五六

金崇謙の詩稿を集めたるものにして、叔父昌翁之を刪選して、三百餘首を爲し、肅宗三十五年己丑に刊行し、英祖十五年己未復た之を重刊す、昌翁の序あり

金崇謙字は君山、觀復庵と號す、農巖、昌協の子なり、肅宗壬戌に生る、天性雋逸にして、童卯の時より已に詩を以て聞えし、も壽を得ず、庚辰纔に十九にして夭折す

○ 西州集 八卷四冊 夏望著 印本

圖書番號 四四二〇

曹夏望の詩文集にして、曾孫鳳振の蒐輯したるものなり、疏、序、記、書、雜著、祭文、祝文、哀辭、行狀、墓文、遺事

附録等を收む哲宗乙卯玄孫錫雨慶尙道觀察使たる時之を刊行せしも黨派のために毀板し大正元年辛亥に至り宗孫采鐸有志と共に梓費を醸出して重刊す

曹夏望字は雅仲、西州と號す昌寧の人、晦谷漢英の孫なり、肅宗壬戌に生れ辛卯進士に魁たり、景宗壬寅叅奉を授けられたるも仕へず、癸卯教官を拜し、英祖丙辰文科に登り、官大司諫に至り、丁卯に歿す

○ 崧岳集

圖書番號 二四二五

四卷二冊 林昌澤著 印本

林昌澤の詩文集にして詩各體、海東樂府、書序、祭文、記、銘、養親論、雜著、行狀、墓文及傳を收め、李德壽の撰に係る墓碣銘を附す

林昌澤字は大潤、崧岳と號す、貫は羅州にして、僉樞英僑の子なり、肅宗壬戌に生れ、同辛卯進士に中り、景宗癸卯に歿す、英祖壬子、學行を以て持平を贈り、崧南祠に亨す

○ 屏溪集

六〇卷三〇冊 尹鳳九著 印本

圖書番號 六六六三、七八二九

集部

尹鳳九の詩文集にして收むる所詩、疏、議、啓、狀、書、雜著、講義、講說、序、記、題、跋、箴、銘、贊、婚書、祝文、告文、祭文、哀辭、碑、碣、墓誌、墓表、行狀、家狀、行錄、遺事、傳等なり、尹鳳九字は瑞膺、屏溪と號す、坡平の人、參判、飛卿の孫なり、肅宗癸亥に生れ、甲午進士に中り、遺逸を以て、諮議、贊善に歷任し、參贊に至る、文獻と諡す

○ 老村集

圖書番號 六七七五

一〇卷五冊 林象徳著 印本

林象徳の詩文集にして收る所詩、疏、箴、記、序、跋、論、辨、傳、箴、銘、贊、說、雜著、誌、碑、行狀、祭文、策、題、僂文等及經筵錄、讀書、筭錄等なり、書中に文論、佛論、老子論、莊周論、原性辨、伍員復讐辨、淡婆姑傳、太極圖、近世錄等あり

○ 鳳巖集

圖書番號 五二〇三、五二〇五

一七卷八冊 蔡之洪著 印本

蔡之洪の詩文集にして、正祖七年子百休之を劄劄に付せり、收むる所詩、疏、講義、書、雜著、記、題、跋、箴、銘、贊、祝辭、上、樞文、祭文、哀辭、告文、祝文、墓表、行狀等にして、附するに世系年譜、誌狀等を以てす

○ 悔窩集

八卷四冊 安重觀著 印本

六〇五

圖書番號 四四七七

安重觀の遺稿にして六代の孫鍾學之を蒐集し李
太王光武六年壬寅之を刊行す詩序題跋記論說雜
著行録行狀贊銘頌書祭文哀辭等を收む
安重觀字は國賓、悔篤と號す、應興の人なり、肅宗癸
亥に生れ進士に中り、蔭仕を以て桂坊に入り、官縣
監に止まり、英祖壬寅に歿す

○ 杜陵集

圖書番號 三五九九

四卷二冊 李濟兼著 印本

李濟兼の遺集にして詩書祭文記跋策家狀附録等
を收む

李濟兼字は善卿、杜陵と號す、眞寶の人、懶隱、東標の
子なり、肅宗癸亥に生れ甲午進士に中り、景宗甲辰
薦を以て童蒙教官を授けられ、英祖乙巳文科に登
り、官察訪に止まり、壬戌に歿す、名家の子にして文
學に富みしも、仕宦振はず

○ 清冷子遺稿

二卷一冊 崔守哲著 印本

圖書番號 四一〇九

崔守哲の遺稿にして肅宗の時に至り詩若干篇を
蒐めたるものなり、附録として從祖錫鼎の撰に係
る墓誌銘及祭文を載す

崔守哲字は伯幾、清冷子と號す、全州の人にして、遲
川鳴吉の玄孫、明谷錫鼎の孫なり、肅宗癸亥に生れ
家學を承け、早歲より文名ありしも、短命にして壬
辰に歿す、享年僅に三十

○ 夢嚙集

圖書番號 四一〇八

二卷一冊 南克寬著 印本

南克寬自編の詩文集なり、乾卷は詩七十九首及端
居日記雜著十首にして、坤卷は隨筆百九十二則な
り
南克寬字は伯居、謝施子と號す、宜寧の人、英祖の時
に生る、梨泉南九萬の孫にして、晦隱、南鶴鳴の子な
り、聰明人に絶す、二十六歳にして夭折す

○ 鳳巖集

圖書番號 四一四二

五卷二冊 韓夢麟著 印本

韓夢麟の詩文集にして、詩銘祝疏書序學則說雜著
誌狀附録等を收む中に、學則性命理氣說等あり

韓夢麟字は泰瑞、鳳巖と號す、清州の人なり、肅宗甲子に生る、鍾城に世居し、學問高く、松庵李載亨と與に稱せられ、北方の科第多く、其の門に出つ、官參奉を拜して、就かず、經傳及程朱全書を講究し、英祖壬午に歿す、年七十九

○ 一菴遺稿

六卷二冊 尹東原著 印本

圖書番號 一五六三

尹東源の遺稿にして、疏、經筵講義、附書筵、問目書、雜書、墓誌、碣、家狀及行狀を收め、附録には年譜等を收め、尾に諸人の狀誌、祭輓等を附す、其の歿後門人の編刊する所なり

尹東源字は士正、一菴と號す、坡平の人、大憲、行教の子なり、肅宗乙丑に生れ、景宗壬寅、學行を以て薦められ、洗馬を拜し、官進善に至り、英祖辛酉に歿す、幼時より學を祖明齋拯に受け、學業を廢し、實學を修めたり

○ 老隱集

四卷二冊 任適著 印本

圖書番號 五八五七

任適の詩文集にして、正祖三十年甲寅、子靖、周青山

集部

在任の時之を編刊せり、收むる所、詩書、序記、跋、說、議論、雜著、祭文、申牒、策、附録等なり

任適字は道彦、老隱と號す、豐川の人にして、竹厓說六世の孫、今は義伯の曾孫なり、肅宗乙丑に生れ、早く孤となりて、力學し、權尙夏に就きて、質疑し、庚寅進士となり、參奉を授けられ、官判官に止まり、英祖戊申に歿す、年四十六、女允摯、堂淑、德學行、並ひ具はり、朝鮮閨秀詩家の一人として、名あり

○ 屯庵集

八卷四冊 申昉著 印本

圖書番號 六五六〇、七一四九

申昉の詩文集にして、弟暲の蒐輯したるものなり、詩書、簡、啓、書、尺牘、序記、題、跋、雜著、教文、樂章、墓誌、行狀、祭文、哀辭、傳、雜識等を收む、英祖三十四年戊寅、婿洪麟漢、全羅監司たる時之を刊行す

申昉字は明遠、屯庵と號す、平山の人、絢菴院の孫にして、玄石朴世采の外孫なり、肅宗丙寅に生れ、丁酉生員試に魁たり、己亥文科に登り、翰林を経て、官吏曹參判に至り、英祖丙辰に歿す

○ 西齋集

八卷四冊 任微夏著 印本

六〇七

圖書番號 四六九五

任徵夏の詩文集にして五代の孫憲晦の蒐輯したるものなり詩疏啓供狀書記雜著祭文告文哀辭墓誌墓表行録附録等を收め憲宗甲辰に刊行す

任徵夏字は聖能西齋と號す豐川の人竹室弘望の孫なり肅宗丁卯に生れ癸巳生員進士竝に中り甲午文科に魁す官吏令に至り英祖戊申より獄に在ること三年竟に瘐死す正祖丙申特に復官し純祖己巳吏曹參判を贈る

○ 觀水齋遺稿 二卷一冊 洪啓英著 印本

圖書番號 六八三四

洪啓英の遺稿にして詩科體詩銘詞等を收む附録に誄輓等を載す

洪啓英字は汝豪觀水齋と號す南陽の人なり肅宗丁卯に生れ僅に十九歳乙酉に夭す

○ 花溪集 二卷五冊 柳宜健著 印本

圖書番號 四五八七

柳宜健の詩文集にして詩歌詞箴銘贊上樛文書叙記跋傳論襟説及附録を收む李太王二十年癸未後

孫基澤祥燁等之を鈔梓す

柳宜健字は順兼花溪と號す瑞山の人府尹種禮の後なり肅宗丁卯に生れ英祖乙卯進士に中り庚辰に歿す

○ 牧谷集 一〇卷五冊 李箕鎮著 印本

圖書番號 五〇〇八

李箕鎮の詩文集にして英祖四十三年恠潭の印布したるものなり載する所詩疏簡樂章箋上樛文序記跋襟著記事祭文墓誌墓碣墓表家狀等なり

李箕鎮字は君範牧谷と號す德水の人澤堂植の曾孫にして遂庵權尙夏の門下なり肅宗丁卯に生れ丁酉進士及文科に連捷し翰苑を歴て吏曹判書に至りしも幾もなく砥平の山中に遁れ室を牧谷松楸の下に築き文事を以て樂しみ絶えて知聞を世に求めず英祖乙亥其の地に歿す

○ 華谷集 四卷一冊 黃宅厚著 印本

圖書番號 五一三三、六三二二

黃宅厚の詩文集にして正祖十八年甲寅子德諱之を哀輯刊行す收むる所詩を主とし文は僅に行狀

一篇雜著四篇のみ

黃宅厚字は子和、華谷と號す昌原の人なり、肅宗丁卯に生れ、初名を宅中と云ふ、家微賤にして、禁衛營の書吏たりしか、讀書を喜ひ、昆侖、崔昌大に師事す、英祖戊申、清州の變起るや、海恩、吳命恒に従ひ、畫策して功あり、事平きて策勳一等に録せられ、年五十一丁巳に歿し、漢城左尹を贈らる、嘗て梧川、李宗城の幕下に在り、最も翊賛に力め、當時應酬の吟詠亦少からず、名けて瀟慕鳴酬録といふ

○ 黃泉集

八卷三冊 慎守彝著 印本

圖書番號 四七五四、一一〇四七

慎守彝の詩文集にして、曾孫必祐の編輯せしものなり、詩書、序、跋、記、說、上、樑文祭文、哀辭、告祝文、雜著、墓碣銘、墓表、行狀等を收む附録あり

慎守彝字は君叙、黃泉と號す、居昌の人、樂水權五代の孫なり、肅宗戊辰に生れ、陶菴、李緯の門に遊ひ、英祖己巳、敎官を授けられたるも、就かす官、僉知中樞に至り、戊子に歿す

○ 鄭進士遺稿

一冊 鄭錫慶著 寫本

集 部

圖書番號 四三〇三

鄭錫慶の遺稿にして、收むる所、詩律のみ、末に祭文一篇あり

鄭錫慶字は士膺、東萊の人、陽波、太和の曾孫なり、肅宗己巳に生れ、己亥、生員に中り、英祖己酉に歿す

○ 棄齋集

五卷二冊 金尙埏著 印本

圖書番號 四五二五

金尙埏の詩文集にして、六代の孫述鉉之を蒐輯し、李太王己亥、五代の孫在定、諸族と謀りて之を刊行す、收むる所、詩書、行狀、墓誌、遺事、序、記、銘、祭文、雜著、附録等なり

金尙埏字は汝和、棄齋と號す、光山の人、良谷、用兼の子なり、肅宗己巳に生れ、英祖戊子に壽職を以て、通政に陞り、官同知中樞府事に至り、甲午に歿す

○ 一菴集

二卷一冊 李器之著 印本

圖書番號 六三三四

李器之の詩文集にして、詩書、序、記、祭文、哀辭、告文等を收め、末に墓表を附せり、英祖四十四年戊子子胤祥之を校正活印す

李器之字は士安號は一菴全州の人疎齋願命の子なり肅宗庚午に生れ乙未司馬に魁たり景宗壬寅獄に死す

○菊圃集

一二卷六冊 姜樸著 印本

圖書番號 六一四二

姜樸の詩文集にして英祖五十一年乙未蔡濟恭等之を蒐輯録梓したるものなり詩疏衍書序記說墓誌碣銘行狀遺事祭文哀辭跋雜著等を收む

姜竹字は子淳菊圃と號す晋州の人東臯紳の玄孫なり肅宗庚午に生れ乙未登科し三司を歴て堂上府使に止まり英祖壬戌に歿す

○歸鹿集

二〇卷二〇冊 趙顯命著 寫本

圖書番號 三七四一

趙顯命自ら編次したるものにして賦詩疏啓笏碑誌表碣書行狀謚狀遺事序記贊跋議祭文哀辭箴銘教諭書通文節目箋上樑文冊文紀年等あり

○知守齋集

一五卷八冊 俞拓基著 印本

圖書番號 四七三七

俞拓基の詩文集にして李太王十四年後孫致益平

壤庶尹たる時印行す詩疏衍書議箋應製文祭文哀辭書碣碣誌表行狀謚狀序記跋跋雜著等を收む
俞拓基字は展甫知守齋と號す杞溪の人醉翁檄の孫なり肅宗辛未に生れ甲午に登科す景宗壬寅建儲の事を以て海島に貶せられ英祖初年放還せらるる官領議政に至り戊子に歿す謚を文翼と云ふ器局文謚あり

○悔軒集

二〇卷一〇冊 趙觀彬著 印本

圖書番號 四八九九

趙觀彬の詩文集にして賦詩書序記跋說箴銘贊雜著上樑文應製文祭文哀辭碑碣誌表行狀謚狀遺事等を收む中に遊漢拏山記及露梁六臣墓碑銘等あり

趙觀彬字は同甫悔軒又東湖と號す楊州の人二憂堂泰采の子なり肅宗辛未に生れ甲午登科す景宗辛丑建儲の事に關し樑泰采死を珍島の謫所に賜はるや觀彬亦濟州に流されしか後放還せられ英祖の時三司吏郎を歴て文衡を典し兼禮判に至り丁丑に歿す

○ 杜機詩集續 五卷 崔成大著 印本

圖書番號 七七六四

崔成大的詩諸體一百十二首を蒐輯す

崔成大字は十集、杜機と號す全州の人正郎守慶の子なり、肅宗辛未に生れ、蔭仕別提を以て英宗壬子文科に登り、官大司諫に至る

○ 喜懼齋遺稿 二卷二冊 李道翼著 寫本

圖書番號 五五八七

李道翼の遺稿にして孫章玉之を編次し家に藏して未だ刊行せざるものなり、收むる所詩賦、記、祭文、書、雜識等を收む

李道翼字は原明、喜懼齋と號す延安の人、畏楸の子なり、肅宗壬申に生れ、英祖丙子薦を以て蔭仕に補せられ、官主簿に止まり、壬午に歿す、左承旨を贈らる

○ 東谿集 一二卷六冊 趙龜命著 印本

圖書番號 四三三〇、四三三四、五〇九三

趙龜命の詩文集にして英祖辛酉同族之を纂輯す、序、記、墓誌銘、表、行狀傳、說、銘、贊、跋、雜著、目錄、靜謐、論

集部

禪諸符、焚香試筆、祭文、哀辭、書、論、策、賦、詩等を收め附するに、趙啓命の南谷遺稿、趙九鎮の聽涼軒遺稿及各人の小書を以てす

趙龜命字は錫汝、東谿と號す、豐壤の人、泰壽の子、東岡相愚の孫、翠屏珩の曾孫なり、一字を實汝といふ、肅宗辛卯生員となり、英祖壬寅參奉を拜し、尋て別提、工曹佐郎、泰仁縣監等に除せられしも、皆就かず、後翊衛司に入り、侍直翊衛となり、丁巳に歿す、始め性理の學を修め、既にして老儒に汎濫し、世故に於て泊然累する所なし、文章又妙悟、玄解脱俗の稱あり

趙啓命字は士心、南谷と號す、東谿の再從弟なり、肅宗戊子に生れ、英祖乙卯生員となり、丁巳三十歳を以て東谿に先ちて歿す

趙九鎮字は汝重、聽涼軒と號す、東谿の三從孫なり、景宗癸卯に生れ、英祖丁巳十五歳を以て夭死す

○ 虛舟齋遺稿 六卷二冊 金錫一著 寫本

圖書番號 四三四六

金錫一の遺稿にして收むる所詩、祭文、哀辭、行狀疏

六一

傳記、題後、雜著、附録等なり

金錫一字は壽彦、虛舟窩と號す清風の人、晚香堂斗

明の子なり、肅宗甲戌に生れ乙未進士に中り、英祖

辛亥文科に登り、官府使に止まり壬戌に歿す

○ 貞庵集 一六卷八冊 閔遇洙著 印本

圖書番號 五八五六、五八七三、六一七八、六五二四

閔遇洙の詩文集にして詩疏、書序、記、跋、銘、箋、上樑文

墓誌、碣表、行狀、祭文、哀辭、雜識、附録等を收む

閔遇洙字は士元、貞庵又蟾村と號す、驪興の人、趾齋

鎮厚の子なり、肅宗甲戌に生る少より文名あり、業

を農巖、金昌協の門に受け、遺逸を以て官大司憲に

至り、英祖丙子に歿す、諡して文元と云ふ

○ 易安堂集 四卷二冊 趙天經著 印本

圖書番號 五四二六

趙天經の詩文集にして、正祖壬子曾孫述堯の刊行

する所なり、詩及書狀、雜著序、上樑文、祭文、哀辭等を

收む、尾に誌狀を附す

趙天經字は君一、號は易安堂、豐壤の人、黔澗靖の後

なり、肅宗乙亥に生れ、庚寅司馬に中り、英祖丙申に

歿す、夙に科業を廢し、郷谷に閑居し、著述甚た多し

○ 月波集 一冊 釋兌律著 印本

圖書番號 三二二六

僧兌律の詩文集にして、詩は五言律、絶、七言律、絶、文

は香山誌一篇及自述行蹟一篇なり、英祖四十七年

辛卯釋道一之を編刊す

釋兌律本姓は金、名は從建、全州の人なり、肅宗乙亥

に生れ、年十五平安北道寧邊郡妙香山佛智庵三十

長老を師とし、號を月波と稱し、英祖の時に示寂す

○ 太華子稿 四卷二冊 南有常著 印本

圖書番號 七〇四八

南有常の遺稿にして、收むる所、詩、祭文、書序、跋、記、雜

著、附録等なり、英祖十二年丙辰友閔遇洙、李天輔、吳

璦等之を刪定し、弟有容之を刊布す

南有常字は吉哉、太華と號す、宜寧の人、壺谷龍翼の

曾孫にして、寄翁漢紀の子、雷淵有容と兄弟なり、肅

宗丙子に生れ、癸巳進士となり、英祖丁未殿試乙科

に擧げられ、纂輯部に入り、肅宗實錄編纂に従事す

既にして事を以て、竄謫に遇ひ、幾もなく歸還す、翌

戊申に歿し弘文館副修撰を贈らる

○ 苜亭集 八卷四冊 李徳胄著 印本

圖書番號 六六七五、一二四七三

李徳胄の詩文集にして本集拾遺各四卷なり詩文
雜著を收む

李徳胄字は直心苜亭と號す全州の人拙隱漢輔の
子にして芝峰晬光五代の孫なり肅宗丙子に生れ
英祖辛未に歿す

○ 蒼霞集 一〇卷五冊 元景夏著 印本

圖書番號 三六二九、四八三二

元景夏の詩文集にして詩疏、筭書、序、記、碑誌、表、碣、行
狀、謚狀、遺事、祭文、哀辭、論、說、跋、雜著、應製、錄等を收む
元景夏字は華伯蒼霞と號す原州の人參判萬里の
曾孫なり肅宗戊寅に生れ景宗辛丑進士となり英
祖丙辰文科に登第し兵曹判書を以て致仕し戊辰
に歿す謚して文忠と云ふ

○ 晉菴集 八卷四冊 李天輔著 印本

圖書番號 四〇八一、六七六四

李天輔の詩文集にして收むる所詩疏、筭、啓、議、書、序

集部

記、跋、論、祭文、哀辭、墓碣、誌、表、行狀、頌、教文、教命、文冊、文

箋等なり從兄鼎輔及從弟益輔之を輯次し内弟金
陽澤及友黃景源之を刪定し英祖三十八年壬午に
刊行す

李天輔字は宜叔晉菴と號す延安の人青湖一相の
曾孫なり肅宗戊寅に生れ英祖己未文科に登第し
壬申兵曹判書より右相に進み遂に領議政に至り
辛巳に歿す謚を文簡と云ふ

○ 雷淵集 三〇卷一五冊

南有容著 印本

圖書番號 二九〇〇、二九二二、二九三二、二九三三、三五

九四、三六〇三、四八二七、五六〇八、五六〇九、五六一〇、

五六一一、五六一二、五六一四、五六一五、五六一六、五六

一七、五八二二、六六六七

南有容の詩文集なり正祖師禮を重んじ奎章閣諸
員に命して之を編刊せしむ詩疏、筭、啓、辭、應製、序、跋、
記、書、祭文、哀辭、碑、銘、墓、誌、墓、碣、表、行狀、謚狀、遺事、祿
著、講義、雅言等あり附録には譜、致、祭文等を併載す
南有容字は德哉寄翁漢紀の子太華有容の弟なり

六一三

肅宗戊寅に生れ初に少華と號し晩に雷淵と改む
景宗辛丑進士初試に壯元となり尋て會試二等に
擧げらる長く正祖の師傅となり刑曹判書大提學
を以て致仕し英祖癸巳年七十六にして歿す諡し
て文靖と云ふ

○ 燕超齋遺稿

五卷二冊 吳尙濂著 印本
圖書番號 四四二

吳尙濂の遺稿にして英祖二十一年乙丑甥李益征
の刊行する所なり收むる所詩詞賦駢儷箴銘贊記
序跋論說祭文雜著等なり

吳尙濂字は幼清、燕超齋と號す同福の人なり肅宗
の時に生る吳氏は晚翠、僊齡、默齋百齡より以來世
々文名あり尙濂は默齋の孫を以て才慧あり英祖
初年年二十八にして歿す

○ 月谷集

一四卷七冊 吳瑗著 印本
圖書番號 五八五四、七〇三二

吳瑗の詩文集にして詩疏、應製、序跋、記書、誌狀、表、遺
事、祭文、哀辭、雜著等を收め附するに從姪載弘の白
雲遺稿を以てす

吳瑗字は伯玉、月谷と號す海州の人、醉夢軒、泰周の
子にして陽谷、斗寅の孫なり肅宗庚辰に生れ戊申
登科し三司を歴て參判に至り庚戌に歿す天資聰
明にして文章亦警拔なり

○ 桐江遺稿

五卷二冊 李袞著 印本
圖書番號 六六十四

李袞の遺稿にして子全彬之を蒐輯す收むる所書
牘、墓表、墓誌、銘、行狀、祭文、雜著詩等なり

李袞字は子洪、桐江と號す徳水の人、芸齋坪の孫な
り辛巳に生れ英祖己卯に歿す所實踐の學あり又
文章に長し禮說に深し然れども少より學業を廢
し處士を以て終れり

○ 漢湖集

二〇卷一〇冊 金元行著 印本
圖書番號 四七九九、七〇二八

金元行の詩文集にして詩疏、啓議書、序記、跋、雜著、贊
銘、志狀、祭文、表辭、傳等を收輯せり

金元行字は伯春、漢湖と號す安東の人、竹醉、濟謙の
子にして出てて農巖、金昌協の養孫となる英祖の
時遺逸を以て擧げられ官贊善に止まり壬辰に歿

す文簡と諡す

○松湖集

六卷三冊 俞彥述著 印本

圖書番號 四二四三、五八七五

俞彥述の詩文集にして子漢緯等之を蒐輯し純祖壬辰孫秉柱の尙州牧使たりし時刊行す收むる所解、詩疏、啓、辭、箋、文、序、記、跋、墓表、行狀、雜著、附錄等にして燕京雜識は嘗て使命を帶ひ燕京に到りし時の紀事なり

俞彥述字は繼之、松湖と號す杞溪の人府尹命一の孫なり肅宗癸未に生れ英祖己酉進士に中り丙辰文科に登り官知敦寧府事に至り癸巳に歿す諡を靖憲と云ふ彥述文學あり吏治を以て著はる性剛介にして簡默言笑苟もせず清貧に安し富貴を思はず官を退くや城外僻巷に卜居し扁するに知書堂の三字を以てす

○櫟泉集

一九卷九冊 宋明欽著 印本

圖書番號 四八五〇

宋明欽の詩文集にして收むる所詩、書、疏、啓、議、書、雜著、序、記、跋、論、箴、銘、上、檄、文、祝、文、祭、文、碑、碣、誌、狀、遺、事、傳

集部

等なり年譜を附録とす

○好隱集

四卷一冊 釋有璣著 印本

圖書番號 四六二四、一一五二〇

僧有璣の詩文集にして詩、序、記、疏、碣、上、檄、文、雜著等を收む
釋有璣好隱と號す本姓は柳文化の人なり肅宗丁亥に生れ十六歳にして出家し八十餘にして示寂す

○鳳谷遺集

一二卷五冊 桂德海著 印本

圖書番號 四三二二、四三三二

桂德海の遺集にして孫南龜之を蒐輯刊行せり諸經說、山海經、爾雅、天文等說及賦、詩、文、供、辭、啓、辭、雜著、雜錄等を收め附するに言行錄、行狀、事蹟及京中諸公酬和詩、送序等を以てす

桂德海字は元涉、鳳谷と號す宣川の名族なり肅宗戊子に生れ英祖癸亥文學拔群を以て禮賓寺參奉に薦除せられ甲午道科壯元に及第す世稱して桂壯元と云ふ成均真籍を拜し尋いて禮曹佐郎に遷り翌年乙未函谷丞に除し又青丹に換除し乙未官に歿せり

六一五

○ 滄厓集

四卷二冊 李重光著 印本

圖書番號 三五八〇

李重光の遺集にして詩書雜著序記識跋箴銘祭文墓碣附録等を收む

李重光初の名は垣字は平仲滄厓と號す眞寶の人懶隱東標の孫なり肅宗己丑に生れ英祖壬戌泰奉を授けられ洗馬に止まり正祖戊戌に歿す善く家學を繼述し一時盛名あり

○ 活山集

八卷五冊 南龍萬著 印本

圖書番號 六一四一

南龍萬の遺稿にして子景采景義等之を蒐輯す收むる所賦詩疏書雜著說論序記跋銘上標文祝文祭文碑銘墓誌隨録附録等にして正祖癸丑之を刊行す

南龍萬字は鵬路活山と號す英陽の人なり肅宗己丑に生れ英祖丙子生員に中り正祖戊戌に禧陵參奉を授けられたるも仕へず甲辰に歿す龍萬經學文行を以て一郷の師表たるのみならず殊に經濟の學に深し

○ 江漢集

三二卷一五冊 黃景源著 印本

圖書番號 二九七七 四七九一、四九九八、五五二一、五五

五〇、五九〇三、五九〇四、五九〇五、五九〇七、六五二一、

六五五四

黃景源の遺集にして收むる所賦詩教諭冊文箋疏啓狀書序記雜著墓文狀述祭文哀辭跋傳等なり

○ 寬窩遺稿

二卷二冊 趙炳彬著 寫本

圖書番號 五六八二

趙炳彬の遺稿を編したるものにして詩銘祭文雜著等あり

趙炳彬字は豹如寬窩と號す楊州の人謙齋泰億の子なり肅宗庚寅に至れ英祖己未文科に登り乙亥正言に至る父泰億景宗辛壬の事を以て追奪を被り爲めに坎珂身を終れりと云ふ

○ 閒靜堂集

八卷四冊 宋文欽著 印本

圖書番號 四二七八

宋文欽詩文集にして従子時淵之を蒐輯し正祖十二年戊申女婿金光默慶尙道觀察使たる時之を刊行す收むる所詩書雜著序記跋銘贊頌祭文哀辭墓

誌行狀傳述等なり

宋文欽字は士行、閒靜堂と號す、恩津の人、樸泉明欽の弟なり、肅宗庚寅に生れ、英祖癸丑進士に中り、己未蔭仕を以て、叅奉となり、侍直を歷て、官縣令に止まり、壬申に歿す、高祖同春、浚吉の學問を繼述し、又樸泉の薰陶を受け、經明行修の名あり

○雲坪集

一〇卷四冊 宋能相著 印本

圖書番號 一二六三

宋能相の詩文集にして、多く學問時事に關するものを收む、詩、疏、書、序、記、祭文、告文、雜著等あり

宋能相字は士能、雲坪と號す、恩津の人、尤菴、宋時烈の玄孫にして、南塘、韓元震の門下なり、肅宗庚寅に生れ、英祖の時、遺逸を以て召され、官掌令に止まり、戊寅に歿す

○晚翁集

四卷一冊 徐命瑞著 印本

圖書番號 四七二一、四七二二

徐命瑞の遺稿にして、曾孫晚輔之を哀輯し、李太王光武三年に上木せしものなり、詩賦、文以外、初學圖學約圖等、問學工夫の楷梯を示し、附録に王世孫進

集部

講日の進對筵話二三を載す

徐命瑞字は伯五、晚翁と號す、大邱の人、達城尉景霽の玄孫なり、肅宗辛卯に生れ、蔭仕を以て、官知中樞府事に至り、英祖及正祖の時、儒を以て、乙卯に歿す

○陋室集

四卷二冊 李重延著 印本

圖書番號 三六〇〇

李重延の詩文集にして、六代の孫鍾岱の蒐輯したるものなり、詩、書、序、記、祝文、祭文、墓誌、附録等を收め、李太王癸卯に刊行す

李重延字は希愿、陋室と號す、眞寶の人、懶隱、東標の孫なり、肅宗辛卯に生れ、正祖庚戌年八十にして、僉知中樞府事を授けられ、甲寅に歿す

○大山集

五二卷二七冊 李象靖著 印本

圖書番號 四二九四、四六三一

李象靖の詩文集にして、詩、疏、書、雜著、序、記、跋、箴、銘、贊、上、檄文、哀辭、祝祭文、誌狀等を收む、理氣、四端、七情、心、動靜出入の諸篇あり

○鹿門集

二六卷一三冊 任聖周著 印本

六一七

集部

六一八

圖書番號 五〇八五

任聖周の詩文集なり收むる所書雜著序記跋論說銘箴贊祝文祭文墓誌表碣行狀遺事公移詩等にして論語中庸儀禮周易尙書大學等の述義寒泉語錄玉溜講錄書筵講義及附録あり

任聖周字は仲思鹿門と號す豊川の人なり肅宗辛卯に生れ晩に公州の鹿門に卜居す老隱適の子にして士元の孫なり適五男二女あり鹿門は其の仲なり季弟雲湖靖周妹允摯堂偕に文名あり年七十八を以て正祖戊申に歿す二十四歳の時中庸を携へて獨り華陽山に入り靜坐五十日反復研精し疑義一卷を成す

○在澗集

六卷三冊 任希聖著 印本

圖書番號 四九二三

任希聖の詩文集にして詩を土木窩崔重純に文を族子窮悟天常に刪定せしめ純祖癸酉孫百禧沃溝縣監たりし時之を刊行す載する所詩辭書記序題跋箴銘雜著祭文哀辭壙銘墓誌墓碣墓表行狀等なり

任希聖字は子時在澗と號す豊川の人應教琬の子なり肅宗壬辰に生れ英祖辛酉生員に中り己丑孝陵參奉を拜し官直長に止まり癸卯に歿す

○石北集

一六卷八冊 申光洙著 印本

圖書番號 四三九八

申光洙の詩文集にして李太王十年丙午五代の孫觀休之を刊行す内十卷は皆詩にして其の餘は書疏上契文祭文序陰記傳儷文雜著等なり又附録あり

申光洙字は聖淵石北と號す高靈の人僉知濬の子なり肅宗壬辰に生れ英祖壬辰漣川縣監を以て耆老科に魁たり官承旨に止まり乙未に歿す功令文を以て名を著はし尤も詩に工なり

○旅庵集

八卷四冊 申景濬著 印本

圖書番號 二四四〇

申景濬の遺稿にして詩は古體近體に文は家乘塚刻堂宇寺刹雜文に大別し文には墓文行狀祭文哀辭屏閣碑禪師碑序記跋讖傳贊銘功令策等を收む

○鳳麓集

四卷二冊 金履坤著 印本

圖書番號 三九七八

金履坤の詩文集にして正祖二年戊戌弟履復平壤庶尹たる時刊行す載する所詩書序贊墓誌銘墓表行狀祭文哀辭襟識等にして墓文一篇を附す

金履坤字は原哉、鳳麓と號す安東の人茅州時保の孫にして仙源の後なり肅宗壬辰に生れ英祖甲午六十三歳にして始めて新溪に令たり後數月にして歿す

○ 尼溪集

圖書番號 四二〇九

一二卷五冊 朴來吾著 印本

朴來吾の詩文集にして收むる所詩書序記雜著跋祭文哀辭行狀碣銘及附錄なり李太王癸巳後孫圭沿之を編刊す

朴來吾字は復初、尼溪と號す密陽の人松月堂好元の後なり肅宗癸巳に生れ正祖乙巳に歿す

○ 梨湖遺稿

圖書番號 二三四二六

三卷一冊 金時鐸著 印本

金時鐸の遺稿にして詩各體書數十篇及雜著を收め附錄に言行錄、行狀、墓碣銘及贈詠、輓詞等を收む

集部

英祖四十七年辛卯之を印行す

金時鐸字は子木、梨湖と號す貫は海豊にして僉樞德峻の子なり肅宗癸巳に生れ業を陶菴李紱に受く英祖辛未に歿す學行を以て梨湖祠に享す

○ 石雲集

圖書番號 七六六四

二卷一冊 尹顯東著 寫本

尹顯東の文集にして收むる所書と序のみなり尹顯東字は誠中、石雲と號す海平の人四休堂得和の子なり肅宗癸巳に生れ正祖壬寅に歿す

○ 農叟遺稿

圖書番號 四〇六二、一三三六六

一冊 崔天翼著 印本

崔天翼の詩文集にして正祖八年甲辰の刊行に係る各體詩及書十餘篇を收む

崔天翼字は晉叔、農叟と號す興海の人なり肅宗甲午に生る其の先は世世郡の小吏なりしか天翼に至り儒を以て家を成さんと期し刻苦學を力め進士に擧げらるるに及び則ち曰く吾分足れりと遂に復た試に應せず家居門生に教ふることに三十年正祖己亥に歿す年六十八

○有心齋集 六卷三冊 李和甫著 印本

圖書番號 六一七九

李和甫の文集なり和甫平生實學を務め詩詞を喜はず故に集中に詩なし書及經義問答禮疑問答雜著告文行狀誌文及附録を收む

李和甫初の名は濟甫字は汝施次て醉甫字は大和と更め後に和甫字は大醇と改む有心齋は其の號なり太宗の別子讓寧大君禔の後にして肅宗甲午に生れ少にして陶庵李緯に學ひ篤志力學遂に科官を求めず英祖及正祖の際連に叅本を授けられたるも受けず正祖辛丑に歿す

○韋庵集 六卷三冊 李最中著 印本

圖書番號 四八〇三

李最中の詩文集にして收むる所辭詩疏笥箋書尺牘記祭文祝文墓表哀碣墓誌行狀諡狀遺事雜著等なり

李最中字は季良韋庵と號す全州の人鹿川濬の孫なり肅宗辛未に生れ英祖辛未直長を以て文科に登り弘文館提學を歴て官吏曹判書に至り正祖甲

辰に歿す諡を文貞と云ふ

○保晚齋集 一六卷八冊 徐命膺著 印本

圖書番號 四三七六、四三七七、五四四〇

徐命膺の詩文集にして憲宗四年戊戌孫楓石有渠の編印せしものにして正祖の序あり收むる所辭樂歌詩疏笥箋書序記題跋雜著玉竹冊頌教文箋文上樛文祭文誌狀及蠶測編等なり

○警弦齋集 四卷二冊 姜世晋著 印本

圖書番號 四四七八

姜世晋の詩文集にして子鳳欽の蒐輯したるものなり詩書雜著序記伴儷文哀詞丘墓文行狀等を收む外孫鄭象履等之を刊行す

姜世晋字は嗣源警弦と號す晋州の人慕軒必愼の子なり肅宗丁酉に生れ英祖癸酉進士に中り正祖丙午に歿す

○青川子稿 三卷一冊 任敬周著 印本

圖書番號 五八五五

敬周の遺稿にして正祖三十年甲寅季弟靖周の印出に係り詩書序記跋論說傳雜著祭文哀辭墓誌行

狀及附録を收む

任敬周字は直中、青川子と號す。老隱適の第三子にして、鹿門聖周の弟なり。肅宗戊戌に生れ、年二十八にして、英祖乙丑に夭す。

○ 晩慕遺稿

六卷三冊 鄭基安著 印本

圖書番號 五三八一

鄭基安の遺稿にして、賦詩、疏啓、議、講義、書、記、跋、行狀、告祭文、雜著等を收む。純祖三十四年甲午、子晚錫之を編刊す。

鄭基安字は安世、號は晩慕。初名は思安、溫陽の人。相臣順朋の後なり。肅宗己亥に生れ、英祖戊申文科に登り、官知中樞府事に至り、丁亥に歿す。諡を孝憲と云ふ。子晚錫、官丞相に至る。

○ 性堂集

五卷二冊 鄭赫臣著 印本

圖書番號 三四九三、四三四七

鄭赫臣の遺稿を集めたるものにして、外孫金博淵之を釐正し、顯宗乙巳六年孫浩幹之を印行せり。收むる所詩、書、序、祭文、行狀、呈文、雜著等にして、終に門人退記の行狀を附す。

集部

鄭赫臣字は明峻、性堂と號す。保寧の隱士なり。名を

德者と改めしか。後初名に復せり。肅宗己亥に生れ、清に事ふるを恥ちて、科擧に赴かず。窮居書を讀むこと五十年。正祖の時、叅奉を拜せしも、就かず。後老を以て、通政を授けられ、癸丑に歿す。

○ 良翁集

二四卷一二冊 李獻慶著 印本

圖書番號 六七六五、七二一四、七七七八

李獻慶の遺稿を集めたるものにして、正祖の時、畿湖の有志嶺南諸儒に移文し、協力刊行せしものなり。收むる所詩、疏、書、祭文、碑誌、碣陰記、諡狀、行狀、祝文、哀辭、序、記、跋、辨、傳、論、奏、贊、銘、說、雜著等にして、家庭見聞を附録とせり。

李獻慶字は夢瑞、良翁と號す。坡谷誠中の後なり。肅宗己亥に生る。六七歳にして、既に能く章を成す。英祖甲子に登科し、官途振はさるもの。三十年爲に文學愈進み、著述益富む。正祖の初驟に、正卿に至り、辛亥に歿す。

○ 樊岩集

五九卷二七冊 蔡濟恭著 印本

圖書番號 三三三四、四一三三、五三七二、五三七三

正祖二十四年庚申凡例を授け李鼎涇等に命じて校正せしめ五十九卷に至り純祖二十四年甲申始めて開刊せり收むる所詩疏笈書啓獻議啓辭序記書祭文哀冊哀辭誌狀傳跋碑塔文銘贊教文箋狀文上樞文說雜著等にして卷首上下二卷あり絲綸を載す

蔡濟恭字は伯規、樊巖と號す平康の人希菴彭胤の從孫なり肅宗庚子に生れ英祖癸亥に登科し正祖の初隆勢に突遇して官領相に至り己未に歿す諡を文肅と云ふ英祖世子を廢する時濟恭始終泣諫せしを以て正祖位に即き殊眷を加へらる詩文傑氣あり恰も其の人の如し正祖其の稿に題して傑氣驅來筆力到と云ふ

○ 丹陵遺集 三卷一冊 李胤永著 印本

圖書番號 四八〇二

李胤永の遺稿にして正祖三年友金鍾秀平安監司たる時之を哀輯し休を捐てて上梓したるものなり辭詩雜文等を收む

李胤永字は胤之、丹陵と號す韓山の人なり肅宗の

時に生れ隱居して仕へず故に其の事蹟傳らず但た金鍾秀の跋に胤之天性峻潔自ら世と合はざるを知り蚤く舉業を謝し自ら山水文墨に放情すとあり

○ 凌壺集 四卷二冊 李麟祥著 印本

圖書番號 六一八五

李麟祥の遺稿を集めたるものにして英祖三十三年丁丑子英章之を刊行す收むる所詩書序記跋議哀辭祭文雜著等にして金鍾秀の跋あり
李麟祥字は元靈、凌壺と號す完山の人白江敬輿の孫なり肅宗の時に生れ英祖に仕へて官縣監に止まる長身瘦癯塵垢の氣なく出づれば則ち朗詠して傍ら人なきか如く之を望めは宛も鶴に似たり學藝の外書畫に巧にして特に篆書に長し當時三絶の稱あり正祖の時に歿す

○ 方懼菴集 一四卷七冊 尹衡老著 印本

圖書番號 四八八七、四八八八

尹衡老の遺稿にして曾孫守淵之を哀輯上梓す載する所詩書辨箴祭文及論語中庸笱錄尊性家訓等

なり

尹衡老戒懼菴と號す坡平の人なり肅宗の時に生れ水原郡に隱居し英祖の時隱逸の士を以て叅奉を授けられたるも就かす窮居して道を楽しみ壽を以て世を終る

○ 遜齋集

八卷四冊 朴光一著 印本

圖書番號 六八三二

朴光一の詩文集にして賦詩疏書雜著序跋記祭文墓誌行狀及尤菴語錄近思錄節記等を收む正祖六年壬寅孫夏鎮の輯刊に係る

朴光一字は士元、遜齋と號す肅宗の時に生る順天の人寓軒尙玄の子にして尤菴宋時烈の門下なり深く窮理の學を脩め内侍官翊衛王子師傅侍講院諮議等を拜したるも皆就かす智異山下に卜築して山水を楽しみ講詞嘯詠して英祖の時に歿す諡を文肅と云ふ

○ 南塘集

五〇卷二六冊 韓元震著 印本

圖書番號 四二二一、五〇〇五、五六四二

韓元震の詩文集にして薛颯詩疏議、說書序、記題跋、

集部

銘、贊、祭文、哀辭、誌狀、雜著等を蒐輯す中に經義記聞錄、朱子言論及回異攷あり元南塘は其の號なり震同門の李東と持説相反し此に湖洛の分派を開けり本書は以て其の所説を窺ふに足る

○ 冠峰遺稿

一〇卷五冊 玄尙壁著 印本

圖書番號 五〇〇二

玄尙壁の詩文集にして收むる所詩書雜著序跋記祭文行狀銘等なり

玄尙壁字は彥明、冠峯と號す寒水齋權尙夏の門下なり肅宗の時に生る少時専ら性理の書を學び又禮記を窮めたり英祖の時官纔に洗馬に至りて致仕す

○ 東溪遺稿

四卷二冊 李英輔著 印本

圖書番號 五二八七

李英輔の遺稿にして子廣源、述源等之を蒐輯す收むる所詩書序跋記雜著行狀祭文哀辭等にして末に弟文輔の大觀遺稿を附し英祖三十五年己卯に刊行す

李英輔字は夢與、東溪と號す延安の人なり肅宗の

時に生れ甲午進士壯元となり官金城縣令に止まり英祖の時に歿す

○ 霽軒集 六卷三冊 沈定鎮著 印本

圖書番號 四七七六

沈定鎮の詩文集にして收むる所詩、序、記、題、跋、書、雜著、祭文、哀辭、行狀、遺事、墓誌銘、墓碣銘、講說、語錄等なり正祖十年丙午趙璣平安監司たりし時刊行す
沈定鎮字は一之、霽軒と號す肅宗の時に生れ英祖の時進士に中り官郡守に止まる嘗て副率となるや會ま正祖東宮に在り甚た之に敬事し學術高明にして講說精好なりと稱す然れども終に大に用ひらるるに至らずして止む

○ 雨念齋詩稿 一冊 李鳳煥著 寫本

圖書番號 四八〇五

李鳳煥の近體詩五七律及七絶若干篇を收めたるものなり

李鳳煥字は聖章、雨念齋と號す全州の人なり英祖の時官縣監に至り庚寅冤獄に死す

○ 雲溪漫稿 三五卷一五冊 金鍾正著 寫本

圖書番號 五三八〇

金鍾正の詩文稿にして定本に非ず故に往往塗改存拔したるものあり内容は詩各體疏、劄啓、辭、議、箋、書、序、記、跋、說、雜著、祝文、祭文、哀辭、墓文、行狀、遺事、劄錄、家範等にして拾遺及附録あり

○ 三山齋集 一二卷六冊 金履安著 印本

圖書番號 三〇九六、三六〇七、四二二八、四三六二、四四

二一、五四四一

金履安の詩文集にして收むる所詩、疏、書、啓、儀、序、記、題、跋、行狀、墓文、祭告文、哀辭、雜著等なり

金履安字は元禮、三山齋と號す安東の人、江湖元行の子なり景宗壬寅に生れ正祖の時閔彝顯、金斗默、曹霖等と齊しく經筵官となり祭酒に至り辛亥に歿す諡を文獻と云ふ

○ 玉局齋遺稿 一〇卷五冊 李運永著 寫本

圖書番號 七三六五

李運永の遺稿にして詩、詞、序、記、跋、書、祭文、傳、雜著、日記、墓表、遺事、叢誌及附録を收む子義淵の編次したるものなり

李運永字は健之、玉局齋と號す、韓山の人、丹陵胤永の弟なり、景宗壬寅に生れ、英祖己卯司馬に中り、官同知中樞府事に至り、正祖甲寅に歿す、文名あり

○ 恭命齋稿

三冊 金德行著 寫本

圖書番號 六五九八

金德行の詩文稿にして、序祭文數篇の外皆詩なり、金德行字は顯道、恭命齋と號す、安東の人、竹所光煜の玄孫なり、景宗壬寅に生れ、官縣監に止まり、正祖己酉に歿す

○ 石堂遺稿

六卷三冊 金相定著 印本

圖書番號 三五六〇

金相定の遺稿にして、子箕應の蒐輯したるものなり、一巻より三巻は諸體の文を收め、四巻より六巻は各體の詩を録す、純祖四年甲子に刊行す、金相定字は稚五、石堂と號す、光山の人、沙溪金長生六代の孫なり、景宗壬寅に生れ、英祖辛卯縣監を以て文科に登り、官承旨に止まり、戊申に歿す

○ 海左集

三九卷一九冊 丁範祖著 印本

圖書番號 四一九五

集部

丁範祖の詩文集にして、李太王四年に刊行す、收むる所賦、詩、疏書、序記、誌狀、題跋、說論、雜著、傳、上、稷、文、箋、狀、贊、勸、緣、文、銘、等にして、年譜及行狀を附す

丁範祖字は法世、海左と號す、押海の人なり、景宗癸卯に生る、愚潭時翰の後にして、儒學の世家たり、英祖、正祖の間に名を馳せ、官弘文館提學に至り、純祖辛酉に歿す、諡を文憲と云ふ

○ 韋菴詩錄

三卷一冊 金相岳著 印本

圖書番號 四三九〇

金相岳の詩集にして、子箕晋の編次したるものなり、詩各體六百四十餘首を收む、李太王十六年己卯曾孫尙鉉之を刊行す

金相岳字は舜咨、韋菴と號す、光山の人、光南君益勳の曾孫なり、景宗甲辰に生れ、蔭仕を以て、官知中樞府事に至り、純祖乙亥に歿す、文簡と諡す、易理に深く、山天易說の著あり

○ 耳溪集

五〇卷二二冊 洪良沿著 印本

圖書番號 二九八一、四七〇〇、四七〇一、四七〇二、五五

四八、五五五二、七七二七、七七二八

六二五

洪良浩の詩文集にして憲宗九年癸卯孫敬謨之を刊行す原集初卷より十八卷までは良浩晚年自ら選輯せしものにして以下二十卷は敬謨の追輯せしものなり卷首に清の禮部尙書紀昀の序を載す收むる所辭賦、歌謠、詩、序、記、書、題、跋、銘、頌、贊、辨、論、解、傳、雜著、疏、筭、啓、議、教、命、文、頌、教、文、箋、文、致、詞、教、書、上、樞、文、進、香、文、祭、文、哀、辭、神、道、碑、墓、碣、墓、誌、墓、表、謚、狀、等、に、し、て、外、集、十、二、卷、に、は、講、說、易、象、翼、傳、群、書、發、悞、萬、物、原、始、六、書、經、緯、牧、民、大、方、北、塞、紀、畧、等、を、收、む、耳、溪、は、其、の、號、な、り

○ 雲齋遺稿

四卷二冊 李重慶著 印本

圖書番號 五四八〇

李重慶の遺稿にして子鎮絃之を編次す收むる所詩書祭文雜著附錄等なり

李重慶字は志彥雲齋と號す眞寶の人懶隱東標の孫なり景宗甲辰に生れ英祖甲戌に歿す杜陵の子陋室の弟にして善く家學を繼述す

○ 荆庵文略

三卷一冊 崔昭著 寫本

圖書番號 七二五八

崔昭の文集にして孫性學之を編次す一巻は焚餘藁二巻は讀史漫論三巻は雜著にして荆庵は其の號なり

○ 修井集

五冊 鄭景淳著 寫本

圖書番號 七五六七

鄭景淳自編の詩文集にして收むる所詩文雜著等なり

鄭景淳字は時晦修井と號す東萊の人陽坡太和の玄孫なり

○ 松穆館集

一卷一冊 李彥頊著 印本

圖書番號 七〇六五

李彥頊の詩文集にして歿後九十餘年を経て哲宗二年庚申孫鎮舉之を搜索し刪定印行せしものなり詩及贊銘尺牘等數篇を收む

李彥頊字は虞裳松穆館又湘藻と號す英祖の時に生れ惠寰李用休に師事し詩才あり家世世象胥を業とす癸未譯官を以て通信使に隨ひ日本に往き歸りて後幾もなくして歿す年三十有餘なり

○ 允擊堂遺稿

二卷一冊 任氏著 印本

圖書番號 四八〇四

申光裕の妻任氏の遺稿を集めたるものにして正祖二十年丙辰季弟任靖周及夫弟申光祐等の編刊したるものなり既に曰ふ遺稿は初め四十篇なりしも刪りて三十篇と爲し又五篇を追入し總て三十五篇と爲すと收むる所傳論跋說箴銘贊祭文引經義等にして允學堂は其の號なり

○直菴集 二〇卷一〇冊 申暲著 印本

圖書番號 一六二〇

申暲の詩文集にして子大傳の蒐輯したるものなり詩疏收議書啓問答序跋雜著祭文墓誌行狀遺事語錄傳等あり純祖辛未外孫金會淵慶尙道觀察使たりし時之を刊行す

申暲は直菴と號す平山の人綱菴院の孫にして英祖の時の人なり

○本菴集 一二卷六冊 金鍾厚著 印本

圖書番號 四一四八、一五七四

金鍾厚の詩文集にして弟鍾秀の哀集に係り門人任焞羅州に宰たりし時之を印行す載する所詩疏

集部

議書雜著序記題跋箴詞贊上樑文祭文哀辭碑銘墓碣墓誌行狀傳簡錄等にして本菴は其の號なり

○退軒集 七卷三冊 趙榮順著 印本

圖書番號 三四五〇、四六五二、一一四八〇

趙榮順の詩文集にして子元喆の編次上梓したるものなり收むる所詩疏書祭文告文雜著等なり

趙榮順字は孝承退軒と號す楊州の人二憂堂泰采の孫なり英祖乙巳に生れ二十七年文科に登り諸官に歷任したるも黨論に強硬なりしを以て屢英祖の怒に觸れ諸處に貶竄せらる乙巳備局に除し西樞に除せられたるも拜せず是の歲遂に歿せり

○忍菴集 五卷二冊 趙載道著 印本

圖書番號 四三五三

趙載道の詩文集にして子良鎮の姪尙鎮の蒐輯したるものなり詩賦序記書論傳雜著雜記雜錄附錄等を收め正祖五年辛丑之を刊行す

趙載道字は文之忍菴と號す豊壤の人舍人大壽の孫なり英祖乙巳に生れ丁卯進士に中り己巳に歿す八歳にして探薇論を作り人之を神才と稱す二

六二七

十五歳早く歿せしも學膽文麗を以て盛名あり

○ 臥雲遺稿 三卷三冊 宋煥經著 寫本

圖書番號 三九七七

宋煥經の遺稿にして收むる所詩賦書序記論祭文、上樑文等なり

宋煥經は臥雲と號す恩津の人なり

○ 梧山集 七卷四冊 徐昌載著 印本

圖書番號 五九五八、五九五九

徐昌載の文集にして收むる所詩書、襍著、序、跋、箴銘、上樑文、祭文、行狀、墓誌等なり内一卷は附録一卷は別集にして冠禮考定等を載す從孫徐幹發之を刊行す

徐昌載字は尙甫、達城の人なり英祖丙午に生れ正

祖辛丑に歿す嶠南に於ける禮學家の一人なり

○ 雲湖集 六卷三冊 任靖周著 印本

圖書番號 四八三八

任靖周の遺稿にして其の子杰之を蒐輯し英祖丁丑從子照青山縣監たりし時之を刊行す收むる所書、雜著、告文、祭文、墓誌、行狀、遺事等なり

任靖周字は稚共、雲湖と號す豊川の人老隱適の子

にして鹿門聖周の弟なり英祖丁未に生れ壬午進士に中り蔭仕を以て官縣監に止まる

○ 燕齋稿 一冊 李光顯著 寫本

圖書番號 七二四六

李光顯の詩稿にして成るに隨ひ手録したるものなり

李光顯字は晦叔、號は燕齋、全州の人任城君好臣の

後なり英祖丁卯に生れ正祖丁酉司馬に中り戊午

蔭仕に補せられ官縣監に止まり純祖の時に歿す

○ 荷棲集 一卷六冊 趙璫著 印本

圖書番號 四七二〇、五二二三、五二二三、自五二四至五

一二六、五二八七、五五一九、五五三四、自五六二一至五六二

六、六八五四

趙璫の詩文集にして子鎮球の刊行したるものなり詩疏、笥書、啓議、箋、書、序、記、跋、論、祭文、哀辭、墓文、行狀、諡狀、雜著、講說、漫錄等を收む別に附録一卷あり荷棲は其の號なり

○ 最窩集 八卷四冊 金奎五著 印本

圖書番號 四八二四、六三〇四

金奎五の詩文集にして子耳鉉の蒐輯したるものなり收むる所詩、疏書、雜著、記、跋、婚書、字說、祭文、告文、墓誌、行狀、附録等なり純祖三十二年壬辰從孫貞健門人李氣貞と與に之を刊行す

金奎五字は景休、最窩と號す咸昌の人西溪守堅の玄孫なり英祖己酉に生れ正祖辛亥に歿す

○安窩遺稿

六卷三冊 洪樂仁著 印本

圖書番號 四二三一、五三二〇、五五一八、五八八二、五八

八三、五九四二、五九四三、自五九四四至五九五〇、六五四五、六五四六、六五四七、六五四八、六五四九、七七六六

洪樂仁の遺稿にして正祖十一年丁未内府に命じて刊行せしむ正祖の序あり收むる所詩、書、序、記、跋、祭文、應製文、雜著等にして安窩は其の號なり

○默山集

四卷二冊 南基萬著 印本

圖書番號 一七八四

南基萬の詩文集にして從玄孫泉の蒐輯したるものなり收むる所詩、疏書、祭文、上樑文、箴、跋、雜著、墓誌、附録等にして李太王十一年甲戌之を刊行す

集部

南基萬字は伯溫、默山と號す英陽の人なり英祖庚

戌に生れ甲午大小科に中り正祖丙辰に歿す經學に深く又星曆度數、參同契、納甲の法に通曉せり

○蘿山集

一二卷四冊 趙有善著 印本

圖書番號 一七五一

趙有善の詩文集にして哲宗己未の刊行に係る收むる所詩、書、經義、序、記、跋、引、雜著、上樑文、祭文、告文、祝文、哀辭、傳、附録及拾遺等なり

趙有善字は子淳、蘿山と號し開城に居る稷山の人松村翼周の曾孫なり英祖辛亥に生れ正祖戊申經行を以て薦められ叅奉を拜し官郡守に止まり純祖己巳に歿す漢湖金元行の門人なり

○天隱亂稿

一冊 趙宗鉉著 寫本

圖書番號 六七二八

趙宗鉉自編の詩文集にして收むる所詩、記、說、識、遺事、題、傳、解、序、花月令、祭文等なり中に北征詩あり北關の風俗を寫せり

趙宗鉉字は元玉、天隱と號す楊州の人忠簡公雲遠の子なり英祖辛亥に生れ丙子進士に中り戊子蔭

六二九

仕を以て文科に登り官禮曹判書に至り正祖庚申に歿す諡を孝憲と云ふ

○五龍齋遺稿 一冊 南溟學著 印本

圖書番號 四七三九、四八〇〇、四八〇一

南溟學の遺稿にして正祖二十四年庚申子陽龍之を上梓す收むる所詩書祭文漫錄北說講奏殿策等にして五龍齋は其の號なり

○修山集 一四卷七冊 李種徽著 印本

圖書番號 四五七四

李種徽の詩文集にして收むる所詩騷賦序記說贊銘東史論策行狀碑誌傳祭文哀辭雜著書題跋青丘古史東輿雜記漫筆等なり

李種徽字は德叔修山と號す全州の人判府事廷詰の子なり英祖辛亥に生れ蔭仕を以て官公州判官に止まり肅宗の時に歿す

○青城集 一〇卷五冊 成大中著 印本

圖書番號 四八三一

成大中の詩文集にして子海應之を蒐集す收むる所詩書序記傳論說題跋行狀墓誌碑銘祭文哀辭等

にして憲宗六年庚子孫憲曾之を刊行す
成大中字は士執青城と號す昌寧の人なり英祖壬子に生れ癸酉生員となり丙子文科に登り曾て通信使趙曠に隨ひ日本に入りたることあり官府使に止まり純祖壬辰に歿す

○魯村集 四卷二冊 鄭東煥著 印本

圖書番號 五五七七

鄭東煥の遺集にして詩書序記跋狀祝祭文及行狀を收む李太王九年壬申從曾孫斗永之を編次刊行す

鄭東煥字は洛瞻號は魯村烏川の人師夏の子なり英祖壬子に生れ正祖庚申に歿す

○松窩集 四卷二冊 金相离著 印本

圖書番號 四五二一

金相离の詩文集にして曾孫謹行之を蒐集し李太王十八年辛巳に刊行す收むる所賦詩說論辨經義序祝文墓誌銘上深文辭演義附錄等なり

金相离字は而洽松窩と號す慶州の人監司義の後孫なり英祖壬子に生れ正祖丁酉智陵別檢に入仕

し純祖丙寅に歿す官殿令に至る

○ 近齋集 三二卷一六冊 朴胤原著 印本

圖書番號 三六一、四四二、四四三、四四四、四四五、五

〇七二、五〇七三、五一四八、五三四六、五三五六、六七一

一

朴胤源の詩文集にして玄孫定陽之を編刊す收むる所賦詩書序記題跋銘箴贊傳論說雜著祭文告文哀辭行狀墓誌墓表墓碣遺事家錄及漢湖金元行の語録等なり

朴胤源字は永叔近齋と號す潘南の人判官師錫の子なり英祖甲寅に生る聰穎絶倫經學を以て鳴る家貧にして風雨を蔽ふ能はさるも晏然として學徒と講討し終身仕へず正祖己未に歿す

○ 菊軒集 二卷一冊 蘇始萬著 印本

圖書番號 四七四〇

蘇始萬の詩文集にして孫煥述之を蒐輯し純祖八年戊辰に刊行す數理著說書策及詩二篇を收む附録あり

蘇始萬字は元甫菊軒と號す晋州の人月洲斗山の

集部

玄孫なり英祖甲寅に生れ乙酉に歿す三歳にして

書を読み十二歳舉文を以て大に鳴り易象皇極の數律曆醫卜の學洞徹せざるものなし後に意を四書に專にして四書筋類を著す年僅に三十二にして天す

○ 自齋遺稿 一冊 尹東燁著 印本

圖書番號 四八一六

尹東燁の遺稿にして子光演の蒐輯したるものなり詩書說銘附録等を收め純祖三十年庚寅之を刊行す

尹東燁字は德輝自齋と號す坡平の人克齋三星の子なり英祖甲寅に生れ正祖癸丑に歿す卓犖不羈の志を抱き山水の間に放浪して終れり

○ 百一集 二冊 沈翼雲著 寫本

圖書番號 七三三九

沈翼雲自編の詩文集にして收むる所詩序記題跋墓誌祭文告文誄書雜著說銘贊等なり

沈翼雲字は鵬如芝山と號す青松の人晩沙之源五代の孫なり英祖甲寅に生れ進士を以て己卯文科

六三一

に登り官持平に止まり流されて謫所に歿す

○宛丘遺集 一〇卷二冊 申大羽著 印本

圖書番號 五六三七

申大羽の詩文集にして雜著書序記墓文行狀祭文等あり詩なし純祖の時三子縉綽及絢之を校正編次す全卷隸體を以て之を書し木板を以て之を刻す

申大羽字は儀父、號は宛丘、平山の人、直長賊の子にして紫霞申緯の從叔なり、英祖乙卯に生れ、正祖の初蔭仕に補せられ、官叅判に至り、純祖己巳に歿す

○玉溪遺稿 二卷一冊 姜鳳文著 印本

圖書番號 四三七五

姜鳳文の遺稿にして孫周福之を蒐輯し純祖己丑に刊行す收むる所詩書序記祭文附錄等なり

姜鳳文字は周瑞、玉溪と號す、晋州の人なり、英祖乙卯に生れ、純祖乙亥に歿す、其の門地寒微なりと雖文學に勤め、又孝行を以て稱せらる

○燕巖集 九卷三冊 朴趾源著 印本

圖書番號 五七三二、五七三六

朴趾源の詩文集にして光武五年金澤祭之を編刊す、詩表議書序題辭記論說農說祭文哀祠神道碑墓碣墓誌塔銘事狀尺牘熱河日記等を收む

朴趾源字は仲美、燕巖と號す、英祖丁巳に生る、潘南の人にして文章に卓絶す、正祖文學を崇尚し重用せられし、も當路の嫉視する所となり、文科に第せず、官僅に府使に止まり、純祖乙丑に歿す、當時朝鮮人にして泰西地球の説を知る者なかりしか、趾源入燕使に隨ひ、熱河に至り、清儒と交遊し、書籍を博覽し、地球一日一轉の説を倡道し、問者をして驚服せしむ、獨り文章の大家たるのみならず、最も經濟の學に深邃なりしは、其の著農政書に見るへし、後に正卿を贈られ、文度と諡せらる

○德峯集 六卷三冊 李鎮宅著 印本

圖書番號 一四二八

李鎮宅の詩文集にして玄孫圭一の蒐輯せしものなり、詩疏啓書雜著識說祝文祭文碑文行狀傳上樞文附錄等を收載し、李太王光武六年壬寅に刊行す、李鎮宅字は養重、德峯と號す、慶州の人、益齋齊賢の

後孫なり英祖戊午に生れ正祖庚子文科に登り官掌令に至り純祖乙丑に歿す莊祖昇遐の事に關し直言極諫して流竄を蒙り遂に任官せずして終れり李太王庚子莊祖進崇の後秘書函を贈る

○ 儉巖山人詩集 二卷二冊 范慶文著 印本

圖書番號 四七九六、六一七〇、六五五〇、六九八四

范慶文の詩集にして純祖十四年甲戌子潤行之を剗劔に付す徐榮輔の序あり

范慶文字は孺文、儉巖と號す英祖戊午に生れ年十七八既に能く辭を屬し嶄然頭角を見はず純祖辛酉に歿す

○ 錦石集 一二卷五冊 朴準源著 印本

圖書番號 一七五九、三一〇六、三五七七、四八三四、四九四三、四九四四

朴準源の遺稿にして純祖十六年從子宗興及兪漢雋の校印せしものなり收むる所賦詩、書序、記、跋、贊、銘、上樑文、雜著、祭文、哀辭、誌狀等なり

○ 菑野集 六卷三冊 韓敬儀著 印本

圖書番號 四三〇一

集部

韓敬儀の詩文集にして孫永熙の蒐輯に係り收むる所詩書序記跋雜著祭文行狀墓碣墓誌墓表附錄等なり

韓敬儀初名は光祐字は伯慄、菑野と號す清州の人、草堂世琦の曾孫なり英祖己未に生れ純祖辛巳に歿す開城に世居し經學深遂且孝行を以て一郷に稱せらる

○ 柯汀遺稿 一〇卷五冊 趙鎮寬著 印本

圖書番號 四三六八、四三六九、四四六七

趙鎮寬の遺稿にして憲宗十三年丁未子寅永之を印出す收むる所詩疏啓議序記跋揭玉冊文上樑文樂章辭祭文表碣誌碑諡狀傳狀易問等なり

○ 青莊館全書 七一卷二五冊

李德懋著 寫本

圖書番號 四九一七

李德懋の全集にして子光葵の蒐輯したるものなり而して幼時の詩文は嬰處稿と名け禮記に付ての論述は禮記臆と題し詩文の各體は雅亭遺稿と名け宋史の論述は編書雜稿と名け支那朝鮮歷代

の編撰は紀年兒覽と名け士典婦儀童規に關する所説は士小節と名け人物の小傳は磊々落落々書群書の讀抄は耳目口心書隨筆は盡葉記黃海道の紀行は西海旅言諸人の尺牘筆談は天涯知己書北京の紀行は入燕記漫録は寒竹堂涉筆と題せり年譜を附録とし正祖十九年乙卯内賜金を以て之を刊行す

李德懋字は懋官雄亭と號す完山の人府使必益の孫なり英祖辛丑に生れ正祖己亥奎章閣檢書官となり官縣官に止まり癸丑に歿す百家に汎濫せるのみならず行義亦醇篤なり

○ 雅亭遺稿

八卷四冊 李德懋著 印本

圖書番號 四一四三、四一四九

李德懋の詩文集にして歿後三年丙辰正祖旨を孤子光葵に傳へて遺稿を徵し内帑を下して劄劄の費を助け奎章閣諸員をして刪定刊行せしめたるものなり歌詩三百三十二篇書牘一百篇策論五篇序記雜書一百三十一篇を收む

○ 鏡巖集

三卷一冊 釋應允著 印本

圖書番號 二二〇三六
僧應允の詩文集にして詩書序記襟著等を載せり純祖四年甲子門人八關之を刊行す

釋應允初名は慣拭俗姓は閔號は鏡巖なり英祖癸亥に生れ丁丑入山して薙髮し秋波の門に歸し開堂化象せり純祖甲子に寂す

○ 古道菴遺稿

四卷一冊 李心永著 印本

圖書番號 五五三二

李心永の遺稿にして詩及序説告文跋記贊銘呈書弔祭文等を收む子泰魯之を編次し哲宗庚戌に刊行す

李心永初名は禧錫字は國瑞一字は大有古道菴と號す牙山の人牙州伯邕の後なり英祖甲子に生れ正祖庚戌司馬に中り純祖丙戌に歿す

○ 太湖集

八卷四冊 洪元燮著 印本

圖書番號 四五九八、四五九九、五五四九

洪元燮の詩文集にして哲宗の初年孫鍾遠の編刊せしものなり收むる所詩疏啓狀書序記題跋上樑文雜著行狀墓誌銘墓表碑銘祭文等にして附する

に子顯圭の參三齋詩百選を以てす

洪元燮字は太和、太湖と號す南陽の人北谷致中の玄孫なり英祖の時に生れ早く孤となる其の母之を教ふるに嚴なり司馬試に中り蔭仕を以て進み官參議に至る正祖の時水原判官となり命を承け上樞文を製進す蔭官を以て文苑黼黻に入りし者惟り元燮あるのみ純祖の時に歿す子顯圭字は公晦、參三齋と號す詩才ありしも夭折す

○華泉集

一六卷八冊 李采著 印本

圖書番號 四六五五、四六五六、四六五七

李采の詩文集にして曾孫鎬翼の忠州に牧たりし時印出せしものなり收むる所詩疏書講義序記傳跋、銘雜著策箋上樞文、告文、祭文、哀辭、碑碣表、誌狀等なり

李采字は季良、華泉と號す牛峰の人陶庵粹の孫なり英祖乙丑に生れ進士に中り參奉に任せられ戸曹參判に至り純祖庚辰に歿す李太王の時特に贊成を贈る諡を文敬と云ふ

○龜巖集

一六卷八冊 李元培著 印本

集部

圖書番號 五二〇九

李元培の詩文集にして歿後純祖二十一年庚辰門人玄翊洙及族子恂等之を輯刊す收むる所詩、經義、禮、疑、書、序、記、跋、論、說、雜著、狀、碣、祭文、哀辭、日錄、附錄等なり

李元培字は汝達、龜巖と號す鏡城の人なり英祖乙丑に生れ世世北路の大族として學行を以て聞ゆ其の先は公州の人にして十一代の祖謙事に坐して謫せられ因て終に鏡城に住す天資聰穎、經傳を貫穿し百家を涉獵し悉く究通せざるなし正祖十二年上問に應へて九經疑義六十二條を釋明し仍て褒賞を受く純祖辛酉義禁府都事に除せられ尋て尙衣院別提となり莊陵令に移り翌壬戌に歿す

○醇庵集

一〇卷五冊 吳載純著 印本

圖書番號 一五六七、一五六八、二八四七

吳載純の詩文集にして久しく登梓せず正祖上梓を命し純祖八年子熙常等相謀りて遺稿を刪定し活字を以て印行せり

六三五

吳載純字は文卿、醇庵と號す海州の人、月谷瑗の子なり、英祖丁卯に生れ壬辰に登科し兵曹判書を経て文衡を典る、正祖甲寅に歿し文靖と諡せらる

○ 拱白堂集

八卷三冊 黃德壹著 寫本

圖書番號 六六七

黃德壹の遺集にして弟德吉の蒐輯したるものなり、收むる所詩書雜著、序跋祭文哀辭行狀附錄等なり

黃德壹字は莘叟、拱白堂と號す昌原の人、巴麓汝者五代の孫なり、英祖戊辰に生れ正祖辛酉に歿す、順菴安鼎福の門下にして早歲より舉業を廢し學問に勤む著述あり

○ 泊翁詩鈔

九卷四冊 李明五著 印本

圖書番號 五〇八六

李明五の詩稿にして哲宗十年子東樊晚用の收集、刊行したるものなり

李明五字は士緯、泊翁と號す全州の人、雨念齋鳳煥の子なり、英祖庚子に生る家世世詩を以て聞ゆ、父雨念齋の冤獄に罹るを痛み藁を薦し衣を換へさ

ること數年、純祖の時に至り纔に冤を伸ふることを得始めて世に出て從事官として日本に隨往し歸りて蔭官となり老ひて三品に躋り憲宗丙申に歿す

○ 淵庵遺迹

三卷一冊 金若淵著 印本

圖書番號 四一六一

金若淵の詩文若干篇並に妻洪氏の死節本末、臨終告決書、行狀、旌門始末、旌門後記等を載す、光山の人、金相肅の批點せしものなり

金若淵字は淵淵、淵菴と號す淸風の人、夢梧鍾秀の子なり、英祖庚午に生れ甲午年二十五にして歿す、妻は南陽洪氏の女なり、夫に殉して死し閭に旌せらる

○ 華山集

六卷三冊 鄭奎漢著 印本

圖書番號 六六四四

鄭奎漢の詩文集にして長子秀麟の蒐輯したるものなり、收むる所詞賦詩書疏序記跋雜著箴銘頌策策上樑文祭文哀辭祝文行錄墓文傳附錄等にして純祖三十年庚寅に刊行す

鄭奎漢字は孟文華山は其の號なり長髻の人に
して寶文閣直提學天龍の後孫なり英祖辛未に生れ
正祖庚子に司馬に中り純祖甲申に歿す性潭文敬
公宋煥基の門に執贄して經傳に勵志し性理の諸
書を熟讀せざるなく同門の諸人推服す

○ 靜軒瀛海處坎錄 四卷二冊 趙貞喆著 印本

圖書番號 四四五二、二二〇八八

趙貞喆濟州謫居の時の詩を收む故に瀛海處坎錄
と云ふ純祖二十四年甲申自ら編し活字を以て印
出す

趙貞喆字は成卿靜軒と號す楊州の人參判榮順の
子なり英祖辛未に生れ乙未文科に登り正祖の初
濟州に竄せらる後官刑曹判書に至る

○ 知非軒詩稿 一冊 尹善大著 寫本

圖書番號 七三三八

尹善大の詩稿にして鄭仲藩の批評あり

尹善大字は仁之知非軒と號す坡平の人判書憲柱
の曾孫なり英祖癸酉に生れ正祖乙卯司馬に中り
蔭官に補せらる官縣監に止まり純祖の時に歿す

集部

○ 窮悟集 八卷四冊 任天常著 寫本

圖書番號 六六七三

任天常の詩文集にして詩序記、教書書銘、題跋、雜著
祭文、墓誌銘、墓表、遺事、行狀等を收む

任天常字は玄道窮悟と號す豐川の人遯窩守幹の
曾孫なり英祖甲戌に生れ正祖丁酉進士に中り甲
寅文科に登り官校理に止まる

○ 薑山初集 四卷一冊 李書九著 寫本

圖書番號 七四八八

李書九自編の詩集にして詩各體を收む初集と名
けたるは後集を期したるものなるへし

○ 足睡堂集 六卷三冊 洪仁謨著 印本

圖書番號 五五〇八、七一七一

洪仁謨の詩文集にして爽周之を編次し純祖甲申
の年刊行せしものなり載する所詩辭書叙雜著祭
文、經義等にして妻徐氏の令壽閣稿を附す

○ 廣瀨集 一三卷七冊 李野淳著 印本

圖書番號 三五四六

李野淳の詩文集にして收むる所辭、詩書雜著序記

跋、銘、上樛文、祝文、奉告文、誄、哀辭、祭文、墓文、行狀、遺事、傳及附録等なり

李野淳字は健之、廣瀬と號す、眞實の人、李退溪九世の孫なり、英祖乙亥に生れ、純祖己巳薦を以て參奉を授けられたるも、仕へず、壬午掌樂主簿を超授せられたるも、亦仕へず、辛卯に歿す

○ 一 戸遺稿

三卷二冊 金相日著 印本

圖書番號 四四二七

金相日の遺稿にして、子愬之を蒐輯し、哲宗癸丑孫在直之を刊行す、收むる所、詩、序、記、跋、說、箴、銘、祭文、雜著、附録等にして、子愬の小安齋遺稿を附す

金相日字は子山、一戸と號す、光山の人、沙溪六世の孫なり、英祖丙子に生れ、純祖壬子に歿す、子愬字は肅心、小安齋と號す、正祖癸卯に生れ、哲宗庚戌に歿す、父子儒門に出て、能く家學を繼述せり

○ 弦窩集

七卷四冊 尹東野著 印本

圖書番號 一一〇二八

尹東野の詩文集にして、收むる所、詩、書、序、記、跋、雜著、箴、銘、上樛文、祝文、家狀、墓表、哀詞、祭文、附録等なり、族

孫宅送等之を編輯し、炳恒等刊行す

尹東野字は聖郊、號は弦窩、坡平の人、碩老の子なり、英祖丁丑に生れ、純祖丁亥に歿す、文行を以て一郷に稱せられたるも、展施せず

○ 陶溪遺稿

四卷二冊 尹弘圭著 印本

圖書番號 五四二三

尹弘圭の遺稿にして、一巻は詩、二巻は書、三巻は誌、狀、雜著、四巻は附録にして、祭文を收む、李太王十年癸酉後孫の刊する所なり

尹弘圭初名は斗基、字は毅甫、號は陶溪、坡平の人、後村燈の後なり、英祖庚辰に生れ、正祖壬子、司馬に中り、丁巳經行を以て薦められ、庚申洗馬を拜し、官郡守に至り、純祖丙戌に歿す、學を家庭に承け、尤も朱子書に嫻へり

○ 歸恩堂集

一〇卷五冊 南公轍著 印本

圖書番號 五二八六

南公轍自編の詩文集にして、收むる所、詩、應製文、箋、議、啓、疏、劄、書、序、記、題、跋、雜著、祭文、碑、銘、墓、碣、墓誌、行狀、諡狀、年譜等なり、純祖甲午に刊行す

○金陵集 二四卷一二冊 南公轍著 印本

圖書番號 一六〇三、一六〇四

南公轍か自己の詩文各體を編次し生前に刊行せしものなり集中多く古書畫の題跋あり唐宋元明清に涉れり

○穎翁續稿 五卷二冊 南公轍著 印本

○穎翁再續稿 三卷一冊 南公轍著 印本

圖書番號 續稿 一七五七、三一〇五
再續稿 一七五八、三一〇四

南公轍の詩文續集にして亦生前純祖二十二年壬午の印行に係る續稿及再續稿共に自題の小引を附す前書收むる所詩、應製文、啓疏、筭議、序、記、跋、祭文、誌碣、墓表、諡狀等にして後書載する所詩、行錄、神道碑銘、誌碣、諡狀等にして後書載する所詩、應製文、啓疏、筭議、序、記、跋、祭文、誌碣、墓表、諡狀等なり

○晚村稿 一冊 朴宗喜著 寫本

圖書番號 四八九五

朴宗喜の文稿を編したるものにして書序、記、説論、雜著、祭文等を收む

朴宗喜字は汝受、晚村と號す、潘南の人、錦石、葦源の子にして純祖の時の人なり

○壽齋遺稿 八卷三冊 李崑秀著 印本

圖書番號 五二〇四、五五〇一、五五五一、六一四三、六

五三七、六七六〇、六七八七、六八二九、七〇四四、七六四八、七七二六

李崑秀の遺稿にして皆弱冠の作なり載する所詩、賦、表、箋、詔、制、詔、策、義、序、箴、銘、講、義等にして之を應製錄、恩課錄と稱す又聖語錄、公車錄及拾遺錄を並載し外に附録あり

李崑秀字は星瑞、壽齋と號す、延安の人、湖隱性源の子なり、英祖壬午に生れ、正祖壬寅庭試に擧けられ、奎章閣待教となりしも、纔に二十六歳にして丁未に歿す、壽齋は正祖の賜號なり

○老洲集 二六卷一三冊 吳熙常著 印本

圖書番號 一七七七

吳熙常の遺文を集めたるものにして子致成の蒐輯に係り、李太王壬辰曾孫俊泳之を刊行す收むる所疏、上書、書啓、達辭、議、書、祭文、告文、祝文、哀辭、序、記、跋、墓誌、墓銘、墓碣、墓表、碑行狀、諡狀、遺事、雜著、讀書隨記、雜識等なり

○海隱遺稿

三三卷一冊 姜必孝著 印本

圖書番號 四八四四、四八九二

姜必孝の遺稿にして歿後四十七年子孫及弟子等相謀りて刊行す收むる所詩疏書雜著箴銘贊序記跋祝文祭文墓碑碣誌銘行狀附錄等なり

姜必孝字は仲順海隱又法隱と號す晋州の人英祖甲申に生る嶺南安東郡に居り經學を講明して聲譽四方に聞ゆ純祖世子の時洗馬に徵せしも起らず益育英に勗め弟子日に進就す官敦寧都正に止まり憲宗戊申に歿す

○楓臯集

一六卷八冊 金祖淳著 印本

圖書番號 一七三六、二九四二、三〇九七、三九一三、三

九一四、四六四六、四八四三、四八八六

金祖淳の詩文集にして哲宗五年甲寅季子左根の鉸梓せしものなり哲宗の序あり詩疏筭奏啓應製文祭文書碑銘墓碣墓誌墓表行狀諡狀序記跋箴銘頌贊傳雜著等を載す

○冷泉遺稿

七卷三冊 朴宗輿著 印本

圖書番號 二八〇八、四三六七、五〇六五、五一八三、五

朴宗輿の遺稿にして收むる所詩書銘上樑文祈雨文祭文告文雜著言行錄遺事行蹟壙誌附錄等なり李太王光武二年戊戌曾孫定陽之を刊行す

朴宗輿字は元得號は冷泉潘南の人近齋胤源の子なり英祖丙戌に生れ純祖癸亥參奉を拜し官府使に至り乙亥に歿す李太王丁亥大司憲を追贈す

○石見樓詩鈔

二卷二冊 李復鉉著 印本

圖書番號 七〇一四、一一六六二

李復鉉の遺稿にして曾孫應寅の蒐輯せしものなり收むる所詩各體及上樑文一篇にして哲宗八年丁巳に刊行す

李復鉉字は見心石見樓と號す全州の人綾原大君備五世の孫なり英祖丁亥に生れ正祖丙午參奉を授けられ官僉知中樞府事に止まり哲宗癸丑に歿す詩を以て一代に推獎せらる

○雲谷文艸

一冊 李義發著 寫本

圖書番號 二二〇七五

李義發の文章にして應旨陳十條時務疏農政議郷

飲酒記、硯銘、墨銘等あり

李義發字は右文、雲谷と號す、永川の人、叅判民部六世の孫なり、英祖戊子に生れ、正祖乙卯文科に登り、抄啓文臣に選ばれ、哲宗庚戌に歿す、官刑曹判書に至り、諡して僖靖と云ふ

○警修堂全藁 八五卷一六冊 申緯著 寫本

圖書番號 四二二、六九三二

申緯の遺稿にして子命衍の蒐輯したるものなり、書名全藁と稱するも其の載する所唯詩のみなり、申緯字は漢叟、紫霞と號す、平山の人、叅判大升の子なり、英祖己丑に生れ、幼より神童の稱あり、十四歳未だ冠せざるに、正祖宮中に召し、文學に叅列するの寵榮を蒙れり、己未文科に登り、官都承旨を歴て、吏曹叅判に止まり、憲宗丁未に歿す、當時詩書、畫三絶の名あり、朝鮮開國以來詩稿の多き其の儔を見す、百年以後の詩人皆此を學ひ推して法門の初祖と爲す、又筆法、畫品俱に神境に入り、寸墨片紙も寶として世に傳へらる、別に焚餘錄四卷の著あり、子命衍、藹春と號す、亦三絶の譽あり

集部

○蘭菊齋集 四卷二冊 李禮煥著 印本

圖書番號 一五七二

李禮煥の詩文集にして、子基鏞の蒐集せしものなり、賦詩書附録等を收む

李禮煥字は致和、號は蘭菊齋、慶州の人、益齋賢の後孫なり、英祖壬寅に生れ、正祖丁酉に歿す、剛齋宋穉圭に從遊して、經明行、修道臣の剡薦あるも、一命の官を得ずして終る

○伽山藁 四卷一冊 釋戒悟著 印本

圖書番號 六五九四

僧戒悟の遺稿にして、徒弟喜謙の收集したるものなり、收むる所詩、祝文、讀書記、序、上樑文、碑銘等にして、哲宗四年癸丑に刊行す

戒悟俗姓は權、安東の人、慕賢の子なり、十一歳の時、慶州八公山に入り、髮を祝して僧となり、字を鵬舉、號を月荷と云ふ、正祖癸巳に生れ、伽智山に居りしを以て遺稿を伽山藁と稱す

○好古窩文集 二九卷一五冊

柳徽文著 印本

六四一

集部

書番號 三二四

柳微文の詩文集にして原集十九卷には詩書序記、謬誤證錄、辭狀、祝文、祭文、墓誌、行狀、雜著等を收め別集八卷には雜著を收め附録二卷あり原集は李太王三十三年丙申に刊行し別集は光武二年戊戌に刊行す

柳微文字は公晦、好古、窩と號す全州の人大諫、正源の孫なり英祖癸巳に生れ純祖庚寅原陵參奉を拜し壬辰に歿す文章學問を以て嶠南に格名を負ひしも官一命に止まる

○淵泉集 四四卷二〇冊 洪奭周著 寫本

圖書番號 二二四二〇

洪奭周の詩文集にして外孫韓章錫の蒐輯せしものなり收むる所賦、歌、操、詩、疏、簡、啓、議、箋、應、製、文、應、試、文、故、事、抄、啓、故、寔、書、尺、牘、序、記、傳、題、跋、頌、箴、銘、贊、上、樑、文、進、香、文、祭、文、哀、辭、雜、著、碑、銘、墓、碣、銘、墓、誌、銘、墓、表、行、狀、諡、狀、家、狀、讀、易、雜、記、春、秋、備、考、傳、重、服、斬、考、詩、書、問、答、訂、老、家、言、及、附、編、に、し、て、首、に、散、書、目、録、と、題、し、永、嘉、三、恬、集、三、卷、續、史、略、翼、箋、二、十、一、卷、象、藝、蒼、粹、四、卷、

六四二

福壽双會二卷等四部の既刊書と尙書補遺十卷戴記志疑八卷、鶴岡散軍八卷、東以世家四卷、洪氏讀書錄二卷、記里經一卷、易說一卷、載載錄十三卷、北行錄二卷等九部の未刊書及三漢名臣錄前集十五卷、後集十八卷、續集二卷、諸子精言七卷、明文選二十卷、擬古詩集一卷、大東文雋元史略十三卷、省道里圖、東國八路程塗圖等八部の佚書の畧解を載せり

○耘石外史 二二卷一一冊 洪敬謨著 寫本

圖書番號 六九九六

洪敬謨の詩文集にして前編十八卷には風騷辭賦、耳溪岩棗志、西京有發書帖、竹院問趣、雜體尺牘、序記、題後、告文、祭文、哀辭、墓誌、上樑文、儷文、雜著及志を收め後編四卷には榴窓代話、雜體記等を收む清人紀樹巖、陸慶頤等の序あり

○初菴全集 一四卷七冊 金憲基著 印本

圖書番號 四四〇三

金憲基の遺稿全集にして子中錫及門人等の蒐輯したるものなり收むる所詩書、雜著、序記、跋、銘、贊、字辭、婚書、祝文、祭文、墓誌、銘、墓表、墓碣、行狀、遺事、言行錄、傳、

附録等にして李太王辛巳金澤榮等之を刊行す
金憲基字は程度初庵と號す熊川の人佐郎就行の
子なり英祖甲午に生れ憲宗己亥教官を授けられ
たるも仕へず壬寅に歿す哲宗己未承旨を贈られ
開城男山祠に享す

○ 臺山集 二〇卷一〇冊 金邁淳著 印本

圖書番號 四八三九、四八四〇

金邁淳の詩文集にして賦詩疏筭啓辭書序記跋雜
著誌銘表碑行狀祭文等十二卷家史二卷及闕餘散
筆六卷あり李太王十六年子善根活字を以て印行
す

金邁淳字は德叟臺山と號す安東の人三淵昌翁の
玄孫なり英祖丙申に生れ正祖乙卯に登科し抄啓
文臣に選せられ官叅判に至る李太王の時族孫炳
學相となり臺山斯文扶翼の功を上聞し上卿を贈
られ諡して文清と云ふ

○ 百弗菴集 八卷四冊 崔興遠著 印本

圖書番號 四二八九

崔興遠の詩文集にして收むる所詩狀書雜著箴銘

集 部

祝文祭文碑碣行狀等なり

崔興遠字は太初又汝昌百弗庵と號す慶州の人な
り隱居篤學世呼んで漆溪先生と稱す正祖戊戌莊
陵叅奉に除し壬寅掌樂主簿となり臣子冊封の際
左翊贊となり孝行を以て閭に旌す

○ 頤齋遺稿 二六卷一三冊 黃胤錫著 印本

圖書番號 四一五四

黃胤錫の遺稿にして純祖二十九年己丑孫秀瓊繁
を刪し要を選ひ劄記に付したるものなり收むる
所辭賦詩書序說跋銘箴疏婚書上樛文祝祭文哀辭
諸碣狀啓及雜著等にして雜著中には深衣會通新
制婦人紺頭制度說孔子生卒弁證斛石說錢貨輕重
說華音方言字義解字母弁國朝葬禮補篇後本尺圖
說等なり
黃胤錫字は永叟頤齋又越松外史と號す英祖の時
に生る醉隱世基の孫にして正祖の時の儒者なり
少にして漆湖金元行の門に入り詩文を以て知ら
る

○ 點菴集 三卷一冊 釋寂叡著 印本

六四三

集部

六四四

圖書番號 七八三二

釋寂訥の詩文集にして純祖初年辛酉弟子教萍の萬輯刊行したるものなり詩書疏論引序等を收む釋寂訥字は耳食默庵と號す密陽の人にして興陽に世居す年十四にして出家し戒を澄光寺の萬里大師に受け經を曹溪の楓岩和尚に承け禪は明眞大師に參す正宗庚戌に示寂す

○竹下集

圖書番號 三三六〇

四卷四冊 金時和著 印本

金時和か自己の詩文を編輯したるものにして收むる所詩記序回文雜著行狀上樑文傳説等なり哲宗四年癸丑孫漢永之を刊行す

金時和竹下と號す江陵の人勉實齋一字の玄孫なり武科を以て官府使に止まる

○李參奉集

圖書番號 三四五一、四三四九、五一八四

四卷二冊 李匡呂著 印本

李匡呂の遺稿を集めたるものにして純祖五年乙丑に刊行す載する所詩各體及雜著等なり

李匡呂字は聖載月巖と號す全州の人にして西潤

眞洙の子なり英祖の時に生れ文章學問悉く家庭に受け士林の冠たり文獻公李晚秀文集に叙して云ふ國朝三百年の文教を受けて李參奉先生を生むと其の門人にして成就したる者甚衆く宛丘申大羽最も典型を得たり

○悅菴集

圖書番號 四三五八

五卷三冊 夏時贊著 印本

夏時贊の詩文集にして從孫正益等之を編校し憲宗二年丙申に刊行す收むる所詩書記序跋雜著祭文哀辭上樑文行錄等なり

夏時贊は悅庵と號す英祖庚午に生る大邱の人大都督欽の後なり

○俛菴集

圖書番號 三九三二

一四卷七冊 李塢著 印本

李塢の詩文集にして詩書雜著說序記跋上樑文告由文祭文碑碣墓誌行狀等を收め別錄二卷は正祖十六年壬子英祖壬午の事變に付き討逆の義を以て上疏し純祖六年丙寅流配せられたる顛末並に其の日記等なり

李瑀號を俛庵と稱す韓山の人大山象靖の姪なり
正祖壬子叅奉を授けらる父叔の經學に濡染し文
行を以て一時嶺下に推言せらる

○三留齋遺稿

一冊 金義行著 寫本

圖書番號 六三三六

金義行の詩文未定稿にして詩書墓誌祭文雜著等
あり

金義行は三留齋と號す金海の人同知中樞事順侃
の子にして正祖の時の人なり外閣官赦文差使等
を歷たり

○梅山集

五三卷二八冊 洪直弼著 印本

圖書番號 四八二六

洪直弼の遺稿にして李太王三年丙寅の印行に係
り賦詩疏啓議書雜著序記跋銘箴贊箋祝詞婚書祭
文哀辭誌狀遺事傳雜錄年譜寺を收む

洪直弼字は伯應、梅山と號す南陽の人なり正祖丁
酉に生れ少時業を近齋朴胤源及老洲吳熙常等に
受け學を露梁の江畔に講せしか甲戌翊衛司洗馬
に叙せられ經筵官祭酒を歷て刑曹判書となり哲

集部

宗壬子に歿す諡して文敬と云ふ

○襟溪集

八卷六冊 李鳳秀著 寫本

圖書番號 二四〇三

李鳳秀の詩文集にして第一卷には詩五十餘首二
卷、三卷は皆往復書なり四卷より六卷に至るは序
記誌狀及雜著にして別集を上下に分ち往復書を
收む哲宗八年丁巳に其の子勉愚か友人任翼常に
請ひ校正を經たるも未だ定本に至らず

李鳳秀字は子岡、襟溪と號す延安の人判書始源の
子なり正祖戊戌に生れ純祖乙丑司馬に中り癸酉
洗馬を拜し官掌樂正に至り憲宗の時に歿す

○重山齋集

八卷四冊 李趾秀著 印本

圖書番號 五五七四

李趾秀の詩文集にして第一卷は詩第二卷は疏筭
筵說第三、四卷は各體文第五卷は雜著第六、七卷は
祭文誌狀八卷は附録なり哲宗九年戊午活字を以
て刊出す

李趾秀字は季麟、重山齋と號す延安の人玄洲昭漢
の後なり正祖己亥に生れ純祖己巳司馬に中り癸

西文科に登り官承旨に至り憲宗壬寅に歿す

○活水翁遺稿 四卷二冊 尹大淳著 印本

圖書番號 四五三七

尹大淳の遺稿にして鳳柱の蒐輯せしものなり收むる所詩書祭文墓道文雜著功令文附録等にして李太王壬午に刊行す

尹大淳字は子輝活水翁と號す坡平の人節制使汝莘六世の孫なり正祖己亥に生れ憲宗丙申薦を以て智陵參奉を授けられ官僉知中樞府事に止まり李太王乙丑に歿す乙亥吏曹參判を贈らる關北に住し學行を以て一郷の師表たり

○畏窩集

一四卷七冊 崔琳著 印本

圖書番號 四四三二

崔琳の遺稿にして孫世顯の蒐輯せしものなり收むる所詩哀辭書序記跋箋上樑文祭文雜著附録等にして李太王己亥曾孫任壽之を刊行す

崔琳字は贊夫畏窩と號す慶州の人貞武公震立六世の孫なり正祖己亥に生れ憲宗庚子道臣の薦を以て繕工監役に除せられしも仕へず辛丑に歿す

剛齋宋穉圭の門下にして經學行義を以て稱せらる

○花谷逸稿

一冊 柳鼎漢著 印本

圖書番號 六一八〇

柳鼎漢の遺稿にして從孫在浩之を蒐輯し李太王庚辰に刊行す收むる所詩書雜著若干篇にして尾に行狀を附す

柳鼎漢字は聚汝花谷と號す瑞山の人東村帶春七世の孫なり正祖庚子に生れ憲宗戊戌に歿す性潭宋煥箕の門下にして經學孝行あり

○屯塢集

一卷五冊 林宗七著 印本

圖書番號 四一四七

林宗七の遺稿にして李太王九年門人金璣衡等哀集刊行す詩書序記跋墓文行狀雜著雜記日籍行事行狀誌碣等を收む

林宗七字は來卿屯塢と號す吉州に住せり正祖辛丑に生る關北の地嘗て松巖李載亨あり農巖金昌協の學を得て之を龜巖李元培に傳へ龜巖は之を屯塢に傳ふ屯塢憲宗の時薦を以て參奉主簿を授

けられ子翊曾て侍従たるを以て通政に恩陞せられしも就かず哲宗戊午に歿す

○雲石遺稿 二〇卷一〇冊 趙寅永著 印本

圖書番號 四六五三、四六五四、五一七五

趙寅永の遺稿にして嗣子秉夔之を蒐輯したるも淨寫未だ成らずして歿す因りて寅永の女婿金學性之を整理し孫寧夏李太王五年に刊出す收むる所詩疏笈啓奏議序記跋雜著應製文箋文上樛文祭文碑銘墓碣墓表誌文行狀家狀諡狀等なり

○鋤漁遺稿 三卷三冊 金鼎均著 寫本

圖書番號 二八

著者の遺稿にして載する所詩序墓誌記狀箋上樛文祭文笈文祝文賀箋進香文傳疏文經筵文義啓行狀等なり

金鼎均字は台叟鋤漁と號す安東の人仙源尙容十世の孫なり正祖壬寅に生れ純祖癸酉司馬に中り庚辰文科に魁し憲宗丁未に歿す官大司憲に至る

○靜修齋遺稿 四卷二冊 金應夏著 印本

圖書番號 四五五八、一一〇九六

集部

金應夏の遺稿にして子日炯蒐輯し李太王十五年

戊寅孫奎書之を刊行す載する所詩書序記跋說贊雜著祭文經義問答等なり

金應夏字は時卿靜修齋と號す清道の人なり正祖癸卯に生れ純祖乙丑進士に中り庚寅に歿す子日炯亦能文なり

○原泉稿 三冊 李驥秀著 寫本

圖書番號 一一六四三

李驥秀の遺稿にして雜文及時若干篇と平生の寒暄書札等を蒐輯す

李驥秀字は子塾原泉と號す延安の人心齋太原の子なり正祖癸卯に生れ純祖乙丑進士に中り己巳文科に登り官文學に至り丙子に歿す

○經山集 二三卷一一冊 鄭元容著 印本

圖書番號 一七五六

鄭元容の詩文集にして李太王三十三年丙申孫範朝編刊す收むる所賦詩疏笈奏啓議狀應製文上樛文書序記跋祭文雜著誌狀等なり

○果齋集 八卷四冊 成近默著 印本

六四七

集部

圖書番號 四二八〇

成近默の遺稿にして孫斗鎬の蒐輯せしものなり
收むる所辭詩疏啓收議書雜著序記跋祝告文祭文
墓誌銘墓碣銘行狀事實遺事等にして李太王癸未
の刊行に係る

成近默字は聖思果齋と號す昌寧の人縣令鼎柱の
子なり正祖甲辰に生れ純祖甲子進士に中り壬申
蔭仕を以て北部都事を拜し府使を歴て憲宗戊戌
に抄選せられ經筵官を拜し官刑曹叅議に止まり
哲宗壬子に歿す吏曹判書を贈られ諡を文敬と云
ふ牛溪成渾の後孫にして家學を承け學問行義近
世の醇儒と稱せらる

○阮堂集

五卷五冊 金正喜著 寫本

圖書番號 四九〇六、五三一

金正喜の詩文集にして南相吉、閔奎鎬二人の刪定
したるものなり文二卷尺牘一卷問答一卷詩一卷
あり文は疏書問答序記祭文上樛文攷辨說銘書後
等にして李太王五年戊辰に刊行す

○晚義集

一三卷六冊 梁進永著 印本

六四八

圖書番號 三六六八

梁進永の遺稿にして從曾孫在慶の蒐輯せしもの
なり收むる所賦辭詩疏書雜著序記跋箴銘頌制誥
贊上樛文祝文祭文傳論隨錄附錄等にして李太王
乙未に刊行す

梁進永字は景遠、晚義と號す濟州の人酒隱居正の
玄孫なり正祖戊申に生れ哲宗己未進士に中り庚
申に歿す蓋し挽近百年の間全羅に於て經學文章
蘆沙、奇正鎮に亞く者獨り梁晚義あるのみ而も舉
業を廢し又遺逸を以て薦められす一進士に終る

○錦谷集

一八卷一〇冊 宋來熙著 印本

圖書番號 五八五

宋來熙の詩文集にして詩疏啓議書雜著序記跋祭
祝文碑誌狀傳等を收め末に年譜及家狀を附す隆
熙元年丁未孫鍾奎の活印する所なり

宋來熙字は子七、錦谷と號す恩津の人同春浚吉の
後なり正祖辛亥に生れ憲宗乙未蔭仕に入り戊戌
經筵官に選ばれ官工曹判書に至り李太王丁卯に
歿す

○ 温裕齋集 六卷 三冊 尹鍾燮著 印本

圖書番號 四四五〇

尹鍾燮の詩文集にして詩文經義、雜識、行狀、傳、祭文等を哀輯せり太王十六年己卯門人金性翼之を刊行す

尹鍾燮字は陽伯號は温裕齋坡平の人處士德祚の子なり正祖辛亥に生れ憲宗丁酉文行に薦し泰奉を授けられ官通政に至り李太王庚午に歿す梅山洪直弼に就學し關北の望士と稱せらる

○ 月浦集 四卷 二冊 李佑贊著 印本

圖書番號 一六四五

李佑贊の詩文集にして收むる所詩書序記跋上樑文奉安文祭文雜著墓碣銘行狀行錄遺事附錄等なり李太王三年丙寅孫道郁之を刊行す

李佑贊字は禹爾號は月浦星州の人永嘉堂胤の孫なり正祖壬子に生れ純祖壬午進士に中り哲宗乙卯に歿す

○ 凝窩集 二二卷 一二冊 李源祚著 印本

圖書番號 五四一六

集部

李源祚の詩文集にして第一、二、三卷は詩第四卷は

賦箋銘第五、六卷は疏箋第七、八、九、十卷は書牘第十一、十二卷は雜著第十三卷より十六卷は序記跋第十七卷より二十二卷は祭誄誌狀等なり

李源祚字は周賢凝窩と號す星山の人正言奎鎮の子なり正祖壬子に生れ純祖己巳文科に登り官判書に至り李太王己巳文科回榜に入り辛未に歿す諡を定憲と云ふ

○ 又玄齋詩鈔 一冊 安晋錫著 印本

圖書番號 七二四一

安晋錫の詩稿にして子鴻述之を蒐輯し李太王八年辛未に刊行す

安晋錫字は孝升又玄齋と號す順興の人五衛將時喆の子なり正祖癸丑に生れ哲宗己未に歿す門地寒微なりしも文學に勤め名あり

○ 思窩集 四卷 二冊 柳宜貞著 印本

圖書番號 五五六〇

柳宜貞の詩文集にして詩書劄書序記跋雜著祭文墓表年譜附錄等を收め李太王の時孫稔秀之を編

六四九

次刊行す

柳宜貞字は元用、思窩と號す、晋州の人、密直使、藩の後なり、正祖甲寅に生れ、純祖壬午文科に登り、官校理に至り、哲宗辛酉に歿す、憲宗の時直疏を呈し、慶興に竄せらる

○ 薊隱集

六卷三冊 李章贊著 印本

圖書番號 一七七六

李章贊の詩文集にして、收むる所詩、辭、傳、箴、銘、跋、論、說、序、記、易學源流、大學經義、書祭文、祝文、行狀、上、契文、雜著、疏、箋、及附録等なり、子承赫之を校正し、光武元年丁酉に刊行す

李章贊字は襄叔、薊隱と號す、韓山の人、硯西若采の子なり、正祖甲寅に生れ、哲宗庚申に歿す

○ 蓮士遺稿

七卷二冊 李祖憲著 印本

圖書番號 二二四二七

李祖憲の遺稿にして、詩書牘序、記、識、狀、祭文、雜著、墓文等あり、附録に言行録を收む、金學性之を校讐し、光武四年庚子孫命坤之を印行す

李祖憲字は繡卿、蓮士と號す、貫は河濱にして、進士

秉衡の子なり、正祖丙辰に生れ、憲宗丙午進士に中る

○ 德隱遺稿

三卷一冊 朴雲壽著 印本

六七六

圖書番號 二八一〇、五二五八、五四七〇、五五八三、六

朴雲壽の遺稿にして、第一卷は詩、第二卷は書、序、記、祭文、告文、祈雨文、及行録、第三卷は附録なり、李太王三十一年甲午孫定陽之を刊行す

朴雲壽字は景龍、德隱は其の號にして、近齋胤源の孫なり、正祖丁巳に生れ、純祖壬午泰陵參奉に入仕し、憲宗辛丑に歿す、官順興府使に至る

○ 勉菴集

五卷二冊 安英老著 印本

圖書番號 三四七八

安英老の詩文集にして、子銓之を蒐輯し、李太王庚子之を刊行す、收むる所詩、辭、書、序、記、論、通文、箴、銘、贊、說、跋、祝文、祭文、行狀、附録等なり

安英老字は晦叟、勉菴と號す、耽津の人、觀瀾齋處信の子なり、正祖丁巳に生れ、憲宗丙午に歿す、六世七孝の家聲を繼ぎ、學行を以て聞ゆ

○碧蘆齋集 四卷二冊 金進洙著 寫本

圖書番號 六一五一

金進洙燕京遊歴の時人物風俗及景色を賞咏せしものにして古今の事蹟を援據すること縦横該博なり前集後集續集別集に分ち概ね燕京雜詠のみを録せり

金進洙字は稚高連坡又碧蘆齋と號す慶州の人なり正祖丁巳に生る平生作る所の詩文十餘冊あり連坡集と稱す

○農廬集 一〇卷五冊 姜献奎著 印本

圖書番號 三〇一四

姜献奎の詩文集にして子婦の勲輯せしものなり賦詩書雜著序記跋祭文上樛文京表墓誌行狀家狀傳附録等を收む李太王三十二年乙未之を刊行す姜献奎字は景受號は守素齋又農廬と稱す晋州の人海隱必孝の子にして系は大諫必魯より出つ正祖丁巳に生れ純祖壬午進士に中り庚申に歿す海隱の肖子にして克く家學を承け著述贍富なるも竟に布衣を以て終る

集部

○性齋續集 一二卷六冊 許傳著 印本

圖書番號 二二〇九

著者の門人朴致馥等か五道の士林と協同して編刊したるものなり原集及續集六卷あり詩疏書雜著序記跋銘箋上樛文祝文致祭文墓碣行狀遺事傳等を收め附録六卷に世系圖師訓年譜諡狀論書賜祭文挽章言行總錄等を收む李太王二十七年庚寅之を刊行す

○蘆沙集 二二卷一〇冊 奇正鎮著 印本

圖書番號 六八四九

奇正鎮の詩文集にして詩疏書雜著序記跋箋辭上樛文祝文祭文碑墓碣銘墓誌銘京表行狀傳遺事等を收む

奇正鎮字は大中蘆沙と號す幸州の人高峯大升十代の孫なり正祖戊午に生れ純祖辛卯進士に魁し壬辰參本を授けられ遺逸を以て官戸曹參判に至る

○肅齋集 二六卷一三冊 趙秉憲著 印本

圖書番號 五五二〇

六五一

趙秉憲の詩文集にして諸子及門人等之を編次し
 李太王三十一年甲午之を刊行す載する所詩疏書
 啓議書雜著序記跋祝祭文碑碣誌狀行錄傳等なり
 趙秉憲字は孺文肅齋と號す楊州の人判書榮進の
 玄孫なり正祖庚申に生れ哲宗壬子蔭官に補せら
 れたるも仕へず遺逸に薦められ官戸曹參判に至
 り李太王庚午に歿す諡を文敬と云ふ嘗て老洲吳
 熙常梅山洪直弼に従遊し學行あり

○紫閣漫稿

一冊 任百經著 寫本

圖書番號 五四二八

任百經の疏章箋表應製詩等を收録したるものな
 り其の居紫閣山下に在りしを以て紫閣漫稿と云
 ふ

任百經字は文卿號は荷漪豊川の人疏庵叔英の後
 なり正祖庚申に生れ純祖丁亥文科に登り文任を
 經て官右議政に至り李太王甲子に歿す諡を文貞
 と云ふ

○夢觀詩稿

三卷一冊 李廷柱著 印本

圖書番號 七〇三三

李廷柱の詩稿にして從姪商建の訂選したるもの
 なり哲宗十年己未に刊行す

李廷柱字は石老夢觀と號す牛峯の人なり

○景莽居士詩藁

二卷一冊 金周鉉著 印本

圖書番號 四三九一

金周鉉の詩各體二百四十餘首を收む弟曾鉉之を
 蒐輯し李太王十六年己卯子永穆之を刊行す
 金周鉉字は洛元景庵と號す光山の人韋菴相岳の
 曾孫にして純祖の時の人なり

○邵亭稿

六卷三冊 金永爵著 印本

圖書番號 四四七〇、四四七一、四四七二、四四七三、四

四七四、四四七五、五三二九、五五三七、六五二三

詩稿二卷文稿四卷より成れり詩は古今體にして
 文は疏議書序記跋雜著祭文墓誌行錄經筵講義等
 なり李太王二十九年子弘集之を編輯し墓表を附
 し活字を以て印行す

金永爵字は德叟邵亭と號す慶州の人壽谷柱臣の
 玄孫なり純祖壬戌に生る憲宗の時蔭官を以て登
 利し文任を經て官吏曹參判に至る清人雨帆李伯

衡仰亭作る所の貨喻篇を見て寄するに詩を以てし交を萬里に結ふと云ふ後副使を以て清に往き文境更に進めり詩稿の序は清人張午橋の撰なり李太王戊辰に歿す

○ 晦亭集 八卷五冊 閔在南著 印本

圖書番號 二二〇五

閔在南の詩文集にして收むる所辭賦詩書記序跋論說雜著上標文祭文箴銘哀辭行狀墓碣銘墓表碑陰記附録等なり

閔在南字は謙吾晦亭と號す驪興の人竹齋禎坤の曾孫なり純祖壬戌に生れ李太王丁卯御史の薦に因り獻陵參奉に除授せられしも就かす其の年に歿す

○ 休穀齋遺稿 三卷二冊 金鼎大著 印本

圖書番號 七〇九四

金鼎大の遺稿にして孫斗南蒐輯したるものなり收むる所詩書序記傳說墓誌祭文雜識等にして尾に行狀を附し李太王二十三年丙戌之を刊行す金鼎大字は啓重、休穀齋と號す光山の人寺正孝宗

集部

の後なり純祖壬戌に生れ李太王甲戌に歿す

○ 透山稿 三冊 李承元著 寫本

圖書番號 五三〇二

李承元の詩集にして憲宗十三年丁未子東植之を收拾編次し諸人の挽詞祭文を附せり

李承元字は公一號は透山韓山の人丹陵胤永の曾孫なり純祖癸亥に生れ辛卯司馬に中り官參奉に止まり憲宗の時に歿す

○ 思誦堂集 二四卷四冊 李尙迪著 印本

圖書番號 七七二三

李尙迪自編の詩文集にして正續二篇に別つ收むる所詩賦序記啓書後墓誌傳銘等なり憲宗十三年丁未に上刊す

李尙迪字は惠吉藕船と號す牛峯の人なり純祖甲子に生れ陰仕を以て溫陽郡守となり知中樞府事に至り李太王乙丑に歿す世世象譯の家にして文名あり十二回清に遊ひ清人と唱酬す憲宗召して其の詩を口誦したるため集に冠するに思誦の二字を以てせり

六五三

○ 箕谷集

三卷一冊 鄭宗憲著 印本

圖書番號 二二〇六一

鄭宗憲の詩文集にして第一卷は詩第二卷は銘開居雜錄第三卷は附錄なり大正元年孫圭興之を刊行す

鄭宗憲字は應膺箕谷と號す東萊の人雪琴齋矩の後孫なり純祖甲子に生れ林燮に讀書せしか李太王戊寅に歿す

○ 天游集古

二卷一冊 朴文達著 印本

圖書番號 二二四二八

朴文達の詩集にして作る所多く古人詩中の句を取れり大正七年崔文鎬之を編輯して印行す
朴文達字は霽鴻天游又は雲巢子と號す貫は淳昌にして純祖乙丑に生れ李太王丁亥文科に登り官兵曹參議に至り光武二年戊戌に歿す

○ 對山集

四卷二冊 姜澗著 印本

圖書番號 五八〇八

姜澗の詩稿にして李太王五年子龜秀及鴻秀之を哀輯し活字を以て印行せるものなり

○ 獻齋集

一一卷五冊 朴珪壽著 印本

圖書番號 六九三四

姜澗字は逸汝對山と號す晉州の人豹庵世晃の曾孫なり純祖丁卯に生る憲宗の時奎章閣檢書官を拜し官安峽縣監に止まる曾祖豹庵の餘韻を襲き詩書畫を能くし時人三絶と稱す詩は最も其の長する所なり哲宗戊午に歿す

朴珪壽の詩文集にして載する所詩雜著序祭文誌狀奏疏咨文書啓書牘雜文等なり金允植之を編輯し大正三年に刊行す

○ 皎亭詩集

五卷二冊 玄鎰著 印本

圖書番號 七七一五

玄鎰の詩集にして澗館收草楸合雜詠圻北游草日下詩存の四篇に分つ子濟普之を校し孫燮之を編し光武十年丙午に刊行す
玄鎰字は萬汝皎亭と號す延州の人知中樞府事在明の子なり純祖丁卯に生れ俗仕を以て漣川郡守を歴て官知中樞府事に止まり李太王十三年丙子に歿す

○石世遺稿 三卷一冊 金鼎集著 印本

圖書番號 六六七〇

金鼎集の遺稿にして子石菱昌熙の蒐輯せしものなり詩疏教令祭文進香文箋文上樛文墓表家傳等を收め光武三年己亥孫教獻之を刊行す

金鼎集字は九如石世と號す慶州の人敬獻公思穆の孫なり純祖戊辰に生れ乙酉生員に中り丁亥文科に登り翰林侍教首閣を歴て官禮曹判書に至り哲宗己未に歿す諡を文貞と云ふ子昌熙文を善くす

○雲臯集 五卷二冊 金在埭著 印本

圖書番號 五四一七

金在埭の詩文集にして詩書序記箴銘說雜著祭文哀誄傳行錄墓碣等あり從孫瑤吳之を哀收編輯し光武三年己亥に刊行す

金在埭字は宇洪號は雲臯金海の人贈參判堉の子なり純祖戊辰に生れ李太王三十年癸巳に歿す

○夢關集 四卷二冊 崔惟允著 印本

圖書番號 四三五〇

集部

崔惟允の詩文集にして子鏞翰之を蒐輯す收むる所詩書序記雜著附錄等にして光武六年壬寅之を刊行す

崔惟允字は誠進夢關と號す慶州の人副諫軍應斗の女孫なり純祖己巳に生れ李太王十四年丁丑に歿す

○鼓山集 二四卷一二冊 任憲晦著 印本

圖書番號 四四七六、一一四十四

任憲晦の詩文集にして原集二十卷に賦詞詩詩餘疏啓書牒著序記題跋銘贊婚書上樛文告祝祭文神道碑墓碣墓誌墓表諡狀行狀遺事語錄傳等を收め續集四卷に詩疏書雜著序記跋箴銘贊祭文墓文狀傳等を收む門人田愚之を編刊す

任憲晦字は明老鼓山と號す豐川の人龔翁泰春の孫なり純祖辛未に生れ遺逸を以て官吏曹參判に至り李太王十三年丙子に歿す諡を文敬と云ふ

○橘隱齋集 四卷二冊 金瀏著 印本

圖書番號 一一四六五

金瀏の詩文集にして第一二卷は詩第三四卷は雜

六五五

著序記、跋、銘、祭文、家行録及附録等なり。光武五年辛丑族孫道熙及朴泳漢、金志一等之を刊行す。

金瀏字は士亮、橘隱と號す。慶州の人。海上老樵志權の子なり。純祖甲戌に生れ、李太王二十一年甲申に歿す。嘗て蘆沙奇正鎮に師事し、科業を廢し、實學を修む。

○斗南詩選

四卷二冊 趙寅奎著 印本

圖書番號 五三三

趙寅奎自編の詩集にして、李太王十八年辛巳門人金錫九之を刊行す。

趙寅奎字は伯三、斗南と號す。咸安の人なり。純祖甲戌に生る。

○仁山集

一七卷八冊 蘇輝冕著 印本

圖書番號 四四二九

蘇輝冕の遺稿にして、孫鎮衡、鎮恒及門人權憲洙等の蒐輯せしものなり。收むる所、詩、雜著序、記、題說、銘、婚書、告祝祭文、碑、墓碣、銘、墓表、行狀、行録、傳、附録等あり。

蘇輝冕字は純汝、仁山と號す。晋州の人。月洲斗山七

世の孫なり。純祖甲戌に生れ、李太王十八年辛巳遺逸を以て薦められ、繕工監役を拜し、全羅都事を歴て、官持平に止まり、己丑に歿す。洪直弼に師事し、經學に深し。

○圭齋遺稿

六卷三冊 南秉哲著 印本

圖書番號 四一五五、四一九四

南秉哲の遺稿にして、李太王元年弟秉吉之を蒐集、印刊す。詩、疏、啓、議、應製文、祭文、碑、銘、序、記、跋、書、後、銘、說等を收む。

○櫟菴遺稿

一二卷六冊 姜晋奎著 寫本

圖書番號 一九六八

姜晋奎の遺稿にして、詩、書、祭文、哀辭、序、記、說、論、疏、策、私議、遺事、家訓、雜著等を收む。

姜晋奎字は晋五、櫟菴と號す。晋州の人。松西樓の孫なり。純祖丁丑に生れ、憲宗乙巳文科に登り、官禮曹參判に至る。文學富贍にして、行義正直、曾て奇禍に罹りて、海島に流さる。

○敬菴遺稿

四卷二冊 朴齊近著 印本

圖書番號 二八〇九、四三六六、五一八二、五五八四、六

朴齊近の遺稿にして詩書序記論策箋上樑文祭文告文及行録等あり附録に祭文家狀墓誌銘墓表年譜を收む李太王三十二年乙未子定陽按編して活印に付す

朴齊近字は淑道敬菴と號す潘南の人にして近齋胤源の曾孫なり純祖己卯宗戚執事を拜し官牧使に至り李太王乙酉に歿す

○ 晤堂集 二四卷一二冊 李象秀著 印本

圖書番號 三二二三

李象秀の詩文集にして載する所賦詩書疏啓序記跋論說雜著銘箴贊婚書上樑文祭文哀辭神道碑銘墓表墓碣銘墓誌銘行狀傳等なり光武四年庚子門人尹秉綬等之を刊行す

李象秀字は汝人晤堂と號す全州の人にして同異堂惕然の後なり純祖庚辰に生まれ哲宗己未司馬に中り李太王己卯に假監役を拜し同壬午に歿す官經筵官に至り諡を文簡と云ふ

○ 小石遺稿 二卷一冊 趙秉夔著 印本

集部

圖書番號 四三〇九

趙秉夔の遺稿にして子寧夏之を蒐輯す收むる所詩疏箋文記序祭文等にして李太王五年戊辰に刊行す

趙秉夔字は景岄小石と號す豐壤の人雲石眞永の子なり純祖辛巳に生れ憲宗乙巳文科に登り副提學を歴て官兵曹判書に至り哲宗戊午に歿す諡を孝獻と云ふ

○ 冬郎集 三卷一冊 韓致元著 印本

圖書番號 四五三六

韓致元の遺稿にして子鎮昌の蒐輯せしものなり收むる所詩序論啓記上樑文教書祭文進香文進箋疏等にして光武三年己亥に刊行す

韓致元初名は致堯字は冬郎字を以て號と爲す清州の人叅判益相の子なり純祖辛巳に生れ武科を以て官龍驤衛副護軍に止まり李太王十八年辛巳に歿す一代の文名あり又時に工なり

○ 蓉山私藁 二卷二冊 鄭健朝著 寫本

圖書番號 一六五八

箋、鄭健朝の疏、簡筵、說啓、儀文、儀上、樑文、序、教書、教旨、文、祝文、祭文、進香文等を編次したるものなり

鄭健朝字は致中、容山と號す、東萊の人、竹下基一の子なり、純祖癸未に生れ、憲宗戊申文科に登り、奎閣直閣を歴て、官吏曹判書に至り、李太王の時に歿す

○ 綱堂集

四卷二冊 徐應淳著 印本

圖書番號 六九三三

徐應淳の詩文集にして、大正三年友人金允植之を編輯、印行す、收むる所、詩、書、序、記、跋、策、論、雜著、吊祭文、狀、誌等あり、行狀及墓誌を附録とす

徐應淳字は汝心、綱堂は其の號なり、大丘の人、達城府院君宗悌の後なり、純祖甲申に生れ、李太王庚午文學を以て、蔭仕に補せられ、官郡守に至り、庚辰に歿す、學を鳳棲、俞辛煥に受く

○ 方山集

三卷一冊 安基遠著 印本

圖書番號 四五三〇

安基遠の遺稿にして、子鍾知の蒐輯せしものなり、各體詩の外、書數篇、文一篇を收む、又補遺一篇あり、尾に附せり、李太王三十三年に刊行す

安基遠字は善浩、方山と號す、廣州の人、楓厓敏學の後孫なり、純祖乙酉に生れ、李太王丙申に歿す、基遠早歲より、舉業を廢し、山水の間に吟哦し、以て詩情を娛めり

○ 克齋集

八卷四冊 盧必淵著 印本

圖書番號 二〇〇三

盧必淵の詩文集にして、子相益の蒐集したるものなり、收むる所、詩、書、雜著、序、記、上樑文、祭文、墓文、狀、錄、附録等にして、首に系譜を載せり、光武元年丁酉之を刊行す

盧必淵字は漢若、克齋と號す、光州の人、逸持平瑾の後孫なり、純祖丁亥に生れ、李太王二十二年乙酉に歿す、固窮讀書し、科第に志なくして、性齋許偁の門に遊ひたりと云ふ

○ 痴史集

七卷三冊 安鑽著 印本

圖書番號 一六一九

安鑽の遺稿にして、子英瀆の蒐輯せしものなり、收むる所、詩、書、序、日記、記、跋、後序、說、銘、箴、雜著、上樑文、祭文、哀辭、墓誌、遺事、附録等にして、李太王己亥に刊行

す

安鑽字は景顔痴史と號す耽津の人花亭莘老の子なり純祖己丑に生れ李太王四年丁卯進士に中り二十五年戊子に歿す

○景齋集

一四卷五冊 禹成圭著 印本

圖書番號 五六二八

禹成圭の詩文集にして詩書祿著記、跋、銘、箴、贊、箋、上、樑文、祝文、祭文、墓碣文、行狀等を收め附録一卷あり禹成圭字は聖錫、景齋と號す養浩堂玄寶の後孫にして純祖庚寅に生れ李太王戊寅假監役に入仕し六郡を典り乙巳に歿す官敦寧都正に至る

○梅石遺稿

一冊 金光柏著 印本

圖書番號 五四一九、七七四六

金光柏の七言律詩を集めたるものなり隆熙二年戊申子然雨、然瀨等編次刊行す金光柏字は度根、梅石と號す金堤の人なり純祖癸巳に生れ哲宗癸亥武科に登り官五衛將に至り李太王二十三年丙戌に歿す

○自慊窩集

五卷二冊 柳大源著 印本

集部

圖書番號 六六四二

柳大源の詩文集にして賦詞、詩餘及詩疏、書祿著序、記、跋、論、箴、贊、婚書、祭文、墓誌、銘、壙誌、行狀、傳及附録あり光武八年甲辰子秉蔚之を刊行す

柳大源字は子遠、自慊窩と號す文化の人なり純祖甲午に生れ李太王四十年癸卯に歿す經學の士として行誼著名なり

○大溪遺稿

七卷四冊 黃在英著 印本

圖書番號 六六六

黃在英の遺稿にして從子炳欽の蒐輯に係り收むる所詞、詩、疏、書、序、記、跋、雜著、傳、祭文、碑、銘、墓表、墓碣、墓誌、行狀、遺事等なり

黃在英字は應護、大溪と號す昌原の人承旨仁夏の子なり憲宗乙未に生れ李太王癸未監役を授けられたるも仕へず嶺南の地學者に乏しからずと雖實踐家に至りては蓋し在英の如き罕なりと云ふ

○新菴集

二卷一冊 朴應漢著 寫本

圖書番號 二二四二九

朴應漢の詩文集にして子栲の編輯したるものな

六五九

り各體詩、功令策、擬疏、序記、識論、祭文、書牘等を收め
墓碣銘を附す

朴應漢字は元七、新菴と號す貫は蔚山にして都正
鎰の子なり憲宗乙未に生れ嘗て薇西金在顯、鼓山
任憲晦等に從遊す蔭仕により官敬陵令に至り光
武八年甲辰に歿す

○兢齋集

七卷三冊 鄭趾善著 印本

圖書番號 一一〇三七

鄭趾善の詩文集にして子圭興の蒐輯せしものな
り收むる所詩、書、雜著、序、記、跋、上、稟、文、祭、文、家、狀、墓、表
等なり大正元年之を刊行す

鄭趾善字は若仲、兢齋と號す東萊の人なり憲宗己
亥に生れ李太王丁酉に歿す嶠南に居住し終生經
史を玩釋し進取の志なし仁禮類解の著あり

○雲養集

一六卷八冊 金允植著 印本

圖書番號 七七二三

金允植の詩文集にして自ら編輯したるものなり
第一卷より第六卷は各體の詩を載せ第七卷より
第十六卷までに賦、辭、策、傳、論、議、說、疏、啓、對、告、布、公、函

代選序記、跋、箴、銘、箋、書、誌、碑、狀、錄、遺、事、祭、文、哀、辭、告、由
文、雜、著、等、を、收、め、大、正、二、年、癸、丑、石、板、を、以、て、印、出、す

○竹圃集

六卷二冊 金禹鉉著 印本

圖書番號 五二七四

金禹鉉の詩文集にして子河塔の蒐輯したるもの
なり收むる所詩、疏、說、書、公、牒、雜、著、附、錄、等、なり

金禹鉉字は子洪、竹浦と號す金海の人贈吏叅衡玉
の孫なり憲宗丁酉に生れ李太王丁卯文科に登り
屢郡邑を典して官承旨に至り乙未に歿す遐土寒
蹤に人となりしも吏治を以て名あり

○石菱集

一二卷三冊 金昌熙著 印本

圖書番號 四八三三

金昌熙の遺稿にして光武二年戊戌子教獻の刊行
せしものなり收むる所疏、書、說、序、記、題、跋、家、狀、雜、著
會欣頴六八補、譚、屠、月、城、家、史、等、なり

○覆甌初藁

二卷一冊 權昌著 寫本

圖書番號 七三五七

詩律各體の原稿にして羈旅集、塞上唱酬錄、北征錄、
西湖錄等の目を設け編を成せり

權寓字は幼翔小隱と號す安東の人兵判睡隱權經六代の孫なり李太王の時春川に隱居して仕へす

○ 陶山記

一冊 李況撰 印本

圖書番號 二〇八六

李況慶尙北道禮安郡陶山に居宅を卜築し山川の形勝と室堂の經營と並に自家の寓情を記述せしものにして自筆の題詠を附載す

○ 玄軒和陶詩

一冊 申欽著 印本

圖書番號 六九七三

李命俊ハ申欽の象村集中より和陶詩のみを分離して改刊したるものなり欽の子翊聖の跋あり

○ 樂全堂歸田錄

一冊 申翊聖著 印本

圖書番號 七二五九

申翊聖歸田後の詩を集めたるものにして樂全堂集に收めず肅宗十五年己巳外孫金錫胄一卷と爲し以て印出せり收むる所古律各體なり

○ 御屏十六幅贊

一冊 李玄逸撰 寫本

圖書番號 五六〇七

肅宗十七年辛未古昔聖王の法るべきもの庸君の

集部

戒むべきもの十六條を取り玉堂諸臣に命して十六幅圖を描かしめ屏風を製す儒臣李玄逸之か贊を作りて呈進したるもの是なり

李玄逸字は翼升、葛菴と號す載寧の人石溪時朋の子なり仁祖丁卯に生れ肅宗の初學行を以て薦められ持平を超拜し官吏曹判書に至り甲申に歿す諡を文敬と云ふ肅宗己巳閏后の廢せらるる時上疏し文中不諱の語句ありしを以て追奪に遭ひしも後に伸冤を得たり

○ 滄洲閒詠

一冊 趙宗鉉著 寫本

圖書番號 七三六三

趙宗鉉か自作の詩を輯録したるものにして天隱亂稿の一部なり

○ 山水影

二冊 趙宗鉉著 寫本

圖書番號 六二九五

趙宗鉉咸鏡監司たりし時の詩稿なり間間諸人の唱酬を挿記す

○ 談叢外記

一冊 朴趾源著 寫本

圖書番號 七六四四

六六一

朴趾源の文中數篇を抄輯したるものにして殊に周興嗣千字文、曾先之史畧、江鎔通鑑節要等の不可讀説三篇は朝鮮兒童を教授するの誤りなるを駁正したる頂針の文なり

○ 學海

一七冊 洪奭周著 寫本

圖書番號

八五九九

洪奭周の詩文稿にして少時よりの述作を編したるものなるも定本に非ず

○ 梅山書贈

四卷二冊 洪直弼著 寫本

圖書番號

六九四二

洪直弼が世俗の屏塵に馳せ實學の寥寥に趣くを慨し從遊の人に寄贈したる書札を門人等の輯録したるものなり凡て九十三篇忠信を以て主意と爲す門人任憲晦の跋あり

○ 新谷隨纂

二卷一冊 宋琦鼎著 印本

圖書番號

六三三九

宋琦鼎の詩文集にして族人宋來熙之を編次す收むる所心學、叙心圖說、散錄論說詩等若干篇なり、哲宗己未孫鶴仁之を刊行す

宋琦鼎字は玉鉉、新谷と號す恩津の人なり

○ 斐然箱抄

三卷一冊 張之琬著 印本

圖書番號

七六八三、七七三三

張之琬の詩文集にして友人崔瑗煥の蒐訂したるものなり詩賦序記題跋銘贊箋雜著碑碣行狀哀辭傳祭文等を收め哲宗八年丁巳に刊行す

○ 嘉梧藁略

一冊 李裕元著 寫本

圖書番號

七八〇四

李裕元の全集中諡狀のみを蒐集したるものなり

○ 太白山瑤史兩閣重修上樑文

一冊 南廷哲撰 寫本

圖書番號

五四八八

太白山史庫に瑤源閣及實錄閣あり光武九年乙巳掌禮鄉南廷哲命を受け史を攷する時兩閣を重修し秘書郎李文求是の役を主管す廷哲文求の囑に依り上樑文を作る

南廷哲字は程祥號は霞山、宜寧の人、縣監弘重の子なり、憲宗庚子に生れ李太王の時司馬に中り、蔭官に補せらる壬午文科に登り官内部大臣に至り明

治四十三年男爵を授けられ大正五年に歿す

○ 一何翁文集別録

一行 寫本

圖書番號 二二〇六七

哲宗二年辛亥碧珍の人李某舉に赴き京に往復したる日記にして風雨陰晴諸人との交渉及詩句唱和等を鈔載し名けて文集別録と云ふ一何翁は其の號なり

○ 分類杜工部詩諺解

二五卷一七册 印本

圖書番號 五二四

成宗十二年辛丑弘文館典翰柳允謙等に命し杜甫の詩に諺文を以て解釋を加へたるものなり紀行述懷疾病懷古時事邊塞軍旅宮殿居室皇族宗族外族婚姻仙道隱逸釋老寺觀四時節序晝夜雨雪雲雷山嶽江河都邑樓閣眺望園林池沼舟楫橋梁燕飲文章書畫音樂器用食物鳥獸蟲魚花草竹木投贈寄簡酬寄惠贖送別慶賀傷悼雜賦等五十二部に分類せり後仁祖十年壬申吳詔慶尙監司たる時重刊す柳允謙字は亨叟瑞山の人泰齋方善の子なり世宗

集部

庚子に生れ世祖壬午進士文科に登り官副提學に至り成宗の時に歿せり

○ 杜律分韻

五卷二册 印本

圖書番號 二八九五、二九一四、二九一五、二九一六、二九

一七、二九七九、三三七九、三三八〇、三三八一、三三八二、

五一四六、五四八二、五六六二、六三二四、六三三六、六六五

七、七二七九、七三二七、七四八七、七八八三、一〇一六七

杜詩五七律を韻字の次第に依り分類したるものにして正祖の命により摛文院に於て彙編し二十二年戊午活字を以て印行せるものなり

○ 陸律分韻

三九卷一三册 印本

圖書番號 四二三〇、五五〇二、五九一七、五九一八、六七

三七、六八四八、六八五〇、六九〇三、七二八二、七二八三

陸放翁の詩五七律を韻字の次第に依り分類したるものにして正祖の命に依り考文館に於て彙編し二十二年戊午活字を以て印行す

○ 雅誦

八卷二册 印本

圖書番號 九〇三、九〇四、一一〇三、一八三九、一八四〇

一八四一、一八四二、一八四三、一八四四、一八六九、一八

六六三

七〇、一八八五、自一九五一至一九五七、自三〇三七至三〇四

五、三〇四八、三〇四九、三〇五〇、三〇五一、三〇五二、三

九三五、一一五二九

正祖か朱子の詩文を選定し二十三年己未活字を以て刊行したるものなり詞賦琴操古近體詩銘贊題辭勸學文等を收む

○朱書百選

六卷三冊

印本

圖書番號 一一四七、一四八四、一九四三、二〇七〇、自二

一三六至二一五六、自二一六六至二一七七、二四一七、三三三

九、三二六二、三二六三、三七八八、三八八四

正祖十八年親ら朱子全集に關し師友門下と往復せし書札七十一篇を選定したるものなり内閣に於て活印す

○朱子書節要

二〇卷一〇冊 李滉著 印本

圖書番號 七〇三、一二七六、二二七〇、二二七一、二二七

二、二二七八、二二七九、二二八〇、二二八一、二二八二、二

二八三、二二八七、二二八八、二二八九、二二九〇、二二九一、

二二九二、二二九四、二二九七、二二九八、二二九九、二三〇〇

〇、二九六二、二九六三、二九八九、三〇一六、三三七五、四

一七二

朱子か門人知舊と往復せし尺牘にして朱子大全中に收めたるもの四十八卷あり特に入學の便に資すべきものを選抜し二十卷と爲せり内第十九卷は續集第二十卷は別集なり明宗十三年戊午著者の門人之を刊行す

○朱子書節要記疑

一五卷二冊 李滉著 寫本

圖書番號 三〇六五

朱子書節要の難字難句難義を拾集し漢文或は諺文を以て註釋せしものなり

○朱子書節要講錄

二卷一冊 李德弘編 寫本

圖書番號 三〇六七

李滉の朱子書節要の講義を門人李德弘の記錄せるものなり或は漢文を以てし或は諺文を以てせり

○朱書講錄刊補

六卷三冊 李栽著 印本

圖書番號 一六二三

朱書中間難解の語句あり退溪門の著として朱書講錄あるも李栽更に本書を編す概ね講錄を襲

踏し諸書を博渉し而も臆斷を加へず講録の所記に疑しきあれは恐記誤と記し或は當詳之と記入せり肅宗三十九年癸巳に成り安東虎溪書院に於て刊印す

李栽字は幼材密菴と號す載寧の人葛菴李玄逸の子なり家庭の訓を受け篤行躬學肅宗の時官主簿に至る

○朱文酌海 一六卷八冊 鄭經世編 印本

圖書番號 九六六、二八五七、三〇〇五

朱子大全中學者に切要なるものを選抄したるものにして宋時烈の跋あり

○朱子大全筭疑

一一一巻一七冊 宋時烈著 印本

圖書冊號 一〇二四、二九五五

李退溪朱子書節要二十編を作り又記疑一冊を著し其の後又鄭曄酌海八巻を作りて朱子書節要を補ひ學者をして朱子全集を讀むの勞を省かしむ宋尤菴更に記疑に繼ぎて朱子大全中の難字、難句及疑義あるものを逐巻拾集し金壽興、金壽增、金壽

集部

恒等と相質議して之を註解す本書是なり仁祖七年に成る

○朱子大全拾遺 六卷二冊 朴世采編 寫本

圖書番號 三四九一

朱學の朝鮮に行はれしより其の著書の編刊せられたるもの極めて多し朱子大全及續大全、別大全等何れも宣祖より顯宗の間に刊行せらる而も以上三書中に撰録せざりし詩文猶ほ少なからざるを以て別に此の書六巻を作りて收載せり其の成りしは顯宗十三年なり

○朱子大全筭疑問目 一二巻一二冊 寫本

圖書番號 四〇五六

尤菴宋時烈朱子大全筭疑を著し朱子大全中の難語句を註釋せり著者更に疑問を擧げ尤菴と見を異にする所を説述せり

○朱書分類 五四巻五四冊 姜浩溥編 寫本

圖書番號 一七八八、三六一

朱子全集を集注章句、或問、語錄、語類等の種目に分類せしものなり

六六五

姜浩浦字は養直晋州の人にして、寺正錫圭の子なり肅宗庚午に生れ英祖甲戌文科に登り官知中樞府事に至り正祖の初に歿す

○朱文抄選

四卷二冊

印本

圖書番號

四四四、一一四八、一一四九、二二三三、二二

三四、二二三五、二二五六、二二三七、二二三八、二二三九、

二三四三、二二五二、二二五三、二二五四、二二五五、二二五

六、二二六二、自二二六三至二二六九、二五八六、二五八七、

二五八八、三六四一、三六五一、三九六七、四〇二〇

朱子の文を抄選したるものなり編者年代共に詳ならず

總集類

○列聖御製

一冊 李瑛編

印本

圖書番號

一九四五

朝鮮太祖太宗世宗文宗世祖成宗仁宗及宣祖の詩、書諭賦箋疏祭文等を蒐編す仁祖九年辛未義昌君瑛の手書する所なり

○列聖御製補遺

一冊 李楨編

印本

圖書番號

三二五六、三二五七

李瑛の編に係る列聖御製に漏れたるを補ひ太祖以下顯宗に至る歴世の詩文を收編す肅宗五年己未義昌君の嗣子福昌君楨に命し續寫入梓せしめたるものなり

○列聖御製

八卷四冊 李俔編 印本

圖書番號

二八〇四、三五八五、三五八六、三六九〇、三

九一〇

仁祖の時義昌君瑛太祖以降宣祖に至る歴代の詩文を編集し始めて開刊す仁祖命して之を史庫に藏め肅宗五年己未福昌君楨之を増補し又仁祖孝宗顯宗三代の製述を繼刊せり其の後朗善君俔更に廣搜博採年を経て八編を完成す

○列聖御製

一七卷八冊

印本

圖書番號

二九七四、二九八五、三五八四、三六七〇、五

五二七

太祖より肅宗に至る各代の詩文を編録す卷一より八に至るまでは李俔の編に係り卷九以下は皆肅宗の作にして宋相琦李觀命二人の編したるも

のなり原編十六卷肅宗別編一卷なり

○ 列聖御製 一八卷一冊 李錫輔編印本

圖書番號 二八六九、二九八五、三五八四、三五八七、三

六六九、三六八八、三六九一、三九二一、三九三二、五五三五

太祖以下景宗に至る歴世の詩文を編録したるものにして英祖二年丙午宗簿寺の開板なり

洪錫輔字は良臣、睡隱と號す豊山の人にして判書萬容の孫なり顯宗壬子に生れ肅宗丙戌文科に登り官吏曹叅判に至り英祖己酉に歿す

○ 列聖御製 一〇四卷五九冊 印本

圖書番號 三九〇、三九三、四〇七、八六三、一八〇三、一

八〇四、一八六一、一八九〇、二三五一、三四五六、三四七六

太祖以下哲宗に至る歴代の詩文を編次したるものにして李太王の時鄭元容等之を校正して印行せり

○ 列聖御製別編

二卷二冊 印本

圖書番號 三二五二、三五〇九

肅宗及英祖の製述を別に編輯せしものなり

集部

○ 列聖御製別編 一冊 印本

圖書番號 一八七六

純祖及翼宗の製述を編輯せしものなり

○ 射候御製詩 一冊 印本

圖書番號 七八一

世祖二年丁丑群臣と射禮を行ひ幼時箭匣に題せし詩韻を以て群臣に命し廢進せしめ又新に射候詩一首を箭匣に題し群臣をして廢進せしむ後承政院に命し之を編輯せしむ

○ 内宴御製詩 一冊 印本

圖書番號 六三〇七

成宗十三年壬寅元日内三殿獻壽の時詩三篇を製し三殿に進め當日侍宴の諸臣蓬原府院君鄭昌孫月山大君嬖德原君曙河城府院君鄭顯祖右議政洪應宣城府院君盧思慎領中樞府事李克培等之に廢和す本書は其の詩を上刊したるものなり

○ 庚寅賡韻帖 一帖 寫本

圖書番號 一〇二九七、一〇三〇七

宣祖二十三年庚寅尹根壽明に使し宗系を辨誣し

六六七

功を以て光國勳に錄せらる英祖庚寅其の三周甲に當るを以て諸功臣の後孫を召入し親ら二句を製して慶を紀し左議政韓翼等十九人亦賡進す仍て之を帖と爲す

○ 御製北苑帖

一冊

印本

圖書番號

九八二六、九八一七

北苑に大報壇を設け明帝を祀る庚寅の年英祖二句の詩を大書し徐命膺跋を題し鐫刻榻出す

○ 南殿親享詩

一冊

寫本

圖書番號

七八二〇

英祖四十一年癸巳永禧殿に享禮を行ひ億成の二字を押して二句詩を製し王世孫及侍從諸臣之に賡進したるものなり

○ 御製香祝祗迎詩

一冊

寫本

圖書番號

七八二七

英祖四十九年癸巳廟享香祝を祗迎し意迎の二字を押して二句詩を製し侍從諸臣の之に賡和したるものなり

○ 臨門宣諭詩

一冊

寫本

英祖四十一年癸巳臨門宣諭し好生の徳を布き見生二字を押して二句詩を作り侍從諸臣亦賡進したるものなり

○ 耆科賡載錄

一冊

印本

圖書番號

三五〇七

英祖四十八年壬辰耆老科を設け唱榜の式を行ひたる後七言二句を製し世孫先つ之を賡進し次いで群臣亦賡進したるもの凡そ六十七首を上刊したるものなり

○ 慶運宮賡載錄

一冊

印本

圖書番號

一七二九、四〇二六

英祖四十九年癸巳慶運宮に臨み群臣と唱和したる作を録したるものなり壬辰の年宣祖義州に播遷し翌年癸巳慶運宮に還りてより四癸巳に値ひ追慕に勝へす其の年慶運宮に臨み賀を受け宴を設け四言二十四句を製し世孫正祖並に群臣亦賡進し徐命膺其の事を述へ且つ天眷詩九章を賦す仍て芸閣に命し印行す

○ 甲午賡韻帖 一帖

圖書番號 九九四七

寫本

甲午の歲英祖患候あり十餘月を経て癒ゆ群臣陳賀を請ふも許さず仍て詩一首を示す李昌壽等三十六人賡進の作あり以て帖と爲す

○ 賡進帖 二五帖

寫本

圖書番號 九九四八、九九五二、一〇二七四

英祖五十一年乙未より翌年丙申の間に於ける御詩を書下し諸臣に賡進を命ず因て當日入侍したる諸臣の賡進したる詩を精書し之を帖と爲せしものなり正祖の初奎章閣に於て編す

○ 賡載聯韻軸 三冊

印本

圖書番號 二八三五、二八三六、四七九〇、五五〇六、五〇七、五六三八、五八七〇、五八七二、五八七三、六五二六、七〇四七、五〇五五、六六〇四、六六〇五、六六〇六、六六一〇、七七八三

正祖賜宴の際閣臣等の製進せる聯韻を纂輯せしものにして乙卯華城奉壽堂進饌賡載軸同將臺閣武賡載軸同洛南軒養老賡載軸同慈宮周甲誕辰賡

集部

載軸を合せて一冊と爲し戊申内苑賞花賡載軸壬子癸丑甲寅乙卯各年に於ける同聯軸辛亥壬子甲寅乙卯各年に於ける洗心臺聯韻軸を合せて一冊と爲し辛丑寶鑑纂輯賡載軸辛丑南殿齋宵賡載軸癸卯燕射賡載軸癸卯望屆樓齋宵賡載軸甲辰永陵輦路賡載軸甲辰德水川聯韻軸同眞殿展謁賡載軸同誠正閣夜對聯韻軸丁未高嶺里祈稔閣聯韻軸同高陽郡行殿賡載軸壬子瓊林講聯韻軸同光陵行幸日聯韻軸同食堂日聯韻軸同雪中龍虎聯韻軸癸丑李提督侑祭日賡載軸同元陵展省日聯韻軸同奎選文臣製射日聯韻軸同耆社賡載軸甲寅人瑞錄獻御日聯韻軸乙卯桓廟八回甲志慶聯韻軸を合せて一冊と爲せり

○ 摛文院賡載帖 一冊 搦本

圖書番號 一〇二二六

哲宗太廟に親祭のため摛文院に齋宿したる時親製の詩に侍臣等の賡和したるもの搦本なり

○ 温幸陪從錄 一冊 印本

圖書番號 四七五〇

六六九

庚午の年英祖溫陽の離宮に臨みたる時扈從の諸臣と唱和したる詩什を蒐録し上木したるものにして尾に陪從諸臣の姓名員數を詳録し翌年辛未忠清監司李益輔之を刊行す

○ 迎恩慶喜錄

一冊

印本

圖書番號 二〇一八、三二五八

英祖甲申肅宗の明陵を展し回鑿の際世孫正祖迎恩門外に祇迎せるを嘉悦し四言四句を製し世孫及群臣亦賡進し洪鳳漢其の事を述ふ後命して刊行す

○ 受爵賡韻軸

一冊

印本

圖書番號 三九八七、四八七九

乙酉の歲英祖七十二歳に躋る世孫正祖群臣を率ひ壽を献す英祖深字の韻を押し四言二句を製し又原韻に依りて七十五首を賦し陪宴諸臣に與ふ仍て世孫竝に群臣の賡進したるものを合録し芸閣に命して印行す

○ 續光國志慶錄

一冊

印本

圖書番號 一六九八、三九八八

明史に李氏の宗系を誣録せるあり宣祖二十一年戊子使を遣し誣を辨し宗廟に告げ詩を賦し群臣をして賡和せしめ之を合刊し名けて光國志慶錄と云ふ然るに英祖四十七年辛卯に至り清國文獻又訛を承け謬を襲きたるを以て再ひ使を遣し改正を請ひ準許を得たり茲に前例に倣ひ宗廟に告げ二句詩を製し世孫及群臣をして賡進せしめ名けて續光國志慶錄と云ふ

○ 耆耆宴會錄

一冊

印本

圖書番號 三三〇三、三四七一

癸巳の年英祖齡八旬に滿ちたるを以て世孫(正祖)慶を稱し宴を進め次に養老の宴を行ふ英祖自ら六句歌を製し世孫竝に群臣賡進す遂に諸作を合し芸閣に命して刊行す

○ 湖堂製進

一帖

寫本

圖書番號 九九四九

英祖の末年題を湖堂諸臣に下し製進を命す因て丁範祖朴相甲の二人命を承け製進の詩を賸載す本帖なり

朴相甲(後宗甲)と改む字は回甫潘南の人文衡泰尙の玄孫なり英祖壬戌に生れ英祖庚寅文科に登り湖堂に選はれ提學を歴て正祖己未に歿す官判刑に至り諡を文貞と云ふ

○太學志慶詩

一冊

印本

圖書番號

五三二

正祖十四年庚戌世子生誕の一百日に當り生員進士九十八人幼學十五人を會して志慶の宴を不闌堂に設けたる時皆詩を賦す本書は之を輯録したるものにして齒を以て順と爲し猶ほ入直諸郎の和詩を併録す總て一百二十首なり

○太學恩杯詩集

五卷二冊

印本

圖書番號

四一七七、四一七八、自四六八二至四六九三、

四七五九、四九四五、四九四六、四九四七、四九四八、自四

九四九至四九五六、四九九七、五〇一五、五〇五七、五三二

九、五五八五、五九〇一、六二七三、六六一九、六六二二、六

七九四、六九八八

戊午の年正祖太學に臨み親試の時宴を設け仍て孝宗の故事に依り懷心に詩經鹿鳴章の我有嘉賓

集部

の一句を鐫刻したる銀杯を太學に藏することと爲し時の太學生等上箋稱謝したるを後裒輯して割闕に付したるものなり首に正祖の詩竝に序解を載せ勸學獎勵の意を示す

○壽進寶酌帖

一帖

搨本

圖書番號

一〇一七七

李太王二年乙丑彰義門外石瓊樓下に井を穿ちし時古銅器を得たり其の蓋に壽進寶酌の四字と絶句一首あり句中獻身東方國太公の語あり是れ即ち大院君に應するの識書なりと爲し當日入侍の承旨史官閣臣等に命して記銘等を作らしめ板刻したるものなり

○全城世稿

九卷六冊

寫本

圖書番號

五四〇五

全義の人李宗文及其の子孫七人の詩文合稿にして詩文の下に各其の行蹟詩狀等を附し卷首に追先録及附篇を載す内容は洛浦集水月堂集茶圃集積城公集隱窩集江阜集霞翁集等にして附録あり李太王光武元年丁酉宗文の後孫等之を編次す李

六七一

宗文字は學可號は洛浦贈叅判慶斗の子なり明宗丙寅に生れ宣祖戊子司馬に中り官縣監に至る李之英字は子實號は水月堂洛浦の子なり宣祖乙酉に生れ光海君癸丑文科に登り官縣令に至り仁祖己卯に歿す李之華字は而實號は茶圃洛浦の子なり宣祖戊子に生れ庚戌司馬に中り光海君癸丑兄之英と同じく文科に登り官參議に至り顯宗丙午に歿す李時格字は正叔號は江皐茶圃の孫なり仁祖戊寅に生れ肅宗丙辰武科に登り官郡守に至り戊寅に歿す李之馨字は汝薰慶斗の曾孫なり宣祖丁酉に生れ仁祖癸酉進士に中り乙酉蔭仕を以て官縣監に至り顯宗癸卯に歿す李球字は大玉號は隱窩水月堂の子なり光海君庚申に生れ仁祖丙戌司馬に中り孝宗壬辰文科に登り官牧使に至り肅宗甲子に歿す李益秘字は聞遠號は霞翁江皐の子にして隱窩の嗣なり肅宗甲寅に生れ癸未武科に登り英祖戊申李麟佐の亂を平けて功あり全陽君に封せられ官兵使に至り辛未に歿す兵曹判書を贈る

○清風世稿

四卷二冊 金鍾厚編 印本

圖書番號 四五七三

金克亨及其の子澄孫構三代の遺稿を集めたるものにして後孫鍾厚之を合編し正祖三年己亥に刊行す第一卷は沙川集第二第三卷は坎止堂集第四卷は觀復齋集なり沙川集は雜著に過ぎざるも他は疏筭啓議多し克亨字は泰叔號は沙川清風の人宣祖乙巳に生れ仁祖庚午進士に中り學行を以て薦められ官正郎に至り顯宗癸卯に歿す澄字は元會號は坎止堂仁祖癸亥に生れ孝宗庚寅進士壬辰文科官監司に至り肅宗丙辰に歿す構字は士肯號は觀復齋仁祖己丑に生れ顯宗己酉進士肅宗壬戌文科官六曹判書を経て右相に至り甲申に歿す忠憲と諡す

○臨瀛世稿

三卷一冊 崔明秀編 印本

圖書番號 四五二九

崔致雲其の子應賢及應賢の孫壽城の遺稿を哀輯したるものにして各卷の末に誌狀を附せり臨瀛は江陵の古名なり致雲字は伯卿鏡湖釣隱と號す

江陵の人なり高麗恭讓王庚午に生れ朝鮮太宗戊子進士、丁酉文科官提學に至り世宗庚申に歿す應賢字は賓臣、睡軒と號す世宗戊申に生れ戊辰司馬兩試に中り端宗甲戌文科に登り官大司憲に至り中宗丁卯に歿す壽誠字は可鎮、猿亭と號す正祖丁未に生れ中宗辛巳南袞等靜菴趙光祖の黨なりと稱し之を殺す後領議政を贈り文正と諡す

○耽津世稿 四卷二冊 安思龍等編 印本

圖書番號 四二五三

耽津の人安遇及其の曾孫克家の詩を後孫思龍等の蒐輯刊行したるものにして系譜、行狀、師友錄、墓銘、挽詞等を附載せり遇字は時叔、蘆溪と號す耽津の人參軍重光の子なり世宗己巳に生れ中宗戊寅賢良薦を以て典牲主簿を拜し官縣監に至り丁亥に歿す估畢齋金宗直の門下にして經學行義を以て名あり克家字は宜之、磊谷と號す蘆溪の曾孫なり明宗丁未に生れ宣祖己亥社稷參奉を授けられ縣監に予り光海君甲寅に歿す家學を善繼し宣祖壬辰義旅を倡へて功あり

集部

○西原世稿 四卷二冊 韓楨國編 寫本

圖書番號 五四〇四

韓哲冲及其の後孫克昌、克昌の曾孫必壽等の詩文を合集せしものにして祭挽誌狀、褒揚等を附載せり光武七年癸卯必壽の後孫楨園之を輯編す哲冲字は弘道、號は夢溪、清州の人判書希迪の子なり高麗忠肅王辛酉に生れ辛巳司馬に中り恭愍王癸巳文科に登り官典法判書に至り朝鮮に仕へす以て終る克昌字は裕伯、號は贅洲、夢溪八代の孫なり宣祖庚子に生れ仁祖甲子司馬に中り癸酉文科に登り丙子の難に斥和を唱へ官察訪に至り孝宗庚寅に歿す必壽字は仁甫、號は忍默齋、贅洲の曾孫なり肅宗丁丑に生れ英祖辛未に歿す

○豐山世稿 六卷三冊 洪誦周編 印本

圖書番號 三六〇八、四三二五

豐山洪氏舍人洪川文敬公墓堂履歷、參判秋審、安尉文懿公無何堂柱元貞簡公金華萬容、僉正晦溪重箕、參判睡隱錫輔、始惠公象漢、孝安公恒齋、樂性、文清公新齋、樂命、樂三、樂東、孝獻公何愚堂、義諒、承旨足

六七三

匡堂仁諱及其の配大邱徐氏等十五人の詩文を蒐輯し卷末に別集及附録を載す出版は純祖二十四年甲申なり

○ 咸從世稿 二卷四冊 魚有鳳等編 印本

圖書番號 四一九〇

咸從の人魚變甲、孝瞻、世謙三世の詩文稿を孝瞻の外孫尹金孫慶尙監司たりし時其の外族魚得江及魚泳溶と興に謀りて哀輯校正し中宗庚午に刊行し景宗癸卯孝瞻の後孫杞園有鳳其の弟兢齋有龜と共に之を重刊し仍て得江の稿を續編と爲し又變甲の父淵の遺詩と變甲、孝瞻、世謙の逸稿、世謙の弟世恭の遺詩得江の逸稿及泳溶の遺詩を蒐輯して原編に附刊せしものなり淵は月亭と號す三司左尹伯游の子なり高麗忠穆王丙戌に生れ恭愍王甲辰生員となり朝鮮に及び遺逸に薦せられ官大邱縣令に止まり世宗庚戌に歿す變甲字は子先綿谷と號す淵の子なり高麗廢王禑辛酉に生れ定宗己卯生員となり太宗戊子文科に登り集賢殿直提學となり官を棄てて歸養し世宗乙卯に歿す孝瞻

字は萬從、龜川又は仁峯と號す變甲の子なり太宗乙酉に生れ世宗癸卯生員に中り己酉文科に登り翰林、吏曹判書を経て判中樞府事に至り成宗乙未に歿す文孝と諡す嘗て通鑑訓義及高麗史を參修し禮記日抄を撰進す世謙字は子益、西川と號す孝瞻の子なり世宗庚戌に生れ文宗辛未生員に中り世祖丙子文科に登り文衡を興り翊戴功臣に策し咸從府院君に封せられ左議政に至り燕山君庚申に歿す諡して文貞と云ふ世恭字は子敬、松西と號す世謙の弟なり世宗壬子に生れ端宗癸酉生員進士に中り世祖丙子文科に登り李施愛亂を起すや咸吉道觀察使を以て功あり敵愾功臣に策し牙城君に封せられ兵曹判書を経て成宗丙午に歿す諡を襄肅と云ふ泳溶字は彦深、松亭と號す淵の玄孫なり成宗癸卯に生れ燕山君甲子生員進士に中り中宗丁卯文科に登り官執義に止まり己丑に歿す

○ 晋山世稿 八卷一冊 姜裕後編 印本

圖書番號 六六九一、六八五九

姜希孟及晋暉の詩文集にして姪裕後清州牧使たりし時上印せしものなり詩賦記書雜著碑銘等を收む晋暉字は子舒、壺溪と號す梅墅の子なり陰仕を以て官叅奉に止まる裕後字は汝垂、玉溪と號す晋州の人縣令晋昭の子なり宣祖丙午に生れ仁祖己丑文科に登り官監司に至り顯宗丙午に歿す清白吏に選せらる

○ 杜皐世稿 四卷一冊 權致福等編 印本

圖書番號 四五〇九、五六五二

權應生及其の子炆、炆の從孫慶命等三人の詩文稿を合編したるものなり應生の稿には遺事、詩書、祭文、雜著、附録炆の稿には書狀、附録慶命の稿には詩、附録等を收む後孫致福等純祖六年丙寅に刊行す權應生字は命世、魯軒と號す安東の人叅奉士毅の子なり宣祖辛未に生れ乙巳進士に中り光海君王子叅奉を授けられ官縣監に至り仁祖丁亥に歿す炆字は和叔、退庵と號す應生の子なり宣祖庚子に生れ仁祖乙酉叅奉を授けられ孝宗甲午に歿す慶命字は來吉、江東と號す應生の曾孫なり顯宗癸丑

集部

に生れ英宗乙卯に歿す

○ 聯芳世稿 八卷三冊 金龍普編 印本

圖書番號 五三〇五

金璉の青溪逸稿、其の子克可、藥峯文集、守一の龜峰逸稿、明一の雲巖逸稿、誠一の鶴峯文集補遺、復一の南嶽逸稿を合編せり李象靖之を校正し璉九代の孫龍普正祖二十一年丁巳に刊行す璉字は瑩、仲燕山君庚申に生れ中宗乙酉進士、宣祖庚辰に歿す克一は中宗壬午に生れ明宗丙午文科、官密陽府使、宣祖乙酉に歿す守一は中宗戊子に生れ明宗乙卯生員、遺逸に薦せられ察訪を拜し宣祖癸未に歿す明一は中宗甲午に生れ明宗甲子生員、宣祖庚午に歿す復一は中宗辛丑に生れ庚午文科、官刑曹佐郎辛卯に歿す

○ 陽川許氏世稿 三卷三冊 許傳編 印本

圖書番號 四三六五、四四二九

陽川許氏文敬公、琪、版圖郎冠、大提學、富文正公、伯提學、堽堂錦牧使、梅軒愔慈山郡事、樞、右相、尙友堂、琮、左相、頤軒琛、靖簡公、輯正字、磐、判書、澄窩、礎、贊成、東、厓、礎、

六七五

奉事_前、叅賛_令、別提樞_大司成_草堂_暉、知中樞_寒泉_澄、潭陽府使_微、府使_杏塢_潤、判書_岳麓_箴、典翰_荷谷_箕、算の妹_白雪_軒、判尹_水色_山、大司憲_晉、縣監_龍門_況、左相負_昭堂_頊、逸堂_令觀_雪厚_右相_眉叟_穆、領相_默齊_積、正言_櫻寧_實、判書_退菴_徽、滄海_格、副護_軍市_隱燾_進士_蘇峯_啓、叅議_白石_稷、生員_嶸咸_昌縣_監岐_叅判_醒愚_啓、都事_銘進_士綸_正字_耐叟_鍾、叅奉_緝同_中樞_梅窩_堤、進士疎_隱、持_平恍_承旨_珽、都事_球、知中樞_桂洲_琬、生員_友巢_巢是_承旨_氷湖_頊、叅奉_杏湖_極、牧使_源叅_奉梅_鶴堂宜_生員_梨翁_儉、司諫_松隱_集、掌令_豐窩_采、生員_鶴洲_榮、掌令_湖隱_榮、生員_醉軒_儲、江士_烟客_俊、郡守_戈春_佐、進士_翠南_煜、進士_笑笑_齊、正言_明厚_霽、生員_石泉_慙、生員_三守_齋、正言_一川_珩等_六十八_人の詩を合編したるものなり、初め許洽編輯し、許篈増補し、又許璧許思、欽増修し、許采繼いて修し、遂に許得に至り、始めて大成せり、前集、別集、後集に別ち、李太王五年戊辰に刊行す。

○光山卓氏世稿

二卷一冊

印本

圖書番號

七〇八五

卓光茂及其の子卓愼の詩を編輯し、附録世譜等を合せ刊行したるものなり。

○高靈世稿續編

三卷三冊

印本

圖書番號 九〇五、九〇六、三〇四七

高靈申氏世稿の續編にして、申潜一人の詩集なり。潜字は元亮、靈川と號す。高靈の人、叅判從護の子なり。成宗辛亥に生れ、申宗の時進士に中り、己卯文科に登り、翰林を歴て、官牧使に止まり、辛巳に杖流せらる。後治行第一に薦め、叙用せらる。明宗甲寅に歿す。

○潘南朴氏五世遺稿

六卷三冊

朴宗慶編 印本

圖書番號 四六三六、五一四四

潘南の人、朴煥其の子、世城、孫泰遠、曾孫弼履、玄孫師錫等五世の詩文を編輯したるものにして、各卷に誌狀を附し、純祖十六年丙子に出版す。煥字は汝暲、守愚、又は鶴阜と號す。宣祖甲申に生れ、官同中樞に至り、顯宗辛亥に歿す。世城字は萬基、光海君辛酉に生れ、仁祖戊子進士、孝宗辛卯文科、官承旨に至り、亦

顯宗辛亥に歿す泰遠字は景久、悔窩又は松潭と號す顯宗庚子に生れ肅宗己巳進士、官牧使に至り景宗壬寅に歿す、別辰字は禮卿、肅宗乙丑に生れ英祖壬申に歿す、後判書を贈らる師錫字は聖虞、肅宗癸巳に生れ英祖戊午進士、官判官に至り甲午に歿す、後贊成を贈らる

○ 潘陽二先生遺稿

六卷八冊 朴世采編 印本

圖書番號 三九八三

朴尙衷及朴紹の遺稿を後孫世采の蒐輯したるものなり、收むる所尙衷の時疏序若干篇、紹の時疑義對策若干篇及附録等あり、肅宗四十五年己丑後孫弼明全羅道觀察使たる時之を刊行す、尙衷字は誠夫、高南の人、高麗密直副使秀の子なり、忠肅王壬申に生れ、恭愍王癸巳文科に登り、官成均博士、典校令を序し、右文館直提學に至り、辛卯乙卯に歿す、紹字は彦昇、治川と號す、尙衷六代の孫なり、成宗癸丑に生れ、中宗己卯進士に中り、仍りて文科に登る、鈴郎を歷て、官台人に中り、甲午に歿す

史部

○ 崔氏五世遺稿

五卷一冊 崔文鉉編 印本

圖書番號 一二四三〇

編者の九代祖纒林、八代祖齋華、七代祖命三、六代祖進大及五代祖星景等の詩文を編次し、大正七年戊午に印行したるものなり、纒林字は子述、貫は陽川にして、道遙齋淑粘の後孫なり、宣祖戊申に生れ、仁祖庚午生員に中り、顯宗戊申に歿す、齋華字は聖觀、仁祖甲子に生れ、孝宗辛卯生員に中り、肅宗庚午に歿す、命三字は錫兼、龍菴と號す、顯宗甲辰に生れ、肅宗乙未進士に中り、景宗壬寅に歿す、進大字は昌叔、慕先堂と號す、肅宗乙亥に生れ、英祖己酉進士に中り、孝廉を以て、泰奉を拜せしも、就かず、英祖庚辰に歿す、星景字は慶伯、肅宗癸巳に生れ、英祖丙子進士に中り、正祖乙巳に歿す

○ 趙氏三世遺稿 四卷三冊 趙弼鑑編 寫本

圖書番號 四二〇〇

趙應祿の遺稿に子邦直、孫光享の遺稿を合附したるものなり、應祿の竹溪稿には詩及附録を載せ、邦

六七七

直の脩行稿には詩尺牘附録を載せ光亨の文樂叟稿には詩序、皇誌文、祭文及附録を收む並に竹溪八代の孫弼鑑の蒐輯に係る應祿字は景綏、竹溪と號す豐壤の人察訪續期の子なり中宗戊戌に生れ宣祖癸酉進士に中り己卯文科に登り官通政階に至る仁祖癸亥に歿す邦直字は叔清、脩竹と號す應祿の子なり宣祖甲戌に生れ光海君己酉に文科に登り官承旨に至り仁祖丁丑に歿す光亨字は君實、樂叟と號す邦直の子なり宣祖丙午に生れ仁祖丙子教官を授けられたるも仕へず肅宗壬戌に歿す

○海州崔氏家藏 一冊 印本

圖書番號 八四八、五六七〇

海州崔氏の始祖文憲公冲より後孫弼亨に至る諸人の詩文及其の誌狀等を蒐合し李太王二十八年辛卯に刊行したるものなり

○掇感錄

五卷二冊 李之連編 印本

圖書番號 四四五七、一二〇〇四

李行の遺稿及附録李逸李述の遺稿李會傾李遠の遺蹟李迨の遺稿及附録李光輅の遺蹟李光軫の遺

稿及附録李慶弘の實記を後孫之連の合編したるものにして李太王九年壬申に刊行す逸字は平曠行の子にして高麗恭讓王庚午文科、官直提學に至る述は逸の弟にして太宗辛巳文科、官觀察使に至る會傾字は直之、述の孫なり世宗丁未に生れ蔭仕を以て中和郡守に至り成宗庚戌に歿す遠字は孤雲、會傾の孫なり成宗己亥に生れ燕山君辛酉進士、中宗乙酉に歿す迨字は仲豫、月淵と號す遠の弟なり成宗癸卯に生れ中宗丁卯生員進士、庚午文科、官翰林に至り丙申に歿す光輅字は希般、遠の子なり中宗庚午に生れ辛卯生員進士、丁酉文科、己亥直赴を以て歿す光軫字は汝任、今是堂と號す光輅の弟なり中宗癸酉に生れ庚子生員、明宗丙午文科、官翰林を経て承旨に至り丙寅に歿す慶弘字は伯兢、謹齋と號す光軫の子なり中宗庚子に生れ宣祖庚午進士、官參奉に至る

李之連は柏谷と號す騎牛子行の後孫なり

○鐵城聯芳集

二卷一冊 李陸編 印本

圖書番號 七三五四、一二〇一九

李岡及其の子原の遺詩を合編したるものなり岡字は思果、平齋と號す固城の人杏村喆の子なり高麗忠肅王癸酉に生れ忠穆王三年丁亥文科に登り官密直副使に至り恭愍王戊申に歿し文敬と諡す原字は次山、容軒と號す平齋の歿年に生れ十五歳にして進士、十七歳にして文科に第し朝鮮世宗の時右議政に至り己酉に歿す成宗七年外孫尹壕の慶尙監司たりし時刊行す

○ 白麓、丫湖稿

六卷三冊 辛喜季等編 印本

圖書番號 五七四九、一六六二五

辛應時の白麓遺稿と其の子慶晋の丫湖拾稿とを取り慶晋の子喜季之を合編し靈岩郡守たりしとき登梓せり英祖辛丑後孫致復、更に應時、慶晋の詩文及各人の誌狀を收輯し之を刊行す應時字は君望、白麓と號す軍越の人なり中宗戊子に生る明宗己未文科に荐り選ばれて湖堂に入り副提學に至る嘗て李栗谷、成牛溪に従學し時望甚た高し其の子慶晋字は用錫、丫湖と號す宣祖の時文科に登り

集部

官大司憲に至り淸白吏に選ばれ壬辰都體察使柳成龍の幕下に在り獻策頗る多し慶晋字は用錫、丫湖と號す白麓應時の子なり明宗甲寅に生れ宣祖甲申文科に登り翰林を歴て光海君己未に歿す官大司憲に至り淸白吏に選ばる

○ 眉山酬唱錄拾遺

一冊 李萬維編 印本

圖書番號 五三九

李沃か其の子弟と酬唱したる詩を編次し肅宗四十五年庚子に刊行せしものなり

李萬維字は持國、博泉沃の三子なり顯宗甲寅に生れ肅宗癸酉進士に中り乙酉文科に登り官執義に至る

○ 嘉林四稿

一五卷八冊 李德肖等著 印本

圖書番號 六三〇〇、七五七五

李德肖及其の二弟惠肖、三弟憲肖、族弟瑞肖四人の

六七九

合稿にして卷首に系圖を載す原集九卷拾遺六卷あり惠曾字は子順杞園と號す全州の人拙隱渡輔の子之峰曾光五代の孫なり肅宗戊寅に生れ英祖辛未に歿す憲曾字は思季辛酉と號す杞園の弟なり肅宗千午に生れ英祖乙未に歿す瑞曾字は敬韓義湖と號す全州の人懶隱玄亮の孫芝峰曾光五代の孫なり肅宗癸酉に生れ英祖癸丑に歿す李氏四兄弟は名家の胄孫にして竝に文名ありと雖皆處士を以て終れり

○西原家稿

六卷一冊 韓東赫編 印本

圖書番號

二四三二

錫祐及其の三子在洙在濂在洛及在濂の子晚植等の詩文を編次し李太王十八年辛巳に印行せしものなり錫祐字は惠仲蕙晚と號す貫は清州にして監察大勳の子なり英祖庚午に生れ正祖丁酉進士に中り純祖戊辰に歿す洙字は希源藕堂と號す英祖己丑に生れ下祖戊午進士に中る在濂字は霽園心遠堂と號す英祖乙未に生れ純祖丁卯進士に中る在洛字は鼎元藕勛と號す晚植字は菊老近

翠閣と號す編者は在派の曾孫なり

○樊悠合稿

二卷一冊 金尙鉉編 印本

圖書番號 三三一

李太王十六年己卯金尙鉉か其の仲父在革及父在崑の詩稿を編摩し活字を以て印出したるものなり金尙鉉は樊泉と號す光山の人光南君益勳六代の孫にして英祖の時の人なり金尙鉉は悠悠翁と號す在革の弟なり

金尙鉉字は渭師經菴と號す沙溪長生九代の孫なり純祖辛未に生れ丁亥司馬に中り哲宗己未文科に登り文衡を歴て李太王庚寅に歿す官吏判に至る論を文獻と云ふ

○心適堂松巖敬勝齋遺稿合編

一冊 金生海編 印本

圖書番號 二四三三

編者八代の祖履祥七代の祖鍊光及叔父斗文の詩文を編輯し英祖七年辛亥に刊行したるものなり履祥字は仲吉心適堂と號す貫は金海にして司勇守連の子なり燕山君戊午に生れ中宗己卯生員に

中り庚子文科に登り官司藝に至り宣祖丙子に歿す學行を以て開城の男山祠に享す鍊光字は彥積松巖と號す履軒の子なり中宗甲申に生れ明宗己酉司馬に中り乙卯文科に登り宣祖壬辰淮陽府使を以て戦亡す開城崇節祠に享す斗文字は季章敬勝齋と號す鍊光六代の孫なり顯宗甲辰に生れ明齋尹拯に學ひ肅宗丙戌に歿す開城男山祠に享す金生海字は子育肅宗乙亥に生れ英祖丙午進士に中れり

○北窓玉兩先生詩集

一冊 鄭昌順編 印本

圖書番號 一〇五九、四九八、四五八六

鄭暉鄭確兄弟の遺稿を編輯せしものなり仁祖八年庚午軍威縣に於て刊行し正祖九年乙巳鄭燦七代の孫昌順其の逸稿及北窓稟記を集めて之を増補し其の弟礪磧及礪之子之升等の遺稿を附録し嶺營に於て重刊す礪字は十潔北窓と號す溫陽の人なり幼より癖心通神遠近の事を豫知し年十四にして明に入り能く其の語に通し天文地理醫

部

藥計數等詞究せざるなし十九にして進士に中り

更に學業に應せず中宗の時抱川縣監を拜し忽ち官を棄てて楊州掛堂里に卜居し其の地に終る礪字は君敬古玉と號す北窓の第三弟なり詩を善くし書に巧なり其の詩文多く東文選中に在り礪字は可獻十竹軒と號す北窓の第四弟なり明宗の時登科し官都事に止まる礪字は景舒萬竹と號す北窓の第二弟なり官府使に至り乙巳の僞勅に忝す礪字は十清琴松堂と號す北窓の第五弟なり鄭之升字は子慎叢桂堂と號す十竹軒の子なり

○敬亭紫巖文章

一冊 李民歲著 寫本

圖書番號 二二〇七一

李民歲民夏兄弟の遺文章にして民歲の荷記民の建州聞見錄、鄉會講信約條、題鄉規後等を收む民字は兩影號は紫巖にして民歲の弟なり宣祖の癸酉に生れ庚子文科に登り乙巳に扈從功として原從二等勅に録し官叅判に至り仁祖の己丑に卒す吏判を贈し諡は忠簡なり文集ありて世に行はる朝聞錄、博約集等ありて家に藏す兄弟並に藏待

六八一

書院に享せらる

○李氏聯珠集 七卷二冊 南龍翼編 印本

圖書番號 七〇三四

延安李氏一相、嘉相、萬相、端相、般相、弘相、有相、翊相等、從兄弟八人の合稿なり。壺谷南龍翼曾て李氏諸兄弟と交遊せしを以て乃ち各人の詩を選ひ肅宗八年壬戌關東伯宋昌に囑して刊行す。七卷には附録諸家の序跋多し。嘉相字は會卿、水軒と號す。一相の弟なり。仁祖丙子文科に中りに胡亂に害せらる。萬相字は相如、琴谷と號す。嘉相の弟なり。仁祖壬午司馬に中り天死す。弘相字は濟卿、東郭と號す。般相の弟なり。孝宗壬辰登科し官承文權知副正字に至る。有相字は世卿、東苞と號す。弘相の弟なり。顯宗庚子登科し官應教に止まる。翊相字は弼卿、梅澗と號す。有相の弟なり。孝宗辛卯進士に魁たり。顯宗庚子登科し官吏曹判書藝文提學に至り文僖と諡す。

○三隱合稿 四卷二冊 田愚編 印本

圖書番號 六一四八

田祿生、貴生及祖生等兄弟三人の詩文を集めたる

ものにして皆隱字を以て號と爲す故に三隱合稿と名く。祿生十六世の孫愚の蒐集に係り。李太王二十七年に開刊す。貴生字は仲耕、末隱と號す。璽隱の第二弟なり。時事の非なるを見て開城杜門洞より逃れて海に入り終る所を知らず。祖生字は季耕、耕隱と號す。璽隱の第三弟なり。高麗忠肅王五年に生れ文科に登る。忠惠王曾て王子二人を託し。霍光、諸葛の任を以てせり。元序、江陵大君(恭愍王)を冊して王と爲し。忠定王乃ち位を江華に遜るるに及び。祖生時に賛成たり。朴思慎、李岡、韓脩、申德麟等と共に扈して江華に抵り遂に死す。恭愍王四年なり。

○六先生遺稿 三卷三冊 朴崇古編 印本

圖書番號 四〇五八、五〇六六、五二六八、七〇九九

端宗の時の六忠臣朴彭年、成三問、李璿、河緯地、柳誠源、兪應孚等の詩文を哀輯して一書と爲したるものなり。卷末に六人の筆跡及小傳を附す。出版は李太王十五年戊寅なり。李璿字は清甫、一字は伯高、白玉と號す。韓山の人。世宗丙辰文科丁卯重試し直提學となる。詩文共に精絶なり。世祖丙子端宗復位を

謀り事覺はれて殺さる後吏曹判書を贈り諡を忠簡と云ふ河緯地字は中章一字は天章丹溪又は赤村と號す晋州の人世宗戊午文科壯元に選はれ直提學となる世祖受禪の際禮曹叅判を拜し丙子端宗復位を謀り事覺はれ刑せらる後吏曹判書を贈り忠烈と諡す柳誠源字は太初文化の人世宗甲子進士文科丁卯重試に選はれて集賢殿に入り丙子端宗の復位を謀り事覺はれ自刎す後吏曹判書を贈り忠景と諡す俞應孚字は信之一に善長と云ふ杞溪の人武科に登り官度使に至る丙子端宗の復位を謀り事覺はれて刑せらる後兵曹判書を贈り忠穆と諡す

朴崇古は順天の人醉琴軒彭年の七代の孫なり肅宗の時蔭仕を以て官翊賛に至る

○ 生六臣合集

九卷三冊 趙基永編 寫本

圖書番號

五五九〇

生六臣は李耕隱趙漁溪元觀瀾成文斗金梅月南秋江の六人にして端宗遜任の後彝倫の大義を守り或は盲聾に托し或は漁釣に混し或は杜門屏居し或は放曠慟哭し其の孤忠持節死六臣と異跡同心

集部

なる者なり本書は漁溪の後孫基永の蒐輯に係り第一卷は耕隱遺稿詩若干篇第二卷は漁溪遺稿詩若干篇第三卷は觀瀾遺稿詞一篇のみ第四卷は文斗遺稿詩若干篇第五卷第六卷は梅月堂集樂章琴操辭賦調詞詩書箴銘贊誥文論說辨雜著第七卷は祐江集賦詩疏書文記傳雜著第八卷第九卷は附錄なり純祖壬辰金陽淳慶尙道觀察使たる時刊行す孟專字は伯純耕隱と號す星州の人兵判審之の子なり太祖壬辰に生れ世宗丁未文科に登り翰林を歴て官正言に至り金叔滋金宗直と道義の交を爲し清徳直聲を以て一世に振耀し端宗の時祚聾聵となれりと托辭終生仕へす成宗庚子に歿す正祖辛丑吏判を贈られ諡を靖簡と云ふ吳は觀瀾と號す原州の人宗簿令廣明の曾孫なり世宗癸卯文科に登り官集賢殿直提學に至り端宗遜位の後復た仕へす正祖壬寅貞簡と贈諡せらる成聘壽字は耳叟文斗と號す昌寧の人仁齋燻の子なり世宗の初成三問の子を以て叅奉を授け向背を測りしも竟に仕へす正祖壬寅吏判を贈られ諡を靖肅と云ふ

六八三

○ 二節遺稿 一〇卷三冊 尹以明編 印本

圖書番號 四八二一

南原の人尹暹の詩、其の孫、柴の詩、教書、疏、筭、啓、辭、策、說、及集の詩、疏、論、啓、辭、策、說、等を、柴の子、以明の編次したるものなり、鄭斗卿の序、宋浚吉の跋あり、顯宗十三年、靈山郡に於て、開刊す、遊字は、汝進、號は、果齋、校理を以て、宣祖壬辰、巡邊使、李鎰の從事となり、戰死す、柴字は、信伯、號は、薪谷、仁祖丙子、南陽府使を以て、戰死す、集字は、成伯、林溪と號す、丙子、斥和臣となり、清人のために殺さる、尹以明は、南原の人、薪谷、柴の子なり、孝宗の時、蔭仕を以て、官縣監に至る

○ 四忠合集 四六卷二三冊 金昌集等著 印本

圖書番號 七二〇六

夢窩、金昌集、踈齋、李頤命、二憂堂、趙泰采、寒圃齋、李健命、四相臣の文集を合編せしものにして、四忠と云ふは、景宗元年、辛丑、英祖を王世弟に冊封したる功勞ありしを以てなり、夢窩集は、十卷、五冊、踈齋集は、二十卷、十冊、二憂堂集は、六卷、三冊、寒圃齋集は、十卷

五冊にして、英祖三十四年、戊寅、洪鳳漢自ら任して、印出せり、而して、夢窩集の卷末に、金濟謙の竹醉藁一冊を附載せり

○ 韓客巾衍集 一冊 柳棊編 寫本

圖書番號 七二二五

李德懋、柳得恭、朴齊家、李書九等四人の各體詩を選抄したるものにして、遺清されたる使徐浩修に隨行し、當時の文人、西蜀、李調元、雨村、及杭州、潘庭筠、徳園の兩人の評定を得たるものなり、柳棊字は、彈素、幾何、主人と號す、文化の人、柳得恭の叔父なり

○ 六家雜詠 一冊 印本

圖書番號 七二八五

仁祖の時の、醫官、鄭杓、壽字は、子久、杏林と號す、崔奇男、字は、英叔、龜谷と號す、南應、琛字は、子貢、松坡と號す、鄭禮、男字は、子和、西疇と號す、金孝一、字は、行源、菊潭と號す、崔大立、字は、秀夫、蒼崖と號す、等六人の雜詩を蒐録したるものなり、顯宗九年、庚子の刊出に係る

○ 海東遺珠

一冊 洪世泰編 印本

圖書番號 七三五九

朴繼姜以下四十八人の詩二百三十餘首を蒐集編成したるものなり自序に曰ふ金農岩嘗て余に告げて曰く東詩を刊行して世に問ふ者多しと雖而も閩巷の詩獨り闕け泯滅して傳はらざるは惜むへし子其れ之を採輯せよと是に於て廣く之を搜訪し十餘年を積みて編成る名けて海東遺珠と云ふと以て本書の内容を知るへし

○ 昭代風謠

九卷二冊 蔡彭胤撰 印本

圖書番號 二八九四、六五三八

閩巷匹庶の詩を蒐集せしものにして世祖の時より英祖の時に至る一百餘人の古今體詩及詩話を編次し末に拾遺別集并に別集補遺を附し英祖十三年丁巳に刊行し哲宗八年丁巳之を重刊す

○ 風謠續選

七卷三冊 千壽慶編 印本

圖書番號 五一三九、一一六〇四

英祖丁巳昭代風謠成りたる後に於ける三百三家の詩七百二十三首を集めたるものなり前編は五

集部

七言古體近體等詩體に依りて類選せるも續編は

閱覽の便を圖り作者を主とし各體を併載せり正祖丁巳に刊行す

千壽慶字は君善松石道人と號す錦溪の人なり能詩を以て知らる

○ 風謠三選

七卷三冊 劉在建編 印本

圖書番號 五二〇六、五二〇七、五四八六、六九九五

英祖丁巳蔡彭胤閩巷の逸詩を採集し之を昭代風謠と名け刊行す後六十年正祖丁巳松石千壽慶之に繼いて風謠續選を編す更に六十年哲宗丁巳に至り劉在建崔景欽等續選以後の逸詩を採集し風謠三選と名け以て刊行す

劉在建字は徳初兼山と號す江陵の人玉川府院君徽の後孫なり正祖癸丑に生れ李太王の時官上護軍に至り庚辰に歿す幼より聰明にして神童の稱あり詩禮に篤く又篆楷に工にして久しく奎章閣に供奉し列聖御製を編摩したる功勞多くために屢恩典を被る然れども家世世寒微なりしを以て官行史に止まる法語兼山筆記等の著あり

六八五

○ 東文選

一五四卷四五冊

徐居正等編 印本
申用溉等編 印本

圖書番號 二八八、三五三八、三六〇二、四三二六

新羅より朝鮮の初期に至る諸家の詩文を聚めたるものにして正續二編あり正編は成宗九年徐居正等に命して之を選輯せしめ續編は中宗の時申用溉等に命して正編成りし後四十餘年間の製述を選輯せしめたるものなり

○ 文苑黼黻

四五卷二二冊

印本

圖書番號 二八三三、二八八四、二八八五、二八八六、三〇七七、三五七八、五七四二、五八八七、六一四九

正祖十一年丁未の編に係り收むる所玉冊文、頌教、慰諭教文、教命文、竹冊文、祭文、哀冊文、上樛文、賜祭文、教書、國書、露布等にして多くは館閣諸臣の製述に係れり國書中に答日本書、回琉球書、露布に破平壤城假賊露布等あり

○ 文苑黼黻續編

一〇卷六冊

印本

圖書番號 二八一八、二八四一、五一五二、五四九七、五

七三八、五九〇六、六五四一、六六二二

○ 文苑大方

三〇卷三〇冊 寫本

圖書番號 一六一六

朝鮮歴代の事實を例證したるものなるも正祖、純祖、憲宗に關するもの最も多し全部三十卷に分ち第六卷以上に頌教文第七卷に樂章、哀冊文、箋文、批答第八卷に玉冊文、竹冊文、教命、致祭文第九卷に告由、親祭、致祭、賜額、賜祭文第十卷に教書、配享、几杖、致仕第十一、二卷に内閣教旨、教書、外任第十三卷に迎勅、頌教文、奏文、表、咨文第十四、五、六、七、八卷に上樛文第十九、二十卷に箋文第二十一卷に四六各體、賀序、賀啓第二十二卷に大殿春帖第二十三卷に帖規第二十四卷に輓章、進香文第二十五、六、七卷に列聖誌狀第二十八卷に綸綍第二十九卷に笏記、軍令、祀典

祀式第三十卷に公移占録を収載せり

○ 詞垣英華

六卷六冊

寫本

圖書番號

四六六四

正祖春邸にありし時朝臣の製進せし頌教文教命文、祭文等を編成し詞垣英華と題す弘齋全書群書標記に收む

○ 大東文粹

一冊

張志淵編

印本

圖書番號

七五五六

編者か私立徽文義塾編輯部に在りし時教科の用に供するため箕子朝鮮、三韓、新羅、高句麗、百濟、高麗、朝鮮三千年間の文章を選ひ光武十年丁未に刊行したるものなり

○ 大東詩選

一二卷六冊

寫本

圖書番號

五二〇、五二一

箕子の麥秀歌、洌水歌、高句麗琉璃王の黃鳥歌、新羅真徳女王の大唐太平頌等古歌謠を初とし其の他孤雲、崔致遠、圃隱、鄭夢周、牧隱、李穡、陶隱、李崇仁、近思、齋悞遜、真逸、齋成侃、退溪、李滉、栗谷、李珣、月沙、李廷龜、澤堂、李植、東溟、鄭斗卿、尤菴、宋時烈、息菴、金錫胄、谷雲

集部

金壽墳、文谷、金壽、恒農、巖、金昌協、三淵、金昌翁、圃陰、金

昌緝、茅洲、金時保、北軒、金春澤、陶菴、李緯、圃岩、尹鳳朝

槎川、李秉淵、悔窩、安重觀、檜巢、金信謙、貞菴、閔遇洙、梅

月堂、金時習、秋江南、孝溫、睡隱、姜沆、重峰、趙憲、老村、林

象徳、僧休、靜雪、谷鄭、誦愚、伏鄭、經世、一峰、趙顯、期、閔秀

李淑媛等の各體詩を分類蒐輯せしものなり

○ 海東詩選

一九卷一九冊

趙琮燮編

寫本

圖書番號

七六〇〇

新羅高麗以後朝鮮純祖の時に至る歴代の製と諸家の詩を選録す

趙琮燮字は稗宗、楊州の人、應教、濟魯の孫なり

○ 續青丘風雅

七卷一冊

寫本

圖書番號

一〇〇三

青丘風雅を續選したるものにして五絶は金淨等十六人、七絶は姜渾等六十一人、五律は金安國等三十九人、五排は鄭士龍等四人、七律は姜渾等五十二人、五古は金安國等十三人、七古は洪裕孫等二十人編して七巻と爲せり

○ 青丘詩鈔

一冊

印本

六八七

圖書番號 自一八三六至一八三八

大正四年京城に施政五年記念物産共進會を開設したる際總督府に於て檀君以後高麗以前の詩詞の優雅なるもの若干首を選鈔し衛夫人活字を以て朝鮮紙に印出し同好に頒ちたるものなり總督寺内正毅伯千古文華の四字を卷首に題せり

○律選

四卷四冊

寫本

圖書番號 九八八九

唐、宋、明及朝鮮諸家の七言律詩を選取編次したるものなり

○古今詠物近體詩

三二卷一七冊

劉在建編

寫本

圖書番號 六九二六

古今の詠物詩を選録したるものにして天道、地道、人事、樓臺、飲食、花木、魚鳥等に付き唐、宋、元、明及朝鮮の詩を蒐集せり

○選賦

二卷二冊

印本

圖書番號 一三八〇

文選中より離騷以下の賦を揀取し唐、宋諸家の賦

を併せ更に高麗李崇仁、李奎報、朝鮮徐居正、金駟孫等の賦を采録したるものなり

○海東辭賦

二卷二冊

印本

圖書番號 一四四七、四二〇九、一一五三六

高麗の李奎報、李穡、李達、衷李崇仁及朝鮮の徐居正、金宗直、成侃、南孝溫、金駟孫、李膺、閔齊仁、金麟厚、李春英、李安訥、趙纘、韓趙希逸、申最等の詩賦を蒐輯したるものなり

○皇華集

五〇卷二五冊

英祖命編

印本

圖書番號 二五八五、三〇〇八、三〇〇九、三〇一〇、五

五四四、五五四五、五七六五、六一三六、六八三四

世宗三十二年庚午明使倪謙及司馬恂來り景帝の登極を報す接伴諸人其の唱酬の詩文を編刊し詩の皇皇者華の義を取り皇華集と名く嗣後例を成し世祖二年丁丑陳鑑、高閔來り英宗の復辟を報し四年己卯陳嘉猷來り五年庚辰張寧來り又九年甲申金湜及張城來り憲宗の登極を報し成宗七年丙申祁順及張瑾來り冊儲を報し十九年戊申董越及王敬來り孝宗の登極を報し二十三年壬子艾璞來

り冊儲を報し中宗元年丙寅徐穆來り武宗の登極を報し十六年辛巳唐阜及史道來り世宗の登極を報し三十二年丁酉龔用卿及吳希孟來り儲子の誕生を報し三十四年己亥華察及薛廷寵來り上號冊儲を齎し仁宗元年乙巳張承憲來り中宗の諡賻を齎し明宗元年丙午王鶴來り仁宗諡賻を齎し同十二年丁卯許國、魏時亮來り穆宗の登極を報し宣祖元年戊辰歐希稷來り明宗の諡賻を齎し同年成憲、王璽來り冊儲を報し同六年癸酉韓世能、陳三諶來り神宗の登極を報し同十五年壬午黃洪憲、王敬民來り儲子の誕生を報し同三十五年壬寅顧天堦、崔廷健來り冊儲を報し同三十九年丙午朱之蒼、梁有年來り元孫の誕生を報し光海君元年己酉熊化來り宣祖の諡賻を齎し仁祖四年丙寅姜曰廣、王夢尹來り儲子の誕生を報し同十一年癸酉總兵程璉、島衆を安撫せんとして海路より來り廣州に駐節せり前後の使節二十四回竝に皇華集一卷乃至六卷なり英祖四十九年癸巳之を合して一部と爲し以て刊行す

集部

○ 世宗庚午皇華集 一冊 印本

圖書番號 二〇〇一、二〇〇二、二〇〇八、三六七三

世宗三十二年庚午明使倪謙、司馬恂來り景泰登極を報したる時館伴諸人の沿路題咏と唱酬諸什とを編輯したるものなり

○ 世祖丁丑皇華集 一冊 印本

圖書番號 一九八九、一九九七、三六九三、三六九四、三

六九五

世祖二年丁丑明使陳鑑、高閏來り英祖復辟の事を報す世祖書局に命して兩使の題咏唱酬したる詩文を編次刊行したるものなり

○ 世祖己卯皇華集 一冊 印本

圖書番號 一九九三、一九九九、三七二五、三七三一

世祖四年己卯明使陳嘉猷事を竣り還る世祖儒臣に命し其の題咏唱酬したる詩文を輯し館伴諸臣の和章を附し之を印刊せしむ

○ 世祖庚辰皇華集 一冊 印本

圖書番號 二〇〇七、二〇一〇、三七三二、三七三六、四

六一二

世祖五年庚辰明使張寧の題咏唱酬詩文を編輯刊行せしめたるものなり

○ 世祖甲申皇華集 一冊

印本

圖書番號 二〇〇〇、二〇〇五、三六九七

世祖九年甲午明憲宗の即位頒詔使金湜張城等の紀行隨録を有司に命し纂輯し任元瑋等の酬唱を並附したるものなり

○ 成宗丙申皇華集 二卷二冊

印本

圖書番號 一九七七、一九八〇、一九八一、一九八三、三

六八一、三七一、九、一一五三

成宗七年丙申明憲宗儲嗣を冊立し正使祁順副使張璣を遣す成宗兩使の所製詩文を印傳し徐居正に命して序文を撰せしめ和韻の詩と共に之を印刊す

○ 成宗戊申皇華集 二卷二冊

印本

圖書番號 一九七七、一九七八、三七二七、三七一八、三

七二一

成宗十九年戊申明孝宗登極し正使董越副使王徹來報す成宗命して兩使の紀行と詩文若干とを取

集し魚世謙序文を作り酬唱諸作を並附して印刊せしむ

○ 成宗壬子皇華集 一冊

印本

圖書番號 一九八六、一九九二、三七三〇、三七三三

成宗二十三年壬子明孝宗儲位を冊し頒詔使艾璞來り報す伴接使盧公弼、艾使の詩藁を袖進し宣祖鏡梓を命し丙寅正使徐穆の詩若干篇を並附して印刊す

○ 中宗辛巳皇華集 二卷二冊

印本

圖書番號 一九八二、一九八三、三六八一、三七二〇

中宗十六年辛巳明世宗即位し頒詔使唐阜、史道來る仍て書局に命し紀行詩文若干篇を纂次印出し李荇、蘇世讓等の和詩を並附す

○ 中宗丁酉皇華集 五卷五冊

印本

圖書番號 一九七四、一九七五、一九七六、三六七七、三

六七八、三六八〇

中宗三十二年丁酉明世宗生子の慶に因り頒詔正使龔用卿副使吳希孟の來りし時紀行詩文を命編し伴接諸臣の唱酬を並附刊行したるものなり

○ 中宗己亥皇華集 五卷四冊 印本

圖書番號 一九七五、一九八四、三六七六、三六七九

中宗三十四年己亥明世宗上號冊儲頒詔使華察、薛廷寵等の題詠を命編し諸臣の唱酬を並附刊行したるものなり

○ 仁宗乙巳皇華集 一冊 印本

圖書番號 一九九四、二〇二二、三六七四

仁宗元年乙巳明使張承憲中宗の賻謚を致し歸還の時伴送使申光漢其の唱酬詩稿を進め仁宗有司に命して編次上梓せしむ

○ 明宗丙午皇華集 一冊 印本

圖書番號 一九八五、二〇〇六、三七三七、三七三八

明宗元年丙午明使王鶴來り仁宗の諡祭を致す仍て鄭士龍に命し其の唱酬詩文を編輯刊行せしめたるものなり

○ 明宗丁卯皇華集 一冊 印本

圖書番號 一九九一、一九九五、三七二四、三七二九

明宗二十二年丁卯明使許國魏時亮來り隆慶登極の報を齎し境に抵る明宗昇遐して宣祖即位し游

集部

賞酬唱すること能はず亟に還る伴接使朴忠元其の紀行詩若干を得て進む宣祖乃ち洪暹に命して之を編刊せしむ

○ 宣祖戊辰皇華集 一冊 印本

圖書番號 二〇〇三、二〇一七、三七二六、三七三五

宣祖元年戊辰明使歐希稷來り明宗の諡賻を致す宣祖有司に命して其の詩文を輯め上梓す

○ 宣祖戊辰皇華集 一冊 印本

圖書番號 一九九〇、二〇〇七、三七二七、三七二八、三七三四

宣祖元年戊辰明使穆宗儲嗣を冊立し成憲、王璽來り報し伴送使朴淳兩使の沿途の題詠及別詩を録呈す宣祖書局に付して釐次摹印せしむ

○ 宣祖癸酉皇華集 一冊 印本

圖書番號 一九七九、三七二二、三七二九

宣祖六年癸酉明使韓世能、陳三謨來り神宗登極の報を齎す宣祖即ち沿途吟咏の詩章及伴接諸人の酬唱を編し書局に付して印せしむ

○ 宣祖壬午皇華集 一冊 印本

六九一

集部

六九二

圖書番號 一九八八、一九九八、三六七一、三六九六

宣祖十五年壬午明神宗生子の慶に因り詔使黃洪憲王敬民來り報す宣祖乃ち有司に命し其の唱酬の詩文を編輯刊行せしむ

○ 宣祖壬寅皇華集 一冊

印本

圖書番號 一九八七、三六七二

宣祖三十五年壬寅明神宗儲嗣を冊立し詔使顧天堧崔廷健來る宣祖其の唱酬詩文を書局に命し印出せしむ

○ 宣祖丙午皇華集 六卷五冊

印本

圖書番號 二八七八、三五六五、三五六七、三六七七、一

一五三七

宣祖三十九年丙午明神宗孫男誕生の慶に因り頒詔正使朱之養副使梁有年來る宣祖書局に命し其の唱酬詩文を編印せしむ

○ 光海君己酉皇華集 一冊

印本

圖書番號 一九九六、二〇〇四、三六七五

宣祖戊申に昇遐し明年己酉明神宗行人熊化を遣し弔禮を修む伴送使柳根熊使の詩文を將て乙覽

に供す光海君即ち命して鈔梓せしむ

○ 仁祖丙寅皇華集 四卷三冊

印本

圖書番號 二九七八、三五六四、五七三九、六二二、七七

八九

仁祖四年丙寅明熹宗生子の慶に因り頒詔使姜曰廣及王夢尹來る仁祖書局に命して唱酬の詩文を鈔梓せしむ

○ 仁祖癸酉皇華集 三卷二冊

印本

圖書番號 七四九〇

仁祖十一年明總兵程龍海路より來り廣州に駐節せし時の唱酬詩文頗る多し仍て刊行せしむ

○ 東槎錄 一冊

寫本

圖書番號 一四三三

中宗三十四年己亥明使薛延寵を義州に迎接したる蘇世讓か從事官正郎嚴昕輔德崔演修撰林亨秀等三人と相唱和したる詩を收録したるものなり

○ 集慶堂頌 一冊

寫本

圖書番號 三二八〇

英祖慶熙宮集慶堂に常御し癸巳の年不豫に遭ひ

しも即時に平愈し此の堂に於て賀儀を受く仍て原任大臣近密の臣及承旨吏官等に命して撰せしめたる賀頌を載録したるもの是なり

○健陵輓詞

二冊

寫本

圖書番號 一三二八

正祖國葬の時に於ける諸臣の輓詞を蒐集したるものなり

○館閣類集

一冊

寫本

圖書番號 一二四六四

李太王の初景福宮重朔の時に於ける闕内の各殿各門の上樑文と議政府政本堂重建記、協宣堂重修記、佐成堂記、夙夜堂記、石畫堂記、政本堂、佐成堂上樑文等を收録したるものなり

○東省校餘集

二卷一冊

鄭元容編 印本

圖書番號 五三二六

純祖十七年正祖御製及弘齋全書の校正監印に従事したる奎章閣臣金載瓚、金祖淳、沈象奎、南公轍、徐榮輔、朴宗慶、李存秀、金履喬、朴宗薰、李魯益、李龍秀、李光文、李元容、朴綺壽、李鶴秀等か公務の暇日に唱酬

集 部

往復したる詩を收集編成し印行したるものなり

○百歲榮壽帖

一冊 李喜臣編 印本

圖書番號 三六六〇、四八二五

李太王乙丑全羅道南原府の李容華なる者齡百一歳に達し特に知中樞府事を授けられ便殿に引見し賞賜甚た優にして興宣大院君一詩を賦贈し舉朝大官以下皆之に賡和せしか其の子孫之を收編刊行す

李喜臣は全州の人敬寧君の後孫にして僉中樞容華の姪なり

○淵谷書院講會韻

一冊

寫本

圖書番號 三二〇六

全羅南道長興郡に淵谷書院あり老峰閣鼎重此の地に謫居し學を興し俗を化す邑士追慕の餘院を建て之を享祀す老峰の後孫閔致成同郡に宰たり將に還らんとし講會を淵谷書院に開き絶句一首を賦す邑儒韻に次し之に和したるもの即ち是なり

○浮碧樓觴詠錄

一冊 黃澄編 印本

六九三

集部

六九四

圖書番號 五二六〇

祖十七年林悌か黄澄、李仁祥、金溟翰、盧大敏、金璽玉其の他の諸人と平壤浮碧樓に遊ひし時の酬唱を集めたるものなり

○ 咸山板題

一冊

寫本

圖書番號 五四二一

咸鏡南道咸興に在る亭閣樓臺等の題詠を集編したるものなり

○ 楊御史頌德詩稿

一冊

印本

圖書番號 六六六五

宣祖壬辰明の御史楊鎬經理を以て朝鮮に駐紮せし時李德馨等三十餘人の贈りし頌德詩を集編したるものなり

○ 農淵挽別

一冊

寫本

圖書番號 七三〇〇

金昌協及金昌翁兄弟の詩集中より挽詞と別章とを揀取したるものなり

○ 晚德唱酬錄

一冊

朴光一編 印本

圖書番號 六二二三

宋時烈濟州に流配せられたる時弟子朴光一等か途次に唱酬したる詩を哀録し日記と聳珍唱酬錄とを附したるものにして純祖辛酉光一の孫夏鎮之を刊行す晚德は海南縣の寺名なり

○ 癸巳俞尹往復書

一冊

俞相基編 印本

圖書番號 四二六〇

肅宗三十九年癸巳左相李頤命の奏請に依り故副提學俞棨の作に係る家禮源流を全羅監司に命じて開刊せしむ時に棨の孫相基龍潭縣令たり仍て自ら其の校正に當れり明齋尹拯は其の初本を市南俞棨及父尹宣舉と共に編し十中の四五は尹宣舉の改定せしものなりと主張し遂に俞尹兩家の論辨を生ず其の往復書翰を俞家に於て編輯刊行したるものなり

○ 儷文程選

一〇卷五冊

李植編 印本

圖書番號 四九九九、五五二一

六朝及唐宋諸家の制詔表啓狀書詞榜露布牒檄致語上樞文序碑誌祭文連珠等を類收し又別集として賦碑頌を編輯し後學の儷文肄習のためにする

ものなり朝鮮中葉以後一時盛に行はれ苟も科業に志す者にして本書を讀まざるはなかりしと云ふ

○ 儷文集成 一八卷六冊 金鎮圭編 印本

圖書番號 七〇四二

明人其の他諸家の儷文を集成したるものにして詔敕冊制批答表狀議啓露布檄牒序碑連珠判賦致語上樞文勸農文青詞疏祝祭文諡議墓誌等の各體あり序に曰ふ典翰趙仁奎の類編は繁にして精ならず澤堂の程選は偏に失し息庵壺谷の抄する所は略に病む云と肅宗壬辰の年なり

○ 唐律廣選 七卷六冊 李敏求編 寫本

圖書番號 七三二〇

唐の律詩を分類選輯したるものにして序に曰ふ初唐盛唐は十に其の九を擧げ中唐は五に其の三を擧げ晚唐は三に其の一を存し杜甫の如きは此に並録せずと仁祖甲戌の刊行なり

○ 全唐近體選 二〇卷五冊 申緯編 寫本

圖書番號 五〇九五、五五二五

集部

文祖東宮に在りし時江華留守申緯に命し抄選せしめたるものなり唐詩近體五七律絶數百首を收む

○ 杜陸千選 八卷四冊 印本

圖書番號 九三八、一一〇二、一一二九、一八〇六、一八六

七、一八六八、二〇五七、二二一〇、二二一一、二二四、二

二〇九、二二三三、二二三四、二二三五、二二三六、二二三〇

二二三一

杜律五七言陸律五七言各五百首を拔萃し活字を以て印出したるものなり

○ 唐宋八子百選 六卷三冊 印本

圖書番號 八九〇、九三〇、九三六、九三七、一八七一、二

〇九四、二〇九五、二一八二、二一八三、自二一八四至二二〇

〇、自二二〇六至二二〇八

唐宋八家文の中百篇を選輯したるものにして第一卷に表上書荀子第二卷に論策第三卷に書序第四卷に記第五卷に禱著第六卷に碑墓誌墓表傳祭文等を按排す

○ 程書分類 三〇卷一三冊 宋時烈編 印本

圖書番號 五一九四、五六三四

六九五

伯叔二程子の全書中より五經四書に關する句語と理氣性理學、聖賢、歷代、治道、異端等に關する句語とを節録して分類し又明道文集として銘詩奏疏表書記祭文行狀、墓誌、賦、論、策等を收め伊川文集として奏疏表學制雜著、書啓禮、葬說、祭禮、行狀、墓誌、祭文、家傳、頌詩、序、銘、書等を收めたるものなり

○ 文史咀英

八卷四冊

印本

圖書番號

四六二七、四六六五、四六六六、六六四〇

憲宗東宮に在りし時誦習に便するため歐陽修及蘇軾の文章各若干篇を選定し釐めて八卷と爲し上木したるものにして出版は純祖二十九年己丑なり

○ 己百編

二卷二冊

徐耕輔編

寫本

圖書番號

六二四四

徐耕輔か漢の司馬遷、班固、唐の韓愈、柳宗元、李翱、宋の蘇洵、蘇軾、蘇轍、王安石、曾鞏等の文を選抄したるものなり

徐耕輔字は任世、卯翁と號す達城の人大提學有臣の子なり英祖辛卯に生れ蔭補を以て郡守となり

純祖乙酉文科に登り文任を歴て官行吏曹判書に至る筆名あり

○ 玩樂編

一冊

寫本

圖書番號

七五五一

論語、孟子、詩、經及古文中に就き所好の箇所を抄出したるものなり

○ 古今詩律精選

一〇卷一〇冊

寫本

圖書番號

四四三四、七四八五

唐より清に至る諸家の五七言律詩を選録したるものなり

○ 三大家詩集

一〇卷一〇冊

金堉編 印本

圖書番號

七三一九、七四八四

孝宗九年戊戌金堉か唐の杜甫、李白、韓愈三家の詩を蒐輯し註釋を附したるものなり

○ 選文掇英

三卷三冊

印本

圖書番號

五八六二

肅統の文選中より英華を掇取したるものなり

○ 大明律詩

二卷一冊

印本

圖書番號

四五〇二、四五〇三、四五〇四、五一五五、五

明諸家の七律を選取したるものなり

○ 皇明正嘉八才子文鈔 八卷三冊 印本

圖書番號 三九〇五

明の徐禎卿、唐寅、王廷陳、黃省、曾田汝、成陳東、袁袞、皇甫等八家の文を鈔出刊印せしものなり。張治道、鄭曉、胡侍、王維楨、童承叙、陳德文、何良俊七家の文若干篇を卷尾に附す

○ 明五大家律詩鈔 八卷三冊 印本

圖書番號 六九八二、七四八六

明の李夢陽、何景明、李攀龍、王世貞、吳國倫等五家の詩律を鈔出刊印したるものなり

○ 鹿門弇州文抄 三卷三冊 申最編 印本

圖書番號 七二九三

申最か外姪金錫胄に古文を授くるため明の鹿門、茅坤、弇州、王世貞二家の文章を選輯したるものなり

題評類

集部

○ 破閑集 三卷一冊 李仁老著 印本

圖書番號 五二七五

高麗の人李仁老名儒韻釋の題詠湮没し傳はらざるを慨し之を収録したるものにして詩話あり文談あり又紀事あり自作あり元宗元年庚申子世黃之を刊行す

李仁老字は眉叟、雙明齋と號す平章事顙の曾孫なり高麗毅宗壬申に生れ明宗庚子文科に登り官翰林を経て左諫議大夫實文閣學士に至り能文善書を以て名あり高宗庚辰に歿す

○ 補閑集 三卷一冊 崔滋著 印本

圖書番號 四五八〇、四七〇七

李仁老曾て東方古今諸家の名章秀句を採り破閑集の著あり著者之を續けて更に優麗なる近體若干句及俚巷の瑣言乃至趣味ある史實、浮屠、妓女輩の談柄を收拾補足す本書是なり高麗高宗四十一年甲寅に成る

崔滋字は樹德東山と號す文憲公冲の後なり高麗明宗戊申に生れ康宗の時文科に登り官翰林學士

を経て守太師平章事に至り元宗庚申に歿す諡を
文清と云ふ

○東人詩話 二卷一冊 徐居正撰 印本

圖書番號 一五五二

新羅より朝鮮國初に至る詩話を編輯したるもの
にして成宗五年甲午に刊行し仁祖十七年己卯李
必榮之を重刊す

○杜詩批解 二六卷一四冊 李植著 印本

圖書番號 一〇六〇

唐の杜甫の詩五七律を註解せしものにして著者
の曾孫箕鎮慶尙道觀察の時之を刊行す英祖十五
年己未なり

○四部手圈 二五卷一二冊 印本

圖書番號 五一、一七八七、二八二二、三六二二、四二二

二、五八五一、五八五二

正祖文學を嗜み常に經史百家を繙き會心の處に
至らは手圈を附す後之を摭收して一本と爲し四
部手圈と名く經に於ては儀禮、周禮、禮記史に於て
は史記、漢書、後漢書子に於ては周、程、張、朱を採り集

に於ては陸宣公、韓文公、柳州、王臨川、歐陽廬陵、蘇老
泉、蘇東坡、蘇穎濱、曾南豐を採れり純祖元年辛酉に
刊行す

○小華詩評 一冊 寫本

圖書番號 五四九一

高麗及朝鮮の名詩を品評したるものにして或は
全首を載録し或は聯句のみを選鈔し各其の下に
作者の名を録せり

詞曲類

○龍飛御天歌 一〇卷五冊 印本

圖書番號 一八四六、一九二二、二〇二五、二〇二六、二

三四九、二三五〇、二九二〇、五四四四

世宗二十七年乙丑權躡、鄭麟趾、安止等太祖の化家
爲國の事蹟を百二十五章の歌詩に作り諺文を以
て記し漢字にて之を解し上進して管絃に和せし
め郷國に用ひんことを期せり世宗之を嘉歎し更
に崔恒、朴彭年、姜希顔、申叔舟、李賢輔、成三問、李垓、辛
永孫等に命し註解を加へ世祖十二年丁亥に出版

す序は鄭麟趾跋は崔恒の撰なり

○ 國朝樂章

一冊

印本

圖書番號

二九二四、三二六八、三五六三、三八〇九、一

一五二六

英祖の時洪啓禧、徐命膺等をして編刊せしめたるものにして宗廟樂章、文昭殿樂章、列朝樂章、列朝上尊號樂章、列朝追上尊號樂章、進豐呈樂章、朝會禮宴儀通用樂章、親耕樂章、觀刈樂章、親蠶樂章、大射禮樂章等を收む

○ 觀刈樂章

一冊

趙觀彬撰

印本

圖書番號

一一四三二

英祖丁卯親臨觀刈の時趙觀彬の製進せしものにして樂章二首あり

○ 慈宮樂章

一冊

印本

圖書番號

七〇八四、七八六六、一一五六〇、一一五六一、

一一五六二

正祖乙卯慈宮獻敬后の回甲に當り華城(水原)行宮に臨駕し進饌す此は其の時の樂章にして長樂五章、觀華五章、老萊衣五章、萬年五章共に諺文を以て

集部

解釋せり長樂觀華の二章は御製慈宮臨華城行宮

進饌時樂章と首題し老萊衣萬年二章は御製慈宮

周甲日進饌樂章と首題し別に單行本あり

○ 圓鑑國師歌頌

一冊

釋冲止著

印本

圖書番號

七六七四

海東曹溪宗第六世圓鑑國師の歌頌を集めたるものにして高麗忠烈王二十三年丁酉に上侵したるものなり

釋冲止初の名は法恒、宓庵と號す俗姓は魏氏、定安の人なり魏紹の子にして高麗高宗丙戌に生れ年十九壯元に登第し日本に使す其の後僧となり禪源社に於て主法し直造堂を師として具を受け四十歳金海縣甘露社に住す忠烈王風を聞き徳を嘉し使を遣して之を迎へ賓主の禮を以て遇し金襴袈裟、碧繡長衫、白拂一雙を與ふ其の壬戌に寂す年六十七圓鑑と諡し塔を寶月と稱す

○ 海東樂府

一冊

沈光世著

印本

圖書番號

七八四三

明李東陽の西崖樂府の體に倣ひ兒童教訓のため

六九九

に作れるものなり光世の序に曰く予偶ま西崖樂府を讀み其の辭剗切にして引事比類能く人をして感發興起せしめ初學を補ふ甚た大なるものあるを愛す仍て東史を閱し其の中に就き賛詠鑑戒となるべきもの若干を採りて歌詩と爲し名けて海東樂府と云ふと光海君九年丁巳の刊行なり

○江南樂府

一冊 趙顯範著 寫本

圖書番號 六三三三

正祖八年甲辰の著なり江南は全羅南道順天郡の別稱にして郡中忠孝義烈の敬慕すべきもの風土俗尙の詠歌すべきもの其の他奇事異蹟の傳稱すべきものに付き高麗より朝鮮英祖に至るまでの事蹟を採撫し海東樂府の體に倣ひ題目を分ちて纂述し以て勸戒の意を寓せり

趙顯範字は聖晦、淳昌の人にして度谷瑜の後なり

○詞曲源流

一冊 寫本

圖書番號 三八九七

朝鮮の俗歌音曲及昔人の作に係る歌詞を諺文を以て記したるものなり

○勸善懲惡歌

一冊 寫本

圖書番號 五四六三

郡民に勸めたる歌謠にして諺文を以て繙譯し婦女孩兒に至るまで能く讀解し易からしむ孝を以て主旨と爲せり

○古歌

一冊 寫本

圖書番號 七九一七、七九一八

上古より東漢に至るまでの古歌を蒐輯して謄草したるものなり

功令類

○科文規式

一冊 寫本

圖書番號 九九四五

科文製述の規式を載録したるものにして賦の三十句と表の請謝進賀辭乞六體及詔制策箴銘頌論並に詩の製作に就ての程式を示せり

○科儷規式

一冊 寫本

圖書番號 七〇七七

科文中表の賀進謝請辭乞の六體及詔制策箴銘頌

贊進奏文等述作の文體を収録し附するに字會三韻相通し平仄通用の字類其の他二十八宿六甲六十四卦歷代國名州名色類四時類數類等各字の對偶儷句の頭字中字末字等の例用を以てす又殿策套あり

○ 震表

三卷三冊

寫本

圖書番號 三五七三

仁祖以前の科表を編輯したるものにして賀進請謝乞の五體あり震表は東國科表の謂なり

○ 科表集抄

一冊

寫本

圖書番號 七三〇一

肅宗十六年甲午より癸卯に至る科試入格の四六文を蒐寫したるものなり

○ 頌引箴銘集抄

一冊

寫本

圖書番號 一一六〇三

科文中頌引箴銘等を編成したるものにして英祖正祖兩代間に亘れり末に肅宗の銘を寫載す

○ 科試詩抄

三卷三冊

寫本

圖書番號 一一〇六九

集部

科詩を抄録したるものにして或は名を録し或は録せず大抵肅宗及英祖の時の人なり

○ 表私集

一冊

寫本

圖書番號 六七〇六

肅宗の時科表を私習し之を集録したるものなり

○ 東策

二卷二冊

寫本

圖書番號 七四八一

肅宗及英祖の時に於ける登第諸人の對策文を収録したるものなり李光佐等の甲戌別試を初め洪啓禧等の丙申別試會試其の他翰林召試等四十餘人の治術救弊に關する策文を收む

○ 科試箴銘頌

一冊

寫本

圖書番號 七六七八

肅宗及英祖の時に於ける文科入格の箴六首銘二十八首頌十四首を收載したるものなり

○ 庚寅七夕製科作

一冊

寫本

圖書番號 九八七三

英祖十年庚寅七夕製を設行し殿策として題を懸

七〇一

く時に李赫胄、李會遂、李尙履對策に入格す此は其の科作なり李赫胄は全州の人判書晬光の後孫にして官縣監に至る李會遂字は有秋全州の人判尹彦衡の子なり英祖甲子に生れ癸巳文魁に登り官校理に至る李尙履は廣州の人なり

○ 庚寅九日製科作

一冊

寫本

圖書番號

九八九五

英祖十年庚寅九日製を設行せし時朴道翔及鄭國仁の殿策に入格したる科文を録せり朴道翔字は鸞斯西園と號す密陽の人弼善胤東の孫なり英宗戊申に生れ庚寅文科に登り官承旨に至る儷文製述に嫻し當時朴表の稱あり鄭國仁は延日の人右相維城の後孫にして官府使に至る

○ 兩儒對策

一冊

寫本

圖書番號

二九四六

英祖三十一年乙亥殿庭に於て策を試みたる際優等を以て入格せし進士鄭粹徳、生員任希曾等の文と策題とを収録したるものなり鄭粹徳後弘徳と

改む字は原明、河東の人士人益泰の子なり肅宗三十六年庚寅に生れ英祖三十九年癸未司馬より文科に登り官縣監に止まる任希曾字は孝彦、豐川の人承旨珣の子なり肅宗三十九年癸巳に生れ英祖二十年甲子司馬に中り癸未文科に登る官判敦寧に至り正祖の初に歿す

○ 辛卯式功令文

一冊

寫本

圖書番號

九八六四

英祖四十七年辛卯東堂試科に入格せし表疑賦論、策題等を収録したるものなり

○ 泮庠科詩集

一七卷一七冊

寫本

圖書番號

七四六九

朝鮮の科擧中陞補の一目あり成均館大司成試官となり之を考試す此は其の狀元に中りし者の詩を蒐羅し英祖二十年甲子より李太王十二年乙亥に及へり

○ 鎖院程式

一冊

寫本

圖書番號

一八二〇

正祖即位の初年丙申庭試の初試を設け多士を試みたる時入格したる策四篇論一篇箋一篇を謄寫合編せしものなり鎖院とは試所を謂ふなり

○臨軒功令

七八冊

寫本

圖書番號 一一四三七

應製文字を蒐輯したるものにして外道より試取したるものを附載す蓋し王親臨し文臣儒生を考試するを臨軒と云ひ其の親試したる箴銘頌詩賦表策義疑等を功令と云ふ收むる所正祖元年丁酉に始まり李太王十二年乙亥に終れり

○瓊林聞喜錄

三卷一冊

印本

圖書番號

二八三九、四〇八〇、四一三七、四一五八、四

一六五、四一六九、五四六二、六三四四、六三四五、六五三

九、六五四〇、六六五三

正祖十五年辛亥題を成均館に下し館學諸生及諸蔭官をして賦表古詩長律四體を製進せしむ其の應製實に三千人に達せり正祖親しく考して九十人を選び越えて二日臨軒更試して表詩賦の三體より十五人を選す此は其の優等の科作を印頒し

集部

たるものなり

○奎華名選

三三卷六冊

印本

圖書番號

三六一〇、自四九八七至四九九六、五七六六、

五七六九、五八九九、五九〇〇、六一九八、六七一五、六七

九五

正祖十七年癸丑奎章閣に命し抄啓文臣の應製文字を刊行せしめたるものにして抄啓文臣の設置竝に經綸と抄啓座目及講製程式を卷首に掲げ編を甲乙に分ち甲編は辛丑選洪履健等十五人乙編は壬子選沈晋賢等十六人の詩文を録し謝箋は卷尾に附せり

○正始文程

三卷一冊

印本

圖書番號

四七九四、五五三九、五五四一、五五四二、五

五四三、六五四三、六五四四、六六六四、六八六七、七〇二一、

七〇二五

正祖屢教を下して科舉應製の文甚た善からざるを戒飭す其の十九年乙卯に至り抄啓文臣試券と泮儒應製試券とを考し奎章閣に命して入格の表賦詩諸篇を印行せしむ

七〇三

○ 寶興錄

三冊 奎章閣編 印本

圖書番號 六三三二、六七四三、自六八一六至六八二八

正祖の時に編刊したる瓊林閣喜錄三卷嶠南寶興錄二卷關東寶興錄五卷耽羅寶興錄一冊正始文程三卷豐沛寶興錄三卷を合編したるものなり寶興の二字は周禮の大司徒以卿三物寶興の義に取れり

○ 嶠南寶興錄

二卷一冊 奎章閣編 印本

圖書番號 四九七六、四六四九、四六五〇、四六五一、五

二六、五一七、五〇一八、五〇一九、五〇二〇、五三三九、
一一四二三

正祖十六年壬子李彦迪の玉山書院慶州と李況の陶山書院禮安とに閣中李晩秀を遣し祭を致し祭畢りて儒生を試取し試券を視考し姜世白等二人を文科に擢し金象九等二十七人に賞賜す仍て奎章閣に命し前後傳教致祭祭文閣臣の狀啓榜目科作等を編輯せしめ道に命して刊印せしめたるものなり

○ 關東寶興錄

五卷二冊 奎章閣編 印本

圖書番號 四一〇三、四六五九、四六六〇、四六六一、四

六六二、四六六三、四七八八、四七八九、六一七七、六五五九、
七〇四六、七二四〇

正祖十七年癸丑江原觀察使沈普賢に命し道内儒生の功令生及經工生を抄選し殿庭に試し功令生申在和等四人を文科に擢し經工生優等朴師轍等三人は並に分教官に除す仍て奎章閣に命し入格の賦策講義及び前後傳教道啓榜目等を編輯せしめ翌年甲寅江原監營に於て刊行す

○ 耽羅寶興錄

一冊 奎章閣編 印本

圖書番號 四七九二、四七九三、五五二四、五八六四、六

五二四、七七一九、一一五五七、一一五五八

正祖十七年癸丑御史沈樂洙を嶺州に遣し人民を慰諭し翌年甲寅儒生を試取し邊景鵬等六人を文科に擢し奎章閣に命して六人の魁選したる科作を印出す閣臣金在瓚等之を校正し李存秀等之を監印し民人に曉諭したる繪音と沈樂洙の狀啓とを文武科榜の卷首に載す

○ 豐沛寶興錄

三卷一冊 奎章閣編 印本

圖書番號 四六七四、四六七五、四六七六、四六七七、四

六七八、四六七九、四八〇六、四八五三、四八五四、五五三八、

六一三七、六一七一、六一七二、六八六六、七一六一

正祖十九年乙卯桓祖大王八回甲を以て本宮に躋

享し大臣李秉模を遣し酌獻禮を攝行し咸興、永興

兩郡儒生の文武科を設け試券を收上し殿庭に於

て試取し武科は大臣之を試射し入格者の姓名を

狀聞し魏光肇等二人を文科に擢し鄭益勳等七十

八人を次第施賞し申德彬等二十五人を武科に擢

し金允運等百七十六人に賞賜を分等し奎章閣に

命し優等の科作を印行す其の前後の筵說傳教御

製詩及諸臣の賡載、榜目等を並載したるものなり

○ 關北寶興錄

二冊 奎章閣編 印本

圖書番號 二八二〇、四一七五、自四四〇四至四四二一、

四七二五、四七二六、五五〇九

正祖二十一年丁巳承旨李益運を咸鏡道に遣し儒

生を試取し入格者八十人を漢城に召至し親臨更

試し李燮等九人を文科に擢し其の餘は賞を施し

又經工生李元培は經義の問對を以て分教官を授

集部

け人格の詩文と經義の條對とを奎章閣に命し印
出せしむ

○ 關西寶興錄

二冊 奎章閣編 印本

圖書番號 一八二一、四六〇三、四六〇四、四六〇五、四

六〇六、四六〇七、四六〇八、四六〇九、四六一〇、四六一

四七四二、四七四三、五五一〇

正祖二十二年戊午楚山府使宋祥濂に命して經義

の題を賞去し平安監司閔鍾顯之を考試し金道游

等三人の條對したるものを上送せり考を経て並

に叅奉を授け庚申の年其の條問と條對の文字を

道に命し刊印せしむ

○ 御製策問

一冊 印本

圖書番號 自六三四六至六五〇六

正祖乙卯選毅と軍餉の制度に關し利害を講究す

るの意を以て策問を製し多士を試む此れ其の策

問なり

○ 科表私集

三卷三冊 寫本

圖書番號 二五八一

正祖の時に於ける科表を集録したるものなり

七〇五

○ 京外題録

一冊

寫本

圖書番號 九九四三

正祖元年丁酉より壬寅に至る京外試士の科題を録したるものなり弘齋の印章あり

○ 忠清左道監試科作

一冊

寫本

圖書番號 九八五三

純祖元年癸酉の増廣試に於ける忠清左道監試の科作にして詩賦疑義各一篇あり京試官金鏞試官たり

○ 晋州公都會科作

一冊

寫本

圖書番號 三二五三

純祖元年癸酉晋州牧使金思義か公都會に於て試取したる詩賦中其の撰に中りたる科作なり
金思義字は逸如慶州の人守禦使器大の子なり英祖癸酉に生れ癸巳司馬に中り蔭途に進み屢州郡を典し官羅州牧使に至る

○ 海州東堂科作

一冊

寫本

圖書番號 九八五五

純祖元年癸酉の増廣試に於ける黃海道東堂の科

作にして論疑賦表策各一篇あり都事俞理煥試官たり

○ 水原公都會科作

冊

寫本

圖書番號 一一四三四

純祖二十四年甲申水原公都會の科作にして詩賦各三篇あり留守金履陽試官たり

○ 平安南北道公都會科作

二冊

寫本

圖書番號 九八五四

純祖二十四年甲申平安南北道公都會に於て考試したる試賦の科作にして南道試官は金教根北道試官は李是遠なり

○ 平壤都會科作

冊

寫本

圖書番號 九八五四

純祖二十四年甲申平安南道觀察使金教根年例陞補を考試し賦詩各三人を取る其の被選者の科作なり

金教根字は孟汝安東の人領相昌集五世の孫なり英祖丙辰に生れ純祖乙丑文科に登り三司を歴て憲宗甲辰に歿す官吏曹判書に至る

○ 定州都會科作

一冊 李是遠編 寫本

圖書番號 九八五四

純祖二十四年甲申平安北道定州牧に於て年例陪補を試取し秦川縣監李是遠試官となり賦詩各三人を取る此は被選者の科作文なり

李是遠字は子直沙礫と號す全州の人椒園忠翊の孫なり正祖己酉に生れ純祖乙亥魁科に登り官吏曹判書に至る李太王丙寅江華に在り洋船の侵境するを見て憂憤に勝へず飲藥自ら殞す仍て領相を退贈し忠貞と諡す

○ 廣州公都會科作

一冊 寫本

圖書番號 一四三四

純祖二十五年乙酉廣州公都會の科作にして詩賦各三篇あり留守金有昌試官たり

○ 科題各體

一冊 寫本

圖書番號 六九八九、七二九九

純祖二十八年戊子より癸巳に至る科題を分類抄録したるものにして賦詩策表義疑論及排律各體なり

○ 科詩二選

一冊 寫本

圖書番號 二五三三、二五二四

朝鮮科詩中歌詞に上り妓伶輩の多く唱傳せる申光洙の關山戎馬詩一首及李紱の竹枝詞一首を寫したるものなり

○ 時儷

一冊 寫本

圖書番號 七三五一

科表の魁作を選取し進賀詩謝辭乞の六體を備へたるものなり

○ 疑東

一冊 寫本

圖書番號 七四七六

朝鮮の科制は四書中の疑義を摘出し題を掲げ多上の對本を考試す科儒輩仍て之か預習を爲す此れ其の草稿なり而して朝鮮の科文は只朝鮮人特有の體裁を具ふるを以て東人の名を附せり疑東の名亦此に出つ

○ 還餉策文

一冊 寫本

圖書番號 六一五七、九九五二、一一四二

還米の弊に關し文科に還餉二字を以て親策した

る時對策せる文章を集めたるものなり

○ 親試科作

一冊

寫本

圖書番號 七二六〇

親臨試取せし科製文の中策論、頌銘、箴等數篇を謄
寫したるものなり

○ 表題目錄

一冊

寫本

圖書番號 五、三七

朝鮮科擧四六文の題を集めたるものにして賀射、
請進、乞、詔の六體に分類せり

大正八年三月二十八日印刷
大正八年三月三十一日發行

朝鮮總督府

日韓印刷所印刷